福岡空港西側整備に伴う埋蔵文化財調査報告

雀居 9（別冊）

福岡市埋蔵文化財調査報告書　第748集

骨角器（サメ・歯）
Shark-bone Implement

2003

福岡市教育委員会

『雀居9(別冊)』正誤表

頁	行	誤（斜体文字は修正指示）		正（太文字が修正部分）
例言	9	藤尾真一郎氏	訂正	藤尾慎一郎氏
2	11	「**1－3，10－3号人骨**」*を左詰めにする*		
14	下22	［登録番号03040の備考欄］　成人	挿入	成人　**03044と接合**
27	8	300年ほど古い暦年代と	訂正	500年ほど古い暦年代と
31	5	300年ほど古い値と		500年ほど古い値と
55	2	「第10次調査出土　土器・土製品」*の行を1行目に移動*		
60～63	下5～下5	*備考・出土地点欄の*「**下**」*の文字を削除*		
72	4	［登録番号00035の備考・出土地点欄］　93	訂正	**92**
	8	［登録番号00034の備考・出土地点欄］　93		**92**
78	2	［登録番号00263の備考・出土地点欄］	挿入	**南**
	4	［登録番号00262の備考・出土地点欄］		**南**
	10	［登録番号00261の備考・出土地点欄］		**南**
	11	［登録番号00257の備考・出土地点欄］		**南**
	14	［登録番号00260の備考・出土地点欄］		**南**
	16	［登録番号00259の備考・出土地点欄］		**南**
	下12	［登録番号00256の備考・出土地点欄］		**南**
	下8	［登録番号00264の備考・出土地点欄］		**南**
	下5	［登録番号00258の備考・出土地点欄］		**南**
81	下19～下1	［備考・出土地点欄］　かたまり	訂正	**まとまり**
	下9	［備考・出土地点欄］　かたまり		**まとまり**
84	下13	［登録番号04108の備考・出土地点欄］　No.72（**遺物取り上げ**	削除	No.72
	下10	［登録番号04145の備考・出土地点欄］　No.2（**遺物取り上げ**		No.2
	下8	［登録番号04032の備考・出土地点欄］　No.105（**遺物取り上**		No.105
	下6	［登録番号04147の備考・出土地点欄］　No.75（**遺物取り上げ**		No.75
84～85	下5～1	*備考・出土地点欄の*「**げ**」*の文字を削除*		
85	2～8	*備考・出土地点欄の*「**下**」*の文字を削除*		
87	21	［登録番号04175の挿図番号欄］　271　22	訂正	271　**21**
	下2	［登録番号06004の挿図番号欄］　未掲載		未**記載**
	下1	［登録番号03099の種名欄］	挿入	**シカ**
		［登録番号03099の部位名欄］		**中手骨又は中足骨**
		［登録番号03099の点数欄］		**1**
		［登録番号03099の備考・計測値欄］		**加工品**
88	2	［登録番号03058の備考・計測値欄］		**加工品**
	6	*欄の上部に細罫線抜けているので***細罫線***を挿入・項目欄が抜けているので1行の項目欄を挿入*		
	7	［登録番号05010の種類欄］　種子	挿入	種子(**もも**)
	8	［登録番号欄］　03212	訂正	**03225**
	9	［登録番号欄］　03214		**03227**
	10	［登録番号欄］　03213		**03226**
	12	［登録番号欄］　03213:台帳にないﾊﾟｿｺﾝ上だけの3213		**03213**
	13	［登録番号欄］　03211		**03224**
	14	［登録番号欄］　03214:台帳にないﾊﾟｿｺﾝ上だけの3214		**03214**
	下19～下1	*備考・出土地点欄の*「**下**」*の文字を削除*		
90	13・14間	［挿図番号欄］	挿入	**107**
		［登録番号欄］		**05030**
		［遺構面欄］		**II**
		［グリット欄］		**N 30**
		［遺構名欄］		**第II面掘り下げ**
		［種類欄］		**柱化木加工品**
90	9	［登録番号05012の種類欄］　種子		種子(**ひょうたんorへちま**)
	10	［登録番号05022の種類欄］　種子		種子(**おにぐるみ**)
	11	［登録番号05023の種類欄］　種子		種子(**おにぐるみ**)
91	下5	［登録番号05011の種類欄］　種子		種子(**もも**)
95	下17	［登録番号欄］　56 9	訂正	**02276**
96	下20	［登録番号02361の挿図番号欄］　8 25	挿入	**78　25**
97	14・15間	［挿図番号欄］	挿入	**80 58**
		［登録番号欄］		**02348**
		［遺構面欄］		**II**
		［グリット欄］		**U 31･32**
		［遺構名欄］		**SW－02**
		［器種欄］		**古式土師器　椀**
		［器高欄］		**3.70**
		［口・器受部径欄］		**7.50**
		［色調欄］		**暗褐色　暗褐色**
		［胎土欄］		**径2mm程の長石を多めに含む**
		［焼成欄］		**良好**
		［調整欄］		**指オサエ、ナデ　指オサエ、ナデ**
		［備考欄］		**内外面に黒斑あり**

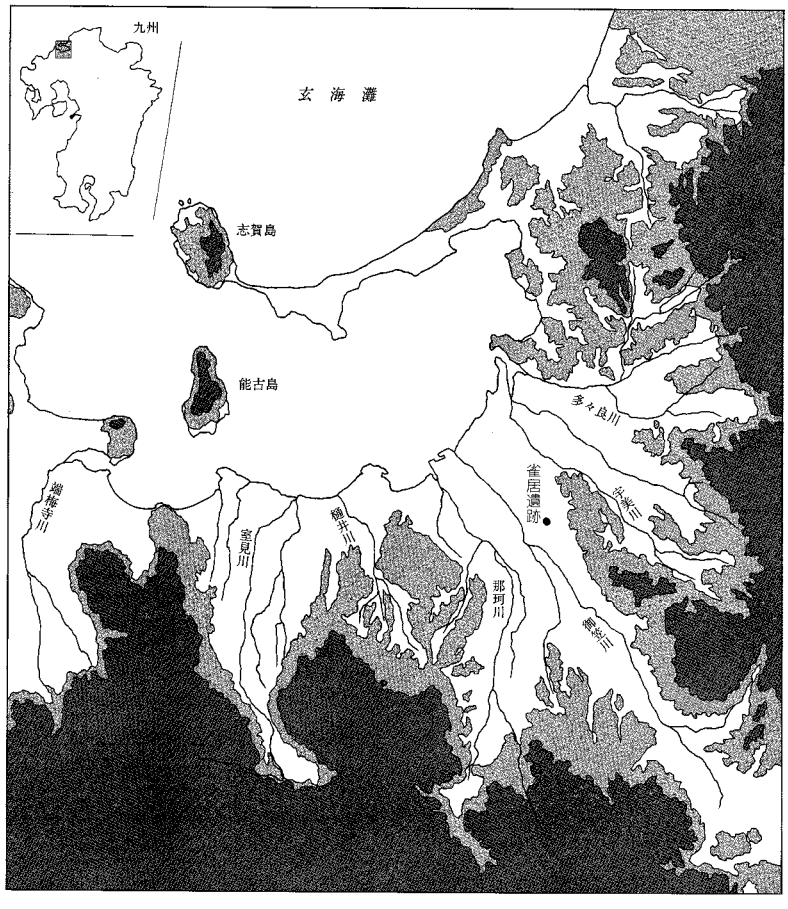
頁	行	誤（斜体文字は修正指示）		正（太文字が修正部分）
103	下9	[02431の備考欄]	挿入	**炭素年代測定**
	下5	[02392の備考欄]		**炭素年代測定**
104	10	[02394の備考欄]		**炭素年代測定**
	11	[02475の備考欄]		**炭素年代測定**
	14	[02446の備考欄]		**炭素年代測定**
	15	[02421の備考欄]		**炭素年代測定**
	16	[02426の備考欄]		**炭素年代測定**
106	22	[挿図番号欄] 280•117 126	挿・削	280•**282** 117•126
107	17	[02466の備考欄]	挿入	**炭素年代測定**
108	29	[02569の備考欄]		**炭素年代測定**
109	2	「第12次調査出土 石器」の行を1行目に移動		
	3	[備考・出土地点欄] ⑰川岸	挿入	⑰**SL01**川底
	4	[備考・出土地点欄] ⑬川岸		⑬**SL01**川岸
	5	[備考・出土地点欄] ⑥		⑥**SL01**川岸
	6	[備考・出土地点欄] ⑬川岸		⑬**SL01**川岸
113	下21	[挿図番号欄] 336 26	訂正	33**5** 26
	下13	[挿図番号欄] 335 34		33**6** 34
114	下12	[挿図番号欄] 53		**未記載**
118	下5	[備考・出土地点欄] **3号凹地**西南	削除	西南
	下4	[挿図番号欄] 214 57	訂正	214 5**8**
122	2	*「第13次調査出土 骨角器」の行を1行目に移動*		
		第13次調査出土	訂正	第**12**次調査出土
	4	挿図番号	挿入	**参照**挿図番号
	5	*「第13次調査出土 自然遺物」の行を4行目に移動*		
		第13次調査出土	訂正	第**12**次調査出土
	6～15	[備考・出土地点欄] 水田（1面）		水田（**上**面）
	16～19	[備考・出土地点欄] 水田（2面）		水田（**下**面）
	22	[残存状況欄] "P4、M1、M2"	削除	P4、M1、M2
122～123	22～下11	備考・計測値欄、文章中の「"」「″」の記号を削除		
123	下13	[種類欄] マメ科種	挿入	マメ科種**子**
	下16～下13	[備考・計測値欄] 炭化米分析。済。		炭化米分析。済。**•種子分析**
124	2	*「第13次調査出土 土器・土製品」の行を1行目に移動*		
134	8	[挿図番号欄] 72 1	挿入	72**b** 1
	9	[挿図番号欄] 72 2		72**b** 2
	10	[挿図番号欄] 72 3		72**b** 3
	11	[挿図番号欄] 72 4		72**b** 4
	12	[挿図番号欄] 72 5		72**b** 5
	13	[挿図番号欄] 72 6		72**b** 6
136	下22	[挿図番号欄] 83 "10、11"	削除	83 10、11
137	5～下1	挿図番号欄、文章中の「"」「″」の記号を削除		
138	13	挿図番号	挿入	**参照**挿図番号
	下17	[残存状況欄] "臼、腸骨、座骨"	削除	臼、腸骨、座骨
139	26	[備考・出土地点欄] 南半**＜M31のものとは別遺構＞**		南半
	下11	[03031の種名欄] シカ イノシシ	挿入	シカorイノシシ
140	8	[登録番号] 03011	訂正	**03111**
	下11	[03040の備考・計測値欄] 成人。	挿入	成人。**03044と接合**

福岡市博多区

雀居 9（別冊）

雀居遺跡第13次調査報告

福岡市埋蔵文化財調査報告書　第748集



平成15年

福岡市教育委員会

例言・凡例

1．本書は、国土交通省九州地方整備局（旧 運輸省第四港湾建設局）による福岡空港内西側整備の建設工事に先だって実施した博多区雀居遺跡第13次調査報告書の別冊である。

2．第10、12、13次調査で出土した資料について各分野の先生方に分析、研究を依頼し、その報告をいただいた。

人　骨	中橋孝博氏	九州大学
動物遺体	西本豊弘氏	国立歴史民俗博物館
昆　虫	森　勇一氏	愛知県立明和高等学校
ガラス	比佐陽一郎氏	福岡市埋蔵文化財センター
放射性炭素	藤尾真一郎氏	国立歴史民俗博物館
炭化米	佐藤洋一郎氏	静岡大学

3．各次調査報告では紙数の関係から出土遺物についての詳しい記述ができなかった。その欠を補うために遺物観察表を作成した。またこの観察表も印刷項目が限られるために全項目をCD-Rに収録している。さらに調査期間中毎週発行した「雀居遺跡週刊ニュース」の全号も収録し、このうち円形溝について記している第65号は別冊に編集仕直して掲載した。

目　次

第１章　福岡市雀居遺跡（第10次～第13次調査）出土の弥生前期人骨 …… 1
中橋孝博・岡崎健治　九州大学

第２章　福岡市雀居遺跡出土の動物遺体 …… 5
西本豊弘・小林園子　国立歴史民俗博物館
屋山　洋　福岡市教育委員会

第３章　福岡市雀居遺跡から産出した昆虫化石について …… 18
森　勇一　愛知県立明和高等学校

第４章　福岡市雀居遺跡出土のガラスについて …… 22
比佐陽一郎・片多雅樹　福岡市埋蔵文化財センター
坂本幸子　福岡市教育委員会

第５章　福岡市雀居遺跡出土土器に付着したススの炭素年代測定 …… 27
藤尾慎一郎・坂本 稔・今村峯雄　国立歴史民俗博物館

第６章　福岡市雀居遺跡の炭化米分析 …… 33
佐藤洋一郎　静岡大学農学部
柴内佐知子　岐阜大学大学院・静岡大学

雀居遺跡週刊ニュース　第65号 …… 43
雀居遺跡出土遺物観察表 …… 55

第１章　福岡市雀居遺跡（第10～13次調査）出土の弥生前期人骨

中橋孝博・岡崎健治（九州大学）

はじめに

弥生文化がいち早く開花した北部九州では、縄文晩期から弥生初期にかけて人骨資料の空白期があり、この間の住人形質の推移を具体的に明らかにすることが、当地における人類学上の重要な懸案の一つとなっている。福岡空港内から検出された雀居遺跡は、この問題を考える上で非常に重要な遺跡の一つである。当遺跡では平成４年以降、福岡市教育委員会によって発掘調査が実施され、主に縄文晩期～弥生前期にかけての環壕や大型掘立柱建物跡、木製農耕具、石包丁、漆製品、紡錘器、あるいは大陸系の磨製石器などが大量に出土して、近隣の板付遺跡などと共に、北部九州の初期弥生社会に関する貴重な情報源となっている。

人類学的に特に当遺跡で注目されるのは、人骨資料の出土も期待できる点で、実際に第７次（1994年）と第９次調査（1995年）では弥生前期の人骨が出土して、その形質や抜歯風習の痕跡について興味深い結果が得られた（中橋、2000）。引き続き、1996年に当遺跡で実施された第１０次調査、及び1997年の第１２次、1998年の第１３次調査でも引き続き人骨資料が出土したので、ここにその検討結果を報告する。

遺跡・資料・方法

雀居遺跡は、現在の福岡空港の南西端近くで検出され、平成４年以降、福岡市教育委員会による発掘調査が継続実施されている。ここで取り扱うのは、上記のように第１０次（1996年）、第１２次（1997年）、及び第１３次調査（1998年）で出土したもので、土壙墓やピット（４基）、甕棺墓（１基）、及び木棺墓（１基）から各々検出された（表１）。６体の内、乳幼児が半数の３体を占める。人骨の保存状態はいずれも不良である。土圧や、人為的撹乱による歪みも加わって破損が著しく、計測、観察に供し得る資料は一部に限られた。

所属時代は、考古学的な検証作業から、弥生前期の中頃から後半にかけてのものとされ、第１３次調査の土壙墓からはガラス玉が検出されている。

結果

１．第１０次調査出土人骨

１－１．10－１号人骨

東西方向に長軸をもつ第１号木棺墓 SA01に埋葬されていたもので、頭位は東にとり、顔面を右（北）に向けた状態で検出された。人骨は頭蓋片の他、左右上腕骨、右鎖骨、肋骨、右尺骨、右大腿骨、左右腫骨が確認された。体部はかなり乱されているため、埋葬姿勢の確認は困難だが、左右肋骨がほぼ原位置を保った状態で出土しており、その状態から一応仰臥位であったと推測される。

大腿骨などの四肢骨幹長の計測結果から、生後１～２年の幼児骨と見なされる。性別は不明である。

１－２．10－２号人骨

第１号土壙墓 SH01から検出されたもので、頭蓋片の他、左右の肩部（肩胛骨、鎖骨）、右上肢（上腕骨、前腕骨、指骨）、及び少量の肋骨片が確認された。左上肢や下半身の骨は消失している。

頭位は北で、顔面を右（西）に向けており、また両肩部の位置関係から、仰臥位であったことが確認できる。また、右上肢は体側に沿って伸展しているが、その他の部位は骨が欠損しているため、確認不能である。乳様突起の発達が良好であり、計測はできないが右上腕骨の骨幹の太さ、筋付着部の発達の良さから判断して、男性と見なされる。また、歯の咬耗がかなり進行していることから、熟年に達した個体と推定される。

歯が出土しているので、歯式を以下に示す。

／	M^2	M^1	P^2	P^1	／	／	／	／	I_2	C	／	／	／	／	／
／	M_2	M_1	P_2	P_1	C	I_2	I_1	I_1	／	／	／	／	／	／	／

（／：欠損）

風習的抜歯については、少なくとも下顎切歯、犬歯の抜去の無いことは確認できるが、上顎の犬歯については不明である。

１－３．10－３号人骨

土器捨て場と思われる第３甕棺墓 SN03から検出されたもので、頭位をほぼ南にとり、顔面を東向けた右側臥屈肢の状態で埋葬されていた。頭蓋骨片の他、左右上腕骨、右大腿骨、右脛骨、肋骨、脊椎骨などは確認された。

乳切歯の歯冠は完成していること、下顎第一乳臼歯の３咬頭が融合した状態で、下顎正中縫合はまだ未融合であること、及び、四肢骨骨幹長（上腕骨：64mm、大腿骨：75mm、脛骨：66mm）から判断して、生後間もない乳児（０～６月）と見なされる。

２．第１２次調査出土人骨

２－１．12－１号人骨

墓域から外れた第１号土壙墓 SH01から検出された。骨の遺存状態は悪く、わずかに四肢骨片の痕跡と、左肋骨だけが確認された。その左肋骨のサイズが10次SN01出土人骨と同じかやや大きい程度であることから、やはり乳児期の遺体と推察される。

３．第１３次調査出土人骨

３－１．13－１号人骨

第１土壙墓 SH01から検出されたもので、頭位を南東にとった仰臥位で見出された。上肢は左右肘で強屈し、右手は右肩近くに、左手は胸の中央付近に置いていたことが確認できる。骨としてはその他に、右の下位肋骨、骨盤、及び大腿骨の近位端が出土した。それ以下の下肢骨は近世の撹乱によって消失している。なお、この土壙墓からはガラス玉３個が出土した。

骨盤の大坐骨切痕の開きが大きく、大腿骨頭のサイズが小さいことなどから、女性と見なされる。また歯の咬耗がかなり進行していることから、熟年女性と推定される。

歯式を以下に示す。

／	／	M^2	／	P^1	／	×？	I^1	I^1	×？	C	P^1	P^2	M^1	／	／
／	／	M_1	P_2	P_1	C	I_2	I_1	I_1	I_2	／	／	／	M_1	／	／

（／：欠損、×：歯槽膿漏）

遺存状態が悪く詳細な観察が困難だが、左右上顎の側切歯が欠落し、その歯槽部が閉鎖していた可能性が認められるため、風習的抜歯の疑いが濃い。

３－２．１３－２号人骨

弥生前期後半に属する第１号甕棺 SN01から出土したものである。保存状態は良くないが、一応全身各部位の骨が回収された。寛骨の形状、及び四肢骨の太さから男性と見なされる。年齢については、

恥骨結合の形状や歯の咬耗の弱さから、まだ比較的若い成年期の人骨と推測される。

歯式を以下に示す。

M^3	M^2	M^1	P^1	P^2	×	I^1	I^2	I^1	I^2	×	P^1	P^2	M^1	M^2	M^3
／	／	M_1	P_2	P_1	C	I_2	I_1	×	／	C	P_1	P_2	M_1	M_2	M_3

（／：欠損、×：歯槽膿漏）

上顎の左右犬歯部の歯槽が閉鎖し、下顎も右の切歯２本、左は中切歯の歯槽閉鎖が確認できる。左側切歯部は破損のため不明確だが、以上の所見から、上顎左右犬歯、下顎切歯を対象とした風習的抜歯と見なされる。これは、先に報告した雀居９次２号人骨と同じ型式であり、今回の出土で、同型式の抜歯風習の存在が再確認された。

以上、今回報告した第１０次～１３次調査出土の６体は、残念ながら保存状態が悪く、その形態的な特徴は窺えなかったが、２体の成人男女に新たに抜歯痕が確認できたことに注目したい。９次調査の報告でも触れたが、北部九州では弥生中期頃になると抜歯風習は急速に廃れていき、しかもこれまでに確認されている限りでは、当地域の形式は上顎の側切歯を主対象としたもので、上下の犬歯や下顎切歯を対象とした縄文晩期集団に多い型式とは傾向を異にすることが知られていた（中橋、他、1985；中橋、1990）。しかし、先年、糸島半島の新町支石墓から出土した弥生早～前期人骨では、縄文集団や西北九州弥生人などに一般的な上顎犬歯と下顎切歯を対象とする型式が確認され（中橋・永井、1987）、さらに、この雀居で同型式の２体が出土して、福岡平野でもこうした抜歯が弥生の初期には残存していた可能性が明らかになった。今回の１３次人骨の追加によって、そうした状況がほぼ確定したと言えよう。さらに注記しておきたいのは、今回新たに、上顎側切歯抜去の可能性を示す例が出土した点である。この型式は土井ヶ浜弥生人でも多く見られ、大陸の古代集団ではごく一般的な型式である。北部九州において時代と共にこの抜歯型式の頻度がどのように推移するのか、渡来人問題を考える上でも興味深い課題であり、今後の追加出土が期待される。

また、９次人骨では、この抜歯型式の問題に加え、形態的にはいわゆる渡来系弥生人の特徴を持っていたことが明らかになり、縄文的な抜歯との関係が注目された（中橋・飯塚、1998）。残念ながら今回の人骨ではそうした点は確認できなかったが、明らかに土着的と見なされる抜歯形式と、大陸集団に近い形態的特徴がどのように絡み合うのか、当地における縄文～弥生移行期の問題を考察する上でも興味深い論点になろう。まだ資料が少ない現時点での議論には限界があるが、今後の追加例をまって改めて考察したいと考える。

文　献

中橋孝博（1990）：「土井ケ浜弥生人の抜歯風習」　人類学雑誌98

中橋孝博（2000）：「福岡市雀居遺跡（第７・９次調査）出土の弥生前期人骨」　福岡市埋蔵文化財調査報告書 第635集

中橋孝博・永井昌文（1987）：「福岡県志摩町新町遺跡出土の縄文・弥生移行期の人骨」　志摩町文化財調査報告書７

中橋孝博・土肥直美・永井昌文（1985）：「金隈遺跡出土の弥生時代人骨」　史跡金隈遺跡、福岡市埋蔵文化財調査報告書 第123集

中橋孝博・飯塚勝（1998）：「北部九州の縄文～弥生移行期に関する人類学的考察」　Anthropological Science, 106

表１．福岡市雀居遺跡第１０・１２・１３次調査出土弥生時代人骨

番号	時代	性	年齢	埋葬姿勢	抜歯	備　考
第１０次						
10-1 第１号木棺墓	前期	?	幼児	仰臥？	−	１～２歳
10-2 第１号土壙墓	前期中頃	男	熟年	仰臥（下肢不明）	?	
10-3 第３号甕棺墓	前期中頃	?	乳児	右側臥屈肢	−	０～６月
第１２次						
12-1 第１号土壙墓	前期中頃	?	乳児	右側臥屈肢	−	
第１３次						
13-1 第１号土壙墓	前期中頃	女	熟年	仰臥屈肢？	I^2 | I^2	
13-2 第１号甕棺墓	前期後半	男	成年	屈葬	C C / I_2 I_1 | I_1 ?	

表２．福岡市雀居遺跡抜歯人骨

番号	性	年齢	形式
7-1 ＜第７次 １号土壙墓＞	女	成年	? C / ?
7-2 ＜第７次 ２号土壙墓＞	女	成年	C C / I I | I I
K-7 ＜第７次 ７号甕棺＞	女	熟年	C C / I I | I I
13-1 ＜第13次１号土壙墓＞	女	熟年	C C / I I | I I
13-2 ＜第13次１号甕棺墓＞	男	成年	C C / I I | I I

第２章　福岡市雀居遺跡出土の動物遺体

西本豊弘・小林園子（国立歴史民俗博物館）
屋山　洋（福岡市教育委員会）

雀居遺跡では、第10・12・13次発掘調査の弥生時代前期～中期の遺構・遺物包含層から動物遺体が出土した。動物遺体の量はテンバコに4箱程度で約720点であり、その大部分は弥生時代前期後半のものであった。各遺構から少量づつの出土であり、保存状況は良好とは言えなかったが、できる限りのものが採取された。小さな骨片は土とともに一括して採取したものもある。それらのものすべてを分類し、同定の可・不可まで含めて結果を一覧表に記載した。ごく少量であるが、被熱のため白色化したものも一部含まれている。

出土した動物遺体は、貝類・ウニ類・カニ類・魚類・両生類・爬虫類・鳥類・哺乳類など多種にわたるが、もっとも多いのはイノシシ類であり破片数で全体の約３０％を占めた。なお、この資料の分類は、まず屋山が実施し、その後西本が分類し本論にまとめた。魚類の分類では樋泉岳二氏の協力を得たことに感謝致します。

１．貝類

貝類は、第10次調査SK-002から魚骨とともに５点採集された。少なくとも巻貝２種と二枚貝２種の計４種以上が含まれることを確認したが、保存状況が悪いため、種名の特定はできなかった。

２．魚類

主に第10次調査SK-001・002からまとまって出土した。アオザメ類、ナマズ、マダイ、クロダイ、ヘダイ、サバ属の一種、コチ類の合計８種含まれている。サメ類は、歯が合計14点出土しているが、いずれも細長く鋸歯を持たないタイプである。その中の１点は、歯の基部に切断根が見られるので、装飾品の未完成品の可能性がある。ナマズは第10次調査SK-001・002から少なくとも６匹分の胸鰭の棘が出土している。タイ類は、マダイ、クロダイ、ヘダイの3種を確認している。コチ類は大きな歯骨が見られた。サバ属とした椎骨は、マサバより大きな種であったが種名は同定できなかった。その他に種不明の大型魚類の椎骨破片が２点含まれていた。

３．鳥類

本遺跡では鳥類の出土は非常に少ない。カラス類、カモ類、ニワトリ、小型鳥類の４種が認められた。この中で、ニワトリの上腕骨中間部分は白色化しており、骨質の保存状況が非常に良い。大きさも現代の白色レグホンの雌よりも少し大型であり、骨体の左右の湾曲も弱い。これらの形状から弥生時代のものではない。おそらく現代のものであろう。

４．哺乳類

ノウサギ・ネズミ・キツネ・タヌキ・イヌ・ネコ・シカ・イノシシ類・クジラ・ヒトなど１０種がみられた。そのうち最も多いのはイノシシとブタを一括したイノシシ類である。イノシシ類の遺体は四肢骨が少なく歯が多い。その歯も歯冠部のエナメル質だけが残っており、歯の内部の象牙質や歯根部表面のセメント質はほとんど消失していた。しかし、同一個体と思われる歯がまとまって出土することが多く、頭蓋骨や下顎骨が部分的に残っている場合もあった。

それらの歯からイノシシ類の内容を見ると、本州の縄文晩期のイノシシよりも大きな歯と、かなり小さな歯まで様々であることが特徴である。また、上顎第２後臼歯では、前後にゆがんで平面形が菱形を呈するものがあった。第3後臼歯も萎縮して小さくなっているものもあった。これらの歯の特徴は家畜化に伴ってよく見られるものであり、この資料の中に家畜のブタがかなり多く含まれていると思われる。しかし資料の数量が少ないことと保存状態がよくないので、家畜ブタがどの程度含まれているか数量的に示すことができない。

さて、イノシシ類の最小個体数を推定すると生後3ヶ月程度の幼獣１個体・生後6ヶ月程度の幼獣１個体・１歳～1.5歳前後の若獣３個体・２歳前後の亜成獣３個体・３才前後以上の成獣10個体の計１８個体となった。３才前後以上の成獣個体が多い傾向がみられる。幼獣が少ないのは、保存状況が悪いため骨質がもろい幼獣の歯や骨は消失したものが多いことが原因であろう。資料数が少ないことと、保存状況の影響を考えると、捨てられた当初のイノシシ類の年齢の偏りはよく分からない。

なお、3才前後のほぼ成獣の下顎骨で、下顎枝部分に穴（約18×18cm）があけられているものが１点見られた。おそらく儀礼的取り扱いを受けたものであろう。また、下顎骨の外側には解体痕がみられるものがあった。しかし、下顎骨の大部分は下顎枝部分が失われているので、穴や解体痕の頻度は分からない。

イノシシ類に次いで多いのはシカであり、少なくとも３個体分が含まれている。ウサギは成獣の左下顎と脛骨が各１点出土している。イヌは少なくとも1個体分が出土しており、キツネとタヌキは、頭蓋骨の一部が認められた。ネコの左上腕骨が第12次調査SP-0261から出土しているが、この骨は白色化した状態で骨質の保存状態が極めて良好であり、現代のものと見て間違いないが、一応報告しておくものである。ネズミ類としたものも、ドブネズミ程度の大きさの右大腿骨であり、骨質の保存状態がよいことから現代のネズミと思われる。イヌは下顎骨・上腕骨などが出土している。小型犬であるが保存状態が悪いので形質は良く分からない。その他にクジラ破片が1点と、海獣の肋骨破片が1点出土している。

なお、ヒトは成人の一部と死産児の骨が出土している。成人は第13次調査SK-117から出土した左寛骨および左右大腿骨（№3106）であり、別に報告されている埋葬人骨の一部である。寛骨から見ると、男性であろう。これの他に、胎児または乳児の骨が複数個体出土している。第10次調査SK-018では、ヒトの小さな頭蓋骨破片・上腕骨・寛骨・大腿骨・脛骨（№3160他）が一括して出土しており、その大きさから見て死産児であろう。同じく第10次調査SK-018でヒトの胎児の寛骨・大腿骨・椎骨（№3096）が出土している。また、第10次調査第Ⅱ面掘り下げでもヒトの死産児の大腿骨破片が一点（№3167）と第10次調査第Ⅰ面掘り下げで胎児左大腿骨が出土している（№3194）。これらを見ると少なくとも3個体以上の死産児が含まれている。

５．その他

カニの指節19点、ウニ類の棘13本、小型のカエルの骨が魚骨などとともに第10次調査SK-001・002から出土している。さらに、ウミガメ類の大腿骨1点とスッポンの甲羅破片1点が認められた。

まとめ

この遺跡では骨質の腐食が進んでおり、取り上げられた資料でも接着剤によってかろうじ

て骨や歯の表面が確保された資料が大部分であった。したがって、小さな動物や大きな動物の幼獣個体の大部分が消滅していると推測された。イノシシ類で幼獣の骨が少ないことも保存状況の悪さによる偏りであろう。そのような資料の偏りを考慮しても、シカとイノシシ類を比べると、シカ３個体に対してイノシシ類18個体となり、イノシシ類が多いことが特徴と言える。この特徴は中部地方以西の弥生遺跡と同じである。イノシシ類の歯を見ると大小のバラエティーが大きく、第２・３後臼歯では萎縮している歯も見られた。これらの形態的特徴から見て、野生のイノシシよりも家畜のブタが多かった可能性が高い。その他の動物では魚類が比較的多く出土した程度である。ブタとシカと魚類が食料として重要な役割を持っていたと推測される。

表１．雀居遺跡動物遺体種名一覧

貝類	アカニシ類？
	ウミニナ類？
	カキ類？
	マルスダレガイ科？
	イシガイ類
甲殻類	カニ類
ウニ類	ウニ類
魚類	サメ類
	マダイ
	クロダイ
	ヘダイ
	サバ属
	コチ科
	ナマズ
両生類	カエル類
爬虫類	ウミガメ類
	スッポン
鳥類	カラス類
	カモ類
	ニワトリ
	小型鳥類
哺乳類	ノウサギ
	ドブネズミ？
	キツネ
	タヌキ
	イヌ
	シカ
	イノシシ
	ネコ
	ヒト
	クジラ類

表２．動物遺体種別破片数一覧

分類群	種　名	破片数
貝類	巻貝	3
	二枚貝	5
甲殻類	カニ類	19
海胆類	ウニ類	13
魚類	サメ類	15
	マダイ	1
	クロダイ	9
	ヘダイ	1
	タイ科？	2
	サバ属	1
	コチ科	4
	ナマズ	11
	不明	22
魚類計		66
両生類	カエル類	9
爬虫類	ウミガメ類	1
	スッポン	1
	カメ類	1
鳥類	カラス類	1
	カモ類	1
	ニワトリ	1
	不明	4
鳥類計		7
哺乳類	ウサギ	2
	ドブネズミ？	1
	キツネ	1
	タヌキ	1
	イヌ	6
	ネコ	1
	イノシシ	222
	シカ	46
	シカorイノシシ	12
	ヒト	18
	陸獣	202
	クジラ	4
	海獣	1
	不明	55
哺乳類計		572
不明	破片	27
総計		724

表3　出土動物遺体一覧 1

面	グリット	遺構名		種名	部位名	左右	部位名	点数	備考・計測値
10次									
Ⅱ	P-28	SC-01	西側	03007	イノシシ	上顎遊離歯	左	M3	1	成獣。小型。M3長さ30.6,前幅17.8。
Ⅱ	P-28	SC-01	西側	03008	イノシシ ♂	上顎遊離歯	左	犬歯	1	若獣
Ⅱ	P-28	SC-01	西側	03009	イノシシ ♂	上顎遊離歯	右	犬歯	1	成獣?
Ⅱ	R-28	SC-01	西側	03058					1	
Ⅱ	O-28	SC-01	東側	03196	陸獣	不明		破片	2	
Ⅱ	O-28	SC-01		03083	シカ	中手or中足骨		破片	2	
Ⅱ	O-28	SC-01		03083	陸獣	不明		破片	2	
Ⅱ	O-28	SC-01		03176	シカorイノシシ	肋骨		破片	1	
Ⅱ	O-28	SC-01･02?		03095	イノシシ	腓骨		破片中間部	1	
Ⅱ	O-28	SC-02		03053	サメ類	歯			2	アオザメタイプ。
Ⅱ	O-29	SC-02		03084	イノシシ	歯		破片	1	未出歯。
Ⅱ	O-29	SC-02		03084	不明	不明		破片	5	
Ⅱ	O-29	SC-02		03085	シカorイノシシ	腰椎		椎体のみ	1	亜成獣。
Ⅱ	O-29	SC-02		03086	イノシシ	下顎破片		連合部	1	被熱あり。焼けて縮小。若?。
Ⅱ	O-29	SC-02		03086	不明	椎骨			1	
Ⅲ	O-29	SC-07		03090	イノシシ	上顎遊離歯	右	M3	1	若獣。磨滅なし。M3長さ34.0,幅―。
Ⅲ	O-29	SC-07		03090	イノシシ	臼歯		破片	1	
Ⅲ	O-29	SC-07		03091	イノシシ	下顎破片		連合部破片	1	
Ⅲ	O-29	SC-07		03091	イノシシ	頭蓋骨		前頭骨破片	1	
Ⅲ	O-27	SK-001		03010	クロダイ	前上顎骨	左		1	
Ⅲ	O-27	SK-001		03011	クロダイ	前上顎骨	右		1	
Ⅲ	O-27	SK-001		03012	クロダイ	主上顎骨	右		1	
Ⅲ	O-27	SK-001		03013	イノシシ	下顎遊離歯	左	乳歯i2	1	
Ⅲ	O-27	SK-001		03041	ウニ類	棘			3	
Ⅲ	O-27	SK-001		03042	コチ科	歯骨	左		1	
Ⅲ	O-27	SK-001		03043	カニ類	指節部			5	
Ⅲ	O-27	SK-001		03044	カエル類	上腕骨	右		1	
Ⅲ	O-27	SK-001		03045	カエル類	脛腓骨			1	
Ⅲ	O-27	SK-001		03046	カエル類	大腿骨	右?		1	
Ⅲ	O-27	SK-001		03047	カエル類	脛腓骨	左		1	
Ⅲ	O-27	SK-001		03048	ナマズ	胸鰭棘	右		1	
Ⅲ	O-27	SK-001		03050	不明	椎骨		未同定	1	被熱あり。
Ⅲ	O-27	SK-001		03069	不明	歯			1	
Ⅲ	O-27	SK-001		03070	不明	不明		破片	少量	
Ⅲ	O-27	SK-001		03097	イノシシ	頭蓋骨		頭頂骨	1	若獣ブタの可能性あり
Ⅲ	O-27	SK-001		03097	イノシシ	中手or中足骨			1	
Ⅲ	O-27	SK-001		03097	シカorイノシシ	肋骨		破片	1	
Ⅲ	O-27	SK-002		03014	クロダイ	前上顎骨	右		1	3014～3016は同一個体
Ⅲ	O-27	SK-002		03015	クロダイ	主上顎骨	右		1	
Ⅲ	O-27	SK-002		03015	イノシシ	臼歯		破片	3	1個分
Ⅲ	O-27	SK-002		03016	クロダイ	歯骨	右		1	
Ⅲ	O-27	SK-002		03017	マダイ	主上顎骨	左	破片	1	
Ⅲ	O-27	SK-002		03018	巻貝	不明		破片	2	
Ⅲ	O-27	SK-002		03019	クロダイ	角骨	右		1	
Ⅲ	O-27	SK-002		03020	クロダイ	角骨	左		1	
Ⅲ	O-27	SK-002		03021	ウニ類	棘			10	
Ⅲ	O-27	SK-002		03022	カニ類	指節部			14	
Ⅲ	O-27	SK-002		03023	イノシシ	上顎遊離歯	左	P4	1	成獣。大型
Ⅲ	O-27	SK-002		03025	イノシシ	犬歯?		破片	1	
Ⅲ	O-27	SK-002		03026	ドブネズミ?	大腿骨	右		1	成獣。遠位端未骨化。保存状況から現代のもの
Ⅲ	O-27	SK-002		03027	カエル類	上腕骨	右		1	
Ⅲ	O-27	SK-002		03027	カエル類	脛腓骨			1	
Ⅲ	O-27	SK-002		03027	カエル類	大腿骨			3	
Ⅲ	O-27	SK-002		03027	不明	不明		破片	10	
Ⅲ	O-27	SK-002		03028	コチ科	前上顎骨	右		1	
Ⅲ	O-27	SK-002		03030	ナマズ	胸鰭棘	左		4	
Ⅲ	O-27	SK-002		03030	ナマズ	胸鰭棘	右		5	
Ⅲ	O-27	SK-002		03031	中型陸獣	不明		破片胸椎棘状突起	1	
Ⅲ	O-27	SK-002		03034	二枚貝	不明			2	被熱あり。
Ⅲ	O-27	SK-002		03035	不明	椎骨		破片	2	大型サカナ
Ⅲ	O-27	SK-002		03036	タイ科?	椎骨			1	
Ⅲ	O-27	SK-002		03038	サバ属	椎骨			1	
Ⅲ	O-27	SK-002		03039	コチ科	歯骨	右		1	
Ⅲ	O-27	SK-002		03051	タイ科?	不明		破片歯	1	
Ⅲ	O-27	SK-002		03060	コチ科	主上顎骨	左		1	
Ⅲ	O-27	SK-002		03061	陸獣	肋骨		破片	2	
Ⅲ	O-27	SK-002		03061	不明	不明		破片	7	
Ⅲ	O-27	SK-002		03061	不明	不明		破片	少量	
Ⅲ	O-27	SK-002		03062	不明	歯			1	
Ⅲ	O-27	SK-002		03064	アカニシ?	軸		破片	1	
Ⅲ	O-27	SK-002		03066	ナマズ	擬鎖骨	左右		1	
Ⅲ	O-27	SK-002		03067	不明	上不明		破片	少量	

表3　出土動物遺体一覧２

面	グリット	遺構名			種名	部位名	左右	部位名	点数	備考・計測値
Ⅲ	O-27	SK-002		03068	イノシシ	末節骨		破片	1	
Ⅲ	O-27	SK-002		03138	イノシシ	下顎	左	(P4～M3)	1	若獣M3第4咬頭まであり。枝の穴は不明。左右不明,カットマーク不明。M1長さ17.0,前幅-,後幅12.8,M2長さ22.5,前幅15.9,後幅15.2,M3長さ38.0±前幅18.1。M2後ろ幅の方が小さい。
Ⅲ	O-27	SK-002		03140	イノシシ	下顎	右	(M123)	1	成獣。下顎枝に孔あり(径18㎜)。M23の外側にカットマークあり。♂♀不明。M1長さ15.1±,前幅10.3後幅11.4,M2長さ18.2±,前幅13.9±,後幅14.9±,M3長さ計測不可,前幅14.7±。
Ⅲ	O-26	SK-007		03108	陸獣	不明		破片	1	被熱あり。
Ⅲ	O-26	SK-007		03190	陸獣	不明		破片	3	
Ⅲ	P-26	SK-008		03098	サメ類	歯			1	加工品。
Ⅲ	O-26	SK-010		03057	サメ類	歯			1	アオザメタイプ。
Ⅲ	O-25	SK-012		03106	イノシシ	上顎遊離歯	左	犬歯	1	成獣?
Ⅲ	Q-26	SK-014		03055	サメ類	歯			1	アオザメタイプ。
Ⅲ	Q-26	SK-014		03161	イノシシ	歯			1	歯一個分の破片
Ⅲ	Q-27	SK-015		03071	イノシシ	上顎	右	(P3～M2)	1	若獣。P3長さ11.5,後幅9.0,P4長さ10.3,幅11.8㎜,M1長16.1,前幅12.0後幅12.0,M2長20.5,前幅15.6,後幅16.2.
Ⅲ	Q-27	SK-015		03072	イノシシ	頭蓋骨	右	側頭骨破片	1	
Ⅲ	O-27	SK-018	埋土中一括	03135	イノシシ	基節骨		破片	1	
Ⅲ	O-27	SK-018		03096	ヒト胎児	寛骨		腸骨	2	胎児。3096は同一個体
Ⅲ	O-27	SK-018		03096	ヒト胎児	寛骨		坐骨	2	胎児。3096は同一個体
Ⅲ	O-27	SK-018		03096	ヒト胎児	椎骨?			2	胎児。3096は同一個体
Ⅲ	O-27	SK-018		03109	イノシシ	中手or中足骨		破片	1	
Ⅲ	O-27	SK-018		03117	ヒト胎児	寛骨	右		1	胎児。3096より少し大きい。
Ⅲ	O-27	SK-018		03117	シカorイノシシ	不明		破片	2	
Ⅲ	O-27	SK-018		03165	イノシシ	肩甲骨	左		2	若獣。ト骨かどうか不明。
Ⅲ	O-28	SK-018		03179	ヘダイ	前上顎骨	左		1	
Ⅲ	O-27	SK-018		03191	陸獣	不明		破片	1	
Ⅲ	O-27	SK-018-①	91	03149	イノシシ	肩甲骨	左		1	成獣。ト骨かどうか不明
Ⅲ	O-27	SK-018-①	92	03160	ヒト胎児	上腕骨左, 寛骨左, 大腿骨左, 脛骨破片			1	胎児もしくは死産児。頭蓋骨破片も同一か?
Ⅲ	O-27	SK-018-①	92	03160	ヒト胎児	頭蓋骨		破片	1	胎児もしくは死産児。
Ⅲ	O-27	SK-018-①	92	03160	陸獣	不明		破片	3	
Ⅲ	O-27	SK-018-①	95	03115	不明	不明		破片	3	
Ⅲ	O-27	SK-018-②	71	03147	イノシシ	頭蓋骨	右	前頭骨,涙骨	1	成獣?
Ⅲ	O-27	SK-018-③	77	03163	イノシシ	第二頚椎			1	成獣。
Ⅲ	O-27	SK-018-③	77	03163	陸獣	不明		破片	2	
Ⅲ	O-27	SK-018-③	78	03116	不明	不明		破片	1	
Ⅲ	O-27	SK-018-④	23	03113	カモ類	胸骨		破片	1	
Ⅲ	O-27	SK-018-④	24	03111	陸獣	大腿骨		破片骨頭のみ	1	
Ⅲ	O-27	SK-018-④	27	03112	イノシシ	尺骨	左		1	成獣?
Ⅲ	O-27	SK-018-④	27	03112	陸獣	不明		破片	2	
Ⅲ	N-29	SK-027		03073	イノシシ?	上腕骨	左		1	幼獣?
Ⅲ	O-27	SK-033	NO-え④	03153	イノシシ	肩甲骨	右		1	成獣?ト骨かどうか不明
Ⅲ	O-26	SK-037		03180	イノシシ	第一頚椎	右	破片	1	成獣。
Ⅲ	P-26	SK-038	まとまり	03118	陸獣	大腿骨		破片	1	
Ⅲ	P-27	SK-041	中心部まとまり	03148	イノシシ	脛骨		中間～遠位	1	成獣。
Ⅲ	P-27	SK-041		03074	イノシシ	距骨	右		1	成獣。
Ⅲ	P-27	SK-041		03074	イノシシ	尺骨	左	近位	1	亜成獣。被熱あり。
Ⅲ	Q-26	SK-071		03110	イノシシ	基節骨	右		1	成獣。
Ⅲ	P-28	SK-080	まとまり①	03134	イノシシ	距骨	左		1	成獣?大型
Ⅲ	P-28	SK-080	まとまり①	03134	イノシシ	頭蓋骨	左	頬骨破片	1	大型
Ⅲ	P-27	SK-080	まとまり②	03146	イノシシ	脛骨	左	中間～遠位	1	
Ⅲ	P-27	SK-080	まとまり②	03146	イノシシ	上腕骨	左	中間～遠位	1	成獣?
Ⅲ	P-27	SK-080	まとまり②	03173	イノシシ	上顎	右	(×××)M123部分	1	歯はすべて脱落
Ⅲ	P-27	SK-080	まとまり②	03173	陸獣	不明		破片	1	
Ⅲ	P-27	SK-080		03181	シカ	中手or中足骨		遠位破片	1	
Ⅲ	O-28	SK-115		03075	不明	不明			7	
Ⅲ	N-29	SK-122		03076	シカ	中足骨	左	近位	1	成獣。
Ⅲ	N-29	SK-122		03076	シカ	鹿角		破片	1	加工品　(現在の登録番号03223)
Ⅲ	O-29	SK-124	南	03077	イノシシ	中手or中足骨		犬歯?破片	1	
Ⅲ	O-29	SK-124	北	03056	イノシシ	歯		関節突起	1	被熱あり。加工品
Ⅲ	O-29	SK-124	北	03078	イノシシ	下顎破片	左	破片	1	幼獣。
Ⅲ	O-29	SK-124	北	03078	イノシシ	中手or中足骨		破片	1	幼獣
Ⅲ	O-29	SK-124	北	03078	陸獣	不明			1	
Ⅲ	N-31	SK-124	北	03174	イノシシ	第一頚椎			1	

表3　出土動物遺体一覧３

面	グリット	遺構名			種名	部位名	左右	部位名	点数	備考・計測値
Ⅲ	N-31	SK-124	北	03174	シカ	角		破片	1	
Ⅲ	O-29	SK-125	まとまり①	03052	不明	不明		破片	1	
Ⅲ	O-29	SK-125		03185	陸獣	不明		破片	1	
Ⅲ	P-28	SK-133		03079	シカ	大腿骨	右	遠位	1	成獣。被熱あり。
Ⅲ	Q-25	SK-148		03080	ウミガメ類	甲羅		破片	1	背甲か腹甲か不明。
Ⅲ	P-25	SK-149		03168	イノシシ	下顎	右	(×m4M12)	1	若獣M1長さ17.1±,前幅一後幅一,M2長さ17.5,前幅13.5,後幅13.7。小型。
Ⅲ	O-31	SK-152		03182	陸獣	不明		破片	1	
Ⅲ	O-31	SK-162	西	03183	陸獣	不明		破片	1	
Ⅲ	P-31	SK-212		03081	イノシシ	寛骨	左	恥骨部	1	成獣。
Ⅲ	P-31	SK-213		03082	陸獣	不明		破片	4	
Ⅲ	P-31	SK-213		03082	ノウサギ	脛骨	右	遠位	1	切痕あり。小型。金属器による切断痕多い。
Ⅲ	O-28	SK-222	まとまり	03142	クロダイ	歯骨	右		1	
Ⅲ	O-28	SK-222	まとまり	03142	スッポン	大腿骨	右		1	小型
Ⅲ	O-28	SK-222	まとまり	03142	イノシシ	距骨	左		1	成獣?
Ⅲ	O-28	SK-222	まとまり	03142	イノシシ	上顎遊離歯		犬歯?	1	小型
Ⅲ	O-28	SK-222	まとまり	03142	陸獣	不明		破片	4	
Ⅲ	O-28	SK-222	まとまり	03142	イノシシ ♀	上顎	右	(×P1～P3)	1	成獣。少し磨滅。
Ⅲ	Q-33	SP-0027		03119	陸獣	不明		破片	1	イノシシの頭蓋骨破片か?
Ⅲ	O-32	SP-0035		03120	イノシシ	上顎遊離歯	右	M2	1	成獣?M2長さ15.5±,幅14.7,後14.0±。
Ⅲ	P-33	SP-0041		03121	不明	不明			1	
Ⅲ	O-32	SP-0060		03122	イノシシ	下顎		破片	1	M1?の破片あり
Ⅲ	N-32	SP-0070		03156	シカ	中手骨	左	近位	1	成獣。
Ⅲ	N-32	SP-0070		03156	シカ	橈骨	左	破片	1	
Ⅲ	N-32	SP-0070		03156	ノウサギ	下顎	左		1	成獣。
Ⅲ	N-31	SP-0074		03123	陸獣	不明		破片	2	
Ⅲ	P-32	SP-0085		03124	陸獣	不明		破片	11	
Ⅲ	P-32	SP-0085		03125	シカ	角		破片	1	被熱あり。未加工。
Ⅲ	P-32	SP-0085		03186	不明	上腕骨	左	遠位破片	1	
Ⅲ	P-32	SP-0085		03128	シカorイノシシ	不明		破片	1	
Ⅲ	O-28	SP-0085		03093	シカ	脛骨	左	中間	1	成獣?
Ⅲ	P-32	SP-0097	SP-0098	03126	陸獣	不明		破片	1	
Ⅲ	P-32	SP-0097	SP-0129	03157	シカ	中足骨		中間部前面破片	1	
Ⅲ	P-32	SP-0097	SP-0129	03158	イノシシ	中手or中足骨			1	
Ⅲ	P-32	SP-0097	SP-0129	03158	陸獣	不明			1	
Ⅲ	P-32	SP-0097		03187	陸獣	不明		破片	2	
Ⅲ	Q-32	SP-0136		03129	陸獣	不明		破片	1	
Ⅲ	Q-32	SP-0136		03131	陸獣	不明		破片	1	
Ⅲ	O-32	SP-0150		03130	シカ	第一頚椎			1	
Ⅲ		SP-0175		03169	カラス類	中手骨	左	完存	1	長さ56.7mm。ハシブトガラスと同大
Ⅲ		SP-0175		03169	イノシシ	尺骨	左		1	成獣?
Ⅲ		SP-0175		03169	イノシシ	上顎遊離歯	左	M2	1	成獣。磨滅少ない 計測不可
Ⅲ	Q-32	SP-0192		03195	シカ	踵骨	右		1	
Ⅲ	P-29	SA-01		03107	不明	不明			10	
Ⅱ	Q-32	SR-01	SP-0013	03188	イノシシ	中手or中足骨		破片	1	
Ⅰ	PR-31～33	水田	耕作土Ⅲ面	03213	イノシシ	距骨	右		1	成獣。
Ⅰ	PR-31～33	水田	耕作土下Ⅱ面	03214	イノシシ	寛骨	右	寛骨臼	1	成獣。
Ⅰ		水田?	北拡耕下Ⅰ	03198	陸獣	不明		破片	5	
Ⅰ		水田?	北拡耕下Ⅱ	03199	シカ	第二頚椎			1	成獣。
Ⅰ		水田?	北拡黒粘中	03197	陸獣	不明		破片	3	
Ⅰ	P-27	第Ⅰ面掘り下げ	№11	03192	イノシシ	橈骨	左	近位	1	成獣? 近位幅32.4, 近位前後径22.1
Ⅰ	P-27	第Ⅰ面掘り下げ	№11	03192	イノシシ	距骨	左		1	成獣。
Ⅰ	P-27	第Ⅰ面掘り下げ	№11	03192	陸獣	不明		破片	3	
Ⅰ	P-27	第Ⅰ面掘り下げ	№12	03189	イノシシ	橈骨	右	近位	1	成獣。
Ⅰ	P-27	第Ⅰ面掘り下げ	№05	03171	サメ類	歯			1	アオザメタイプ。
Ⅰ	P-27	第Ⅰ面掘り下げ	№05	03171	イノシシ	上顎遊離歯	右	M3	1	若獣。磨滅なし。M3長さ35.3,幅19.5。
Ⅰ	P-27	第Ⅰ面掘り下げ	№05	03171	イノシシ	上顎遊離歯	右	M3	1	計測不可
Ⅰ	P-27	第Ⅰ面掘り下げ	№05	03171	イノシシ	下顎遊離歯	右	M3	1	M3長さ32.2±,幅一。
Ⅰ		第Ⅰ面掘り下げ		03194	イノシシ	橈骨	右	近位	1	成獣?小型。近位幅28.1,近位前後径18.6
Ⅰ		第Ⅰ面掘り下げ		03194	ヒト胎児	大腿骨	左		1	胎児
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC-01･02下げ	03092	イノシシ	上顎遊離歯	左	M3	1	若獣。未出歯。計測不可
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC-01･02下げ	03092	不明	不明		破片顎	1	
Ⅱ	O-30	第Ⅱ面掘り下げ	SC-05下	03104	イノシシ	基節骨	右		1	
Ⅱ	O-30	第Ⅱ面掘り下げ	SC-05下	03105	イノシシ	基節骨	?		1	
Ⅱ	O-30	第Ⅱ面掘り下げ	SC-05下	03105	陸獣	不明		破片	18	
Ⅱ	O-30	第Ⅱ面掘り下げ	SC-05下	03103	中型獣?	下顎破片	右		1	歯なし。

表3　出土動物遺体一覧４

面	グリット	遺構名			種名	部位名	左右	部位名	点数	備考・計測値
Ⅱ	O-30	第Ⅱ面掘り下げ	SC-05下	03087	イノシシ	脛骨		破片	1	
Ⅱ	N-30	第Ⅱ面掘り下げ	SC-06下	03088	イヌ	上腕骨	左	遠位破片	1	成獣。関節部のみ。アイヌ犬より小型。
Ⅱ	N-30	第Ⅱ面掘り下げ	SC-06下	03088	シカ	中手or中足骨		遠位破片	1	
Ⅱ	N-30	第Ⅱ面掘り下げ	SC-06下	03088	陸獣	不明		破片	1	
Ⅱ	N-30	第Ⅱ面掘り下げ	SC-06下	03089	イノシシ	歯		破片	1	M3の後部破片。
Ⅱ	O-29	第Ⅱ面掘り下げ	SG-04	03100	陸獣	不明		破片	10	
Ⅱ	N-29	第Ⅱ面掘り下げ	SG-04	03164	イノシシ	下顎遊離歯		P3	1	成獣。
Ⅱ	O-29	第Ⅱ面掘り下げ	SG-07	03102	イノシシ♂	下顎	左	(××××)I1～C部分	1	成獣。歯なし
Ⅱ	O-29	第Ⅱ面掘り下げ	SG-07	03152	イノシシ	脛骨	左	中間～遠位	1	成獣。
Ⅱ	P-32	第Ⅱ面掘り下げ	SG-03	03127	カメ類	不明		破片	1	小片の為、海ガメか陸ガメか、背甲か腹甲かも不明
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SG-15	03132	シカ	中手or中足骨		遠位破片	1	成獣?
Ⅱ	N-31	第Ⅱ面掘り下げ	№31・32	03155	シカ	中手or中足骨		遠位破片	1	
Ⅱ	N-31	第Ⅱ面掘り下げ	№31・32	03155	陸獣	不明		破片	1	
Ⅱ	N-31	第Ⅱ面掘り下げ	№31・32	03162	イノシシ	上腕骨	左	中間	1	成獣?
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	P-え	03144	イノシシ	上顎	左	(×××)P234に相当	1	3144亜成獣と同一か?
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	P-え	03144	イノシシ	上顎	左	(M12)	1	成獣?。大型。M1長さ16.9±,M2長さ25.3±。
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	P-え	03144	イノシシ	上顎遊離歯	左	M3	1	亜成獣。M3長さ39.4。
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	P-え	03144	イノシシ	下顎	左	(M23)	1	成獣。大型。M2—,M3長さ37.1,前幅17.3。
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	P-え	03144	イノシシ♂	上顎	右	(××××P4～M3)	1	亜成獣。M1長さ18.3,前幅—,後幅—,M2長さ23.4,前幅19.9,後幅18.3,M3—。
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	P-え	03144	イノシシ♂	上顎	左	M12(M3)	1	亜成獣。M1長さ18.3,前幅15.1±,後幅14.7,M2長さ24.4,前幅19.4,後幅18.4,M3長さ—,前幅23.6±。
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ		03001	シカ	角		先端部	1	
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ		03002	イノシシ	頭蓋骨	右	側頭骨破片	1	
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ		03003	シカorイノシシ	腰椎			1	若獣。
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ		03004	イノシシ	頭蓋骨		後頭部	1	若獣。未癒着。
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ		03005	シカ	下顎	右	(×××××P2×M12)	1	成獣M2少し磨滅。
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ		03006	イノシシ	頭蓋骨	右	後頭顆	1	大型
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ		03006	陸獣	不明		破片	1	
Ⅱ	N-27	第Ⅱ面掘り下げ		03170	イノシシ	頭蓋骨	右	後頭顆	1	切痕あり。
Ⅱ	NO-26、27	第Ⅱ面掘り下げ		03202	陸獣	不明		破片	1	
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	西側土層検出用トレンチ北	03133	ニワトリ	上腕骨	左	中間	1	若獣?現代の白色レグホン♀より少し大型。保存状況から現代のもの。骨体の左右への湾曲も弱い。
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	南東隅掘り下げ	03150	シカ	第一頸椎			1	成獣。
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ		03210	イノシシ	距骨	左右		1	成獣。
Ⅱ	P-33	第Ⅱ面掘り下げ	北拡張区うろこ穴の上付近	03201	シカ	肩甲骨	右		1	成獣。被熱あり。
Ⅱ	P-33	第Ⅱ面掘り下げ	北拡張区うろこ穴の上付近	03201	陸獣	不明		破片	5	
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	北拡張拡青上	03200	イノシシ	距骨	左		1	成獣。
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	北拡張区青上	03159	イノシシ	第一頸椎		破片	1	
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	北拡張区青上	03159	イノシシ	大腿骨	右	中間	1	
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	北拡張区青上	03159	イノシシ	大腿骨	右	中間	1	
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	北拡張区青上	03159	イノシシ	頭蓋骨	左	切歯骨	1	歯なし
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	北拡張区青上	03159	イノシシ	第一頸椎		破片	1	
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	北拡張区青上	03159	イノシシ	下顎	右	(×××C)	1	成獣?犬歯は歯根のみ
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	北拡張区青上	03159	シカ	距骨	右		1	成獣。
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	北拡張区青上	03159	シカ	距骨	右		1	
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	北拡張区青上	03159	陸獣	不明		破片	10	
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	北拡張区青上	03159	不明	尺骨	右	中間	1	
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	北拡張区青上	03159	イノシシ♀?	下顎	右	(×××C)破片	1	成獣?
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	北拡張区青上	03159	イノシシ♀?	下顎	左	(×××)I23C部分	1	成獣?
Ⅱ	R-25	第Ⅱ面掘り下げ		03059	イノシシ	上顎遊離歯	左	M3	1	成獣。M3長さ31.6,幅—。
Ⅱ	O-64	第Ⅱ面掘り下げ		03094	不明	不明		破片	少量	
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ		03136	シカ	下顎	右	(P1～3)	1	成獣。
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ		03136	シカ	角		破片	3	
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ		03136	陸獣	不明		破片	10	
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ		03136	陸獣	肋骨		破片	10	
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ		03137	イノシシ	下顎	右	(M123)	1	成獣。
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ		03139	イノシシ	下顎	右	(P4M1)	1	M1長さ18.8,前幅11.7,後幅11.7。
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ		03139	イノシシ	下顎遊離歯	右	I1	1	未出歯。
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ		03141	イノシシ	大腿骨	右	中間～遠位	1	成獣。
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ		03143	イノシシ	上腕骨	右	遠位	1	成獣。大型
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ		03143	イノシシ	肩甲骨	左		1	成獣。
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ		03143	イノシシ♀	頭蓋骨		頭頂骨、側頭骨左、後頭部	1	成獣。

表3　出土動物遺体一覧５

面	グリット	遺構名		種名	部位名	左右	部位名	点数	備考・計測値
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	03143	イノシシ ♀	上顎	左	(××××P4～M3)	1	成獣。M1長さ17.3,前幅13.0,後幅14.7,M2長さ20.5,前幅15.4,後幅17.0,M3長さ32.9,前幅20.1.
Ⅱ	N-30	第Ⅱ面掘り下げ	03145	イノシシ	頭蓋骨		1個体分	1	
Ⅱ	N-30	第Ⅱ面掘り下げ	03145	イノシシ	上顎	左	(×P4～M3)	1	
Ⅱ	N-30	第Ⅱ面掘り下げ	03145	イノシシ	下顎遊離歯	右	M3	1	成獣直後。M3長さ35.3,前幅15.2
Ⅱ	N-30	第Ⅱ面掘り下げ	03145	イノシシ ♀	上顎	右	(P1～M3)	1	亜成獣。P1は歯根のみ。M1長さ16.0,前幅12.8,後幅13.4,M2長さ20.5,前幅17.2,後幅17.1,M3長さ34.9±,19.7
Ⅱ	O-27	第Ⅱ面掘り下げ	03151	イノシシ	第一頸椎			1	成獣?
Ⅱ	O-27	第Ⅱ面掘り下げ	03151	イノシシ	上顎遊離歯	右	M2	1	若獣。磨滅なし。M2長さ18.7,前幅14.4,後幅14.9。菱形にゆがむ。
Ⅱ	D-28	第Ⅱ面掘り下げ	03154	シカ	距骨	右		1	成獣。
Ⅱ	P-27	第Ⅱ面掘り下げ	03167	シカorイノシシ	上腕骨	右	遠位	1	
Ⅱ	P-27	第Ⅱ面掘り下げ	03167	シカorイノシシ	不明		破片	1	
Ⅱ	P-27	第Ⅱ面掘り下げ	03167	ヒト胎児	大腿骨?	左右		1	胎児。3096より大きく、別個体である。
Ⅱ	O-31	第Ⅱ面掘り下げ	03172	イノシシ	上顎遊離歯	左?	M2	1	亜成獣。大型。M2長さ23.7,前幅22.2。ブタの可能性あり
Ⅱ	O-31	第Ⅱ面掘り下げ	03172	陸獣	不明		破片	1	
Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	03177	イノシシ	上腕骨	右	中間破片	1	下部にイヌの噛痕あり。
Ⅱ	O-27	第Ⅱ面掘り下げ	03184	サメ類	歯			1	アオザメタイプ。基部にキザミあり。加工品か?
Ⅱ	P-28	第Ⅱ面掘り下げ	03193	シカ	肩甲骨	右		1	成獣。関節部のみ。ト骨かどうか不明。
Ⅱ	O-27	第Ⅱ面掘り下げ	03203	陸獣	不明		破片	3	
Ⅱ	O-27	第Ⅱ面掘り下げ	03204	イノシシ	頭蓋骨		頭頂部破片	1	
Ⅱ	O-27	第Ⅱ面掘り下げ	03205	イノシシ	頭蓋骨	左右	後頭部	1	亜成獣。
Ⅱ	P-27	第Ⅱ面掘り下げ	03206	イノシシ	距骨	右		1	成獣。
Ⅱ	P-28	第Ⅱ面掘り下げ	03207	シカ	距骨	左右		1	成獣。
Ⅱ	P-28	第Ⅱ面掘り下げ	03207	陸獣	不明		破片	1	
Ⅱ	O-29	第Ⅱ面掘り下げ	03208	陸獣	不明		破片	2	
Ⅱ	N-31	第Ⅱ面掘り下げ	03209	イノシシ	橈骨	右	近位	1	成獣。近位幅30.2±,近位前後径19.3±
Ⅱ	Q-24	第Ⅱ面掘り下げ	03211	イノシシ	上顎遊離歯	右	M3破片後部のみ	1	若獣?
Ⅱ	Q-25	第Ⅱ面掘り下げ	03212	陸獣	不明		破片	1	
12次									
Ⅱ	Q-30	SC-01 南壁	03005	サメ類	歯			1	アオザメタイプ。
Ⅱ	Q-30	SC-01	03001	シカ	中節骨			1	成獣。大型
Ⅱ	Q-30	SC-01	03002	イノシシ	上顎遊離歯	左	P4,M1,M2	1	"成獣。M1一。M2長さ22.9,前幅16.7±,後幅15.6±。菱形にゆがむ。"
Ⅱ	Q-30	SC-01	03002	陸獣	不明		破片	1	
Ⅱ	Q-30	SC-01	03003	不明	不明		破片	1	
Ⅱ	Q-30	SC-01	03004	イノシシ	上腕骨	左右	遠位	1	成獣。イヌの咬みキズ多い
Ⅲ	Q-30	SK-001	03059	シカ	肩甲骨			1	成獣。関節部なし
Ⅲ	Q-30	SK-001	03060	イノシシ	上腕骨			1	成獣。
Ⅲ	Q-30	SK-001	03060	イノシシ	頭蓋骨		切歯骨	1	成獣。
Ⅲ	Q-30	SK-001	03060	イノシシ	中手or中足骨			1	亜成獣。
Ⅲ	Q-30	SK-001	03060	陸獣	不明		破片	1	
Ⅲ	Q-30	SK-001	03060	イノシシ ♂	上顎		(×)犬歯部分	1	歯なし
Ⅲ	P-30	SK-001	03015	ネコ	上腕骨	左	遠位	1	成獣。保存状況から現代のもの。
Ⅲ	R-30	SK-003	03014	イノシシ	中手or中足骨		近位	1	
Ⅲ	R-30	SK-003	03014	シカ	大腿骨	右	近位	1	成獣。
Ⅲ	R-30	SK-005	03006	イノシシ	頸椎			2	若獣
Ⅲ	R-30	SK-005	03006	イノシシ	胸椎			1	若獣
Ⅲ	R-30	SK-005	03007	イノシシ	寛骨	右		1	成獣。
Ⅲ	R-30	SK-005	03007	イノシシ	臼歯		破片	1	
Ⅲ	R-30	SK-005	03007	シカ	角		破片	1	
Ⅲ	R-30	SK-005	03008	イノシシ	中手骨			1	若獣
Ⅲ	R-30	SK-005	03008	イノシシ	基節骨			1	
Ⅲ	R-30	SK-005	03008	イノシシ	上腕骨	右		1	幼獣。小型
Ⅲ	R-30	SK-005	03008	イノシシ	頭蓋骨		破片	3	
Ⅲ	R-30	SK-005	03008	イノシシ	頭蓋骨?		破片	2	
Ⅲ	R-30	SK-005	03008	陸獣	不明		破片	1	被熱あり。
Ⅲ	S-26	SK-006 おちこみ	03009	イノシシ	臼歯			1	1個分
Ⅲ	T-31	SK-009	03018	イノシシ	尺骨	右		1	成獣?
Ⅲ	Q-35	SK-031 北拡2区	03010	陸獣	不明		破片	1	
Ⅲ	Q-35	SK-036 北拡2区	03011	イノシシ	下顎遊離歯	右	M3	1	亜成獣。M3長さ38.6,前幅17.0。
Ⅲ	Q-35	SK-036 北拡2区	03011	イノシシ	臼歯			1	1個分

表3　出土動物遺体一覧 6

面	グリット	遺構名		種名	部位名	左右	部位名	点数	備考・計測値
Ⅲ	T-31	SP-0058	03062	シカ	角		破片	1	被熱あり。加工品。
Ⅲ	R-30	SP-0062	03013	イノシシ	上顎	右?	破片	1	小破片のみ。
Ⅲ	R-30	SP-0062	03013	陸獣	不明		破片	1	小破片のみ。
Ⅲ	Q-30	SP-0263	03016	イノシシ	腰椎			1	成獣。大型
Ⅲ	R-30	SP-0264	03017	イノシシ	胸椎			1	成獣。
Ⅲ	R-30	SP-0264	03017	イノシシ	下顎	右	dm2～dm4部分	1	幼獣M1未出歯アリ
Ⅲ	R-30	SP-0264	03017	イノシシ	上顎	右	(M2)	1	成獣。
Ⅲ	R-30	SP-0264	03017	シカ	角		破片	2	
Ⅲ	Q-35	SP-0594	03019	シカ	角			1	加工品。先端を研磨
Ⅱ	R-32	SR-01	03012	イノシシ	上顎	右	(M3)	1	成獣。磨滅多い。計測不可
Ⅱ	R-32	SR-01	03012	陸獣	不明		破片	2	
Ⅱ	Q-28	第Ⅱ面遺構検出面	03023	イノシシ	第一頸椎			1	成獣。上面前後長24.4±,高さ一。
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面　1号凹地周辺	03044	クジラ	不明		破片	3	大型クジラの小片
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面　2面区画⑤	03035	イノシシ	基節骨			1	
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面　2面区画⑤･④	03031	イノシシ	上顎遊離歯	左	M3	1	若獣。未出歯。M3長さ15.9,前幅20.4。
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面　2面区画⑤･④	03031	イノシシ	臼歯		破片	1	
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面　2面区画⑤･④	03032	シカorイノシシ	腰椎			1	成獣。
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面　2面区画⑤･④	03033	イノシシ	下顎遊離歯	右	M3	1	若獣?M3第4咬頭まであり。長さ38.3,前幅15.3。小型。
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面　2面区画⑤･④	03033	イノシシ	橈骨	右	遠位	1	若獣
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面　2面区画⑥	03036	イヌ	下顎	右	(P4M1)歯冠欠損	1	
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面　2面区画⑥	03036	イノシシ	臼歯		破片	1	
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面　2面区画⑥	03037	陸獣	不明		破片	1	
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面　2面区画⑥	03038	イノシシ	肩甲骨	右		1	若獣
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面　区画26	03043	イノシシ	橈骨	右	遠位	1	成獣。
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面　区画26	03043	クジラ	不明		破片	1	被熱あり。大型クジラの小片
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面　区画⑤	03034	イノシシ	上顎遊離歯	右	M3	1	成獣。未出歯。計測不可
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面　区画⑤	03034	陸獣	大腿骨		遠位端破片	1	若獣骨端のはずれたもの
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面　区画⑤･⑫	03040	イノシシ	下顎破片			1	被熱あり。
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面　区画⑧	03039					1	
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面　区画⑫	03041	サメ類	歯			1	アオザメタイプ。歯冠部分のみ
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面　区画⑫2面	03042	イノシシ	上顎遊離歯	右	M3	1	若獣。未出歯。M3長さ32.8,前幅18.9±。
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面　北拡1区	03045	シカ	中節骨			1	成獣。イヌ?咬み痕あり
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面　北拡1区	03045	シカorイノシシ	肋骨		破片	2	うち1つにネズミの咬み痕あり。
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面	03061	イノシシ	下顎			1	成獣?
Ⅲ	Q-27	第Ⅲ面遺構検出面	03020	イノシシ	肩甲骨	右	破片	1	
Ⅲ	Q-27	第Ⅲ面遺構検出面	03021	イノシシ	尺骨	右		1	大型
Ⅲ	Q-27	第Ⅲ面遺構検出面	03021	イノシシ	橈骨	右	近位	1	大型
Ⅲ	Q-28	第Ⅲ面遺構検出面	03022	イノシシ	尺骨	左		1	若獣湾曲つよく短い。ブタの可能性あり。
Ⅲ	R-28	第Ⅲ面遺構検出面	03024	イノシシ	肩甲骨	左		1	若獣　ト骨ではない。関節なし
Ⅲ	R-28	第Ⅲ面遺構検出面	03024	陸獣	不明		破片	1	
Ⅲ	R-28	第Ⅲ面遺構検出面	03025	イノシシ	不明		破片	1	
Ⅲ	R-29	第Ⅲ面遺構検出面	03026	陸獣	不明		破片	2	
Ⅲ	S-29	第Ⅲ面遺構検出面	03027	イノシシ	臼歯			2	M1またはM2か?
Ⅲ	S-29	第Ⅲ面遺構検出面	03028	陸獣	不明		破片	1	
Ⅲ	X-30	第Ⅲ面遺構検出面	03029	陸獣	不明		破片	1	
Ⅲ	Z-31	第Ⅲ面遺構検出面	03030	イノシシ	上顎遊離歯	左右	M3	1	亜成獣。左M3長さ31.9,前幅17.6。右計測不可。
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面	03046	イノシシ	下顎遊離歯		切歯破片	1	
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面	03047	陸獣	不明		破片	12	
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面	03048	イノシシ	距骨	右		1	成獣?
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面	03049	イノシシ	踵骨			1	
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面	03050	イノシシ ♂	上顎遊離歯		犬歯	1	成獣。
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面	03051	不明	不明		破片	1	
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面	03052	イノシシ	上腕骨			1	若獣?
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面	03056	イノシシ	上顎	右	(P4×)	1	M1の歯槽は大きい。
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面	03057	イノシシ	上顎遊離歯	左	P2?	1	
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面	03057	イノシシ	後臼歯			1	1個分破片
		13次							
Ⅲ	I-33	SK-003	03050	陸獣	不明		破片	3	
Ⅲ	I-33	SK-003	03053	イノシシ	下顎	左	(P4～M3)	1	成獣直後。M1長さ一,前幅12.4,後幅12.4,M2長さ22.2,前幅15.0,後幅15.8,M3長さ一,前幅16.0mm。おそらくM3第4咬頭は小型化。M2中央体厚25.2,体高(外側)42.8±mm。下顎枝に孔なし,枝外上部にカットマーク,顎体内側にも長いカットマーク。
Ⅲ	I-33	SK-003	03056	不明	不明		破片	1	切痕あり。下顎筋下に長いカットマーク

表3　出土動物遺体一覧 7

面	グリット	遺構名			種名	部位名	左右	部位名	点数	備考・計測値
Ⅲ	G-33	SK-008		03018	イノシシ?	頭蓋骨			1	
Ⅲ	G-33	SK-008		03027	イノシシ	指骨		破片	1	成獣。
Ⅲ	G-33	SK-008		03028	不明	不明		破片	3	
Ⅲ	G-33	SK-008		03030	キツネ	頭蓋骨		後頭骨	1	成獣。大型
Ⅲ	G-33	SK-008		03030	シカ	上顎遊離歯	左	M1	1	成獣。磨滅あり。 M1長さ16.0。
Ⅲ	L-34	SK-016		03078	イノシシ	末節骨	左		1	
Ⅱ	M-31	SK-022		03079	イノシシ	上顎遊離歯	左	M3	1	亜成獣。M3長さ32.,前幅19.0。
Ⅲ	J-32	SK-028	2区骨③	03038	イノシシ	下顎	左	(M123)	1	亜成獣。M1長さ16.3,前幅11.1,後幅12.1。M2長さ19.5,前幅13.8,後幅14.4,M3長さ—,前幅16.5±。
Ⅲ	J-32	SK-028	2区骨③	03038	陸獣	肋骨		破片	1	
Ⅲ	J-32	SK-028	2区骨③	03038	陸獣	不明		破片	5	
Ⅲ	J-32	SK-028	2区骨③	03039	イノシシ	下顎破片	左	関節突起	1	成獣。切痕あり。 03044と接合
Ⅲ	J-32	SK-028	2区骨④	03034	イノシシ	下顎	右	(M3)	1	若獣。未出歯。乾燥のため細片。変形、萎縮している。
Ⅲ	J-32	SK-028	2区骨⑤	03033	不明	不明			1	乾燥のため細片。
Ⅲ	J-32	SK-028	2区骨⑤	03035	イノシシ	下顎	左	(M3)	1	成獣直後。M3長さ33.4±,前幅16.5。
Ⅲ	J-32	SK-028	2区骨⑥	03057	イノシシ	上顎遊離歯	右	M12	1	幼獣3057と同一個体
Ⅲ	J-32	SK-028	2区骨⑥	03057	イノシシ	上顎遊離歯	左	dm4	1	幼獣3057と同一個体
Ⅲ	J-32	SK-028	2区骨⑦	03036	イノシシ	脛骨	右	中間～遠位	1	成獣。細片
Ⅲ	J-32	SK-049		03047	中小型獣	不明		破片	1	
Ⅲ	K-30	SK-081	4区	03011	イノシシ	下顎遊離歯		M3	1	成獣。M3長さ33.4,前幅15.9。小型。
Ⅲ	K-30	SK-081	4区	03016	イノシシ	上顎遊離歯		M3	1	成獣。
Ⅲ	K-29	SK-087	2区骨①	03005	イノシシ	下顎			1	バラバラで復元不可。歯はない
Ⅲ	K-29	SK-087	2区骨②	03006	イノシシ	下顎	右	(M123)	1	成獣。M3長さ36.3,前幅15.8
Ⅲ	K-29	SK-087	2区骨⑬	03013	イノシシ	頭蓋骨		破片	1	細片
Ⅲ	K-29	SK-087	2区骨⑬	03071	シカ	角			1	腐食著しい
Ⅲ	K-29	SK-087	2区骨⑭	03072	イノシシ	下顎	右	(P23)部分	1	
Ⅲ	K-29	SK-087	2区骨⑭	03072	イノシシ	下顎遊離歯	左	P3	1	
Ⅲ	K-29	SK-088	2区骨⑧	03067	不明	不明		破片	4	
Ⅲ	K-29	SK-088	2区骨⑨	03068	陸獣	不明		破片	1	
Ⅲ	K-29	SK-088	2区骨⑫	03010	イノシシ	上顎遊離歯		M3	1	若獣。未出歯。計測不可
Ⅲ	K-29	SK-088	2区骨⑫	03014	イノシシ	上顎遊離歯		P2	1	咬耗あり
Ⅲ	K-29	SK-088	2区骨⑫	03015	イノシシ	歯		M3?破片	1	成獣?
Ⅲ	H-31	SK-101		03019	陸獣	肋骨?		破片	1	被熱あり。
Ⅲ	I-33	SK-102	南	03080	陸獣	不明			1	被熱あり。
Ⅲ	G-29	SK-105		03017	イノシシ	橈骨			1	成獣。
Ⅲ	G-29	SK-105		03022	イノシシ	大腿骨	右	遠位端欠損	1	イヌの噛み痕あり
Ⅲ	G-29	SK-105		03023	イノシシ	肩甲骨		破片	1	
Ⅲ	G-31	SK-111		03081	イノシシ	後臼歯		破片	1	未出歯。
Ⅲ	J-34	SK-117	2区住居壁下	03062	陸獣	不明		破片	少々	
Ⅲ	J-34	SK-117	2区西壁	03102	陸獣	不明		破片	1	
Ⅲ	J-34	SK-117	2区西壁	03106	ヒト	寛骨	左	臼,腸骨,坐骨	1	成人。男性か?
Ⅲ	J-34	SK-117	2区西壁	03108	不明	不明		破片	6	
Ⅲ	J-34	SK-117	2区西壁	03109	不明	腹椎			1	大型
Ⅲ	J-34	SK-117	周辺	03076	陸獣	不明			1	
Ⅲ	J-34	SK-117	覆土上層	03075	イノシシ ♀	上顎遊離歯		犬歯?	1	
Ⅲ	J-34	SK-117		03040	ヒト	大腿骨	右	近位部近位端近く	1	成人。
Ⅲ	J-34	SK-117		03043	海獣	助骨		破片	1	残存長約13cm
Ⅲ	J-34	SK-117		03044	ヒト	大腿骨	右	中間	1	03040と接合。 03045と同一。
Ⅲ	J-34	SK-117		03045	ヒト	大腿骨	左	中間	1	切痕あり。
Ⅲ	I-34	SK-125		03060	陸獣	不明		破片	11	
Ⅲ	I-35	SK-127	南半	03077	シカ	角		破片	2	被熱あり。
Ⅲ	N-31	SP-0156		03083	イノシシ	距骨	左		1	成獣。
Ⅲ	K-33	SP-0419		03084	イノシシ	頭蓋骨		頭頂骨	1	若獣
Ⅲ	K-33	SP-0421		03085	陸獣	不明			4	
Ⅲ	J-33	SP-0424		03086	陸獣	不明			1	
Ⅲ	J-33	SP-0426		03087	不明	不明		破片	1	
Ⅲ	K-32	SP-0452		03088	サメ類	椎骨		破片	1	被熱あり。孔あり。加工品かどうかは不明。
Ⅲ	K-29	SP-0557		03089	不明	棘		破片	1	被熱あり。
Ⅲ	H-34	SP-0613		03048	イノシシ	上顎遊離歯	右	I3	1	
Ⅲ	H-34	SP-0613		03049	サメ類	歯			1	アオザメタイプ。
Ⅲ	H-34	SP-0613		03074	シカ	角			1	
Ⅲ	I-29	SP-0637		03090	タヌキ	頭蓋骨		左右後頭骨、右前頭骨	1	
Ⅲ	H-30	SP-0741		03091	不明	不明		破片	1	
Ⅲ	H-30	SP-0745		03092	不明	不明		破片	1	
Ⅱ	G-31	SP-0914		03094	不明	不明		破片	1	
Ⅲ	H-29	SP-0924		03095	不明	不明		破片	1	
Ⅲ	I-28	SP-1025		03096	イヌ	橈骨	左	破片中間部	1	

表3　出土動物遺体一覧 8

面	グリット	遺構名			種名	部位名	左右	部位名	点数	備考・計測値
Ⅲ	I-34	SP-1231		03093	イノシシ	肩甲骨	右	破片	1	
Ⅲ	I-34	SP-1231		03093	陸獣	不明		破片	1	
Ⅱ	I-35	SE-01		03082	イノシシ	上顎遊離歯	左	M3	1	成獣直後。M3長さ32.5,前幅17.3。
Ⅱ	F-28	SL-01		03097	小型鳥類	四肢骨		中間	1	被熱あり。
Ⅱ	H-28	SJ-01		03063	イノシシ ♂	下顎	左	(C～M3)部分	1	若獣。保存悪く計測不可。
Ⅱ	H-28	SJ-01		03064	陸獣	不明		破片	少々	イノシシ下顎破片か?
Ⅱ	H-28	SJ-01		03066	不明	不明		破片	11	
Ⅱ		第Ⅱ面遺構検出面		03025	サメ類	歯			1	被熱あり。アオザメタイプ。
Ⅱ		第Ⅱ面遺構検出面		03026	イノシシ	上腕骨	右	破片	1	
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面		03024	イノシシ	肩甲骨	左	遠位部遠位端欠損	1	
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面	2区西側	03001	イノシシ	下顎	左	(M123)関節部なし	1	成獣。切痕あり。M2長さ23.8,前幅15.9,後幅16.3。M2中央骨体高厚26.3,同体高44.0±。下顎枝切断。M2・M3間外側に直交方向のカットマーク。
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面	2区南側土壙	03020	イノシシ	下顎	右	(M123)	1	若獣M1長さ17.5,前幅12.2,後幅12.6,M2長さ22.6,前幅14.2,後幅14.8,M3一。
Ⅲ	I-33	第Ⅲ面遺構検出面	3区骨⑮	03037	イノシシ ♀	下顎	右	(×××P4～M3)下顎枝欠く	1	成獣。M2歯根部露出。歯槽膿漏? M1長さ15.5±, M2長さ20.3 , M3長さ35.9±,前幅16.9。
Ⅲ	I-33	第Ⅲ面遺構検出面	3区骨⑮	03037	イノシシ ♀	下顎	右	(M123)	1	成獣直後。下顎枝に孔なし。小型。M1長さ16.1,前幅10.5,後幅11.0,M2長さ18.5±,前幅13.3,後幅13.7,M3長さ33.0±,前幅15.2。
Ⅲ	K-30	第Ⅲ面遺構検出面	SX-2周辺	03100	サメ類	歯			1	アオザメタイプ。
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面	拡張区流れ斜面最下層土壙	03032	シカ	中手骨	左	近位～中間遠位端破損	1	成獣。切痕あり。基幹部前面に直交する短いカットマーク。イヌの噛み跡または自然の磨滅か?
Ⅲ	L-34	第Ⅲ面遺構検出面	黒色粘土層掘り下げ時・杭周辺	03041	イヌ	上腕骨	左	近位	1	成獣。小型
Ⅲ	L-34	第Ⅲ面遺構検出面	黒色粘土層掘り下げ時・杭周辺	03042	イヌ	頚椎		全体	1	成獣。やや小型。
Ⅲ	L-34	第Ⅲ面遺構検出面	黒色粘土層掘り下げ時・杭周辺	03046	不明	不明		破片	10	
Ⅲ	L-34	第Ⅲ面遺構検出面	黒色粘土層掘り下げ時・杭周辺	03058	イノシシ	橈骨	左	遠位関節面欠損	1	若獣?
Ⅲ	L-34	第Ⅲ面遺構検出面	黒色粘土層掘り下げ時・杭周辺	03059	陸獣	不明		破片	1	
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面	調査区北側土層壁より	03021	サメ類	歯			1	アオザメタイプ。
Ⅲ	H-32	第Ⅲ面遺構検出面	調査出土面	03007	イヌ	上顎遊離歯		I3	1	成獣。
Ⅲ	J-30	第Ⅲ面遺構検出面	排水トレンチ	03098	サメ類	歯			1	アオザメタイプ。
Ⅲ	H-34	第Ⅲ面遺構検出面	北隅黒色粘土層遺構検出時	03002	イノシシ	尺骨		近位端なし	1	若獣。切痕あり。
Ⅲ	H-34	第Ⅲ面遺構検出面	北隅黒色粘土層遺構検出時	03003	不明	不明		破片	1	
Ⅲ	H-34	第Ⅲ面遺構検出面	北隅黒色粘土層遺構検出時	03004	不明	不明		破片	1	
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面		03008	イノシシ	脛骨		中間	1	成獣。遺存悪い。中間部細片化。下端部大きい。
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面		03009	不明	不明		破片	1	
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面		03012	イノシシ	脛骨		中間	1	成獣。遺存悪い。中間部細片化
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面		03054	イノシシ ♀	下顎	右	(P3～M3)下顎枝欠く	1	成獣。切痕あり。全体に小型化。外側にカットマークあり。M1,M2とM3の磨耗面に段差あり。M1 2は磨耗が外へ傾く。M1長さ16.8,前幅11.7,後幅12.3, M2長さ19.9,前幅14.2,M3長さ31.0,前幅16.1。
Ⅲ		第Ⅲ面遺構検出面		03055	イノシシ	下顎	左	P3～M3下顎枝欠く	1	成獣。切痕あり。咬筋窩部にカットマーク

註:Iは切歯,Cは犬歯,Pは前臼歯,Mは後臼歯で、dmは乳臼歯を示す。括弧内は骨体に植立して出土していることを示す。
幼獣は±0.5歳以前の第1後臼歯萌出完了以前の個体を示す。
若獣は±1.5歳以前の第2後臼歯萌出完了以前の個体を示す。
亜成獣は2～2.5歳の第3後臼歯萌出途中、第1咬頭まで磨滅している個体を示し、成獣直後は2.5～3歳の第3後臼歯萌出途中の第2咬頭まで磨滅している個体を示す。
成獣は3歳以上の第3後臼歯第3咬頭が磨滅している個体を示す。
備考・計測値の数値の単位はmmで、ーは破損や保存不良のため計測できなかったことを示す。

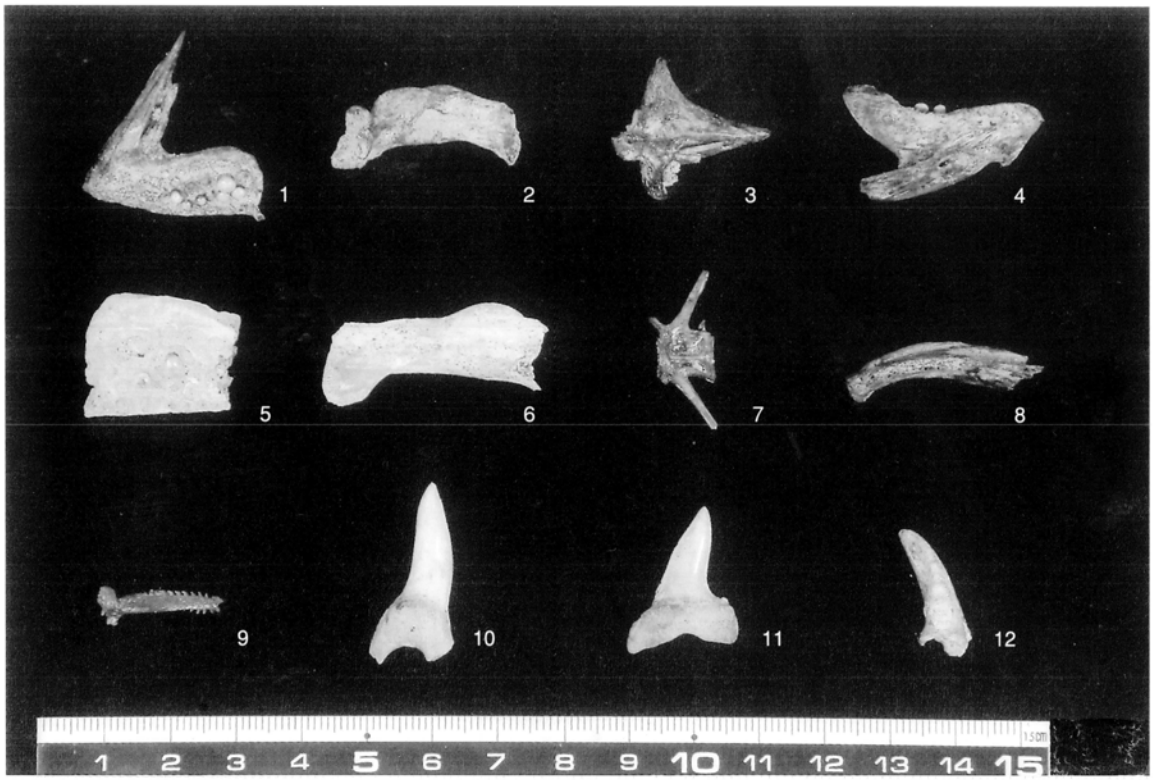


写真1 魚類・カニ類

1～4. クロダイ（1. 前上顎骨、2. 主上顎骨、3. 角骨、4. 歯骨）、5. ヘダイ主前上顎骨、6. マダイ主上顎骨、7. タイ科椎骨、8. コチ科椎骨、9. ナマズ胸鰭棘、10・11. サメ類歯、12. カニ類節指

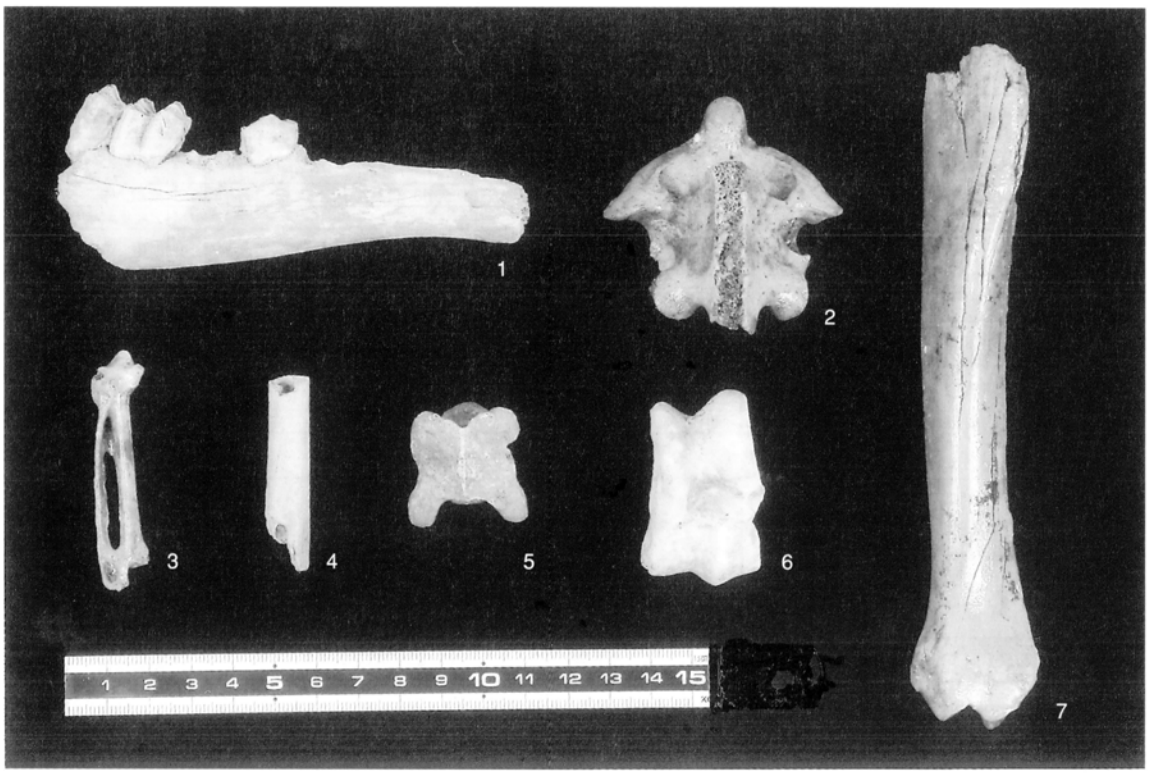


写真2 鳥類・哺乳類

1. シカ下顎骨、2. イノシシ椎骨、3. カラス科中手骨、4. イヌ橈骨、5. イヌ椎骨、6. イノシシ距骨、7. イノシシ脛骨

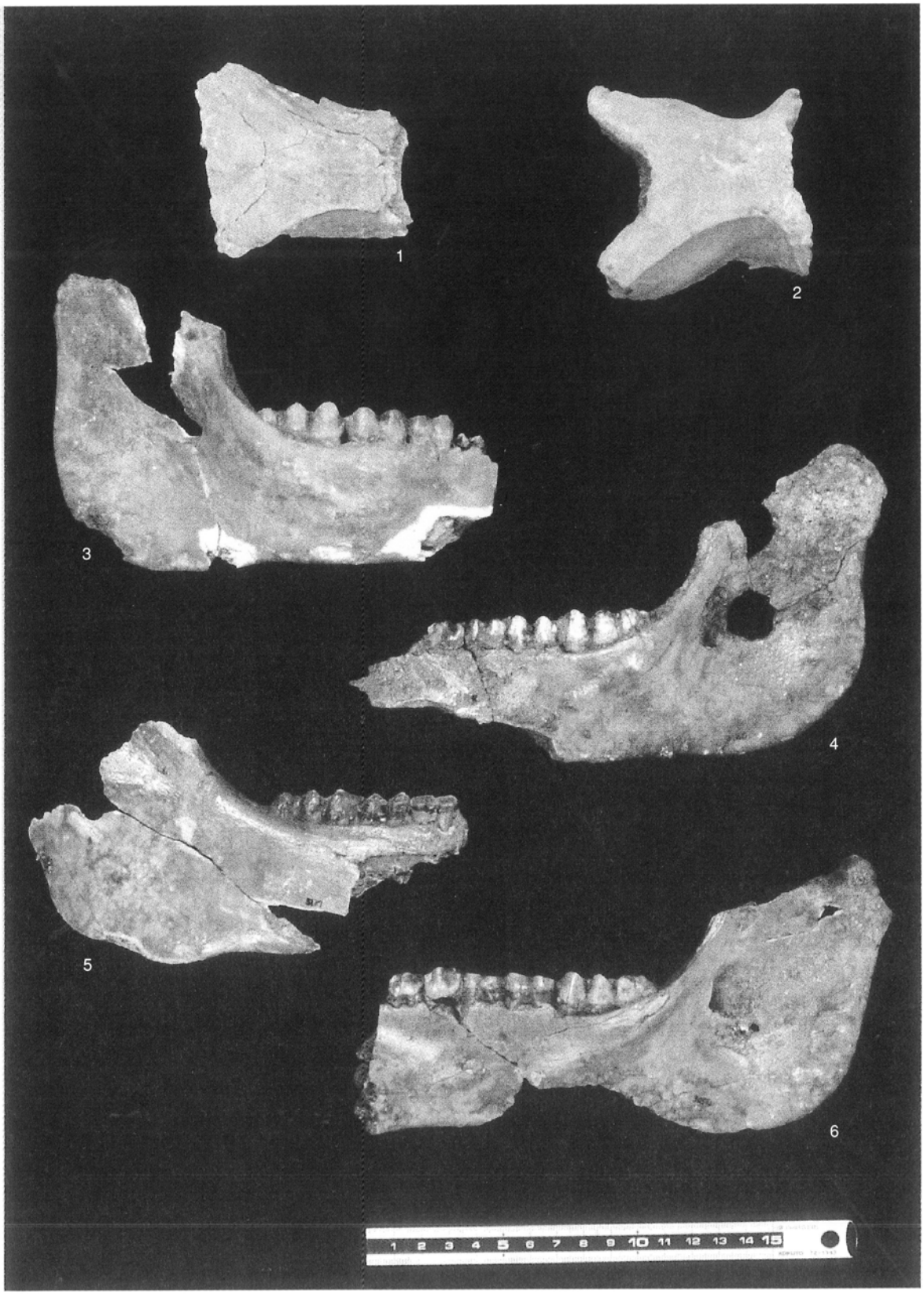


写真3 イノシシ頭蓋骨

1・2. イノシシ頭頂骨、3〜6. イノシシ下顎骨

第３章　福岡市雀居遺跡から産出した昆虫化石について

森　勇一（愛知県立明和高等学校）

１．はじめに

昆虫はすべての生物群のなかで最も種数が多く，水中（水生昆虫），地表面上（地表性歩行虫），植物上（樹上性昆虫）など，多様な生活空間に適応して生活している。食性も食植性から，食肉性・食糞性・食屍性など多岐にわたる。

昆虫の外骨格はキチン質で構成されており，死後土中に埋もれてからも腐ることなく保存される。また，昆虫は移動・跳躍に適した３対の脚と飛翔用の２対のはねを有し，環境変化に対する応答性が最も鋭敏な生物化石（森，1994a）ということができる。遺跡をめぐる古環境の復元にあたり，昆虫化石（昆虫遺体ともいう）が重要であるのはこのような理由による。

小論では，福岡空港国際線ターミナル整備に伴う建設工事に際し発掘調査された雀居遺跡（福岡県福岡市博多区）の遺物包含層中より得られた昆虫と，これらが示す意義について簡単に述べる。

２．試料および分析方法

雀居遺跡は，御笠川および那珂川の沖積作用によって形成された福岡平野内に位置しており，弥生時代早期～前期，弥生時代中期～後期，古墳時代，および古代を中心とした複合遺跡である。本遺跡では，1991（平成３）年から1998（平成10）年までの８年間にわたる13次の調査により，弥生時代早期から後期，および古墳時代の遺物包含層が確認され，これに伴って多くの土器や木製農耕具などが出土し，竪穴住居跡や周溝遺構・掘立柱建物跡なども検出されている（福岡市教育委員会，2001）。

昆虫分析試料は，計３点（試料１～３）よりなり，弥生時代早期から前期にかけての時期に掘削されたとされる円形溝を埋積する植物片混じりの黒褐色シルトないし粘土層である。試料ごとにみると，試料１は第10次の円形溝（弥生時代早期～前期）より採取されたとされ，その湿潤重量は265gであった。試料２および３は，ともに第13次の円形溝（弥生時代早期～前期）より採取され，湿潤重量は試料２が280g，試料３では492gであった。

昆虫化石の分析にあたっては，篩別法（森，1999）および泡沫浮遊選別法（森，1999）の両者を併用して抽出した。篩別法は，試料を水に溶かし250μｍの篩上に残存した昆虫の体節片を拾い出す方法である。また，泡沫浮遊選別法は分析試料を弱アルカリ溶液中で泡立たせ，気泡に付着した昆虫片を集める方法である。

３．昆虫化石群集

試料１～３の昆虫分析試料より検出された昆虫化石は，24点であった（表１）。なお，検出できたのは試料３のみで，試料１および２からは１点も発見することができなかった。産出昆虫の主なものについては，図版１に実体顕微鏡写真を掲げた。検出点数が計24点と少なく，昆虫化石群集というにはふさわしいものではないが，産出昆虫の特徴について簡単に述べる。

雀居遺跡の円形溝より検出された昆虫化石は，不明種２点をのぞきいずれも地表性歩行虫であった。食植性昆虫や水生昆虫は産出しなかった。22点の地表性歩行虫のうち，13点が食糞性甲虫，残る９点は食屍性ないし食肉性および雑食性甲虫で構成され，特異な昆虫群集であるとみなすことができる。

種組成についてみると，人為度の高い裸地的環境下の人糞や獣糞に集まるコブマルエンマコガネ Onthophagus atripennisが2点検出され，これ以外におそらく同種かこの近縁種に同定されるエンマコガネ属 Onthophagus sp.が2点確認された。その他の食糞性昆虫では，獣糞や人糞に多いマグソコガネ Aphodius rectusが計8点，および同種を含むマグソコガネ属 Aphodius sp.が1点発見された。食屍性昆虫ではエンマムシ科 Histeridaeが1点，また，屍体にも来るが主に生活ゴミや腐植物，人畜の汚物などにも多いハネカクシ科 Staphylinidaeが2点，ほかに主に雑食性のオサムシ科 Carabidae（オサムシ亜科 Carabinaeを除く）が計6点検出された。

4．昆虫相から推定される古環境

全体に昆虫化石の産出点数が少なく，その組成から雀居遺跡周辺の古環境に関する正確な情報を引き出すことは困難である。筆者がこれまでに蓄積してきた日本各地の遺跡産昆虫の時代別出現傾向（森，1194a,1999）と，野外における昆虫の生態をもとに，分析試料から得られた昆虫組成より，弥生時代早期～前期の円形溝付近の古環境について述べる。

昆虫化石が検出された試料3では，地表性歩行虫の出現率が高く，とりわけマグソコガネをはじめマグソコガネ属や，コブマルエンマコガネに分類される食糞性昆虫が多数見いだされた。これらの種群は，弥生時代では人口集中度の高い大集落の環濠や溝堆積物中（森，1994b,1996）より多産している。このうち，コブマルエンマコガネは森林内の下草や落葉に覆われた林床には生息せず，人為度の高い裸地的環境下の獣糞に来集する糞虫（春沢，1989）であるとされ，またマグソコガネは筆者の観察所見によれば，牛馬やイノシシなど大型草食獣の湿った糞に多い食糞性昆虫である。この結果，弥生時代早期～前期のころ，雀居遺跡の円形溝付近に，獣糞が存在したことが示される。そして，同一試料から，汚物・塵芥など生活ゴミの集積した汚染度の高い攪乱地表面上に多いハネカクシ科やオサムシ科などが検出されていることからもこうした推定が可能である。

謝　辞

昆虫分析試料採取にあたり，福岡市教育委員会文化財部埋蔵文化財課の力武卓治氏にお世話になった。ここに、記してお礼申しあげる。

文　献

春沢圭太郎（1989）大阪府のコガネムシ科（食糞群）．
昆虫と自然，24(6)，ニューサイエンス社，27-30.

福岡市教育委員会（2001）雀居遺跡6－雀居ムラのガイド・データブック，
福岡市埋蔵文化財調査報告書 第677集．64p.

森　勇一（1994a）昆虫化石による先史～歴史時代における古環境の変遷の復元．
第四紀研究，33(5)，331-349.

森　勇一（1994b）都市型昆虫の起源－愛知県朝日遺跡における昆虫群集について．
－特集・考古遺跡の昆虫遺体，昆虫と自然，29(8)，ニューサイエンス社，4-12.

森　勇一（1996）名古屋市西志賀遺跡より得られた昆虫群集について．
西志賀遺跡－発掘調査の概要－，名古屋市見晴台考古資料館，22-27.

森　勇一（1999）第7章，昆虫．考古学と自然科学②考古学と動物学，同成社，119-150.

表１．雀居遺跡から産出した昆虫化石

	和　　名	学　　名	部　位	長さ(幅) mm	備　考
1	エンマコガネ属	Onthophagus sp.	上翅片	2.4	
2	オサムシ科	Carabidae	前胸背板片	1.3	
3	マグソコガネ	Aphodius rectus (Motschulsky)	右上翅	3.2	写真２
4	エンマムシ科	Histeridae	前胸背板	2.7	写真８
5	マグソコガネ	Aphodius rectus (Motschulsky)	頭部	1.8	写真１
6	マグソコガネ	Aphodius rectus (Motschulsky)	上翅片	1.8	
7	コブマルエンマコガネ	Onthophagus atripennis Waterhouse	頭部	2.8	写真５
8	オサムシ科	Carabidae	腹部腹板	3.0	
9	オサムシ科	Carabidae	上翅片	2.3	
10	マグソコガネ	Aphodius rectus (Motschulsky)	頭部片	1.3	
11	オサムシ科	Carabidae	前胸背板片	2.3	
12	マグソコガネ	Aphodius rectus (Motschulsky)	頭部片	1.2	
13	マグソコガネ	Aphodius rectus (Motschulsky)	前胸背板	1.4	写真４
14	コブマルエンマコガネ	Onthophagus atripennis Waterhouse	頭部	2.2	
15	エンマコガネ属	Onthophagus sp.	前胸背板片	2.9	写真３
16	マグソコガネ	Aphodius rectus (Motschulsky)	左上翅	3.2	
17	マグソコガネ属	Aphodius sp.	上翅片	0.9	
18	ハネカクシ科	Staphylinidae	右上翅	1.8	写真９
19	オサムシ科	Carabidae	腹部腹板	2.6	
20	マグソコガネ	Aphodius rectus (Motschulsky)	上翅片	1.9	
21	ハネカクシ科	Staphylinidae	前胸背板	2.0	写真６
22	オサムシ科	Carabidae	上翅片	3.5	写真７
23	昆虫片	Insect	部位不明	1.6	
24	不明甲虫	Scarabaeidae	上翅片？	2.0	

図版１．福岡市雀居遺跡から産出した昆虫化石の顕微鏡写真

１．マグソコガネ Aphodius rectus (Motschulsky)
　頭部　最大幅1.8mm（標本５）

２．マグソコガネ Aphodius rectus (Motschulsky)
　右上翅　長さ3.2mm（標本３）

３．エンマコガネ属 Onthophagus sp.
　前胸背板片　長さ2.90mm（標本15）

４．マグソコガネ Aphodius rectus (Motschulsky)
　前胸背板　最大幅1.8mm（標本13）

５．コブマルエンマコガネ Onthophagus atripennis Waterhouse
　頭部　最大幅2.8mm（標本７）

６．ハネカクシ科 Staphylinidae genus and species indet.
　前胸背板　最大幅2.0mm（標本21）

７．オサムシ科 Carabidae genus and species indet.
　上翅片　長さ3.5mm（標本22）

８．エンマムシ科 Histeridae genus and species indet.
　前胸背板　最大幅2.7mm（標本４）

９．ハネカクシ科 Staphylinidae genus and species indet.
　右上翅　長さ1.8mm（標本18）

1．マグソコガネ

2．マグソコガネ

3．エンマコガネ属

4．マグソコガネ

5．コブマルエンマコガネ

6．ハネカクシ科

7．オサムシ科

8．エンマムシ科

9．ハネカクシ科

図版1 福岡市雀居遺跡から産出した昆虫化石の顕微鏡写真

第４章　福岡市雀居遺跡から出土したガラス製品について

比佐陽一郎・片多雅樹[1)]・坂本（北村）幸子[2)]

ガラスは4000年以上前の古代メソポタミアを起源とし、鮮やかな色調から装飾品を中心として世界各地に広まった。日本では縄文時代に遡るとされるものもあるが、本格的な流通は弥生時代の前期後半以降であり、金属器などの移入とともに日本列島普及し、弥生文化に彩りを与えたものと考えられる。一口にガラスといっても、主成分は珪素であるがその他に配合される素材は様々で、これらは幾つかの種類に分類される。古代のガラス製品も先学による科学的な分析によって組成が明らかにされているが、用いられる素材の種類は技術的な要因は勿論、ガラスが作られる地域や時代を反映していることから、それらの情報を蓄積し解析することによって、世界規模でのガラスの変遷や流通などが明らかにされつつある。

北部九州地域は古より新しい文化の窓口として栄えた土地柄で、ガラス製品も数多く発見されている。福岡市でも平成11年度の分析装置導入以来、奈良文化財研究所で長年ガラスの研究に携わってこられた肥塚隆保氏指導の下、市内やその周辺で出土する資料の分析調査を行い、データの蓄積を進めている。雀居遺跡でも数は少ないながらもガラス製品の出土が見られ、この中には時期的に古く遡る資料も出土していることから、その位置づけを目的として材質を中心とした調査を実施した。また併せて市内における弥生時代のガラス資料についての概観も試みた。

雀居遺跡ではこれまでの13次に及ぶ調査で、10点のガラス製品が出土している。その一覧は、表１に示すとおりである。いずれも装身具として用いられた玉類で、いわゆる小玉に属する大きさである。色調からは３種類に分類される。９次調査の950620127がやや緑がかった淡青色、４次の924170001、５次の931740003が鮮やかな淡青色で、残りの７点は青紺色である。

資料の時期であるが、ガラス小玉は微細な資料であり、単独では使用時、発掘調査時を問わず余程注意をしないと目に付き難く、どこに紛れ込むか分からない。従って、数がまとまって発見される以外では出土状況を確実に押さえたり、出土した遺構に明確に伴うと断言できる例は少ない。雀居遺跡でも４次から９次出土の７点は、５次出土の931740001が古墳時代前期の住居址からの出土である以外、土壙やピット、包含層から単独で出土したもので、明確に遺構や時期を認定できる資料は殆どない。供伴する土器類の状況や資料の形状などから、弥生時代から古墳時代前期の広い時代幅の中で考える必要があるだろう。この様な中で13次調査出土の３点は土壙墓からの出土で、副葬品と考えられる、確実に遺構に伴うものである。その時期は周囲の状況から前期後半に比定されており、ガラス製品としては市内でも最古に属する資料である。

アルキメデス法による「みかけの比重」の測定では、いずれも2.5前後の数値が得られており、この結果からは、これらの玉類が鉛系ではなくアルカリ珪酸塩系のガラスであることが予測された。

またガラスの成形技法を知ることを目的として、実体顕微鏡を用いての観察も行った。小玉の成形技法としては、心棒に半溶融状態のガラスを巻き付ける「巻き付け技法」、鋳型に溶けたガラスを流し込む、あるいは細かく砕いたガラス片を鋳型に充填して加熱する「鋳型成形技法」、引き延ばして作られたガラス管を細かく折って、再加熱により破断面を整形する「引き延ばし（後再加熱）技法」の主に３種類が想定されている。特に「引き延ばし技法」による小玉の製作については小瀬康行氏による実証的且つ詳細な研究があるが、それによればこの方法で作られた小玉には、孔に平行する気泡

列、あるいはこれが風化により表層に顕わになった「蝕像パターン」の見られることが挙げられ、更に実験の結果として、引き延ばされた時点で連続していた気泡が、ガラス管の細分化、再加熱の過程で、加熱の度合いにより徐々に独立化する過程が明らかにされている。

風化によるものか、全体に細かいクラックが入ったり気泡自体が少なく観察が困難なものもあったが、いずれの資料でも引き延ばし技法の痕跡を示すと思われる気泡列が観察された。特に924170002や981905016、同05017などでは非常に明瞭に観察できる。また気泡以外でも950620127では黄色の色素が筋を為している状況が見られる。逆に924170001や931740003の淡青色の資料では多数の気泡が内在するものの、それぞれの気泡が独立し殆ど規則性を持たないものも見られる。これらは念入りな再加熱が行われたと考えられ、前者で極端に形が歪んでいたり、後者で小口面の角が完全に失われて丸くなっているのは、これを傍証するものと考えられる。

続いてガラスの組成を知るための材質分析を蛍光X線分析により行った。この方法は資料にX線を照射し、資料に含まれる各元素から発生する、その元素特有のエネルギーを持った二次X線を検出器で捉え、X線エネルギーとその強度をピークとして表すものである。ガラス資料の場合、局部的に強いX線を照射するとその部分が変色を来す現象が起きるため、同じ蛍光X線分析法でも、X線強度が小さくても検出感度の優れたエネルギー分散型蛍光X線分析法が有効である。また分析対象が数mm大の微細な資料であり、X線の照射面積を絞った微少領域用の装置を用いている。作業条件は以下の通り。

分析装置：エネルギー分散型微小領域蛍光X線分析装置（エダックス社製／Eagle μ plobe）／対陰極：モリブデン（Mo）／検出器：半導体検出器／印加電圧・電流：20kV・400～500μA／測定雰囲気：真空／測定範囲0.3mmφ／測定時間300秒

出土ガラスは長年埋蔵環境下におかれている間に、表層部が風化していることが考えられるため、正確な値を得るには風化層を除去した上で分析を行うべきである。また組成による種別の判断には、標準資料を用いて校正を行った上で定量値を算出すべきところであるが、遺物を損傷させずに実施したため、今回は定性分析のみに止めている。そのため分析結果は、得られた蛍光X線の特徴と相対強度から判定することになる。

日本の弥生から古墳時代のガラスは、組成により大きくアルカリ珪酸塩ガラスと鉛珪酸塩ガラスに区分される。アルカリ珪酸塩ガラスは融剤に酸化カリウムを用いるカリガラス（K2O-SiO2系）と融剤に酸化ナトリウムを用いるソーダ石灰ガラスに区別され、更にソーダ石灰ガラスは酸化アルミニウム含有量の高いもの（Na2O-Al2O3-CaO-SiO2系）と、低いもの（Na2O-CaO-SiO2系）に区分される。鉛珪酸塩ガラスには、鉛ガラス（PbO-SiO2系）と鉛バリウムガラス（PbO-BaO-SiO2系）がある。この他、混合アルカリガラス（〔Na2O-K2O〕-CaO-SiO2系）と呼ばれるものもあるが、発見例は少なく、その詳細は不明な部分が多い。

分析の結果、今回調査を行った10点は、ピークパターンから大きく2種類に区分される。

一つは淡青緑の資料（950620127）1点で、ガラスの主成分である珪素が最も強いピークとして現れている他、ナトリウム、マグネシウム、アルミニウム、カリウム、カルシウム、チタン、マンガン、鉄、銅、鉛といった元素が確認できる。ナトリウムのピークが明瞭に認められる特徴は、ソーダ石灰ガラスの様でもあるが、カリウムがカルシウムのピークを上回っており、異なる様相を示している。風化による成分変化も想定されるが、ナトリウムが明確に見られることと矛盾しており、混合アルカリガラスの可能性も考えられる。また鉛が見られるが、鉛珪酸塩ガラスのものほど強くは現れていない。混合アルカリガラスは前に記したように、確認例が少なく、系譜や流通に関して不明な部分が多

い。これまでに示されている事例は古墳時代のものであるが、今回の調査事例は時期が明確でない資料ということもあり、その位置付けは困難である。類例の増加を待ちたい。

残りの9点では、ナトリウムのピークが殆ど判別できない程度に落ち込み、代わってカリウムがカルシウムを上回っている。これらは二成分系のガラスであるカリガラスの特徴を示す。このうち淡青色の2点では銅が比較的強く表れており、この元素が着色に関与しているものと考えられる。鉛も検出され、これは着色に青銅が用いられたことによる影響が考えられているが、詳細は不明である。

青紺色の7点では、微弱であるがコバルトのピークが確認されており、色調からこの元素が着色の要因物質であると考えられる。またマンガンが非常に強く表れているが、先学による研究では中国産のコバルト鉱石には豊富なマンガンが含まれていることから、これが用いられたことを示していると考えられている。カリガラスはアジアに特徴的なガラスで、その流通は弥生時代を中心とし、古墳時代には次第に衰退するとされる。酸化マンガンの含有量が高いと目される青紺色の資料が含まれていることは、この裏付けにもなるであろう。

4～9次出土の資料に関しては、大きく弥生～古墳の時代幅で捉えるには特に矛盾の無い結果が得られたといえる。

また13次調査出土の資料であるが、カリガラスは従来、その出現が鉛バリウムガラスに若干後出するとされてきたが、今回、初現期の資料でカリガラスの存在を確認することができた。前期に属するガラス資料としては、福岡市板付遺跡確認調査で板付Ⅱ式の土器と供伴する淡緑色小玉が1点、吉武高木遺跡117号甕棺では金海新式の甕棺から青紺色小玉が1点、佐賀県東山田一本杉遺跡では、やはり金海式甕棺から小玉4点、同型式の甕棺墓壙から小玉1点が出土している。東山田一本杉SJ078甕棺墓壙出土の資料は分析によりアルカリガラスとされ、日本でガラスの流通が始まる早い段階から、鉛系ガラスとアルカリ系ガラスの両者が併存していることが指摘されていたが、雀居遺跡の資料でもこれを追認する結果となった。今後、その系譜を追う上で基本となるデータが得られたと考える。

最後に福岡市内における弥生時代のガラスの様相について若干触れておきたい。市内出土で当該期に属する（と考えられる）ガラス資料は、42遺跡（同一遺跡でも調査次数毎に計上）から、1797点が出土している。これらを器種、時代、色調、出土遺構、地域などといった属性で分類すると、まず器種別では装身具である玉類が99.9%を占め、その中では小玉が98%と大半で、管玉は1.5%、勾玉は4例、0.2%と少ない。[3]

時期的には前期、中期、後期で単純に3区分すると、中期と後期が約45%ずつとなり、この二時期で9割を占める。この中では中期末から後期前半に属する城南区カルメル修道院内遺跡5次の土壙墓で715点、博多区宝満尾遺跡1次の箱式石棺で536点と大量に出土し、ガラスにおける画期を形成している。

色調は、風化による変色を免れた資料では青紺色が全体の76%、淡青色が18%と、これら青色系統で94%を占める。その他では緑色が終末期の西区宮の前遺跡2次C地区1号石棺から65点がまとまって出土している他、数カ所で1～3点程度の出土、インドに源流があるとされる赤色のものが2遺跡3点（西区今宿五郎江遺跡4次〔後期前半〕で2点、南八幡遺跡9次〔後期後半〕で1点）確認されている。[4] 青色の偏在については、入手する側の嗜好や、生産地（製造技術）あるいは流通経路における制約などが考えられるが、これを解明するには多角的な検討が必要となろう。

出土遺構別では、前出の2遺跡など墓地からの出土が84%と大半を占める。この中には1人の被葬者が百～数百点を保有する状況が見られる。また住居跡からの出土は全体の11%で、南八幡遺跡

9次の4軒分95点をはじめ、東区蒲田水ヶ元遺跡1次（後期中頃～後半）で5軒分48点、城南区飯倉D遺跡1次（後期～古墳前期）で32点、博多区比恵遺跡6次（後期～古墳前期）で20点など、まとまって出土する例が散見される。このうち南八幡では鉄片などの鍛冶関連遺物が、飯倉Dでは鋳型といった青銅器生産関連遺物がそれぞれ供伴するが、ガラス玉との関連性については今後の検討課題である。

出土地域別では、比恵遺跡から南八幡遺跡にかけての奴国に比定される地域で、比較的集中が見られる。これには雀居遺跡や席田丘陵上の墓地群も含まれるものと思われる。この他では、当然、青銅器など稀少遺物の出土地域と重なる部分も見られるが、それ以外でも、まとまって出土する地域もあり、より大きな広がりを見せている。

材質組成については全点の分析調査は行っていないが、分析を実施したものや観察による推定では、その大半がアルカリ系のガラスで、鉛系のガラスは少ないことが予測される。

きわめて大雑把であるが、以上が福岡市内の状況である。しかし弥生時代を考える上では周辺でも前原市や春日市など、クニの中心地を中心に多数のガラス製品が出土している。これまでその一部についての分析調査は行っているものの、全体の把握はできておらず、調査が行われたものも全体量からすれば極一部に過ぎないと考えられ、体系的にまとめるには、ほど遠い状況である。弥生時代における福岡平野の様相について評価を下すにはこれらの調査も不可欠であり、今回は予察としてデータの提示に止めておきたい。各遺跡毎の細かいデータや調査報告書の情報などに関しては今回紙幅の関係から割愛させて頂いた。今後機会を改めて掲載したいと考える。

註

1）福岡市埋蔵文化財センター
2）前福岡市埋蔵文化財課調査員
3）唯一玉以外では西新町8次の容器片があるが、成分分析では弥生時代にはこれまでにない結果となっており、位置付けが困難な資料である。
4）中尾遺跡でも赤色が1点出土しているとされているが、資料が所在不明のため確認できていない。

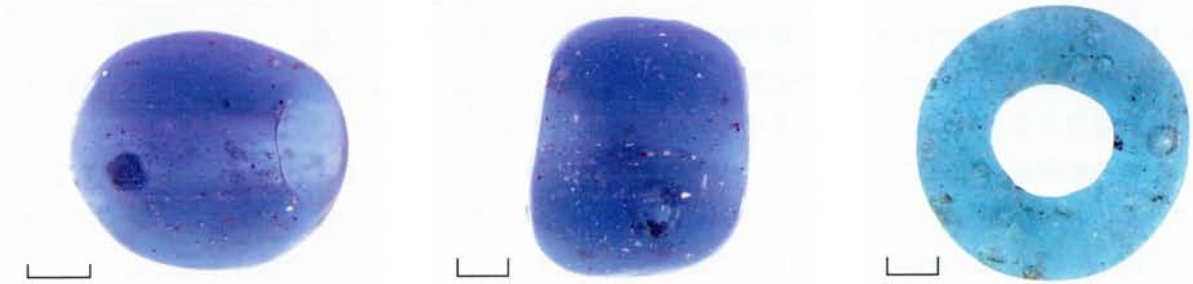
参考文献

肥塚隆保1998「主成分からみた古代ガラスとその歴史的変遷」『保存科学研究集会1998』
奈良国立文化財研究所
肥塚隆保・小暮律子1998「磯辺大塚古墳出土のガラス製品の自然科学的調査」『磯辺大塚古墳』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第43集　豊橋市教育委員会
小瀬康行1987「管切り法によるガラス小玉の成形」『考古学雑誌』第73巻第2号　日本考古學會
樋口秀信編1995『東山田一本杉遺跡』九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(18)
佐賀県教育委員会
藤田等1994『弥生時代ガラスの研究』名著出版

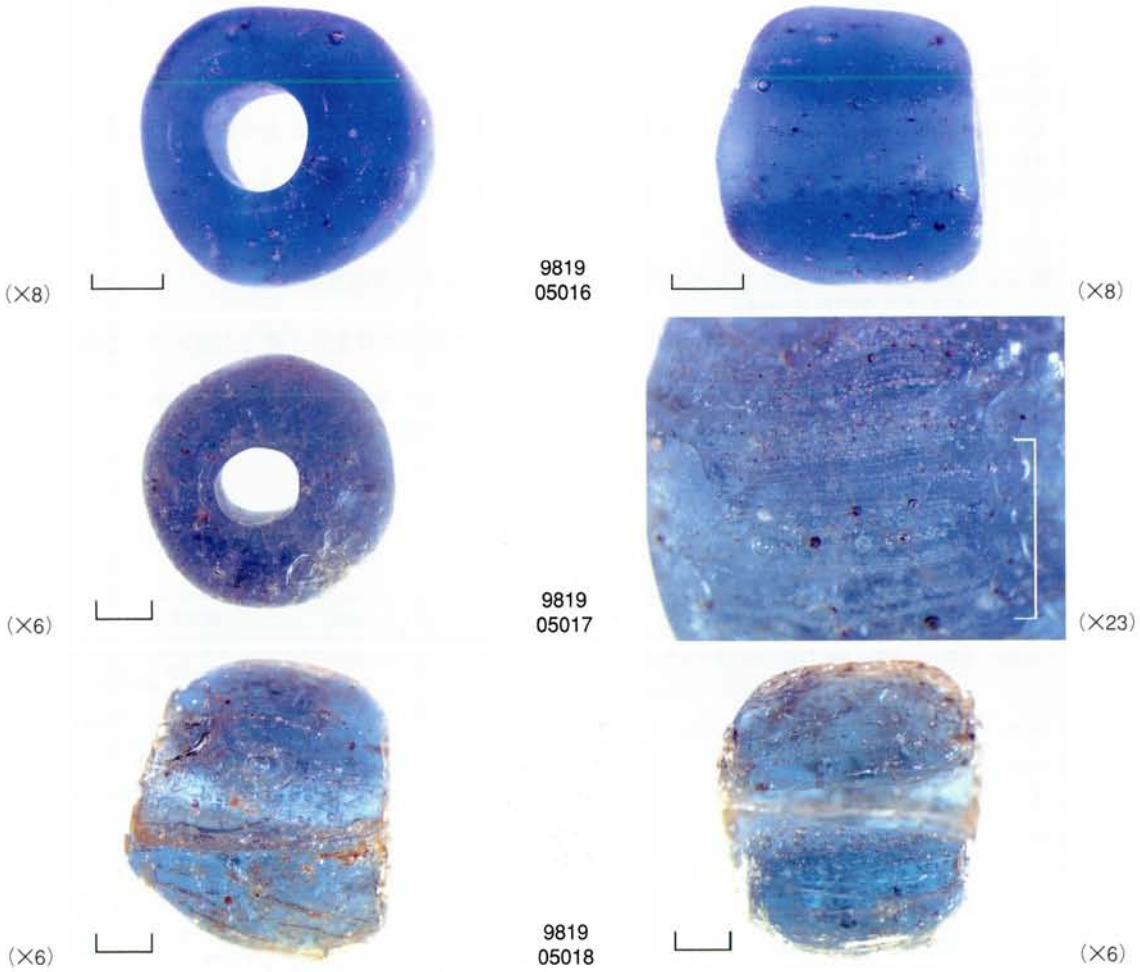
表1　福岡市雀居遺跡から出土したガラス製品

No.	調査次数	遺物登録番号	出土遺構	器種	報告書	掲載Fig	時期	色調	(mm) 径	(mm) 厚さ	(mm) 孔径	(g) 重量	比重	観察所見	種別
1	4次	924170001	土壙	小玉	406	133-1294	弥生後期後半?	淡青	3.80	4.05	1.70	0.08	2.45	不定形に歪む。微細な気泡が多数見られるが、殆ど独立。一部、列を為す部分有り？。	カリガラス
2	4次	924170002	包含層	小玉	406	133-1295	弥生後期後半	青紺	3.35	2.05	1.44	0.03	2.14	比較的整ったドーナツ形。透明度は高く、微細な気泡が明瞭な列を為している。	カリガラス
3	5次	931740001	住居址	小玉	407		古墳前期	青紺	4.00	3.70	1.49	0.07	2.47	樽形で歪み有り。やや濁っているが明瞭な気泡列が観察できる。灰色の小塊が介在。	カリガラス
4	5次	931740002	ピット	小玉	407		弥生?	青紺	5.55	4.25	1.92	0.15	2.33	側面で明瞭な気泡列が多数観察できる。黒灰色の不純物が多数介在。	カリガラス
5	5次	931740003	包含層	小玉	407		弥生?	淡青	5.65	2.40	2.49	0.09	2.49	比較的整ったドーナツ形。透明度は高い。気泡が多数入るが、殆ど独立し散在。	カリガラス
6	9次	950620127	ピット	小玉	635	150-72		淡青緑	2.35	1.55	1.37	0.02	2.83	気泡列と共に黄色の筋が孔の軸側に平行して入る。	混合アルカリガラス?
7	9次	950620129	包含層	小玉	635	153-144		青紺	5.60	2.50	2.40	0.04	2.44	半分程度欠失。孔の軸方向に平行して若干の気泡列と流璃が見られる。	カリガラス
8	13次	981905016	土壙墓	小玉	748	140-2	弥生前期後半	青紺	4.35	3.75	1.44	0.08	2.44	透明度は高い。孔の軸方向に平行した気泡列や蝕像が観察される。	カリガラス
9	13次	981905017	土壙墓	小玉	748	140-3	弥生前期後半	青紺	4.70	4.05	1.46	0.12	2.39	全体に細かいクラックが入る。側面に微細な気泡の列が多数観察できる。	カリガラス
10	13次	981905018	土壙墓	小玉	748	140-4	弥生前期後半	青紺	5.45	4.75	1.42	0.13	2.30	1/3程度欠失。風化が著しく亀裂が多数入る。不明瞭ながら側面に気泡列有り。	カリガラス

92417001 (×8)　924170002 (×8)　950620127 (×10)　950620129 (×6)



931740001 (×8)　930740002 (×6)　931740003 (×6)



(×8)　9819 05016　(×8)

(×6)　9819 05017　(×23)

(×6)　9819 05018　(×6)

図版1　雀居遺跡出土ガラス製品

第５章　福岡市雀居遺跡出土土器に付着したススの炭素年代測定

藤尾慎一郎・坂本稔・今村峯雄（国立歴史民俗博物館）

１　調査概要

福岡市博多区福岡国際空港内に所在する雀居遺跡第12次調査の際、出土した弥生時代早期から前期末に比定される土器に付着したススや煮焦げの年代を調査して、次の点が明らかになった。

7点の試料のうち、4点の試料の年代を得ることができた。そのうち、前期末の1点を除く3点は、板付I式から板付II式にかけての土器についていたススで、紀元前800年を前後する年代に比定された。これは前期初頭の年代としては従来考えられていたもっとも古い年代より、300年ほど古い暦年代となった。これを炭素14年代法や年輪年代法による結果だけでみると、九州北部・近畿・韓半島南部・東北北部との関係においてはきわめて整合性のある年代であることがわかった。

２　調査の経緯

雀居遺跡は、福岡市博多区福岡国際空港内に所在する。空港西の整備に伴って調査された、弥生早期から前期にかけての集落遺跡である。遺跡は日本列島でもっとも早く本格的な水田稲作が始まった板付遺跡の北に、約1.5km離れたところにあり、御笠川を挟んで対峙している。雀居遺跡の初現は、これまでのところ、夜臼IIa式からで、典型的な板付I古式が見つかっていないなど、板付遺跡とは異なる様相をみせる。第４次調査では、夜臼IIa式に伴って、青森県是川中居遺跡の大洞系の壺の肩部文様と類似した大洞Ｃ２式土器が見つかっているので、今回の年代測定によって、九州北部と東北北部の併行関係を知る手がかりが得られると期待された。

３　資料の選定

資料1　第12次調査4号凹地出土板付IIc式（前期末）の口縁下よりススを採取
資料2　第12次調査SK29出土夜臼IIb式屈曲型二条甕（前期初頭）の頸部からススを採取（写真2）
資料3　第12次調査4号凹地南東端部出土板付IIc式の口縁下よりススを採取（写真3）
資料4　第12次調査4号凹地出土亀ノ甲式（前期末～中期初頭）の内面下部よりススを採取
資料5　第12次調査SK35出土板付Ib～IIa式（前期前半～中頃）の口縁下よりススを採取（写真5）
資料6　第12次調査SK24出土板付祖型甕（前期初頭）の口縁下よりススを採取（写真6）
資料7　第12次調査SK24出土板付I式甕（前期初頭）の口縁下よりススを採取

４　土器の特徴

従来の土器の年代観によれば、２・６・７が前300年ごろ、５が前３世紀中ごろ、１・４が前２世紀前半ごろに比定される。これらは６→７→５→１・３と型式変遷する板付系土器と、早期最終末の突帯文土器である２と、２が有明海沿岸地域で型式変遷した突帯文系甕の４に二大別される。４次調査で東北の大洞Ｃ２式に伴っていたのは、２より一段階古い夜臼IIa式である。

これらの土器の調査によって炭素14年代法による年代が出ることはもちろん、２を通じて東北北部晩期後半期との、また４を通じて有明海沿岸地域前期末段階との併行関係を知ることができるという意味で、最適な資料選択であった。

ススを計測した結果、年代測定に耐えうるだけの試料の量を有していた、２・３・５・６について、年代値を計測することができた。

５　資料の処理

土器表面に見られるス状の炭化物や、口縁部や容器内面に残った調理物に由来する炭化物は、

写真2

写真3

写真5

写真6

その土器の使用に伴って付着したものであり年代試料として有用である。

7点の資料から採取された炭化物のうち、20mg以上の試料量が得られなかった資料1以外の6点について化学的な洗浄処理を施した。まず、80℃の酸溶液（1N塩酸溶液）で1時間加熱する操作を2回繰り返した。これにより土壌に由来する炭酸塩が除かれる。次に、80℃のアルカリ溶液（1N水酸化ナトリウム溶液）で1時間加熱した。これにより土壌に由来するフミン酸などの有機酸が除かれるが、同時に炭化物の一部も溶液中に分散して失われる。そのため、アルカリによる処理は溶液を交換して30分加熱する操作を追加するにとどめた。続いて80℃の酸溶液で30分加熱する操作を2回繰り返し、アルカリを中和するとともに処理中に吸収した大気中の二酸化炭素を除いた。最後に試料を80℃の純水で加熱する操作を繰り返し、酸を除いた。以上の操作は、国立歴史民俗博物館に設置した年代測定試料自動処理装置を用いた。

炭化物にはタールなどの有機物が吸着していることがあるので、試料をアセトンで洗浄してこれを除いた。純水で再度洗浄し、石英ろ紙上に展開して試料を回収した。

洗浄処理が済んだ時点で、測定可能な試料量が得られたものは資料4以外の5点であった。4～5mgの試料を採取し、500mgの酸化銅とともにバイコールガラス製アンプルに投じた。これを真空に封じ切り、850℃の電気炉で2時間加熱して試料を完全に燃焼させた。燃焼により炭化物は二酸化炭素に変換されるが、同時に生ずる水を除くために、国立歴史民俗博物館に設置されたガラス製真空ラインによる精製処理を行った。

精製された二酸化炭素をパイレックスガラス製アンプルに回収した。炭素の重量に換算して1mg以上の二酸化炭素が得られた資料2、3、5、6の4点について、加速器質量分析計(AMS)による炭素14年代測定を、(株)地球科学研究所を通じてBeta Analytic Inc.に炭素14年代の測定を依頼した。

6　測定結果

測定結果を表1に示す。測定機関番号は資料それぞれに振られた固有の番号である。炭素14年代とは炭素14の半減期を5,568年とし、同位体分別効果を補正した炭素14濃度から算出した年数を、西暦1950年を起点にさかのぼったモデル年代である。単位を^{14}C BPで表し、付された誤差は1標準偏差である。

表１：福岡市雀居遺跡出土土器に付着した炭化物の年代

資料番号	測定機関番号	炭素14年代 (^{14}C BP)	暦　年　代	
2	Beta－172132	2,560±40	810 cal BC － 750 cal BC	(40.3%)
			720 cal BC － 530 cal BC	(54.4%)
			520 cal BC － 520 cal BC	(0.5%)
3	Beta－172133	2,510±40	790 cal BC － 510 cal BC	(90.8%)
			480 cal BC － 480 cal BC	(0.5%)
			460 cal BC － 440 cal BC	(1.7%)
			440 cal BC － 420 cal BC	(1.6%)
			420 cal BC － 410 cal BC	(1.1%)
5	Beta－172134	2,620±40	890 cal BC － 870 cal BC	(3.1%)
			860 cal BC － 840 cal BC	(1.0%)
			840 cal BC － 750 cal BC	(87.7%)
			680 cal BC － 660 cal BC	(2.5%)
			600 cal BC － 590 cal BC	(1.2%)
6	Beta－172135	2,590±40	830 cal BC － 750 cal BC	(69.3%)
			680 cal BC － 650 cal BC	(8.5%)
			640 cal BC － 580 cal BC	(11.3%)
			580 cal BC － 540 cal BC	(6.5%)

炭素14年代は実際の暦上の年代（暦年代）とは一致しないため、暦年代が判明している試料の炭素14年代と比較して修正する必要がある。国際的には、欧米産樹木の年輪資料の炭素14年代を集成した修正曲線INTCAL98が用いられている。日本産樹木の測定結果もINTCAL98とよく符合するので、日本列島で得られる資料への適用も妥当であると考えられる。

修正曲線に基づいた炭素14年代の暦年代への修正の例を、資料6について図1に示す。炭素14年代の標準偏差とINTCAL98の標準偏差を統計的に計算することで，ある確率密度分布を有する暦年代が得られる。ところが，修正曲線には凹凸があるので得られる分布は一様にならない。各資料について，2標準偏差（95%）の信頼区間を与える暦年代の範囲を図1の下に示す。凹凸のある山は暦年代の確率分布を示し、最もピークの高い年代の確率が最も高い。表1には得られた暦年代をその確率とともに記した。

資料3（板付IIc）の暦年代は、90.8%の確率で790～510 cal BCという約300年近い幅を示し、年代を絞りきれないデータである。2510±40 ^{14}C BPという炭素14年代は、図1でも明らかなように修正曲線がほぼ水平に横たわる部分と重なる。この水平部分は弥生中期後半ごろまで続くため、炭素14年代法では該当する時期の暦年代を絞りきることが難しい。

一方、中期末から後期初頭に位置づけられている福岡市南区笠抜遺跡の水路から出土した杭は、再び較正曲線が下降しはじめる起点付近にあたるため、このころから再び年代を高い確率で絞り込むことが可能となり、炭素14年代法が有効な時期に入ってくることがわかる。

さて注目されるのは残りの３点の年代である。この3点を考古学的知見にもとづいて古い順に並べ

ると、資料2（夜臼IIb式）、資料6（板付祖型甕）、資料5（板付Ib～IIa式）となり、それぞれ前期初頭、早期末～前期初頭、前期前半～中ごろとなる。2は前800年ごろと、前600年ごろの二つに大きなピークがあるので、十分な絞り込みができない試料である。5と6は、前800年ごろを中心に70～80%の確率を示している。この値が有効であるならば、前期初頭の年代は前800年ごろとなり、従来の年代観より300年ほど古い値となる。果たしてこの年代は妥当なのであろうか。チェックする上で参考となるデータが複数存在するので検証しておこう。

まず今回、炭素14年代法により分析した福岡市早良区橋本一丁田遺跡と佐賀県唐津市梅白遺跡の夜臼II式、板付I式の年代である。詳細はそれぞれの報告書を参照していただくとして、二遺跡とも夜臼II式の年代が前900～前750年に95%の確率で収まることが明らかになっている。これは雀居12次調査の年代と整合する。つまり従来の編年観より200年ほど古い年代だが、雀居だけが特異であるわけではなく、玄界灘沿岸地域の当該期の遺跡では、一般的な年代であることを意味しているのである。

このことは対岸の韓半島南部との関係においても同様である。すなわち夜臼IIa式の年代が仮に前900年ごろを上限とするならば、夜臼I式や山の寺式は、前10世紀半ばぐらいまでにさかのぼる可能性が出てくる。前10世紀といえば、従来、韓半島南部で無文土器時代が始まった時期と考えられてきた年代だけに、その関係が気になるところである。慶尚南道・大坪漁隠遺跡1地区で見つかった110号住居跡床面から出土した突帯文土器にともなう炭化米の年代が、炭素14年代法により2850±60 YBPの年代が出ている。弥生時代の始まりが無文土器時代の始まりに近接してしまうなど、弥生時代の開始年代をめぐる問題に大きな影響を与えることになる。

三つ目は近畿の年輪年代とも整合性を示すデータである。兵庫県東武庫遺跡で見つかった弥生前期中ごろの木棺の棺材について、年輪年代法により前445年という結果が報告されている。九州北部でいう板付IIb式に併行する年代が前5世紀中ごろであるならば、今回得られた年代との間に齟齬はなく、ほぼ整合性がとれているといえよう。

四つ目が東北地方北部の縄文晩期との関係である。冒頭でも述べたように雀居4次調査で大洞C2式の壺が夜臼II式と共伴している。つまり前800年ごろという夜臼II式の年代が大洞C_2との関係で整合性をもつかという問題である。

辻誠一郎が青森県是川中居遺跡で採取した植物遺体の炭素14年代法による測定では、晩期前葉の大洞B式を主体としてBC式が少し混じる時期について前1440～1380年という結果が出ている。これはこれまで前10世紀ごろとされた晩期初頭の年代が300年ほど古くなることを意味している。大洞式はB、BC、C_1、C_2式と変遷するので、C_2が伴った夜臼IIa式の年代が前800年ごろに比定されるという。雀居4次調査の成果は、大洞C_2式に編年体系のなかでも整合性のある年代を与えているといえよう。

以上、雀居のある玄界灘沿岸地域の諸遺跡との関係、対岸の韓半島南部の無文土器時代開始時の年代との関係、近畿の年輪年代によって出された前期の年代、そして東北北部の晩期中ごろの年代との関係などすべてにおいて、逆転、交差することはなく、整合性のある年代であることがわかる。

本報告書が刊行される頃には、炭素14年代法による当該期の50点以上の年代が、九州北部はもちろん、九州南部、九州北東部、さらに漁隠遺跡の同じ住居跡から出土した炭化米を試料に出される予定なので、さらなるクロスチェックが可能となる。今後はさらに類例を増やしつつ年代の妥当性について考えていきたい。

この分析は、日本学術振興会科学研究費平成14年度基盤研究（A・1）（一般「縄文時代／弥生時

代の高精度年代体系の構築」代表・今村峯雄）の成果の一部を用いている。

1から4は藤尾が、5は坂本が、6は藤尾と坂本が執筆した。

注:分析資料の掲載図面番号は以下の通りです。ご参照ください。

資料1　第12次調査4号凹地出土 ……Fig.265-23／04号凹地出土(登録番号02529)
資料2　第12次調査SK29出土 …… Fig.218- 1／SK－029出土(登録番号02225)
資料3　第12次調査4号凹地南東端部出土 ……Fig.134- 1／第Ⅲ面検出面出土(登録番号02520)
資料4　第12次調査4号凹地出土 ……Fig.268-24／04号凹地出土(登録番号02368)
資料5　第12次調査SK35出土 …… Fig.229-19／SK－035出土(登録番号02250)
資料6　第12次調査SK24出土 …… Fig.206-23／SK－024下層出土(登録番号02209)
資料7　第12次調査SK24出土 …… Fig.206-26／SK－024下層出土(登録番号02204)

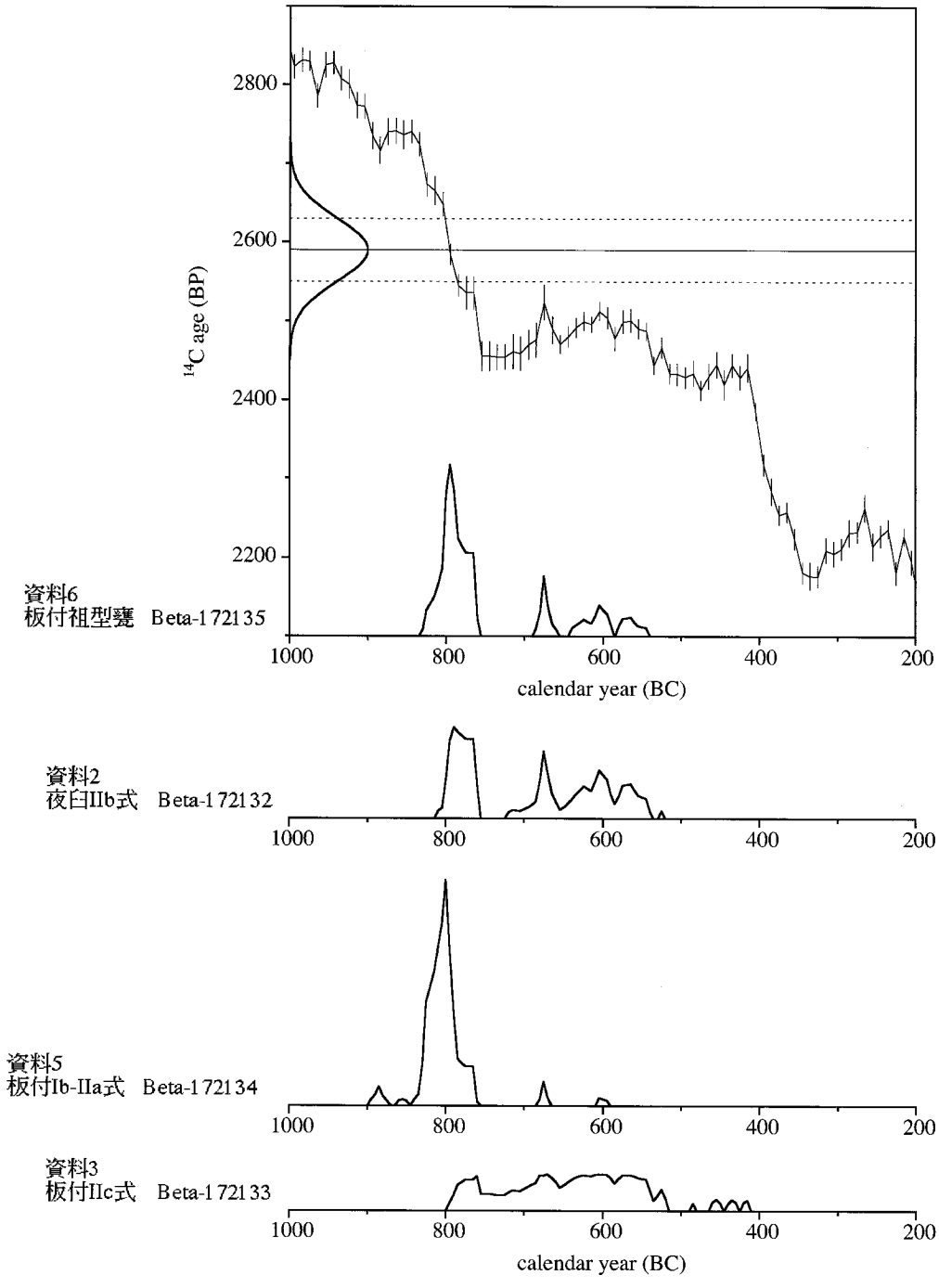


図1：修正曲線（INTCAL98）による炭素14年代の暦年代への修正

第６章　福岡市雀居遺跡出土の炭化米分析

佐藤洋一郎（静岡大学）
柴内佐知子（岐阜大学大学院・静岡大学）

1.はじめに

雀居遺跡出土のイネ種子（炭化米）について、その形態およびDNA分析をおこなった。ここではその結果について記す。遺跡は御笠川の東岸にあたり標高５m前後を測る沖積地に位置し、弥生時代早期（縄文時代晩期終末）から古代にわたりヒトの活動が認められている（下村 1993，1995，松村 1995，2000，松村・力武1998，力武 2001）。本実験で用いた試料は、第１０、１２、１３次調査で確認された遺構から出土したものであり、すでに洗浄され、乾燥した状態で送付されてきた。また、炭化米とマメ科種子とに分類されていた。なお、本研究における「炭化米」とは、黒色を呈した状態で遺跡から出土したイネの種子をさす。また、マメ科種子に関しては、今回は分析を見送った。

2.分析試料および分析方法

試料の一覧を表１に示す。炭化米は遺構ごとに、光学顕微鏡下で完形のものを50粒選抜した。ここでいう完形とは、破損がまったく見られないもの、または一部が破損していても長さと幅の計測に支障がないものをいう。また、選抜にあたっては「完形の炭化米であること」以外の条件、つまり形態や大きさなどの特定の形質については考慮せず、ランダムになるよう注意しながら選抜した。

供試した炭化米は遺構ごとに、スケールとともに写真撮影した（図1）。撮影した写真は四つ切りサイズに引き伸ばし、写真中のスケールとの比率を求め、長さ（L; mm）と幅（W; mm）を計測した。長さはそれぞれの炭化米の最も長い箇所で測定した。幅は長さと垂直に交わる線で一番広い部分を測定した。また、その計測値から長幅比（L/W）を求めた。玄米の厚さはその登熟度によって変化する（星川 1975）ので計測を行わなかった。

次に、炭化米を各遺構から選抜した１０粒ひとまとめからアルカリ-SDS法によって、第１３次調査SK-028からは選抜した1粒ずつからNaOH法によって全DNAの抽出を行った。

抽出したDNAは炭化米から抽出されたDNA量は現存のイネの数十分の一であるとされる（柴田 1999）ため、抽出した全DNAは希釈せずそのままPCR (Polymerase chain reaction) 増幅のテンプレートに使用した。なお、植物遺体から抽出されたDNAは微量であり、１回のPCR増幅ではバンドが確認できない（山中ら 2000）。本実験でも、炭化米由来DNAの１回目のPCR産物からは電気泳動によるバンドを確認することができなかった。そこでPCR増幅は２回行った。 なお、２回目のPCR増幅のテンプレートには，１回目のPCR産物を使用した。

プライマーは、葉緑体DNA中のPS-ID（plastid subtype-ID, Nakamura *et al.* 1997）領域を増幅するPS-IDプライマーを用いた。PS-ID領域とは葉緑体DNA中のrpl16-rpl14遺伝子間の介在配列である。イネのPS-ID領域の最上流部分には特定数のシトシン（C）の繰り返しとアデニン（A）の繰り返し配列が確認できる。念のために記すなら、CおよびAは、DNAを構成する4種の塩基（アデニン，チミン（T），シトシン，グアニン（G））のうちの2つである。これらCとAの繰り返し数の組み合わせにより、イネ品種は*japonica*と*indica*に区別することができる（Nakamura *et al.* 1997，1998）。また*japonica*の場合、温帯*japonica*と熱帯*japonica*に区別することもできる。なお、PS-IDプライマーはイネ以外の植物にも利用できる、いわゆるユニバーサルプライマーである。

Nakamura *et al.*（1997）では、PS-ID領域を含む約550bpを増幅するようにデザインされたプライ

マーAおよびB（5’-ATCTGCAGCATTTAAAAGGGTCTGAGGTTGAATCAT-3’）を用いたが、本実験では、Aプライマーより約120bp下流に位置するA2プライマー（5’-CGTCGTGGTGGAAAAATCTGGGTACGTATATTT-3’）、およびA2プライマーよりさらに約70bp下流に位置するA3プライマー（5’-GGTAGCCGTTGTTAAACCAGGTCGAATACTTTATG-3’）を用いた。炭化米に含まれているDNAは死後の時間が長くそのDNAが断片化されている可能性がある。そこでプライマーAにかわりA2およびA3を用い、増幅領域を短くしたものである。またプライマーA3による2回目のPCR増幅部分が、プライマーA2による1回目のPCR増幅領域の内側に設定されることにより（このようなPCR法をnested PCRという）、1回目のPCR増幅時にミスアニーリングによって生じたDNA産物が2回目のPCR増幅で誤って増幅されることを防止し、目的のDNAのみが増幅される効果が期待できる。

PCR産物は1%アガロース上で100V、約30分間の電気泳動を行い、エチジウムブロマイド(EtBr; 1mg/ml)で30分間染色した。染色後、UVトランスイルミネーターを通して視覚化し、写真撮影を行い、バンドの有無を確認した。

バンドが確認されたPCR産物については、カラムを用いて精製し、PS-ID A3プライマーおよびPS-ID Bプライマーを用いて、サイクルシークエンス法によるダイレクトシークエンスを行った。

3.結果

（1）形態的な変異について

本実験で用いた炭化米には籾殻を伴ったものは確認されず、すべてが玄米であることがわかった。8つの調査区から出土した炭化米の長さと幅の平均値および標準偏差を表2に示す。炭化米の長さの平均は4.02mmから4.24mmにわたって変異した。また幅の平均は2.49mmから2.78mmにわたって変異した。長幅比は1.53から1.63にわたって変異した。なお、粒の大きさや形状が時代とともに一定の方向に動く傾向は認められなかった。

表2にはまた50粒の、炭化米の各計測値の標準偏差つまりばらつきの大きさを示してある。粒長の標準偏差は0.17から0.24、粒幅の標準偏差は0.17から0.28にわたって変異した。この値は、同時期の他の遺跡から出土したものと同程度で、現在の品種における値を大きく超えていた。またばらつきの大きさが時代とともに変化する傾向はなかった。

（2）DNA分析の結果について

炭化米のDNA分析結果を表3に示す。各遺構から出土した炭化米のうち、第12次調査SK-019周辺から出土した炭化米についてPS-ID領域を特定することができた。その配列は*japonica*固有の6C7A（CCCCCCAAAAAAA）の配列を示した。また、第13次調査SK-028から出土した炭化米のうち13粒についてもPS-ID領域を特定することができた。13粒のうち12粒の配列は*japonica*固有の6C7A（CCCCCCAAAAAAA）の配列を示した。また、残りの1粒は*indica*固有の8C8A（CCCCCCCCAAAAAAAA）の配列を示した。

4.考察

雀居遺跡は北部九州の稲作を伴った遺跡としては代表的な遺跡であり、実際多量の炭化米が出土して人々を驚かせた。特に、土坑から多量の炭化米が出土した事実は、この時期この地域の稲作がすでに近代日本列島の水田稲作社会の原型をなしていたとの推定を補強するものと考えられた。しかし佐

藤（2002）は、弥生時代から古墳時代にかけての日本列島の稲作が雑駁で休耕を伴ういわば「縄文稲作」を引き継いだものであり、単作的、常畑的な現代の稲作とは大きく異なるスタイルを伴っていたと考えた。この２つの相矛盾する見解のどちらがより事実に近いかはまだ今後の検討を要する研究課題である。

粒の大きさおよび形の変異からは本遺跡出土のイネが本州の他の遺跡と同様に大きなばらつきを示すことが明らかとなり（表２）、栽培されていたイネに遺伝的な多様性が保たれていたことがわかった。なおイネの粒の大きさおよび形の変異に関しては、和佐野（1993）や高橋ら（2002）（表４）の研究がある。和佐野は縄文時代晩期から弥生時代後期の九州北部に分布する１２遺跡の炭化米の粒特性を比較している。遺跡はその分布地域により、九州北西岸域、筑紫平野域、九州北部内陸・北東岸域の３つの群域に分けている（図２）。そして、炭化米の長さについては、九州北西岸域のものは短粒群、筑紫平野域、九州北部内陸・北東岸域のものは、やや長粒の円粒性長粒群の２群に大別できるとしている。本遺跡は九州北西岸域にあたるが、出土した炭化米の長さが短粒群に属さないものもあり、和佐野の見解とは必ずしも合致しなかった。このように北部九州１地域をとってみても出土する炭化米の大きさに関して未知の点が多く残されているというべきである。

DNA分析の結果多くの種子が６C7A型を示したが（表３）、これは出土した炭化米の多くがジャポニカに属するとの従来の報告と軌を一にする。ただし６C7A型は温帯ジャポニカにも熱帯ジャポニカにもみられるタイプで、今回の結果からこれらがどちらのジャポニカに属するかの推定はできなかった。なお今回８C8A型の種子が発見されたが、これはインディカに固有のタイプである。この１粒の種子がインディカに属するものであったのか、またジャポニカの中にまれにこのタイプのものがあるのかは今後の検討課題である。

引用・参考文献

星川清親（1975）イネの生長　養賢堂: 317pp.

Nakamura, I., N. Kameya, Y. Kato, S. Yamanaka, H. Jomori and Y.I. Sato（1997）A Proposal for Identifying the Short ID Sequence Which Addresses the Plastid Subtype of Higher Plants. *Breeding Science 47*: 385-388

松村道博編（1995）『雀居遺跡3』　福岡市埋蔵文化財調査報告書407集　福岡市教育委員会: 196pp.

松村道博編（2000）『雀居遺跡5』　福岡市埋蔵文化財調査報告書635集　福岡市教育委員会: 268pp.

松村道博・力武卓治編（1998）『雀居遺跡4』　福岡市埋蔵文化財調査報告書565集　福岡市教育委員会: 110pp.

力武卓治（2001）『雀居遺跡6』　福岡市埋蔵文化財調査報告書677集　福岡市教育委員会: 64pp.

柴田祐希（1999）「炭化米のDNA分析の基礎的研究－抽出法およびプライマーの選抜－」　静岡大学卒業論文: 46pp.

佐藤洋一郎（2002）『稲の日本史』　角川書店: 197pp.

下村智編（1993）『雀居遺跡1』　福岡市埋蔵文化財調査報告書322集　福岡市教育委員会: 92pp.

下村智編（1995）『雀居遺跡2』　福岡市埋蔵文化財調査報告書406集　福岡市教育委員会: 238pp.

高橋光子・岡村渉・佐藤洋一郎（2002）「登呂遺跡から出土したイネ籾殻の形態的遺伝的変異」　育種学研究4（別１）: 119

和佐野喜久生（1993）「九州北部古代遺跡の炭化米の粒特性変異に関する考古・遺伝学的研究」　育種学雑誌43: 589-602

山中愼介・岡田康博・中村郁郎・佐藤洋一郎（2000）「植物遺体のDNA多型解析手法の確立による縄文時代前期三内丸山遺跡のクリ栽培の可能性」　考古学と自然科学38: 13-28

表1　分析試料一覧

次数	出土区	出土遺構	遺構の時期	出土遺物
10次	O-28	SC-01	古墳前期	炭化米
10次	O-28,O-29	SC-02	古墳前期	炭化米
10次	O-27	SK-002	弥生前期～中期前半	炭化米
10次	N-27	SK-016	弥生前期後半	炭化米
10次	Q-24	SK-020	弥生前期～中期後半	炭化米
10次	Q-24	SK-020-Ⅰ	〃	炭化米
10次	Q-24	SK-020-Ⅱ	〃	炭化米
10次	Q-24	SK-020-Ⅲ	〃	炭化米
10次	Q-24	SK-020-Ⅳ	〃	炭化米
12次	T-32	SK-019	弥生前期中頃	炭化米
12次	T-32	SK-019	〃	マメ科種子
12次	T-32	SK-019周辺	弥生前期中頃	マメ科種子
12次	T-32	SK-019周辺	〃	炭化米
13次	J-32	SK-028	弥生～古墳	炭化米

図1 第13次SK-028より出土した炭化米（目盛りの間隔：1㎜）

表2　炭化米計測値

佐藤研No.	次数	出土区	出土遺構	平均値* 長さ（mm）	幅（mm）	長幅比（長さ/幅）
02 016	10次	O-28	SC-01	4.02（±0.24）**	2.49（±0.28）	1.63（±0.15）
02 017	10次	O-28,O-29	SC-02	4.21（±0.22）	2.62（±0.17）	1.61（±0.13）
02 018	10次	O-29	SK-002	4.17（±0.24）	2.57（±0.17）	1.63（±0.12）
02 019	10次	N-27	SK-016	4.22（±0.21）	2.61（±0.21）	1.63（±0.13）
02 020	10次	Q-24	SK-020	4.14（±0.19）	2.62（±0.18）	1.59（±0.11）
02 025	12次	T-32	SK-019	4.11（±0.20）	2.66（±0.18）	1.55（±0.13）
02 028	12次	T-32	SK-019周辺	4.17（±0.21）	2.67（±0.18）	1.57（±0.13）
02 029	13次	J-32	SK-028	4.24（±0.17）	2.78（±0.17）	1.53（±0.10）

*n=50
**（　）内は標準偏差

表3　現存イネおよび炭化米におけるPS-ID領域の塩基配列

試料	PS-ID領域の塩基配列	Type
	rpl 16　PS-ID	
現存イネ, *japonica*[1)]	T A A C C C C C C - - A A A A A A A - G T A G T A T T G A A A A T A A A A A A C C A	6C7A
現存イネ, *indica*[1)]	・・・C C C C C C C C A A A A A A A A ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8C8A
SK-19周辺	・・・C C C C C C - - A A A A A A A - ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6C7A
SK-28-1	・・・C C C C C C - - A A A A A A A - ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6C7A
SK-28-2	・・・C C C C C C - - A A A A A A A - ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6C7A
SK-28-3	・・・C C C C C C - - A A A A A A A - ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6C7A
SK-28-4	・・・C C C C C C - - A A A A A A A - ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6C7A
SK-28-5	・・・C C C C C C - - A A A A A A A - ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6C7A
SK-28-6	・・・C C C C C C - - A A A A A A A - ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6C7A
SK-28-7	・・・C C C C C C - - A A A A A A A - ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6C7A
SK-28-8	・・・C C C C C C - - A A A A A A A - ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6C7A
SK-28-9	・・・C C C C C C - - A A A A A A A - ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6C7A
SK-28-10	・・・C C C C C C - - A A A A A A A - ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6C7A
SK-28-11	・・・C C C C C C C C A A A A A A A - ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8C8A
SK-28-12	・・・C C C C C C - - A A A A A A A - ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6C7A
SK-28-13	・・・C C C C C C - - A A A A A A A - ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6C7A

1)Nakamura *et al.* (1997)

表4　日本各地の弥生時代の遺跡から出土した炭化米（玄米）の長さ，S.D.，およびc.v.値

遺跡	場所	個体数	平均(mm)	S.D.	c.v. (%)	文献
三殿台	神奈川県	10	4.71	0.16	3.40	佐藤敏也（1988）
八女吉田	熊本県	76	4.70	0.17	3.66	和佐野（1995）
久ヶ原	東京都	40	4.48	0.21	4.69	佐藤敏也（1988）
垂柳	青森県	10	4.41	0.22	5.01	佐藤敏也（1971）
登呂	静岡県	8	4.56	0.25	5.48	佐藤敏也（1988）
天王山	福島県	94	4.44	0.29	6.53	佐藤敏也（1988）
長峯岩崎	熊本県	20	4.47	0.30	6.66	佐藤敏也（1971）
岡原	山口県	10	4.19	0.28	6.68	佐藤敏也（1988）
宇津木向原	東京都	100	4.53	0.31	6.84	佐藤敏也（1988）
華熟里	佐賀県	57	4.39	0.31	7.06	佐藤敏也（1988）
梅坂	佐賀県	100	4.38	0.31	7.08	佐藤敏也（1988）
原ノ辻	長崎県	18	4.79	0.34	7.10	佐藤敏也（1988）
美乃利	兵庫県	240	4.18	0.31	7.50	和佐野（1997）
上ノ畑	熊本県	20	4.47	0.34	7.67	佐藤敏也（1971）
平城宮跡	奈良県	105	4.52	0.38	8.34	佐藤洋一郎（1992）
池上	大阪府	222	4.40	0.41	9.32	佐藤敏也（1988）
平城宮跡	奈良県	100	4.68	0.48	10.26	佐藤敏也（1988）

高橋ら（2002）を一部改変

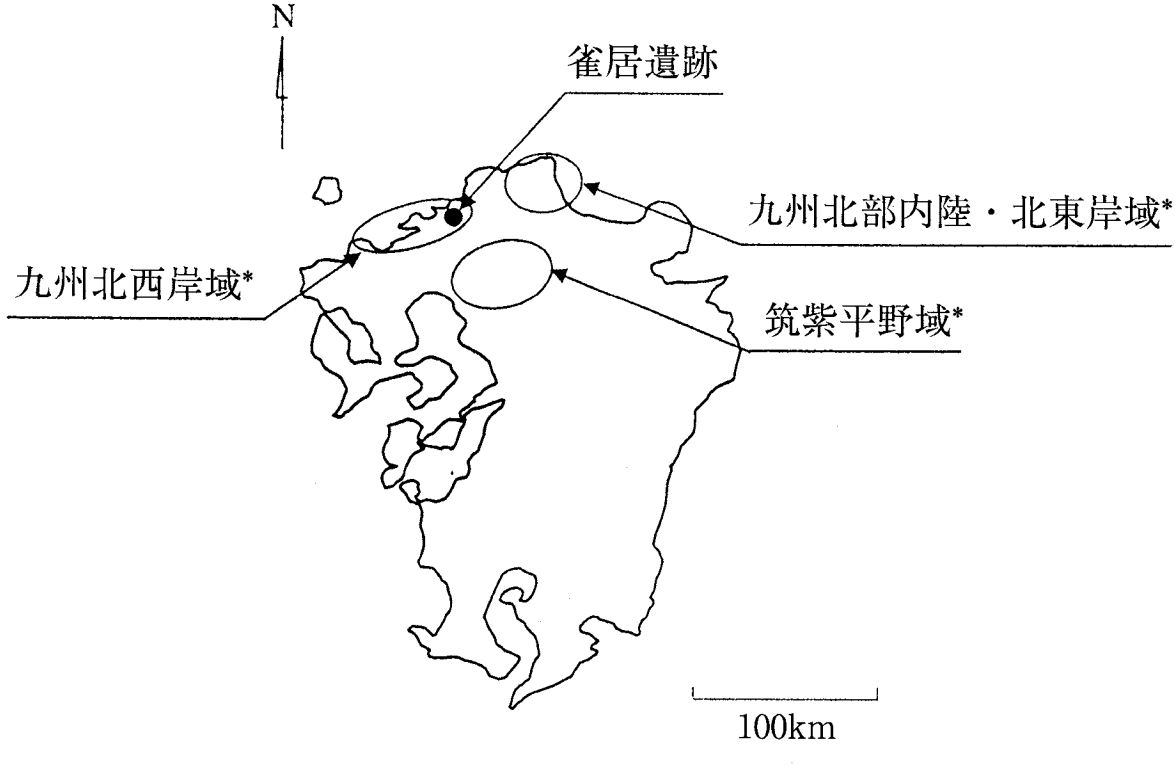


図2　遺跡の区分＊（和佐野　1993）による

別表1　10次SC-01出土炭化米の計測値

No.	Length (mm)	Width (mm)	L/W
1	3.86	2.63	1.47
2	4.04	2.28	1.77
3	4.04	2.19	1.84
4	3.95	2.54	1.55
5	4.21	2.63	1.60
6	4.39	2.81	1.56
7	4.12	1.93	2.14
8	3.95	2.19	1.80
9	4.04	2.28	1.77
10	3.60	2.37	1.52
11	4.04	2.81	1.44
12	3.86	2.19	1.76
13	4.21	2.81	1.50
14	3.86	2.28	1.69
15	3.77	2.28	1.65
16	4.21	3.16	1.33
17	4.30	2.46	1.75
18	4.12	2.63	1.57
19	4.21	2.81	1.50
20	4.04	2.46	1.64
21	4.04	2.46	1.64
22	3.68	2.19	1.68
23	4.04	2.46	1.64
24	3.51	2.11	1.67
25	4.04	2.46	1.64
26	3.86	2.46	1.57
27	3.86	1.93	2.00
28	3.86	2.46	1.57
29	4.21	2.46	1.71
30	3.68	2.28	1.62
31	4.21	3.16	1.33
32	4.21	2.46	1.71
33	4.30	2.46	1.75
34	4.04	2.63	1.53
35	3.86	2.63	1.47
36	4.21	2.28	1.85
37	4.39	2.54	1.72
38	4.12	2.72	1.52
39	3.51	2.11	1.67
40	4.39	2.81	1.56
41	3.95	2.46	1.61
42	3.51	2.11	1.67
43	3.86	2.46	1.57
44	4.12	2.89	1.42
45	4.04	2.54	1.59
46	4.12	2.63	1.57
47	3.86	2.63	1.47
48	3.68	2.28	1.62
49	4.30	2.54	1.69
50	4.56	3.16	1.44

別表2　10次SC-02出土炭化米の計測値

No.	Length (mm)	Width (mm)	L/W
1	4.21	2.72	1.55
2	4.21	2.81	1.50
3	3.95	2.81	1.41
4	4.21	2.37	1.78
5	4.04	2.46	1.64
6	4.56	2.72	1.68
7	4.21	2.98	1.41
8	4.30	2.63	1.63
9	4.04	2.63	1.53
10	4.56	2.81	1.63
11	4.39	2.81	1.56
12	3.86	2.63	1.47
13	4.12	2.63	1.57
14	4.47	2.63	1.70
15	4.56	2.54	1.79
16	4.21	2.54	1.66
17	4.47	2.46	1.82
18	4.12	2.63	1.57
19	4.21	2.63	1.60
20	4.47	2.63	1.70
21	4.21	2.37	1.78
22	4.39	2.63	1.67
23	4.39	2.37	1.85
24	4.39	2.46	1.79
25	4.04	2.54	1.59
26	3.68	2.72	1.35
27	4.21	2.63	1.60
28	4.39	2.46	1.79
29	4.30	2.63	1.63
30	3.95	2.54	1.55
31	3.68	2.46	1.50
32	3.86	2.63	1.47
33	4.21	2.81	1.50
34	4.21	2.81	1.50
35	4.39	2.81	1.56
36	4.12	2.28	1.81
37	4.04	2.98	1.35
38	4.30	2.63	1.63
39	3.86	2.37	1.63
40	4.21	2.63	1.60
41	4.21	2.46	1.71
42	4.04	2.46	1.64
43	3.86	2.81	1.38
44	4.21	2.72	1.55
45	4.39	2.28	1.92
46	4.56	2.81	1.63
47	4.21	2.98	1.41
48	4.30	2.46	1.75
49	4.47	2.63	1.70
50	4.12	2.54	1.62

別表3　10次SK-02出土炭化米の計測値

No.	Length (mm)	Width (mm)	L/W
1	3.68	2.72	1.35
2	3.86	2.28	1.69
3	4.21	2.54	1.66
4	4.39	2.46	1.79
5	4.65	2.63	1.77
6	4.04	2.63	1.53
7	4.04	2.28	1.77
8	3.77	2.63	1.43
9	4.21	2.28	1.85
10	4.47	2.81	1.59
11	4.21	2.46	1.71
12	4.21	2.81	1.50
13	4.12	2.81	1.47
14	4.12	2.81	1.47
15	4.04	2.46	1.64
16	3.95	2.81	1.41
17	4.56	2.63	1.73
18	4.21	2.81	1.50
19	4.30	2.54	1.69
20	4.65	2.72	1.71
21	3.68	2.63	1.40
22	4.39	2.63	1.67
23	4.04	2.19	1.84
24	3.86	2.46	1.57
25	4.12	2.81	1.47
26	4.21	2.81	1.50
27	4.21	2.46	1.71
28	3.68	2.46	1.50
29	4.12	2.46	1.68
30	4.04	2.63	1.53
31	3.86	2.28	1.69
32	4.21	2.54	1.66
33	4.30	2.89	1.48
34	4.21	2.54	1.66
35	4.39	2.72	1.61
36	3.86	2.46	1.57
37	4.21	2.54	1.66
38	4.21	2.46	1.71
39	4.39	2.63	1.67
40	4.21	2.46	1.71
41	4.30	2.54	1.69
42	4.04	2.63	1.53
43	4.56	2.46	1.86
44	4.39	2.63	1.67
45	4.21	2.46	1.71
46	4.39	2.37	1.85
47	4.12	2.63	1.57
48	3.86	2.46	1.57
49	4.56	2.72	1.68
50	4.04	2.28	1.77

別表4　10次SK-016出土炭化米の計測値

No.	Length (mm)	Width (mm)	L/W
1	4.12	2.72	1.52
2	4.21	2.89	1.45
3	4.12	2.46	1.68
4	4.21	2.46	1.71
5	4.30	2.89	1.48
6	4.12	2.81	1.47
7	3.86	2.46	1.57
8	4.21	2.46	1.71
9	4.39	2.81	1.56
10	4.21	2.28	1.85
11	4.04	2.46	1.64
12	4.39	2.81	1.56
13	4.39	2.81	1.56
14	4.04	2.63	1.53
15	4.30	2.46	1.75
16	4.04	2.37	1.70
17	4.21	2.81	1.50
18	3.95	2.37	1.67
19	4.04	2.63	1.53
20	4.56	2.81	1.63
21	4.39	2.89	1.52
22	4.12	2.81	1.47
23	4.39	2.28	1.92
24	4.21	2.81	1.50
25	3.68	2.28	1.62
26	4.74	2.81	1.69
27	4.04	2.81	1.44
28	4.04	2.46	1.64
29	4.21	2.72	1.55
30	4.21	2.63	1.60
31	3.86	2.11	1.83
32	4.21	2.63	1.60
33	4.47	2.63	1.70
34	4.39	2.81	1.56
35	4.21	2.37	1.78
36	4.21	2.63	1.60
37	4.21	2.46	1.71
38	4.39	2.11	2.08
39	4.74	2.72	1.74
40	4.21	2.46	1.71
41	3.86	2.46	1.57
42	4.30	2.54	1.69
43	4.47	2.63	1.70
44	4.21	2.63	1.60
45	4.39	2.98	1.47
46	4.39	2.63	1.67
47	4.39	2.46	1.79
48	4.21	2.46	1.71
49	4.04	2.89	1.39
50	4.39	2.81	1.56

別表5　10次SK-020出土炭化米の計測値

No.	Length (mm)	Width (mm)	L/W
1	4.04	2.46	1.64
2	3.86	2.46	1.57
3	3.86	2.46	1.57
4	3.77	2.54	1.48
5	3.86	2.63	1.47
6	4.21	2.46	1.71
7	4.04	2.81	1.44
8	4.12	2.63	1.57
9	4.04	2.54	1.59
10	4.12	2.98	1.38
11	4.47	2.63	1.70
12	4.04	2.89	1.39
13	4.30	2.63	1.63
14	4.04	2.63	1.53
15	4.04	2.28	1.77
16	4.56	2.81	1.63
17	4.04	2.46	1.64
18	4.04	2.54	1.59
19	4.21	2.81	1.50
20	4.30	2.63	1.63
21	4.04	2.72	1.48
22	4.04	2.81	1.44
23	4.04	2.46	1.64
24	4.04	2.28	1.77
25	4.39	2.63	1.67
26	4.30	2.28	1.88
27	3.95	2.63	1.50
28	4.04	2.63	1.53
29	4.12	2.63	1.57
30	4.30	2.63	1.63
31	4.12	2.63	1.57
32	4.30	2.81	1.53
33	4.21	2.81	1.50
34	4.04	2.63	1.53
35	3.86	2.28	1.69
36	4.21	2.37	1.78
37	4.12	2.28	1.81
38	4.39	2.81	1.56
39	4.21	2.63	1.60
40	4.04	2.63	1.53
41	4.56	2.89	1.58
42	4.39	2.46	1.79
43	4.04	2.63	1.53
44	4.47	2.63	1.70
45	4.39	2.89	1.52
46	3.86	2.46	1.57
47	4.21	2.81	1.50
48	4.04	2.81	1.44
49	4.30	2.81	1.53
50	4.04	2.63	1.53

別表6　12次SK-019出土炭化米の計測値

No.	Length (mm)	Width (mm)	L/W
1	4.21	2.54	1.66
2	4.04	3.07	1.31
3	4.30	2.63	1.63
4	3.86	2.54	1.52
5	4.21	2.54	1.66
6	4.21	2.89	1.45
7	3.68	2.63	1.40
8	4.21	2.72	1.55
9	3.95	2.89	1.36
10	3.86	2.46	1.57
11	3.86	2.63	1.47
12	4.21	2.63	1.60
13	4.04	2.54	1.59
14	4.04	2.81	1.44
15	4.39	2.89	1.52
16	4.39	2.63	1.67
17	4.39	2.72	1.61
18	4.04	2.54	1.59
19	4.04	2.98	1.35
20	4.04	2.72	1.48
21	4.39	2.63	1.67
22	4.39	2.89	1.52
23	4.56	2.63	1.73
24	4.39	2.28	1.92
25	4.04	2.89	1.39
26	4.39	2.46	1.79
27	4.21	2.28	1.85
28	4.04	2.63	1.53
29	3.86	2.28	1.69
30	3.86	2.37	1.63
31	4.04	2.89	1.39
32	4.04	2.37	1.70
33	4.21	2.54	1.66
34	4.39	2.54	1.72
35	4.04	2.63	1.53
36	4.04	2.72	1.48
37	4.21	2.54	1.66
38	3.86	2.81	1.38
39	3.86	2.46	1.57
40	3.86	2.63	1.47
41	4.04	2.72	1.48
42	4.21	2.81	1.50
43	3.86	2.89	1.33
44	4.21	2.63	1.60
45	4.39	2.63	1.67
46	4.12	2.63	1.57
47	4.04	2.81	1.44
48	3.86	2.81	1.38
49	4.04	2.63	1.53
50	4.04	2.89	1.39

別表7　12次SK-019周辺出土炭化米の計測値

No.	Length (mm)	Width (mm)	L/W
1	4.34	2.57	1.69
2	4.07	2.65	1.53
3	4.78	2.83	1.69
4	4.25	2.21	1.92
5	4.16	2.48	1.68
6	3.98	2.65	1.50
7	3.72	2.65	1.40
8	4.07	2.65	1.53
9	4.42	2.74	1.61
10	4.42	2.65	1.67
11	4.07	2.65	1.53
12	4.25	2.65	1.60
13	3.89	2.57	1.52
14	4.07	2.83	1.44
15	4.34	2.83	1.53
16	3.81	2.83	1.34
17	4.07	2.83	1.44
18	4.42	2.48	1.79
19	4.51	2.74	1.65
20	3.81	2.39	1.59
21	4.34	2.48	1.75
22	4.25	2.65	1.60
23	4.42	2.83	1.56
24	4.25	2.65	1.60
25	4.07	2.48	1.64
26	4.07	2.48	1.64
27	4.16	2.65	1.57
28	4.25	2.83	1.50
29	4.07	2.65	1.53
30	4.42	2.83	1.56
31	4.25	2.48	1.71
32	4.25	2.12	2.00
33	3.98	2.65	1.50
34	3.89	2.83	1.38
35	4.07	2.83	1.44
36	4.42	2.48	1.79
37	4.42	2.83	1.56
38	4.07	2.74	1.48
39	4.25	2.83	1.50
40	4.07	2.83	1.44
41	3.89	2.48	1.57
42	3.89	2.74	1.42
43	4.07	2.65	1.53
44	4.42	3.19	1.39
45	4.07	2.48	1.64
46	4.25	2.83	1.50
47	4.07	2.83	1.44
48	4.07	2.65	1.53
49	4.07	2.65	1.53
50	4.42	2.74	1.61

別表8　13次SK-028出土炭化米の計測値

No.	Length (mm)	Width (mm)	L/W
1	4.12	2.63	1.57
2	4.21	3.16	1.33
3	4.39	2.81	1.56
4	4.12	2.81	1.47
5	4.39	2.98	1.47
6	4.12	3.07	1.34
7	3.95	2.81	1.41
8	4.56	2.72	1.68
9	4.04	2.63	1.53
10	4.39	2.89	1.52
11	4.39	2.98	1.47
12	4.39	2.81	1.56
13	4.12	2.28	1.81
14	4.12	2.63	1.57
15	4.12	2.46	1.68
16	3.95	2.46	1.61
17	4.30	2.81	1.53
18	4.39	2.63	1.67
19	4.21	2.81	1.50
20	4.47	2.98	1.50
21	4.21	2.81	1.50
22	4.04	2.98	1.35
23	4.39	2.81	1.56
24	4.21	2.81	1.50
25	4.21	2.63	1.60
26	4.12	3.16	1.31
27	4.12	2.46	1.68
28	4.04	2.81	1.44
29	4.12	2.81	1.47
30	4.39	2.81	1.56
31	4.12	2.81	1.47
32	4.04	2.63	1.53
33	4.21	2.72	1.55
34	4.39	2.63	1.67
35	4.12	2.98	1.38
36	4.56	2.81	1.63
37	4.12	2.98	1.38
38	4.12	2.63	1.57
39	4.47	2.81	1.59
40	4.39	2.63	1.67
41	4.39	2.81	1.56
42	4.47	2.98	1.50
43	4.21	2.63	1.60
44	4.04	2.81	1.44
45	3.95	2.63	1.50
46	4.56	2.81	1.63
47	4.12	2.81	1.47
48	4.21	2.81	1.50
49	4.39	2.89	1.52
50	4.39	2.81	1.56

すずめの学校

1998年3月23日第65号

雀居遺跡 週刊ニュース

先週の発掘作業

3月16日　月曜　晴　黄砂

□　消えたムラ

雀居遺跡は、２区～４区の発掘調査を完了し、北側に設定した拡張区に集中しています。ところが先週半ばからの雨でベタベタになり、まるで水田で発掘しているような苦労を強いられました。週末からどうにか天候が回復しましたが、春の天候は長続きしません。今のうちに一気に遺構検出を済ませないと、残りの日数が足りません。雀居遺跡は25日が最終日です。

「発掘というのは一番最後になって、凄いものが出るようになっているんです。だから今週は楽しみですよ。本当にそうなったら予算も期日もないのでどうしょうもないんですがね」

作業員の皆さんを激励はしても、気をせかせてはいけません。

「昨年の６月から始めた12次調査も、いよいよ最後です。10か月間掘ってきたけど、終わりが近づくと短く感じますね。毎日のように面白い遺物が出て感動の連続でしたね。何といっても一番の収穫は、事故や怪我がなかったことですよ。多い時は80人を超す人達が働いていたんですから、無事故で済んだというのは大手柄です。本当によかったな。これも皆さんの協力のおかげです」

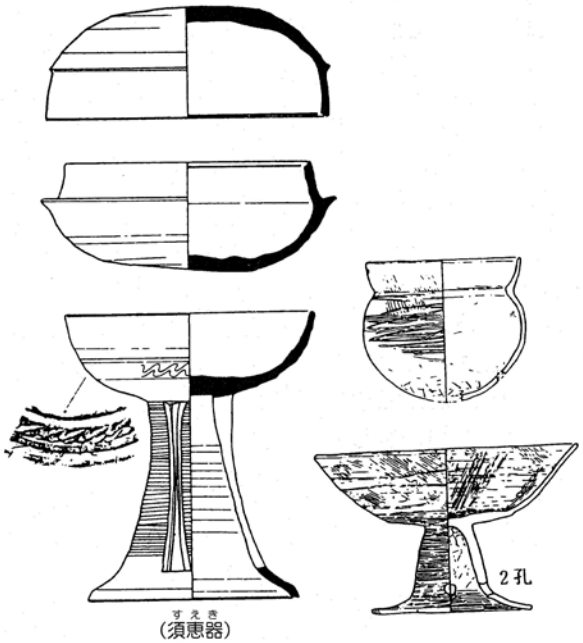
北拡張区は９m×25mと東西に長い発掘区です。ここに40人の作業員が入っているので、遺構検出もどんどんはかどっています。東寄りでは土器がかたまって出始めました。

「予想通りたくさん土器が出てきたね。いま掘っている黒色粘質土は平安時代の水田耕作土の下だから、平安時代よりも古い時期ということは分かるよね。これまでの発掘では、この黒色粘質土は古墳時代に堆積していることが分かっています。と言うことはこの土器溜めは、古墳時代のものかな。古墳時代には、土師器（はじき）と須恵器（すえき）という２種類の土器があります。土師器は弥生土器と同じように素焼きですが、須恵器は窯で焼いた土器です。赤茶色の素焼きに対して、須恵器は窯なので焼成温度が高くなり、堅く焼締って灰色をしています」

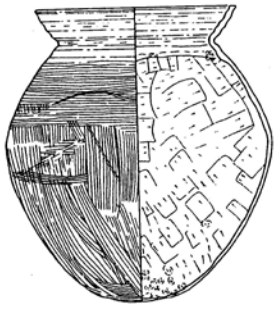
姿を現した土器溜めは、赤茶色の土器ばかりで、灰色の堅い土器はありません。

「高杯や甕の形からするとこれは、古墳時代の土師器ですね。須恵器は５世紀になって朝鮮半島から

ゾクゾク出てきた土師器



（須恵器）



（土師器）

伝えられるので、須恵器が混じっていないことからすると４世紀の土師器かな」

私が担当した10次、12次調査区ではこれまで２千箱に近い土器が出土したのに、古墳時代の須恵器は数点だけでした。

「弥生時代から古墳時代の４世紀には、大きなムラがあったのに、５世紀になると、急にムラが姿を消しているんです」

「力武さん、洪水でムラが流されたとか、台風で吹っ飛んだとか、災害に巻き込まれたんですか」

「ムラが消えたり、ムラ人が離村するということは、よほどの理由があってのことですよ。水害で飲み込まれたとすると砂層が堆積しているはずだけど、そんな痕跡はないし、戦災にあったようでもないしね。まだ証拠をつかんでいるわけではないけど、水田を広げるためにムラを集団移動させたのではないかと想像しているんです」

「終戦間近になってこの飛行場を作る時も、集落が強制移動させられたんですよ。歴史は繰り返されたということですか」

「この一帯は、席田(むしろだ)の地名のように、長方形の水田が“むしろ”をきれいに敷き詰めたように並んでいたんです。江戸時代黒田藩内ではもっとも小さな郡だったんですが、小さくても生産量が多かったんでしょうね。ところが敗色が濃くなって、筑豊炭田、八幡製鉄、そして福岡や北九州の都市を守るために軍部は大あわてて飛行場を作ったんです。農民たちは水田を奪われ、たいへんな苦労だったでしょうね」

「戦時中のことですから、充分な補償などなかったろうし、昨日まで丁寧に耕作していた土地が、戦争のために奪われ埋め立てられたわけですから無念だったでしょうね」

「考古学の役目は、そんな農民達の悲しみや苦労を掘り出して、戦争という愚かで悲惨な歴史を証言し、二度と繰り返さないように未来に伝えなければいけません。古墳時代の５世紀にムラが突如として消えた原因を明らかにすることと並んで、飛行場整地層の下の様子を調べることも大事なことです。雀居遺跡発掘の大きな課題の一つです」

考古学の遺物は古いだけが貴重というわけではありません。どれだけその遺物に語りかけ、話を聞き出せるかです。つまりどんなことを明らかにしようと発掘するのかということです。

今回は、飛行場整地層下を時間をかけて調査出来ませんでしたが、新年度の発掘区では、ぜひ戦争で強制移動させられた昭和の集落跡も明らかにしたいものです。

3月17日　火曜　晴

遺跡の遺言を書く

拡張区の西寄りで見つかった土師器の土器溜めは、割れて細片になっているために、清掃に時間がかかりそうですが、天気がいいので作業は順調です。

中央より東側では、グリッドごとに遺構検出を学生たちに任せました。黒色粘質土層の中で遺構を捜すという困難さにもめげず熱心に取り組んでくれたので、ほぼ終わりました。

「慣れない土層だったのに、短時間のうちによく出来たね。今度は自分が遺構検出したグリッドは、自分で実測しよう。掘った人が実測するというのが発掘の鉄則だからね。逆に言うと、どんな実測図を描くかによって掘り方も変わってくるんだ。さらに言うとどんなスタイルで報告書に載せるかも発掘する時から考えておいた方がいいよ」

「発掘の時から報告書の編集を考えるんですか」

「細かな割りつけは無理だけど、土壙や溝の土層断面は必要なのか、もし必要ならどの方向で断ち切るのがいいか、また撮影の時に逆光にならないか、フィルムはモノクロかカラーか。撮影は横位置か縦位置か、考えることは一杯ある。しかもその判断は、すぐしないと作業員に的確な指示ができないからね」

「だからこそ、発掘は面白いんだ。遺跡は発掘してしまうと二度と元に戻せない。唯一残るのは、図面や写真、そして報告書だけ。遺跡のことを知っているのは、担当者だけだから、もっと真剣に報告書作りに取り組むべきだよ。報告書は永遠に消滅した遺跡の“死亡診断書”と言われるけど、最後の瞬間に立ち会った、いや死なせた当事者としては、生前のようすを生き生きと伝える責任があるはずだよ。だから完全原稿で印刷に出せない者は、発掘する資格はない」

発掘という職業は、悲しいものです。

何千年も土の中に眠っていた遺跡を、作業員のみなさんと一生懸命に思いを込めて目覚めさせても、一緒に過ごせるのはほんの一瞬のことです。すぐに深く削られたり、ビルの基礎杭が打ち込まれて、ゆっくり語り合う時間はありません。遺跡を破壊するために発掘しているだけで、どう理屈をつけても遺跡の保存をしているとは思えないのです。

「だから“死亡診断書”だけでは不十分。遺跡の遺言を書くつもりでいないと申し訳ない。遺跡が私たちに語ろうとしていたことを充分に聞き取り、細かく記録する。そのためには、実測や撮影の技術を

絶えずアップさせる必要がある」
私が出来ないことを言っているので、どうも面映ゆく、説得力がありません。考古学の未来を担う学生を相手にすると、ついテンションも上がり気味です。

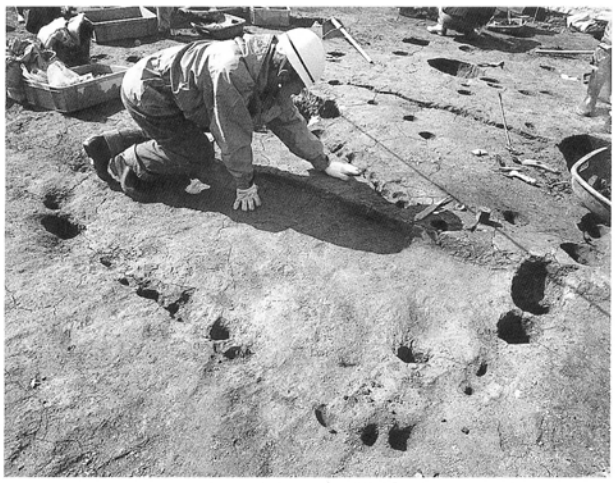
3月18日　水曜　晴
再びブタ小屋の話

再見　ブタ小屋

この日もいい天気に恵まれて発掘作業は順調です。
西寄りで見つかった土器溜めの下を掘り下げ始めましたが、木器が姿を現しました。この１週間はどんなことが起こるか予想ができなくなってきました。
ところで東大生の塚本君は、イノシシ形土偶を卒論で研究したいとか。そんな塚本君に打って付けの遺構が今年も見つかりました。
「塚本君、ここに小さな穴が並んでいるだろう。これ何だと思う？」
「力武さん、穴の大きさは不揃いだけど、よく見ると四角形に並んでいますね。これも遺構なんですか。いままで見たことがありません」
「分からないのは無理もないよ。こんな遺構は日本では雀居遺跡が最初の発見だからね。まだ断定できないけど、家畜小屋だと思っているんだ」
10次調査でも最下層の青灰色粘質土層で同じような遺構が見つかりました。これらは幅約18cm、深さ約20cmの溝が直径1.6～2.1mの円形か隅丸方形に巡っており、多くはオリンピックのマークのように重なっています。最初は自然の溝かと無視していました。弥生時代前期の竪穴住居跡に一部を切られているものもあり、それからは慎重に掘ることにしました。
すると狭い溝の底に丸い小さな穴が並んでいるのがみつかりました。まず細い溝を掘り、次に間隔を開けないで丸太杭を打ち込んだのでしょう。こうなると人間がある目的のために作った遺構に間違いがありません。
結局、20基も見つかりました。ところがなぜこんな遺構を作ったのかがわかりません。ちょうど発掘参加していた中国吉林大学の陳國慶先生の話によると、中国の田舎のブタ小屋に似ていると言うのです。

海を渡ってきたブタ

今から2400年前、縄文時代の日本に、米作り、金属器などの新しい技術や習俗を持つ人達が海を渡ってやって来ました。米作りの新しいムラができ、農耕に関わる祭りや祈りが行われるようになります。


ブタ小屋？を掘る塚本君

この時代を弥生時代と呼んでいます。
そんな人達が船出した場所は、中国大陸か、あるいは朝鮮半島のどこかでしょう。まだ定説はありませんが、どちらにしても日本よりも高度に進んだ文化、社会だったのに、日本に伝わっていない、正確には日本人が受け付けなかった、必要としなかったものもあります。例えば文字、車輪を使った道具、都市を高い塀で守る考え方、そして家畜などです。
つい最近まで、弥生時代には家畜を飼育していなかったというのが考古学の常識でした。ブタや牛馬など確実な骨が掘り出されていなかったからです。
弥生時代は、米作りという農業を始めたからこそ、縄文時代と区別しているのですが、米だけを食べていたわけではありません。主食にするほど収穫していたとはとても思えません。とすると縄文時代と同じように動物、魚介類、山菜、木の実など自然の食物に相当頼っていたはずです。
雀居遺跡でも弥生時代早期の土壙から、食べかすとして捨てた貝殻や動物の骨が多量に出土しています。出土した動物の骨は、まだ専門家の鑑定が済んでいませんが、鹿、イノシシのようです。
最近の研究によると、弥生時代の遺跡から出土しているイノシシと思っていた歯のほとんどが歯槽膿漏にかかっており、これは野生のイノシシには見られない症状なので、家畜化されていた証拠でイノシシではなくブタだと言うのです。ブタは米作りと一緒に船に乗ってやって来た、弥生人はブタを飼育し、食糧にしていたということになりました。
最初に弥生時代のブタと確認されたのは、大分県下郡桑苗（しもごおり　くわなえ）遺跡でしたが、その後、佐賀県菜畑（なばたけ）遺跡、吉野ヶ里遺跡、奈良県唐古鍵（からこ かぎ）遺跡、大阪府亀井遺跡、池上曽根（いけがみそね）遺跡、愛知県朝日遺跡、神奈川県池子遺跡などで発見例が増えています。
従来の学説を覆したこの新しい見解は、動物学者の手柄であって、考古学の発掘によって導き出されたものではありません。今度は発掘を担当する私たちが、ブタ飼育の証拠をつかむ番です。

ブタ小屋を捜せ

「力武さん、発掘でブタの飼育を確認すると言っても、どんな方法があるんですか」

「考古学ではブタの骨を掘り出していたのに、イノシシと区別できなかったわけだ。最近は脂肪酸分析といって土を調べることによって、ブタの糞尿を見つけ出すことも出来る。しかしこれも考古学の苦手な科学分野だからね。考古学で研究対象とするのは、遺物か遺構だから、まず飼育小屋を捜したらどうだろう。もし、弥生人がブタを放し飼いしていない限り、粗末な囲いぐらいはあるはずだよ」

「飼育小屋が見つかると家畜がいたことが確定できますが、ブタ飼育を証明するような遺物がありますかね」

「さて、遺物として残るものがあるかな。田舎の隣の家は、養豚農家だったので子供の頃よく見ていたけど、何かあるかな。ブタは牛馬のように耕作や運搬に使わないからね。鼻輪とか鞍とか荷車などはないし、せいぜい餌桶ぐらいかな。そうだ、まだ発見例はないけど、ブタの絵を描いた弥生土器とか銅鐸が出てくる可能性は充分あるけどね。あんまり期待できないかな」

「ブタの骨は全国的に見つかっているのに、飼育小屋や囲いが発見されていないのはどうしてですか」

「放し飼いだったので特別な施設を作らなかった、小屋は作ったが痕跡を残さない構造だった、それとも発掘担当者が気がついていない、、、。いろいろ理由はあるね」

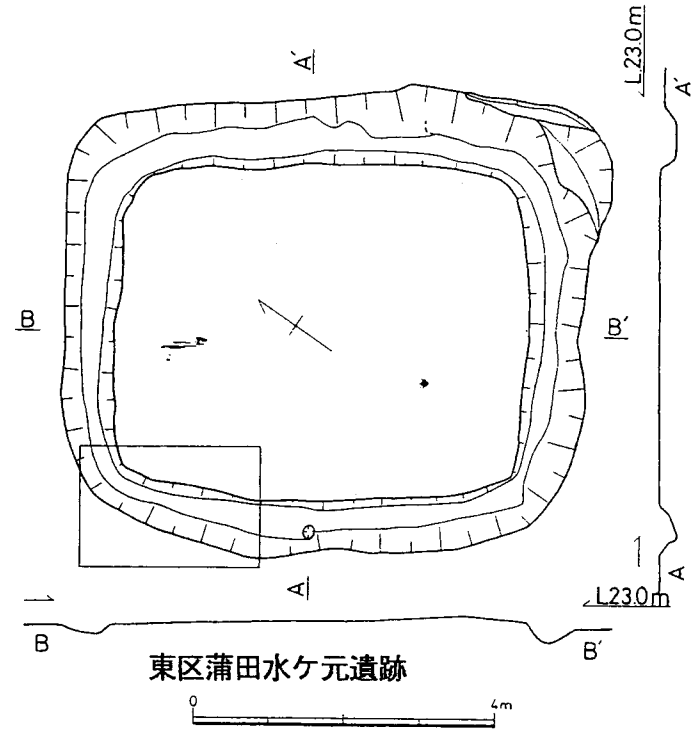
「力武さん、発掘報告書を読んでいると、よく用途不明という遺構があるでしょう。それらの中に家畜小屋が紛れ込んでいる可能性はありませんか」

福岡市ではこれまで1000か所を超す遺跡を発掘してきました。これらのすべてが弥生時代の遺跡ではありませんが、発掘担当者は地面をなめるかのように精査するので、もし疑わしい遺構があったとしたら見逃すはずがありません。しかし、今までは家畜はいないと思っていたのですから、関心がなく見えなかったことは充分考えられます。

「正直に言うと、検出した遺構で用途がはっきり分かるのは少ないんだよ。それに検出していても、全然別の用途を考えている遺構もあるかも知れないね。例えば九州の“周溝状遺構”とか、関東の“平地式建物”などは、家畜小屋の候補に上げていいかも知れないな」

“周溝状遺構”は家畜小屋？

福岡県小郡市の発掘担当者である片岡宏二さんは、『「周溝状遺構」の検討』という論文を『福岡考古』という研究誌に4回に分けて発表しています。



弥生時代の集落遺跡から見つかっている「周溝状遺構」の資料を全国規模で集め、その性格、機能について考察したものです。片岡さんが集めた115か所の「周溝状遺構」というのは、溝が円形、方形、楕円形に巡るもので、その大きさは直径７ｍ前後です。分布の中心は筑紫平野北部（小郡、朝倉、甘木など）にあり、その時期は弥生時代後期が多いようです。

この遺構は、どんな目的で、どのように使われたのでしょうか。片岡さんは次のような説を上げ、それぞれの疑問点、反論もつけ加えています。

１．墓地、墓域説

溝に囲まれた中に遺体を埋めた施設がない。

２．住居施設説

一辺２ｍという小型のものがあり、炉跡や柱穴がないことから竪穴住居ではない。

３．祭祀関係説

祭祀に強い関係のある土器や施設が認められない。

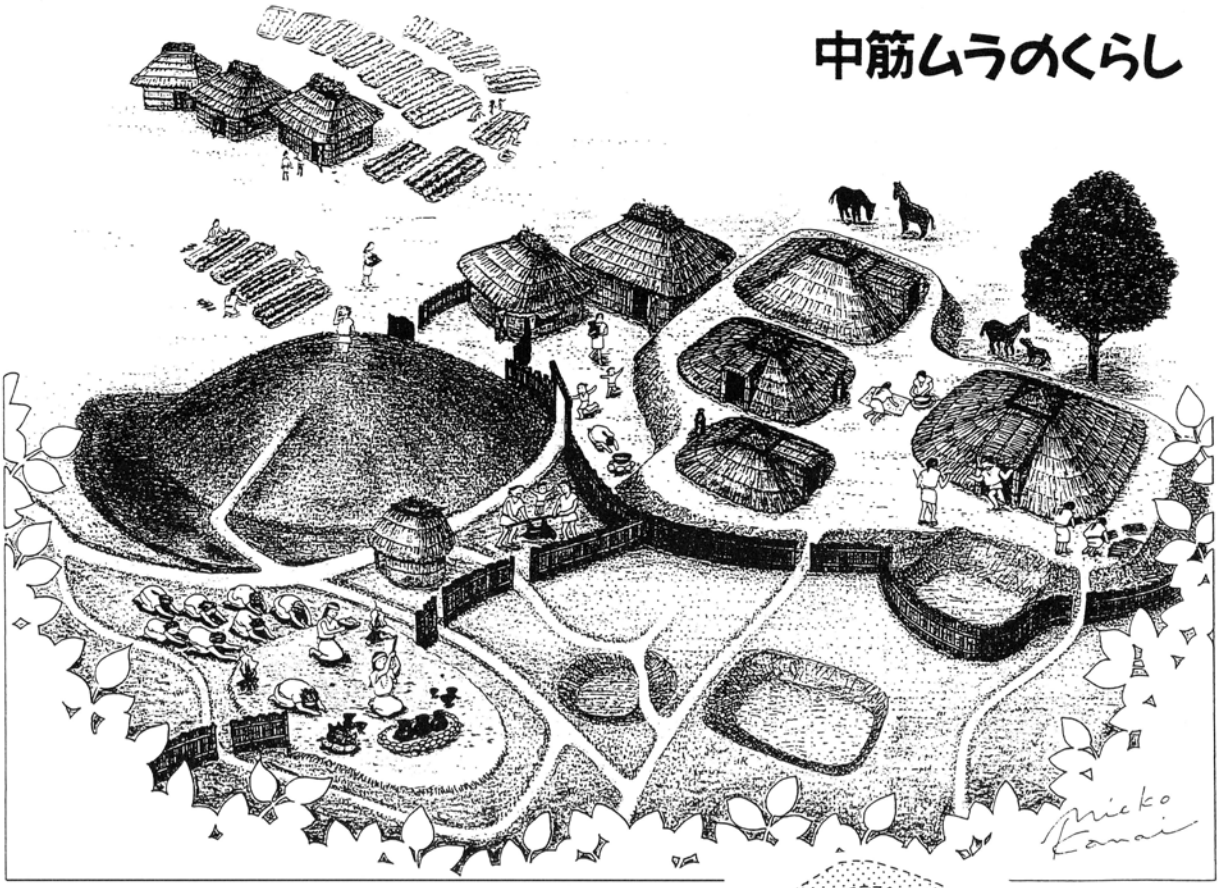
片岡さんは一言も家畜小屋の可能性については触れていませんが、資料分析に当たっては、その可能性も充分に検討されたことでしょう。

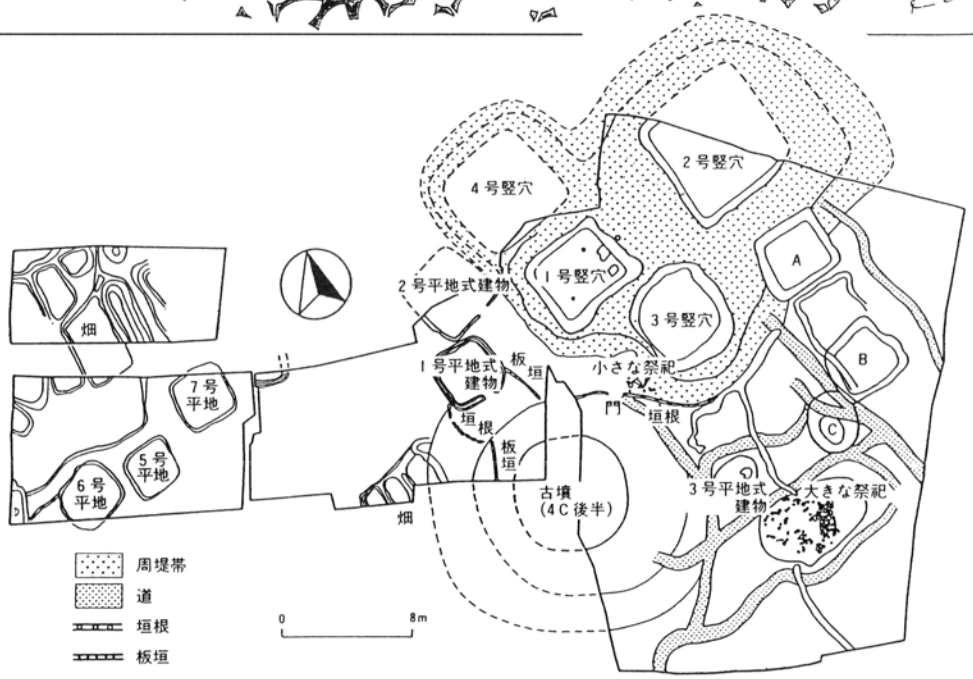
この「周溝状遺構」は、福岡市内でも東区蒲田水ケ元（みながもと）遺跡、早良区田村遺跡や雀居遺跡でも５次と12次調査（週刊ニュース39号）で見つかっています。12次調査では、弥生時代後期の土器が出土しましたが、他例と同じように埋葬施設はありませんでした。

このようにその用途については、まだはっきりしませんが、「周溝状遺構」と今回掘り出した“ブタ小屋”とは、明らかに時期も規模も異なり、一見しただけでも異質な遺構ということがわかります。片岡さんが家畜小屋と推測しなかったのが納得できます。

火山灰に覆われたムラに家畜小屋があった

昨年11月、雀居遺跡の関連資料調査のために東京、群馬、茨城に出張したことは、第52号で書いている通りです。続きを書き上げなければいけないのですが、いつもの悪い癖で二日目以降が未報告になっています。





火山灰の下から垣根でかこまれた、現在の一軒の屋敷と思われる建築群が発見された。垣根の中には竪穴式と平地式の住まいなどが同時に存在して、周囲に畑・祭祀場があることなど、黒井峯遺跡とともに屋敷とムラのようすがわかる、全国で初めての発見だった。

群馬県では、高崎市、前橋市を中心にして数多くの遺跡を案内していただきました。その中にじっくり見学したい遺跡がありました。それは渋川市にある中筋（なかすじ）遺跡です。

中筋遺跡は、今から約1500年前、古墳時代中頃のムラの一部（一単位）で、垣根に囲まれて竪穴住居４軒、平地式建物６棟、畑、祭祀場などが発掘されました。

これだけだとごく普通の遺跡なのですが、なんと榛名山の噴火による火砕流に襲われて埋没していたのです。イタリアのポンペイの街とは、その規模や出土品の豪華さなど比べようもありませんが、さっきまで生活していたそのままの姿が残っていたのですから、考古学的にはまさに宝の山でした。

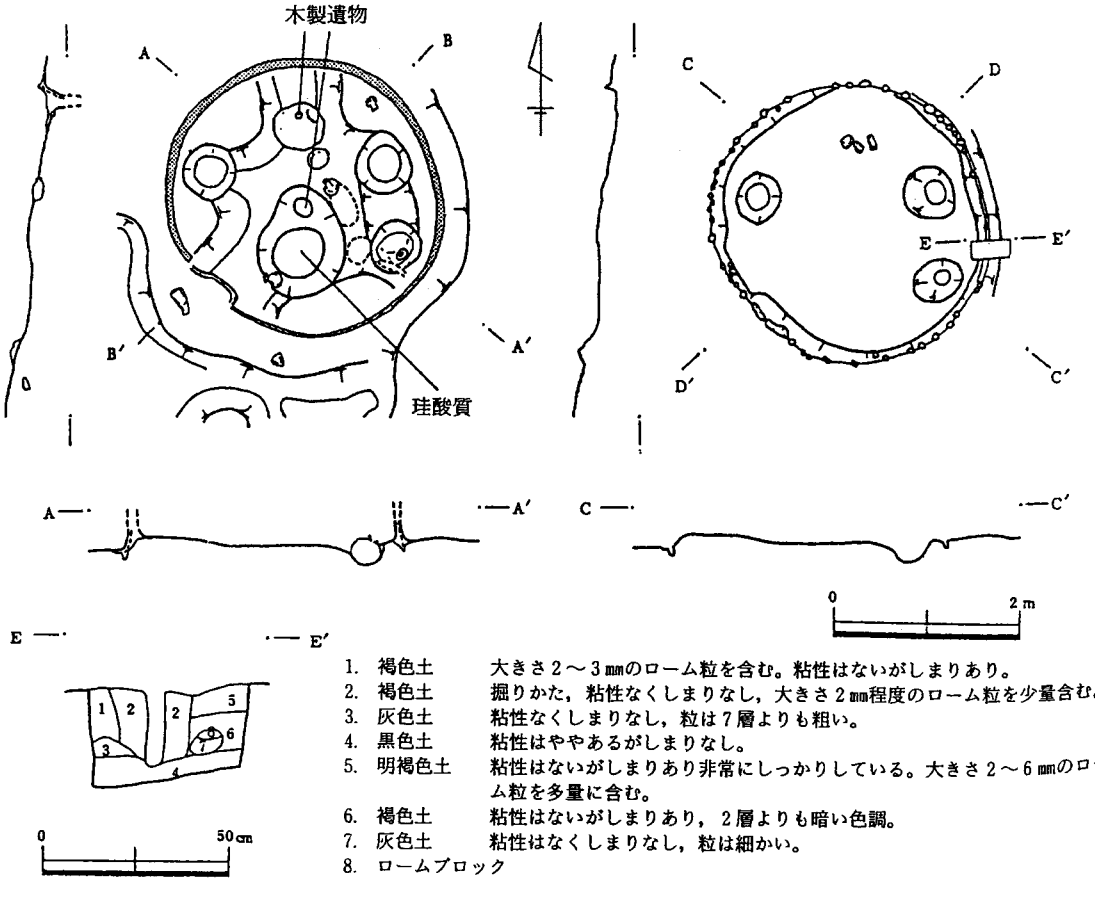
竪穴住居の屋根は、カヤを薄く葺いた後に土をかぶせ、さらに草を載せており、初めて屋根の構造が明らかになりました。ここで注目したいのは、「平地式建物」です。

竪穴住居というのは、地面を掘り窪めて屋根をかけ、生活する床面が地表よりも下になっています。一方、平地式建物は、地面にそのまま建て、床は地面と同じ高さになっています。壁の部分だけをわずかに掘り窪めるので、発掘ではなかなか検出出来ません。中筋遺跡では、厚く火山灰などで覆われてしまったので、いつも掘り出せない平地式建物もよく残っていました。

遺跡パンフレットによると、地面を掘り窪めた竪穴住居は暖かいので冬に、夏は涼しい平地式住居にと季節に応じて住み分けたと説明してあります。気持ちは分かりますが果たしてそうでしょうか。物置とか作業小屋などの別の用途の方が無難な感じがしますが。

中筋遺跡の発掘担当者であった大塚昌彦さんは、「円形平地式建物について」（『土曜考古』第20号 1996年10月）という論文の中で、群馬県とその周辺地域で発見された円形平地式建物を紹介し、そ

群馬県黒井峯遺跡の平地式建物



黒井峯遺跡C-147号平地式建物（左・建築資材の痕跡，右・完掘状況）

の構造や用途などについて論じています。

その論文に集成された円形平地式建物は、直径2～4mぐらいの大きさで、深さ10～20cm、幅20～50cm程の溝が巡っています。その形状は九州の「周溝状遺構」とよく似ており、片岡さんの三つの説に作業小屋、物置説を加えたらどうでしょうか。

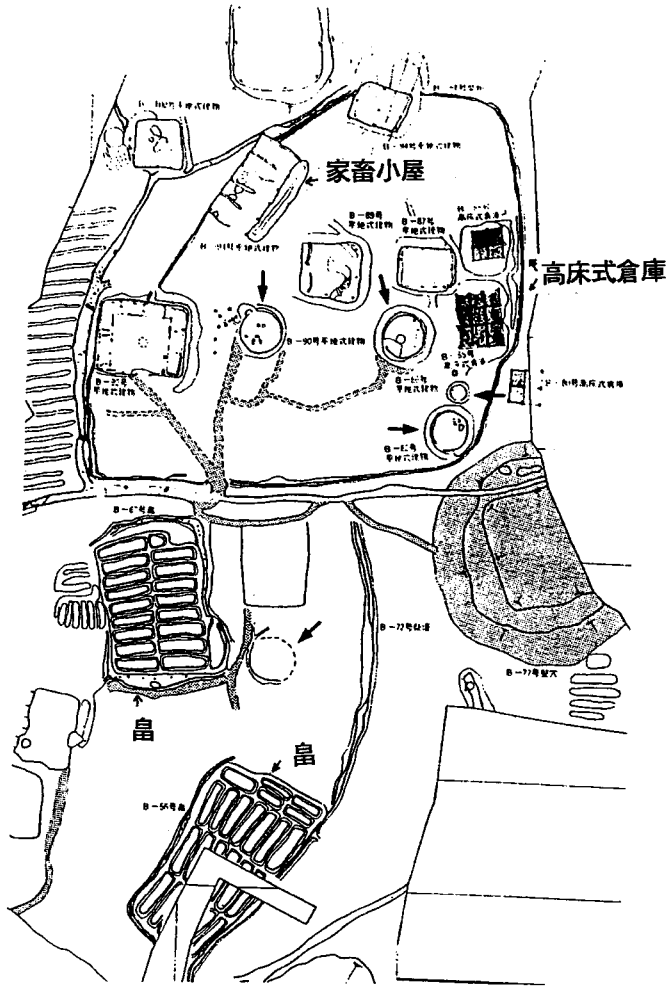
また雀居遺跡のブタ小屋によく似た平地式建物もあります。それは火山灰に覆われた群馬県子持村黒井峯（くろいみね）遺跡のC-147号平地式建物です。直径2.9 mのサイロ風の構造が推定されていますが、壁体を据える基礎の溝は、幅20cm、深さ20cmで、その中に直径6～8cmの丸太材を30～40cm間隔で立てています。雀居遺跡のブタ小屋に比べると溝幅が広く、また溝の中に立てた丸太の間隔もあき過ぎですが、細い溝を掘ってその中に丸太を立てるというのは同じ技術、工法と言えるでしょう。

大塚さんは、韓国の民俗村にも視野を広げ、円形平地式建物の用途や村落景観の復元に迫ろうとしていますが、私が望んでいる“ブタ小屋”ではありませんでした。

それもそのはず、黒井峯遺跡の谷向こうの西組（にしぐみ）遺跡では、別にちゃんと家畜小屋と認定された遺構があるのです。

その遺構（西組遺跡B-93号平地式建物）は、2間×5間（約4m×9m）で18本の柱がある切妻作りの建物です。内部は西側を5区画し、この部分だけに壁があったようです。各区画ごとに4足の動物がつけたと思われる凹地があり、牛か馬が飼われていたというのです。また壁のない東側の軒下には長さ9m×幅1.8 m、深さ50cmの溝がありますが、ここに排泄物を溜めたようです。この西組遺跡が火山の爆発で埋没したのは今から1450年前、中筋遺跡が姿を消した50年後のことでした。

古墳からは、馬具や馬の埴輪などが発見されるので、古墳時代に馬がいたことは間違いありません。



群馬県西組遺跡

しかし噴火という大災害のお陰で家畜小屋を確認出来たのですが、逃げまどった農民や家畜たちに対して何となく後ろめたさを感じます。

この群馬県よりも 800年も古い雀居遺跡の遺構は、出来ることなら災害をあてにしないで考古学の正攻法でブタ小屋を見つけだし、断定したいものです。

中国古代の家畜事情

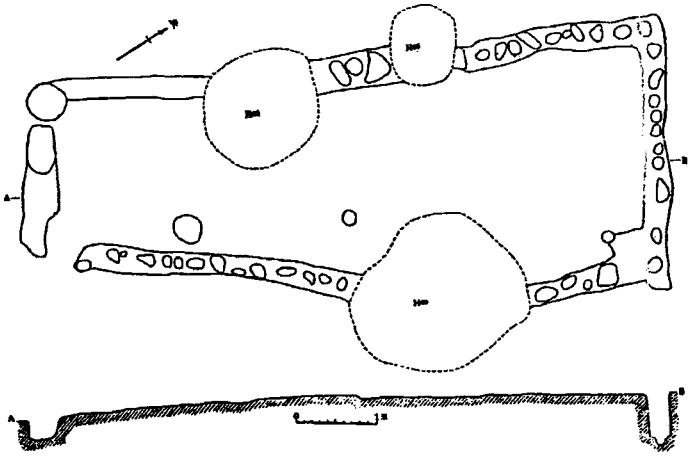
本家本もとの中国ではどうでしょうか。

遣唐使が目指した唐の都長安は、現在は陝西省西安市という名前に変わっていますが、その東の郊外8キロに半坡（パンポー）遺跡という新石器時代の有名な遺跡があります。

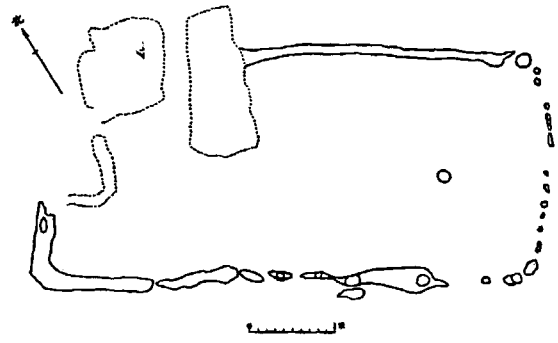
半坡遺跡は、今から約7千年前から5千年前の仰韶(ぎょうしょう)文化を代表する遺跡です。1954年の発見以来、数度にわたって発掘調査が行われ、幅5～6m、深さ5～6mの溝で囲まれた環濠集落とその共同墓地が発見されています。

発掘された48軒の住居は平地式と竪穴式の2種があり、平面形にはそれぞれ方形、長方形、円形があります。1辺が約10mの大型方形住居もあり、おそらく集落の公共的な施設なのでしょう。

土壙墓、甕棺墓、木棺墓など250基の墓が発見され、成人は集落の外の共同墓地に、乳幼児は甕棺に入れて集落の中に埋葬しています。石製の鍬や鋤で土を耕して粟を作っています。粟の穂は石包丁で



圖四五　第１號圍欄(?)平面、斜面圖



圖四六　第２號圍欄(?)平面圖

摘み取り、貯蔵穴に蓄えました。

豚、犬、羊などの骨が発見され、すでに家畜を飼育していたことがわかります。実際その小屋と思われる遺構が２か所で確認されています。

その遺構は、雀居遺跡のものに比べると全然大きさが違うのでが、実測図で見るかぎり、地面に残った痕跡はよく一致しています。報告書の一節を九州大学に留学している黄建秋さんに訳していただきました。読みやすいように私風に表現を変えましたので、もし間違いがあったら私の責任です。

家畜を飼育した囲柵（？）

居住区の北側、つまり大きな環濠とその西側にある２本の小さな溝の間で、細長い囲柵を２基発見し、それぞれ１号と２号と名付けた。

第１号囲柵跡は、全長7.1m、幅1.8～2.6mの不整長方形で、やや北東に向いている。

発見された際には、幅20～40cm、深さ20～30cmの細い一周する小さな溝であったが、溝の底部に、直径約　５～10cm、深さ５～10cmの小さな柱穴が43個見つかった。この遺構の東側の溝には、柱穴が３個発見され、一直線に並んでいる。この柱穴は、ほぼ円形で直径13cm、深さ30cmある。南西部と南東部の隅では、柱穴は見つからなかった。

遺構の南端には、路と思われる踏み締まった堅い土層があり、出入り口である可能性がある。

第２号囲柵跡は１号とほぼ同じ大きさで、東西の長さ5.7m、南北の幅2.5mある。保存状態が悪く、北辺には溝状の遺構が１本しか見つからなかった。東辺の溝と南辺の溝の一部には、直径４～16cm、深さ９～50cmの大小不揃いの柱穴が27個発見された。柱の太さは、その配置する場所と関係があるようである。北東辺と南東辺の隅の柱が最も大きく、南辺の溝には、直径が同じ柱が等間隔で配置されている。

以上２基の囲柵跡内では、かまどや居住面などと思われる住居跡に関連する遺構が見つからなかったことから、家畜を飼養するための囲柵のような施設ではないかと推定している。

さすが中国。雀居遺跡よりも４千年も古い時代の家畜小屋です。もちろん報告書では？マークをつけて断定はしていないし、またどんな動物を飼育していたかも触れていません。学問的にきわめて慎重なのに対して、雀居遺跡では、ブタ小屋と家畜の種類まで断定しているのは、ちょっと軽率でしょうか。

もっと家畜の歴史や小屋を調べてみましょう。

家畜とは

「力武さん、最初に家畜の定義をちゃんとしておかないといけないでしょう。人間の生活に役立つ動物ならたくさんいますから」

家畜とは、単純に食糧になって仕事もすると考えていましたが、実は私もよくわかりません。ある本によると家畜として次の種類を上げています。

哺乳類

ウシ、バリウシ、ヤク、スイギュウ、ヒツジ、ヤギ、ヒトコブラクダ、フタコブラクダ、ラマ、アルパカ、トナカイ、ブタ、ウマ、ロバ、イヌ、ミンク、フェレット、ネコ、ハムスター、マウス、ラット、モルモット、ウサギ

鳥　類

ニワトリ、ウズラ、シチメンチョウ、ホロホロチョウ、ハト、アヒル、バリケン、ガチョウ、カナリア

魚　類

コイ、キンギョ

昆虫類

カイコ、ミツバチ

「動物や昆虫のカイコ、ミツバチなどは納得いくけど、カナリア、キンギョも家畜なんですかね」

「さっきの本では、農用動物、愛玩動物、実験動物に大きく分けています。カナリヤとキンギョはペットということだろうね。普通に家畜と言う時は、農用動物だけをさすようだね。農用動物には、肉、乳、卵、毛皮、羽毛などの畜産物を取る用畜と、農作業や車を引く仕事をする役畜に分けています。

「ネコが家畜としたら、材木を運ぶゾウ、芸をするサル、狩りをするタカやハヤブサの方が、はるかに役立っているのに家畜に認められていないのは不思議ですね」

人間の生活に役立つ、有用な働きをしているということであれば、もっと多くの種類を上げることができるでしょう。

「ヘビやカエルは食用になるし、ハトは通信に役立ちますよ。養殖した魚や貝はどうなるのかな。美しい真珠を作るアコヤガイも大いに貢献しているけど」

自然の動物や鳥を小さい時から飼い慣らしたり、あるいは捕獲して調教しても、一応人間の命令を聞いているだけで、いつでも野生に戻ります。つまり野生の性質を失っていないので、家畜とは言えないようです。

厳密には、遺伝的に改良しているかどうかが重要なようです。とすると、カイコやキンギョは、もっとも遺伝的改良が加えられたもので、家畜の代表としての資格十分と言うことが出来るでしょう。

「現代はバイオテクノロジーが注目されているけど、何千年も昔の人が遺伝子の組み換えや改良が出来たんですかね」

「まさか、実験室でするような難しいことはしていないだろうけど、優良品種を選び出すことは出来たと思うよ。例えば卵をたくさん産むニワトリとか、乳を一杯出す雌牛とか、肥り気味のイノシシとかは、人間にとっては魅力的だから掛け合わせ、交配を繰り返して、さらに優秀なものを作ったんじゃないかな」

「とすると、人間が強制的に繁殖を管理して、人間に都合のいいように作り変えたものが家畜と言うことですか」

「イノシシからブタ、野牛からホルスタイン、野蚕から家蚕、オオカミからイヌ。どれも長い時間をかけた品種改良の結果だろうね。ニワトリは、子孫を残す分だけ卵を産めばいいのに、いまや毎日産むようになっているし、カイコは蛹を守るだけの繭でよかったのに、良質で出来るだけ長い糸を吐き出すように強要されているね。動物にとっては、まったく受難の歴史だね。家畜だけでなく稲や野菜も同じだよ」

家畜の定義がなんとなく分かってきました。ネズミを捕らなくなったネコなど、何の役にも立ちませんが、人間になれなれしく擦り寄るように愛玩用として品種改良をしたわけなので家畜と言うことなのでしょう。

「家畜化の最初は、野生の群れから隔離しなければいけないから、囲いが不可欠だったということになるね。だから家畜とは、囲いの中で飼育され、品種改良されたものと言い換えようか。その囲いは、動物に応じて、小屋、竹カゴ、水槽など逃げない施設を作ったんだよ。そんな意味からも、雀居遺跡のブタ小屋発見は大きいね。ただ弥生人が日本のイノシシを捕まえてブタにしたのではなく、品種改良がすでに終わったブタが伝わって来たということになっているけどね」

「力武さんの話を聞いていると、人間自身こそ家畜の代表ではないですか。ヒトとして出現して以来、群れや家族のルールを守るように仕向けられ、いまや奥さんの言いなりでしょう」

「なるほどね。家畜も野生から離れると、本来持っていた能力が次第に薄らいでしまうらしいよ。人間も体格はよくなったけど、体力も気力もないし、すぐ病気になりやすいしね。それに家内には頭は上がらないし」

自分の姿が、肥りきったブタと重なりあって、なんとも情けない話になりました。

豚のいない中国？

さて、現代中国の家畜事情、特にブタの飼育がどうなっているのか興味があります。昨年、「地域文化フォーラム」で長江下流域に出張する機会に恵まれ、行く先々で農家の庭先を注意深く覗くようにしました。

中国では、明器（めいき）と言って、建物、道具、田んぼなどの模型を作って墓に副葬する風習があり、弥生時代と同じころの漢時代には、“ブタ小屋”の明器もあるくらいですから、現代の農家にも屋根つきのちゃんとしたブタ小屋があるものと楽しみにしていました。そんなに立派でなくても雀居遺跡で想像しているような丸太杭で囲ったものぐらいは見つかるだろうと期待していましたが、小屋どころか、ブタの姿をまったく見掛けないのです。

毎日出てくる中華料理には、豚肉がふんだんに使われているのに、ブタはどこに逃げたのでしょうか。

心配になって通訳の黄さんに頼んで農民に質問してもらいました。すると、意外な答えが返ってきました。

以前はブタの糞尿を肥料に利用することもあって飼っていたが、化学肥料が普及したので飼う必要が

ないと言うのです。中国でも大きな養豚場で飼育、生産されているのでしょう。

私が訪れたのは、上海、南京など中国では最も豊かな農村地帯だったので、この地域だけの特殊事情なのかも知れません。では中国の田舎ではどうでしょうか。

中国貴州省のブタ小屋

中国貴州省のお土産

板付遺跡弥生館の『貫頭衣を織る』講座を指導していただいている福岡県工業技術センター専門研究員の鳥丸貞恵先生は、アジアの織物研究のために毎年、中国貴州省で精力的に調査を重ねられ、その度に珍しいお土産をいただいています。

「力武さん、面白い土産を見つけて来たよ」

「以前いただいた稲の穂摘み道具は、弥生時代の石包丁とよく似ていましたね。誰も持っていないから私の宝物ですよ」

「今度も力武さんが見たらさぞ喜ぶだろうと思ったけど、残念ながら買って来れなかったのよ」

「えっ、話だけですか」

お土産は写真2枚だけだったので、がっかりです。しかし、気を取り直してよく見るとただの写真ではありません。

「えっ、囲いの中にいるのはブタですか？」

「そうです。力武さんが週刊ニュースに書いていた雀居遺跡のブタ小屋というのはこれだなと思って撮影したのよ」

ブタ小屋は、草葺き屋根から伸ばした庇の下にあり、一応雨露を避けるようにはなっていますが、いかにも粗末な作りです。雑木を無造作に切断した丸太を数cm間隔で立て並べ、その上部に横材（竹？）を渡し、蔓を巻いて固定しています。丸太の上端が潰れていないことからすると、木槌で強く打ち込んだのではなく、地面に突き刺したのでしょう。周囲には雨落ち溝があり、丸太の根本には土を寄せて雨水の侵入を防ぐ工夫をしています。ブタは1頭。餌入れなのかバケツが1個ぶら下がっていますが、他には何もありません。粗末で素朴、いやもっとも合理的で機能本位の施設です。

「鳥丸先生、こんなブタ小屋を捜していたんです。雀居遺跡の遺構から想像していた構造とまったく一緒です。これで謎が解けました。ブタ小屋に間違いありません。弥生時代にブタという家畜を飼育していたこが初めて証明できました」

長い間、ブタ小屋と決めかねていた私にとって最高の土産となりました。

韓国のブタ小屋

弥生文化の船出の候補地の一つ、韓国ではどうでしょうか。

これまで6回渡韓し、遺跡を訪ねて田舎も歩きましたが、ブタを目撃した経験がありません。日本の田舎でもブタと出会うことはまずないので、恐らくどこかでちゃんと飼育しているはずです。そこで韓国の田舎の建物や風景を復元している『韓国民俗村』で捜すことにしました。

板付弥生のムラを整備復元する時に、この『韓国民俗村』を参考にしたことは何度も書いた通りです。日本にも『明治村』のように古い建物を移築復元した場所はありますが、それは建物だけであって、中の道具や当時の風俗まで再現するということはありません。ところが『韓国民俗村』は、家財道具も農民も揃え、当時の生活様式のままに暮らしているのですからビックリです。しかも何気なく自然な雰囲気で溶け込んでいるのですから、見学者は、つい話し掛けたくなります。農民だけではありません。両班（ヤンパン）の屋敷では、髭を生やした両班が机に向かって本を読んでいるし、村の鍛冶屋は、汗を流しながら鉄を鍛えています。森の中からは民俗楽器の合奏も聞こえてきます。村の広場ではお祭りも始まりました。

当然、畑には作物が育ち、ニワトリは庭先に干してある豆を狙い、おばさんが大声で追い払っています。牛や山羊の草を噛む口からは、長い涎が垂れています。なんとものどかな情景なので、気持ちもすっかり落ち着いて時間が過ぎるのを忘れてしまいます。

もちろん営業用の施設なので、完全な再現ではないと思いますが、韓国各地の家畜小屋を一度に見るには、これ以上の場所はありません。

ところが『韓国民俗村』は、3度訪ねたことがあるのに、肝心の家畜小屋の撮影をしていませんでした。幸い板付遺跡弥生館の『貫頭衣を織る』講座の皆さんが毎年調査旅行に出かけるので、参加された

板付遺跡弥生館指導員の中村先生に撮影をお願いしました。その写真が次の３枚です。

1はアヒル小屋で、四隅と入口に太い丸太柱を立て、斜めの屋根が掛けてあります。壁はなく、丸太をアヒルが逃げ出さない程度の間隔で並べ、上部は開いています。

2は納屋から棟をのばした小屋で、２間半×１間半ぐらいの大きな小屋です。丸太を並び立てる方法は同じですが、間隔が密で、上部は金網が張ってあります。内部が分かりませんがニワトリかな。

3は広く囲った中にヤギとブタが遊んでいます。囲いは、数m間隔に丸太杭を打ち込み、横木を渡し、針金や釘で固定しています。奥にある小屋は、前面以外の三方は丸太か竹で作った壁が回っています。

３枚の写真のような小屋や囲いは、韓国独特のものではなく、誰もが考えるような構造です。１と２の壁の丸太は、雀居遺跡のブタ小屋と似ていますが、地面には打ち込んではいないようです。これは力の弱いアヒルやニワトリだったので、強度は必要がなかったのでしょう。

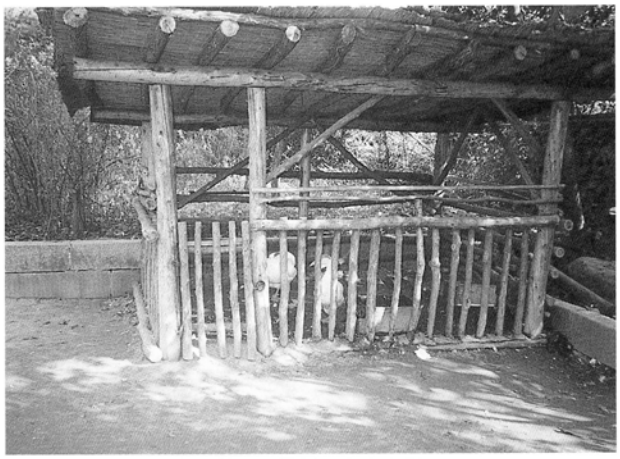
こんな使い方もある

雀居遺跡のブタ小屋をなんとか認めてもらおうと、都合のいい資料だけを取り上げました。しかし、最後に否定的な資料も掲載して、みなさんの判断を待ちたいと思います。

それは次の写真です。これは鳥丸先生が先のブタ小屋と同じ貴州省の村で撮影されたものです。円形に丸太を打ち込み、小枝を編んで50cmほどの壁を作っています。囲いの中は燃料の炭粉で、壁に立て掛けた竪杵で細かく砕くのでしょう。

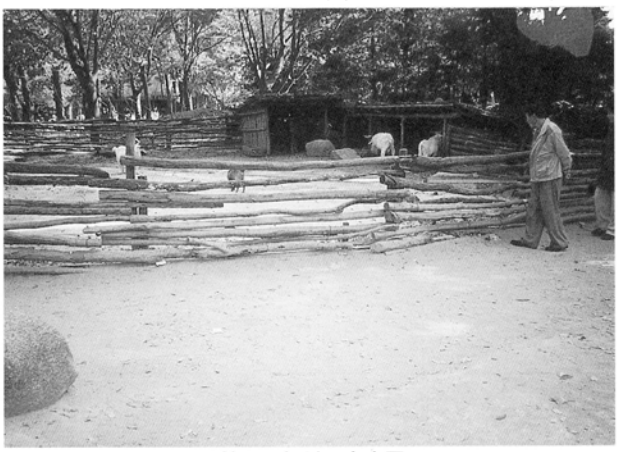
弥生時代の囲いは、家畜を飼育するだけでなく、写真のような使い方があったことも考えておくべきでしょう。実際、発掘によって石器作りの石材や完成品を穴に入れていたり、蛸壺を円形土壙に収めている例が発見されており、弥生人は以外と整理整頓が上手だったようです。

中国貴州省の囲い

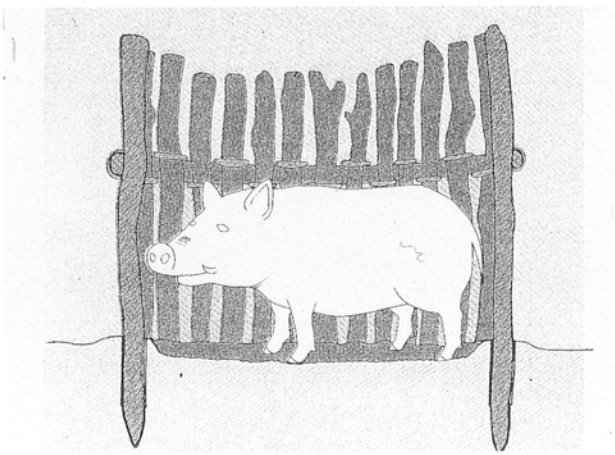


1. 韓国民俗村の家畜小屋

2. 韓国民俗村の家畜小屋



3. 韓国民俗村の家畜囲い



ブタ小屋想像図

3月19日　木曜　曇後雨

短い竪杵

24日の最終日まで晴れてくれると助かったのに、午後から雨になりました。北拡張区西寄に広がっている古墳時代土器溜めの実測は瀬戸さんが頑張っているのですが、細かく割れているのでなかなか手強い相手です。もう時間がないので、周囲から掘り下げていますが、竪杵や丸鍬などの木製農具が出始めました。

「最初からこんな木器が出てくると、土器溜めの下は何が埋まっているかわからないね。それにしてもこの竪杵は、長さが66cmしかないよ。短いので立っては使えないから、おそらく背の低い臼で座って使うんだろうね。こんな杵を手杵（てぎね）と呼んでいます。座って作業すると、あまり力が出せないね。力を入れたらいけない材料を搗いていたということだよね。何だったんだろう。まさか子供用や飾りだったわけじゃないだろうし」

那珂久平遺跡では、形は違いますが短い杵が出土しています。これは重量があり、また端部が平坦な作りなので押しつぶす使用法を考えました。前号は臼のことを書いたので、次号は杵の話にしましょう。

3月20日　金曜　小雨

言い訳ですみません

月一度の埋蔵文化財課会議のために発掘作業は休みです。

この会議には、毎月、安全衛生小委員会で検討、作成した安全作業のハンドブックを提出するようにしていますが、年度末は報告書作成や発掘の追い込みなどで、つい専念する時間が少なくなり、計画通りに出来ませんでした。

この日は、「燃料の取扱いについて」を配付しました。発掘現場，整理事務所では、発電機を始めとして、ストーブなどの暖房器具用などに各種の燃料を使用しています。

燃料は量の多少にかかわらず十分な注意が必要ですが、ドラム缶で注文することが多い発掘現場では、「消防法」など法令の規制の対象になり、使用や保存（貯蔵）に当たっては条文を守らなければいけません。

このためにはその条文の勉強から始めないと、実際的なハンドブックは出来ません。福岡市消防局から『火災予防条例関係例規集』などの関係資料を買い求め、読みましたが、にわか勉強ではいい内容のハンドブックが出来る上がるはずがありません。

最後まで言い訳になりましたが、もう一度熟読して作成したいと思っています。

北拡張区の発掘作業

北拡張区の実測作業

報告書 挿図番号	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器 下段:土製品〉												
							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・脚部・高台径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
	第10次調査出土				土器・土製品														
20 1	01027	I			水田	D−2 グリッド	弥生土器	甕	6.20	24.00			うすい茶色(淡肌色)	茶色	小砂粒。胎土は変化はないが、色調が他と異なる	普通	口縁部は横ナデ	体部はナデ ナデ	
20 2	01170	I			水田	C−3 トレンチ	古式土師器	壷	4.60				茶色	茶色	1mm大砂粒わずか	良	文様	横ナデ	現破片で3段の波状文。
20 3	01293	I			水田	D−2	須恵器	皿	1.70			(6.40)			精良土。黒色粒子含む	不良	底部は回転ヘラ切り	内底は回転横ナデ	
20 4	01292	I			水田	D−2	須恵器	皿	0.90			(10.60)	灰白色	灰白色	精良土	不良	底部は回転ヘラ切り	内底は回転横ナデ	
20 5	01291	I			水田	C−3・大畦接合	須恵器	高台付椀	4.20	(15.20)		(9.40)			精良土。黒色粒子含む	良好	回転横ナデ 外底は回転ヘラ切り	内底はナデ	
20 6	01161	I			水田	C−4	土製品	投弾	4.10	2.27	2.33		肌色(裏面に黒斑2ヶ所)		精良土	良			器面の調整良し。なめらか。形状もよく整っている。
20 7	01296	I			水田	C−3	土製品	投弾	3.90	2.20	2.10								
20 8	01159	I			水田	D−1	土製品	投弾	3.93	2.36	2.40		灰茶色		砂粒少	良			磨耗もあまりない。下端が尖り気味。
20 9	01163	I			水田	C−4	土製品	投弾	3.74	(2.55)	(1.80)		灰茶色		小砂粒多め	良			粘土のコネよし。
20 10	01295	I			水田	C−3	土製品	投弾	4.60	2.70	2.60								
20 11	01297	I			水田	C−4 トレンチ	土製品	投弾	4.60	2.70	2.60								
20 12	01298	I			水田	C−3	土器	注口土器					淡橙色	淡橙色	1mm程度の砂粒比較的多い。長石多い	普通	ナデ?		
20 13	01294	I			水田	D−2	土製品	紡錘車	5.10	5.10	1.10	0.50							
25 1	01299	I	O	23	第Ⅰ面掘り下げ		古式土師器	二重口縁壷(B系)	26.80	(23.60)			暗橙色〜淡橙色	暗黄橙褐色	5mmまでの砂粒、比較的多い	普通	胴部は磨滅して不明 頸部は横ナデ 口縁部は横ナデorミガキに近いナデ	胴部は目の粗いハケメ 口縁部はミガキ	二次口縁部に非連続な櫛描波状文と竹管文。胴部外面の頸部付近に赤色顔料が残存!?。
25 2	01169	I	Q	24	第Ⅰ面掘り下げ		古式土師器	加飾二重口縁壷(C系)	4.50				茶色	黒色・灰茶色	1〜4mm大砂粒	良	頸部は粗い縦ハケ目	ナデ?	
25 3	01359	I			第Ⅰ面掘り下げ	北拡耕作土下Ⅰ面	古式土師器	有段高坏(B系)		(20.50)			灰白色〜にぶい橙色	灰白色〜にぶい橙色	密。径1〜6mmの砂礫をやや多く含む。石英(〜6mm)が最も多い。他には、長石(〜2mm)、褐色土粒がみられる	良好	坏体部はハケメ後ナデ、口縁部は横ナデ後ナデ	坏底部はハケメやナデ、上半は横ナデ後ナデ	
25 4	01263	I			第Ⅰ面掘り下げ		弥生土器	甕	18.00	16.10	19.00		明橙色(頸〜口縁は赤橙色)	淡橙色	1〜2mmの砂粒やや多く含む	良好	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	口縁部は横ハケ目 体部はナデ	
25 5	01153	I	O	24	第Ⅰ面掘り下げ		土製品	投弾	3.37	1.85	1.73		(肌色)うすい灰茶色		砂粒少	良			表面やや磨耗。断面正円でない。
25 6	01142	I	O	24	第Ⅰ面掘り下げ		土製品	投弾	3.15	2.28	2.24		赤灰茶色(一部に赤み)		精良土	良、軟質			表面磨耗。
25 7	01141	I	P	24	第Ⅰ面掘り下げ		土製品	投弾	(3.15)	2.28	2.29		うすい灰(肌色)		砂粒アリ	良、軟質			
25 8	01162	I	R	24	第Ⅰ面掘り下げ		土製品	投弾	(3.55)	2.34	2.41		うすい灰(肌色)		小砂粒わずかに	良			調整やや雑。かなりの高温か。表面にヒビ。
25 9	01167	I			第Ⅰ面掘り下げ		土製品	投弾	(3.46)	2.21	2.25		灰(肌色)(一部に黒斑)			良			表面磨耗。
25 10	01145	I	Q	24	第Ⅰ面掘り下げ		土製品	投弾	3.55	2.10	2.10		うすい灰(肌色)						表面磨耗。両端とも磨耗。下端に黒斑。
25 11	01144	I	P	24	第Ⅰ面掘り下げ		土製品	投弾	3.92	2.05	2.02		灰茶色		わずかに砂粒	良			表面なめらか。
25 12	01168	I			第Ⅰ面掘り下げ		土製品	投弾	3.72	2.28	2.35		灰色(黒斑)		小砂粒	良			さほど磨耗していない。
25 13	01164	I			第Ⅰ面掘り下げ		土製品	投弾	3.86	2.53	2.38		うすい灰		精良土	良			ややいびつ。表面丁寧な調整。断面正円でない。
25 14	01165	I			第Ⅰ面掘り下げ		土製品	投弾	3.86	2.48	2.35		灰色(一部 黒斑)		砂粒少	良			表面なめらか。
25 15	01152	I	Q	22	第Ⅰ面掘り下げ		土製品	投弾	4.44	2.67	(2.47)		灰色(肌色)		精良土	良			表面やや磨耗。
25 16	01158	I	N	23	第Ⅰ面掘り下げ		土製品	投弾	4.13	2.34	2.41		濃灰色		砂粒小	良			整形やや雑で、粘土のしぼり痕がのこる。調整も雑。
25 17	01148	I	Q	22	第Ⅰ面掘り下げ		土製品	投弾	4.48	2.71	2.69		茶褐色		小砂粒多い	良			きわめて形状が整っている。
25 18	01147	I	R	25	第Ⅰ面掘り下げ		土製品	投弾	4.71	2.67	2.70		灰茶色		砂粒少ない	良			表面なめらか。
25 19	01137	I	R	24	第Ⅰ面掘り下げ		土製品	投弾	4.65	2.33	2.29		灰色		表面磨耗し、砂粒露出	良			均整のある形。
25 20	01156	I	N	30	第Ⅰ面掘り下げ		土製品	管玉	1.60	0.91	0.78		灰茶色		砂粒少。精良に近い	良			土錘にしては小さい。土製管玉か。
25 21	01155	I	R	24	第Ⅰ面掘り下げ		土製品	勾玉					灰色		精良	良			なめらか。小孔は貫通しない。勾玉状だが、決め手を欠く。把手でもなかろう。
25 22	01157	I	O	28	第Ⅰ面掘り下げ		土製品	土錘	3.74	1.54	1.43	0.40	赤茶色		小砂粒	良			表面なめらか。
25 23	01143	I	P	28	第Ⅰ面掘り下げ		土製品	紡錘車	3.64	3.64	0.93	0.57×0.47	灰色		1mm大の砂粒多い。砂粒露出	良			やや磨耗。穴がやや片寄る。
31 1	00644	II	O・P	28・29	SC−01		古式土師器	甕(D系)					うすい茶褐色	うすい灰茶色	砂粒ほとんどナシ	良	横ナデ	横ナデ	2cm小破片。傾き不正確。
31 2	00608	II	O・P	28・29	SC−01	西側	古式土師器	甕(D系)					灰黒色	灰茶色	小砂粒	堅い	横ナデ	横ナデ	
31 3	00649	II	O・P	28・29	SC−01		古式土師器	甕(D系)	6.10	16.75			茶黒色	灰茶色	砂粒ほとんどナシ	良	口縁部から横ナデ	口縁部は横ナデ 下半はケズリ	口縁部3cm小破片。
31 4	00624	II	O・P	28・29	SC−01	東側	古式土師器	甕(D系)					灰色	灰色	小砂粒わずか。胎土内 灰黒色層	良	波状文	ケズリ	
31 5	00606	II	O・P	28・29	SC−01	西側	古式土師器	甕(D系)					灰色	灰色	砂粒ほとんどナシ	良	ハケ目 波状文	ナデ	6本 波状文。
31 6	00651	II	O・P	28・29	SC−01		弥生土器	甕	3.20	26.20			茶色(わずかに赤み)	茶色(わずかに赤み)	砂粒少ないが精良土ではない		横ナデ	あばた状に剥離	丹塗りではない。端部は方形断面。
31 7	00631	II	O・P	28・29	SC−01	西側	弥生土器	甕	2.20	28.60			灰茶色	灰茶色	砂粒ほとんどナシ	良	口縁部は横ナデ 縦のミガキ	横ミガキ	壷口縁としたが、外面の調整等やや疑問。
31 8	00627	II	O・P	28・29	SC−01	東側	弥生土器	甕	10.10	23.00			茶褐色	茶色	砂粒少なめ	良	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	湾曲部は粗いハケ目 下半はナデ	厚めのつくり。外面のハケ目 重ねる。
31 9	00607	II	O・P	28・29	SC−01	西側	古式土師器	小型丸底鉢?	2.85	12.60			茶色(口縁)やや黒み	茶色(口縁)やや黒み	精良土	良	細かな横ナデ ミガキ状	細かな横ナデ ミガキ状	外面色調。
31 10	00605	II	O・P	28・29	SC−01	西側	古式土師器	小型丸底鉢?	2.55	13.00			うすい茶色	うすい茶色	精良土		横ハケ目を横ナデ消し	横ナデ	口縁端 細丸断面。器壁うすいつくり。
31 11	00626	II	O・P	28・29	SC−01	東側	古式土師器	小型丸底壷	3.90	13.30			灰白色	灰白色	精良土に近い	やや軟質	ナデ 一部にハケ目	ナデ	4cm小破片。
31 12	00623	II	O・P	28・29	SC−01	東側	古式土師器	小型丸底鉢(C系)	4.15	16.00	11.10		うすい茶色(黒斑)	うすい茶色	精良土	良	口縁部は横ナデ	横ナデ	薄手のつくり。美しい。口縁端 小さく外反。
31 13	00643	II	O・P	28・29	SC−01		古式土師器	小型器台	4.00			12.00	(端部)茶褐色(他)茶色	茶色	精良土	良	横ナデ	細かなハケ目	器壁うすい。
31 14	00604	II	O・P	28・29	SC−01	西側	古式土師器	高坏?	2.25			13.00	灰茶色(外面 やや濃い)	灰茶色	わずかに砂粒		ハケ目をナデ消し	横ハケ目	外面のハケ やや雑。
31 15	00602	II	O・P	28・29	SC−01	西側	古式土師器	小型器台?				13.20	灰茶色	灰茶色	精良土	良	右斜行のハケ目の後に横ナデ	細かな縦ハケ目	器壁うすく、調整も丁寧。
31 16	00642	II	O・P	28・29	SC−01		古式土師器	小型丸底鉢(C系)	2.50	22.40			うすい茶色	うすい茶色	精良土。表面やや軟質	良	縦ハケ目の後に横ナデ消し	横ナデ	器面は微妙に凹凸している。
32 1	00614	II	O・P	28・29	SC−01	西側	弥生土器	甕	4.30	20.20			黒色	(口縁上面より)	小砂粒		体部は横条痕	ナデ(擦痕痕)	台形突帯。
32 2	00616	II	O・P	28・29	SC−01	西側	弥生土器	甕	3.90	20.00			茶褐色	赤茶色	わずかに砂粒	高温	口縁突帯部は横ナデ 体部は横条痕	横ナデ	三角形突帯。

報告書 挿図番号	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器 下段:土製品〉 器種 様式など	器種	器高 長さ	口・器受部径 幅	最大径 厚さ	底・脚裾・高台径 孔径	色調 外面色調	色調 内面色調	胎土	焼成	調整 外面調整	調整 内面調整	備考
32 3	00655	Ⅱ	O・P	28・29	SC−01		弥生土器	甕	5.20	24.40			灰茶色(一部 黒斑)	茶色	砂粒わずか。精良土に近い	良	粗いナデ	横ナデ	三角形凸帯。
32 4	00653	Ⅱ	O・P	28・29	SC−01		弥生土器	甕	6.00	26.40			赤茶色	赤茶色	小砂粒わずか	高温	横条痕	横ナデ(擦刷痕)	三角形凸帯。
32 5	00918	Ⅱ	O・P	28・29	SC−01		弥生土器	甕	18.50	20.40			うすい茶褐色	灰色	精良土に近い	堅緻	横条痕	擦刷痕	細身、長手の胴。力強い作り。凸帯 三角形だが蒲鉾形に近い。
32 6	00612	Ⅱ	O・P	28・29	SC−01	西側	弥生土器	甕					茶褐色	茶色	わずかに砂粒	良	横条痕	ナデ	三角形凸帯。
32 7	00647	Ⅱ	O・P	28・29	SC−01		弥生土器	甕	4.75			7.10	灰色	灰色	小砂粒	堅い	横条痕 外底はケズリ状	左上がりのナデ	外面の横条痕は逆時計。
32 8	00610	Ⅱ	O・P	28・29	SC−01	西側	弥生土器	甕	2.10	24.40			黒褐色	黒褐色	1mm以下の砂粒	良	横ナデ	横ナデ	
32 9	00611	Ⅱ	O・P	28・29	SC−01	西側	弥生土器	甕	9.10	24.60			灰褐色	灰茶色	小砂粒	良	細かな縦ハケ目	口縁部は横ハケ目 体部はナデ	
32 10	00654	Ⅱ	O・P	28・29	SC−01		弥生土器	甕	4.95	24.00			うすい茶褐色(黒ずむ)	灰茶色	わずかに小砂粒	良	ナデ	右斜行の粗いハケ目 指頭圧痕	口縁の外反 短く弱い。
32 11	00609	Ⅱ	O・P	28・29	SC−01	西側	弥生土器	甕	2.10	26.20			黒褐色	茶褐色	小砂粒多め	良	縦ハケ目の後に横ナデ	ハケ目の後に横ナデ	
32 12	00617	Ⅱ	O・P	28・29	SC−01	西側	弥生土器	甕	5.00	27.80			灰褐色	灰茶色(わずかに灰色)	P	良	縦ハケ目	ハケ目の後に左上がりのナデ	
32 13	00656	Ⅱ	O・P	28・29	SC−01		弥生土器	甕	5.60	31.60			濃茶色	濃茶色	小砂粒	堅い	口縁部は横ナデ 体部はハケ目	横ハケ目	内面のハケ目は逆時計まわり。
32 14	00625	Ⅱ	O・P	28・29	SC−01	東側	弥生土器	甕	3.50	32.00			灰茶色	灰黒色	小砂粒多め	堅い	口縁部は横ナデ 下半は縦ハケ目	口縁部は横ハケ目 下半は粗い横ハケ目	
32 15	00628	Ⅱ	O・P	28・29	SC−01	東側	弥生土器	甕	3.00	25.40			(口縁端より)茶褐色	灰茶色	小砂粒多め。胎土粗い		口縁部は横ナデ	ナデ	
32 16	00629	Ⅱ	O・P	28・29	SC−01	東側	弥生土器	甕	4.20	28.40			灰茶色	灰茶色	小砂粒わずか	良	口縁部は横ナデ	ナデ	口縁部は肥厚。下方に垂れ気味。もう少し上方に戻すと、体部がふくらみすぎる。
32 17	00615	Ⅱ	O・P	28・29	SC−01	西側	弥生土器	甕	5.50	21.40			茶色	茶色	小砂粒多め。外面に露出		口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	体部はナデ	口縁部肥厚。
32 18	00618	Ⅱ	O・P	28・29	SC−01	西側	弥生土器	甕	3.50	23.80			茶色	茶色	小砂粒多め	良	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	体部はナデ	
32 19	00657	Ⅱ	O・P	28・29	SC−01		弥生土器	甕	4.70	26.80			茶色	茶色	砂粒わずか	堅い	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	上半は横ナデ 下半は左上がりのナデ	
32 20	00622	Ⅱ	O・P	28・29	SC−01	東側	弥生土器	甕	7.55	8.50			茶色	茶色	小砂粒多め、胎土粗	良	細かな縦ハケ目	ナデ	外面のハケ目丁寧。
34 21	00650	Ⅱ	O・P	28・29	SC−01		弥生土器	壷	5.05	9.60			灰茶色	うすい茶褐色	小砂粒	良	細かな横ナデ	横ナデ 粘土接合痕顕著	口縁 もう少し立つか?
34 22	00652	Ⅱ	O・P	28・29	SC−01		弥生土器	壷	3.20	20.60			丹塗り	丹塗り	精良土	良	横ミガキ 丹塗り	横ミガキ	外 幅広の横ミガキなめらか。内 細かなミガキ 稜が立。
34 23	00613	Ⅱ	O・P	28・29	SC−01	西側	弥生土器	壷					灰茶色	灰茶色	小砂粒	良	横ミガキ?	ナデ	文様シャープ。軸ナシ 上段から下。
34 24	00630	Ⅱ	O・P	28・29	SC−01	東側	弥生土器	壷					灰色	灰白色	小砂粒	良	横ナデ	ナデ	文様シャープでない、雑、連派文。傾き不正確。
34 25	00648	Ⅱ	O・P	28・29	SC−01		弥生土器	壷	7.80	14.20		3.40?	灰褐色(ミガキで光沢)	灰褐色(光沢ナシ)	精良土	堅い	細かい横ミガキ	上半は細かい横ナデ 下半はヘラ状工具のナデ	なめらか。底部の境ナシ。体部の最大径は、やや上方にある。
34 26	00645	Ⅱ	O・P	28・29	SC−01		弥生土器	甕	2.60			7.45	茶色(外底)黒み	茶色	内底は砂粒露出していないが他はかなり目立つ。胎土粗い	良	横条痕	ナデ	
34 27	00646	Ⅱ	O・P	28・29	SC−01		弥生土器	壷	6.70			12.80	茶色(部分的に赤み)	灰色(上部が黒色)	砂粒少		ヘラ状工具のナデ上げ	棒状工具の強いナデ	外面の調整 粗い。内底は甕のように内底だけが灰色で黒色でない。
35 1	00744	Ⅱ	O・P	28・29	SC−02	SK−032	古式土師器	甕(D系)	3.40	15.40			灰白色(部分的に灰黒色)	灰白色	砂粒ほとんどナシ	良	口縁部は横ナデ	横ナデ	4cmの小破片。
35 2	00658	Ⅱ	O・P	28・29	SC−02		古式土師器	甕(D系)	3.75	14.40			黒色(スス)	灰褐色	砂粒	堅い	口縁部は横ナデ	体部はケズリ状の強いナデ	
35 3	00659	Ⅱ	O・P	28・29	SC−02		古式土師器	甕(D系)	3.75	17.20			灰(褐色)	灰色	極小砂粒	良	口縁部は横ナデ	体部はケズリ	内面 左上がりのケズリ。
35 4	00660	Ⅱ	P	29	SC−02		古式土師器	甕(D系)	4.00	29.00			灰白色	灰白色	極小砂粒	良	口縁部は横ナデ	横ナデ 体部は左上がりのナデ?	口径大きく、立ち上がりも強い。
35 5	00677	Ⅱ	O・P	28・29	SC−02		古式土師器	小型椀	3.50	9.30			うすい茶色(外面 黒斑)	うすい茶色	砂粒少ない		ナデ	ケズリ状のナデ	外面 手捏ね状だが、内面がケズリの後ナデ。
35 6	00701	Ⅱ	O・P	28・29	SC−02		古式土師器	脚台付き器種	1.70			11.20	うすい茶色	うすい茶色	精良土	良	ハケ目を横ナデ消し	脚部はハケ目	
35 7	00700	Ⅱ	O・P	28・29	SC−02		古式土師器	高坏(D系)	7.70				うすい赤茶色	うすい赤茶色	精良土	良	縦ハケ目の後に筋状の横ナデ	上下のナデ	脚柱部 タテハケ目の後に筋状のナデ。裾部 小孔(9mm)4ヶ所。
35 8	00702	Ⅱ	O	29	SC−02		古式土師器	低脚高杯	2.00			21.00	うすい茶色	うすい茶色	精良土		横ナデ	ナデ	4cmの小破片。器形不明。内面の調整具合から脚とした。
36 9	00666	Ⅱ	O・P	28・29	SC−02		弥生土器	甕					茶色	茶色	精良土に近い		横ナデ(擦刷痕)	横ナデ(擦刷痕)	器壁 うすいつくり。凸帯 上向きの三角形。
36 10	00664	Ⅱ	O・P	28・29	SC−02		弥生土器	甕	6.10	21.40			茶褐色	茶褐色	砂粒	良	口縁突帯部は横ナデ 下半は右上がりの擦刷痕	ナデ	蒲鉾形 口縁に覆いかぶさる。
36 11	00663	Ⅱ	O・P	28・29	SC−02		弥生土器	甕	8.20	22.60			灰黒色(凸帯刻み目より下半)	茶褐色	砂粒少ない	堅い	口縁部は横ナデ 下半は横条痕	粗い擦刷痕	内面の調整粗い。内面は凹凸(継ぎ目)。凸帯 三角形 垂れ気味。
36 12	00665	Ⅱ	P	29	SC−02		弥生土器	甕	5.90	20.20			茶色	うすい茶色	砂粒きわめて少	良	口縁下は横ハケ目を横ナデ消し 下半は縦ハケ目	口縁部は横ハケ目 体部は右上がりのナデ ミガキ状	4cm小破片のため傾き不正確。
36 13	00685	Ⅱ	O・P	28・29	SC−02		弥生土器	甕	7.60	25.20			灰黒色	灰茶色	砂粒少	堅い	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	口縁部は横ハケ目 体部は左上がりのナデ	
36 14	00684	Ⅱ	P	29	SC−02		弥生土器	甕	6.20	21.40			茶色(下半)褐色	赤茶色	小砂粒	堅い	口縁部は横ナデ 体部は粗いハケ目	口縁部は横ハケ目 体部は左上がりのナデ	刻み目は上、下に。条痕 鋭利 美しい。
36 15	00668	Ⅱ	P	29	SC−02		弥生土器	甕	3.55	37.80			灰色	灰色	わずかに灰色	堅い	口縁部は横ナデ 下半は細かな縦ハケ目	横ハケ目	口縁端の上下に刻み目。
37 16	00804	Ⅱ	O・P	28・29	SC−02	SK−030	弥生土器	甕	3.10	20.20			灰褐色	灰茶色	小砂粒	良	口縁部は横ナデ 体部はナデ上	ナデ	調整順序 横ナデからナデ上げ。※水分が多い状態でナデている。
37 17	00694	Ⅱ	O・P	28・29	SC−02		弥生土器	甕	3.85	25.40			灰色	灰色	砂粒わずか	良	口縁部は横ナデ 体部は粗い縦ハケ目	左上がりのナデ	ハケ目粗い、雑。
37 18	00688	Ⅱ	O	29	SC−02		弥生土器	甕	5.55	26.80			茶色	茶色	小砂粒多いが、表面には出ていない	良	口縁部は横ナデ	ナデ	三角形断面の口縁部か。
37 19	00691	Ⅱ	O	29	SC−02		弥生土器	甕	5.50	20.40			茶色	茶色	小砂粒多め	良			破片のため傾き不正確。もう少し立つか。
37 20	00686	Ⅱ	O	29	SC−02		弥生土器	甕	4.75	25.00			うすい茶色	うすい茶色	精良土に近い	良	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	ナデ	器面の調整丁寧でなめらか。
37 21	00693	Ⅱ	O・P	28・29	SC−02		弥生土器	甕	5.75	26.20			赤茶色	赤茶色	砂粒	高温	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	ヘラ状工具のナデ上げ	口縁肥厚。丁寧な器面調整。
37 22	00671	Ⅱ	O・P	28・29	SC−02		弥生土器	甕	6.05	28.40			灰茶色	茶色	内面 砂粒露出	良	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	ナデ 指頭圧痕	外面 ハケ目 粗い目。
37 23	00699	Ⅱ	P	29	SC−02		弥生土器	甕	3.80	33.80			うすい茶色	灰茶色	小砂粒ごくわずか	良	口縁部は横ナデ	左上がりのナデ	体部は内傾 強い。
37 24	00669	Ⅱ	O・P	28・29	SC−02		弥生土器	甕	4.00	21.60			赤茶色	赤茶色	小砂粒。雲母	良	口縁部は横ナデ 下半は縦ハケ目	ナデ	口縁が幅広い割りには口径小さい。
37 25	00670	Ⅱ	O・P	28・29	SC−02		弥生土器	甕	3.55	24.80			灰茶色(口縁上面)	灰茶色(口縁上面)	砂粒少	良	口縁部は横ナデ	横ハケ目 下半は左上がりのナデ	
37 26	00698	Ⅱ	P	29	SC−02		弥生土器	甕	5.55	25.40			うすい茶色	うすい茶色	小砂粒	良	口縁部は横ナデ 体部はハケ目を重ねる	左上がりのナデ	外面のハケ目は2種あり。丸み、分厚いつくりの口縁部。
37 27	00695	Ⅱ	O・P	28・29	SC−02		弥生土器	甕	4.00	26.80			茶褐色	茶褐色	小砂粒多め	良	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目を横ナデ消し	口縁部は横ハケ目 体部はナデ	5cm小破片。器面に砂粒露出。
37 28	00692	Ⅱ	O・P	28・29	SC−02		弥生土器	甕	4.50	28.60			茶色	赤茶色	極小砂粒	堅い			器面調整は丁寧。口縁部 粘土の継ぎが面白い。
37 29	00687	Ⅱ	O	29	SC−02		弥生土器	甕	3.70	29.40			赤茶色	赤茶色	小砂粒多め。表面 砂粒露出している。	良	口縁部は横ナデ	ナデ	外面 ハケ目 ナデ消し。
37 30	00689	Ⅱ	O・P	28・29	SC−02		弥生土器	甕	3.80	32.00			灰茶色	(口縁上面から)赤茶色	小砂粒多め	良	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	ナデ	外面色調。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器　下段:土製品〉												
挿図番号							器種		器高	口・器受部径	最大径	底(脚)径・高台径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
37 31	00745	Ⅱ	O・P	28・29	SC−02	SK−032	弥生土器	甕	5.30	34.40			赤茶色	(口縁部上面より内)灰茶色	砂粒含む	堅い	口縁部は横ナデ　体部は調整痕不明	体部は左上がりのナデ	丁寧なつくり、調整。
37 32	00662	Ⅱ	O・P	28・29	SC−02		弥生土器	壺	4.80			10.40	灰茶色	灰茶色	1〜3mm大砂粒多め。胎土粗い		ナデ上げ	ナデ上げ	外面 幅約18mmヘラ状のナデ。
37 33	00743	Ⅱ	O・P	28・29	SC−02	SK−032	弥生土器	甕	4.90			6.70	茶色	灰黒色	1mm以下の砂粒多め	良	縦ハケ目　外底は逆時計回りにナデ	ナデ?	※くびれ小さい。
38 34	00683	Ⅱ	O	29	SC−02		弥生土器	壺					灰茶色	灰茶色	砂粒含む	良	口縁部は横ナデ	横ハケ目	刻み目 口縁下端のみ 割りにシャープ。
38 35	00690	Ⅱ	O・P	28・29	SC−02		弥生土器	壺					茶色	茶色	砂粒少ないが、密でない	良	ナデ?	横ナデ　滑らか	傾き、上、下?
38 36	00667	Ⅱ	O・P	28・29	SC−02		弥生土器	壺	2.90			3.70	灰色	灰色	砂粒少。精良土に近い。やや軟質	良	ナデ	ヘラ状工具のナデ上げ	
38 37	00661	Ⅱ	O・P	28・29	SC−02		弥生土器	壺	5.70			10.20	黒色土	灰茶色	小砂粒(1mm以下)多め		ナデ上げ	ナデ上げ	外面 ミガキ状のナデ なめらか。絵画らしきものあり。
38 38	01146	Ⅱ	O・P	28・29	SC−02		土製品	投弾	3.82	2.17	2.13		灰茶色(図表は黒斑)		砂少	堅い			焼成前にキズ。絵画ではない?
43 1	01347	Ⅱ	O	23	SE−01	05	古式土師器	甕(D系)	19.75	15.10	18.60		淡黄橙色〜暗い灰黄褐色	淡黄橙色〜褐色	密。径1〜2mmの粗砂を少し含む。石英、長石(ともに〜2mm)が主体。他には、金雲母、角閃石が若干含む	良好	胴下半はハケメ、上半はタタキ後縦ハケして肩部横ハケ　口縁部〜頸部は回転的な横ナデ	胴下半はケズリ後指オサエやナデ、上半はケズリ　頸部は指ナデ　口縁部は横ハケ後回転的横ナデ	口縁端部は内面摘まみ出しが上方へ曲がっている。端部も面取りしている。胴下半に煤付着。
43 2	01343	Ⅱ	O	23	SE−01	08	古式土師器	甕(D系)	19.60	15.40	19.20		灰白〜暗褐色(ススにより全体的	にぶい橙〜暗褐色	密。径1〜2mmの粗砂を少し含む。石英(〜2mm)が最も多い。他には長石(1mmほど)が少し	良好	胴下半はかすれた縦ハケ、上半は縦・横ハケ後箱描波状文　口縁部〜肩部に回転的横ナデ	胴下半はケズリ後ナデ、上半はケズリ　口縁部はハケメ後回転的横ナデ	胴部波状文は回転的横ナデに切られる。胴外面や内面下半に煤付着。底部内面に指頭圧痕。口縁端部は面取り。
43 3	01337	Ⅱ	O	23	SE−01	06	古式土師器	甕(D系orD系影響下のB系)	20.35	14.20	17.80		浅黄橙色〜褐色(しかしほとんど	にぶい褐色〜褐色	密。径1〜2mmの粗砂を少し含む。長石(〜2mm)、石英(〜2mm)がほとんど	良好	胴下半は工具ナデ、上半は縦・横ハケメ後肩部に櫛描波状文　口縁部〜頸部は回転的横ナデ	胴下半は指オサエ後ケズリとナデ、上半はケズリ後ナデ　頸部にハケメ痕　口縁部は回転的横ナデ	頸部外面に接合痕。底部外面に2〜3回タタキ後ハケメ施す(小平底の名残ある丸底)。外面全体に煤付着。
43 4	01341	Ⅱ	O	23	SE−01	01	古式土師器	甕(D系)	21.15	15.40	19.40		浅黄橙色〜にぶい黄橙色	にぶい橙色〜褐色	密。径1〜2mmの粗砂をやや多く含む。石英(〜2mm)が最も多く、次いで長石(〜2mm)。他に金雲母が若干みられる	良好	胴下半はかすれた縦ハケ、上半はタタキ後縦・横ハケして肩部横ナデ　口縁部は横ナデ	胴下半はケズリ後指オサエやナデ、上半はケズリ後ナデ口縁部は横ハケ後横ナデ	胴部外面に櫛描波状文廻る。胴外面下半は煤が厚く付着。口縁端部は面取り。
43 5	01345	Ⅱ	O	23	SE−01	09	古式土師器	甕(D系)	20.75	15.50	19.30		淡橙〜にぶい褐色(半分はススで黒色)	淡黄橙〜褐色	密。径1〜4mmの砂礫をやや多く含む。石英(〜4mm)が最も多く、次いで長石(〜2mm)。他には、金雲母、角閃石が若干有り	良好	胴下半はタタキ後縦ハケ、上半はタタキ後縦・横ハケして肩部横ナデ　口縁部は回転的横ナデ	胴下位はケズリ後ナデや指オサエ、中〜上位はケズリ後ナデ　口縁部はハケメや工具ナデ後回転的横ナデ	胴部外面に6ヶ所ハケメ列点文が廻る。外面全体に煤付着。
43 6	01357	Ⅱ	O	23	SE−01	03	古式土師器	甕(D系)	21.75	16.10	19.70		橙〜灰褐色(大半はススで黒色)	橙〜褐灰色	密。径1〜3.5mmの砂礫を少し含む。石英、長石(ともに〜3.5mm)がほとんど。他には、金雲母、白色パミスが若干みられる	良好	胴下半はタタキ後縦ハケ、上半はタタキ後縦・横ハケ　口縁部〜頸部は回転的横ナデ	胴下半はケズリ後指オサエやナデ、上半はケズリ後ナデ　口縁部はハケメ後回転的横ナデ	胴部の1ヶ所に3行×3列(計9個)の列点文あり。頸部下に指頭圧痕。外面全体と内面下半に煤付着。
43 7	01342	Ⅱ	O	23	SE−01	04	古式土師器	甕(D系)	23.60	15.80	20.20		灰白〜明褐灰色	にぶい褐〜褐色	密。径1〜4mmの粗砂をやや多く含む。石英(〜4mm)が最も多い。他には、長石(〜2mm)、金雲母がみられる	良好	胴下半はかすれた縦ハケ、上半は縦・横ハケ後肩部横ナデ　口縁部は回転的横ナデ	胴下半はケズリ後指オサエやナデ、上半はケズリ　頸部にハケメ痕　口縁部は回転的横ナデ	口縁部内面は平坦であり、工具などで横ナデしているのか。
43 8	01339	Ⅱ	O	23	SE−01	02	古式土師器	甕(D系)	23.65	16.60	21.40		浅黄橙〜にぶい褐色	にぶい褐色〜褐色	密。径1〜2mmの粗砂を少し含む。石英(〜2mm)がほとんど	良好	胴下半はかすれた縦ハケ、上半は縦・横ハケ後肩部横ナデ　口縁部は回転的横ナデ	胴下位は指オサエ、中〜上位はケズリ後ナデ　口縁部は横ハケ後横指ナデ	胴部外面に9ヶ所列点文が廻る。胴外面下半は煤が厚く付着。口縁端部は面取り。
43 9	01340	Ⅱ	O	23	SE−01	07	古式土師器	甕(D系)	27.00	18.70	24.00		にぶい橙色〜褐色	にぶい橙色〜褐色	密。径1〜2mmの粗砂を少し多く含む。石英、長石がほとんど(〜2mm)。他には、角閃石、金雲母が若干みられる	良好	胴下半はかすれた縦ハケ、上半は縦・横ハケ後肩部横ナデ　口縁部は端部摘まみ出し後横ナデ	胴下半はケズリ後ナデや指オサエ、上半はケズリ後ナデ　口縁部は横ハケ後横工具ナデ	胴部外面に5ヶ所ハケメ列点文が廻る。　頸部下に指頭圧痕。外面全体と内面下位に煤付着。口縁端部は面取り。
43 10	01346	Ⅱ	O	25	SE−01	弥生土器	甕	挿図番号					にぶい橙〜にぶい褐色	にぶい橙色	普通。径1〜2mmの粗砂をやや多く含む。石英(〜2mm)が最も多く、次いで長石(〜1mm)他には、金雲母が若干みられる	やや良好	口縁部は縦ハケ後横ナデ　端部は横ナデして刻目が廻る	胴部はナデか　口縁部はハケメ	
48 1	01348	Ⅱ	P	24	SE−02		古式土師器	甕(B系)		(15.00)	(16.70)		淡い褐色〜にぶい褐色	淡い褐色〜にぶい褐色	密。径1〜3mmの砂礫をやや多く含む。石英(〜3mm)が最も多く、次いで長石(〜3mm)。他には、白色パミスが若干みられる	やや良	胴部はハケメ　口縁部は横ナデ　端部面取り(沈線あり)	胴部はナデ　口縁部は横ハケ後横ナデ?(磨滅)	胴外面上半に煤付着。
48 2	01344	Ⅱ	P	24	SE−02	06	古式土師器	甕(D系)	19.95	14.85	18.60		灰白〜にぶい褐色(ただしスミにより全面黒色)	灰白〜にぶい褐色(ただしスミにより全体的に黒色)	密。径1〜2mmの粗砂を少し含む。石英(〜2mm)が最も多い。他には長石(〜1mm)や金雲母が若干	良好	胴下半はかすれた縦ハケ、上半は縦・横ハケ後肩部横ナデ　口縁部は回転的横ナデ	胴下半はケズリ後指オサエやナデ、上半はケズリ後丁寧なナデ　口縁部はハケメ後回転的横ナデ	胴部外面にハケメ列点文が5ヶ所廻る。内外面全体に煤付着。内面頸部下に指頭圧痕。
48 3	01338	Ⅱ	P	24	SE−02	04	古式土師器	甕(D系)	24.10	(18.00)	22.60		にぶい黄褐色	にぶい黄橙色〜にぶい黄褐色	密。径1〜2mmの粗砂を少し含む。石英(〜2mm)が最も多く、次いで長石(1〜2mm)	やや良好	胴下半は縦ハケ後雑なハケ、上半は縦・横ハケ後横ナデ　口縁部は横ナデ	胴下半はケズリ後指オサエ、ナデ　上半はケズリ後ナデ　口縁部はハケメ後横ナデ	胴部外面に文様的な横ハケが1本廻り、最後に櫛描波状文が廻る。内面頸部下に指頭圧痕。口縁内面は外面より平坦。
55 1	01303	Ⅱ	N〜R	22〜24	SJ−01	うーニ、No.3・えーハ、No.1・えーニ、No.1	古式土師器	甕(A系)	31.10	44.20-46.20			淡橙色〜淡黄褐色	淡黄褐色	比較的精良土に4mmまでの砂粒を少量含む。長石多い。石英	良好	胴部はハケメ後突帯貼付　頸部〜口縁部はハケメ後端部に横ナデ	胴部はハケメ　口縁部はハケメ後二次口縁への屈曲部にナデ	突帯部に山形のハケメ列点文。
55 2	01326	Ⅱ	N〜R	22〜24	SJ−01	くーハ・くーニ・けーハ・杭5 土器溜り10	古式土師器	甕			22.40		赤褐〜茶褐色	にぶい褐色〜褐灰色	密。径1〜4mmの砂礫を多く含む。1mmほどの白色パミス(あるいは火山噴火物!?)が最も多い。次いで石英(〜4mm)。他には微細なガラスが見られる	普通	胴下半はナデ、上半は粗い縦ハケ後ナデ　口縁部はハケメ後端部に横ナデ　頸部突帯貼付後横ナデ	底部は横ハケ　胴部はハケメ　口縁部はハケメ後端部に横ナデ	胴部上半と下半は元々別遺物とされていたがおそらく同一個体。搬入品か。
55 3	01323	Ⅱ	N〜R	22〜24	SJ−01	2面、No.106、こーニ	古式土師器	甕(A系)			20.40		橙〜にぶい橙色	橙〜にぶい橙色	密。径1〜3mmの砂礫をやや多く含む。石英(〜3mm)が最も多く、次いで長石(〜2mm)。他には、角閃石を若干含む	普通	全面タタキ後底部付近以外に縦ハケ	全面縦ハケ後縦方向指ナデ	外面のタタキとハケメの工具は共通。
55 4	01327	Ⅱ	N〜R	22〜24	SJ−01	けーハ	古式土師器	甕(A系)					にぶい褐色	にぶい褐色	密。径1〜4mmの砂礫をやや多く含む。石英(〜4mm)が最も多い。他には長石(〜2mm)がみられる	やや良好	胴部は縦ハケ後扁平突帯貼付して横ナデ　突帯にハケメ刻目あり	ハケメ(左上方向への砂の動き)	同時期の在地系甕の突帯が頸部と胴下位に多いこと、砂の動き、突帯の水平から部位を判断。
55 5	01321	Ⅱ	N〜R	22〜24	SJ−01	2面、No.66、おーハ	古式土師器	甕(A系)			18.00		にぶい褐色	にぶい褐色〜にぶい橙色	密。径1〜3mmの砂礫をやや多く含む。石英(〜3mm)が最も多く、次いで長石(〜2mm)。他には、褐色土粒がみられる	普通	頸部突帯貼付後横ナデ　口縁部はハケメ後横ナデ	頸部下はナデ(指頭圧痕)　口縁部はハケメ後横ナデ	突帯には小口列点文。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器　下段:土製品〉													
挿図番号							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・脚部高台径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
55 6	01351	Ⅱ	N~R	22~24	SJ−01	かーハ	古式土師器	脚付小型甕	15.20	16.50	14.00	11.10	にぶい橙〜にぶい褐色	にぶい褐色	密。径1〜3mmの砂礫をやや多く含む。石英(〜3mm)、長石(〜3mm)がほぼ同量で最多	やや良好	脚部はハケメ後ナデ　胴部〜口縁部はハケメ	脚部はナデ　胴部はハケメ後ナデ　口縁部はハケメ	
56 7	01367	Ⅱ	N~R	22~24	SJ−01	2面、No.60、おーハ	古式土師器	甕(B系)	28.80	(18.50)	25.40	5.00	にぶい橙〜にぶい褐色	橙〜にぶい褐色	径1〜4mmの砂礫をやや多く含む。石英(〜4mm)が最も多い。他には長石(〜3mm)が少しみられる。	良好	胴部は全面太筋タタキ後下半にナデ　口縁部は横ナデ	胴下位はすだれ状螺旋工具ナデ、上半は工具ナデ　口縁部は横ナデ	内外面に接合痕残る。底部は上げ底。
56 8	01320	Ⅱ	N~R	22~24	SJ−01	2面、No.87、くーニ	古式土師器	甕(B系)		16.90	22.35		浅黄橙〜褐灰色	浅黄橙〜にぶい橙色	密。径1〜4mmの砂礫をやや多く含む。石英(〜4mm)が最も多く、次いで長石(〜2mm)が多い。他には、微細な角閃石がみられる	普通	胴部は太筋のタタキ　口縁部は横ナデ	胴部は工具ナデとナデ、上位に指頭圧痕残る　口縁部は横ナデ	胴部外面のナデは接合痕消しか。外面の所々に煤付着。
56 9	01356	Ⅱ	N~R	22~24	SJ−01	2面、No.46、おーロ	古式土師器	小型甕(B系)	12.60	14.10	13.60	1.60	にぶい褐色〜橙色	にぶい褐色〜褐色	中。径1〜4mmの砂礫を少し含む。石英(〜3mm)が最も多く、次いで長石(〜4mm)。他には、黒い砂礫(〜2mm、8mmの塊もある)が若干みられる	良好	胴下位はハケメ後ナデ、上半は粗いハケメ　口縁部はハケメ	胴下位はすだれ状螺旋ハケメ、上半はハケメ後工具ナデ　口縁はハケメ	搬入品?
56 10	01319	Ⅱ	N~R	22~24	SJ−01	杭5 土器溜り1	古式土師器	甕(AまたはB系)	16.30	13.60	(15.15)		浅黄橙色	浅黄橙色	密。径1〜3mmの砂礫をやや多く含む。石英(〜3mm)が最も多い。他には、長石(約1mm)、1mm以下のガラス、角閃石を若干含む	やや不良	胴下半はタタキ後縦ナデ、上半はタタキ後ハケとナデ　口縁部?頸部はハケ後横ナデ	胴下半は工具ナデ後ナデ、上半は工具ナデ　口縁部?頸部はハケメ後横ナデ	底部内面に指頭圧痕。胴外面下半に煤付着。
56 11	01315	Ⅱ	N~R	22~24	SJ−01	2面、No.25、おーニ	古式土師器	甕(B系)	25.75	17.00	22.25	3.10	にぶい橙色〜灰褐色	橙色〜にぶい橙色	密。径1〜4mmの砂礫をやや多く含む。石英(〜4mm)が最も多く、次いで長石(〜2.5mm)	やや不良	胴部は丁寧なナデ後一部カキナデ　口縁部は横ナデ	胴下位はカキナデ後丁寧なナデ、中?上位は丁寧なナデ　口縁部は横ナデ	カキナデの工具は草茎類か。底部付近に黒斑。
56 12	01318	Ⅱ	N~R	22~24	SJ−01	2面、No.77、き−ニ	古式土師器	甕(B系)	27.20	19.40	25.10	2.90	にぶい黄橙〜にぶい黄褐色	にぶい黄橙〜にぶい黄褐色	密。径1〜3mmの砂礫を少し含む。石英(〜3mm)が最も多く、次いで長石(〜3mm)。他には、1mm以下の白色細砂(火山噴火物!?)が少しみられる	普通	胴下位は螺旋タタキ後底部付近ケズリ、中位は断続ハケメ、上位はハケメ後粗いナデ　口縁部はハケメ後横ナデ	胴下位はハケメ後放射状に粗いナデ、中?上位は規則的なハケメ　口縁部はハケメ後横ナデ	胴部内面調整は下位がそれより上半に切られている。目の粗いナデは草茎類を束ねたものでナデたようなもの。ハケメとタタキは同じ工具か。
56 13	01325	Ⅱ	N~R	22~24	SJ−01	う−ニ、No.2	古式土師器	小型甕(B系)	12.25	10.90	12.20		にぶい橙〜褐灰色	にぶい橙〜灰褐色	密。径1〜3mmの砂礫を少し含む。石英(〜3mm)が最も多く、次いで長石(〜2mm)	やや良	胴部はハケメ　口縁部はハケメ後横ナデ	底部にナデ、指オサエ　胴部はハケメ後指ナデ　口縁部は非回転横ナデ	外面全体に煤。胴部外面下位に器面剥離。
56 14	01324	Ⅱ	N~R	22~24	SJ−01	2面、No.82、く−ロ	古式土師器	小型甕(B系)	10.75	11.60	12.00	(2.40)	にぶい褐色〜灰褐色	にぶい褐色〜にぶい橙色	密。径1〜4mmの砂礫を少し含む。石英(〜2mm)、角閃石が主で、他には、花崗岩(〜4mm)、褐色土粒がある	やや良	胴下半はタタキ後縦工具ナデ、上半は縦ハケ　口縁部は横ナデ	胴部は上下ともケズリ後ナデ　口縁部はハケメ後横ナデ	外面全体に煤。
56 15	01354	Ⅱ	N~R	22~24	SJ−01	き−ハ	古式土師器	甕(B系、底部穿孔)	20.30	15.40	18.00	2.90	橙色〜褐色	橙色〜褐色	密。径1〜7mmの粗砂、小礫をやや多く含む。石英(〜7mm)、長石(〜3mm)が最も多い。他には白色パミス、角閃石、微細なガラスを若干含む	良好	全体的に右上がりの太筋タタキだが、底部付近は左上がり	全体に規則的な左上がりハケメ後底部にナデ	底部に1ケ所穿孔。内面に一部接合痕残る。
56 16	01308	Ⅱ	N~R	22~24	SJ−01	けーニ、No.5	古式土師器	甕(D系)	22.30	(16.00)	20.30		にぶい橙色〜浅橙色	にぶい橙色〜浅橙色	密。径1〜2.5mmの砂礫をやや多く含む。石英(〜2.5mm)が最も多く、次いで長石(〜1.5mm)他には、角閃石、ガラスが少しみられる	良好	胴下半は縦ハケ、上半はタタキ後断続横ハケそして回転的横ハケ　頸部は縦ハケ後口縁部まで横ナデ	胴下半はケズリ後指オサエ、上半はケズリ　頸部は指圧痕　口縁部は横ナデ	肩部にヘラ描直線文廻る。口縁端部は沈線状になる。口縁部は外面は凹凸があるが内面はない。
58 17	01360	Ⅱ	N~R	22~24	SJ−01	くーニ No.1	古式土師器	壷(A系?)	19.60	9.90	17.50		浅黄橙色〜褐色	浅黄橙色〜褐色	密。径0.5〜1mmの粗砂を多く含む。径2mmほどの粗砂も少しみられる。石英(〜2mm)が最も多く、次いで長石(〜2mm)。他には、微細な角閃石、ガラスが若干みられる	良好	胴下半は縦ハケ、上半は縦ハケ後タタキ	胴部は指ナデ　口縁部はナデ	内面に接合痕残る。外面全体に磨滅。外面に10cm大の黒斑2つ、内面に5cm大の黒斑1つあり。
58 18	01307	Ⅱ	N~R	22~24	SJ−01	くーホ、No.3	古式土師器	二重口縁壷(A系)	28.70	14.30	23.60		にぶい褐色〜灰褐色	にぶい褐色〜灰褐色	普通。径1〜3mmの砂礫を多く含む。石英(〜3mm)が最も多く、次いで長石(〜2mm)	良好	底部付近はタタキ後ハケメ　胴部はハケメ後上半に雑な縦ミガキ　口縁部はハケメ後ナデや横ナデ	胴下位はハケメ、中位は工具ナデ、上位はハケメ後一部横にナデ　口縁部はハケメ後横ナデ	外面に10cm大の黒斑2つあり。
58 19	01309	Ⅱ	N~R	22~24	SJ−01	No.86、くーニ	古式土師器	壷(B系)			19.70	3.00	橙〜にぶい橙色	にぶい橙色〜にぶい褐色	精良(水漉しではない)径1〜4mmの砂礫をやや多く含む。石英(〜4mm)が最も多く、次いで長石(〜4mm)	普通	胴下位は縦ハケ後縦ヘラミガキ、上半は横ハケ　肩部にタタキ痕、最後に雑な縦ミガキ　底部ミガキ	胴下位は縦ハケ、中位はハケメ後ナデ、上位は横ハケ　頸部はナデ	胴内面に接合痕あり。
58 20	01316	Ⅱ	N~R	22~24	SJ−01	くーニ	古式土師器	壷(B系)	16.00	11.65	16.20		にぶい橙〜にぶい褐色	にぶい橙〜にぶい褐色	密。径1〜2mmの粗砂を少し含む。石英(〜2mm)が最も多く、次いで長石(〜2mm)	普通	胴部はハケメ　口縁部はハケメ後横ナデ	胴下半は工具ナデやナデ、底部にハケメ痕、上半は横指ナデ　口縁部は横ハケ後横ナデ	胴内面に接合痕あり。外面底部に黒斑。
58 21	01310	Ⅱ	N~R	22~24	SJ−01	けーイ	古式土師器	壷(B系)	31.00	14.70	26.00	4.70	浅黄橙色〜にぶい褐色	にぶい褐色	密。径1〜3mmの砂礫を多く含む。石英(〜3mm)が最も多く、次いで長石(〜2mm)他には、角閃石、白色パミス、ガラスが少しみられる	やや良	底部はナデ後ミガキ　胴下半は縦ミガキ、上半はタタキ後ミガキ　口縁部は非回転的ナデ	底部は放射状工具ナデ　胴部は丁寧な工具ナデやナデ、一部ハケメ痕　口縁部は非回転的ナデ	底部外面付近にはタタキ痕あり。頸部下に接合痕や指頭圧痕あり。
58 22	01355	Ⅱ	N~R	22~24	SJ−01	2面、おーハ	古式土師器	小型二重口縁壷(B系)			12.20	3.80	浅黄橙色〜にぶい褐色	浅黄橙色〜にぶい褐色	やや精良。径1〜5.5mmの砂礫をやや多く含む。石英(〜5.5mm)が最も多く、次いで長石(〜2mm)。他には、角閃石が若干みられる	良好	胴部はナデ後雑なミガキ、一部ハケメ痕　頸部は横ミガキ後刻目突帯貼付	胴部は工具ナデ　頸部はミガキ?(磨滅)	外面に若干接合痕あり。
58 23	01312	Ⅱ	N~R	22~24	SJ−01	けーニ、No.1	古式土師器	壷(B系)	31.00	16.20	29.00		にぶい橙〜明褐灰色	暗褐灰色	径1〜4mmの砂礫をやや多く含む。石英(〜4mm)、長石(〜2mm)、花崗岩(〜4mm)がほぼ同量で最も多い。	普通	胴下位は縦ハケ後ケズリ、中位はハケメ、上位はタタキ　口縁部はハケメ後さらに横ナデ?	胴下位はすだれ状螺旋ハケメ後放射状ケズリ、上半はハケメ後ケズリ　口縁部はハケメ後横ナデ	頸部外面に接合痕。胴外面上半のハケメとケズリの工具は同じ。
58 24	01349	Ⅱ	N~R	22~24	SJ−01	き−ハ	古式土師器	壷(山陰系?)		(12.60)			暗い褐灰色	褐灰〜灰褐色	密。径1mmの粗砂を少し含む。石英、長石、ガラスがみられる	良好	肩部は縦ハケ　頸部は横指ナデ　二次口縁部は回転的横ナデ	胴部はケズリ後ナデ　頸部はナデ　二次口縁部は回転的横ナデ	搬入品か!?　肩部外面にハケメ波状文が一周する。
58 25	01317	Ⅱ	N~R	22~24	SJ−01	かーホ	古式土師器	壷(Dまたは山陰系)			16.90	29.40	にぶい橙〜にぶい褐色	橙〜にぶい褐色	密。径1〜4mmの砂礫を多く含む。石英(〜4mm)と長石(〜3mm)がほぼ同量で最も多い。他には、金雲母、銀雲母、白色パミス、角閃石が少しみられる	やや良	胴部中位にハケメ後上位に連続横ハケ　口頸部〜肩部はハケメ後回転的横ナデ	胴部はケズリ　頸部下は指頭圧痕の後横ナデ　口頸部は回転的横ナデ	搬入品か!?　端部は外方に屈曲。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器（土製品）の法量と特徴〈法量 上段：土器　下段：土製品〉												
挿図番号							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・脚裾高径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
60 26	01333	Ⅱ	N−R	22〜24	SJ−01	2面、No.109、くーホ	古式土師器	小型丸底壷	5.75	10.70	9.90		にぶい橙〜灰褐色	にぶい橙〜灰褐色	密。径1mm前後の粗砂がやや多い。角閃石（長さ〜1.5mm）が最も多く、次いでガラス（長さ〜1mm）。他に石英、白色パミス、長石が少し有り	やや良好	胴部はタタキ後ナデ　口縁部は横ハケ後？横ナデ	胴部はハケメ後ナデ　口縁部は横ナデ	搬入品か。端部は面取り。
60 27	01334	Ⅱ	N−R	22〜24	SJ−01	けーハ、No.4	古式土師器	小型丸底壷（C系）	6.85	12.30	11.20		浅黄橙色〜にぶい褐色	浅黄橙色〜にぶい褐色	精良（水漉ではない）。径1mmほどの粗砂を若干含む。石英がほとんど	良好	胴下半はケズリ後ナデ、上半は縦ハケ後横ナデ、横ミガキ　口縁部は横ナデ後横ミガキ	胴部は工具ナデやナデ　口縁部はハケメ後横ナデ、横ミガキ	
60 28	01311	Ⅱ	N−R	22〜24	SJ−01	くーハ	古式土師器	小型丸底壷（C系）	9.40	10.50	11.25		橙〜にぶい橙色	橙〜にぶい橙色	密。径1〜2mmの粗砂を少し含む。石英（〜2mm）や長石（〜1mm）、微細なガラス、角閃石や橙色土粒が見られる	やや良	胴部は縦ハケ後下半にケズリ、頸部に横ミガキ　ハケメ後横ナデ	胴部は丁寧な工具ナデやナデ　口縁部は横ナデ	ケズリは乾燥した段階で施したものでミガキに近い。胴下半に煤付着。
60 29	01331	Ⅱ	N−R	22〜24	SJ−01	くーロ・くーハ	古式土師器	有段高坏（B系）		22.70			橙〜にぶい橙色	橙〜にぶい橙色	やや精良。径1〜3mmの砂礫を少し含む。石英（〜3mm）、長石（〜3mm）、角閃石がみられる。他に1〜7mmの赤褐色土粒がみられる	やや良好	坏体部はナデ？、口縁部はナデや横ナデ後横ミガキ	坏底部はナデ？、口縁部はナデや横ナデ	脚部との接合面にはタタキ痕。内外面ともタタキが顕著。
60 30	01313	Ⅱ	N−R	22〜24	SJ−01	けーロ、No.1	古式土師器	高坏（B系）	15.30	25.00		13.00	褐色〜浅黄橙色	褐色〜にぶい橙色	普通。径1〜3mmの砂礫を多く含む。石英（〜3mm）が最も多く、次いで長石（〜2mm）他には、ガラス、褐色土粒を若干含む	普通	脚裾部はハケメやナデ、脚柱部は縦ミガキ後屈曲部にケズリ　坏下半はナデ、上半はハケメ後ナデ	脚部は鋭い工具による成形後すだれ状螺旋ハケメ　坏下半はすだれ状螺旋ハケメ、上半はハケメ	脚裾部4ケ所に調整後の穿孔がある。脚内面屈曲部に刻みが廻る。坏部内外面に接合痕。
60 31	01328	Ⅱ	N−R	22〜24	SJ−01	えーニ、No.5	古式土師器	高坏（D系）				12.40	にぶい橙〜にぶい褐色	淡黄橙色〜にぶい橙色	やや精良（搬入ではない）。径1〜2mmの粗砂を若干含む。石英（〜2mm）、長石（〜1mm）、微細な白色パミス（火山噴火物？）が有る	良好	脚裾部は不明　脚柱部は縦工具ナデ後横ミガキ	脚裾部はハケメ後横ナデ　脚柱部は縦ナデや指ナデ後屈曲部に横ナデ	脚頂部に新旧2つの軸芯痕がある。坏部との接合は脚頂部凸面付加法。脚裾部に3ケ所穿孔。外面調整は磨滅して不明瞭。
60 32	01314	Ⅱ	N−R	22〜24	SJ−01	2面、No.85、くーニ	古式土師器	高坏（C系）	14.25	22.15		14.20	にぶい黄橙色〜橙色	明褐色	密。径1〜3mmの砂礫を少し含む。石英（〜3mm）、長石（〜2mm）がほぼ同量で最も多い。他には、褐色土粒、微細なガラスを若干含む	普通	脚部はハケメ後屈曲部に横ナデ　坏部はハケメ後回転横ナデそして縦ミガキ	脚柱部はシボリ後ナデ、脚裾部はハケメ？　坏部はハケメ後回転横ナデそしてまばらな縦ミガキ	脚裾部に穿孔（おそらく4ケ所）。軸芯痕あり。外面は磨滅・剥離が顕著。
60 33	01353	Ⅱ	N−R	22〜24	SJ−01	2面、No.63、おーハ	古式土師器	小型器台（B系）	8.20	7.20		9.30	明褐灰色〜にぶい褐色	灰褐色〜にぶい褐色	密。径1〜5mmの砂礫を多く含む。石英（〜4mm）、長石（〜5mm）がほぼ同量で最も多い。他には、白色パミスが若干みられる	良好	脚部はタタキ後ハケメ　受部はナデ	脚部はハケメ　受部はナデ	脚部の4ケ所穿孔は調整後。
60 34	01329	Ⅱ	N−R	22〜24	SJ−01	2面、うーホ	古式土師器	小型器台（畿内系影響のB系）		8.00			淡黄橙色〜にぶい橙色	淡黄橙色〜にぶい橙色	やや精良（水漉ではない）。径1〜1.5mmの粗砂を少し含む。石英（〜1.5mm）、長石（〜1mm）、微細な白色パミス（火山噴火物？）がある	普通	脚部は縦工具ナデ　受部は縦ハケ後横ミガキ　立ち上がりは摘まみ上げながら横ナデ	脚部はナデ　受部はナデ？	立ち上がり外面には軽い沈線。
60 35	01330	Ⅱ	N−R	22〜24	SJ−01	えーハ？	古式土師器	小型器台（畿内系影響のB系）	8.40	9.70		10.90	淡黄褐色〜にぶい褐色	淡黄褐色〜にぶい褐色	精良（水漉ではない）。径1〜2mmの粗砂を若干含む。長石（〜2mm）、石英（〜1mm）、微細なガラスがみられる	良好	脚部は縦ハケ　頸部は横ナデ　受部端は横工具ナデ	脚部は縦工具ナデ後ナデ、横ナデ　受部はナデ？	受部と脚部の間を充填して成形か。脚部の4ヶ所穿孔は調整後。
60 36	01352	Ⅱ	N−R	22〜24	SJ−01	かーホ、No.3	古式土師器	低脚坏（B系）	7.00	13.40		8.90	褐色〜灰褐色	褐色〜灰褐色	密。径1〜2mmの粗砂を少し含む。石英、長石（ともに〜2mm）がほとんど	良好	脚部はハケメ後横ナデ　坏部は成形後ナデ	脚部はすだれ状螺旋ハケメ後ナデ　坏部はハケメ後ナデ	脚内面以外は赤色顔料塗布。
60 37	01322	Ⅱ	N−R	22〜24	SJ−01	杭5 土器溜り2	古式土師器	小型椀（B系）	5.40	(11.10)		3.40	にぶい褐色	にぶい黄橙色	密。径1〜2mmの粗砂が少しみられる。石英（〜2mm）長石（〜2mm）のみ。	やや良	螺旋状タタキ後ナデ　底部はタタキ後ナデ　端部は横工具ナデ	ナデ　端部はハケメ後横ナデ	外面の3分の1に黒斑。
60 38	01336	Ⅱ	N−R	22〜24	SJ−01	えーニ	古式土師器	小型鉢（B系）	7.50	12.30	12.70	4.00	褐色〜浅黄橙色	褐色〜にぶい橙色	密。径1〜3mmの砂礫をやや多く含む。石英（〜3mm）、長石（〜3mm）がほぼ同量で最多	良好	螺旋状タタキ後ナデ　底部はナデ	ハケメ後工具ナデとナデ	
60 39	01335	Ⅱ	N−R	22〜24	SJ−01	けーイ、No.1	古式土師器	有孔鉢（B系）	8.95	(19.00)		0.40	明褐灰〜にぶい	明褐灰〜褐灰色	普通。径1〜2mmの粗砂をやや多く含む。石英（〜2mm）が最も多い。他には、長石（〜1mm）と、若干の角閃石を含む	普通	ナデ　底部付近に指頭圧痕	底部は指ナデ　体部は規則的なハケメ	底部穿孔。
60 40	01332	Ⅱ	N−R	22〜24	SJ−01	けーハ、No.3	古式土師器	有孔鉢（B系）	12.65	(23.50)			浅黄橙色〜橙	にぶい褐色〜浅黄橙色	密。径1〜4mmの砂礫を多く含む。石英（〜4mm）と長石（〜3mm）がほぼ同量で最も多い。他には褐色土粒がみられる	やや良好	体部下半はタタキ後ナデ、上半はハケメ	底部は指ナデ　体部は規則的なハケメ	底部穿孔。端部は面取り。外面壁がある程度剥離している。
60 41	01358	Ⅱ	N−R	22〜24	SJ−01	2面、No.51、おーハ	古式土師器	有孔鉢（B系）	9.90	19.00		4.60	にぶい橙〜褐色	にぶい橙〜褐色	密。径1〜3mmの砂礫を少し多く含む。石英（〜3mm）が最も多く、次いで長石（〜2mm）。他には、角閃石、褐色土粒を若干含む	良好	太筋のタタキ　底部はナデ	螺旋状工具ナデ後ナデ	底部穿孔。
60 42	01140	Ⅱ	N−R	22〜24	SJ−01	2面、No.24、おーニ	土製品	投弾	2.24	1.75	1.79		赤茶色		砂粒少ない	良			表面磨耗。一端に尖り気味。
60 43	01350	Ⅱ	N−R	22〜24	SJ−01	き−ハ	土製品	紡錘車	4.10		1.00	0.65	淡い褐色		密（粗砂はほとんどみられない）	良好			
70 1	00528	Ⅱ	O·R	31	SR−01	SP−0013	弥生土器	甕	8.00	21.00			灰褐色	灰色	1〜3mm大の砂粒	良	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	左上がりのナデ　下半は砂粒露出	体部がふくらんでいるが、もう少し立つか？
70 2	00526	Ⅱ	O·R	31	SR−01	SP−0013	弥生土器	壷	2.35			6.60	灰黒色	黒色	精良土	良			底部 背が低い、外に張り出さない。内面 アバタ状に剥離。
70 3	00529	Ⅱ	O·R	31	SR−01	SP−0013	弥生土器	高坏	2.00	29.80			黒褐色	茶色（坏内面）黒みが強い	小砂粒多くない	良	剥離　砂粒露出	丁寧な横ナデ	
70 4	00527	Ⅱ	O·R	31	SR−01	SP−0013	弥生土器	甕	3.40	21.20			黒灰色	灰色	精良土に近い	良	横ミガキ　体部は左斜行の細かなハケ目	横ナデ	
70 5	00462	Ⅱ	O·R	31	SR−01	SP−0014	弥生土器	甕	4.70	20.20			（口縁端より下方）黒褐色	灰色	小砂粒多め	良	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	右上がりの八ケ目の後に右上がりのナデ	肥厚した口縁が特徴。
70 6	00461	Ⅱ	O·R	31	SR−01	SP−0014	弥生土器	甕					茶色	茶色	密	良	細かな横ミガキ	細かな横ミガキ	内外面 横ミガキ。内面のみなめらか。
70 7	00463	Ⅱ	O·R	31	SR−01	SP−0014	弥生土器	高坏	3.60	25.60			うすい茶褐色	うすい茶褐色	極小砂粒。胎土密でない	良	口縁部は横ナデ　直下は縦ハケ目を横ナデ消し　下半は横ミガキ	口縁部は横ナデ　坏部は摩滅	
70 8	00166	Ⅱ	O·R	31	SR−01	SP−0195	弥生土器	鉢	3.90	24.00			黒色	褐色	小砂粒多いが、胎土緻密に近い	良	横ミガキ	横ミガキ	器面ミガキ丁寧だが、外下半の或形凹凸あり。口縁外反部 肥厚している。立っているが、傾き正確？鉢か？
74 1	01302	Ⅱ	R	28	SN−01	上甕	弥生土器	上甕	34.60		(35.20)	7.00	淡赤茶褐色	浅橙色	1mm砂粒と、4〜5mmの砂粒含む（少量）	良好	体部は粗いハケ目　底部はナデ	粗い斜行ハケ目　内底はナデ	

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器　下段:土製品〉												
挿図番号							器種		器高	口・器受部径	最大径	底(脚)径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
74 2	01305	Ⅱ	R	28	SN−01	下甕	弥生土器	下甕	(52.10)	(45.60)		(5.80)	淡橙色	淡橙色	1〜5mm砂粒比較的少ない	良好	口縁部はハケ目の後にナデ　頸部下半は縦ハケ目　体部はハケ目	体部は全面が横ハケ目	
77 1	00805	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	壺					濃灰色	うすい灰茶色	小砂粒少ない	良	口縁部は横ナデ	横ナデ	三角形凸帯。
77 2	00582	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	甕					茶色	茶色	砂粒ほとんどナシ	良	横条痕	ナデ	凸帯 背の高い三角形。
77 3	00601	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	甕	7.75	21.00			黒褐色	茶色	砂粒少	良	横条痕	幅広のヘラ状工具のナデ(擦刷痕)	傾きやや不正確。
77 4	00598	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	甕	3.45	22.80			灰黒色	茶色	小砂粒	堅い	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	左上がりのナデ	凸帯 小さな三角形。
77 5	00581	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	甕	6.50	21.80			赤茶色	赤茶色	小砂粒。胎土密でない	良	口縁部は横ナデ　体部はナデ	ナデ	三角形突帯 下方に垂れ気味。
77 6	00584	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	鉢	6.85	34.60			濃茶色(下半に黒褐色 ススか?)	(口縁上面から)うすい茶色	砂粒含む	良	口縁突帯部は横ナデ　体部はヘラ状工具のナデ　ミガキ状	ヘラ状工具のナデ　ミガキ状	
77 7	00583	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	甕	4.95	20.40			うすい茶色	うすい茶色	砂粒少ない	良	縦ハケ目をナデ消し	ナデ	口縁は断面方形。
77 8	00590	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	甕					茶色(下半)黒み	茶色	砂粒ほとんどナシ。精良ではない	良	口縁部は雑な横ナデ　下半は縦ハケ目	左上がりのナデ	
77 9	00594	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	甕					うす茶色	うす茶色	砂粒ほとんどナイ	良	口縁部は横ナデ	横ナデ	
77 10	00587	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	甕	3.70	24.50			褐色	褐色	小砂粒多め	良	横ナデ　下半は縦ハケ目	口縁突帯部は横ハケ目　半はハケ目	刻み目 下端のみ。不鮮明。
77 11	00593	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	甕	4.55	26.00			灰黒色	茶色	砂粒少	良	口縁部は横ナデ　沈線下半は縦ハケ目をナデ消し	ハケ目を横ナデ消し	
77 12	00716	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	甕	2.80	30.40			灰茶色(黒斑)	灰茶色	小砂粒	堅い	縦ハケ目を横ナデ消し	粗いハケ目	
77 13	00599	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	甕	6.85	23.20			茶黒色	茶色	小砂粒	良	口縁から突帯にかけて横ナデ	横ハケ目　下半はナデ	
77 14	00619	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	甕	7.90	23.40			黒褐色(下半)	茶色	砂粒 胎土粗い	良	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目　下半は横ハケ目	体部は左方向のナデ	器壁 厚み。外面の調整 雑。
77 15	00603	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	甕	4.40	24.40			灰茶色	やや黒み	砂粒少	良	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目を横ナデ消し		5cmの小破片。
77 16	00591	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	甕	4.60	28.40			赤茶色	赤茶色	小砂粒含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目をナデ消し	ナデ	刻み目ナシ。口縁上面 へこみ。
77 17	00600	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	甕	5.40	31.40			茶色	茶色	小砂粒		口縁部は横ナデ　体部は粗い縦ハケ目　突帯は横ナデ	粗い横ハケ目　下半はナデ	分厚いつくり。粗い目のハケ。
77 18	00585	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	甕					赤茶色	赤茶色	小砂粒。胎土やや粗い	良	横ナデ	横ナデ	
78 19	00707	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	壺	3.85	5.90			灰黒色	灰黒色	小砂粒。やや軟質	良	頸部は横ミガキ　胴部はナデ	口縁部は横ミガキ	
78 20	00806	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	壺	2.10	8.40			灰褐色	灰褐色	砂粒少	良	横ナデ?	横ミガキ	3cm小片。
78 21	00712	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	壺	3.40	27.00			うす茶色	うす茶色	砂粒含む	良	口縁部は横ナデ	湾曲部は横ミガキ	口縁端部 幅広い。
78 22	00713	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	壺	5.00	37.40			灰色	灰色	砂粒少ないが、胎土密でない		口縁部は横ナデ　下半は横ミガキ	横ナデ	器面の調整 割りに丁寧。口縁内面に輪状(半円)の黒斑。
78 23	00194	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	壺	12.40				濃茶色	茶色	小砂粒	良	全面ナデの後に羽状文	ナデ	文様は上から下へ、割りに丁寧。
78 24	00595	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	壺					褐色	茶色	砂粒ナシ。精良土ではない		横ミガキか　不鮮明	ナデ	
78 25	00720	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	壺					灰白色	灰白色	砂粒少	良	横ナデ?	ナデ	小破片。文様 雑だが、鋭利。
78 26	00586	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	壺					うすい茶色	うすい茶色	小砂粒わずかに含む	良	文様より下半はヘラ状工具の横ナデでミガキ状	横ナデ	沈線も文様も浅い。丁寧ではない。
78 27	00588	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	壺					うすい灰黒色	茶色	砂粒含む	良	横ミガキか	ナデ	羽状文は下段から上段の順。傾きはもう少し傾きそうだがこの破片ではこの傾き。文様の中に丹痕あり。
78 28	00719	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	壺	2.95				赤茶色	灰白色	砂粒少	堅い	右上がりのミガキ	左上がりのナデ	5cm小破片。長めの胴か。
78 29	00621	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	?	3.40			5.90	うすい茶色	うすい茶色	小砂粒多め。2〜3mm大を含む	良	ナデ	ナデ	手捏ね状の整形。雑だが、安定感あり。
78 30	00596	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	壺	3.30	16.00			赤茶色	茶色	小砂粒含む	良	口縁部は横ナデ　下半は縦ハケ目	横ハケ目の後に棒状工具でナデ上げ	口縁としたが、径小さく分厚いつくりでもあり、脚か?
78 31	00620	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	壺					灰茶色	灰茶色	小砂粒多め。胎土内は灰黒色	良	口縁部は横ナデ	横ハケ目	3cmの小破片。
78 32	00705	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	壺					灰白色	灰白色	小砂粒多くない	良	横ナデ	口縁部は雑な横ナデ	下半は横ハケ目。
78 33	00185	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	甕					灰色	灰色	砂粒少	堅緻	口縁部は横ナデ　下半はナデ	横ハケ目が部分的に残る	丁寧な調整。
78 34	00589	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	器台	4.50	12.60			灰茶色	橙茶色	小砂粒多め	良	縦ハケ目　口縁部は横ナデ	ナデ	外面ハケ目。重ねる。調整は全体に丁寧。
78 35	00597	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	器台	4.20			10.60	うすい茶色	うすい茶色	砂粒ほとんどナシ	良	縦ハケ目	ナデ	
78 36	00715	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	鉢	2.40	19.00			茶色(黒斑)	茶色	両面とも横ミガキでなめらか		横ミガキで滑らか	横ミガキで滑らか	4cmの小破片。
78 37	00717	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	鉢	3.60	19.20			茶色	灰黒色(口縁部)黒み	小砂粒多い	良	横ミガキ	ナデ	傾き不正確。
78 38	00711	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	鉢	7.40	31.60			灰色	灰色	小砂粒	良	口縁部は横ナデ　下半は横ミガキ	横ミガキ	鉢形。
78 39	00714	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	鉢	6.95	21.40			茶褐色(下半部)黒み	茶色	小砂粒	堅い	口縁下のハケ目を横ナデ消し　下半はハケ目	口縁部は横ナデ下半は左上がりのナデ	口縁 波打つ。
78 40	00718	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	弥生土器	高坏	2.50	28.20			茶色	茶褐色	小砂粒	良	右上がりの細かなミガキ	横ナデ	4cmの小破片。
80 41	00706	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	古式土師器	甕(A系)	3.50	28.40			茶色	茶色	小砂粒	良	ナデ	横ナデの後にナデ上げ	長胴の甕?
80 42	00708	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	古式土師器	甕	2.10	15.20			灰黒色	灰白色	小砂粒。雲母	良	横ナデ	横ナデ	4cmの小破片。丁寧な横ナデ。
80 43	00709	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	古式土師器	小型丸底壺(C系)	3.95	11.40	6.90		うすい茶色	うすい茶色	精良土	良	口縁部は横ナデ　体部はナデ　その境に細かなハケ目	体部はハケ目残る	うすい器壁。
80 44	00173	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	古式土師器	小型丸底鉢(C系)	6.00	16.20	11.90		淡茶色(肌色)	淡茶色(肌色)	精良	良	横ナデ　底部はケズリ状	ハケ目をナデ消し	底面、回転か(ヘラ削り状)。
80 45	00710	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	古式土師器	椀	2.20	10.60			赤茶色	赤茶色	精良土	良	横ミガキ	横ミガキ	内外面とも筋状の横ナデ。外面ザラツク。
80 46	01130	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	古式土師器	小型丸底壺(C系)	4.80		9.00		(上半から内面)黒色	(下半)灰茶色	精良土	良	縦ハケ後横ミガキ	胴部はナデ後横ミガキ　口縁部は横ミガキ	
80 47	00592	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	古式土師器	脚台付き器種	1.50			10.60	うすい茶色(肌色)	うすい茶色(肌色)	精良土に近い	軟	縦ハケ目	粗い横ハケ目	
81 54	00198	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02　下	土製品	紡錘車	3.78	3.88	2.07		灰色		砂粒露出ナシ。雲母	良	全面が丁寧なナデで滑らか		穿孔は下から全面にナデでなめらか。
83 1	00632	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	古式土師器	壺	5.40	22.80			うすい茶色	灰白色	砂粒わずか。精良土ではない	良	横ハケ目　下半は縦ハケ目	ハケ目	器形不明。
83 2	00635	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	古式土師器	小型丸底鉢(C系)	4.75	12.80	12.00		明茶色	うすい茶色	精良土		ハケ目を横ナデ消し　ミガキ状	ナデ	うす手のつくり。調整はやや雑。
83 3	00633	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	古式土師器	椀	3.70	16.80			うすい茶色	うすい茶色	精良土	良	上半は細かな横ミガキ　下半は縦ハケ目	粗密のハケ目	3cmの小破片。
83 4	00735	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	弥生土器	甕					赤茶色	白茶色	砂粒わずか	良	擦刷痕	擦刷痕	三角形突帯。
83 5	00679	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	弥生土器	甕					灰褐色	赤茶色	砂粒わずか	堅い	横条痕	ナデ	分厚い三角形凸帯。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド	遺構名	備考・出土地点	土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器　下段:土製品〉												
挿図番号						器種		器高	口縁受部径	最大径	底部高台径	色調		胎土	焼成	調整		備考
						様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
83 6	00638	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	弥生土器	甕					(凸帯)茶色(下半)灰黒色	茶色	小砂粒	良	横条痕	ナデ	凸帯 三角形。
83 7	00678	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	弥生土器	甕					濃灰色	灰色	砂粒わずか。やや軟質?		横条痕	ナデ	分厚い三角形凸帯。
83 8	00768	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	弥生土器	甕					黒色	褐色	小砂粒	良	口縁突帯部は横ナデ　体部はナデ(擦刷痕)	擦刷痕	凸帯 三角形(一部刻み目 押圧の際に、蒲鉾形になる。
83 9	00736	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	弥生土器	甕					茶褐色	茶色(下半)茶褐色	砂粒含む	堅い	横条痕	横ナデ(擦刷痕)	凸帯 低い蒲鉾形。
83 10	00639	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	弥生土器	甕					明茶色	明茶色	砂粒少(精良土に近い)		横条痕	ナデ	指押さえ　三角形凸帯 頂点シャープ。
83 11	00703	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	弥生土器	甕	5.20	17.40			褐色	灰茶色	小砂粒		口縁突帯部は横ナデ　下半は横条痕	横条痕	器壁の厚さが均一でない。背の高い三角形。
83 12	00676	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	弥生土器	甕	2.10			6.60	(外底)半部が黒斑	(内底)うすい灰茶色	砂粒多い。胎土粗	良	外底はケズリ状のナデ	雑なナデ	
83 13	00640	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	弥生土器	甕	2.90			7.00	灰色(外底)やや	灰色	砂粒多め。胎土粗い		ナデ　外底はケズリ状	ナデ	
83 14	00641	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	弥生土器	壺	2.70			9.00	うすい灰色	うすい灰色	わずかに砂粒	良	ナデ　外底はケズリ状	横条痕	
83 15	00770	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	弥生土器	甕					濃灰色	うすい灰茶色	砂粒きわめて少	良	横ナデ	ナデ	2cmの小破片。傾き不正確。
83 16	00769	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	弥生土器	甕					灰茶色(外面 白み)	灰茶色	砂粒少ない	良	横ナデ	横ナデ	屈曲弱い。
83 17	00637	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	弥生土器	甕					赤茶色(上、下は茶褐色)	うすい茶色	小砂粒多め。胎土粗		口縁下は斜行ハケ目　沈線下は縦ハケ目	横ハケ目　体部はナデ　指押さえ	調整雑。
83 18	00634	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	弥生土器	甕	3.10	24.60			(口縁端より下)茶褐色(その下)茶色	(上部)茶色(下半)黒色	内面 2〜3mm大の砂粒露出 多め	良	口縁下は縦ハケ目	横ナデ?	口縁部のつくり雑。
83 19	00765	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	弥生土器	甕	5.00	28.60			茶色(口縁端のみ 茶褐色ぎみ)	茶色(口縁端のみ 茶褐色ぎみ)	小砂粒少ない	堅い	口縁部は横ナデ　体部は細かなハケ目	ナデ	外面のハケ目きわめて不鮮明。口縁部の屈曲小さく、刻み目、下端のみ。
83 20	00673	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	弥生土器	甕	6.45	30.40			(口縁上部より外)うすい茶色	黒褐色	極小砂粒。雲母	良	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	
83 21	00681	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	弥生土器	甕					茶色	うすい茶色	小砂粒	良	口縁部は横ナデ　直下は縦ハケ目	横ハケ目　ナデ	刻み目 下端のみ。
83 22	00675	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	弥生土器	甕	6.85			7.10	うすい灰茶色	黒灰色	砂粒少なめ		縦ハケ目　外底ナデ	ナデ	外面ハケ 丁寧。時計まわり。
83 23	00767	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	弥生土器	壺	3.90	14.40			茶色	茶色(内面 茶色が濃い)	精良土。よく焼しまる	良	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキで外面 なめらか。内面は横ミガキ痕がよく残る。雑。外面 弱いミガキ。口縁端 断面 方形ではない 丸みを残す。
83 24	00636	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	弥生土器	壺	3.00	23.80			丹塗り	丹塗り	精良土に近い	良	口縁部は横ナデ	細かい横ミガキ	内面は細かな横ミガキだが、外面は横ナデの後に部分的にミガキ。その効果はうすい。
83 25	00704	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	弥生土器	壺	4.25	25.00			丹塗り(黄)	丹塗り(黄)	精良土(白色)	良	縦ハケ目の後に横ミガキ	口縁部は横ミガキ　下半は左斜行のハケ目	
83 26	00766	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	弥生土器	壺	6.20		29.60		明茶色	うすい茶色	小砂粒、胎土精良ではない	良	横ミガキ	ナデ?	径、傾き不正確。体部上半 分厚いつくり。文様 ヘラ先で施文。※同じ文様片 他に実測した。
83 27	00674	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	弥生土器	壺	5.55	27.00			うすい茶褐色	うすい茶褐色	砂粒少。密ではない	良			広口壺の口縁か?
83 28	00672	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	弥生土器	甕	4.40	31.20			灰茶色	灰茶色	小砂粒	堅い	口縁部は横ナデ	ナデ	外面 細かなミガキ?鉢か?
83 29	00680	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	弥生土器	壺					うすい茶色	うすい茶色	小砂粒	良	ナデ?	上半はナデ　下半は横ナデ	文様から天地を決めたが、傾き不正確。
83 30	01160	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	土製品	投弾	3.97	(2.20)	2.34		灰色(タテに1/2黒斑)			良			表面の調整が丁寧なため、中位で張りが強い。形状も整っている。
84 1	00803	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	弥生土器	甕					うすい茶褐色	うすい茶色	砂少	堅い	横条痕	横条痕	三角形凸帯。
84 2	00730	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	弥生土器	甕					灰白色	灰白色	わずかに小砂粒。やや軟質	良	口縁突帯部は横ナデ　体部は摩耗し調整痕不明	横ハケ目の後に横ナデ消し	磨耗。三角形凸帯。
84 3	00814	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕					赤茶色(口縁端部 黒色)	茶色	小砂粒	良	横条痕	ナデ	低い三角形。
84 4	00810	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕					淡茶色(一部わずかに赤茶色)	淡茶色	砂粒少	良	突帯下方は左斜行の条痕	ナデ上げ	三角形凸帯。
84 5	00813	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕					うすい茶色(肌色)	うすい茶褐色	精良土に近い	良	ナデ	部分的にハケ目	
84 6	00812	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕					茶褐色(やや黒み)	灰茶色	3mm大砂粒	良	横条痕	横ナデ	三角凸帯。
84 7	00741	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕	4.90	21.20			茶褐色	灰茶色	わずかに砂粒を含む	良	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	ナデ	三角形突帯。
84 8	00731	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕	5.00	23.40			うすい灰茶色	灰白色	砂粒少ない	良	口縁突帯部は横ナデ　体部あ右上がりのナデ	ナデ上げ	背の低い三角形(本来は)
84 9	00809	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕					うすい灰茶色(わずかに外赤み)	うすい灰茶色(わずかに外赤み)	砂粒少	良	横条痕	ヘラ状工具の横ナデ	三角形凸帯。
84 10	00728	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕					(凸帯頂部より)黒褐色	灰色	わずかに砂粒	堅い			傾き不正確。三角形突帯。
84 11	00740	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕	9.20	19.70			茶褐色	茶色	砂粒少	良	口縁突帯と体部突帯は横ナデ外は横条痕	横ナデ	上半部 微妙に凹凸。
84 12	00760	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕	7.20				灰褐色	灰白色(下半)灰黒色	小砂粒		屈曲部の上部は縦のハケ目	ナデ?	
84 13	00762	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕	3.40			7.40	灰茶色(外底)黒み	灰茶色	小砂粒	良	体部は指押さえ　外底は条痕	ナデ	
84 14	00817	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕	3.60			7.80	うすい灰茶色	うすい灰茶色	砂粒少なめ	良	体部はナデ上げ　外底は粗いケズリ	ナデ	
84 15	00742	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕	2.85			7.40		うすい茶色(内底)灰黒色	砂粒わずか。やや軟質		横条痕の後に左上がりのナデ	ヘラ状工具のナデ上げ	
84 16	00795	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕	4.60			7.40	灰白色	灰白色	砂粒ほとんどナシ	やや軟質	ヘラ状工具のナデ上げ　外底もヘラ状工具のナ	ヘラ状工具のナデ	体部への開き小さい。
84 17	00811	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕					茶色(わずかに黒み)	灰茶色	小砂粒(表面には出ていない)		口縁部は横ナデ	湾曲部はナデ	
84 18	01131	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕					灰褐色	茶色	小砂粒わずか	良	口縁部は横ナデ　下半はナデ	指押さえ	※傾き不正確。
84 19	00815	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕					赤茶色	灰茶色	小砂粒	良	縦ハケ目	口縁よりナデ　横ハケ目　粗い	
84 20	00725	Ⅱ		第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕	4.20	19.00			灰茶色	うすい赤茶色	小砂粒。胎土密に近い。雲母	良	口縁部は横ナデ　体部はナデ	ナデ	5cm小破片。※ハケ目ない。

土器（土製品）の法量と特徴〈法量 上段:土器　下段:土製品〉

報告書 挿図番号	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	器種 様式など	器種	器高 長さ	口・器受部径 幅	最大径 厚さ	底・脚径・高台径 孔径	色調 外面色調	色調 内面色調	胎土	焼成	調整 外面調整	調整 内面調整	備考
84 21	00784	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕	1.20	22.40			うすい赤茶色	うすい赤茶色	砂粒少ない	良			
84 22	00779	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕	6.90	23.20			灰褐色	灰茶色	小砂粒。雲母	堅い	口縁部は横ナデ　体部はハケ目の後にナデ	口縁部は横ハケ目　体部はナデ 指頭圧痕多い	
84 23	00723	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	鉢	5.35	26.40			濃灰色	うすい灰色	砂粒きわめて少。雲母		口縁部は横ナデ　体部は細かなハケ目	ナデ	指頭圧痕　口縁の外反弱い。
84 24	00796	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕	6.10	23.40			うすい茶色	赤茶色	小砂粒	良	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	横ナデ後にナデ上げ	外面 ハケ目 粗い。屈曲部には細目のハケ目あり。
84 25	00726	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕	3.10	22.80			うすい茶褐色	赤茶色・うすい茶色	小砂粒	良	口縁部は横ナデ　下半は縦ハケ目	ナデ	屈曲不整。
84 26	00732	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕	3.95	21.00			灰茶色	濃灰色	小砂粒多い	堅い	口縁部は横ナデ　下半は縦ハケ目	横ハケ目	
84 27	00739	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕	3.70	31.40			茶色（口縁）黒斑	茶色			口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	口縁部は粗い横ナデ　体部は左斜行のハケ目	
85 28	00724	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕	4.90	22.00			灰白色	赤茶色	砂粒多い	良	口縁部は横ナデ　体部は粗い縦ハケ目	ナデ	ハケは粗目、明瞭。
85 29	00780	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕	6.80	22.00			茶色	やや黒み	砂粒少	良			屈曲部 肥厚。
85 30	00786	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕	5.40	26.40			うすい灰色	うすい灰色	砂粒少	やや甘い	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	外面の調整順 面白い。
85 31	00797	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕	4.00	29.80			茶褐色	赤茶褐色	極小砂粒	良	口縁部は横ナデ　体部縦ハケ目	外面色調ナデ　指頭圧痕	外面 ハケ目を横ナデ消し。
85 32	00721	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕	2.65	32.40			（口縁上面から外）赤茶色	黒色	砂粒含む	良	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	外面ややアバタ状に剥離。※継ぎ目よくわかる。
85 33	00787	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕	3.40	22.60			灰茶色	灰茶色	小砂粒少なめ	堅い	口縁部は横ナデ	ナデ上げ	口縁端 断面方形。口縁下は肥厚。整った形状をなす。
85 34	00790	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕	3.50	37.40			灰茶色	灰茶色	1mm大の砂粒多い。特に内面に露出している	良	口縁部は横ナデ	ナデ	
85 35	00737	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕	3.75			6.10	（外底も）赤茶色	茶褐色	小砂粒多い	良	粗い縦ハケ目　外底はナデ	ナデ	外面 板目 丁寧。
85 36	00792	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕	3.50			9.40	灰茶色	灰黒色	小砂粒	良	括れ部は縦ハケ目　外底はナデ	ナデ	
85 37	00778	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕	4.25			8.40	灰茶色	灰黒色	小砂粒多い。胎土粗い	やや甘い	ヘラ状工具のナデ上げ	ナデ?	全体的に磨耗。
85 38	00764	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕	8.00			7.80	うすい灰白茶色（外底も）	（内底）黒こげ	小砂粒	良	縦ハケ目　外底は指ナデ	ナデ?	よく整った形状。調整も丁寧。ハケ目は逆時計まわり。
85 39	00727	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕	7.95			7.70	灰白色	灰色	2〜4mm大砂粒多い	良	縦ハケ目　外底はナデ	砂粒露出　ハケ目	時計まわり。
85 40	00763	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕	7.00			8.00	茶色（下半）黒ずむ	茶褐色	小砂粒多い	良	縦ハケ目　外底はナデ	ナデ	分厚いつくり。
86 41	00816	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	壺					黒褐色	黒褐色	小砂粒（精良土に近い）		口縁部は横ミガキ	ナデ上げ	傾き不正確。ミガキ粗い。
86 42	00802	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	壺	2.65	10.60			丹塗り	丹塗り	精良土	堅い	横ナデ	横ミガキ	内面 ミガキ痕 明瞭 なめらかでない。
86 43	00783	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	壺	3.75	21.80			丹塗り	丹塗り	精良土に近い。雲母	良	横ミガキ?　丹塗り	横ミガキ?	全体に磨耗。5cm小片で傾き、径、不正確。
86 44	00758	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	壺	9.90	23.00			丹塗り	灰茶色	砂粒含む	良	口縁部は横ナデ　頸部は左上がりのナデ	口縁湾曲部は横ミガキ　頸部は左斜行のハケ目の後にナデ上げ	内面にも垂れているが、明瞭でない。調整やや雑。
86 45	00722	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	壺	4.95	24.40			灰白色	灰白色	精良土	良	口縁部は横ナデ　体部は横ミガキ	口縁部は粗い横ナデ　下半はナデ	器面調整は丁寧さに欠ける。器壁の中は濃灰色。
86 46	00738	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	壺	6.50	35.20				灰茶色	砂粒わずか。精良土ではない	良	粗い横ナデ　ミガキ状ではない	口縁部は横ナデ　頸部はナデ	調整 丁寧でなく、ミガキの効果なし。
86 47	00761	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	壺	3.70				灰茶色	灰茶色	小砂粒	堅い	ナデ?	頸部はナデ上げ　指押さえ	
86 48	00798	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	壺	4.05	18.00			濃灰色	濃灰色	1mm以下の小砂粒	良	口縁部は横ナデ　胴部上半は横ミガキ　下半には縦ハケ目	ナデ上げ	口縁部の折り曲げ 肥厚。
86 49	00789	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	壺	2.65	25.20			茶色（黒斑）	茶色	砂粒少ない	高温	口縁部は横ナデ　頸部は縦ミガキ	横ナデ	外面 タテ ハケ 雑。
86 50	00799	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	壺	5.90	21.20			灰白色	灰白色	小砂粒。胎土粗い	良	口縁部は横ナデ　頸部は摩耗	頸部は横ミガキ状	内面 横ミガキ 効果うすい。
86 51	00788	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	壺	2.45	33.40			灰褐色	灰褐色	砂粒きわめて少	堅い	口縁部は横ナデ　上面はミガキ? 頸部は部分的に縦のミガキか	横ナデ	※口縁部の粘土継ぎがよくわかる。
86 52	00729	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	壺	2.40			8.40	灰色	灰色	精良土。やや軟質		円盤部は横ナデ　外底はナデ　上部は不明	調整痕不明	両面なめらか。
86 53	00794	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	壺	3.70			7.50	茶色	茶色	内面 1〜3mm大砂粒露出。胎土粗い	良	横ミガキ	ナデ?	重みでシワ。分厚い底部。
86 54	00781	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	壺	2.95			14.00	丹塗り	灰白色	精良土	良	ナデ上げ　外底はナデ	ナデ　内底は指押さえ	外面 ナデ上げ 割りに丁寧。
86 55	00785	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	鉢	3.00	22.00			灰茶色	灰黒色	精良土	良	横ミガキ　摩滅で不鮮明	横ミガキ　摩滅で不鮮明	4cm小片。
87 56	00733	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	甕	3.55	15.00			茶色（部分的に黒褐色）	茶色	胎土、焼きは特別な違いはない	良	取っ手はヘラ状工具で成形	ナデ?	傾き、径不正確。
87 57	00759	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	鉢	7.10	18.40			うすい茶色	うすい茶色	小砂粒多く、胎土粗	良	口縁部は横ナデ	ナデ?	両面とも剥離。外面あばた状。
87 58	00807	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	鉢	5.00				灰褐色	灰色	砂粒ほとんどナシ。精良土	良	横ミガキ	横ミガキ	両面ともミガキでなめらか。傾き不正確。屈曲部よりハズレている。
87 59	00782	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	鉢	5.10	25.80			丹塗り?	黒色（わずかだが磨研風）			口縁部は横ミガキ　磨研状　丹塗り?	口縁部は横ミガキ	有段。
87 60	00808	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	壺	3.40			6.00	うすい灰茶色（外底）褐色気味	うすい灰茶色	小砂粒多い	良	ナデ　外底はケズリ状	剥離	
87 61	00791	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	高坏	9.40				茶色	茶色	小砂粒	堅い	全面横ミガキ	坏部はナデ	外面のミガキ丁寧でない。効果うすい。坏部 漆みがある形状。貼付突帯 形状雑。
87 62	00793	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	弥生土器	器台	5.25			8.30	赤茶色	赤茶色	小砂粒。剝りに密	良	端部は横ナデ　上部は縦ハケ目	ナデ	丁寧な調整。※天地逆か。
89 1	00843	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06　下	古式土師器	甕（C系）	2.75				灰黒色	灰色		普通	叩き痕	時計方向のケズリ	頸部 傾き不正確。器壁 3mmと薄いつくり。内面のケズリ 右方向。
89 2	00876	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06　下	古式土師器	甕（B系）	3.30			3.80	黒褐色（底外）	うすい茶	精良土	普通	横条痕	ナデ?	外面 叩き。内面 丁寧なナデでなめらか。
89 3	00844	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06　下	古式土師器	小型丸底鉢（C系）	4.50	13.40	14.00		茶色（外下半）橙色	茶色	精良土	良	口縁部は横ナデ　体部は細かなハケ目	ナデ	小破片で口径不確か。
89 4	00855	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06　下	古式土師器	高坏（B系）	4.90	17.00			明茶色	明茶色	4mm大の砂粒	堅い	横ナデ後に暗文風に縦ミガキ	口縁部は横ナデ　下半は右上がりのナデ	小片で口径不正確。
89 5	00875	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06　下	古式土師器	甕（B系）	1.95	28.00			茶黒色	茶色	砂粒少	普通	細かな縦ハケ目	細かな横ハケ目	甕の口辺としたがうすいつくりで口径も大きすぎる。
89 6	00819	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06　下	弥生土器	甕					濃褐色	灰茶色	砂粒少	良	ナデ	ナデ	傾き不正確。小さな三角凸帯。
89 7	00860	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06　下	弥生土器	甕					茶色（一部 黒斑）	茶色	砂粒ほとんどナシ	良	横条痕	擦刷痕	凸帯 三角形。内面はヘラ状工具によるナデ? 外面条痕 雑。
89 8	00848	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06　下	弥生土器	甕					うすい茶褐色	うすい茶色	砂粒少ない	良	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	逆時計回りの擦刷痕	

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器 下段:土製品〉												
挿図番号							器種		器高	口器受部径	最大径	底(脚)径・高台径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
89 9	00818	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	甕					灰黒色	灰茶色	砂粒わずか	良	横条痕	ナデ	蒲鉾断面 垂れ気味。
89 10	00842	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	鉢					灰褐色	灰褐色	砂粒少	堅い	横条痕	ヘラ状工具の横ナデ(擦刷痕)	
89 11	00846	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	甕	10.40	21.60			灰茶色	茶色	砂粒少	堅い	口縁突帯部は横ナデ 体部は横条痕	口縁部は横ハケ目残る 下半はナデ	外面 横条痕はシャープ。全面に施した後に胴凸帯を貼り付ける。
89 12	00865	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	甕	5.00	16.00			灰褐色	うすい茶色	わずかに砂粒	良	横ハケ目をナデ消し	横ハケ目をナデ消し	内外面とも細かなハケ目を部分的ナデ消し。
89 13	00822	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	甕	4.80	17.60			灰褐色	灰色	砂粒少	良	口縁突帯部は横ナデ 体部はナデ	粗い横条痕	三角突帯。
89 14	00833	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	甕	2.40			6.10	うすい灰茶色	灰茶色(わずかに灰黒色)	1mm大の砂粒	良	ヘラ状工具のナデ 外底はナデ	ナデ	
89 15	00834	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	甕	2.80			6.40	うすい茶色	灰黒色	小砂粒含む	良	横条痕 外底はナデ	ナデ	
89 16	00862	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	甕	1.80			6.90	うすい茶褐色	うすい茶褐色	極小砂粒	堅い(高温)	横ナデ 条痕 外底はケズリ	ナデ	細いヘラ状工具のケズリ。
89 17	00820	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	甕					黒色	灰色	砂粒少	良	口縁部は横ナデ	横ハケ目	
89 18	00821	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	甕					灰茶色(やや褐色)	外茶色	砂粒少	良	粗いハケ目	粗いハケ目	
89 19	00878	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	壺					うすい茶色	灰茶色	砂粒少ない	良	横ナデ?	剥離	
89 20	00841	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	甕	2.35	20.60			灰褐色	灰茶色	砂粒わずか	堅い	粗い縦ハケ目	横ハケ目	内面 粗いハケ目 刻み状。
89 21	00864	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	甕	13.05	24.00			黒褐色	茶色	砂少	普通	口縁部は横ナデ 体部は斜行ハケ目 部分的にナデ消し	沓曲部はハケ目 下半はナデ	内外面ともに丁寧なハケ。
89 22	00845	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	甕	8.10	23.20			灰茶褐色	灰茶色(黒斑)	1〜3mm大砂粒	良	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	雑なナデ	口縁の粘土接合。外面 ハケ目 部分的にナデ消し。
89 23	00863	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	壺	9.20			8.40	茶色	灰黒色	わずかに小砂粒	良	縦ハケ目 外底ナデ	ハケ目	外 ハケ目 丁寧。内 同じ工具。
90 24	00859	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	壺	2.70	10.60			うすい茶色	うすい茶色	砂粒少	普通	口縁部は横ナデ 頸部はナデ上げ	ナデ	4cm小破片。口縁 強く屈曲し、丸くおさめる。
90 25	00825	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	壺	2.95	15.60			灰茶色	灰黒色	精良土	良	横ナデ? 滑らか	横ナデ わずかに条痕	
90 26	00857	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	壺	3.40	17.60			うすい白茶色	うすい白茶色	砂粒少ない	堅緻	口縁部は横ナデ 頸部は縦ミガキ 暗文状	口縁部は左上がりのミガキ状 下半は横ミガキ状	器形不明。甕の口縁とする。
90 27	00879	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	壺					うすい茶色	(口縁〜内面)黒色	砂粒少	堅い	丁寧なナデ	横ハケ目	傾き不正確。
90 28	00850	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	壺					うすい灰茶色	うすい灰茶色	砂粒少。精良ではない	良	ミガキ痕は不鮮明だが滑らか	ナデ	文様は整っている。
90 29	00849	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	壺					灰(茶)色	灰(茶)色(内壁は灰黒色)	砂粒少ない	良	文様下方は左横ミガキ 下半はナデ	ナデ	傾き不正確。
90 30	00861	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	壺	1.45			7.25	黒色(器壁も中も)	黒色(器壁も中も)	極小砂粒。精良土ではない	普通	外底はケズリの後に雑なミガキ	ミガキ	円盤状の底部。
90 31	00835	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	壺	2.60			8.60	褐色(やや灰色ぎみ)	褐色(やや灰色ぎみ)	砂粒少(精良ではない)	良	縦ナデの後に横ナデ	ナデ	滑らか。
90 32	00836	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	壺	4.00			12.40	うすい灰茶色	うすい灰茶色	砂粒少	堅い	縦ハケ目	粗い横ハケ目	接合面観察できる。底部ケズリ。外面 丹塗り。
90 33	00854	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	壺	4.85	28.40			うすい茶褐色	うすい茶色	砂粒少なく、精良土に近い	やや軟質	横ナデ 縦の暗文	丁寧なミガキで滑らか	外面はタテのミガキが暗文風の効果。
90 34	00858	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	壺	5.00	30.00			灰白色	灰白色	砂粒少だが密ではない	堅い	口縁部は横ナデ 頸部はナデ	ミガキ状	器壁 うすいつくり 割りにシャープ。
90 35	00853	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	甕	4.50	22.00			黒色	灰褐色	1〜2mm大の砂粒多い。特に内面下半で露出	堅い	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	砂粒露出	外面のハケ目雑。
90 36	00852	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	甕	2.60	27.00			うすい茶色	うすい茶色	砂粒少	普通	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	強く横ナデ	口縁両端 丸み。小破片で径、傾き不正確。頸部の傾きからすると壺×?口辺の厚みからは甕○か?
90 37	00847	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	甕	5.00	22.40			うすい茶色	うすい茶色	P	堅い	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	ナデ 部分的に横ナデ	口縁 下方に垂れ気味。
90 38	00838	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下		甕	4.85	23.20			灰茶色	灰茶色	砂粒少ない	良	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	口縁部は横ハケ目 下半はナデ	指頭圧痕 沈線は不鮮明。いまだ沈線の意識はないだろう。内外のハケ目差なし。
90 39	00880	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	甕	6.55	26.00			灰褐色	灰茶色	極小砂粒	普通	口縁上面はハケ目 沈線下は縦ハケ目	口縁部は横ナデ 下半はナデ	外面のハケ目 粗い。沈線は浅くにぶい。
90 40	00839	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	甕	5.35	27.00			灰茶色	茶色(やや赤み)	1mm大の砂粒多い	良	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	左上がりのナデ	凸帯 丸み。ハケ目 粗い この後に横ナデ。
90 41	00856	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	甕	5.80	28.60			うすい灰褐色	うすい灰褐色	砂粒少。胎土 粗い	普通	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	ナデ上げ	沈線は明瞭でない。三角凸帯 背低い。稜 シャープ欠く。
90 42	00877	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	甕	5.30			6.60	赤茶色(外底)茶色	茶色	2、3mm大の大きめの砂粒多い	高温	粗い縦ハケ目 外底はケズリ	ナデ	外面 粗い条痕。この後ナデ消しか?外底 砂粒露出。
90 43	00837	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	甕	5.10			7.40	赤茶色	灰褐色	1〜2mm大砂粒	良	縦ハケ目 部分的にナデ消し 外底はナデ	ナデ	割に丁寧な調整。
90 44	00823	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	甕	6.80			8.20	灰茶色	黒灰色	小砂粒	良(高温)	縦ハケ目 外底は押さえ	ナデ 指頭圧痕	外底もつくり 割りに丁寧。
90 45	00851	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	甕	3.80			9.80	茶褐色	茶褐色	小砂粒	堅い	ハケ目	粗いナデ?	太骨なつくり。外面のハケ目 逆時計。
90 46	00840	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	高坏	3.65			27.20	褐色	褐色	極小砂粒	良	裾部は細かい横ミガキ 上半は縦ハケ目	粗い横ハケ目	蓋か?外面のミガキが効果弱い。
90 47	00824	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	鉢	4.30	15.40			灰茶色	灰茶色	砂粒少 精良に近い	良	横ナデ	横ミガキ	内面 屈曲部 横ナデ強い。
90 48	00199	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	土製品	土玉・投弾	2.76	2.31	2.03		灰色		砂粒露出ナシ	良	一部に布目痕?		投弾にしてはいびつ。
92 50	01124	Ⅱ	N	31	第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	古式土師器	甕(C系)	6.40	20.00			灰色(スス)	灰色	砂粒少	普通	口縁部は横ナデ 体部は右斜行のハケ目	体部はケズリ	ハケ目 横ナデとも丁寧な調整。
92 51	01119	Ⅱ	N	30	第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	古式土師器	小型壺	7.90		9.60		うすい灰茶色	うすい灰茶色	砂粒きわめて少。精良土ではない	普通	胴部上半は横ミガキ状 下半は粗いハケ目状のナデ	ナデ?	
92 52	01123	Ⅱ	N	31	第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	古式土師器	甕	4.00			4.20	灰色	うすい茶色	1mm以下の砂粒	良	雑なナデ 上端部は横ナデ	ナデ上げ	
92 53	01118	Ⅱ	N	30	第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	弥生土器	壺	2.50			8.00	灰褐色	灰褐色	砂粒少ないが、精良でない	普通	ナデ上げ 外底はナデ	細いヘラ状工具のナデ	外面 粘土の貼り付け。壺底部。
92 54	01362	Ⅱ	N	31	第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下	古式土師器	高坏(B系)		20.35			にぶい橙〜橙色、褐灰色	にぶい褐色〜褐色、黒褐色	密。径1〜5mmの砂礫を多く含む。石英(〜5mm)が最も多く、次いで長石(〜3mm)	良好	坏部はケズリ		坏底部はハケメ後ナデさらに雑なミガキ、上半は横ハケ後雑な縦ミガキ	坏底部は円盤充填法。坏外面の上下半の境に接合痕。内外面とも磨滅。
93 1	01363	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−01	古式土師器	高坏(D系)		18.85			にぶい橙〜橙色	にぶい橙〜黄橙	密。砂礫があまりみられない。径1mm以下の石英、長石、金雲母など有り	良好	坏下半は横ミガキ、上半は細かいハケメ後雑な横ミガキ	坏底部はナデ後雑なミガキ、屈曲部に回転横ハケ 坏上半は回転横	坏・脚部の接合は脚頂部凸面付加法。
93 2	01365	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−01	古式土師器	高坏(D系)		19.65			橙〜にぶい褐色	にぶい褐色〜灰	密。径1〜3mmの砂礫がやや多くみられる。石英(〜3mm)が多く、次いで長石(〜2mm)。他には、褐色土粒、金雲母、ガラス、角閃石がみられる	普通	磨滅して不明	坏底部は横ハケ後ナデそしてミガキ 坏上半は磨滅して不明	坏・脚部の接合は脚頂部凸面付加法。坏上下半の境に接合痕あり。
93 3	01361	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−01	古式土師器	小型丸底壺(C系)	7.45	12.55	7.80		にぶい橙	にぶい橙	径1mm以下の粗砂を若干含む。石英、長石、白色砂粒、ガラスがあり	良好	胴部はケズリ後横ミガキ 口縁部は縦ハケ後端部に横ナデ、頸部に横ミガキ	胴部はハケ後ナデ 口縁部はハケメ後端部に横ナデ、頸部付近に横ミガキ	胴部に黒褐色のものが付着。
94 1	00976	Ⅱ	Q	30	第Ⅱ面掘り下げ	SG−02	弥生土器	甕	11.00	26.00			黒褐色(一部赤茶色)	灰茶色	砂粒きわめて少	良	横条痕	擦刷痕	

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器（土製品）の法量と特徴〈法量 上段：土器　下段：土製品〉												
挿図番号							器種		器高	口・器受部径	最大径	底(脚)径/台径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
94 2	00977	Ⅱ	Q	30	第Ⅱ面掘り下げ	SG−02	弥生土器	甕	4.30	22.00			うすい茶色（一部赤み）	うすい茶色	砂粒ほとんどナシ	堅い	横条痕	擦刷痕	三角形凸帯。
94 3	00975	Ⅱ	Q	30	第Ⅱ面掘り下げ	SG−02	弥生土器	壺	12.10	21.60			丹塗り	うす茶色	精良土	良好	上半は横ミガキ　下半は弧状のミガキ	上半は横ミガキ　下半は縦ハケ目	内外面 丁寧なミガキ。
94 4	00974	Ⅱ	Q	30	第Ⅱ面掘り下げ	SG−02	弥生土器	壺	2.70			8.60	茶褐色	灰黒色	精良土（わずかに極小砂粒）	堅緻	縦のミガキ？	ミガキ	
94 5	00973	Ⅱ	Q	30	第Ⅱ面掘り下げ	SG−02	弥生土器	壺	5.20		13.20		橙茶色	灰茶色	精良土	堅緻	横ミガキ	横ナデ	内面 横ナデ。外面 細かな横ミガキ。径の大きい胴部。頸部の境 不明瞭。
95 1	00382	Ⅱ	Q	33	第Ⅱ面掘り下げ	SG−03	弥生土器	甕	10.00	25.80			黒褐色	茶色	1〜3mm大の砂粒多い	良	口縁部は横ナデ　下半は粗いハケ目	口縁部は横ナデ　下半は摩耗し砂粒露出	外面のハケ目は粗く、鋭い。沈線 棒状工具 浅く、直線ではない。
95 2	00385	Ⅱ	Q	33	第Ⅱ面掘り下げ	SG−03	弥生土器	甕	11.75	28.00			淡灰茶色	淡灰茶色	小砂粒	良	口縁部は横ナデ　体部はハケ目	口縁部は横ハケ目　体部上半は左上がりのナデで滑らか　下半は摩	体部ふくらむ。口縁内端 少し上向く。外面のハケ目細かい。
95 3	00384	Ⅱ	Q	33	第Ⅱ面掘り下げ	SG−03	弥生土器	甕					灰褐色	灰色	小砂粒多い。雲母	良	口縁部は横ナデ　体部は細かなハケ目	口縁部はケズリ状のナデ　体部は左上がりのナデ	沈線が後。ハケ目細かい。横ハケに近い。厚い器片。
95 4	00383	Ⅱ	Q	33	第Ⅱ面掘り下げ	SG−03	弥生土器	甕	16.05				灰色（下半）黒色、ススあり	灰（白）色	砂粒ほとんどナシ	良	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ　上半はナデ上げ	外面ハケ目重ね。
95 5	00381	Ⅱ	Q	33	第Ⅱ面掘り下げ	SG−03	弥生土器	甕	12.55			7.85	灰（白）色	灰茶色	砂粒少ない	良好	体部は縦ハケ目　括れ部はナデ	内底周辺は横ナデ　上半はヘラ状工具でナデ上げ	器面やや凹凸目立つ。ハケ目は細かい。
95 6	00380	Ⅱ	Q	33	第Ⅱ面掘り下げ	SG−03	弥生土器	甕	9.30			7.00	灰茶色	灰茶色	小砂粒多く、胎土粗い	堅い	縦ハケ目　外底はケズリ状の強いナデ	ミガキ状のナデ上げ	
96 1	00210	Ⅱ	P	29	第Ⅱ面掘り下げ	SG−04	弥生土器	甕	7.10				凸帯より下は黒褐色、上は赤茶色	灰黒色、下半は黒色（こげではない）	砂粒少ない	堅い	屈曲部下半は横条痕	ナデ（擦刷痕）	凸帯 薄鉢 刻み目菱形。
96 2	00213	Ⅱ	P	29	第Ⅱ面掘り下げ	SG−04	弥生土器	甕	5.90	21.60			黒褐色	茶色（やや赤み）	砂粒少ないが密でない	良	口縁部は横ナデ　下半は縦のハケ	粗いハケ目　下半はナデ	刻み目上端より。如意の屈曲弱い。
96 3	00211	Ⅱ	P	29	第Ⅱ面掘り下げ	SG−04	弥生土器	壺	7.65	29.80			茶褐色	（口縁平坦より内	砂粒（大きめ）含むが少ない	良	口縁部は横ナデ　頸部はナデ	頸部はハケ目を横ナデで消す	器壁厚め。確かな成形。
96 4	00209	Ⅱ	P	29	第Ⅱ面掘り下げ	SG−04	弥生土器	蓋	5.60			28.00	茶色	茶色	小砂粒多くはないが、表面に浮き上がる	良	縦ハケ目	ナデ	器面凹凸。端部に黒色（ススか）。
96 5	01306	Ⅱ	P	29	第Ⅱ面掘り下げ	SG−04	弥生土器	壺	(31.50)		(48.40)		黄褐色	灰灰白色	5mmまでの砂粒を多く含む	良好		胴部上半は横ミガキ　下半は縦のミガキ	ナデ。
98 1	01259	Ⅱ	P	32	第Ⅱ面掘り下げ	SG−05	弥生土器	甕	26.20	25.90		8.50				良好	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	擦刷痕　一部に条痕残る	
98 2	01260	Ⅱ	P	32	第Ⅱ面掘り下げ	SG−05	弥生土器	甑	30.30	22.70		7.00	淡橙〜灰褐色	淡橙色（橙味をおびた灰白色）	1〜3mmの砂粒を多く含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	
99 1	00104	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−06	弥生土器	壺	37.80	17.25		10.30	茶色		砂粒少	良	頸部から口縁部は横ナデ　一部に縦ハケ目残る　頸部と肩部に文様	頸部から口縁部は横ハケ目　体部はナデ	施文は雑。胴部の中央に黒斑。
99 2	01081	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−06	弥生土器	壺	8.00			12.40	灰茶色	灰茶色	小砂粒多い		ヘラ状工具で左上がりのナデ　外	左上がりのナデ　内底は横ナデ	外面 粗いミガキ。
99 3	01080	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−06	弥生土器	甕	3.50			7.80	うすい茶色	うすい茶色	1mm以下の砂粒		縦ミガキの後にナデ仕上げ	ナデ	内面 やや露出。外面は丁寧な調整でなめらか。
99 4	01083	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−06	弥生土器	甕	5.20			6.30	灰色	うすい茶色	砂粒きわめて少	普通	縦ハケ目　外底は指押さえ	ナデ	
99 5	01082	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−06	弥生土器	甕	6.10			9.10	赤茶色	褐色	小砂粒多め	普通	縦ハケ目　一部ナデ消し　外底指押さえ	ナデ	器面 砂粒露出。
100 1	00129	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−07	弥生土器	甕	27.00	22.00			黒褐色	茶褐色（下半）	砂粒少ない	良	口縁と屈曲部の突帯は横ナデ　外は全面横条痕	口縁部は横ナデ　外は横条痕	内外面とも同じ粗い条痕。中心軸やや傾くか？ 凸帯 背の低い三角形。胴凸帯 低い三角形。
100 2	00332	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−07	弥生土器	甕	10.20	28.60			茶色、一部赤み（凸帯より下半）黒色、スス	茶色			口縁部と突帯は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ　下半砂粒露出	口縁、肥厚 方形断面。
100 3	00334	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−07	弥生土器	甕	4.90			7.50	赤茶色（黒斑、外	灰茶色	小砂粒多め	良	横条痕	ヘラ状工具のナデ上げ　逆時計	
100 4	00335	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−07	弥生土器	甕	7.10			8.40	茶色	濃灰茶色	小砂粒多め	良	縦ハケ目は逆時計回り　外底ナデ	砂粒露出　ナデ？　炭化物	しっかりしたつくり。
100 5	00336	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−07	弥生土器	甕	8.20			7.45	灰（白）色	灰茶色	砂粒ほとんどナシ	良	縦のハケ目　底部縁は横ナデ	ナデ	丁寧な調整。
100 6	00330	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−07	弥生土器	壺	3.60	30.00			灰茶色	灰茶色	砂粒きわめて少	良好	口縁部から頸部は横ナデ	横ナデ	横ナデ丁寧。
100 7	00331	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−07	弥生土器	壺	3.85	44.20			茶色	茶色	小砂粒含む	良	横ナデ	横ナデ	丁寧な調整。口縁上面、横ナデの後に部分的にミガキ。
100 8	00333	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−07	弥生土器	器台	10.30			12.20	茶色	赤茶色	小砂粒多い	良	縦ハケ目	底部横ナデ	調整丁寧。外面粗いハケ目。
101 1	00984	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−08	弥生土器	甕	8.90	23.40			茶褐色	うすい茶色	小砂粒多め	普通	口縁部は横ナデ　体部はハケ目	口縁部はナデ　下半は砂粒露出	厚手のつくり。胴に張りナシ。
101 2	00985	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−08	弥生土器	甕	15.50	25.60			茶褐色	うすい茶色	1〜3mm大の砂粒多い	普通	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目　砂粒露出	ナデ　指押さえ	
101 3	00980	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−08	弥生土器	甕	7.70	24.00			うす茶色（外面凸帯下）黒斑。一部橙色	うす茶色	砂粒少	高温	口縁部は横ナデ　口縁下は横ナデ	ナデ	
101 4	00979	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−08	弥生土器	壺	3.20	18.20			茶色	茶色	砂粒少。精良に近い	普通	横ナデ	斜行ハケ目残る	口径の割りに器壁 厚い。
101 5	00978	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−08	弥生土器	壺					灰茶色	うすい灰色	砂粒きわめて少	普通	横ナデ	ナデ	文様 浅く不鮮明。凸帯 三角形 シャープさ欠く。外面 ミガキ痕不鮮明だがなめらか。
101 6	00982	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−08	弥生土器	壺					うすい茶色	うすい茶色	砂粒ほとんどナシ（精良土に近い）	良	ナデ	左上がりのナデ	
101 7	01134	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−08	弥生土器	壺	22.90		33.90	11.90	うすい灰茶色・うすい茶色	うすい茶色	砂粒少。胎土密でない	普通	幅広の横ミガキ	上半は横ナデ　下半はナデ	外面のミガキ痕明瞭。文様あり。胴部と底部は同一個体の可能性が強いが、直接合しない。
101 8	00983	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−08	弥生土器	壺	5.20	46.40			うすい灰色	うすい灰色	砂粒少	普通	上半は細かなハケ目　下半は横ナデ	横ナデ	10cmの破片。傾き不正確。
101 9	00981	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−08	弥生土器	壺	4.50	49.80			うす茶色（肌色）	うす灰茶色	砂粒ほとんどナシ、胎土密ではない	高温	横ナデ		
103 1	00132	Ⅱ	P·O	31	第Ⅱ面掘り下げ	SG−09	弥生土器	甕	28.00	30.00			茶色	茶色	小砂粒多い	良	口縁部は横ナデ　体部は細かな縦ハケ目	口縁部は横ナデ　体部はナデ	よく整った形状。調整も丁寧。内面底部近くで指押さえ。
103 2	01117	Ⅱ	P	31	第Ⅱ面掘り下げ	SG−09	弥生土器	甕	5.50			6.70	うすい灰褐色（外底）赤茶色	黒色	1mm以下の砂粒	普通	縦ハケ目　外底ナデ	ナデ	外面 ハケ目顕著 くびれ弱い。分厚いつくり。
103 3	01116	Ⅱ	P	31	第Ⅱ面掘り下げ	SG−09	弥生土器	器台	10.90			8.50	赤灰色	赤灰色	1mm以下の砂粒少なめ	普通	縦ハケ目	ナデ　絞り痕	丁寧な調整。軸やや傾く※天地 逆だろう。
104-a 1	00216	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−10	弥生土器	壺	3.90			8.00	灰褐色	灰褐色	1mm大以下の砂粒多い	良	粗いナデ	内底は横ナデ　上半はナデ	器面の調整粗い。
104-a 2	00212	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−10	弥生土器	甕	11.10	18.40			黒茶色	茶色	砂粒多め	堅い	口縁部は横ナデ　粗い縦ハケ目	上半は粗いハケ目　下半はナデ	口縁やや肥厚。体部凹凸目立つ。ハケ目は粗く雑。
104-a 3	01127	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−10	弥生土器	甕	6.40	25.20			茶色（部分的に褐色）	茶色	砂粒少、密でない	良			2種の工具を用いてハケ目。

報告書 挿図番号	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器（土製品）の法量と特徴〈法量 上段：土器　下段：土製品〉													
							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・髙台径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
104-a 4	00215	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−10	弥生土器	甕	6.30			7.80	灰茶色	黒色	砂粒多い。胎土もあらい	堅い	縦ハケ目　外底はナデ	砂粒露出し調整痕不明	外面も丁寧なハケ目。
104-a 5	00214	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−10	弥生土器	甕	7.40			7.30	灰茶色	黒色	小砂粒多い	きわめて良い	縦ハケ目の後にナデ	ナデ	内面は砂粒露出気味。外面はハケ目をナデ消し。全体になめらか。底部、楕円形。
104-b 1	00241	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−11	弥生土器	壷	7.15				赤茶色	灰茶色	砂粒ほとんどナシ	堅い	幅広の横ミガキ	上からミガキ状の横ナデ　指押さえ状の縦ナデ	丁寧なミガキ、ナデではないが、なめらか。体・頸部の境、粘土継ぎ目の指圧痕。
104-c 1	00245	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−12	弥生土器	甕	8.30	17.00			茶褐色	茶色	小砂粒多い	良	口縁部は横ナデ　体部はヘラ状工具のナデ上げ	ナデ　縦の指押さえ	傾き?
104-c 2	00247	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−12	弥生土器	甕	7.65	21.20			灰黒色	茶色	小砂粒多め	良	縦のハケ目を数回重ねる	口縁部は横ハケ目　下半はナデ	
104-c 3	00243	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−12	弥生土器	甕	9.00	21.20			黒灰色	茶色	小砂粒多い	良	口縁部は横ナデ　下半は縦ハケ目をナデ消し	口縁部はハケ目の後に横ナデ　下半はナデ　指頭圧痕	ハケ目粗く、重ねている。
104-c 4	00246	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−12	弥生土器	甕	9.20	25.40			灰褐色	灰白色	砂粒少ない	堅い	口縁部は横ナデ　体部は左上がりのナデ	口縁部は横ナデ　下半はナデ	
104-c 5	00250	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−12	弥生土器	甕	5.30			6.70		(底)黒み	1mm以下の砂粒きわめて多い。胎土粗い	良	縦ハケ目を横ナデで消す	砂粒露出	
104-c 6	00251	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−12	弥生土器	甕	6.00			8.20	灰茶色	灰茶色	砂粒少ない	良	ヘラ状工具でナデ上げ	ナデ　指押さえ	外面は丁寧なナデ上げ。
104-c 7	00249	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−12	弥生土器	壷	4.80			11.40	灰茶色	灰茶色	砂粒少ないが、胎土粗い	堅い	ヘラ状工具で左上がりのナデ	ナデ　黒斑	内面に黒斑あり。
104-c 8	00248	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−12	弥生土器	鉢	2.05	18.60			灰黒色(須恵器風)	灰黒色(須恵器風)	砂粒少。精良土	良、堅緻	摩滅	横ミガキ	口縁部は先端で小さく屈曲する。4cm小破片。
104-d 1	00991	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−13	弥生土器	甕	8.10	28.20			灰茶色(口縁部)ブチ灰黒色	灰茶色	小砂粒少ない	良	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目の後にナデ	ナデ	外面 砂粒浮き出す。外面の調整 特徴。
104-d 2	00990	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−13	弥生土器	甕	8.35	26.20			黒色(黒斑)	(口縁上面より内側)うすい灰色	1mm以下の砂粒	堅い	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	外面 粗いハケ目。
104-d 3	00986	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−13	弥生土器	甕	7.20			7.80	灰茶色	黒色	砂粒少。ほとんど砂粒露出していない	普通	粗い縦ハケ目　外底はナデ	ナデ	
104-d 4	00987	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−13	弥生土器	器台	13.20			8.40	茶色	茶色	1mm以下の砂粒多いが、胎土は密	普通	縦ハケ目	ナデ	外面の調整丁寧。
105 1	01111	Ⅱ	O	31	第Ⅱ面掘り下げ	SG−14	弥生土器	甕	3.70	19.80			うすい灰茶色	うすい灰色	小砂粒多い	普通	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	口縁部は横ハケ目　体部はナデ	屈曲 長く強い。
105 2	01126	Ⅱ	O	31	第Ⅱ面掘り下げ	SG−14	弥生土器	甕	4.80	25.40			灰色	灰色	1mm以下の砂粒	普通	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	丁寧なナデ　滑らか	内外面とも調整丁寧。
105 3	01107	Ⅱ	O	31	第Ⅱ面掘り下げ	SG−14	弥生土器	甕	5.50	28.60							口縁部は横ナデ	横ナデ	
105 4	01112	Ⅱ	O	31	第Ⅱ面掘り下げ	SG−14	弥生土器	甕	4.60	30.80			うすい灰茶褐色	うすい灰茶色	小砂粒	普通	口縁部は横ナデ　体部はナデ	ナデ	外面 砂粒露出。口縁端部 褐色 濃い。
105 5	01110	Ⅱ	O	31	第Ⅱ面掘り下げ	SG−14	弥生土器	器台	6.75	9.80			灰茶色	灰茶色	砂粒少	普通	縦ハケ目	ナデ	外面 細かいハケ目 不明瞭。
105 6	01108	Ⅱ	O	31	第Ⅱ面掘り下げ	SG−14	弥生土器	壷	3.25	7.60			灰色	灰色	1mm以下の砂粒	普通	ナデ上げ　外底ナデ	ナデ上げ	内外とも丁寧なナデ調整。
106 1	00186	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−15	弥生土器	甕	8.50	21.60			黒褐色	灰茶色	小砂粒含むが多くない。雲母	堅い	口縁突帯部は粗い横ナデ　下半はナデ	横ナデ　工具痕が残る	蒲鉾形凸帯。外面凹凸。口縁波打つ。内面の横ナデに特徴的。
106 2	00187	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−15	弥生土器	壷	2.50	24.00			丹塗り	丹塗り	精良土	堅く、軟質でない	口縁突帯部は横ミガキ　下半は縦ハケ目の後に横ミガキ	横ミガキ　下半にハケ目残る	細かな横ミガキ。口径不正確。
106 3	00358	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−15	弥生土器	壷	10.80		21.60		茶色	茶色	精良		丁寧な横ミガキで滑らか	頸部はナデ　胴部上半は右上がりのナデ　下半は横ナデ	外面丁寧なミガキで光沢。内面、頸・胴部境は横ナデ。
107 1	00131	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	住　No.31·32	弥生土器	甕	9.60	17.15			茶色(外下)黒色	茶色	砂粒少	堅い	口縁と屈曲部の突帯は横ナデ　屈曲部上半は横条痕	ナデ	外面の条痕 うすい。内面はナデ。口縁凸帯 下向き三角形。胴凸帯 胴のラインにつながる。
107 2	01054	Ⅱ	P	26	第Ⅱ面掘り下げ	No.07	弥生土器	甕	6.75	18.60			うすい茶褐色	うすい肌色	小砂粒	普通	擦刷痕	擦刷痕	外面 粗いナデ 本例のみ。
107 3	00130	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	住　No.31·32	弥生土器	甕	12.30	22.40			黒褐色	茶色	砂粒少	良	口縁と屈曲部の突帯は横ナデ　外は全面横条痕	口縁部は横ナデ　外は横条痕　目が粗い	口凸帯 背の高い三角形。胴凸帯 三角形。
107 4	00175	Ⅱ	P	27	第Ⅱ面掘り下げ	No.23以外、土器にはNo.11と注記	弥生土器	甕	15.75	23.00			黒褐色	灰茶色	砂粒少ない	大変よい	口縁部突帯と屈曲部突帯は横ナデ　屈曲上半は粗い横ナデ　下半は横条痕	ナデ	突帯は口·体部ともにやや波打つ。口縁 三角形。体部も同じ。口縁に比べ、間隔が開いている。
107 5	01258	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	南東隅掘下げ	弥生土器	甕	17.10	24.20			黄茶褐色	淡黄茶褐色(～灰褐色)	精良土に1～2mm砂粒普通量。内面露出	良好	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	擦刷痕　一部に条痕残る	
107 6	00964	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	P−うー4	弥生土器	甕	2.25			7.80	うすい灰茶色	うすい灰黒色	砂粒少。胎土密ではない	高温	ナデ　外底は木葉痕	細かいハケ目	外底 葉脈痕後 細い工具の雑なナデ。
107 7	01048	Ⅱ	P	26	第Ⅱ面掘り下げ	No.04	弥生土器	甕	4.35			7.00	灰茶色	黒褐色(炭化物)(内底は灰茶色)	砂粒少	普通	粗いハケ目の後にナデ上げ	ナデ　内底縁に指頭圧痕	底部 蛇ノ目状。
107 8	01052	Ⅱ	P	26	第Ⅱ面掘り下げ	No.11	弥生土器	甕	7.60	23.20			灰褐色	灰茶色	小砂粒	良	口縁部は横ナデ　体部はナデ	砂粒露出	口縁 屈曲強く短い。
107 9	01057	Ⅱ	P	26	第Ⅱ面掘り下げ	一括	弥生土器	甕	4.50	19.60			うすい灰白茶色	うすい灰白茶色	砂粒きわめて少	高温	口縁部は横ナデ　体部はナデ	ナデ	外面のナデ調整丁寧。
107 10	01056	Ⅱ	P	26	第Ⅱ面掘り下げ	一括	弥生土器	甕	5.15	22.20			濃褐色	うすい茶色	小砂粒多い	普通	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目部分的に横ナデ消し	ナデ	屈曲 短小。
107 11	01053	Ⅱ	P	26	第Ⅱ面掘り下げ	No.08	弥生土器	甕	11.60	29.00			うすい茶色(外面に灰色斑)	うすい茶色	小砂粒	高温	口縁部は横ナデ　体部はナデ	左上がりのナデ	口縁 小さく屈曲。
108 12	01261	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	北拡張区粘質土	弥生土器	甕	26.20		(24.40)	8.30	橙色	淡茶褐色	1～2mm砂粒含む(量、普通)石英·長石	良好	体部は縦ハケ目　底部括れ部はナデ　指頭圧痕	ナデ	内底縁は指頭圧痕。
108 13	01058	Ⅱ	P	26	第Ⅱ面掘り下げ	一括	弥生土器	甕	5.20	35.80			うすい茶色	灰色	小砂粒	普通	口縁部は横ナデ	口縁部は粗いハケ目　ナデ	
108 14	01101	Ⅱ	P	28	第Ⅱ面掘り下げ		弥生土器	壷	2.20				濃灰色	濃灰色	精良土	堅緻	横ミガキ　二重弧文貼り付け	横ナデ	
108 15	00965	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	P−うー4	弥生土器	壷	6.20			11.20	うすい灰褐色	うすい灰茶色	砂粒少(精良でない)	普通	細かな横ミガキ　外底はナデ	ヘラ状工具のナデ	外面 細かなミガキだが、特に丁寧なわけではない。
108 16	00176	Ⅱ	P	27	第Ⅱ面掘り下げ	No.23以外、土器にはNo.11と注記	弥生土器	壷	13.70				茶色	茶色	小砂粒多い(磨耗で露出しているので)	良	ナデの後に沈線による連弧文	頸部上半は横ナデ　下半はナデ	文様 連弧文(三重線) 浅い沈線。頸部、口縁の境界は不明瞭。
108 17	01304	Ⅱ	P	27	第Ⅱ面掘り下げ	No.23	弥生土器	甕	47.00		(44.00)	11.50	淡橙色	淡橙色	1～2mm砂粒含むが比較的少ない	普通			
108 18	01106	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	南東隅掘下げ	弥生土器	壷	3.00	30.60			うすい茶色(一部 褐色)	うすい茶色(一部 褐色)	砂粒少で精良に近い	普通	口縁上面に貼り付け文　頸部は暗文風の縦ミガキ	ナデ?	口縁上面 2列の貼り付け。12cm小片。
108 19	00963	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	P−うー4	弥生土器	高坏	3.00				濃灰茶色	濃灰茶色	小砂粒多い。胎土粗	普通	突帯は横ナデなし	ナデ	三角凸帯(丸み)。細く、浅い沈線 不規則。
108 20	01049	Ⅱ	P	26	第Ⅱ面掘り下げ	一括	弥生土器	高坏	6.70				うすい赤茶色(脚柱部)茶褐色	(坏内)灰黒色	小砂粒	良	脚柱部は縦ナデ		坏部はナデ
109 21	01051	Ⅱ	P	26	第Ⅱ面掘り下げ	No.02	弥生土器	鉢	9.40	35.60			うすい灰褐色	うすい灰褐色	砂粒少	普通	口縁部は横ナデ　体部は横ミガキ	口縁部は横ミガキ　下半は右上がりのナデ	中型の鉢。内外面 丁寧な調整。
109 22	01055	Ⅱ	P	26	第Ⅱ面掘り下げ	No.03	弥生土器	鉢	5.40	38.00			茶褐色	黒褐色	砂粒少	堅い	口縁部は横ナデ　下半は横ミガキ	横ミガキ	内外面 横ミガキ 丁寧。口径やや不正確。
109 23	01050	Ⅱ	P	26	第Ⅱ面掘り下げ	No.10	弥生土器	鉢	12.60	38.60			うすい肌色	うすい肌色	小砂粒	普通	口縁下は縦ハケ目　体部は横ナデ	ナデ	内外面ともきわめて丁寧な調整(内面やや砂粒吹き出す)。12cmの破片 口径正。
109 24	01105	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	南東隅掘下げ	弥生土器	鉢	5.40	18.20			茶褐色	茶色	1～3mm大の砂粒少なめ	普通	口縁部は横ナデ　体部は細かな縦ハケ目	ナデ?	胎土、調整に他と差なし。やや傾き不正確。もう少し立つか?
109 25	01104	Ⅱ	O	27	第Ⅱ面掘り下げ		弥生土器	鉢					黒色	灰黒色	極小粒子のみ	堅い	ミガキ	丁寧なミガキ	内面のミガキ丁寧。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器（土製品）の法量と特徴〈法量 上段：土器　下段：土製品〉												備考
挿図番号							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・脚部・高台径	色調		胎土	焼成	調整		
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
109 26	00197	Ⅱ	P	27	第Ⅱ面掘り下げ	No.27	弥生土器	鉢					灰黒色（器壁内は灰色）	黒灰色（黒色）	砂粒少。精良土	良	外面剥離　ミガキであろう	ミガキ	傾き不正確。
109 27	01166	Ⅱ	N	27	第Ⅱ面掘り下げ		土製品	投弾	4.15	2.53	2.48				精良土	良			粘土のコネがシマ状にのこる。きわめて整った形状。調整も丁寧。
109 28	01154	Ⅱ	P·Q	27·28	第Ⅱ面掘り下げ		土器	注口土器											
109 29	01136	Ⅱ	P	27	第Ⅱ面掘り下げ		土製品	紡錘車	4.33	4.54	1.44	0.46×0.49	灰茶色		砂粒少	良			右の方がぶ厚い。表面なめらか。
111 30	01290	Ⅱ	O	25	第Ⅱ面掘り下げ		須恵器	高台付椀	1.80			(10.20)	灰白色	灰白色	精良土。黒色粒子含む	不良	回転横ナデ　外底は回転ヘラ切り	回転横ナデ	
111 31	01099	Ⅱ	Q	23	第Ⅱ面掘り下げ		古式土師器	加飾二重口縁壺（C系）	4.20				茶色	灰茶色	わずかに小砂粒	普通	文様	ナデ?	
111 32	01100	Ⅱ	Q	23	第Ⅱ面掘り下げ		古式土師器	加飾二重口縁壺（C系）					茶色	灰黒色	わずかに砂粒	普通	貼り付け文様	ナデ	1099と胎土は似ていない。
111 33	01364	Ⅱ	P	24	第Ⅱ面掘り下げ		古式土師器	小型器台（C系）		9.60			浅黄橙色～にぶい褐色	浅黄橙色～にぶい褐色	精良（水漉しではない）。径1mmほどの石英、長石、褐色土粒が若干みられる	良好	脚部は縦ヘラケズリ後横ミガキ　受部は横ナデ後雑な横ミガキ、立ち上がりは横ナデ	脚部はすだれ状螺旋ハケメ　受部は回転ナデ後回転ミガキや放射状ミガキ	脚部に穿孔あり　脚内面奥の凹みは軸痕とかではなく成形時の痕跡。
111 34	01103	Ⅱ	Q	23	第Ⅱ面掘り下げ		古式土師器	小型丸底壺	4.90	11.80			茶色	茶色	精良土	良	口縁部は強く横ナデ　ナデ	横ナデで滑らか	口縁部のつくりはシャープ。6cmの小片。
111 35	01102	Ⅱ	Q	23	第Ⅱ面掘り下げ		古式土師器	小型丸底壺	6.50	9.40	8.10		うすい茶色	うすい茶色	砂粒少	良	口縁部は縦ナデ　滑らか　体部上半はナデ　下半は粗いハケ目	口縁部は横ナデ　体部はナデ	調整丁寧。つくりはシャープ。
133 1	00774	Ⅲ	O·P	29·30	SC−07		弥生土器	甕					黒色	茶色	小砂粒含む		ナデ	横ナデ	低い三角形凸帯。
133 2	00752	Ⅲ	O·P	29·30	SC−07	埋土上	弥生土器	甕					黒褐色	うすい茶色	砂粒少	堅い	横条痕	ナデ　指頭圧痕	蒲鉾形凸帯。
133 3	00751	Ⅲ	O·P	29·30	SC−07	埋土上	弥生土器	甕					黒褐色	灰茶色	砂粒含む	堅い	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	左方向の横ナデ（擦刷痕）	内面 ナデ痕 逆時計？ 外面 横条痕 雑。
133 4	00776	Ⅲ	O·P	29·30	SC−07		弥生土器	甕	8.10	22.00			茶色（下半・凸帯より下）褐色	赤茶色（下半）褐色	2～3mm大の砂粒含む	高温	口縁突帯部は横ナデ　体部は擦刷痕	横ナデ	上半大きく開く。
133 5	00773	Ⅲ	O·P	29·30	SC−07		弥生土器	甕	6.70	28.40			赤茶色	うすい灰茶色	砂粒わずか	高温	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	擦刷痕	三角形凸帯。
133 6	00746	Ⅲ	O·P	29·30	SC−07	埋土上	弥生土器	甕	2.75			7.40	灰褐色（外底）赤茶色	（内底）うすい黄茶色	砂粒少なめ	堅い	体部はナデ上げ　外底はナデ	ナデ	
133 7	00754	Ⅲ	O·P	29·30	SC−07	竪住と円形溝の柱穴との切り合い	弥生土器	甕	4.50			8.80	明茶色（外底）灰黒色	灰黒色	小砂粒少ない。胎土粗い	高温	体部は横条痕	粗いナデ	竪住と円形溝の柱穴との切り合い。
133 8	00753	Ⅲ	O·P	29·30	SC−07	埋土上	弥生土器	甕					黒褐色	うすい茶色	小砂粒含む	良	口縁部は横ナデ　体部は細かな縦ハケ目	口縁部は横ハケ目　体部は左上がりのナデ	小破片で傾き不正確。
133 9	00756	Ⅲ	O·P	29·30	SC−07	竪住と円形溝の柱穴との切り合い	弥生土器	甕	2.00	14.40			黒褐色	うすい茶色	小砂粒	堅い	口縁部は横ナデ　下半は縦ハケ目	左斜行のハケ目	竪住と円形溝の柱穴との切り合い。
133 10	00775	Ⅲ	O·P	29·30	SC−07		弥生土器	甕	4.60	22.00			黒褐色	灰茶色	砂粒ほとんどナシ	良	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	口縁部は横ハケ目　体部はナデ	小さく屈曲、わずかに肥厚。
133 11	00402	Ⅲ	O·P	29·30	SC−07	SK−126	弥生土器	甕	3.50	25.60			黒色	灰色（黒斑）	砂粒ほとんどナシ	堅い	口縁部は横ナデ　下半は縦ハケ目	口縁部は横ハケ目　下半はナデ	
133 12	00750	Ⅲ	O·P	29·30	SC−07	埋土上	弥生土器	甕	2.90	30.40			灰茶色	灰茶色	砂粒多め	良	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	砂粒露出	
133 13	00755	Ⅲ	O·P	29·30	SC−07	竪住と円形溝の柱穴との切り合い	弥生土器	甕					（上半）灰白色（下半）黒み	灰白色	小砂粒	堅い	上部より突帯までは横ナデ　下半は縦ハケ目	ナデ上げ	三角形突帯。竪住と円形溝の柱穴との切り合い。
133 14	00749	Ⅲ	O·P	29·30	SC−07	埋土上	弥生土器	甕	4.75	19.60			茶色	灰茶色	小砂粒わずか	良	口縁部は横ナデ　体部は粗い縦ハケ目	口縁部は横ナデ　体部はナデ上げ	外のハケ目はタテハケの後に、斜めのハケ目を加える。倒卵形の体部。※口縁下端に刻み目の可能性がある。
133 15	00748	Ⅲ	O·P	29·30	SC−07	埋土上	弥生土器	甕	4.50	27.40			灰茶色	灰茶色	小砂粒含む	良	口縁部は横ナデ　体部は粗いハケ目	左上がりのナデ	外面のハケ目は統一性がない。
133 16	00747	Ⅲ	O·P	29·30	SC−07	埋土上	弥生土器	甕	4.10			7.20	赤茶色		砂粒少ない	良	縦ハケ目　外底はナデ上げ	剥離	くびれ弱い。ハケ目 時計まわり。
133 17	00800	Ⅲ	O·P	29·30	SC−07		弥生土器	甕	7.40			8.55	灰色（底部端 黒斑）	黒色	内面にわずかに砂粒	良	体部は縦ハケ目　括れ部はヘラ状工具のナデ　外底はヘラ状工具の横ナデ	ヘラ状工具のナデ上げ	頑丈なつくり。
133 18	00757	Ⅲ	O·P	29·30	SC−07	竪住と円形溝の柱穴との切り合い	弥生土器	壺	2.85	17.20			うすい灰茶色	うすい灰茶色	砂粒含む。精良土ではない	良	剥離　調整痕不明	横ミガキ	4cmの小破片。外面も横ミガキであろう。竪住と円形溝の柱穴との切り合い。
133 19	00772	Ⅲ	O·P	29·30	SC−07		弥生土器	甕	5.35	28.60			丹塗り	丹塗り	精良土に近い	良	縦ハケ目を横ナデ消し　丹塗り	口縁部は横ナデ　下半は左斜行のハケ目	調整 特に丁寧ではない。
133 20	00777	Ⅲ	O·P	29·30	SC−07		弥生土器	壺	10.10				丹塗り	ナシ	精良土に近い	堅い	横ミガキ　丹塗り	ハケ目	内面は粗目のハケ 部分的にナデ 粗い調整のママ。外面は細かい横ミガキだが、丁寧というわけではない。
133 21	00801	Ⅲ	O·P	29·30	SC−07		弥生土器	壺	3.90			5.00	茶色	茶色	小砂粒	堅い	左上がりのミガキ	ナデ	外面 細かなミガキ。
133 22	00919	Ⅲ	O·P	29·30	SC−07	埋土上	弥生土器	壺	7.90			6.60	うすい茶色	うすい灰黒色	小砂粒わずかに入る。精良ではない	良	横ミガキ　外底はミガキ	ナデ	底部に沈線。接合しないが、胴上半、頸部がある。表面磨耗し、実測不可。胴、頸部との境 不明瞭。
136 1	00868	Ⅲ	N	25	SC−08		弥生土器	甕					黒色	黒色	1mm大の砂粒が内外面露出		横条痕	擦刷痕	三角形凸帯。
136 2	00871	Ⅲ	N	25	SC−08		弥生土器	甕	5.70				うすい茶褐色	うすい茶色	1～2mm大砂粒多い。内面に露出	良	横条痕	ナデ?	三角形突帯。外面の条痕 にぶい。
136 3	00872	Ⅲ	N	25	SC−08		弥生土器	甕	6.20	20.80			うすい茶褐色	茶色	1mm大の小砂粒。内面に露出	普通	口縁部は横ナデ　体部はナデ上げ	ナデ	内外面 ハケ目なし。器壁 うすい。傾き不正確。
136 4	00870	Ⅲ	N	25	SC−08		弥生土器	甕	5.20	25.40			うすい茶褐色	うすい茶色	極小砂粒	普通	口縁部は横ナデ　体部はナデ	ナデ	屈曲小さい
136 5	00867	Ⅲ	N	25	SC−08		弥生土器	甕	8.65	31.40			茶褐色	茶色	小砂粒	普通	口縁部は横ナデ　体部は縦のハケ目	ナデ	内面 砂粒露出ざん。口縁内面に小さく突出。上面はへこみ。
136 6	00873	Ⅲ	N	25	SC−08		弥生土器	壺	1.75	30.60			うす茶褐色	うすい茶褐色	砂粒きわめて少。精良土に近い	堅密緻	口縁部は横ナデ	横ナデ	
136 7	00866	Ⅲ	N	25	SC−08		弥生土器	甕					うすい灰茶色	明茶色		堅い高温	横ナデ	横条痕	
136 8	00869	Ⅲ	N	25	SC−08		弥生土器	鉢	3.75	8.80			うすい茶色	うすい茶色	砂少。精良土に近い	軟質	横ナデ	横ナデ	器壁 厚め。凸帯 水平でない。
136 9	00874	Ⅲ	N	25	SC−08		弥生土器	器台	6.05	10.20			赤茶色	赤茶色	1～2mm大の砂粒	普通	縦ハケ目	部分的に横ハケ目	やや傾ききつく、天地逆か。
139 1	00043	Ⅲ	N	25	SN−03	SD−018　65	弥生土器	甕	16.30	22.60			黒灰色	灰茶色	砂粒少	良	口縁部は横ナデ	口縁部は左上がりの横ナデ　指頭圧痕	肥厚気味のL字形口縁。
143 1	01300	Ⅲ	O	31	SN−02	上甕	弥生土器	上甕	15.80	(28.60)	25.80		淡黄褐色～淡橙色	淡黄褐色～淡橙色	比較的精良土に1mmまでの砂粒含む。内面には比較的露出も多い。長石・石英・ウンモ多い。赤色粒	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	
143 2	01301	Ⅲ	O	31	SN−02	下甕	弥生土器	下甕	34.80	(34.00)		7.50	(暗橙色～)淡橙色	淡橙色	比較的精良土に1mmまでの砂粒を少し含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	底部周辺は指頭圧痕。
154 4	00086	Ⅲ	O	27	SK−001		弥生土器	甕					灰黒色	濃灰色	大きめの砂粒少なめ	良	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	横条痕	凸帯、カマボコ。
154 5	00089	Ⅲ	O	27	SK−001		弥生土器	甕					灰茶色	茶色	小砂粒少なめ	堅い	突帯は横ナデ　体部は横条痕	横ナデ　一部に横条痕	巾、厚さのカマボコ状。頂点、シャープ。突帯88と類似しているが、外面の条痕が異なる。
154 6	00088	Ⅲ	O	27	SK−001		弥生土器	甕					灰黒色	茶色	砂粒少	堅い	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	ナデ	凸帯、巾広のカマボコ状だが、頂点シャープ。

報告書 挿図番号	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	器種 様式など	器種 器種	器高 長さ	口・器受部径 幅	最大径 厚さ	底・胴部高台径 孔径	色調 外面色調	色調 内面色調	胎土	焼成	調整 外面調整	調整 内面調整	備考
154 7	00093	Ⅲ	O	27	SK−001		弥生土器	甕					突帯頂部より下、黒褐色	淡茶色	砂粒	良	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	横ナデ　一部に横条痕	カマボコ突帯。ハケ目丁寧。
154 8	00084	Ⅲ	O	27	SK−001		弥生土器	甕	6.50	18.40			黒褐色	茶色	砂粒少	良	口縁突帯部は横ナデ　体部は粗い横条痕	割りに細かな横ハケ目	三角凸帯。わずかに垂れ気味。
154 9	00074	Ⅲ	O	27	SK−001		弥生土器	甕	13.90	20.00			茶褐色、下半は黒褐色（スス）	茶色	砂粒少ない		突帯は横ナデ　体部は縦ハケ目	屈曲上半は横ハケ目をナデ消し下半は横ハケ目	凸帯。三角。
154 10	00087	Ⅲ	O	27	SK−001		弥生土器	甕					灰茶色	灰茶色	砂粒少	良	口縁突帯部は横ナデ　体部は粗い横条痕	細かな横ハケ目の後に横ナデ	内面の調整、特異。突帯小さな三角形。
154 11	00091	Ⅲ	O	27	SK−001		弥生土器	甕					灰茶色	茶色	砂粒少	良	粗い条痕状の横ハケ目	ハケ目	三角突帯。突帯の上下によって工具が異なる。
154 12	00090	Ⅲ	O	27	SK−001		弥生土器	甕	3.80	25.40			褐色（黒み）	明茶色	砂粒少ない	堅い	口縁部は横ナデ　体部はナデ	横ナデ	巾厚の突帯、三角形。
154 13	00085	Ⅲ	O	27	SK−001		弥生土器	甕	2.80	25.40			茶色（凸帯下は黒み）	茶色（橙色に近い）	砂粒少	良	擦刷状の横ナデ	擦刷状の横ナデ	凸帯、1段下がって小さな三角形。
154 14	00078	Ⅲ	O	27	SK−001		弥生土器	鉢	5.90				茶色	茶色	小砂粒	良	横ナデ	横ナデ	屈曲部丸み。
154 15	00075	Ⅲ	O	27	SK−001		弥生土器	甕	12.00	25.80			茶色、（下半）黒班	茶色	砂粒多いが、表面に露出していない		口縁部は横ナデ　体部はナデ　一部にハケ目残る	上半はナデ上げ　下半は横ハケ目	
154 16	00092	Ⅲ	O	27	SK−001		弥生土器	甕					茶色	茶色	砂粒少ない	良	縦ハケ目	ナデ	三角突帯。シャープ、小さい。
154 17	00080	Ⅲ	O	27	SK−001		弥生土器	甕	2.10			7.60	淡茶色	淡茶色	1〜3mm大砂粒多い	良	ナデ　外底は粗いケズリ	ナデ	調整粗い。
154 18	00082	Ⅲ	O	27	SK−001		弥生土器	壷	3.20			13.20	灰茶色	灰色	砂粒少ない	良	ナデ	横ハケ目	
154 19	00083	Ⅲ	O	27	SK−001		弥生土器	壷	3.50			14.80	淡灰茶色	淡灰茶色	砂粒少だが、精良でない	良	縦ハケ目　外底はヘラ状工具のナデ	斜行ハケ目	ハケ目は細かく精緻。径やや不正確。1/10以下の小破片。
154 20	00070	Ⅲ	O	27	SK−001		弥生土器	壷	7.90	15.60			黒灰色	茶色（口縁部、一部黒灰色）	小砂粒含むが、堅緻		口縁部は横ミガキ　頸部はナデ?	口縁部は横ミガキ　頸部はナデ?	傾き不正確。
154 21	00068	Ⅲ	O	27	SK−001		弥生土器	壷	3.10	12.80			灰茶色	灰茶色	小砂粒。精良でない	良	不鮮明だが横ミガキ	不鮮明だが横ミガキ	頸部との境に沈線1条。
154 22	00076	Ⅲ	O	27	SK−001		弥生土器	壷	3.20	19.20			灰茶色	灰茶色	わずかに小砂粒	堅い	細かな横ハケ目	横ハケ目	貝と一緒。8cmの小片。外面は細かなミガキ。
154 23	00079	Ⅲ	O	27	SK−001		弥生土器	壷	2.20	29.60			丹塗り	丹塗り	砂粒少	堅い	ハケ目の後に横ミガキ	細かな横ミガキ	外面なめらかでない。横ミガキの前に、工具でタテにナデている。
154 24	00077	Ⅲ	O	27	SK−001		弥生土器	壷	7.00				茶色	茶色（赤味）	小砂粒	良	弧状の横ミガキ	ナデ	一部にハケ目 外、器面あまりなめらかでない。ミガキも雑。スピード感あり。
154 25	00069	Ⅲ	O	27	SK−001		弥生土器	壷					灰茶色（一部黒色）	茶色	砂粒ほとんどなし。精良に近い	堅緻	丁寧な横ミガキ	ナデ	屈曲部は強い横ナデ 沈線は浅くにぶい。
154 26	00072	Ⅲ	O	27	SK−001		弥生土器	壷	5.10				黒褐色	黒灰色	小砂粒含	堅い	細かな横ミガキ	ナデ	文様、沈線浅い。
154 27	00073	Ⅲ	O	27	SK−001		弥生土器	壷	8.50			6.90	黒灰色	灰茶色	小砂粒少ない	良	外底から体部は細かな横ミガキ	上半は横ナデ　下半はナデ	内面の調整雑。外面ミガキだが凹凸あり、なめらかでない。文様は、2本沈線による連続文。
154 28	00081	Ⅲ	O	27	SK−001		弥生土器	壷	2.80			6.10	茶色	茶色	小砂粒多い	良	横ナデ外底はケズリ	粗いナデで凹む	
154 29	00065	Ⅲ	O	27	SK−001		弥生土器	鉢	7.60	21.20			茶褐色	淡茶褐色	精良土に近い	良	口縁部も横ミガキ	口縁部も横ミガキ	表面なめらか。
154 30	00071	Ⅲ	O	27	SK−001		弥生土器	鉢	3.00	24.60			灰色	灰色	小砂粒	良	横ハケ目	横ミガキ	5cmの小破片。口径不正確。
154 31	00066	Ⅲ	O	27	SK−001		弥生土器	鉢	3.70	24.80			茶色	濃茶色	砂粒少。精良土ではない。雲母	良	細かい横ミガキ	細かい横ミガキ	内面なめらか。口径不正確。
154 32	00067	Ⅲ	O	27	SK−001		弥生土器	鉢	3.80	27.40			茶色	濃茶色	砂粒少。精良ではない。雲母		口縁部は横ナデ　体部は横ミガキ	横ミガキの後に縦のミガキ	小破片5cmで口径不明。外面のミガキ（ストロークが短い）。
157 1	00326	Ⅲ	O	27	SK−002		弥生土器	甕					淡黄色（淡肌色）	淡黄色（淡肌色）	砂粒ほとんどナシ	堅い	条痕	ナデ	三角形突帯幅広い。
157 2	00386	Ⅲ	O	27	SK−002		弥生土器	甕					茶褐色	茶褐色	砂粒ほとんどナシ	堅い	横条痕	ナデ（擦刷痕）	蒲鉾形凸帯。
157 3	00321	Ⅲ	O	27	SK−002		弥生土器	甕					茶褐色	茶褐色	小砂粒	良	横ナデ（擦刷痕）	左上がりのナデ	やや軟質。三角突帯。正三角形に近い。
157 4	00323	Ⅲ	O	27	SK−002		弥生土器	甕					茶色	茶色（口縁内面は赤茶色）	わずかに砂粒	良、堅い	口縁突帯部は横ナデ　下半は横条痕	口縁部は横ナデ　下半は右上がりのナデ	傾き不正確。三角形わずかに上向き。
157 5	00328	Ⅲ	O	27	SK−002		弥生土器	甕					黒色	茶色（口縁端黒み）	砂粒ほとんどなし	堅い	横条痕	ナデ　指頭圧痕	高温焼成。三角形突帯。
157 6	00324	Ⅲ	O	27	SK−002		弥生土器	甕					茶色	茶黒色	砂粒わずか	良	口縁突帯部は横ナデ　下半は横条痕	横ナデ	やや軟質。幅広、背の低い三角突帯。
157 7	00329	Ⅲ	O	27	SK−002		弥生土器	甕					茶褐色	茶色	小砂粒わずか	良	横条痕	横ハケ目	三角突帯。
157 8	00322	Ⅲ	O	27	SK−002		弥生土器	甕					茶褐色	茶色	1mm大の砂粒	良	横条痕	横ナデ	堅い。丸みのある三角突帯。
157 9	00320	Ⅲ	O	27	SK−002		弥生土器	甕					茶褐色	茶色	わずかに砂粒	良	横条痕	横ナデ（擦刷痕）	外面調整小口ナデ。三角形。背が高い　刻み目特徴的。
157 10	00327	Ⅲ	O	27	SK−002		弥生土器	甕					うすい茶褐色	うすい茶褐色	小砂粒	良	口縁突帯部は横ナデ　下半は擦刷痕	ナデ　粘土接合痕	口縁波打つ。傾き不正確。外面条痕（擦痕）明瞭でない。三角形凸帯。
157 11	00317	Ⅲ	O	27	SK−002		弥生土器	甕					茶褐色	茶褐色	砂粒少ない	やや軟	横条痕の後に右上がりのナデ	横ナデ	器壁うすい。小さな三角突帯。
157 12	00318	Ⅲ	O	27	SK−002		弥生土器	甕	5.20	19.60			黒灰色	黒灰色	小砂粒	きわめて良	横ナデ	横ナデ	口縁部ゆるやかに外湾。須恵器質。突帯分厚い三角形、垂れ気味。
157 13	00315	Ⅲ	O	27	SK−002		弥生土器	甕	5.20				（灰）黒色	（灰）黒色	砂粒ほとんどなし	堅緻	屈曲部下半は粗い横条痕	上半は横ナデ　下半は右上がりのナデ	三角突帯、頂点割にシャープ。
157 14	00316	Ⅲ	O	27	SK−002		弥生土器	甕	5.90				（上半）灰茶色（下半）灰黒色	茶色	1〜2mm大の砂粒。雲母なし		屈曲部上半は強い横ナデ（擦刷痕）突帯は横ナデ	丁寧なナデ	三角形突帯。
157 15	00314	Ⅲ	O	27	SK−002		弥生土器	甕	5.40				黒色（凸帯より上は褐色）	茶色	砂粒少	良	横条痕	上半横ナデ　下半は横ハケ目	三角凸帯。
157 16	00313	Ⅲ	O	27	SK−002		弥生土器	甕	10.00				茶色	茶色	砂粒含むが胎土あらくない	堅い	屈曲部上半は粗いハケ目（条痕状）下半は細かなハケ目	上半は左上がりのナデ　下半は細かな横ハケ目	三角突帯。
157 17	00325	Ⅲ	O	27	SK−002		弥生土器	甕					茶色	茶褐色	砂粒ほとんどなし。雲母	堅緻	細かな斜行ハケ目　下半は縦ハケ目	横ハケ目	凸帯ナシ。
157 18	00319	Ⅲ	O	27	SK−002		弥生土器	甕	15.75	23.90			灰茶色	茶褐色（下半）黒色	小砂粒多い	良	口縁部は横ナデ　下半は細かなハケ目	口縁部は横ハケ目　下半は左上がりの細かなハケ目	口縁部粗いハケ目、内外細かいハケ目。外面はハケ目の後ナデ消し?
157 19	00310	Ⅲ	O	27	SK−002		弥生土器	甕	5.00			6.85	茶色	茶色	砂粒わずか	良	粗いハケ目　括れ部はナデ	ヘラ状工具のナデ上げ	
157 20	00311	Ⅲ	O	27	SK−002		弥生土器	甕	4.95			7.60	茶色	茶色	小砂粒多め。雲母	良	細かな縦ハケ目	ナデ	形状・調整とも整っている。
157 21	00309	Ⅲ	O	27	SK−002		弥生土器	甕	6.05			9.00	茶色	茶色	小砂粒含む	良	細かな縦のハケ目	指頭圧痕　ナデ	外面細かなハケ目（ソフトなナデ上げ）痕跡わずか。
158 22	00296	Ⅲ	O	27	SK−002		弥生土器	壷	4.55	9.80			褐色	濃褐色	精良土	堅緻	全面細かな横ミガキ	全面細かな横ミガキ	丁寧な調整。
158 23	00306	Ⅲ	O	27	SK−002		弥生土器	壷	3.15	16.40			茶色	灰黒色	小砂粒多い	普	横ナデ	横ナデ　下半砂粒露出	器壁内部は灰黒色。
158 24	00305	Ⅲ	O	27	SK−002		弥生土器	壷	2.15	19.40			茶色	茶色	小砂粒混入	良	横ミガキ　段部に細かなハケ目	横ナデの後にハケ目	口縁端方形。明瞭な段をつくる。
158 25	00308	Ⅲ	O	27	SK−002		弥生土器	壷	2.30	24.40			茶色	茶色	砂粒きわめて少ない	良	丁寧な横ナデ	ミガキ状の横ナデ	器面丁寧な調整。ただし口縁端は条痕つく。
158 26	00307	Ⅲ	O	27	SK−002		弥生土器	壷	3.90	23.20			赤茶色（丹塗りか?）	茶色	小砂粒。精良土に近い	良	縦の細かなハケ目の後に横ミガキ	口縁部は横ミガキ	8cmの小破片。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器　下段:土製品〉												
挿図番号							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・脚部高/径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
158 27	00303	Ⅲ	O	26·27	SK−002		弥生土器	壺	4.40				黒(褐)色	茶褐色	わずかに砂粒(精良土)	良	ミガキで滑らか	上半はヘラ状工具で横ナデ	沈線、三条、平行でない、浅い。磨研。
158 28	00312	Ⅲ	O	26·27	SK−002		弥生土器	壺	3.50			6.15	茶色	黒色	精良土	良	体部は横ミガキ　底部は右上がりのミガキ状　外底はナデ	横ミガキ	円盤状底部。
158 29	00301	Ⅲ	O	26·27	SK−002		弥生土器	鉢	2.60	23.00			黒灰色	濃灰色	砂粒ごくわずかだが密ではない		口縁部は横ナデ　下半は縦ハケ目	口縁部は横ミガキ　下半はハケ目をナデ消す	口縁やや波打つ。6cmの小破片。
158 30	00302	Ⅲ	O	26·27	SK−002		弥生土器	鉢	4.00	21.00			茶褐色(黒斑ぎ	茶褐色	精良	良	横ミガキ	横ミガキ　滑らかさを欠く　下半にハケ目	器面の調整丁寧。5cmの小破片。
158 31	00304	Ⅲ	O	26·27	SK−002		弥生土器	鉢	4.70	21.80			茶色	茶褐色	砂粒ほとんどなし。胎土密ではない	良	口縁部は細かな横ミガキ　下半はナデ	口縁部は横ミガキ　下半は左上がりのナデ	5cm足らずの小破片。
158 32	00299	Ⅲ	O	26·27	SK−002		弥生土器	鉢	4.50	37.60			茶褐色	黒褐色	小砂粒多い。胎土粗。4mm大の砂粒も混入	良	口縁部は横ハケ目の後にナデ　下半はミガキ	細かな横ミガキ	口縁外面は湾曲のためか横ミガキなし。
158 33	00297	Ⅲ	O	26·27	SK−002		弥生土器	鉢	3.50	40.80			茶色	茶色	小砂粒わずかだが、精良でない	良	口縁部は横ナデ　下半はナデ	口縁部は横ナデ　下半はナデ	外面砂粒が浮き出す(露出ではない)。
158 34	00298	Ⅲ	O	26·27	SK−002		弥生土器	鉢	3.80	42.80			茶色	茶色	わずかに小砂粒。雲母	良	口縁部は横ナデ　下半はハケ目の後に横ミガキ	横ミガキ	口縁部は肥厚し、丸みをもつ。297の高坏とは屈曲部が異なり、浅鉢か?
158 35	00300	Ⅲ	O	26·27	SK−002		弥生土器	鉢	5.90	37.50			茶色	茶色	小砂粒含むが、胎土密	良	口縁部は横ミガキ　下半は細かなハケ目	口縁部は横ミガキ　下半はナデ	内外面、幅広の横ミガキ。器面凹凸、なめらかではない。5cmの小破片。傾き、径は不正確。
160 1	00056	Ⅲ	Q	26·27	SK−006		弥生土器	甕					灰茶色	淡茶色	小砂粒		横ナデ	指頭圧痕	三角凸帯。
160 2	00063	Ⅲ	Q	26·27	SK−006	ベルト	弥生土器	甕					茶色	茶色	砂粒少ない	良	突帯部は横ナデ　体部は横条痕	ナデ	やや軟質か?
160 3	00058	Ⅲ	Q	26·27	SK−006		弥生土器	甕					灰茶色	灰茶色	砂粒少なめ	良	横ナデ	ナデ	三角突帯。
160 4	00059	Ⅲ	Q	26·27	SK−006		弥生土器	甕					灰黒色	茶色	砂粒少	良	突帯部は横ナデ　体部はナデ	ナデ	三角突帯。
160 5	00064	Ⅲ	Q	26·27	SK−006	ベルト	弥生土器	甕					灰茶色	灰茶色	砂粒少	良	突帯部は横ナデ　体部はナデ	ナデ?	
160 6	00061	Ⅲ	Q	26·27	SK−006		弥生土器	甕	1.80			7.15	淡茶色	淡茶色	1〜2mm大の砂粒多い	良	体部は条痕	ナデ?	調整あらい。
160 7	00057	Ⅲ	Q	26·27	SK−006		弥生土器	甕					灰黒色	淡茶色	小砂粒少	良	口縁部は横ナデ　体部は細かな縦ハケ目	ナデ	
160 8	00062	Ⅲ	Q	26·27	SK−006	ベルト	弥生土器	甕					茶色	茶色	砂粒少	良	縦ハケ目	横ナデ　ハケ目残る	
160 9	00055	Ⅲ	Q	26·27	SK−006		弥生土器	甕	2.70	19.80			茶褐色	淡茶色	1mm大の砂粒	良	口縁部横ナデ　体部縦ハケ目	条痕を横ナデ消し	6cmの小破片。
160 10	00060	Ⅲ	Q	26·27	SK−006		弥生土器	甕					灰色	灰色	砂粒少	良	横ナデ	横ナデ	3cmの小破片。
160 11	00054	Ⅲ	Q	26·27	SK−006		弥生土器	甕	3.35	47.00			灰色	灰色	小砂粒多い	良	口縁部横ナデ　体部縦ハケ目ナデ消し	横ナデ	端部の上下端に工具の木目。
164 1	01231	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	212	弥生土器	甕					灰茶色	褐色	小砂粒多い	良	粗い条痕	丁寧な横ナデ	外面の条痕あらいが、内面の横ナデは丁寧。
164 2	01228	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	O−164	弥生土器	甕					黒褐色	肌色	小砂粒	良	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	ナデ	刻み目 直 三角形(頂点 丸み)。
164 3	01184	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	埋土中一括	弥生土器	甕					灰色	灰色	砂粒あるが、精良に近い。焼きがいいため	良	横条痕	横ナデ	刻み目は1つは左から右へ入れ込む。
164 4	01185	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	埋土中一括	弥生土器	甕					灰茶黒色	灰茶色	砂粒少	堅い	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	横ナデ	
164 5	01225	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	甕					茶色(赤み)	灰茶色	砂粒きわめて少ない	良	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	ナデ	台形凸帯。
164 6	00003	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	甕					淡肌色(わずかに茶色)	淡肌色	砂粒少	良	横条痕	横ナデ	三角突帯。
164 7	01223	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	甕					黒褐色	灰茶色	砂粒多め	良	口縁突帯部は横ナデ	わずかに横条痕	
164 8	01230	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	甕					茶褐色	茶色	1〜2mm大砂粒多い	良	体部は左上がりの擦刷痕	横の擦刷痕	
164 9	01237	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	甕	2.75	24.60			灰黒色	灰色	砂粒少	良	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	横ナデ	突帯 カマボコ。
164 10	01216	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	045	弥生土器	甕	3.30	22.60			茶黒色	灰茶色	砂粒少	良	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	横ナデ	うす手のつくり。条痕は浅い 雑ではない。3点接合 円形とならない 径不明。
164 11	01217	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	129	弥生土器	甕	6.40	21.60			濃灰色	灰色	砂粒少	堅い	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	上半は横ナデ　下半はナデ	体部 反転し、突帯を巡らせるだろう。器壁 うす手 しっかりしたつくり。
164 12	00478	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	207	弥生土器	甕	16.00	29.20			黒褐色	茶色	1〜2mm大の砂粒	良	口縁突帯部は雑な横ナデ　屈曲部上半は横ナデ　下半は縦の条痕	雑な横ナデ	器壁 うす手のつくり。条痕 叩き状(上半部)。外面の調整はあらい。
164 13	01238	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	壺	4.30	20.60			黒褐色	灰色(口縁上部灰茶色)	砂粒少	良	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	横ナデ	三角突帯 頂点シャープ。張り付けはやや雑 巾が一定でない。
164 14	01176	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	甕	7.00	16.80			黒色	灰茶色	砂粒少	良	粗い縦ハケ目	横ナデ	口径不正確。
164 15	01219	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	甕	3.50	21.20			灰茶色(やや赤み)	灰茶色	小砂粒多い	良、高温か	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	ナデ	刻み目三角形。深く直 雑 不規則。ての口縁部の可能性大。
164 16	01218	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	甕	5.80	19.60			黒褐色	灰茶色	小砂粒含むが露出していない	良	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	上半は横ナデ　下半はナデ	間隔のある条痕(重ねない)。
164 17	00477	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	242	弥生土器	甕	9.60	23.80			(口縁より下)黒褐色	茶色	砂粒少	堅い	口縁突帯部は横ナデ　体部は粗い縦ハケ目　下半は横条痕	左上がりのナデ　粘土接合痕	外のハケ目雑。外面 叩き状に条痕。
164 18	00005	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	甕					うすい灰(白)色(やや褐色)	うすい灰(白)色	砂粒少	良、やや軟質	横条痕	ナデ?	本来は角形突帯だが、刻み目が連続しているために蕾鉾状になる。SD−7では本例のみ。
164 19	00004	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	甕					灰色	灰茶色	砂粒少	良	横条痕?	横ナデ	背の高い幅広の三角形 刻み目 浅く、シャープでない 右からか?
164 20	00006	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	甕					灰茶色	灰(白)色	砂粒少	良	横条痕	ナデ	背のひくい三角形。
164 21	01222	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	甕					赤茶色	灰茶色	小砂粒露出	良	口縁突帯部は横ナデ　体部ナデ	ナデ	背の高いカマボコ。
164 22	01227	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	甕					黒褐色	灰茶色			口縁突帯部は横ナデ　体部縦ハケ目	横ナデ	
164 23	01186	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	埋土中一括	弥生土器	甕					灰茶黒色	灰色	1〜2mm大砂粒多い	良	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	ナデ	磨耗していない。
164 24	01224	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	甕					褐色(部分的 黒色)	灰茶色	砂粒	良	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	ナデ	
164 25	01220	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	甕					黒灰色	灰茶色	小砂粒少なめ	良	口縁突帯部は横ナデ	ナデ	
164 26	01221	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	甕						橙色(他と特に異色)	砂粒少	良	口縁突帯部は横ナデ　体部の横条痕不鮮明	ナデ	傾き不正確。
164 27	01226	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	O−103	弥生土器	甕					灰茶黒色	灰茶色	小砂粒多い	良	口縁突帯部は横ナデ　体部は細かな縦ハケ目	強い横ナデ(擦刷痕)	突帯 カマボコ(一部 頂点シャープ)。

土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器　下段:土製品〉

報告書 挿図番号	登録番号	遺構面	グリッド	遺構名	備考・出土地点	器種 様式など	器種	器高 長さ	口器受部径 幅	最大径 厚さ	底脚部高径 孔径	色調 外面色調	色調 内面色調	胎土	焼成	調整 外面調整	調整 内面調整	備考
164 28	00002	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	弥生土器	甕					灰茶色(刻み目下方は赤茶色)	灰茶色(刻み目下方は赤茶色)	砂粒含む	良	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	丁寧な横ナデ	外面色調口縁下に三角突帯 頂点上向き。
164 29	01232	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	129	弥生土器	甕				黒色	灰茶色	2〜3mm大砂粒多い	良	口縁突帯部は横ナデ　体部はナデ	ナデ	外 条痕 浅い 重ねない。
164 30	01187	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	甕	3.60			5.30 赤茶色	黒色			粗いナデ	粗いナデ	蓋の可能性あり。体部は大きく開かないので底部とした。
164 31	01189	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	096	弥生土器	甕	3.10			7.70 灰茶色(底面)灰褐色	灰茶色	1mm大の砂粒	良	横条痕　外底はケズリ状のナデ	ナデ	
164 32	01190	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	242	弥生土器	甕	3.00			7.30 灰茶色	わずかに赤み	1〜2mm大砂粒。粘土あらい	良	外底縁は横ナデ　木葉痕	剥離	
164 33	01245	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	甕	2.50			7.00 茶色	褐色(底)黒褐色	砂粒多く、胎土あらい	良	横条痕　括れ部は横ナデ　外底はナデ	ナデ?	体部への移行は開かない。
164 34	01196	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	壺	2.30			8.00 灰茶色(明るい)	濃灰色(黒み)	小砂粒多い。胎土雑	良	横ナデ　外底に木葉痕	ナデ	
164 35	01193	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	175	弥生土器	甕	4.40			7.60 灰茶色	灰黒色(黒はうすい)	小砂粒。底外以外は露出していない	良	体部はナデ　外底はケズリ状のナデ	ナデ	
164 36	01192	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	O−122、165+169接合	弥生土器	甕	4.00			7.40 灰茶色	灰茶色	砂粒多くはない	良	横条痕　括れ部は横ナデ	ナデ　横条痕残る	
164 37	01199	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	甕	4.75			6.00 灰色	黒色	小砂粒	堅い	縦ハケ目の後にナデ上げ	下半はナデ　上半はハケ目残る	底径不正確。
164 38	01198	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	042	弥生土器	甕	5.35			7.80 茶褐色	茶色	小砂粒多い	良	縦ハケ目　外底はナデ	上半は横ハケ目　下半はナデ	
165 39	01248	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	甕				肌色	灰褐色	小砂粒わずか。精良土に近い	良〜やや堅	ナデ?	一部に横条痕	三角突帯 上下端 横ナデでなめらか。
165 40	01244	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	甕	5.60					砂粒少	堅い	屈曲部上半は横条痕	ナデ	傾き不正確。きっちりした作り。
165 41	01239	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	甕	6.00			黒灰色	灰茶色	砂粒少だがあらい	良	屈曲部上半は横条痕　下半は縦ハケ目	ナデ	三角突帯 雑 間隔不揃い。
165 42	01240	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	024·044	弥生土器	甕	4.70					砂粒少ない	良	屈曲部上半は横条痕　下半は縦ハケ目	ナデ	三角突帯 水平でない 刻み目 直 間隔にバラツキ 幅広いと細長あり。
165 43	01247	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	223	弥生土器	甕	9.80			明茶色	灰茶色(黒み)	1mm大の砂粒多い	高温	横条痕　下半は斜行条痕	ナデ	三角突帯 頂点シャープ。
165 44	01243	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	外	弥生土器	甕	6.00					小砂粒わずか。胎土あらい。雲母		屈曲部上半は横条痕	ナデ	全体に磨耗。突帯 カマボコ 垂れ気味。
165 45	01241	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	202·233·244	弥生土器	甕	9.10			明茶色(一部に赤み)	明茶色(一部に赤み)	小砂粒少なめ	高温	横条痕　下半は斜行条痕	上半は右上がりのナデ　下半はナデ	条痕明瞭。内面のナデは割に丁寧。三角突帯。ゆとよく似ているが、突帯の大きさ、貼り付け方、胎土、焼成状態から別個体とした。
165 46	01214	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	甕				灰茶色(刻み目部 黒褐色)	茶色	小砂粒わずか	良	口縁部は横ナデ　縦ハケ目を横ナデ消し	横ナデ	
165 49	01175	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	144	弥生土器	甕				茶色	灰茶色	小砂粒	良	口縁部は横ナデ	部分的に横ハケ目	如意形口縁。外面 ハケ目なし。
165 50	00094	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	056	弥生土器	甕	22.00	25.00		茶色(下半)褐色	茶色	小砂粒、胎土疎		口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	口縁部は横ハケ目　体部は左上がりのナデ	口径 いびつ。刻み目 上下端一杯。
165 51	01213	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	204·216·199接合	弥生土器	鉢	12.60	26.40		茶黒色(下半は黒 ススか)	茶色	小砂粒多い(内面は露出)		口縁部は横ナデ　体部は細かな縦ハケ目	口縁部は横ハケ目　体部はナデ	内外の調整工具は別。
165 52	01201	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	甕	2.20	19.40			灰茶色	灰茶色	小砂粒	良	口縁部は横ナデ	口縁部は粗いハケ目残る	小破片のため口径不正確。
165 53	01242	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	039	弥生土器	甕	6.50							細かい縦ハケ目　部分的に条痕	ナデ	三角突帯。
165 47/48	01215	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	甕				灰茶色	明茶色	砂粒わずか	良	口縁部は横ナデ　下半は縦ナデ?	ナデ	刻み目浅い 密。
166 54	00001	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	壺				きれいな赤茶色(丹塗り)	きれいな赤茶色(丹塗り)	精良土	良	横ミガキ	横ミガキ	口縁部の下 沈線状。
166 55	01209	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	壺	1.60	10.00			灰茶色	灰茶色	わずかに小砂粒	良	横ミガキ	横ミガキ　不鮮明	5cmの小破片。内外面とも横ミガキであろう。口縁部 肥厚していない。段もない。
166 56	01210	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	壺	2.40	13.00			灰茶色	灰茶色	砂粒少	良	横ミガキで滑らか	横ミガキ	4cmの小破片。口径、傾き不正確。
166 57	01207	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	壺	4.10	14.00			灰茶色	灰茶色	わずかに砂粒。精良でないが、堅緻なつくり	良	横ナデ	細かな横ミガキ	5cmの小破片。
166 58	01208	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	壺	2.60	16.80			黒色	灰黒色	小砂粒アリ	良(監縁)	横ナデ	細かい横ミガキ	
166 59	01204	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	059	弥生土器	壺	4.00	15.80			茶色	茶色	1mm以下の砂粒		横ミガキ	横ミガキ	調整は丁寧。8cmの破片。
166 60	01203	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	133	弥生土器	壺	4.20	16.00			灰茶色	灰茶色	小砂粒。雲母		ミガキ	ミガキ	内外面とも細かな横ミガキ。
166 61	01202	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	壺	2.20	23.40			灰茶色(丹塗り)	灰茶色(丹塗り)	精良土	良	細かい縦ハケ目の後に横ナデ	横ハケ目の後に横ナデ	口径不明。
166 62	01205	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	142	弥生土器	壺					灰茶色	灰茶色	3mm大の砂粒。胎土あらい。雲母		横ミガキ	横ミガキ	小破片のため傾き、口径不明。
166 63	01194	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	壺					黒灰色	濃灰色	わずかに砂粒。精良に近い	良	ナデ　滑らか	ナデ	外面色調。
166 64	01182	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	埋土中一括	弥生土器	壺	4.60				灰茶色(一部 黒色)	灰茶色	精良土。わずかに砂粒(小さい)	良	ナデ?	ナデ?	径、傾き不正確。三条の三角文か(直線ではない)。最大径部に強い張りがあり、体部は扁求状となるか。
166 65	01177	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	069	弥生土器	壺	5.10				灰茶色	灰茶色	砂粒少。精良土ではない	良	横ミガキ	ナデ　部分的に横条痕状のナデ	径不正確。
166 66	01246	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	壺	1.40			4.40 淡茶色	灰色(白が強い)	精良土	良	細かなミガキ	ナデ	
166 67	01188	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	120	弥生土器	壺	2.10			6.90 濃灰黒色	灰茶色		良	横ミガキ	ナデ	調整丁寧。きれいな円盤とはならないが、側面までミガキを加えている。
166 68	01183	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	埋土中一括	弥生土器	壺	3.50			8.40	灰茶色(わずかに褐色)	灰茶色	小砂粒多い。この時期特有のアラサ	良	粗い横条痕	ナデ	
166 69	01197	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	021	弥生土器	壺	3.00			10.40 赤茶色	淡灰茶色	小砂粒。露出しない	良	細かなハケ目	細かなハケ目	
166 70	01195	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	129	弥生土器	壺	4.70			15.00	淡茶色(丹塗りの可能性あり)	黒色	1〜2mm大の砂粒多い。精良土ではない。露出はしていない	良	左斜行のハケ目　一部ナデ消し 外底はナデ	横条痕残る	底径不正確。
166 71	01229	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	鉢	7.50	14.60			茶褐色(体部下	茶褐色(体部下	わずかに小砂粒	堅い	口縁突帯部は強い横ナデ　条痕となる	ミガキ状のナデ	口径、傾き不正確。器面の調整丁寧。
166 72	01235	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	184·187	弥生土器	鉢	10.20	17.00			灰黒色(黒色に近い)	灰黒色(黒色に近い)	小砂粒多い(露出)	良	横ナデ?	口縁部は横ミガキ　下半はナデ	口縁部 波立つか?※破片178 口縁部も同一個体か? 接合しない。
166 73	01233	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	224	弥生土器	鉢	4.30	23.80			黒色	灰黒色	砂粒少	堅い	横ミガキ	横ミガキ	全面 丁寧な横ミガキ。小破片 10cmぐらい。
166 74	01234	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	218	弥生土器	鉢	4.10	23.60			灰茶色	灰茶色	砂粒少	良	口縁は横条痕を横ナデ消し　体部はナデ	横ナデ	ミガキ痕ナシ。小破片(5cm)。
166 75	01236	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	234	弥生土器	鉢	7.00	27.40			茶色	茶黒色	砂小	堅緻	口縁部は横ミガキ	口縁部は横ミガキ　下半は右上がりのナデ	調整も丁寧 しっかりしたつくり。
166 76	01206	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	215·97?·213·120or720接合	弥生土器	鉢	9.30	26.80			茶色	灰茶色	1mm大の砂粒	良	口縁部は横ナデ　体部下半は横ナデ	口縁部は横ミガキ	口縁部は山形?底部やや凹凸。
166 77	01212	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	高坏					淡灰色	灰茶色	わずかに砂粒	良〜やや堅緻	横ナデ	横ナデ	高坏と考えたが、SK007にはこの一片のみ。おとは胎土 別。
166 78	01200	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	007	弥生土器	高坏	3.50				茶色	灰茶色	砂粒少ないが、精良ではない	良	突帯あ横ナデ　坏部は粗いハケ目残る	坏部内面は横ナデ?	

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器　下段:土製品〉										
挿図番号							器種		器高	口・器受部径	最大径	底(脚)径 高台径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
166 79	01191	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007	037	弥生土器	甕	3.20			6.60					横ナデ　外底は粗いケズリ	ナデ?	
166 80	01211	Ⅲ	P·Q	26·27	SK−007		弥生土器	高坏	2.50			14.20	灰色	黒色		良	横ナデ	横ナデ	壷の口縁部と形状が異なることから脚部とした。高坏では小さい。
169 1	01019	Ⅲ	P	25	SK−008		弥生土器	甕					灰褐色	灰色	砂粒少	堅い	横条痕	ナデ	
169 2	01018	Ⅲ	P	25	SK−008		弥生土器	甕	2.90	25.80			茶色	うすい茶色	砂粒少	普通	横ナデ	横ナデ	
169 3	01017	Ⅲ	P	25	SK−008		弥生土器	甕	5.50	24.80			茶色	灰茶色	2mm以下の砂粒	普通	口縁部は横ナデ　下半は左上がりのナデ	ナデ	口縁の屈曲小さい。
169 4	01020	Ⅲ	P	25	SK−008		弥生土器	甕	7.50				うすい茶色(凸帯下)	うすい茶黒色	うすい灰茶色 砂粒少ない	良	突帯上半は擦刷痕　下半は横条痕	剥離し砂粒露出	内面剥離。凸帯 背の高い三角形。
169 5	01012	Ⅲ	P	25	SK−008		弥生土器	甕	3.00			7.40	うすい灰茶色(外底)うすい灰黒色	うすい灰茶色	砂粒少	普通	部分的に横条痕　外底はケズリ状	わずかに横条痕	5cmの小片。
169 6	01011	Ⅲ	P	25	SK−008		弥生土器	甕	4.90			8.40	灰茶色	(内底より上)黒色	砂粒少	高温	縦ハケ目の後にナデ消し　外底に木葉痕	左上がりのナデ	葉脈に注意。
169 7	01010	Ⅲ	P	25	SK−008		弥生土器	甕	7.00			8.10	灰茶色	灰黒色(炭化物)	1mm以下の砂粒多い	普通	縦ハケ目　外底ナデ	ナデ	外面 ハケ目 粗い。底部 蛇ノ目。
169 8	01015	Ⅲ	P	25	SK−008		弥生土器	壷	2.80				灰茶色	灰茶色	胎土精良	良	ミガキ	頸部ナデ上げ	4cmの小片。傾き、径不正確。
169 9	01013	Ⅲ	P	25	SK−008		弥生土器	壷	4.00	18.40			灰茶色	うすい灰茶色	砂粒少	普通	横ナデ	口縁部は部分的に横ハケ目　下半は横ミガキ	
169 10	01014	Ⅲ	P	25	SK−008		弥生土器	壷	2.20	22.00			褐色	褐色	小砂粒	良			内外面 丁寧な調整。外面なめらか。
169 11	01016	Ⅲ	P	25	SK−008		弥生土器	高坏	4.20			24.40	灰茶色	灰茶色(内面端部)黒色	砂粒少	良	縦ハケ目　細いミガキ状の横線	ハケメ　上半はナデ	
171 1	00961	Ⅲ	P	25	SK−009		弥生土器	甕	11.75			8.20	茶色	灰黒色	小砂粒(白色)	普通	ナデ　括れ部は右上がりのナデ	ナデ	整った器形、調整。
171 2	00962	Ⅲ	P	25	SK−009		弥生土器	甕	8.60			11.10	茶色	濃茶色	砂粒少ない	普通	ハケ目　外底はナデ	ナデ	外面 細いハケ目後にナデ。器壁厚く、しっかりしたつくり。外面に調整具のキズ。
173 1	00944	Ⅲ	O	25	SK−010		弥生土器	甕	12.00	19.60			灰黒色	灰茶色	砂粒少	普通 堅い	口縁部は横ナデ　体部は左上がりのナデ	ナデ	胴部にわずかに張り。
173 2	00948	Ⅲ	O	25	SK−010		弥生土器	甕	7.95	22.00			うすい茶褐色	うすい茶色	わずかに砂粒	普通	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目を横ナデ消し　下半は左上がりのナデ	ナデ	
173 3	00949	Ⅲ	O	25	SK−010		弥生土器	甕	10.20	28.00			茶色	灰茶色	小砂粒多い。雲母	良	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	外面 二種のハケ目。口縁に刻みなし。肥厚気味 断面方形。
173 4	00945	Ⅲ	O	25	SK−010		弥生土器	甕	96.00	29.60			濃灰色	灰色	砂粒少	堅い	口縁部は横ナデ　体部はナデ	ナデ	
173 5	00950	Ⅲ	O	25	SK−010		弥生土器	甕	5.30	23.60			茶色	茶褐色	砂粒少なめ	良	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	外面 丁寧なハケ目。口縁 内傾。胴 張り 倒卵形。
173 6	00951	Ⅲ	O	25	SK−010		弥生土器	甕	7.60	25.00			赤茶色	赤茶色	極小砂粒	良(高温)	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	外面 ハケ目 器壁 うす手。
173 7	00952	Ⅲ	O	25	SK−010		弥生土器	甕	8.20	33.40			灰茶色	灰茶色	砂粒わずか	堅緻	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	調整丁寧。
173 8	00958	Ⅲ	O	25	SK−010		弥生土器	甕	4.20			8.00	灰茶色	灰褐色	1mm以下の砂粒	普通(焼しめ)	ナデ上げ　外底ナデ	ナデ　指押さえ	外面はナデ。
173 9	00957	Ⅲ	O	25	SK−010		弥生土器	甕	3.35			10.00	灰白色	黒色	2~3mm大の砂粒多い。胎土粗	普通	横ナデ　外底はナデ	ナデ	砂粒が多いのでモロイ。
173 10	00959	Ⅲ	O	25	SK−010		弥生土器	甕	6.70			7.60	うす茶色	灰色	1mm以下の砂粒多い	普通	縦ハケ目　外底は押さえ	ナデ?	胴に丁寧外面調整。
173 11	00960	Ⅲ	O	25	SK−010		弥生土器	甕	8.00			7.90	灰茶色	灰茶色	砂粒少	堅い	ヘラ状工具のナデ上げ　外底縁は横ナデ　外底はナデ	ナデ上げ	外面の調整丁寧。
173 12	01173	Ⅲ	O	25	SK−010		弥生土器	壷	5.50				淡灰茶色	淡灰茶色	精良土	良	頸部は横ミガキ　胴部はミガキ?	頸部はナデ	内外面ともヘラみ。
173 13	00955	Ⅲ	O	25	SK−010		弥生土器	壷					茶色	うす茶色	小砂粒	良	横ナデ	ナデ	文様 3本沈線。
173 14	00947	Ⅲ	O	25	SK−010		?	?	2.20			30.00	茶色	茶色(内面に帯状に褐色)	砂粒少	良	ナデ上げ	ナデ	8cmの小破片。傾き不正確。
173 15	00956	Ⅲ	O	25	SK−010		弥生土器	器台	5.85			11.20	灰茶色(下端、口縁)橙茶色	灰茶色(下端、口縁)橙茶色	1mm以下の砂粒	良	縦ハケ目	ナデ	
173 16	00946	Ⅲ	O	25	SK−010		古式土師器	甕(B系)	5.30	18.00			うすい灰茶色	うすい灰茶色	1~2mm大の砂粒多、内面露出		口縁部は横ナデ　体部はハケ目	体部はハケ目残る	外面 叩き状だが、頸部にも見られることから、叩きの可能性うすい。
173 17	00954	Ⅲ	O	25	SK−010		古式土師器	甕(B系)					黒色	灰黒色	精良土	堅緻	叩き	ハケ目	傾き不正確。
173 18	00953	Ⅲ	O	25	SK−010		古式土師器	甕(B系)					灰褐色	うすい茶色	砂粒少。精良土に近い	堅緻	叩き	ハケ目	
176 1	01078	Ⅲ	Q	26	SK−011		弥生土器	甕					灰色	灰褐色	砂粒わずか	普通	一部横条痕	横ナデ(擦刷痕	体部 湾曲気味。
176 2	01070	Ⅲ	Q	26	SK−011		弥生土器	甕					うすい灰茶色	うすい灰茶色	砂粒少	普通	口縁突帯部は横ナデ　体部は剥離	横ナデ	背の低い三角形凸帯。
176 3	01069	Ⅲ	Q	26	SK−011		弥生土器	甕					茶褐色	茶褐色	砂粒少	普通	口縁突帯部は横ナデ　体部はナデ	横ナデ	三角形凸帯 シャープ。
176 4	01079	Ⅲ	Q	26	SK−011		弥生土器	甕					茶色	茶色	砂粒ほとんどナシ	普通	口縁部は横ナデ	ナデ	刻み目 上端に達しない。
176 5	01071	Ⅲ	Q	26	SK−011		弥生土器	甕	6.50	21.60			茶色(やや赤み)	茶色(やや赤み)	小砂粒のみ	高温	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	横ナデ下半はナデ	刻み目 浅く 不鮮明。
176 6	01062	Ⅲ	Q	26	SK−011		弥生土器	甕	8.60	28.00			灰褐色	うすい灰色	砂粒少	普通	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	口縁部は横ハケ目　体部はナデ	体部に張り、口縁垂れ気味。外面の調整丁寧。
176 7	01065	Ⅲ	Q	26	SK−011		弥生土器	甕	4.60	26.40			灰白茶色	灰白茶色	砂粒わずか		横ナデ		内外面丁寧な横ナデ。
176 8	01179	Ⅲ	Q	26	SK−011		弥生土器	甕	7.30	36.00			スス?		雲母。微粒砂わずかに	良	横ナデ	ナデ	特に丁寧ではないが、重厚なつくり。
176 9	01066	Ⅲ	Q	26	SK−011		弥生土器	甕	4.35	34.40			茶色	茶色	小砂粒	普通	口縁部は横ナデ　体部はハケ目をナデ消し	ナデ	9cm小片のため、傾き不正確。もう少し立つか?
176 10	01068	Ⅲ	Q	26	SK−011		弥生土器	甕	3.20	33.60			濃灰色	濃灰色	小砂粒	普通	口縁部は横ナデ　体部は左上がりのナデ	ナデ	口縁端 昏状。
176 11	01067	Ⅲ	Q	26	SK−011		弥生土器	甕	3.10	36.40			灰茶色	灰茶色	小砂粒	普通	口縁部は横ナデ　体部は左上がりのナデ	横ナデ	
176 12	01077	Ⅲ	Q	26	SK−011		弥生土器	甕	5.55			7.90	灰茶色	灰茶色	小砂粒	普通	縦ハケ目の後に横ナデ消し	ナデ	外面 ハケ目を横ナデ消し。
176 13	01073	Ⅲ	Q	26	SK−011		弥生土器	甕	6.60			7.20	灰茶色	灰茶色	砂粒少ない	普通	縦ハケ目　外底ケズリ状	ナデ	底部直立し、大きく開く、面白い形状。
176 14	01076	Ⅲ	Q	26	SK−011		弥生土器	甕	5.80			6.50	うすい茶色	灰茶色	砂粒少ない	良	縦ハケ目　外底ケズリ状	ナデ	外面のハケ目丁寧。
176 15	01072	Ⅲ	Q	26	SK−011		弥生土器	甕	4.40			8.30	灰茶色	灰黒色	小砂粒	普通	粗い縦ハケ目　外底ナデ	ナデ	分厚いつくり。
176 16	01075	Ⅲ	Q	26	SK−011		弥生土器	甕	6.50			6.00	赤茶色	灰黒色	1mm小砂粒多い		縦ハケ目　外底ナデ	ナデ	外面は細かいハケ目。
176 17	01074	Ⅲ	Q	26	SK−011		弥生土器	甕	8.20			11.80	灰白色	灰黒色	砂粒ほとんどナシ。胎土密でないが、よくこねている	普通	縦ハケ目　外底指ナデ	ナデ	大型甕の底部。
176 18	01060	Ⅲ	Q	26	SK−011		弥生土器	甕	2.50	17.40			茶色(やや赤み)	茶色(やや赤み)	砂粒少	普通	ナデ上げ	頸部は横ミガキ状の横ナデ	
176 19	01059	Ⅲ	Q	26	SK−011		弥生土器	壷	5.50				茶色	灰黒色	小砂粒。内面は砂粒露出	普通	横ナデ	ナデ	
176 20	01064	Ⅲ	Q	26	SK−011		弥生土器	壷	7.55			8.00	うすい茶色	うすい灰茶色	小砂粒	普通	横ミガキ　外底はナデ	ナデ	内外面とも丁寧なナデ。
176 21	01063	Ⅲ	Q	26	SK−011		?	脚台付き器種	6.90			12.00	うすい茶色	うすい茶色	小砂粒	普通	縦ハケ目　一部ナデ消し	脚端部は横ハケ目の後に横ナデ	
176 22	01061	Ⅲ	Q	26	SK−011		?	?	3.50	5.70		7.00	うすい茶色	うすい茶色	小砂粒	普通	横ナデ	ナデ	壷の頸部の形状をしているが、器壁が厚く、径が小さいことからこの部の単独か。
177-a 1	00579	Ⅲ	O	25	SK−012		弥生土器	甕	3.90	27.00			茶色(わずかに赤茶色)	茶色	1~3mm大の砂粒	良	横条痕	横ナデ	蒲鉾形凸帯。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器（土製品）の法量と特徴〈法量 上段：土器　下段：土製品〉												
挿図番号							器種		器高	口器受部径	最大径	底脚脚高台径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
177-a 2	00580	Ⅲ	O	25	SK−012		弥生土器	甕					茶色	茶色	砂粒ほとんどナシ	良	横条痕	横ナデ	
177-b 1	00439	Ⅲ	Q	26	SK−013		弥生土器	甕					赤茶色（白色っぽい）	白灰色	砂粒ほとんどナシ	堅い	口縁突帯部は横ナデ　下半はナデ（擦刷痕）	横条痕	三角形凸帯。
177-b 2	00440	Ⅲ	Q	26	SK−013	ベルト	弥生土器	甕					灰白色	灰白色	砂粒ほとんどナシ	良	口縁突帯部は横ナデ　下半は横条痕	横条痕の後にナデ	背のひくい三角凸帯。
177-b 3	00441	Ⅲ	Q	26	SK−013		弥生土器	甕	7.10	17.60			灰黒色（黒みが多い）	灰黒色	砂粒少ない	良	口縁部は横ナデ　下半は縦のハケ目	ナデ　中位に指頭圧痕	口縁端 先細丸。刻み目 上端まで近い。
177-b 4	00442	Ⅲ	Q	26	SK−013		弥生土器	甕	4.50	22.40			茶色（口縁端部少し褐色）	茶色（口縁端部少し褐色）	小砂粒含む	良	口縁部は横ナデ　直下から縦のハケ目	ナデ	口縁上面はふくらみ。
177-b 5	00443	Ⅲ	Q	26	SK−013		弥生土器	甕	6.90	38.80			灰茶色	灰茶色	小砂粒多い。雲母。内面、砂粒露出	良	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目　突帯は貼り付け後に横ナデ	口縁部に一部ハケ目残る　強く横ナデ　この下部は指頭圧痕	
179 1	01003	Ⅲ	Q	25	SK−014		弥生土器	甕	5.90	23.60			茶褐色	茶褐色	小砂粒多め	堅い	斜行ハケ目	横ナデ	
179 2	01004	Ⅲ	Q	25	SK−014		弥生土器	甕	6.20	22.20			うす茶色	うす茶色	砂粒きわめて少	普通	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	ハケは粗目、下方の順。
179 3	00995	Ⅲ	Q	25	SK−014		弥生土器	甕	9.70	26.00			茶褐色	灰褐色	小砂粒	普通	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	口縁上面の調整に特徴。
179 4	01133	Ⅲ	Q	25	SK−014		弥生土器	甕	9.65	23.40			黒褐色（スス付着）	灰茶色	砂粒少	堅い	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	外面はハケ目を重ねる。
179 5	01006	Ⅲ	Q	25	SK−014		弥生土器	甕	5.70	28.00			うすい茶色（肌色）	うすい茶色（肌色）	砂粒ナシ。精良土	普通	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	横ハケ目　下半はナデ	調整 丁寧。シャープなつくり。
179 6	01002	Ⅲ	Q	25	SK−014		弥生土器	甕	7.30	27.60			うすい灰茶色	うすい灰茶色	砂粒少	普通	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目を横ナデ消し	ナデ	口縁 肥厚した台形。
179 7	01005	Ⅲ	Q	25	SK−014		弥生土器	甕	5.70	34.00			茶色	黒斑	小砂粒やや多め	普通		口縁部は横ナデ　下半は縦ハケ目	ナデで滑らか。
179 8	01001	Ⅲ	Q	25	SK−014		弥生土器	甕	3.95			6.25	灰色	灰色	砂粒きわめて少	普通	縦ハケ目	ナデ	外面ハケ目は逆時計。
179 9	01000	Ⅲ	Q	25	SK−014		弥生土器	甕	6.20			6.60	うすい灰茶色	灰茶色	1mm以下の砂粒多い	普通	縦ハケ目　外底はナデ	ナデ上げ	
179 10	00999	Ⅲ	Q	25	SK−014		弥生土器	甕	6.15			8.10	赤茶色	赤茶色	1mm以下の砂粒多い。表面に砂粒露出	普通やや軟質	縦ハケ目　外底ナデ	ナデ	
179 11	00996	Ⅲ	Q	25	SK−014		弥生土器	甕	7.60			7.90	うすい茶色	灰黒色	砂粒多くない	普通	縦ハケ目　外底はナデ	縦ハケ目　外底はナデ	
179 12	00997	Ⅲ	Q	25	SK−014		弥生土器	甕	8.00			9.00	うすい橙茶色	黒褐色（炭化物）	1~3mm大砂粒多くない	高温	縦ハケ目　括れ部は横ナデ　外底はナデ	縦ハケ目　括れ部は横ナデ　外底はナデ	外面 ハケ目粗い。
179 13	00998	Ⅲ	Q	25	SK−014		弥生土器	甕	9.60			9.20	濃灰茶色	灰茶色	砂粒少	堅い	縦ハケ目　底部縁は横ナデ　外底は細いヘラ状工具の横ナデ	ナデ上げ　丁寧で滑らか	整形、調整とも刮に丁寧。
179 14	01150	Ⅲ	Q	25	SK−014		土製品	投弾	3.54	2.23	2.28		灰黒色（濃灰）		砂粒少ない	良			断面やや長丸。
180 1	01285	Ⅲ	Q	27	SK−015		弥生土器	鉢	6.20	(34.60)			灰色	灰白~黒灰色	精良土に2~3mmの砂粒を少し含む	良好	口縁部は横ナデ　口縁下は縦ハケ目　突帯下はミガキ	ミガキ	
180 2	01282	Ⅲ	Q	27	SK−015		弥生土器	甕	9.70	(22.80)			灰褐色	灰褐色	3mmまでの砂粒多く含む。長石・ウンモ	普通	口縁部は横ナデ　体部上半は縦ナデ　下半はハケ目	ナデ	
180 3	01283	Ⅲ	Q	27	SK−015		弥生土器	甕	9.50	(27.50)			橙色（やや淡）	橙色（やや淡）	2~3mm砂粒多く含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	
180 4	01281	Ⅲ	Q	27	SK−015		弥生土器	甕	5.80	(28.00)			淡橙色	灰橙白色	1mmまでの砂粒含む。やや精良土。ウンモ・長石	良好	口縁部は丁寧な横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	
180 5	01180	Ⅲ	Q	27	SK−015		弥生土器	甕	6.60	31.80			灰色	灰色	1mm以下の砂粒多い。雲母	良	横ナデ	ナデ	外面の横ナデ調整は丁寧。凸帯はニブイ。
180 6	01284	Ⅲ	Q	27	SK−015		弥生土器	甕	6.00	(31.80)			灰橙色	橙~淡橙色	2~5mm砂粒多く含む	良好	口縁部は横ナデ　体部はナデ	ナデ	
180 7	01287	Ⅲ	Q	27	SK−015		弥生土器	甕	9.80	(34.00)			淡橙色~灰橙白色	淡橙色~灰橙白色	1~2mm砂粒を多く含む。石英多。ウンモ多	良好	口縁部は丁寧な横ナデ　突帯下は縦ハケ目	ナデ	
180 8	01286	Ⅲ	Q	27	SK−015		弥生土器	甕	9.40	(37.80)			赤橙色（口縁上部のみ灰褐色）	赤橙色（口縁上部のみ灰褐色）	1mm程度の砂粒を非常に多く含む。長石・石英多。茶・茶褐色粒含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目の後委ナデ	ナデ	
180 9	01181	Ⅲ	Q	27	SK−015		弥生土器	甕	8.50	37.20			明茶色（わずかに赤み）		小砂粒多い		横ナデ	ナデ	体部外面は、まず斜めのハケ目を全面に施し、2条の凸帯を貼り付けて横ナデを加えている。
180 10	01275	Ⅲ	Q	27	SK−015		弥生土器	甕	4.40			6.40	淡橙色	不明	1~3mm砂粒多く含む	良好	縦ハケ目　外底はナデ	ナデ	
180 11	01274	Ⅲ	Q	27	SK−015		弥生土器	甕	6.70			6.80	淡赤橙色	灰橙白色	1mm程度の砂粒多い。3~5mm砂粒含む	良好	縦ハケ目　外底はナデ	ナデ	
180 12	01273	Ⅲ	Q	27	SK−015		弥生土器	甕	9.00			7.70	橙色	不明	1~2mm砂粒多く含む	良好	縦ハケ目　外底はナデ	ナデ　炭化	
180 13	01272	Ⅲ	Q	27	SK−015		弥生土器	甕	9.40			9.00	橙灰白色	橙灰白色	1~2m砂粒多く含む。石英多	良好	縦ハケ目　外底はナデ	ナデ	
180 14	01276	Ⅲ	Q	27	SK−015		弥生土器	甕	5.80			7.70	淡橙色	淡橙色	2~4mm砂粒多く含む	良好	縦ハケ目　外底はナデ	ナデ?	
180 15	01277	Ⅲ	Q	27	SK−015		弥生土器	蓋	8.10			7.10	橙~淡橙色	淡橙色	1~3mm砂粒多く含む	良好	縦ハケ目	ヘラ状工具のナデ	
180 16	01280	Ⅲ	Q	27	SK−015		弥生土器	高坏	2.90	(21.60)			灰褐色	淡橙色	比較的精良土。1~3mm砂粒少し含む	良好	横ミガキ	横ミガキ	
180 17	01278	Ⅲ	Q	27	SK−015		弥生土器	高坏	3.30			(18.00)	橙白色	橙白色	精良土。微砂粒含む。ウンモ・長石	良好	ミガキ	ナデ	
181 19	01279	Ⅲ	Q	27	SK−015		弥生土器	壺	3.00	(19.00)			灰褐色	灰橙色	1mm程度の砂粒を少し含む。石英・ウンモ	良好	口縁部は横ナデ	雑なミガキ	
181 20	01288	Ⅲ	Q	27	SK−015		弥生土器	壺	10.70	(30.20)			茶褐色~灰褐色	赤茶褐色~灰茶白色	1mm強の砂粒多。3~5mm砂粒少し。ウンモ	良好	口縁部は横ナデ　上面は横ミガキ　頸部は縦ハケ目の後にナデ上げ	頸部は横ミガキ	
181 21	01289	Ⅲ	Q	27	SK−015		弥生土器	壺	3.20	(46.60)			明橙色	明橙色	1~3mm砂粒やや多い	良好	口縁部は横ナデ	ナデ	
183 1	00397	Ⅲ	N	27	SK−016		弥生土器	甕					灰褐色	灰茶色（下半）黒斑	砂粒	堅い	口縁突帯部は横ナデ　下半は横条痕	横ナデ（擦刷痕）	内面 丁寧な横ナデ。外面 条痕明瞭。蒲鉾形凸帯。
183 2	00396	Ⅲ	N	27	SK−016		弥生土器	甕					茶色	茶色	砂粒少ない。3mm大の砂粒	良	口縁部は横ナデ　下半は縦ハケ目	口縁部は横ハケ目　下半はナデ	口縁先端 先細丸。
183 3	00395	Ⅲ	N	27	SK−016		弥生土器	甕					茶褐色	茶色	小砂粒多め	良	口縁部は横ナデ　下半は縦ハケ目	口縁部は横ハケ目　下半はナデ上げ　ミガキ状で光沢あり	
183 4	00398	Ⅲ	N	27	SK−016		弥生土器	壺					灰黒色	灰褐色			ミガキ	横ナデ	外面ミガキ。小破片のため傾き、文様不明。
183 5	00399	Ⅲ	N	27	SK−016		弥生土器	円盤	3.80	4.05	0.70		茶褐色	茶色	砂粒少。軟質		ハケ目	左上がりのナデ	全周を研磨する。外面黒ずんでいる部分を下半とした。
185 1	00451	Ⅲ	P	26·27	SK−018	上層	弥生土器	壺	7.00	37.20			茶色	茶色（わずかに灰黒色）	砂粒少ない	良	外面色調口縁部は横ナデ　頸部はナデの後に棒状工具で縦のミガキ	頸部は横ミガキ	
185 2	00452	Ⅲ	P	26·27	SK−018	上層	弥生土器	壺	8.85			14.10	赤茶色	赤茶色	1~3mm大の砂粒きわめて多い	良	摩滅し調整痕不明	摩滅し調整痕不明	
185 3	00450	Ⅲ	P	26·27	SK−018	上層	弥生土器	甕	3.35			7.80	灰茶色	灰茶色	小砂粒わずか	良	外底縁は左上がりのナデ	部分的に横条痕	
187 1	00030	Ⅲ	P	26·27	SK−018−①	51	弥生土器	甕	4.50	22.20			黒褐色	褐色	砂粒少ない	良			外面 粗雑なハケ目。器面 凹凸。
187 2	00027	Ⅲ	P	26·27	SK−018−①	93·95	弥生土器	甕	8.70	23.20			茶色	茶色	砂粒少なく丁寧な調整		剥離	口縁部は横ミガキ?	器面なめらか。器壁、ぶ厚い。内面に指押さえ痕。
187 3	00039	Ⅲ	P	26·27	SK−018−①	86	弥生土器	甕	6.55	24.60			茶色（体部は黒み ススか?）	茶色（体部は黒み ススか?）	砂粒少ない	良	口縁部は横ナデ　体部はナデ	口縁部は横ナデ　体部はナデ	

土器(土製品)の法量と特徴<法量 上段:土器　下段:土製品>

報告書 挿図番号	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	器種 様式など	器種	器高 長さ	口・器受部径 幅	最大径 厚さ	底部径・高台径 孔径	色調 外面色調	色調 内面色調	胎土	焼成	調整 外面調整	調整 内面調整	備考
187 4	00025	Ⅲ	P	26·27	SK−018−①	52	弥生土器	甕	9.30				灰茶色	茶色	小砂粒多いが露出していない	良	横ハケ目	磨耗　不明	外面 細かいハケ目。
187 5	00036	Ⅲ	P	26·27	SK−018−①	53	弥生土器	甕	2.30			8.05	茶色	茶色	砂粒多くない	良	横ナデ　外底はケズリ状のナデ	ナデ	調整は雑(力強い)。
187 6	00035	Ⅲ	P	26·27	SK−018−①	93	弥生土器	壷	2.00	17.20			黒褐色	褐色	砂粒少。精良ではない	良			口径やや不正確。4cmの小破片。
187 7	00018	Ⅲ	P	26·27	SK−018−①	81·82	弥生土器	壷	10.90	14.60			黒褐色	茶褐色	小砂粒少	堅緻			
187 8	00040	Ⅲ	P	26·27	SK−018−①	86	弥生土器	壷	2.10	13.20			淡茶色	淡茶色	砂粒少。精良でない	堅い	丁寧な横ナデ　滑らか	ハケ目の後に横ナデ	頸部との境で剥離。
187 9	00010	Ⅲ	P	26·27	SK−018−①	03	弥生土器	壷	1.20			5.20	茶褐色(あずき色に近い)	肌色	精良土	良	ナデでなめらか	工具でのナデ	外 なめらか 丁寧なナデ調整。
187 10	00034	Ⅲ	P	26·27	SK−018−①	93	弥生土器	壷	1.40			7.50	灰茶色(底外)黒み	灰茶色	1〜2mm大の砂粒。内外面露出	良	横ナデ	ナデ	円盤に近い。底面 平坦でない。
187 11	00028	Ⅲ	P	26·27	SK−018−①	93·95	弥生土器	鉢	5.50	15.60			茶色	茶色(口縁内面)褐色					
未掲載	01368	Ⅲ	P	26·27	SK−018−①	53	弥生土器	甕											
189 1	00026	Ⅲ	P	26·27	SK−018−②	32·33	弥生土器	甕	3.50	19.20			うすい茶褐色	うすい茶褐色	砂粒少	普通			
189 2	01024	Ⅲ	P	26·27	SK−018−②	41 甕片一括	弥生土器	甕	12.00	22.40			茶色	黒褐色	小砂粒	良	口縁部横ナデ　体部は縦ハケ目	口縁部は横ナデ　ハケ目	傾き、口径不正確。
189 3	00050	Ⅲ	P	26·27	SK−018−②	47	弥生土器	甕	9.20	22.60			褐色(黒斑)	灰茶色	1mm以下の砂粒	良	口縁部は横ナデ　体部はナデ　下半はナデ上げ	ナデ	よく整っている。
189 4	01008	Ⅲ	P	26·27	SK−018−②	32−1	弥生土器	甕	15.30	23.20			黒褐色	黒褐色	小さめの砂粒多め	堅い	口縁部は横ナデ　体部は左上がりのナデ	左上がりのナデ	内外面 なめらかでない。51·52と同一袋。
189 5	01023	Ⅲ	P	26·27	SK−018−②	41 甕片一括	弥生土器	甕	4.10	26.20			茶褐色	茶褐色	砂粒多い	普通	口縁部は横ナデ　体部はわずかにハケ目残る	ナデ　指頭圧痕	傾き不正確。口縁が最大径となるか。
189 6	01026	Ⅲ	P	26·27	SK−018−②	41 甕片一括	弥生土器	甕	8.10	24.20			灰茶色	灰色	小砂粒	普通	口縁部は横ナデ　体部はナデ	湾曲部は横ハケ目　体部はナデ	屈曲は短小。
189 7	00044	Ⅲ	P	26·27	SK−018−②	27·⑧−2(1号甕棺)	弥生土器	甕	26.15	23.40		9.20	灰黒茶色	うす茶色	砂粒少ない	堅い	口縁部は横ナデ　体部は粗い縦ハケ目	ナデ	外面 粗いハケ目 雑。刻み目ナシ。口縁部 肥厚。
189 8	01025	Ⅲ	P	26·27	SK−018−②	41 甕片一括	弥生土器	甕	12.40	25.60			赤褐色	茶褐色(小豆色)(下部おこげ)	砂粒少ない	高温	口縁部は横ナデ体部は板状工具のナデ上げ	口縁部は工具で強く横ナデ	内面 あれている。
189 9	01009	Ⅲ	P	26·27	SK−018−②	32−1	弥生土器	甕	9.30	25.80			褐色	赤褐色	1〜3mm大の砂粒多め、胎土粗い	良	口縁部は横ナデ　体部はナデ	ナデ上げ	小さく屈曲。口縁 横ナデで扁平となった部アリ。
189 10	00029	Ⅲ	P	26·27	SK−018−②	66	弥生土器	甕	12.10	19.40			茶褐色	茶褐色	砂粒。雲母	良	口縁部は横ナデ　体部はナデ	ナデ	他に夜臼カメ片アリ。
189 11	01022	Ⅲ	P	26·27	SK−018−②	41 甕片一括	弥生土器	甕	5.10	19.60			茶褐色	茶色	1〜2mm大の砂粒多い	良			器壁厚め。
190 12	01007	Ⅲ	P	26·27	SK−018−②	32−1	弥生土器	甕	7.65			7.95	褐色(口縁上面)黒斑	灰茶色	砂粒少	堅い	口縁部は横ナデ　体部は細い棒状のナデ	ナデ	口縁 波打つ。口縁 厚みのある三角形。
190 13	00052	Ⅲ	P	26·27	SK−018−②	37·47	弥生土器	甕	10.10			8.70	灰色	濃灰茶色	1〜3mm大の砂粒	普通	縦ハケ目　外底ナデ	ナデ	外面の調整 逆時計。
190 14	00053	Ⅲ	P	26·27	SK−018−②	58	弥生土器	甕	9.80			7.60	茶褐色	茶色	小砂粒多く、胎土あらい	良	ヘラ状工具で左上がりのナデ	ナデ、内底に指頭圧痕	器面の調整あらい。なめらかでない。50·51と同袋。
190 15	00045	Ⅲ	P	26·27	SK−018−②	40	弥生土器	甕	11.50			8.00	茶褐色	淡茶色	砂粒少なめ。3〜4mm大の砂粒		細かなハケ目	ナデ、内底に指頭圧痕	
190 16	00051	Ⅲ	P	26·27	SK−018−②	47	弥生土器	甕	8.40			8.60	黒茶色	黒茶色	砂粒多めだが、露出なし	良	細かな縦ハケ目	粗い目のハケ	内外面の工具異なる。底部 特徴的。
191 17	00011	Ⅲ	P	26·27	SK−018−②	27	弥生土器	壷	3.70	7.80			茶色	茶色	小砂粒多く、胎土あらい	良	右上がりのハケ目の後にナデ消し 外底はナデ	ナデ	コシキか?50·52と同袋。
191 18	00015	Ⅲ	P	26·27	SK−018−②	79	弥生土器	壷	7.45	11.00			うすい茶色	うすい茶色	精良土	良	横ナデ	ミガキ状のナデ	
191 19	00007	Ⅲ	P	26·27	SK−018−②	48	弥生土器	壷	11.00	10.40	15.50		茶褐色(ミガキ部分)(ソデ部 茶色)	茶褐色(ミガキ部分)(ソデ部 茶色)	精良土	良	口縁部と胴部は横ミガキ	口縁部内面は横ミガキ　頸部は縦のナデ押さえ	調整 ミガキ丁寧。丹塗り2ヶ所のみ 全面の丹塗りはない。
191 20	00017	Ⅲ	P	26·27	SK−018−②	62	弥生土器	壷					灰茶色	灰茶色	精良土	良	頸部より上半はナデ　胴部は横ミガキ	頸部より上半は横ナデ　胴部はナデ	よく整っている。
191 21	00038	Ⅲ	P	26·27	SK−018−②	47·67·68接合	弥生土器	壷					赤茶色(丹塗り)	赤茶色(丹塗り)	胎土 灰茶色。砂粒少なく、精良土に近い	堅い	横ミガキ	横ミガキ	傾き不正確 段なし。
191 22	00046	Ⅲ	P	26·27	SK−018−②	63	弥生土器	壷	4.60				灰色	灰色	砂粒少。精良に近い		細かな横ミガキ	板状工具の横ナデ	底部の継ぎ目で剥離(脱)。
191 23	00008	Ⅲ	P	26·27	SK−018−②	49	弥生土器	甕	4.45			8.40	淡茶色	黒茶色	1〜2mm大の砂粒多い	良	左上がりのナデ	左上がりのナデ	外 調整なめらか ハケ目なし。
191 24	00009	Ⅲ	P	26·27	SK−018−②	55	弥生土器	壷	0.90			12.20	茶色	茶色	精良土	良	ナデでなめらか	剥離	
191 25	00037	Ⅲ	P	26·27	SK−018−②	34	弥生土器	鉢	1.10			5.40	赤茶色	赤茶色	精良土	良	ミガキ	ナデ	底面も丁寧なナデ。
191 26	00041	Ⅲ	P	26·27	SK−018−②	23or28·30·36?·46·96	弥生土器	鉢	4.50	17.40			灰茶色	黒色	砂粒少ない	良	口縁部横ナデ　体部は横ミガキ		4cm角の小破片。傾き、口径不正確。内外ミガキ痕跡不鮮明。
191 27	00021	Ⅲ	P	26·27	SK−018−②	45	弥生土器	甕	9.80	20.20			明茶色	茶色	砂粒少ない、精良ではない	良	丁寧な横ナデ　滑らか	ハケ目状の横ミガキ	
191 28	01021	Ⅲ	P	26·27	SK−018−②	41 甕片一括	古式土師器	甕(D系)	8.60	26.40			濃茶色	濃茶色	小さな砂粒のみ	良	左上がりのナデ	口縁部は横ハケ目　下半はナデ	
192 1	00024	Ⅲ	P	26·27	SK−018−③	12·13	弥生土器	鉢	13.90	19.60	20.00		茶褐色(外面下半)ススス	茶褐色	1mm以下の砂粒	良	口縁部は横ナデ　体部はハケ目	ケズリ	
192 2	00032	Ⅲ	P	26·27	SK−018−③	02	弥生土器	甕	8.90	19.80			濃い茶色	濃い茶色	砂粒極小。雲母		口縁部は横ナデ	上半はナデ上げ　下半は横ナデ	
192 3	00048	Ⅲ	P	26·27	SK−018−③	07	弥生土器	甕	12.60	20.80			茶色	茶色	1mm大の砂粒	良、堅い	口縁部は横ナデ　体部はナデ	口縁部は横ナデ　体部はナデ	表面調整よく、砂粒露出していない。
192 4	00042	Ⅲ	P	26·27	SK−018−③	08−1	弥生土器	甕					茶色	茶色	砂粒少		口縁部は横ナデ　体部は縦ナデ	左上がりのナデ	内外面とも丁寧な調整。傾き不正確。
192 5	00014	Ⅲ	P	26·27	SK−018−③	13	弥生土器	壷	13.40	26.00			茶褐色	茶色	砂粒少ない。雲母		細かな縦ハケ目	縦の指押さえ	内 指押さえ 整形のあと ナデ。外 細かなハケ目。大きな破片が接合するが、すべて接合しない。
192 6	00033	Ⅲ	P	26·27	SK−018−③	74	弥生土器	甕	3.30			10.40	丹塗り(底外)肌色	肌色(中心は黒灰色)	砂粒少ない(精良土ではない)		剥離	ナデ	指頭圧痕。
192 7	00013	Ⅲ	P	26·27	SK−018−③	73	弥生土器	甕	4.30			8.80	茶色	黒茶色(底部)茶褐色	1〜2mm大砂粒多い		ヘラ状工具のナデ	ナデ　一部にハケ目	内外面にナデ時の押圧痕。内面は指文か。粘土の継ぎ目。
192 8	00020	Ⅲ	P	26·27	SK−018−③	06	弥生土器	壷	1.90			7.60	肌色	肌色	小砂粒多め	堅い	横ナデでなめらか	ナデ	
193 1	00031	Ⅲ	P	26·27	SK−018−④	17	弥生土器	鉢	4.70	41.20			肌色・茶色	灰褐色	砂粒含む。精良でない	良	細かい横ミガキ	細かい横ミガキ	横ミガキ 雑 密 2種を使い分け。
193 2	00022	Ⅲ	P	26·27	SK−018−④	22	弥生土器	甕	4.00	22.60			茶褐色	赤茶色	砂粒少ない	堅い、高温	口縁部は横ナデ　体部は左上がりの条痕	左上がりのハケ目	
193 3	00047	Ⅲ	P	26·27	SK−018−④	25	弥生土器	甕	12.10	22.20			茶褐色	赤茶色	小砂粒少ない	堅い	ナデ	ナデ上げ	内外面ともナデ上げ。
193 4	00049	Ⅲ	P	26·27	SK−018−④	20	弥生土器	甕	3.50			8.60	明茶色	明茶色(赤みがある)	砂粒多い	良	ナデ上げ	右上がりのナデ	
193 5	00019	Ⅲ	P	26·27	SK−018−④	22	弥生土器	甕	4.80			10.00	茶色	黒褐色	砂粒少ないが、胎土あらい	良	細かな縦ハケ目	へら状工具のナデ上げ	
193 6	00016	Ⅲ	P	26·27	SK−018−④	21	弥生土器	壷	3.20				赤茶色	肌色	精良土	良	ナデ	横ナデ	
193 7	00012	Ⅲ	P	26·27	SK−018−④	24	弥生土器	壷	5.30				明茶色	明茶色	砂粒多め。精良土ではない	良	横ミガキ	頸部は横ハケ目	傾き、径不正確。
193 8	00023	Ⅲ	P	26·27	SK−018−④	22	弥生土器	高坏	3.90			11.20		茶色	砂粒きわめて多い	良	粗い横ミガキ状のナデ	ナデ	調整あらい。
196 1	00524	Ⅲ	O	25	SK−019		弥生土器	甕	4.35			19.80	濃灰色	濃灰色	小砂粒多い		横ナデ	ミガキで滑らか	端部のつくりから脚部とした。つくりはよく整っている。
													褐色	茶色	小砂粒	良	横ナデ	横ナデ	

報告書 挿図番号	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器 下段:土製品〉												
							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・器脚・台径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
196 2	00522	Ⅲ	O	25	SK−019		弥生土器	甕					茶褐色	うすい茶色	小砂粒	良	口縁部は横ナデ　下半は縦ハケ目	口縁部は横ハケ目　体部は左上がりのナデ	
196 3	00523	Ⅲ	O	25	SK−019		弥生土器	甕					灰黒色	灰黒色	砂粒きわめて少	堅い	口縁部は横ナデ　下半は縦ハケ目	口縁部は横ハケ目を部分的に横ナデ消し	
196 4	00520	Ⅲ	O	25	SK−019		弥生土器	甕					茶褐色	茶色	砂粒きわめて少	良	縦ハケ目を部分的にナデ消し	上半は横ハケ目	外面 ハケ目 ナデ消しで不鮮明。
196 5	00521	Ⅲ	O	25	SK−019		弥生土器	壷	6.90				うすい茶色	うすい茶色	精良土	良	横ミガキ　頸部横ミガキ痕不鮮明	口縁部は横ナデ　頸部は左上がりのナデ　胴部は横ナデ	外面と口縁内側 横ミガキだがやや磨耗し痕跡不解明。丹塗りの可能性あり。
196 6	00525	Ⅲ	O	25	SK−019		弥生土器	壷	2.60			7.00	灰黒色	灰黒色	精良	良	細い棒状工具の横ナデ　外底はミガキ状	ミガキ痕不鮮明　滑らか	調整丁寧。円盤状ではない。
197 1	00556	Ⅲ	O	27	SK−023		弥生土器	甕					灰黒色	茶色(一部 灰黒色)	砂粒少	良	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	横ナデ　指頭圧痕	凸帯 三角形 肥厚。
197 2	00555	Ⅲ	O	27	SK−023		弥生土器	甕					茶(褐色)凸帯より下	茶色	小砂粒	堅い	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	横ナデ	凸帯 幅広の三角形 頂点丸み。
197 3	00554	Ⅲ	O	27	SK−023		弥生土器	甕	3.90	17.20			黒色	灰黒色	小砂粒	良	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	上半は横ナデ　下半は左上がりのナデ(擦刷痕)	凸帯 台形。横条痕 明瞭。
197 4	00558	Ⅲ	O	27	SK−023		弥生土器	甕	2.50				灰黒色	灰茶色	砂粒少	良	突帯部は横ナデ	屈曲部は横条痕　その上下は横ナデ	径不正確。凸帯 しっかりした三角形。凸帯の貼付け部は、強く横条痕を加えて固定してい。
197 5	00557	Ⅲ	O	27	SK−023		弥生土器	甕	6.65				(凸帯より上)茶色、わずかに黒色(凸帯より下)黒色	茶色	砂粒少	良	突帯は横ナデ　上半は横ナデ　下半は左上がりの粗い条痕	上半はナデ　下半は横ナデ	凸帯 三角形。
198-a 1	00565	Ⅲ	O	27	SK−026		弥生土器	壷	1.50	20.00			(刻み目より下)茶色	(口縁上部から内面)黒褐色	極小微砂。雲母	良	横ナデ	横ナデ	
198-b 1	00920	Ⅲ	O	29	SK−027		弥生土器	甕	9.00	19.60			黒褐色	灰褐色	砂粒は少ないが胎土は密でない	良	縦の条痕	擦刷痕	うす手のつくり。外面の条痕はタテ。凸帯 三角形。
198-b 2	00924	Ⅲ	O	29	SK−027		弥生土器	甕	7.00	23.20			灰黒色	灰茶色	砂粒少	良	上半は擦刷痕　下半は横条痕	横条痕　擦刷痕	口縁 波打つ。凸帯 三角形。
198-b 3	00927	Ⅲ	O	29	SK−027		弥生土器	甕					灰色	灰色	砂粒わずか	良	横条痕	擦刷痕　屈曲部は横条痕	凸帯 三角形。
198-b 4	00926	Ⅲ	O	29	SK−027		弥生土器	甕					茶褐色	灰茶色	1~3mm大の砂粒わずか	良	縦の条痕	擦刷痕	
198-b 5	00925	Ⅲ	O	29	SK−027		弥生土器	甕	5.75	30.60			灰黒色	うすい茶色	砂粒少だが密でない		口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	
198-b 6	00922	Ⅲ	O	29	SK−027		弥生土器	甕	5.10	26.00			灰色	灰色	砂粒少	普通	口縁部は横ナデ　体部は細かな縦ハケ目	右上がりのナデ	やや口縁 波打つ。割に丁寧な調整。
198-b 7	00923	Ⅲ	O	29	SK−027		弥生土器	甕	3.30	28.40			うすい茶色	うすい茶色	砂粒少。雲母		口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	外面 ハケ目目は粗い。傾き やや不正確。8cmの小破片。
198-b 8	00928	Ⅲ	O	29	SK−027		弥生土器	壷	3.10			8.10	濃灰黒色	濃灰黒色	微小砂粒。精良土ではない	良	括れ部は横ナデ　上半は横ミガキ　外底はミガキ状	横ミガキ	
198-b 9	00921	Ⅲ	O	29	SK−027		弥生土器	蓋	7.00			27.40	うすい茶色	茶黒色	砂粒少	良	縦ハケ目	ナデ	蓋か。外面凹凸。口縁部 肥厚。ハケ目 粗め。
199 1	00550	Ⅲ	P	29	SK−028		弥生土器	甕	4.35	23.40			灰茶色	灰茶色	砂粒少ない	良	口縁部は横ナデ　体部は左斜行のハケ目	体部はナデ	
199 2	00552	Ⅲ	P	29	SK−028		弥生土器	甕	4.10	30.40			茶色	ちゃいろ	小砂粒。雲母	良	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	横ハケ目わずかに残る	
199 3	00553	Ⅲ	P	29	SK−028		SK−028	甕	5.50	38.00			うすい茶色	うすい茶色	砂粒少	良	口縁部は横ナデ　体部は粗い縦ハケ目を横ナデ消し	左上がりのナデ	やや磨耗気味。
199 4	00549	Ⅲ	P	29	SK−028		弥生土器	壷	5.00	24.60			灰茶色	茶色	小砂粒	良	口縁部は横ナデ　頸部は縦ハケ目	横ナデ	口縁に刻み目なし。外面 あばた状の剥離。
199 5	00551	Ⅲ	P	29	SK−028		弥生土器	壷					丹塗り	丹塗り	精良土	良	横ミガキ	横ミガキ	全面横ミガキ。3cmの小破片のため傾き不正確。
199 6	01138	Ⅲ	P	29	SK−028		土製品	投弾	(4.28)	2.26	2.21		灰褐色		1~2mm大砂粒	良			表面なめらか。調整丁寧。
200-a 1	00545	Ⅲ	O	27	SK−034		弥生土器	甕					茶色	茶色	砂粒少	良	口縁部は横ナデ　下半は横条痕	ナデ	小破片のため傾き不正確。蒲鉾形凸帯。
200-a 2	00546	Ⅲ	O	27	SK−034		弥生土器	甕					茶色(凸帯下)褐色	茶色	砂粒少	良	横条痕	ナデ	蒲鉾形凸帯。
200-a 3	00547	Ⅲ	O	27	SK−034		弥生土器	壷					うすい茶色	うすい茶色	砂粒少。精良土に近い	良	ナデ　丹塗り	ナデ	外面やや磨耗。径不明。傾きもやや不正確。粘土の継ぎ目がよく観察できる。
200-a 4	00548	Ⅲ	O	27	SK−034		弥生土器	甕	1.90			8.80	うすい茶色	うすい茶色	1mm大の砂粒多め。やや軟質				全体に磨耗。
200-b 1	00540	Ⅲ	Q	27	SK−035		弥生土器	甕					茶褐色	茶色	砂粒はわずか。雲母	良	口縁突帯部は横ナデ　横条痕	擦刷痕	三角形凸帯。
200-b 2	00542	Ⅲ	Q	27	SK−035		弥生土器	甕					灰黄色	灰黄色	小砂粒	良	口縁突帯部は横ナデ	ナデ　砂粒露出	凸帯が特徴的。雀居には他例ナシ。
200-b 3	00541	Ⅲ	Q	27	SK−035		弥生土器	甕					灰茶色	茶色	砂粒わずか	良	口縁突帯部は横ナデ　横条痕	ヘラ状工具の横ナデ(擦刷痕)	三角形凸帯 頂点シャープ。
200-b 4	00539	Ⅲ	Q	27	SK−03		弥生土器	甕					茶褐色	灰白色	砂粒少	良	突帯上下部は横ナデ	横ナデ	三角形突帯。
200-b 5	00538	Ⅲ	Q	27	SK−035		弥生土器	鉢	1.60	19.40			丹塗り	丹塗り	精良土	良	横ミガキ	横ミガキ	2cmの小破片。径不正確。
202 1	00137	Ⅲ	O	25	SK−037		弥生土器	甕					茶褐色	茶色	砂粒少	良	口縁部は横ナデ　下半は縦のナデ	横ナデ	刻み目 下端のみ 浅い 不規則。
202 2	00135	Ⅲ	O	25	SK−037		弥生土器	甕					茶褐色	灰茶色	砂粒少	良	口縁部は横ナデ　体部は横ハケ目をナデ消し?	ナデ	強く屈曲し、短い。器壁厚め。
202 3	00136	Ⅲ	O	25	SK−037		弥生土器	甕					茶色	茶色	砂粒少	良	口縁部は横ナデ　体部は左上がりのナデ	口縁部は横ナデ　体部は左上がりのナデ	屈曲弱く、短い。
202 4	00202	Ⅲ	O	25	SK−037	まとまり	弥生土器	甕	9.10	21.00			茶褐色	茶色	砂粒少なめ。密ではない	良	口縁部は横ナデ　下半はナデ	ナデ	指頭圧痕。口縁の刻み目菱形。強く押しつけで口縁端変形。
202 5	00201	Ⅲ	O	25	SK−037	まとまり	弥生土器	甕	8.50	22.20			淡灰色	淡灰色	砂粒少	良	口縁部は横ナデ　下半はナデ	ナデ	軽い。口縁下の押さえに特徴。刻み目は上端近くまで。
202 6	00200	Ⅲ	O	25	SK−037	まとまり	弥生土器	甕	16.50	28.20			茶褐色	茶色	1~2mm大の砂粒多め。雲母。体内部で砂粒露出。使用のためか	良	口縁部は横ナデ　下半はナデ	ナデ	
202 7	00138	Ⅲ	O	25	SK−037		弥生土器	甕					茶色	赤茶色	小砂粒多め	良	口縁部は横ナデ　体部は粗い縦ハケ目	ナデ	口縁上面は中央部が少し盛り上がる。
202 8	00143	Ⅲ	O	25	SK−037		弥生土器	甕	4.40			10.20	茶色	黒褐色	小砂粒多い	良	右上がりのナデ	ナデ	小破片(5cm)。
202 9	00207	Ⅲ	O	25	SK−037	まとまり	弥生土器	甕	2.40	26.20			茶色	茶色	砂粒少ない。雲母	良	口縁部は横ナデ	ナデ	横ナデも丁寧。
202 10	00140	Ⅲ	O	25	SK−037		弥生土器	壷					茶色	茶色(黒斑)	小砂粒多い	良	横ナデ	細かな横ミガキ	内面の調整はミガキ風だが明瞭でない。傾きもう少し寝るか?
202 11	00139	Ⅲ	O	25	SK−037		弥生土器	壷					黒褐色	黒褐色	小砂粒多い	良	横ナデ	横ナデ	口径52cm前後。
202 12	00205	Ⅲ	O	25	SK−037	まとまり	弥生土器	壷					灰茶色	灰茶色	3mm大の大きめの砂粒含む	良	口縁部は横ナデ　下半は左斜行ハケ目を横ナデ消し	ナデ	ヘラ状工具の押さえ。
202 13	00134	Ⅲ	O	25	SK−037		弥生土器	甕					灰黒色	灰黒色	砂粒少	良	口縁部は横ナデ　横ハケ目	横ハケ目	小片のために傾き不正確。下の刻み目 わずかに粘土を盛り上げて、刻み目をつけている。浅い。上に比べ傾きが強い。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器 下段:土製品〉												
							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・胴裾高台径	色調		胎土	焼成	調整		備考
挿図番号							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
202 14	00206	Ⅲ	O	25	SK−037	まとまり	弥生土器	鉢	4.20	37.00			灰茶色	灰茶色	小砂粒(大きめの砂粒はない)	良	横ナデ	細かい横ミガキ	内面は横の細かいミガキ。
202 15	01178	Ⅲ	O	25	SK−037		弥生土器	壷	5.90				灰茶色	灰黒色	微粒砂多い	良	弱い横ミガキ	ナデ	器径 不正確。
202 16	00204	Ⅲ	O	25	SK−037	まとまり	弥生土器	壷	1.90			9.40	灰茶色	灰茶色(底)一部黒み	精良土	良	ミガキ 滑らか	ハケ目状のミガキ	ミガキも割に丁寧。
202 17	00141	Ⅲ	O	25	SK−037		弥生土器	壷					赤茶色	茶褐色	微小砂粒	良	横ナデ	ナデ	連弧文 沈線は浅く、平行線ではない。
202 18	00203	Ⅲ	O	25	SK−037	まとまり	弥生土器	鉢	4.10	16.60			灰茶色	灰茶色	精良土	良	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキ細かでない。効果もうすい。
202 19	00142	Ⅲ	O	25	SK−037		弥生土器	高坏	2.80				茶褐色	黒褐色	砂粒少ないが、精良でない		横ナデ	坏部底に横ハケ目	
204 1	00149	Ⅲ	P	25	SK−038		弥生土器	甕					黒灰色	茶色	砂粒少	良	雑な横ミガキ	口縁部は右上がりのミガキ 下半は横ミガキ	器形不明。
204 2	00146	Ⅲ	P	25	SK−038		弥生土器	甕					灰黒色	茶色	小砂粒少ない	良	口縁突帯部は横ナデ	横ナデ	凸帯 1段下がった位置 断面三角形。刻み目 不整丸形 雑。
204 3	00145	Ⅲ	P	25	SK−038		弥生土器	甕					黒褐色	灰色(口縁端は灰黒色)	砂粒少ない	堅い	口縁突帯部は横条痕状の横ナデ	横ナデ	凸帯 三角形。
204 4	00147	Ⅲ	P	25	SK−038		弥生土器	甕					褐色	黒褐色	小砂粒	良	体部縦ハケ目の後に口縁部は横ナデ	口縁部は横ハケ目 下半はナデ	傾きは不正確。
204 5	00148	Ⅲ	P	25	SK−038		弥生土器	甕					茶褐色	茶色	砂粒含有	良	横ナデ	口縁部は横ナデ 下半はナデ上げ	刻み目 菱形 真上より。
204 6	00890	Ⅲ	P	25	SK−038	まとまり	弥生土器	甕	6.90	20.20			黒褐色(下半)黒色	灰茶色	砂粒少	良	口縁部は横ナデ 体部は左上がりのナデ	左上がりのナデ	厚みのある器壁。
204 7	00150	Ⅲ	P	25	SK−038		弥生土器	甕	2.40			8.20	茶色	黒褐色	小砂粒多い	良	縦ハケ目	ナデ	
204 8	00144	Ⅲ	P	25	SK−038		弥生土器	壷	5.10				赤茶色	茶色	小砂粒多い。精良でない	良	肩部より下半は横ミガキ	ナデ	密な綾杉文だが上下の沈線は浅い、シャープでない。
204 9	00151	Ⅲ	P	25	SK−038		弥生土器	壷	5.60			14.40	茶色	黒色 スス?(内底中心は茶色)	1mm大の砂粒。胎土はあらい		細いヘラ状工具のナデ上げ 外底は粗いナデのまま	ナデ上げ	内面はナデ。外 ミガキ状。
205 1	00570	Ⅲ	Q	26	SK−039	注)Fig.207に出土遺物あり	弥生土器	壷	3.10	41.20			茶色	茶色	2mm大砂粒多め	良	口縁部は横ナデ 頸部は縦ハケ目が一部に残る	横ハケ目	5cm破片で径不正確。
205 2	00568	Ⅲ	Q	26	SK−039	注)Fig.207に出土遺物あり	弥生土器	甕	3.20			11.00	赤茶色	黒褐色	小砂粒多し、胎土粗い	良	ナデ	ナデ	3cm大の破片で底径不正確。
205 3	00569	Ⅲ	Q	26	SK−039	注)Fig.207に出土遺物あり	弥生土器	甕	5.80			7.80	灰茶色	灰茶色(内底)黒み	1〜2mm大の砂粒多い	良	縦のナデ上げ	ナデ	分厚いつくり。
205 4	00562	Ⅲ	Q	26	SK−040	注)Fig.207に出土遺物あり	弥生土器	甕	8.70	19.60			茶褐色	茶色	小砂粒	良			口径、傾き不正確。
205 5	00518	Ⅲ	O	25	SK−042		弥生土器	甕					灰褐色	灰色	1mm大の砂粒多め	良	縦ハケ目	横ハケ目	ハケ目 内と外は同じ。
205 6	00519	Ⅲ	O	25	SK−042		弥生土器	甕	3.50			7.60	茶色	灰黒色	小砂粒多い	良	縦ハケ目 外底はナデ	砂粒露出	
205 7	00400	Ⅲ	O	25	SK−051		弥生土器	甕					茶褐色	茶色	小砂粒少	良	突帯部は横ナデ 下半は横条痕	横ナデ	低い三角突帯。
205 8	00432	Ⅲ	O・P	25	SK−053		弥生土器	甕	7.60	15.20			茶褐色	灰茶色	小砂粒。雲母		口縁部は横ナデ ヘラ状工具のナデ上げ	ヘラ状工具のナデ上げ	ナデ調整丁寧。
205 10	00460	Ⅲ			SK−058		弥生土器	甕					黒褐色	灰色	小砂粒多め	良	横ナデ	ナデ	5cmの小破片。
205 11	00535	Ⅲ			SK−060		弥生土器	甕					茶褐色	茶色	小砂粒	良	縦ハケ目 突帯は横ナデ	砂粒露出	背の高い三角形突帯。
205 12	00536	Ⅲ			SK−060		弥生土器	壷					茶色	茶色	小砂粒少	良	横ナデ?	ナデ	小破片。
205 13	00438	Ⅲ			SK−065		弥生土器	壷	3.50				灰色	濃灰色	小砂粒多め。胎土は粗でない				径・傾き不正確。文様不明。
205 14	01129	Ⅲ			SK−065		弥生土器	壷	2.10			11.60	丹塗り	灰白色	砂粒ほとんどないが、精良ではない		ナデ 外底もナデ	不明	
205 15	00578	Ⅲ			SK−076		弥生土器	甕	3.50	25.00			うすい茶色	うすい茶色	わずかに砂粒	良	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	横ハケ目 下半は横ハケ目をナデ消し	
205 16	00734	Ⅲ			SK−083		弥生土器	甕	8.55	21.20			茶色(口縁端、凸帯、凸帯下半)黒褐色	灰茶色	小砂粒多い	良	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目 砂粒露出	口縁部	分厚い。凸帯 台形。
205 17	00771	Ⅲ			SK−084		弥生土器	甕	3.20	22.00			褐色	褐色	小砂粒	良	口縁部は横ナデ 体部は横ナデ	ナデ	
209 1	01045	Ⅲ	P	25・26	SK−041		弥生土器	甕	4.00	19.40			褐色	うすい茶色	砂粒少	普通	口縁突帯部は横ナデ 体部は横条痕	ナデ?	5cmの小片、傾き?凸帯 垂れ気味の蒲鉾形。
209 2	01047	Ⅲ	P	25・26	SK−041		弥生土器	甕	4.30	22.00			茶褐色	うすい茶色	砂粒わずか	普通	横条痕	ナデ	凸帯 蒲鉾形。
209 3	00993	Ⅲ	P	27	SK−041		弥生土器	甕	15.20	18.80			うすい茶色(凸帯下)茶黒色	うすい茶色			ナデ 指頭圧痕	体部上半は横条痕をナデ消し 下半は横条痕	ナデ 指頭圧痕。
209 4	00909	Ⅲ	P	25・26	SK−041	南東部まとまり	弥生土器	甕					濃灰褐色	灰褐色	砂粒きわめて少	堅い	横条痕	ナデ 指頭圧痕	傾きやや不正確。外面の条痕 顕著 部分的にナデ。凸帯 正三角形。
209 5	00939	Ⅲ	P	25・26	SK−041	中心部まとまり	弥生土器	甕					灰褐色	うすい茶色	砂粒きわめて少		かるい擦刷痕	軽い擦刷痕	
209 6	01044	Ⅲ	P	25・26	SK−041		弥生土器	甕	7.40	22.80			うすい茶褐色	うすい茶色	砂粒少	堅い	口縁突帯部は横ナデ 体部は横条痕	横ナデ	凸帯 幅広の三角形。
209 7	01046	Ⅲ	P	25・26	SK−041		弥生土器	甕	7.20	29.40			灰褐色	うすい茶色	砂粒少ない。胎土密	普通	横条痕	ナデ	凸帯 どちらも幅広の三角形 シャープ。
209 8	00937	Ⅲ	P	25・26	SK−041	中心部まとまり	弥生土器	甕	5.10				茶褐色	茶褐色	砂粒きわめて少	良	横条痕	擦刷痕	三角形凸帯。
209 9	00908	Ⅲ	P	25・26	SK−041	南東部まとまり	弥生土器	甕	7.60				茶色	灰黒色	1mm大の砂粒多め。胎土粗	良	屈曲部上半はナデ	屈曲部上半はナデ	凸帯 三角形。粘土の継ぎ目から天地を決めたが、凸帯刻み目は逆か。
209 10	00938	Ⅲ	P	25・26	SK−041	中心部まとまり	弥生土器	甕	6.20				灰茶色	茶色	砂粒きわめて少	良	横条痕	屈曲部は横条痕 下半はナデ	三角形凸帯。
209 11	00882	Ⅲ	P	25・26	SK−041	西寄りまとまり	弥生土器	甕	5.60				うすい茶褐色(凸帯より下)黒褐色	灰茶色	1mm大の砂粒 わずかに入る	堅い 高温	横条痕	屈曲部は横条痕 その上半は擦	
209 12	00936	Ⅲ	P	25・26	SK−041	中心部まとまり	弥生土器	甕	9.15				黒褐色	茶色	1mm以下の砂粒	良	横条痕 下半は部分的	横ナデ	胴部の反転強くない。凸帯 蒲鉾形に近い。
209 13	00942	Ⅲ	P	25・26	SK−041	中心部まとまり	弥生土器	甕	3.15			6.80	茶褐色	うす茶色	わずかに砂粒(4mm大もある)	普通(やや軟)	横条痕 外底は木葉痕	ナデ	
209 14	00913	Ⅲ	P	25・26	SK−041	南東部まとまり	弥生土器	甕	4.70			8.00	灰黒色	灰茶色	砂粒ほとんどナシ	高温	横ナデ 外底はケズリ	粗いハケ目 内底はナデ	
209 15	00892	Ⅲ	P	25・26	SK−041	北西端まとまり	弥生土器	甕	5.50			6.55	灰茶色(黒斑)	灰茶色	砂粒少	普通	ヘラ状工具のナデ 外底はケズリ状のナデ	横条痕	外面 やや凹凸目立つ。器形 手捏ね風。
209 16	01032	Ⅲ	P	25・26	SK−041		弥生土器	甕	6.50			7.40	灰茶色		砂粒わずか	普通	ナデ 外底縁は横ナデ 外底はケズリ	横ナデ	底部端 突出、大きい。
210 17	00910	Ⅲ	P	25・26	SK−041	南東部まとまり	弥生土器	甕					茶褐色	茶色	砂粒きわめて少	やや軟質	口縁部は横ナデ 下半は縦ハケ目	横ハケ目一部に残る	内外 細かなハケ目。
210 18	00935	Ⅲ	P	25・26	SK−041	中心部まとまり	弥生土器	甕	5.70	15.80			茶褐色	茶色	砂粒きわめて少	良	屈曲小さい。刻み目	上端まで達す	
210 19	01035	Ⅲ	P	25・26	SK−041		弥生土器	甕	5.40	19.40			黒褐色	茶褐色	小砂粒	普通	口縁部は横ナデ 体部は細かい縦ハケ目	口縁部は細かいハケ目 下半はナデ	屈曲小さい。
210 20	00907	Ⅲ	P	25・26	SK−041	南東部まとまり	弥生土器	甕	5.15	19.40			茶色(黒斑)	灰褐色	わずかに小砂粒	堅い	口縁部は横ナデ	左上がりのナデ	口縁部 外反 直線的。
210 21	00933	Ⅲ	P	25・26	SK−041	中心部まとまり	弥生土器	甕	8.50	22.00			茶黒褐色	茶褐色	小砂粒わずか	堅い	口縁部は横ナデ 体部はナデ	湾曲部はハケ目 体部はナデ	口縁の屈曲小さく断面方形。
210 22	00898	Ⅲ	P	25・26	SK−041	南西部まとまり	弥生土器	甕	10.00	20.20			茶褐色	うす茶色	砂粒少ないが密でない	普通	口縁部は横ナデ 体部は粗いナデ	ナデ 指頭圧痕	外面 粗い ナデケズ。
210 23	01034	Ⅲ	P	25・26	SK−041		弥生土器	甕	8.10	21.60			濃5灰茶色	赤茶色	小砂粒	普通	口縁部は横ナデ 体部はナデ	ナデ	器壁 肥厚。
210 24	01132	Ⅲ	P	25・26	SK−041	南西部まとまり	弥生土器	甕									粗い縦ハケ目	口縁部は横ハケ目 下半はナデ	

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器　下段:土製品〉												
							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・脚裾高台径	色調		胎土	焼成	調整		備考
挿図番号							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
210 25	00906	Ⅲ	P	25·26	SK−041	南東部まとまり	弥生土器	甕	5.70	23.20			濃茶褐色	濃茶褐色(口縁内面)黒褐色	小砂粒のみ		口縁部は横ナデ	縦ハケ目	厚めの器壁。
210 26	00881	Ⅲ	P	25·26	SK−041	西寄りまとまり	弥生土器	甕	11.60	20.40			茶褐色	黒褐色(炭化物)	小砂粒割りに多い	普通	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	口縁部は横ハケ目　体部は左上がりのナデ	刻み目上端まで完全に達していない。屈曲は強いが、のびは小さい。
210 27	00992	Ⅲ	P	25·26	SK−041		弥生土器	甕	13.20	19.80			灰茶色	灰黒色	1〜3mm大の砂粒	普通	口縁部は横ナデ　体部は斜行ハケ目	口縁部は横ハケ目　ナデ	調整粗雑。口縁波打つ。器形いびつ。
210 28	00897	Ⅲ	P	25·26	SK−041	南西部まとまり	弥生土器	甕	8.80	23.60			濃茶色	うすい灰茶色	砂粒きわめて少。胎土密でない	堅い	口縁部は横ナデ　縦ハケ目　一部横ナデ	胴曲部はハケ目　右上がりのナデ	口縁部の屈曲 小さく分厚い。
210 29	00894	Ⅲ	P	25·26	SK−041	北西端まとまり	弥生土器	甕	7.40	23.00			茶色	茶褐色	極小砂粒。胎土密ではない	普通	口縁部は横ナデ　体部は粗いハケ目	体部は丁寧なナデ	外面 部分的に剥離。
210 30	01036	Ⅲ	P	25·26	SK−041		弥生土器	甕	3.80	24.40			茶色(肌色)(口縁端)黒斑	赤茶色	小砂粒。胎土粗い。器面 砂粒露出	普通	口縁部は横ナデ　体部はナデ	ナデ?	
210 31	01037	Ⅲ	P	25·26	SK−041		弥生土器	甕	6.30	28.60			濃灰色	灰色	砂粒少	普通(堅い)	口縁部は横ナデ　体部はナデ	体部はナデ	
210 32	00930	Ⅲ	P	25·26	SK−041	中心部まとまり	弥生土器	甕	12.50	50.20			茶色	茶色	小砂粒少なめ	良	口縁下は縦ハケ目　体部は横ハケ目　下半はナデ	体部は左上がりのナデナデ	口縁部だけがシャープ。他は浅い。口縁端 肥厚。
210 33	01031	Ⅲ	P	25·26	SK−041		弥生土器	甕	5.25			7.60	灰茶色	灰黒色	小砂粒。胎土は粗い	普通	縦ハケ目	炭化物　調整痕不明	
210 34	00883	Ⅲ	P	25·26	SK−041	西寄りまとまり	弥生土器	甕	4.20			9.00	赤茶色	赤茶色	1〜3mm大の砂粒多い。内外面に砂粒露出	高温	ナデ	ナデ	つくりは丁寧。
210 35	00940	Ⅲ	P	25·26	SK−041	中心部まとまり	弥生土器	甕	5.80			8.40	灰茶色	灰褐色	1mm大の砂粒多い。雲母	普通	ナデ　外底もナデ	ナデ	
210 36	00899	Ⅲ	P	25·26	SK−041	南西部まとまり	弥生土器	甕	9.30			8.90	赤茶色	茶色	1〜3mm大の砂粒多い。内外面 露出	良	縦ハケ目　外底はナデ	ナデ　内底指頭圧痕	底部 うすつくり。外面 ハケ目 丁寧でない、粗くもない。
211 37	01042	Ⅲ	P	25·26	SK−041		弥生土器	壷	3.70	9.20			茶褐色	茶褐色	精良土	普通	横ミガキ	横ミガキ	うす手のつくり。
211 38	01041	Ⅲ	P	25·26	SK−041		弥生土器	壷	3.50	11.40			灰褐色	うすい灰色	精良土	普通	横ミガキ	細かな横ミガキ	
211 39	00931	Ⅲ	P	25·26	SK−041	中心部まとまり	弥生土器	壷	9.80	20.40			うすい茶褐色	うすい茶色	小砂粒	良	口縁部は横ナデ　頸部ナデ	頸部は左上がりのヘラ状工具のナデ	口縁部 焼成時のフクレ。砂粒露出。
211 40	00994	Ⅲ	P	25·26	SK−041		弥生土器	壷	13.50	17.00			うすい茶色	うすい茶色	砂粒少だが、胎土密でない	普通	口縁部は横ナデ　頸部は横ミガキ	ナデ	外面の調整 横ミガキ状。
211 41	00895	Ⅲ	P	25·26	SK−041	北西端まとまり	弥生土器	壷	12.25	21.60			(赤)茶色	(赤)茶色	小砂粒	高温、きわめて堅い	口縁部は横ナデ　頸部はナデ	口縁部は横ナデ　頸部はナデ上げ	頸部との境 不明瞭。文様は三本並行線の後に稜形。きわめて不鮮明、一周しない。
211 42	00904	Ⅲ	P	25·26	SK−041	南東部まとまり	弥生土器	壷	5.60				黒褐色	黒褐色	極小砂粒	堅緻	ミガキ状のナデ	頸部はナデ　下半は横ミガキ状	内外面ともミガキだが、痕跡不鮮明。
211 43	00896	Ⅲ	P	25·26	SK−041	北西端まとまり	弥生土器	壷	9.70				灰茶色	茶色	小砂粒含む	堅い	頸部は横ミガキ　胴部はミガキ?	頸部は左上がりのナデ　胴部はナデ	器壁 薄く均一なつくり。文様 三本線の後に稜形。
211 44	01043	Ⅲ	P	25·26	SK−041		弥生土器	壷	3.55				灰茶色	灰茶色	精良土に近い	普通	細かな横ミガキ	ナデ	
211 45	00934	Ⅲ	P	25·26	SK−041	中心部まとまり	弥生土器	壷	8.00				うすい茶色	灰色	砂粒少	良	横ナデ	ナデ?	大きさの割りにうす手つくり。沈線 にぶい 平行でない。
211 46	00903	Ⅲ	P	25·26	SK−041	南東部まとまり	弥生土器	壷					灰茶色	灰茶色	砂粒きわめて少。精良土ではない	堅い	丁寧なナデ	ナデ	内面はナデのママ。
211 47	00905	Ⅲ	P	25·26	SK−041	南東部まとまり	弥生土器	壷					うす茶色	うす茶色	小砂粒わずか	やや軟質	横ミガキ	ナデ	外面 ミガキ。文様 シャープでない。
211 48	01029	Ⅲ	P	25·26	SK−041		弥生土器	壷	1.20			5.30	うすい肌色	うすい茶色肌色	精良土	普通	条痕状の横ミガキ　外底はミガキ	ヘラ状工具の粗いナデ	
211 49	00941	Ⅲ	P	25·26	SK−041	中心部まとまり	弥生土器	壷	2.20			8.00	うす茶色	うす茶色	精良土	良	横ミガキ　外底はミガキ　滑らか	ナデ	
211 50	01030	Ⅲ	P	25·26	SK−041		弥生土器	壷	1.10			5.00	うすい灰茶色(外底)黒斑	うすい灰茶色	精良土	普通	横ナデ　外底丁寧なナデ	剥離	
211 51	01028	Ⅲ	P	25·26	SK−041		弥生土器	壷	2.50			6.30	茶褐色	茶色	小砂粒(1mm以下)。胎土精良でない	普通	横ナデで滑らか	ナデ	
211 52	00893	Ⅲ	P	25·26	SK−041	北西端まとまり	弥生土器	壷	3.65			12.90	灰褐色(外底)黒斑	灰褐色	砂粒少	堅い	ナデ上げ　外底はナデ	ナデ	力強いつくり。
211 53	00911	Ⅲ	P	25·26	SK−041	南東部まとまり	弥生土器	壷	3.90			12.40	灰茶色(丹塗り)	灰茶色	砂粒小、1mm以下。精良土でないが密。雲母		縦ハケ目　部分的にヘラ押さえ	右上がりのナデ　内底は横ハケ目	外面 細かいハケ目。内面 粗いハケ目。
211 54	00912	Ⅲ	P	25·26	SK−041	南東部まとまり	弥生土器	壷	4.50			12.00	赤茶色	灰黒色	1〜2mm砂粒。雲母多い	良	ナデ　外底はナデ	ナデ	
211 55	00943	Ⅲ	P	25·26	SK−041	中心部まとまり	弥生土器	壷	7.20			12.10	赤茶色	濃灰黒色	砂粒多い。胎土粗い	普通	粗いハケ目の後にナデ	ナデ	
212 56	00902	Ⅲ	P	25·26	SK−041	南東部まとまり	弥生土器	鉢	8.40	17.80			うすい茶色	うすい茶色	精良土に近い	やや軟質	口縁部は横ミガキ　下半は幅広のナデ	下半はミガキ状のナデ	ミガキは内外面とも幅広い。
212 57	00901	Ⅲ	P	25·26	SK−041	南東部まとまり	弥生土器	鉢	5.50	17.60			濃茶褐色	茶色	小砂粒わずか	普通	口縁部は丁寧な横ナデ　滑らか	じょ半は横ミガキ状	丁寧な調整。外面もミガキだが痕跡不鮮明。
212 58	01038	Ⅲ	P	25·26	SK−041		弥生土器	甕	4.70	23.20			うすい赤灰白色	うすい赤灰白色	砂粒少ないが精良土ではない	普通	横ミガキで滑らか	横ミガキで滑らか	全面丁寧なミガキ状。※胎土、調整などから、甕とは別とすべき。
212 59	00932	Ⅲ	P	25·26	SK−041	中心部まとまり	弥生土器	鉢	9.00	26.40			黒褐色	黒褐色	砂粒少。胎土密	良	口縁部は横ナデ　体部は横ミガキ	体部は左上がりのナデ	内外面 大部分が横ミガキ。
212 60	00929	Ⅲ	P	25·26	SK−041	中心部まとまり	弥生土器	鉢	8.40	34.80			茶色	茶色	砂粒少ない。精良ではない	普通	口縁部は横ナデ　体部は横ミガキ	ナデ	口縁端 丸み。内面も細かなミガキ状。
212 61	00900	Ⅲ	P	25·26	SK−041	南東部まとまり	弥生土器	鉢	5.60	25.80			うすい茶色	うすい茶褐色	精良土に近い	良	口縁部は横ミガキ　下半は一部ハケ目残る	横ミガキ	内面 なめらか。
212 62	01039	Ⅲ	P	25·26	SK−041		弥生土器	鉢	4.35	31.60			うすい茶色	うすい茶色	砂粒少ないが精良でない。表面風化、磨耗している		摩滅で調整不明	口縁部は横ナデ	
212 63	01040	Ⅲ	P	25·26	SK−041		弥生土器	鉢	5.80	32.80			うすい赤茶色	うすい灰茶色	精良土	高温	口縁部は丁寧な横ナデ　体部は細かなミガキ	手英婦負な横ナデ	丁寧な調整。
214 1	00413	Ⅲ	Q	70	SK−070		弥生土器	甕					灰黒色	灰色	小砂粒(内面に露出)	良	口縁突帯部は横ナデ　下半は横条痕	ナデ　粘土接合痕	蒲鉾形凸帯。
214 2	00414	Ⅲ	Q	70	SK−070		弥生土器	甕					茶褐色	茶色	小砂粒	良	口縁突帯部は横ナデ　下半は横条痕	ナデ	三角形凸帯。
214 3	01098	Ⅲ	Q	70	SK−070	まとまり	弥生土器	甕	14.90	24.00			褐色	茶褐色	砂粒少	高温	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	ナデ	背の低い三角形。
214 4	00412	Ⅲ	Q	70	SK−070		弥生土器	甕	5.50				茶色	灰色	小砂粒多め	良	屈曲部上半は横条痕	ナデ上げ　部分的に横条痕残る	6cmの小破片。突帯は低い。
214 5	00415	Ⅲ	Q	70	SK−070		弥生土器	甕					灰黒色	灰白色	砂粒少ない	良	屈曲部下半は横条痕	横ナデ	
214 6	00416	Ⅲ	Q	70	SK−070		弥生土器	甕					褐色	茶色	小砂粒多い		口縁下は粗い縦のハケ目	口縁部は横ハケ目　下半はナデ	
214 7	00417	Ⅲ	Q	70	SK−070		弥生土器	甕	2.90	30.80			灰白色	灰白色	やや軟質		口縁部は横ナデ　丹塗り?	口縁部は横ナデ　下半は左上がりのナデ	全体に磨耗。7cmの小破片のため口径不正確。
214 8	00915	Ⅲ	Q	70	SK−070	まとまり	弥生土器	甕	5.10	32.80			うす茶色	うす茶色	砂粒少	良	口縁部は横ナデ　体部はナデ	口縁部は横ハケ目　体部は左上がりのナデ	しっかりしたつくり。口辺部 上面 盛り上がり 肥厚。
214 9	00914	Ⅲ	Q	70	SK−070	まとまり	弥生土器	甕	7.80	47.20			うすい灰茶色	うすい灰茶色	砂粒きわめて少	堅い	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	上半は横ナデ　下半はナデ	口縁下の凸帯剥離か。口縁上下に刻み目 木目 規則的。
214 10	01085	Ⅲ	Q	70	SK−070	まとまり	弥生土器	甕	3.00			9.15	うすい灰茶色	うすい灰茶色	砂粒少なめ	普通	横条痕　外底はケズリ	横条痕	

土器（土製品）の法量と特徴〈法量 上段:土器　下段:土製品〉

報告書 挿図番号	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	器種 様式など	器種	器高 長さ	口器受部径 幅	最大径 厚さ	底部穿孔径 孔径	色調 外面色調	色調 内面色調	胎土	焼成	調整 外面調整	調整 内面調整	備考
214 11	01087	Ⅲ	Q	70	SK−070	まとまり	弥生土器	甕	3.30			7.50	うすい茶褐色	灰褐色	砂粒	普通	横ナデ　外底粗いナデ	ナデ	外底 砂粒多量に動く。
214 12	00422	Ⅲ	Q	70	SK−070		弥生土器	甕	3.00			6.40	赤茶色	淡茶色	小砂粒多い	良	外底は粗いケズリ　ヘラ状工具の押さえ	ナデ	粗いつくり。
214 13	01089	Ⅲ	Q	70	SK−070	まとまり	弥生土器	甕	3.20			8.00	灰茶色	灰茶色	砂粒	普通	横条痕　外底ケズリ状	ナデ	調整雑。
214 14	01086	Ⅲ	Q	70	SK−070	まとまり	弥生土器	甕	6.85			8.20	うすい灰色	灰色	砂粒少	普通	ナデ　外底ナデで滑らか	ナデ	
214 15	01088	Ⅲ	Q	70	SK−070	まとまり	弥生土器	甕	2.75			7.50	灰茶色	灰茶色	砂粒少ない	普通	横条痕　外底ナデ	細いヘラ状工具のナデ	外底 木葉痕をヘラナデで消す。
214 16	00423	Ⅲ	Q	70	SK−070		弥生土器	甕	4.50			8.60	灰色	黒色	砂粒多い	良	ナデ上げ	ナデ上げ	
214 17	01084	Ⅲ	Q	70	SK−070	まとまり	弥生土器	甕	9.30			7.30	灰色	黒色	砂粒少	普通	粗い縦ハケ目　部分的に横ナデ 外底はケズリ状のナデ	縦のナデ上げ　一部にハケ目	内面の調整が特徴的。
214 18	00419	Ⅲ	Q	70	SK−070		弥生土器	壺	7.50				(赤)茶色	茶色	砂粒ナシ。精良土はない		横ミガキは細かではない	頸部にわずかハケ目が残る　縦のナデ上げ	
214 19	00420	Ⅲ	Q	70	SK−070		弥生土器	壺	4.25				黒褐色	黒褐色	砂粒少	堅い	横ナデは軽いミガキ状	ナデ上げ	沈線 浅く、ひ弱。文様全形不明。沈線や凹みに丹のこる。
214 20	00421	Ⅲ	Q	70	SK−070		弥生土器	壺					灰茶色	灰茶色	小砂粒少なめ		横ミガキ?	軽いナデ	器壁 うすいつくり。4条の沈線、浅く稚拙。傾き不正確。
214 21	00418	Ⅲ	Q	70	SK−070		?	?	3.70			28.40	濃灰色	濃灰色	砂粒ほとんどないが密ではない。やや軟質	普通	脚端部から裾部は横ナデ	ミガキ状の横ナデ	端部のつくりから脚裾部とした。わずかな段があることから壺の口縁の可能もあり。
214 22	00917	Ⅲ	Q	70	SK−070	まとまり	弥生土器	器台	8.10				うす茶色	灰茶色	砂粒わずか	良	縦ハケ目	ナデ	
218 1	00916	Ⅲ	Q	25	SK−071-②		弥生土器	甕	9.50	20.00			灰褐色	うすい茶色	砂粒少	堅い	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	擦刷痕	外面 条痕強い。内面 部分的に条痕。凸帯 台形。
218 2	00427	Ⅲ	Q	25	SK−071		弥生土器	甕					灰茶色	(赤)灰色	小砂粒	良	口縁突帯部は横ナデ　下半は横条痕	ナデ	ふくらみのある三角凸帯。
218 3	00426	Ⅲ	Q	25	SK−071		弥生土器	甕					灰黒色	濃灰色	砂粒少ない	良	口縁突帯部は横ナデ　下半は横条痕	ヘラ条工具の横ナデ	三角突帯。
218 4	00428	Ⅲ	Q	25	SK−071		弥生土器	甕					灰褐色	灰茶色	砂粒少ない	良	口縁突帯部は横ナデ　下半は横条痕	ヘラ条工具の横ナデ	三角凸帯。
218 5	00425	Ⅲ	Q	25	SK−071		弥生土器	甕	4.30				赤茶色	赤茶色	1~2mm大の砂粒多い	良	屈曲部より上部は横条痕	屈曲部に横条痕　ナデ	三角凸帯。
218 6	01096	Ⅲ	Q	25	SK−071-①	南側まとまり	弥生土器	甕	2.95			6.80	赤茶色	黒色	わずかに砂粒	普通	粗いナデ　指頭圧痕	ナデ　部分的に条痕	
218 7	01093	Ⅲ	Q	25	SK−071-③		弥生土器	甕	12.60	23.40			灰褐色(体部下半)黒褐色	灰色	小砂粒露出	普通	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	砂粒露出で調整痕不明	屈曲小さい。刻み目 上端に近い。
218 8	01097	Ⅲ	Q	25	SK−071-①	南側まとまり	弥生土器	甕					濃灰色	濃灰色	砂粒少	堅い	横ナデ?	横ナデ?	刻み目とは異なる。口縁端部に押圧文。
218 9	00424	Ⅲ	Q	25	SK−071		弥生土器	甕	4.40	24.80			茶褐色	茶色	小砂粒多め	良	縦ハケ目の後に横ナデ消し	横ハケ目	刻み目なし。傾き不正確。
218 10	00429	Ⅲ	Q	25	SK−071		弥生土器	甕	4.00	19.60			茶色(やや黒み)	茶色	砂粒少ない	堅い	口縁部は横ナデ　下半はナデ	ナデ	刻み目ナシ。
218 11	00430	Ⅲ	Q	25	SK−071		弥生土器	甕	1.75	30.60			うすい茶色	うすい茶色	1~2mm大の砂粒多め	良	口縁部は横ナデ	横ナデ	口縁部 三角形 肥厚 上面わずかにへこむ。
218 12	01091	Ⅲ	Q	25	SK−071-③	まとまり	弥生土器	甕	5.60			9.20	うすい灰茶色	灰黒色(砂粒露出)		普通	縦ハケ目　外底指押さえ	ナデ	
218 13	01092	Ⅲ	Q	25	SK−071-③	まとまり	弥生土器	甕	6.15			7.20	灰茶色	灰色	小砂粒のみ	普通	縦ハケ目　外底ケズリ状　砂粒露出	ナデ	外底がケズリ状で面白い。
218 14	01090	Ⅲ	Q	25	SK−071-③	まとまり	弥生土器	甕	6.75			7.20	うすい灰色(外底)灰黒色	灰黒色	砂粒少ないが、胎土粗	普通	粗い縦ハケ目　外底ナデ	ナデ	外面の調整は粗目だが、割に丁寧。
218 15	01095	Ⅲ	Q	25	SK−071-①	南側まとまり	弥生土器	甕	7.10			7.20	灰色	灰茶色	極小砂粒のみ	普通	括れ部は縦ハケ目　上半はナデ消し　外底はナデ	ナデ	底部よくしまる。端部 面取り状。
218 16	00097	Ⅲ	Q	25	SK−071-①	南側まとまり	弥生土器	鉢	7.60	14.40		6.6~6.9	濃茶色	黒色	砂粒含む。多くはない	良	口縁部は横ナデ　体部はナデ　外底はケズリ状のナデ	口縁部は横ナデ	外面の調整 雑。
218 17	01094	Ⅲ	Q	25	SK−071-①	南側まとまり	弥生土器	壺	6.80	20.20			灰白色	灰白色		普通	口縁部は横ナデ?	横ナデ?	全体に風化し、調整痕不明。
218 18	00431	Ⅲ	Q	25	SK−071		弥生土器	壺	3.50			8.40	赤茶色	灰色	表面砂粒露出	良	外底から体部はナデ	ナデ	
220 1	00456	Ⅲ	Q	25	SK−072		弥生土器	甕					茶褐色	茶褐色	砂粒きわめて少	良	縦ハケ目を横ナデ消し	左上がりのナデ	口縁小さく外反。
220 2	00458	Ⅲ	Q	25	SK−072		弥生土器	甕					茶褐色	灰茶色	小砂粒含む	良	口縁部は横ナデ　下半は縦ハケ目	横ハケ目	刻み目 下端のみ。小さく、不均等。ハケ目全体。
220 3	00457	Ⅲ	Q	25	SK−072		弥生土器	甕					灰色(部分的に黒み)	灰色	小砂粒	良	縦のハケ目	横ハケ目	内面2種のハケ目。
220 4	00459	Ⅲ	Q	25	SK−072		弥生土器	甕	5.00	29.00			うすい茶色	うすい茶色	小砂粒ほとんどナシ	良	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目 突帯上半は横ナデ消し	横ナデ	外、細かいハケ目。
220 5	01262	Ⅲ	Q	25	SK−072	まとまり	弥生土器	壺	25.90	26.80	26.00	5.70	赤茶褐色	赤茶褐色	1~3mm砂粒多く含む。石英多	普通	口縁部は横ナデ　胴部上半は縦ハケ目の後にナデ　下半はナデ上げ	ナデ	指頭圧痕。
220 6	01171	Ⅲ	Q	25	SK−072	まとまり	弥生土器	壺	19.70	16.80	20.00	5.20	明黄褐色(所々明橙褐色)	明黄褐色(所々明橙褐色)	1mm以下の石英・長石を少し、赤褐色粒、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ　頸部はナデ　胴部上半はナデ　下半は縦ミガキ	ナデ	
220 7	00174	Ⅲ	Q	25	SK−072	まとまり	弥生土器	甕	20.50	29.00		9.20	灰茶色	灰茶色	小砂粒多いが、焼き、調整とも大変良い	良	口縁部は横ナデ　体部下半はナデ上げ	ナデ　上半は摩耗し不明	或形もよく整った姿である。黒斑は外面下半のみ。
220 8	01151	Ⅲ	Q	25	SK−072	まとまり	弥生土器	投弾	4.14	2.24	2.21		灰(赤灰色		砂粒表面に出ていない				調整丁寧。黒斑アリ。断面正円でない。
220 9	01149	Ⅲ	Q	25	SK−072	まとまり	弥生土器	投弾	(4.13)	(2.50)	(1.47)		灰色		1mm大の砂粒多い	堅い			表面ナデ調整痕。
224 1	00124	Ⅲ	Q	26	SK−080		弥生土器	甕					黒褐色	灰色	砂粒少ない	良	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	口縁端部は細かな横条痕　下半は粗い横条痕の後に横ナデ	内外とも粗い条痕。内面は部分的にナデ消し風。凸帯 いったん下がった位置 三角形(背が低い)。
224 2	00126	Ⅲ	Q	26	SK−080		弥生土器	甕					茶色	茶色	砂粒少	良	口縁突帯部は横ナデ　体部はナデ上げ?	横ナデ	凸帯 口縁端より下方 高い三角形。
224 3	00123	Ⅲ	Q	26	SK−080		弥生土器	甕					明るい橙茶色	橙灰色	砂粒わずか	大変よい、堅い	口縁部は横ナデ　体部は横条痕	ヘラ状工具による横方向のナデ	凸帯 三角形 やや垂れ気味。
224 4	00125	Ⅲ	Q	26	SK−080		弥生土器	甕					黒灰色	茶色	砂粒少ない	堅い	口縁突帯部は丁寧な横ナデ　体部は横条痕	丁寧な横ナデ	凸帯 幅広の三角形。
224 5	00122	Ⅲ	Q	26	SK−080		弥生土器	鉢					黒褐色	濃灰色	砂粒少ない	良	口縁部は横ナデ　下半はナデ	横条痕が一部に残る	
224 6	00120	Ⅲ	Q	26	SK−080		弥生土器	甕	7.90	15.70			(胴部突帯下部)黒み	淡灰色			屈曲部上半は横ナデ　下半はナデ	横ナデ	
224 7	00109	Ⅲ	Q	26	SK−080		弥生土器	甕	11.70	18.20							口縁と体部突帯は横ナデ　屈曲部上半は粗い横条痕　下半はナデ	ヘラ状工具?の横方向のナデ	
224 8	00971	Ⅲ	Q	26	SK−080	まとまり①	弥生土器	甕	4.90	19.40			灰茶色	うすい茶色	砂粒ほとんどナシ	普通	上半は縦ハケ目　下半は横ナデ	板状工具のナデ上げ	内面の調整が特徴。
224 9	00887	Ⅲ	Q	26	SK−080	まとまり②	弥生土器	甕	3.10	17.40			灰茶色	灰茶色		良	口縁部は横ナデ　下半はナデ	体部ナデ	口縁 いびつ。凸帯 背の高い三角形。
224 10	00972	Ⅲ	Q	26	SK−080	まとまり①	弥生土器	甕	8.20	21.20			灰黒色	茶色	砂粒少	堅緻	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	ナデ	凸帯 とちらも幅広の三角形。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器（土製品）の法量と特徴〈法量 上段:土器　下段:土製品〉												
挿図番号							器種		器高	口器受部径	最大径	底器高径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
224 11	00127	Ⅲ	Q	26	SK−080		弥生土器	甕					黒褐色	灰色	砂粒少	良	突帯部は横ナデ　下半は縦の条痕の後にナデを加える	横ナデ	甕 胴屈曲部の小破片。凸帯 上向きの三角形。
224 12	00128	Ⅲ	Q	26	SK−080		弥生土器	甕					淡赤茶色	灰色	砂粒少	堅い	屈曲部突帯は横ナデ　下半は横条痕	横ナデ　一部に横条痕残る	凸帯 垂れ気味 貼り付けあらい。
224 13	00888	Ⅲ	Q	26	SK−080	まとまり②	弥生土器	甕	6.40				灰茶色	灰茶色	砂少	堅緻（彼日では珍しい程）	屈曲部上半は細かな縦ハケ目	ナデ	外面のハケ目 丁寧。凸帯 幅広の三角形。
224 14	00884	Ⅲ	Q	26	SK−080	まとまり②	弥生土器	甕	2.90			7.50	（底も）灰茶色	灰色	砂粒ほとんど少だが、胎土は密でない	普通	雑な横ナデ　外底はケズリ	粗いナデ	
224 15	00179	Ⅲ	Q	26	SK−080		弥生土器	甕	2.00			6.60	赤茶色（外底周縁）赤茶色（中心部）灰黒色	（内底）灰色	3mm大の砂粒	良	ナデ　外底はケズリ状	ヘラ状工具の粗いナデ	
224 16	00177	Ⅲ	Q	26	SK−080		弥生土器	甕	2.20			8.80	茶色	茶色	1〜2mm大砂粒多い	良	横ナデ　外底ケズリ状	ヘラ状工具のナデ	
224 17	00178	Ⅲ	Q	26	SK−080		弥生土器	甕	2.40			8.80	灰茶色	灰茶色	砂粒少ないが緻密でもない	良	ナデの後にナデ上げ　外底縁は横ナデ	ヘラ状工具のナデ	
224 18	00886	Ⅲ	Q	26	SK−080	まとまり②	弥生土器	甕	4.25	20.20			茶色	茶色	砂粒少	普通	体部ナデ上げ	ナデ	器壁うすい。
224 19	00121	Ⅲ	Q	26	SK−080		弥生土器	甕					黒褐色	灰茶色	砂粒少	良	口縁部下は細かな縦ハケ目　下半はナデ	左上がりのナデ	
224 20	00970	Ⅲ	Q	26	SK−080	まとまり①	弥生土器	甕	10.80	24.60			茶褐色	うすい茶色	砂粒少	普通	上半は縦ハケ目　下半は斜行ハケ目	口縁部は横ハケ目　下半は斜行ハケ目	内外面ともきわめて丁寧な調整。細かなハケ目。口縁の屈曲小さい。
224 21	00118	Ⅲ	Q	26	SK−080		弥生土器	甕	9.90	24.80			灰黒色	灰色	砂粒少	良	体部は左上がりの細かなハケ目この後に口縁部を横ナデする	体部は左上がりの細かなハケ目	内外面とも調整は同じ工具 細かい。
224 22	00891	Ⅲ	Q	26	SK−080	まとまり②	弥生土器	甕	7.10	23.60			赤胴色	濃灰褐色	1mm大の砂粒多め	堅い	体部は粗いハケ目	ナデ　指押さえ	外面のハケ目 不鮮明。
224 23	00112	Ⅲ	Q	26	SK−080		弥生土器	甕					淡灰色	淡灰色	小砂粒多い	良	口縁部は横ナデ　体部は縦のハケ目	ナデ	3cmの破片。やや磨耗。
224 24	00180	Ⅲ	Q	26	SK−080		弥生土器	甕	4.20			7.60	茶色	茶褐色	小砂粒多い	良	細かな縦ハケ目　一部ナデ消し	ナデ　指頭圧痕	
225 25	00116	Ⅲ	Q	26	SK−080		弥生土器	壷	4.10	14.00			黒色磨研	黒色磨研	胎土 灰色。精良土	堅い	細かな横ミガキ	細かな横ミガキ	表面なめらか。
225 26	00113	Ⅲ	Q	26	SK−080		弥生土器	壷						丹塗り	精良土に近い		細かな横ミガキ	細かな横ミガキ	外の丹塗り痕不明。内はあざやか。内外面 細かな横ミガキ。
225 27	00115	Ⅲ	Q	26	SK−080		弥生土器	壷	3.15	20.60			灰茶色	灰茶色	砂粒少（精良でない）	堅緻	ハケ目の後に丁寧な横ナデ	ハケ目の後に丁寧な横ナデ	6cmの破片。外面なめらか。
225 28	00885	Ⅲ	Q	26	SK−080	まとまり②	弥生土器	甕	3.00	22.00			丹塗り	灰茶色	砂粒は少ないが、密ではない	堅い	口縁部は横ナデ　丹塗り	部分的に横ハケ目	頸部は直に立つ。口縁端 肥厚し、凹状となる。
225 29	00114	Ⅲ	Q	26	SK−080		弥生土器	壷	6.55	14.60				茶色（丹塗りうすい）	砂粒少（精良に近い）	良	口縁部は横ナデ　体部は横ミガキ	口縁部は横ミガキ　体部にハケ目が一部残る	器面の凹凸だつ。
225 30	00182	Ⅲ	Q	26	SK−080		弥生土器	壷	2.20			5.60	黒色	黒色	1mm大の砂粒（精良でない）	良	横ミガキ	ナデ	底径不明。内外面とも細かなナデ、ミガキでなめらか。
225 31	00181	Ⅲ	Q	26	SK−080		弥生土器	壷	4.60			9.40	灰茶色（外底）黒色気味	灰茶色	小砂粒多い（粗であるが、焼成よいため、堅緻な印象）		左上がりのナデ　一部に細かなハケ目　丹塗り	ナデ	内外面とも剥離。外面部分的に細かいハケ目。丹塗り痕。底・体部との接合よく見える。
225 32	00111	Ⅲ	Q	26	SK−080		弥生土器	鉢					灰色（下部は黒み）	灰色	砂粒少ない	普通	横ナデ	横ナデ	3cmの破片。
225 33	00110	Ⅲ	Q	26	SK−080		弥生土器	鉢					灰色	灰色	砂粒ナシ		全面剥離し調整痕不明	全面剥離し調整痕不明	4cmの小破片。
225 34	00966	Ⅲ	Q	26	SK−080	まとまり①	弥生土器	鉢	4.20	14.60			うすい茶色	うすい茶色	精良土	良	口縁部は横ナデ　下半は横ミガキ	細かい横ミガキ	内外面 丁寧な調整でなめらか。口縁外面以外も丹塗りの可能性アリ。
225 35	00967	Ⅲ	Q	26	SK−080	まとまり②	弥生土器	鉢	4.50	23.80			うす茶色	灰褐色	砂粒少（精良でない）	普通	口縁部は横ミガキ　下半はナデ	下半はミガキ状のナデ	5cm小破片。
225 36	00889	Ⅲ	Q	26	SK−080	まとまり②	弥生土器	鉢	5.60	19.80			灰茶色	灰茶色（下半）灰黒色	砂粒きわめて少。雲母		口縁部は横ナデ　下半剥離	横ミガキ　下半はナデ	外面 剥離。口縁 肥厚。
225 37	00119	Ⅲ	Q	26	SK−080		弥生土器	鉢	4.20	24.80			灰茶色	灰褐色	砂粒少ない。雲母	良	剥離	横ミガキ	外面剥離。鉢か。6cm小破片。やや傾き不正確。
225 38	00968	Ⅲ	Q	26	SK−080	まとまり①	弥生土器	鉢					うすい赤茶色	うすい茶色	小砂粒	良	口縁部は横ナデ	口縁部はミガキ状のナデ　屈曲部は横条痕	内外面 丁寧な調整。3cmの破片 傾き不正確。
225 39	00969	Ⅲ	Q	26	SK−080	まとまり①	弥生土器	鉢	9.20	34.80			灰黒色	灰黒色	1mm以下の砂粒	堅い	横ナデ	細かい横ミガキ	口径35cm近い大鉢。口縁内面 微妙な凹凸。
225 40	00117	Ⅲ	Q	26	SK−080		弥生土器	鉢	4.00	25.20			明茶色	明茶色	小砂粒少	堅い	横ナデ	ミガキではないが、ヘラ状工具による細かな横ナデ	6cmの小破片。傾き、口径不正確。
226 1	01113	Ⅲ	O	31	SK−085	まとまり	弥生土器	壷	3.60			8.60	黒色	うすい白茶色	2mm大の砂粒多い。胎土粗	普通	ミガキ状のナデ　外底は丁寧なナデ	ナデ	
226 2	01114	Ⅲ	O	31	SK−085	まとまり	弥生土器	甕	4.70	31.40			うすい灰色	うすい灰色	1mm以下の砂粒多い	普通	口縁部は横ナデ　体部は縦細かいハケ目	左上がりナデ	厚めの器壁。口縁端 断面方形。
226 3	01115	Ⅲ	O	31	SK−085	まとまり	弥生土器	甕	7.50	34.00			赤茶色	赤茶色	1〜3mm大の砂粒多め。胎土粗い		口縁部は横ナデ　体部は横ナデ	体部はナデ	口縁内面 特徴的。三角形断面 分厚い。
228 1	01121	Ⅲ	O	30	SK−091	まとまり	弥生土器	甕	6.80	28.20			赤茶色	灰色	小砂粒多い。雲母。外面露出。1mm以下の砂粒多い	普通	口縁部は横ナデ・体部は縦ハケ目	ナデ	
228 2	01120	Ⅲ	O	30	SK−091	まとまり	弥生土器	器台	12.25	8.00			灰茶色（上端部）やや橙色	灰茶色（上端部）やや橙色	砂粒きわめて少。精良ではない	良好	縦ハケ目	絞り痕	外面のハケ目 4段か?
228 4	00507	Ⅲ			SK−114		弥生土器	甕	6.60				灰茶色（凸帯より下）黒灰色		小砂粒	堅い	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目　突帯は横ナデ	摩耗　砂粒露出	口縁部を欠く。如意形 凸帯 三角形 頂点わずかに丸み。
228 5	00575	Ⅲ	O	27	SK−116		弥生土器	甕	3.10	19.40			（凸帯より下）褐色	明茶色（口縁上面赤み）	精良土に近い	良	口縁突帯部は横ナデ　下半はナデ	上半は横ナデ　下半は左上がりのナデ	凸帯 三角形。
228 6	00455	Ⅲ	N	27	SK−117		弥生土器	壷	3.75			13.40	灰茶色	灰茶色	砂粒きわめて少	堅い	ヘラ状工具のナデ上げ	ヘラ状工具のナデ	
228 7	00454	Ⅲ	N	27	SK−117		弥生土器	鉢	4.00	24.80			灰色	灰黒色	精良土	良	横ミガキ	横ミガキ	横ミガキはそれほど丁寧ではない。第付の鉢か?
228 8	00436	Ⅲ			SK−120		弥生土器	壷	3.90	9.60			黒色（わずかに	黒色（わずかに	精良土		口縁から頸部は横ミガキ	口縁突帯部は横ミガキ　頸部は横ナデ	丁寧な調整。
228 9	00435	Ⅲ			SK−120		弥生土器	壷	9.60		20.80		赤茶色	赤茶色	精良土	堅緻			調整丁寧。内面の調整は粗い。
228 10	00576	Ⅲ			SK−121		弥生土器	甕	6.20	22.40			茶色（わずかに	茶色（口縁内側）	小砂粒多い		口縁部は縦ハケ目　体部は左上がりのナデ	ナデ　指押さえ	内面露出。
228 11	00577	Ⅲ			SK−121		弥生土器	甕	2.80	27.40			茶色	茶色	砂粒ほとんどナシ	良	口縁部は横ナデ	左上がりのナデ	丁寧な横ナデ調整。
228 12	00561	Ⅲ	N	28	SK−122		弥生土器	壷	2.95	14.60			丹塗り	丹塗り	砂粒含み、精良土でない	良	横ナデ　丹塗り	横ナデ	全面 横ナデ（ミガキ痕ナシ）
228 13	00559	Ⅲ	N	28	SK−122		弥生土器	甕	1.65			7.10	褐色	褐色	小砂粒	良	ナデ　一部にハケ目　外底はケズリ	ヘラ状工具のナデ	
228 14	00560	Ⅲ	N	28	SK−122		弥生土器	甕	5.10			7.10	赤茶色	黒褐色	小砂粒。胎土密でない		縦条痕の後にナデ　外底は丁寧なナデで滑らか	ナデ	
231 1	00282	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	甕					茶色	灰茶色	砂粒少	良	口縁突帯部は横ナデ	ヘラ状工具の横ナデ	内面のナデ調整ソフト。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器（土製品）の法量と特徴〈法量 上段：土器　下段：土製品〉												
挿図番号							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・脚脇高径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
231 2	00263	Ⅲ			SK−124		弥生土器	甕					茶褐色	灰（白）色	砂粒少ない	良	口縁突帯部は横ナデ	雑なナデ（擦刷痕）	
231 3	00287	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	甕					黒褐色	茶色（突帯上面より一部赤色）	砂粒わずか（粒子の大きいものはない）		横条痕の後に縦条痕	ヘラ状工具で軽く横ナデ	三角形背が高い、頂点シャープ。
231 4	00262	Ⅲ			SK−124		弥生土器	甕					褐色	赤茶色	砂粒少	良	口縁突帯部から体部は横ナデ	横条痕残る	
231 5	00281	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	甕					（凸帯頂点より下）茶褐色	赤茶色	小砂粒わずか	良	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	横ナデ	
231 6	00280	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	甕					茶褐色	灰（白）色	砂粒少ない	良	左上がりのナデ	口縁部は指頭圧痕が横に並ぶ　下半は縦のナデ	外面のナデ調整。
231 7	00285	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	甕					茶色（わずかに	茶色	砂粒少ない	良（やや軟質）	横条痕	横条痕	三角形突帯、背が高い。
231 8	00283	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	甕					（黒）褐色	灰茶色	砂粒ほとんどナシ	良	横条痕	左上がりのナデ	三角形に近い蒲鉾形。
231 9	00277	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	甕					黒褐色	灰茶（部分的に	砂粒少ない。精良に近い	高温	ヘラ状工具のナデ	横条痕	外、ヘラ状工具の横ナデ。
231 10	00261	Ⅲ			SK−124		弥生土器	甕	4.80	21.40			黒灰色	灰茶色	わずかに砂粒。雲母なし	良	口縁突帯部は横ナデ　下半は横条痕	ナデ	口縁波打つ。
231 11	00257	Ⅲ			SK−124		弥生土器	甕	9.80	23.80			褐色（一部赤茶色）	灰茶色	砂粒少、密ではない	高温	口縁部から屈曲部までは横ナデ　屈曲部下半は横条痕	部分的に横条痕残る　ナデ	以外に器壁うすい。
231 12	00268	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	甕	8.30	22.60			黒褐色	黒褐色	砂粒少ない	堅い	口縁突帯部は横ナデ　体部は縦の条痕	工具によるナデ	三角形凸帯。刻み目、棒状工具、大小不規則。外の条痕がタテで特徴的。
231 13	00284	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	甕	4.20	26.60			褐色	茶色	2mm大の砂粒わずか	堅い	部分的に縦の条痕	横ナデ	三角形突帯一段下。
231 14	00260	Ⅲ			SK−124		弥生土器	甕	14.80	27.60			黒褐色、スス	茶色	砂粒少ないが、密ではない	良好	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕　煤付着　凹凸あり	横条痕	内外面同じ工具で横条痕。垂れ気味の蒲鉾形突帯。
231 15	00278	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	甕					黒褐色	灰黒色	砂粒少なめ	良	横条痕　部分的に縦条痕	強く横ナデ　下半は左上がりのナデ	三角形突帯、背が高い。
231 16	00259	Ⅲ			SK−124		弥生土器	甕	4.15	25.80			濃灰色	灰色	砂粒きわめて少。雲母	良	線状に縦のナデ	口縁部は左上がりのナデ　体部はナデ	凸帯ナシ。
231 17	00289	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	甕					灰色	灰色（わずかに赤茶色）	砂粒ほとんどナシ。やや軟質	良	ナデ	ナデ	三角形突帯、口縁にほとんど接す。
231 18	00292	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	甕					灰白色	灰白色	砂粒ほとんどナシ	良	横ナデ（擦刷痕）	横ナデ（擦刷痕）	ひらたい蒲鉾形凸帯。
231 19	00286	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	甕					灰（黄）色、肌色	灰（黄）色、肌色	砂粒少ない。精良に近い	良	横条痕	ナデ　粘土接合痕	
231 20	00291	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	甕					褐色	赤茶色	砂粒ほとんどナシ	堅緻、高温	横ナデ（擦刷痕）	横ナデ（擦刷痕）	内外の調整痕きわめてソフト　刻み目特徴的。
231 21	00290	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	甕					黒褐色	茶色	わずかに砂粒	堅い	横ナデ	左上がりのナデ	
231 22	00288	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	甕					茶（褐）色	茶（肌）色	1mm大砂粒わずか	良	棒状工具で横ナデ	ナデ	外、棒状工具で横押さえナデ。蒲鉾状凸帯、端部より下がった位置。
231 23	00279	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	甕					茶褐色	茶色	砂粒きわめて少	堅緻	横条痕	ナデ　粘土接合痕	もう少し傾くか？
231 24	00294	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	甕					茶褐色	茶（下手、褐色）	わずかに砂粒	良	屈曲部下半は軽いナデ	ヘラ状工具のナデ痕	凸帯の貼付け波打つ。
231 25	00293	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	甕	6.10				（凸帯より上）赤茶色（下）灰褐色	赤茶色	小砂粒をわずかに	良	屈曲部上半は斜行条痕　下半は横条痕	横ナデ	
231 26	00295	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	甕	3.90				黒色	灰茶色	P		屈曲部下半は斜行条痕	ナデ	調整は内外とも雑。径、傾き、不正確。蒲鉾形（低い凸帯）。
232 27	00265	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	甕	2.50			4.80	灰茶色	黄灰色	砂粒少	堅緻	ナデ	粗いハケ目一部に残る	
232 28	00272	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	甕	2.10			7.00	茶色（胎土内少し赤み）	茶色（胎土内少し赤み）	砂粒少	高温	横条痕　外底に木葉痕？	横条痕が一部に残る	1/8小破片。
232 29	00270	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	甕	3.20			7.55	赤茶色（底）黒茶色	茶色	砂粒少ない。精良ではないが良		左上がりの条痕　括れ部はナデ上げ　外底はヘラ状工具のナデ	ナデ	調整は丁寧。
232 30	01172	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	甕	3.65			8.30	灰茶色	灰茶褐色	1〜2mm大の砂粒	良	体部は縦ナデ　外底は雑なミガキ状のナデ	炭化物　調整痕不明	ぶ厚いつくり。調整雑。
232 31	00269	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	甕	1.70			8.40	灰茶色	灰茶色	小砂粒	良	ナデ	工具の押さえ	接合部で剥離。
232 32	00100	Ⅲ			SK−124	まとまり	弥生土器	甕	11.60			7.00	茶色	茶色	砂粒少ない	良	体部は左上がりのナデ上げ　外底はケズリ	外面同様にヘラ状工具のナデ上げ	内面 調整丁寧。外面 器面凹凸アリ 調整も粗い。
232 33	00274	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	壷	6.30				灰（白）茶色（淡茶色）	灰（白）茶色（淡茶色）	精良に近い。砂粒少	良	横条痕	ハケ目の後にナデ上げ	調整は丁寧。器形不明。
232 34	00271	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	甕	10.20			9.60	灰茶色	灰茶色	砂粒きわめて少。ただし密でない	良	ヘラ状工具のナデ上げ　粗いハケ目と「なる	ヘラ状工具のナデ上げ後に軽くナデ	外面のナデ上げで、表面の粘土ややささくれる。
234 35	00095	Ⅲ			SK−124	まとまり	弥生土器	壷	25.00	15.40	35.50		赤茶色（大きい黒斑）	茶色	砂粒（普通）	普通（断面内黒灰色）	口縁部は横ミガキ　頸部は縦の細かなミガキ　胴部は横ミガキ	口縁部は横ミガキ　頸部は強くナデ上げ　胴部はヘラ状工具のナデ上げ	外面 細かなミガキ。内面 整形時の指圧痕。
234 36	00256	Ⅲ			SK−124		弥生土器	壷	7.50	10.80			丹塗り	灰色	灰白色。精良土。雲母	良	口縁部は横ナデ　胴部は縦のミガキ　暗文風	口縁部は横ナデ　胴部はナデ	口縁・頸部の境は段なし。
234 37	00266	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	壷	15.00		37.70		丹塗り	茶色（下半）褐色	精良土に近い。雲母	良	上半部はハケ目の後に細かな横ミガキ　下半は斜めのミガキ	ナデ	外面は細かなミガキ（前にハケ目、上半部のみ）。破片のため傾き、径、不正確。
234 38	00101	Ⅲ			SK−124	まとまり	弥生土器	壷	13.40		29.50		黒色磨研	黒褐色	砂粒少（精良ではない）	堅い	細かな横ミガキの後に粘土紐を貼り付けて連弧文で飾る	頸部は横ナデ　胴部はナデ　部分的に粗いハケ目残る	外面 丁寧なミガキ（研磨風）。
234 39	00276	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	壷	3.70			8.60	灰茶色	灰色	精良土	良	横ミガキ　外底はナデ	ヘラ状工具のナデ	内面ヘラ状工具によるナデ。外面細かなミガキ。器壁均一の厚みのあるつくり。
234 40	00264	Ⅲ			SK−124		弥生土器	壷	5.15			8.90	丹塗り	うすい茶色	精良土に近い	良	横条痕　外底は細いヘラ状工具でナデ　ミガキ状	ナデ	丁寧な調整。
234 41	00275	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	甕	2.70			12.00	茶色	灰白色	砂粒少なく、精良土	良	横ミガキ　外底はナデで滑らか	ナデ	5cmの小破片。
234 42	00273	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	壷	5.30			12.00	灰白色	茶褐色	小砂粒	良、やや軟	細かな縦ハケ目	ハケ目を重ねる	
234 43	00258	Ⅲ			SK−124		弥生土器	鉢	6.40	24.00			黒色	黒色	精良土	堅緻	全面に細かな横ミガキ	全面に細かな横ミガキ	細かなミガキ（細い線）。
234 44	00267	Ⅲ			SK−124	北	弥生土器	鉢	8.10	40.00			赤茶色	赤茶色	砂粒少ないが密でない	高温	横ナデ	横ナデ	40cm口径の大型だが内外は横ナデ。丁寧である。
238 1	00503	Ⅲ			SK−124		弥生土器	甕					赤茶色	赤茶色	砂粒きわめて少	良	口縁突帯部は横ナデ	横ナデ	変形突帯。
238 2	00501	Ⅲ			SK−124		弥生土器	甕					黒褐色	茶色	砂粒少	良	擦刷痕	口縁突帯部は横ナデ	三角突帯。
238 3	00499	Ⅲ			SK−124		弥生土器	甕					うすい茶褐色	灰茶色	砂粒わずか	良	横条痕		凸帯 垂れ気味。蒲鉾形 一周しない。刻み目 小さくにぶい。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器（土製品）の法量と特徴〈法量 上段：土器　下段：土製品〉													
挿図番号							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・脚部高台径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
238 4	00498	Ⅲ			SK−125		弥生土器	甕	5.50	21.60			赤褐色	茶色	1〜3mm大砂粒	堅い	口縁突帯部は横ナデ　下半は横条痕	粗い横条痕をナデ消し	外面条痕 整っている。
238 5	00497	Ⅲ			SK−125		弥生土器	甕	6.40	17.40			（凸帯より下方）茶褐色	明茶色	砂粒 きわめて少	良	口縁突帯部は横ナデ　下半は擦刷痕	口縁部はナデ　体部は擦刷痕	三角形突帯 頂点 シャープ。外面 一部に叩き状の条痕。ヘラ状工具によるナデ（擦刷痕）。口縁 へこみあり。
238 6	00255	Ⅲ			SK−125	まとまり②	弥生土器	甕	11.40	17.40			灰茶色	灰色	砂粒きわめて少	堅緻	口縁突帯部は横ナデ　下半は横条痕	横ナデ（擦刷痕状）	凸帯台形。下方に垂れ気味。内面工具によるナデ。
238 7	00500	Ⅲ			SK−125		弥生土器	甕					灰茶色	灰茶色	砂粒少ない	良	横条痕	横条痕	ふくらみのある三角形。
238 8	00240	Ⅲ			SK−125	まとまり①	弥生土器	甕					灰茶色	灰茶色	砂粒は少ない。精良ではない	良	口縁突帯部は横ナデ　下半はナデ	ナデ	蒲鉾形の凸帯、口縁上に盛り上がる。
238 9	00254	Ⅲ			SK−125	まとまり②	弥生土器	甕					赤茶色	赤茶色		良、高温	縦ハケ目の後にナデ上げ	逆時計回りに粗いハケ目	凸帯は低い蒲鉾形。条痕は浅いが明瞭。
238 10	00496	Ⅲ			SK−125		弥生土器	甕	8.65	24.00			赤茶色（口の凸帯と下半は茶褐色）		砂粒なく密	良、堅い	横条痕	口縁突帯部は横ナデ　左上がりのナデ（擦刷痕）	
238 11	00502	Ⅲ			SK−125		弥生土器	甕					赤茶色	赤茶色	小砂粒含む	良	横条痕	強い横ナデ（擦刷痕）	三角形突帯 頂点丸み。条痕 平行 整っている。
238 12	00239	Ⅲ			SK−125	まとまり①	弥生土器	甕	2.50	21.00			赤茶色	赤茶色	1mm大の砂粒多い	高温	口縁部は横ナデ　下半は縦ハケ目	口縁部は横ハケ目　下半は横ナデ	調整やや雑。
238 13	00236	Ⅲ			SK−125	まとまり①	弥生土器	甕	6.70	26.80			（赤）茶色	灰茶色	砂粒	良	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目を部分的にナデ消す	口縁部は横ハケ目　下半は左上がりのナデ	5cm小破片。外面ハケ目粗い。如意屈曲強い。
238 14	00220	Ⅲ			SK−125	まとまり①	弥生土器	甕	7.20	26.40			灰（白）色	灰（白）色	砂粒少	良	口縁部は横ナデ　突帯上半は縦ハケ目　下半は横ハケ目	口縁部は横ハケ目　下半はナデ	粘土やわらかいうちに整形している。
238 15	00221	Ⅲ			SK−125	まとまり①	弥生土器	甕	5.30	21.60			茶色	茶色	1〜3mm大の砂粒	良	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	口縁部は横ハケ目　体部はヘラ状工具によるナデ	口径不正確。5cmの破片。外面のハケ目は雑。
238 16	00218	Ⅲ			SK−125	まとまり①	弥生土器	甕	10.70	34.40			灰黒色	赤茶色	砂粒含む	良	口縁部と体部突帯は横ナデ　体部は縦ハケ目	口縁部は横ハケ目　下半は指押さえ状のナデ上げ	口径きわめて大。※体部下半で接合している破片は内面が褐色に変化し、とても同一個体とは思えない。
238 17	00219	Ⅲ			SK−125	まとまり①	弥生土器	甕	8.50	34.60			黒褐色	灰茶色	砂粒少ない（密ではない）		口縁部は横ナデ　体部突帯上半は縦ハケ目　下半は横ハケ目　どちらも粗い	ナデ	外面のハケ目、粗い。夜白風。
238 18	00504	Ⅲ			SK−125		弥生土器	甕	2.90			7.40	赤茶色（外底）	灰色	小砂粒多い	良	横条痕　外底は強いナデ（擦刷痕）	ナデ	
238 19	00252	Ⅲ			SK−125	まとまり②	弥生土器	甕	3.65			7.30	茶色（外底）わず	茶色	砂粒少ない。粗い胎土	堅い、高温	横条痕　外底ナデ	ナデ	横条痕、粗い、浅い。
238 20	00505	Ⅲ			SK−125		弥生土器	甕	3.20			7.60	灰茶色	灰茶色	小砂粒	良	横条痕の後部分的に横ナデ　外底は強いナデ	横条痕	分厚い底部。
238 21	00506	Ⅲ			SK−125		弥生土器	甕	3.20			7.90	茶褐色	茶褐色	砂粒少ない	堅い	ヘラ状工具のナデ上げ　外底はヘラ状工具のミガキ状のナデ	条痕を重ねる	
238 22	00237	Ⅲ			SK−125	まとまり①	弥生土器	甕	2.70			7.20	茶色	茶色（やや灰色）	小砂粒多め。胎土粗い。夜臼にしては密	良	一部に縦ハケ目　指頭圧痕	ナデ	
238 23	00222	Ⅲ			SK−125	まとまり①	弥生土器	甕	1.55			5.80	赤茶色	赤茶色（黒斑）	精良土	良	ミガキ　滑らか	内外面ともミガキは丁寧さを欠く	全面ミガキでなめらか。ただし丁寧でない。
238 24	00253	Ⅲ			SK−125	まとまり②	弥生土器	甕	5.15			10.60	灰色	灰色（黒み）	砂粒少ない	堅い	横条痕	右上がりのナデ	外面のナデ上げ、面取り状となる。
238 25	00238	Ⅲ			SK−125	まとまり①	弥生土器	甕	6.60			7.40	灰茶色	茶色（赤み）	小砂粒	良	縦ハケ目　外底はナデ	内底は剥離	器面の調整丁寧。
239 26	00494	Ⅲ			SK−125		弥生土器	壺	2.20	9.60			灰色	灰色（ややすい）	精良	堅緻	横ミガキ痕はないが滑らか	横ミガキ	丁寧な調整。
239 27	00495	Ⅲ			SK−125		弥生土器	鉢	1.90	21.60			黒色	茶色	大きめの砂粒含む		ハケ目を横ナデ消し	細かい横ミガキ	器壁うすい。
239 28	00493	Ⅲ			SK−125		弥生土器	壺	3.70				茶褐色	灰茶色	精良土に近い	堅い	細かな横ミガキ	横ナデ	外ミガキ明瞭でない。
239 29	00217	Ⅲ			SK−125	まとまり①	弥生土器	壺	5.00				灰茶色	灰茶色	砂粒少ない（1〜3mm大の砂粒一応入る）	良、堅い	頸部は横ナデ	横ナデ	
239 30	00492	Ⅲ			SK−125		弥生土器	壺	11.90				茶色（黒斑）	黒色	砂粒きわめて少ない。精良に近い。		横ミガキ	上半はヘラ状工具の強い横ナデ　下半は横の擦刷痕	外面のミガキ丁寧ではない。傷が多い。
239 31	00223	Ⅲ			SK−125	まとまり①	弥生土器	甕	4.75			8.40	茶色	黒褐色（おこげ）	砂粒多くはないが、胎土粗い	良	上半は縦ミガキ　下半は横ミガキ		外面は細かいナデ。ミガキの効果は出ていない。
239 32	00234	Ⅲ			SK−125	まとまり①	弥生土器	円盤	4.60	4.70	0.60		黒灰色	灰茶色	2mm大の砂粒	良	縦ハケ目	ナデ?	ハケ目の傾きから天地を決めた。
239 33	00235	Ⅲ			SK−125	まとまり①	弥生土器	円盤	4.10	4.00	0.75		茶色	茶色	砂粒少	良	横ミガキ	ナデ?	円周よく研磨している。
243 1	00242	Ⅲ			SK−123		弥生土器	甕	5.00	35.20			茶色	一部茶褐色	砂粒少。雲母	良	口縁部は横ナデ　下半は縦ハケ目をナデ消し	横ナデ	
243 2	00244	Ⅲ			SK−123		弥生土器	甕	5.15			7.50	茶色	茶色	小砂粒多い	良	細かい縦のハケ目　外底はヘラ状工具の押さえ	砂粒露出で不明	
243 3	00437	Ⅲ	Q	27	SK−132		弥生土器	甕					うすい茶褐色	うすい茶色	砂粒少		口縁突帯部は横ナデ　下半は横条痕	横条痕の後にナデ（擦刷痕）	傾きもう少し立つか?。高い三角形突帯。
243 4	00447	Ⅲ	P	27	SK−125		弥生土器	甕					灰褐色	茶色	砂粒わずか	堅い	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	横条痕	内外面 横条痕。垂れ気味蒲鉾形。
243 5	00446	Ⅲ	P	27	SK−125		弥生土器	甕					灰褐色	（赤）茶色	砂粒ほとんどナシ	堅い	口縁突帯部は横ナデ	横ナデ	三角形突帯。
243 6	00445	Ⅲ	P	27	SK−125		弥生土器	甕	8.50	17.50			（上半）茶色（下半）黒褐色	茶色	砂粒きわめて少	堅い	横方向のナデ（擦刷痕）	板状工具による擦刷痕	内面 板状工具による横ナデ。
243 7	00444	Ⅲ	P	27	SK−125		弥生土器	鉢	4.40	17.60			黒色（やや灰色がかる）	黒色（やや灰色がかる）	精良土に近い	良	横ミガキ	外面に比べ横ミガキは幅広い	ミガキは特に丁寧ではない。
243 8	00449	Ⅲ	P	27	SK−125		弥生土器	甕	3.85			6.40	茶色	灰色（一部黒斑）	わずかに1〜2mm大の砂粒	堅い	外底は粗いケズリ（擦刷痕）　括れ部は強く横ナデ　体部は横条痕がわずかに残る	ナデ	
243 9	00448	Ⅲ	P	27	SK−133		弥生土器	甕	2.40			7.70	灰茶色（灰黒色）	灰茶色	砂粒少	良	ナデ　括れ部は指押さえ　外底はケズリ状のナデ	ナデ	
243 10	00434	Ⅲ			SK−142		弥生土器	甕	3.50	30.60			茶褐色	茶色	微小砂粒多い	良			外面ハケ目細く、ナデ消し。
243 11	00682	Ⅲ			SK−144		弥生土器	壺					茶色	茶色	砂粒少。精良土でない	良	ナデ　滑らか	ナデ上げ	傾き不正確。
243 12	00106	Ⅲ	Q	25	SK−146		弥生土器	壺	8.30				黒褐色	茶色	砂粒小さく少量	良	横ミガキの後に沈線で二重連弧文を入れる	ナデ	弧状文（大きさ不明）。少なくとも下方に沈線ナシ。
243 13	01128	Ⅲ			SK−147		弥生土器	鉢	2.60	26.20			茶色	黒褐色	砂粒少なく、密に近い	堅い	口縁部は横ミガキ　下半は横ハケ目に横ミガキを加える	ミガキ	外面は横ミガキ。
244 14	00510	Ⅲ	N	30	SK−151		弥生土器	甕	16.30	28.00			灰色	灰色	砂粒多め、外面に露出していない	良	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	摩耗　砂粒露出	外面は磨耗していないことから内面は使用によるものか。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器　下段:土製品〉												
挿図番号							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・脚・高台径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
244 15	00508	Ⅲ	N	30	SK−151		弥生土器	甕	13.30			7.80	灰茶色	斑状に黒色	砂粒		体部は細かな縦ハケ目　外底はヘラ状工具のナデ	ナデ	器壁の内部 赤茶色。外面 細かなハケ目。内面 砂粒露出。
244 16	00509	Ⅲ	N	30	SK−151		弥生土器	甕	2.35			7.60	灰茶色(やや濃灰)	灰茶色	1mm大の砂粒含む	良	横条痕の後に横ナデ　外底は丁寧なナデ	粗いナデ	円盤状に近い底部。
244 17	00453	Ⅲ			SK−154		弥生土器	甕	9.10	21.40			黒褐色	灰茶色	砂粒少ないが胎土は密でない	堅い	口縁突帯部は横ナデ　下半は左上がりのナデ上げ	ナデ　粘土接合痕	三角形突帯 頂点するどい。
244 18	00544	Ⅲ	O	29	SK−155		弥生土器	甕					茶色	黒褐色	砂粒少	堅い	口縁突帯部は横ナデ　横条痕	横ナデ	蒲鉾形凸帯。
244 19	00543	Ⅲ	O	29	SK−155		弥生土器	小型器台	2.00	13.20			灰色	灰色	小砂粒	良	口縁部は横ナデ　体部は横ミガキ	口縁部は横ナデ　体部は横ミガキ	4cmの小破片のため傾き、径不正確。
244 20	00433	Ⅲ			SK−160		弥生土器	甕	4.90	17.80			褐色	(赤)褐色	砂粒少ない	良	口縁突帯部は横ナデ　下半は横条痕	横条痕	傾き不正確。
244 21	00531	Ⅲ	O	30	SK−162	東	弥生土器	甕	2.45			6.30	うすい茶色	灰茶色	砂粒ほとんどナシ	高温	雑なナデ上げ　外底に木葉痕	ヘラ状工具のナデ	粗雑なつくり。手捏ね風。方向の異なる木葉痕 途中で土器を持ち上げたか?
244 22	00530	Ⅲ	O	30	SK−162	東	弥生土器	壺	5.80	19.20				うすい茶色	精良土に近い	良	細かな横ミガキ	口縁部横ミガキ　下半はハケ目の後にナデ	丹塗りの方法から壺口縁としたが頸部との境はない。
244 23	00534	Ⅲ	O	30	SK−162	東	弥生土器	壺	2.25	31.00			灰色	灰色	小砂粒	良	横ナデ	横ナデ	口縁部上面はミガキ状。
244 24	00532	Ⅲ	O	30	SK−162	東	弥生土器	甕	2.75			7.00	灰色	灰色	砂粒少ないが胎土密でない	良	縦ハケ目　外底はナデ	ナデ	外面 ハケ目細かい。体部わずかに内湾気味。
244 25	00533	Ⅲ	O	30	SK−162	東	弥生土器	甕	4.10			7.20	灰茶色	黒色	小砂粒	良	縦ハケ目をナデ消し　外底縁はヘラ状工具で横ナデ	ナデ	
244 27	00537	Ⅲ			SK−198		弥生土器	甕	5.10	19.40			黒色	茶色	小砂粒	良	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	ナデ　部分的に横条痕	凸帯 背の高い三角形。口縁上面 ナデで平坦。
244 28	00571	Ⅲ			SK−199		弥生土器	甕					赤茶色(小豆色)	赤茶色(小豆色)	小砂粒	良	突帯は横ナデ　下半は横条痕	横ナデ	蒲鉾形凸帯。
244 29	00572	Ⅲ			SK−199		弥生土器	甕	2.60	24.80			褐色	茶色	2mm大の砂粒	良	横ナデ　下半は縦ハケ目	ナデ　指頭圧痕	
244 30	00401	Ⅲ			SK−200		弥生土器	甕	1.08			8.00	灰色	灰白色	精良土に近い	堅い	ヘラ状工具の細かな横ミガキ	粗い横ハケ目	底部うすいつくり。
247 1	01270	Ⅲ	O	30	SK−152		弥生土器	壺	13.60		15.80	5.90〜6.70	橙色	橙白色	1mm程度の砂粒比較的多く含む。長石・石英・ウンモ	良好	上半は横ミガキ　下半は横ハケ目の後にミガキ	上半は丁寧なナデ　一部条痕	
247 2	01264	Ⅲ	O	30	SK−152		弥生土器	壺	24.00	18.40	40.40		灰褐色	黄灰白色	微小なウンモ多い。1〜3mm砂粒少量含む。内面はやや露出	良好	横ミガキ	ナデ	
247 3	01268	Ⅲ	O	30	SK−152		弥生土器	甕	6.00			7.70	赤橙色	橙灰色	1〜3mm砂粒多く含む	良好	縦ハケ目　外底はナデ	ナデ	
247 4	01266	Ⅲ	O	30	SK−152		弥生土器	甕	6.80			7.40	赤橙色(底面、黒灰色)	橙白色	1〜2mm砂粒やや多い。長石多。石英。外面露出	良好	縦ハケ目　外底指押さえ	ナデ	
247 5	01265	Ⅲ	O	30	SK−152		弥生土器	甕	9.20			7.70	橙白色	ススの為、不明	1〜3mm砂粒多く含む	良好	縦ハケ目　一部ナデ消し	ナデ	
247 6	01269	Ⅲ	O	30	SK−152		弥生土器	甕	9.90			11.90〜12.70	淡橙色	灰褐色	1〜3mm砂粒多く含む	良好	体部は縦ハケ目　括れ日は横ナデ　外底はナデ	内底は摩耗　炭化物	
247 7	01267	Ⅲ	O	30	SK−152		弥生土器	甕	8.20			7.60	黄白色	橙白色	2〜4mm砂粒多く含む	良好	ミガキ	ミガキ	
247 8	01271	Ⅲ	O	30	SK−152		弥生土器	甕	(10.10)				黄灰白色	灰褐色	1mmまでの砂粒を少量含む(他に比べると、砂粒小さい)	良好	縦のミガキ	縦のミガキ	
249 1	00516	Ⅲ	O	30	SK−161		弥生土器	甕					茶色(口縁端部わずかに黒み)	茶色(口縁端部わずかに黒み)	1mm大野砂粒含む	良	口縁部は横ナデ	左上がりのナデ	
249 2	00512	Ⅲ	O	30	SK−161		弥生土器	甕	9.15	19.60			灰褐色	茶色	砂粒少ない	良	口縁突帯部は横ナデ　体部は擦刷痕	粗い擦刷痕	凸帯 蒲鉾(本来は三角形)。わずかに下がった位置。
249 3	01249	Ⅲ	O	30	SK−161		弥生土器	甕	19.30	25.40			黒茶色	茶色	小砂粒	良	口縁部は横ナデ　体部はナデ	口縁部に横ハケ目残る　体部はナデ上げ	口径 正円でない。口縁の屈曲強い。指圧痕が鮮明。
249 7	00517	Ⅲ	O	30	SK−161		弥生土器	壺	1.70			6.20	灰黒色	灰黒色	小砂粒多め	良	ナデ上げ　外底はミガキ状のナデ	ナデ	
249 5	00514	Ⅲ	O	30	SK−161		弥生土器	壺					明茶色	茶色	精良土	堅い	横ナデ	細かい横ミガキ	3cmの小破片。
249 6	00515	Ⅲ	O	30	SK−161		弥生土器	壺					丹塗り	丹塗り	精良	良	横ミガキ	横ミガキ	端部肥厚。
249 4	00511	Ⅲ	O	30	SK−161		弥生土器	甕	19.40	26.00			茶色(褐色)下半は黒褐色	茶色(褐色)下半は黒(コゲ)	砂粒少	堅い	口縁部は横ナデ　体部は左上がりのナデ	ナデ　上半部は指頭圧痕	
249 8	00513	Ⅲ	O	30	SK−161		弥生土器	高杯	1.50	25.60			灰茶色	灰茶色(坏内)濃茶色	砂粒含む	良	口縁部は横ミガキ　坏部剥離	横ミガキ	やや傾き不正確。
250 1	00566	Ⅲ	P	30	SK−196		弥生土器	甕	3.00	19.40			黒色	灰茶色	小砂粒多め	良	口縁部は横ハケ目　体部は縦ハケ目	横ハケ目　下半はナデ	口縁部に刻み目なし。
250 2	00567	Ⅲ	P	30	SK−196		弥生土器	壺					茶色	赤茶色	小砂粒	高温	横ミガキ	左上がりのナデ上げ	沈線 雑、平行でない。外面 ヘラ状工具のナデ ミガキ的効果うすい。
250 3	00392	Ⅲ	P	30	SK−212		弥生土器	甕					茶色	灰色	砂粒きわめて少	良	口縁突帯部は横ナデ　下半は横条痕	左上がりがナデ	三角形凸帯。
250 4	00390	Ⅲ	P	30	SK−212		弥生土器	甕					(凸帯頂下半)濃灰色	茶色	小砂粒	良	口縁突帯部は横ナデ　下半は横条痕	横ナデ	3cmの小破片。幅広の三角形突帯。
250 5	00391	Ⅲ	P	30	SK−212		弥生土器	甕					(凸帯頂より下半)黒色	赤茶色	小砂粒多め	良	口縁突帯部は横ナデ　下半は横条痕	ナデ上げ	背の高い三角形凸帯。
250 6	00389	Ⅲ	P	30	SK−212		弥生土器	甕					赤褐色	赤茶褐色	精良土	良	口縁突帯部は横ナデ　下半は横条痕	横ナデ(擦刷痕)	幅広の三角形凸帯。
250 7	00388	Ⅲ	P	30	SK−212		弥生土器	甕					(上半)茶褐色(下半)黒褐色	(上半)茶褐色(下半)黒褐色	P		横条痕　突帯は横ナデ	ナデ	
250 8	00387	Ⅲ	P	30	SK−212		弥生土器	壺	4.70	8.20			茶褐色	茶色	精良土	堅緻	口縁部は横ミガキ　頸部はミガキで滑らか	口縁部は横ミガキ　頸部はナデ	3cmの小破片。丁寧なつくり。
250 9	00394	Ⅲ	P	30	SK−212		弥生土器	甕	4.90			8.60	灰茶色	黒灰色	砂粒少	良			外面 ハケ目 重ね雑。
250 10	00393	Ⅲ	P	30	SK−212		弥生土器	甕	7.40			9.60	灰茶色(外底)茶褐色	灰色(上半)黒褐色	1〜2mm大の砂粒少ない。胎土密でない	良			外面のハケ目明瞭。
250 11	00409	Ⅲ	P	30	SK−213		弥生土器	甕					茶褐色	茶色(少し赤み)	砂粒ナシ	堅緻	横条痕	横ナデ(擦刷痕)	低い三角形凸帯。
250 12	00408	Ⅲ	P	30	SK−213		弥生土器	甕					灰茶色(一部赤色)	灰色(白色)	砂粒少(精良に近い)	堅い	横ナデ(擦刷痕)	横ナデ(擦刷痕)	蒲鉾形凸帯。粘土の継ぎ、傾きから天地を決めた。ただし刻み目からすると逆か?
250 13	00410	Ⅲ	P	30	SK−213		弥生土器	甕	3.90			8.40	灰色(外底)	灰黒色	小砂粒。胎土粗い	高温	横条痕	ナデ	外への突出は強くない。
250 14	00107	Ⅲ	P	30	SK−213		弥生土器	甕	20.10	25.00			茶色	明茶色(口縁部赤み)	砂粒少	良	口縁部はハケ目の後に横ナデ　体部は縦のハケ目	口縁部は横ハケ目　体部はハケ目	外面 下半は砂粒露出。外面のハケ目 数回重ねる。
250 15	00108	Ⅲ	P	30	SK−213		弥生土器	甕	10.50	28.40			褐色	茶色	砂粒多め	普通	縦の粗いハケ目	口縁部は横ハケ目　下半はナデ	刻み目 口縁下端のみ。
250 16	00411	Ⅲ	P	30	SK−213		弥生土器	甕	6.80			8.20	灰茶色	黒色	砂粒多めだが、内面のみ露出	良	縦ハケ目　外底はナデ	ヘラ状工具のナデ上げ	
250 17	00406	Ⅲ	P	30	SK−213		弥生土器	壺	3.50				茶褐色	灰茶色	わずかに小砂粒	良	雑な横ミガキ	左上がりのナデ	凸帯が巡るか。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器（土製品）の法量と特徴〈法量 上段：土器　下段：土製品〉												
挿図番号							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・脚基部径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
250 18	00405	Ⅲ	P	30	SK−213		弥生土器	壺	3.70	18.00			茶色	茶色	きわめて砂粒少	良	口縁部は横ナデ　下半は縦ハケ目	口縁から頸部は横ミガキ状	内面に粘土貼りつけ。
250 19	00407	Ⅲ	P	30	SK−213		弥生土器	鉢	3.60	25.40			丹塗り	丹塗り	精良土	良	横ミガキで滑らか	横ミガキで滑らか	4cmの小破片 傾き不正確。口縁端部 細い横ミガキ数条。ミガキ外面が丁寧。痕跡不明瞭。
250 20	00403	Ⅲ	P	30	SK−213		弥生土器	甕	7.80	34.10			濃灰茶色	灰茶色	砂粒は少ない	良	縦ハケ目を横ナデ消し　突帯下半は縦ハケ目	右上がりのナデ	三角形突帯が水平でなく、文様の可能性あり。
250 21	00404	Ⅲ	P	30	SK−213		弥生土器	甕	2.60	45.80			(口縁部上〜頸部)黒灰色	灰色	砂粒少ない	良	口縁部は横ナデ　下半は縦ハケ目	横ナデ	肥厚した口縁 継ぎ目明瞭。
250 22	00989	Ⅲ			SK−215		弥生土器	甕	7.00			7.15	うすい茶色	灰茶色	砂粒少ない	良	縦ハケ目	ナデ	ハケ目粗い。
250 23	00988	Ⅲ			SK−215		弥生土器	壺	4.75			7.00	うすい赤茶色	うすい茶褐色	1mm以下の砂粒多い	普通	縦ハケ目を縦ナデ消し	丁寧なナデ　滑らか	
250 24	01125	Ⅲ	P	31	SK−221		弥生土器	甕	12.80	26.40			灰茶色(口縁上面)赤茶色	灰茶色(口縁上面)赤茶色	1mm以下の砂粒		口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	外面のハケ目丁寧。上より6.5cmの長さ。
251 1	01252	Ⅲ	R	24	SK−214		弥生土器	甕	2.60	(24.60)			赤灰白色	淡黄橙色	1mm程度の砂粒やや多	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目を横ナデ消し	横ナデ	
251 2	01250	Ⅲ	R	24	SK−214		弥生土器	甕	3.20	(31.80)			明橙色	明橙色	1mmまでの砂粒やや多。3〜5mm砂粒少量。長石多。石英・ウンモ・赤色粒	良好	口縁部は横ナデ	横ナデ	
251 3	01251	Ⅲ	R	24	SK−214		弥生土器	甕	4.60			(7.90)	赤橙色	灰褐色	1〜2mm砂粒普通量。長石多い。ウンモ・石英	良好	縦ハケ目　外底ナデ	ナデ	
251 4	01256	Ⅲ	R	24	SK−214		弥生土器	壺	2.30	(14.10)			黄橙色	灰褐色	精良土	良好	横ミガキ	横ミガキ	
251 5	01254	Ⅲ	R	24	SK−214		弥生土器	壺	3.10	(8.60)			灰白色	灰白色	精良土に1mmまでの砂粒少量	良好	横ナデ	指頭圧痕	
251 6	01255	Ⅲ	R	24	SK−214		?	?	2.20	(24.80)			灰褐色	茶褐色	1mmまでの砂粒普通量	良好	横ナデ　下半ハケ目	ケズリ状	
251 7	01253	Ⅲ	R	24	SK−214		弥生土器	壺	2.90	(38.80)			淡橙色	淡橙色	1〜3mm砂粒多く含む。石英・ウンモ・長石	良好	横ナデ	横ミガキ	
253 1	00829	Ⅲ	N	30·31	SK−219		弥生土器	甕					黒色	灰茶色	わずかに小砂粒	良	口縁突帯部は横ナデ　体部は左斜行のハケ目	左上がりのナデ	蒲鉾n近い三角形凸帯。
253 2	00831	Ⅲ	N	30·31	SK−219		弥生土器	甕					うすい茶褐色	うすい灰茶色	砂粒きわめて少	良	右斜行のハケ目	口縁部は横ハケ目　下半は左斜行のハケ目	外面 ハケ目粗い。内面は雑、不規則。
253 3	00832	Ⅲ	N	30·31	SK−219		弥生土器	壺	2.00	17.00			灰茶色	(口縁上面より内面)褐色	小砂粒	堅い	ミガキ状で滑らか	ミガキ状で滑らか	5cm足らずの小片のため、口径不正確。残片では17cmと小さい。
253 4	00828	Ⅲ	N	30·31	SK−219		弥生土器	壺	5.30	24.80			灰茶色	灰茶色	小砂粒わずか	良	口縁部は横ナデ	粗い横ミガキ状	凸帯 小さい三角形 やや垂れ気味。
253 5	00830	Ⅲ	N	30·31	SK−219		弥生土器	壺					うすい茶色	うすい茶色	精良土に近い	良	ナデ	ナデ	羽状文 やや雑。
253 6	00826	Ⅲ	N	30·31	SK−219		弥生土器	甕	7.80	10.00		5.80	灰茶色	灰茶色	小砂粒多い		口縁部は横ナデ　体部にハケ目残る　下半は粗いナデ	ナデ上げ	厚めの器壁。
253 7	00827	Ⅲ	N	30·31	SK−219		弥生土器	甕	12.80	19.40			茶褐色(一部 黒斑)	灰茶色	1〜2mm大砂粒 内外面に露出		口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	口縁部はナデ上げ	拓本がいいか?
253 9	01366	Ⅲ	N	30	SK−219		古式土師器	低脚坏(B系)	6.00	(15.30)		4.80	灰白色〜浅黄橙	浅黄橙色	密。径1〜3mmの砂礫が少し含む。石英(〜2mm)が最も多く、次いで長石(〜1mm)。他には、微細な金雲母がみられる	普通	低脚取付け後横指ナデ　坏部はハケメ	すだれ状螺旋ハケメ　端部は横ナデ	
253 8	01122	Ⅲ	N	30	SK−219		古式土師器	小型器台	8.20			12.60	うす茶色	うす茶色	胎土、精良土	普通	横ナデ　滑らか	ナデ	脚外面 丁寧なナデ。
257 1	00340	Ⅲ	O	27	SK−220	かたまり	弥生土器	鉢	8.40	16.20			淡茶色	黒色(黒斑)			ミガキ	横ミガキの後に暗文風に細かいミガキを加える	ミガキで内外面割にナメラカ。ただし器面は凹凸が目立つ。口縁端は少し内側に傾く。
257 2	00099	Ⅲ	O	27	SK−220	かたまり	弥生土器	甕	17.50	24.60			濃茶色	明茶色	砂粒多い	良	口縁部は横ナデ　体部上半は縦ハケ目　下半はミガキ状のナデ割りに丁寧	口縁部は横ハケ目　下半はナデ	器面の調整 丁寧。底径からすると図は口径が大きい。
257 3	00098	Ⅲ	O	27	SK−220	かたまり	弥生土器	甕	18.80	20.60			茶褐色	茶色	1mm大の砂粒。多くない(表面の露出少)	良	口縁部は横ナデ　体部はヘラ状工具のナデ上げ	左上がりのナデ	反転すると大きな底径となる。口縁やや波打つ。
257 4	00337	Ⅲ	O	27	SK−220	かたまり	弥生土器	甕	8.60	28.60			黒褐色(スス)	茶色	砂粒入	良	口縁部は横ナデ　体部は細かなハケ目の後にナデ消し	口縁部は横ナデ　左上がりのナデ	器壁厚め。口縁小さく外反(肥厚)。
257 5	00096	Ⅲ	O	27	SK−220	かたまり	弥生土器	甕	21.30	28.60			茶黒色(中央部のみ)	茶色	小砂粒。外面に露出していない。雲母		口縁部は縦ハケ目の後に横ナデ　体部は縦ハケ目	口縁部は横ハケ目　体部はナデ	調整は丁寧。外面 あらい目のハケ目くり返している。
257 6	00339	Ⅲ	O	27	SK−220	かたまり	弥生土器	甕	17.50	26.40			茶色(下半は黒	茶色	小砂粒のみ。大粒子ナシ				口縁端 丸み断面。
257 7	00343	Ⅲ	O	27	SK−220	かたまり	弥生土器	甕	5.80			8.40					ヘラ状工具のナデ上げ	ナデ	※底部中央部が盛り上がっている。通常の甕と異なることから、最初からコシキを意識しているか?
257 8	00341	Ⅲ	O	27	SK−220	かたまり	弥生土器	甕	4.55			6.05	明茶色	明茶色	精良土	良	ミガキ　外底はヘラ状工具の擦刷痕	ミガキで滑らかとなる	内外面ともミガキ。ミガキ自体は特に丁寧という事ではない。
257 9	00338	Ⅲ	O	27	SK−220	かたまり	弥生土器	甕	7.45			23.00	茶褐色	茶褐色	小砂粒多め	良	ハケ目	ハケ目　上半はナデ	
257 10	00105	Ⅲ	O	27	SK−220		弥生土器	壺	22.90			10.50	赤茶色	茶色	砂粒少なめ	良	胴部上半は壁ミガキ　下半は左斜行のミガキ	上半はヘラ状工具の横ナデ　下半は縦のナデ上げ	外面 ミガキ風。内面のナデも割りに丁寧。
257 11	00342	Ⅲ	O	27	SK−220	かたまり	弥生土器	壺	5.20			10.20	茶色	茶色	小砂粒多く、胎土粗い	良	左上がりのナデ　底部周辺は横ナデ	ナデ上げ	外面のミガキは丁寧ではない。
260 1	00352	Ⅲ	O	31	SP−0110		弥生土器	甕					黒色	茶色	砂粒ナシ。密	良	口縁突帯部は横ナデ　下半は横条痕	横ナデ(擦刷痕)	蒲鉾形凸帯。
260 2	00362	Ⅲ	O	31	SP−0110		弥生土器	甕					明茶色	明茶色	精良土	堅緻	口縁部は横ナデ　体部は細かなハケ目	横ナデ(擦刷痕)	外、ハケ目細くシャープ。突帯 背の低い三角形。密な刻み目で蒲鉾形となる。
260 3	00361	Ⅲ	O	31	SP−0110		弥生土器	甕					黒色	灰茶色(黒斑)	砂粒少ない	良	突帯は横ナデ　外は横条痕	横ナデ	5cmの小破片。密なために凸帯が蒲鉾形となる。本来は三角形だろう。
260 4	01257	Ⅲ	O	31	SP−0110		弥生土器	甕	24.80	(21.00)		8.00	橙〜淡橙色	橙〜淡橙色	砂粒をやや含むが、内外とも露出がほとんどないため不明	良好	口縁部は横ナデ　体部は斜行ハケ目	ナデ	
260 5	00476	Ⅲ	O	31	SP−0110		弥生土器	甕	16.50	22.60			黒褐色	褐色	小砂粒	良	口縁部は横ナデ　体部は摩耗しているが部分的に縦ハケ目	口縁部は横ハケ目　体部上半はヘラ状工具の押さえ　下半は指頭圧痕	
260 6	00103	Ⅲ	O	31	SP−0110		弥生土器	壺	27.90	12.00	27.60	6.90	赤みのある茶色	茶色	精良土	堅緻	全面に細かな横ミガキ	口縁部は横ミガキ　頸部は縦のナデ　胴部はナデ　器壁薄い	器面 細かな横ミガキ。痕跡が不鮮明ほどなめらか。胴部が占める部 大きい。
260 7	01109	Ⅲ	O	31	SP−0110		弥生土器	壺	7.80		24.50		明茶色	明茶色	精良土	堅い	横ミガキ	上半横ナデ	内外調整丁寧。
260 8	00469	Ⅲ	O	31	SP−0110		弥生土器	壺	6.60			6.60	茶色	茶色	精良土	良	横ミガキで光沢	横ミガキ	ミガキで光沢。全面ミガキ。ただし丁寧ではない。器面やや凹凸がある。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器（土製品）の法量と特徴〈法量 上段：土器　下段：土製品〉											
挿図番号							器種		器高	口・器受部径	最大径	底部最高径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
260 9	00484	Ⅲ	O	31	SP−0110		弥生土器	壷	9.85	30.60			うすい茶色	うすい茶色	精良土に近い	堅い	口縁部は縦の細かなハケ目の後に頸部にかけて横ミガキ	口縁部は横ミガキ　頸部は細かなハケ目	外面剥離。本来は、全面に細かいハケ目。後に横ミガキを加える。
260 10	01033	Ⅲ	O	31	SP−0110		弥生土器	甕	11.65	29.00			（口縁の上面も）灰褐色（一部にスス）	灰色	砂粒少。胎土 やや粗い	普通	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	内外面とも調整丁寧。
260 11	00353	Ⅲ	O	31	SP−0110		弥生土器	壷	3.90			8.80	茶色（黒斑）	茶色	小砂粒多い	良	ナデ　一部ミガキ	ナデ	一部ハケ目（内面）。
260 12	00479	Ⅲ	O	31	SP−0110		弥生土器	甕	6.40			8.10	茶色（一部赤み）	灰色	砂粒多め	良	縦ハケ目	ナデ　内底近くはヘラ状工具で横の押さえ	
260 13	00195	Ⅲ	O	31	SP−0110		弥生土器	高坏	6.50				（脚柱）赤茶色（坏）黒灰色	（脚柱）黒色（坏）黒灰色	小砂粒多い	良	突帯部は横ナデ　脚柱部は縦のナデ	坏部はナデ	整ってはいないが確かな整形。
260 14	00351	Ⅲ	O	31	SP−0110		弥生土器	高坏	3.10				赤茶色	赤茶色	1mm以下の砂粒多い	良	坏部ハケ目　突帯は横ナデ		突帯貼付けの前にハケ目。
260 15	00196	Ⅲ	O	31	SP−0110		弥生土器	高坏	10.40				茶褐色（ミガキで光沢）	茶色（やや赤味）	砂粒きわめて少	良	脚柱部は縦の細かいミガキ	坏部はミガキ状のナデ	器壁赤色（レンガ色）。
264 1	00348	Ⅲ	P	31	SP−0085		弥生土器	甕					淡灰（赤）色	淡灰色	小砂粒多め	良	口縁突帯部は横ナデ　下半はナデ	横ナデ	凸帯蒲鉾形。口縁端内は折り返して丸く肥厚。
264 2	00349	Ⅲ	P	31	SP−0085		弥生土器	甕							胎土、淡灰色。精良土。丹塗り		口縁部は横ナデ　下半は粗いハケ目	口縁部は横ハケ目　下半はナデ	器面ナデ。
264 3	00347	Ⅲ	P	31	SP−0085		弥生土器	甕					茶褐色	茶色	小砂粒	堅い	口縁突帯部は横ナデ　体部にハケ目わずかに残る	ヘラ状工具のナデ	蒲鉾形（本来は三角形。
264 4	00346	Ⅲ	P	31	SP−0085		弥生土器	甕					灰茶色	灰茶色	1～2mm大の砂粒	良	口縁部は横ナデ　下半は横条痕	ナデ	
264 5	00350	Ⅲ	P	31	SP−0085		弥生土器	甕					（凸帯より下）黒色	茶色	小砂粒（1～2mm大）わずか	堅い	口縁突帯部は横ナデ　下半は横条痕	横条痕	内、条痕。外、内面より条痕が浅い、ナデを加える。凸帯 背の高い三角形。
264 6	00344	Ⅲ	P	31	SP−0085		弥生土器	甕	11.80	24.20			茶黒色（ススス）	茶色	小砂粒	良	口縁部は横ナデ　下半は細かなハケ目	ナデ　指頭圧痕	
264 7	00481	Ⅲ	P	31	SP−0085		弥生土器	甕	2.60	30.40			黒褐色	茶色	1mm大砂粒含む	堅い	縦のハケ目を横ナデ消し	口縁部は横ハケ目	後に横ナデ。
264 8	00133	Ⅲ	P	31	SP−0085		弥生土器	甕	13.90	26.60		7.40	茶色（灰色がかる）（凸帯より下は黒色）	茶色（灰色がかる）	砂粒少	良	口縁と屈曲部の突帯は横ナデ　体部は細かな縦ハケ目	口縁部は横ナデ　体部は縦のナデ　どちらもミガキ状となる	内面はタテのナデ上げミガキ状となる。外面は細かなハケ目。やや上げ底。外底も内面と同じようにミガキ。
264 9	00480	Ⅲ	P	31	SP−0085		弥生土器	甕	3.90			6.60	赤茶色	赤茶色（上半）黒ずむ	1～2mm大の砂粒	高温	外底はケズリ状のナデ　体部は細かい縦ハケ目	ナデ	外面はなめらか。
264 10	01174	Ⅲ	P	31	SP−0085		弥生土器	壷	7.60	16.80					精良土	良	口縁から頸部は横ミガキ	口縁部は横ミガキ　頸部はナデ	右下がり気味。土器を逆時計方向にまわし、斜め下から左上にミガキ上げたか？
264 11	00483	Ⅲ	P	31	SP−0085		弥生土器	壷	6.50				茶色（下半）褐色	灰黒色	1mm大砂粒多め	良	頸部はナデ上げ　胴部は左上がりのナデ	頸部との境は横ミガキ　胴部は右上がりのナデ	小さな三角形凸帯。
264 12	00345	Ⅲ	P	31	SP−0085		弥生土器	鉢	3.20	25.60			黒色、光沢	茶色（縁がかる）、光沢	精良土	良	全面横ミガキで滑らか	全面が横ミガキで滑らか	5cm小破片。
264 13	00482	Ⅲ	P	31	SP−0085		弥生土器	鉢	7.10	27.40			黒色	黒色	精良土に近い	良好	横ミガキ	横ミガキ	全面ミガキ。
265 1	00368	Ⅲ	P	31	SP−0086		弥生土器	壷	5.50	15.00			茶色	茶色（黒斑）	精良土	良	横ミガキ	口縁部は横ミガキ　頸部は左上がりのナデ	口縁内側、黒色文様。文様は口縁部外にない。ミガキは内側がやや細かい。
265 2	00359	Ⅲ	P	31	SP−0086		弥生土器	壷	5.90	15.60			（明）茶色	（明）茶色	精良。密。雲母わずかに入る	堅緻	全面が横ミガキ	横ミガキ	
265 3	00471	Ⅲ	P	31	SP−0086		弥生土器	壷	3.85				灰色（黒斑）	黒色	小砂粒	良	横ミガキ	頸部は左上がりのナデ	小破片。
265 4	00102	Ⅲ	P	31	SP−0086		弥生土器	壷	20.60		26.60		茶色	淡茶色	砂粒少。精良土でない	良	全面に細かな横ミガキ	ナデ	頸部への移行部に横ミガキ。
265 5	00360	Ⅲ	P	31	SP−0086		弥生土器	壷	22.00	32.40	40.30		灰茶色	灰茶色（ほとんどが黒斑）	小砂粒多いが、器壁がうすいつくり		口縁部は横ナデ　下半はヘラ状工具の横ミガキ　効果は薄い	口縁部は横ナデ　下半はナデ	頸部の調整。整形・調整とも丁寧なつくり、仕上がり。
265 6	00367	Ⅲ	P	31	SP−0086		弥生土器	甕	3.75			7.60	灰茶色（一部赤み）	灰茶色（一部赤み）	1～2mm大の砂粒多い	高温	縦ハケ目　外底は粗いナデ	剥離し不明	底部丸く突出。
267 1	00378	Ⅲ	P	31	SP−0097		弥生土器	甕	6.40	19.00			灰褐色	灰褐色	砂粒ほとんどナシ	堅い	口縁部は横ナデ　下半は縦ハケ目　文様風の沈線	口縁部は横ナデ　体部は右上がりのナデ	
267 2	00377	Ⅲ	P	31	SP−0097		弥生土器	甕	9.90	21.60			灰茶色（黒斑）	灰茶色	砂粒きわめて少	堅い	口縁下は縦ハケ目の後に横ナデ　体部はハケ目	口縁部は横ハケ目　下半はヘラ状工具のナデ	
267 3	00369	Ⅲ	P	31	SP−0097		弥生土器	甕	7.40	23.00			黒褐色（口縁の内側まで）	茶色	小砂粒少ない	良	口縁部は横ナデ　体部は左ナデアゲ	左上がりのナデ	
267 4	00370	Ⅲ	P	31	SP−0097		弥生土器	甕	18.10	25.20			黒色（ススス）全面	茶色（口縁部は褐色）	砂粒少ない	良	口縁部は横ナデ　下半はナデ	口縁部は横ナデ　左上がりのナデ　指頭圧痕	傾き不正確。
267 5	00376	Ⅲ	P	31	SP−0097		弥生土器	甕	11.40			8.70	灰茶色	黒色	1～3mm大の砂粒		粗い縦ハケ目の後に縦のナデ上げ　さらに縦ハケ目　括れ部は横ナデ　外底はミガキ状のナデ	ヘラ状工具のナデ上げ	表面には露出していない。しっかりしたつくり。
267 6	00379	Ⅲ	P	31	SP−0097		弥生土器	甕	9.10	38.00			灰茶色	灰茶色	砂粒少ない	良	口縁下は縦ハケ目の後に横ナデ	口縁部は横ハケ目　下半は左上がりのナデ	丁寧な調整。
269 1	00363	Ⅲ	P	31	SP−0136		弥生土器	甕					赤茶色	灰茶色	小砂粒	良	口縁部直下は縦ハケ目　下半は斜行ハケ目	口縁部は横ハケ目　下半はナデ上げ	4cmの小破片。傾き不正確。
269 2	00373	Ⅲ	P	31	SP−0136		弥生土器	甕	5.00	25.00			灰黒色	灰色	小砂粒わずか。雲母	良	口縁部は横ナデ　体部はハケ目	左上がりのナデ	
269 3	00375	Ⅲ	P	31	SP−0136		弥生土器	甕	8.85				黒褐色	茶褐色	1mm大の砂粒。胎土密でない	良	口縁下は縦ハケ目　突帯は横ナデ　その下半はハケ目	口縁部は横ナデ　下半はナデ	ハケ目粗い（目は細い）。
269 4	00374	Ⅲ	P	31	SP−0136		弥生土器	甕	5.30	32.40			濃灰色	白灰色	1mm大の砂粒多い	良	口縁下は縦ハケ目後に横ナデ	ナデ	口縁部肥厚。全体に磨耗。
269 5	00364	Ⅲ	P	31	SP−0136		弥生土器	甕	3.20			6.60	茶色（黒斑）	茶色	小砂粒多い	良	細かな縦ハケ目	粗いハケ目	外と内の工具は異なる。
269 6	00355	Ⅲ	P	31	SP−0136		弥生土器	甕	7.10			7.60	灰茶色	灰茶色（コゲで黒）	小砂粒多め（1mm大はナイ）	良	ハケ目	ナデ	外底から穿孔研磨したか？
269 7	00365	Ⅲ	P	31	SP−0136		弥生土器	甕	4.90			7.00	濃灰色	黒色（コゲ）	小砂粒。粗い	堅い	縦ハケ目	横ナデ　指頭圧痕	
269 8	00372	Ⅲ	P	31	SP−0136		弥生土器	甕	8.30			7.00			1～3mm大の砂粒きわめて多い	良	縦ハケ目　外底砂粒露出	ナデ	全体的に磨耗し、砂粒露出している。
269 9	00357	Ⅲ	P	31	SP−0136		弥生土器	甕	7.70			8.60	赤茶色	赤茶色	4mm大の砂粒も入り胎土粗い	良	細かなハケ目　括れ部は指頭圧痕	ナデ	外面（やや）砂粒露出。
269 10	00172	Ⅲ	P	31	SP−0136		弥生土器	壷					灰黒色（黒斑）	茶黒色	胎土 精良 密	良	横ミガキで滑らか	ナデ	外面ミガキでなめらか。
269 11	00356	Ⅲ	P	31	SP−0136		弥生土器	壷					茶色	灰茶色	砂粒わずか。精良ではない	良	頸部は粗い横ミガキ	頸部はナデ上げ	胴部は左上がりのナデ　文様全体不明。
269 12	00371	Ⅲ	P	31	SP−0136		弥生土器	壷	5.60			10.50	濃灰色	灰色（内底）黒色	砂粒は微粒子のみ	良	横ミガキ	ナデ	内底はヘラ状工具のナデ　内底が盛り上がる。
269 13	00188	Ⅲ	P	31	SP−0136		弥生土器	高坏	2.00	26.20			茶褐色（黒みが濃い）	茶褐色（黒みが濃い）	小砂粒。胎土粗	良	剥離し調整痕不明	坏部は横ナデ	内面調整丁寧。なめらか。隆線文の壷、小破片。
269 14	00354	Ⅲ	P	31	SP−0136		弥生土器	高坏	3.90				赤茶色	（坏）灰黒色（脚）黒色	小砂粒多い	良	坏部はヘラ状工具のナデ　脚柱部は縦ハケ目	坏部はヘラ状工具のナデ	
271 1	00486	Ⅲ		31	SP−0028		弥生土器	甕	2.00	26.40			うすい茶色	うすい茶色	小砂粒	良	口縁部は横ナデ　体部は縦のハケ目	左上がりのナデ	口縁部丸み。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器　下段:土製品〉												
挿図番号							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・脚裾・高台径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
271 2	00485	Ⅲ			SP−0028		弥生土器	甕	3.00	27.00			(口縁部のみ)うすい灰褐色(他はうすい灰茶色)	(口縁部のみ)うすい灰褐色(他はうすい灰茶色)	小砂粒多め。雲母	良	口縁部は横ナデ　下半はナデ	左上がりのナデ	
271 3	01139	Ⅲ			SP−0028		土製品	投弾	4.19	2.10	2.08		灰色		砂粒少	良			黒斑 濃い。表面なめらか。
271 5	00472	Ⅲ			SP−0041		弥生土器	甕	5.10				黒色	茶色(下半、黒ずむ)	小砂粒	堅い	屈曲部の上下は横条痕	粗いナデ	三角形凸帯(頂点丸み)。
271 6	00474	Ⅲ			SP−0041		弥生土器	甕	2.60			6.40	茶色	茶色	砂粒ほとんどナ	堅緻	外底はヘラ状工具のナデ　体部はナデ上げ	ナデ	
271 7	00487	Ⅲ			SP−0041	SP−0042	弥生土器	壺					黒色	茶色(下半)黒斑	精良土	堅い	横ミガキで滑らか	丁寧な横ナデ　ミガキではない	
271 8	00475	Ⅲ			SP−0041		弥生土器	甕	3.70	22.00			赤茶色	(口縁上面より)うすい褐色	小砂粒	良	口縁部は横ナデ　体部はミガキ	体部は右上がりのナデ	ハケ目、粗目。
271 9	00473	Ⅲ			SP−0041		弥生土器	甕	1.60	24.40			灰褐色	灰褐色	砂粒少(1〜2mm大)	良	口縁部は横ナデ	粗いハケ目の後にナデ	
271 10	00488	Ⅲ			SP−0041	SP−0042	弥生土器	甕	3.30	22.80			茶色	茶色	砂粒ほとんどナシ	堅い	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	横ナデ	沈線が一番最後。
271 11	00470	Ⅲ			SP−0074		弥生土器	甕	5.75	28.40			茶色	茶色(内面にわずかに黒ずむ)	小砂粒	高温	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	口縁部は横ハケ目　下半はナデ上げ	調整も割に丁寧。
271 12	00574	Ⅲ			SP−0069		弥生土器	甕					茶褐色	明茶色	砂粒少	堅い	口縁突帯部は横ナデ　下半はナデ	ヘラ状工具の横ナデ	三角形凸帯。
271 13	00573	Ⅲ			SP−0069		弥生土器	鉢	5.25	21.40			灰黒色(外面に円形の黒斑)	灰黒色	砂粒わずか	良	細かな横ミガキ	口縁部は横ミガキ　下半も横ミガキだが痕跡不鮮明	鉢形の器形。
271 14	00563	Ⅲ			SP−0075		弥生土器	鉢	5.50	27.80			赤茶色	灰茶色(一部黒斑)	精良土	良	横ミガキ	横ミガキ	器形不明。丁寧なつくり、調整。
271 15	00564	Ⅲ			SP−0075		弥生土器	甕	2.60			7.40	灰茶色(一部 赤み)	灰茶色	砂粒少ないが胎土粗い	良	ナデ　一部にハケ目　外底は粗いケズリ	ナデ	
271 16	00490	Ⅲ			SP−0076		弥生土器	甕					黒色	灰茶色	砂粒少	良	屈曲部下半は横条痕	横条痕	屈曲部の小破片。三角形突帯。
271 17	00491	Ⅲ			SP−0076		弥生土器	甕					灰黒色	茶色	砂粒少ない	良	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	湾曲部にハケ目残る　ナデ	傾き不正確。
271 18	00489	Ⅲ			SP−0076		弥生土器	壺	3.00	17.60			うすい茶色	うすい茶色	精良土	良	口縁部は横ミガキ	横ミガキで滑らか	口縁部 丸く肥厚。ミガキ細かい。
271 19	00465	Ⅲ			SP−0088	含む:SP−188	弥生土器	甕	2.55			7.40	茶色		小砂粒	高温	左上がりのナデ　外底はミガキ状で滑らか	剥離	
271 20	00464	Ⅲ			SP−0088	含む:SP−188	弥生土器	壺	1.60			8.40	うすい茶色	うすい茶色	精良土	堅緻	外底はミガキ状で滑らか　胴部は横ミガキ	ナデ	底部なめらか。円盤状ではない。
271 22	00467	Ⅲ			SP−0093		弥生土器	甕	6.70	24.20			うすい茶色(下半)	わずかに褐色	うすい茶色　砂粒少ない。雲母	良	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	整形、調整丁寧。
271 23	00468	Ⅲ			SP−0093		弥生土器	甕	4.50			6.40	茶色	灰黒色	小砂粒	良	体部は縦ハケ目　外底はケズリ状のナデ	ナデ	ややいびつ。
271 24	00466	Ⅲ			SP−0093		弥生土器	壺	4.55				茶色(ほとんどが黒斑)	茶色	大きめの砂粒も含む	高温	突帯は横ナデ	頸部は横ナデ　胴部はナデ　指	砂粒露出し、形状不明瞭。
272 25	00366	Ⅲ			SP−0120		弥生土器	甕					茶色	灰色	小砂粒	良	口縁部は横ナデ　下半は横ナデ	ナデ	部分的にハケ目残る。
272 26	01135	Ⅲ			SP−0160		弥生土器	壺	2.55				濃灰色	濃灰色	精良土	堅緻	上半は横ナデ　弧文の下半は細かな横ミガキ	丁寧な横ナデ	丁寧な調整。101とは接合しない。胎土も異なる。
272 27	00163	Ⅲ			SP−0162		弥生土器	鉢	4.30	17.20			灰黒褐色		小砂粒多い。雲母アリ	良	口縁部は横ナデ　屈曲部下半は剥離で調整痕不明	横ミガキ	全体に磨耗。他に鉢口縁小片アリ。同一体と判断した。
272 28	00189	Ⅲ			SP−0168		弥生土器	鉢	6.40	20.60			茶色	茶色	砂粒少ないが、胎土は密でない	良	横ナデ	ミガキ状の横ナデ	器壁凹凸めだつが、器面の調整はたしか。脚の可能性もあるが?器形が不明。
272 29	00190	Ⅲ			SP−0168		弥生土器	壺	5.50	29.00			褐色、光沢あり	褐色、光沢あり	砂粒わずか	良	口縁部は横ナデ　頸部は縦のナデ	横ミガキ	器面丁寧な調整。特に内面。
272 30	00192	Ⅲ			SP−0220		弥生土器	甕	1.60	20.40			茶褐色	茶色	砂粒少	良	口縁部は横ナデ　下半は縦ハケ目	横条痕	口縁部手ぐつね状。口縁上面に放射状の条線あり。調整痕か?
272 31	00191	Ⅲ			SP−0220		弥生土器	壺	1.90	25.40			灰茶色	灰茶色	砂粒きわめて少。雲母		横ナデ	横ナデ	内外面丁寧なナデ。
272 32	00193	Ⅲ			SP−0220		弥生土器	甕					茶色	茶色	1〜2mm大の砂粒	堅い	横ナデ　下半は縦ハケ目	口縁部は横ナデ　体部はナデ	タテのハケ目整っている。
272 33	00170	Ⅲ			SP−0223		弥生土器	甕					茶褐色	茶色	砂粒少ないが、密ではない	良	口縁突帯部は横ナデ　下半は左上がりのナデ	ナデ	凸帯 一段下に断面 蒲鉾に近い。171と同一袋。
272 34	00184	Ⅲ			SP−0223		弥生土器	甕					黒灰色	外凸帯上半まで灰色	わずかに小砂粒	良、やや軟質	口縁突帯部は横ナデ　下半は横条痕	横条痕(擦刷痕?)	三角凸帯(口縁より一段下がる)。
272 35	00171	Ⅲ			SP−0223		弥生土器	甕	2.40	19.40			茶色	赤茶色	わずかに砂粒。精良に近い	良	口縁部は横ナデ　下半は縦ハケ目	ナデ	5cmの小破片。
272 36	00183	Ⅲ			SP−0223		弥生土器	甕	2.40			10.20	茶色(外底)やや褐色	茶色	1〜2mm大の砂粒	良	横ナデ	ナデ	184と同袋。
278 1	00162	Ⅳ			第Ⅳ面遺構検出面	円形周溝2·3の上面	弥生土器	甕	8.80	21.00			黒色	茶色	1〜2mm大の砂粒少ない		口縁突帯部は横ナデ　屈曲部の上下は細かな横ハケ目	横ハケ目	屈曲部内面は横ナデ消し。
278 2	00161	Ⅳ			第Ⅳ面遺構検出面	円形周溝2·3の上面	弥生土器	鉢					赤茶色	灰黒色	小砂粒少。雲母	良	口縁部は横ナデ　下半は横ミガキ	横ナデ	3cmの小片のため、傾き不正確(もう少し立つか)。
278 3	00160	Ⅳ			第Ⅳ面遺構検出面	円形周溝2·3の上面	弥生土器	甕	2.50			6.70	茶色(部分的に赤灰)	黒灰色	2〜3mm大の砂粒多め。胎土粗い	良	横条痕　外底はナデ	ヘラ状工具のナデ上げ	整ったプロポーション。体部外面 粗い条痕。
278 4	00165	Ⅳ			第Ⅳ面遺構検出面	円形周溝7·8·9の上面	弥生土器	甕					灰色(わずかに黒色)	茶色	1mm大の砂粒	良	口縁突帯部は横ナデ	横ナデ	蒲鉾断面(台形に近い)。
278 5	00164	Ⅳ			第Ⅳ面遺構検出面	円形周溝7·8·9の上面	弥生土器	甕					灰黒色	茶色(やや黄み)	砂粒少	良	口縁突帯部は横ナデ　下半は横ナデ(擦刷痕?)	横ナデ(擦刷痕)	三角形。外面剥離。
278 6	00168	Ⅳ			第Ⅳ面遺構検出面	円形周溝7·8·9の上面	弥生土器	甕	2.75			8.00	灰茶色	淡灰黒色	砂粒少ないが胎土あらい	良	左上がりの条痕	ナデ　部分的に横条痕	やや磨耗。
278 7	00169	Ⅳ			第Ⅳ面遺構検出面	円形周溝7·8·9の上面	弥生土器	壺	1.50			12.00	赤茶色	赤茶色	1mm大の砂粒。精良ではないが密	良	外底にかけて丁寧なナデ	粗いナデ	外面は底まで丁寧なナデでなめらか。
278 8	00167	Ⅳ			第Ⅳ面遺構検出面	円形周溝7·8·9の上面	弥生土器	甕	4.10			5.80	赤茶色	灰茶色	1〜2mm大砂粒	高温	横条痕の後に左上がりの細いナデ	ナデ	外面は横条痕の後にヘラ状工具でナデ上げ(ミガキではない)。
279 1	00156	Ⅳ	P	27	SS−01	家畜小屋	弥生土器	甕					灰茶色	茶色	砂粒多め	良	口縁部は横ナデ　下半は横条痕	粗い横ナデ	やや磨耗。
279 2	00157	Ⅳ	P	27	SS−01	家畜小屋	弥生土器	甕					灰茶色	灰茶色	小砂粒少	良	屈曲部突帯は横ナデ　下半は横ナデ	ナデ	三角形突帯。
279 3	00158	Ⅳ	P	27	SS−01	家畜小屋	弥生土器	甕					灰色	灰色	砂粒ほとんど無し	良	横ミガキだが滑らかでない	横ミガキ	内外面 横ミガキだが光沢ナシ なめらかでもない。
279 4	00154	Ⅳ			SS−04−1	家畜小屋	弥生土器	甕					黒褐色	黒褐色	砂粒少	堅い	横方向のナデ(擦刷痕?)	ナデ	三角突帯。155と同一袋。
279 5	00155	Ⅳ			SS−04−1	家畜小屋	弥生土器	甕	3.50			9.60	赤茶色	灰茶色	砂粒少。1mm大。雲母	良	ナデ　外底は粗いナデ	ヘラ状工具の押さえ	
279 6	00159	Ⅳ	P	28	SS−09	家畜小屋	弥生土器	甕					灰茶色	黒灰色	砂粒少ない	良	口縁部は横ナデ　下半はナデ	右上がりのナデ	幅広い低い三角形 頂部つぶれる。
279 7	00152	Ⅳ			SS−10	家畜小屋	弥生土器	甕					茶褐色	茶褐色	砂粒少	良	口縁部は横ナデ　下半は剥離	ナデ	外面剥離し、条痕認められない。蒲鉾凸帯。
279 8	00153	Ⅳ			SS−11	家畜小屋	弥生土器	甕					濃茶褐色	茶褐色	砂粒少	堅い	口縁部は横ナデ　下半は横ナデ	ナデ	低い台形状断面。

土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器　下段:土製品〉

報告書 挿図番号	登録番号	遺構面	グリッド			遺構名	備考・出土地点	器種 様式など	器種	器高 長さ	口・器受部径 幅	最大径 厚さ	底・脚径 孔径	色調 外面色調	色調 内面色調	胎土	焼成	調整 外面調整	調整 内面調整	備考
294 1	01369	Ⅱ				第Ⅱ面掘り下げ		縄文土器	鉢					明茶色	明茶色	滑石多い。	良	磨滅して不明	磨滅して不明	表面光沢(内外面)。傾き不正確。この他に遺構検出面で胴部片が出ている(文様はない)。
294 2	01370	Ⅱ				第Ⅱ面掘り下げ		縄文土器	鉢					赤茶色	赤茶色	滑石多い。別片とは胎土が異なる。	良好	磨滅して不明	磨滅して不明	滑石は内面がより多く露出している。

第10次調査出土　石器

報告書 挿図番号	登録番号	遺構面	グリッド			遺構名	備考・出土地点	石器の法量と特徴 器種	法量(cm・g) 長さ	幅	厚さ	孔径	重さ	石材	備考	木器の特徴 種類	木取り	樹種	備考
20 14	04368	Ⅰ				水田	C−4	管玉	0.75			0.43	0.154		切断面上下平行でない。正円でない。中心からズレル。				
21 1	04099	Ⅰ	P	27		水田	D−2	打製石鏃	1.80	1.55	0.40		0.800	黒曜石	両面とも剥片面を多く残す。				
21 2	04114	Ⅰ	S	24など		水田	C−4	打製石鏃	1.60	1.75	0.40		0.900	黒曜石	両面に剥片面を残す。脚部欠損。				
21 3	04097	Ⅰ	P	27		水田	D−2	打製石鏃	1.95	1.70	0.50		1.400	黒曜石	両面に剥片面を多く残す。平基無茎。				
21 4	04166	Ⅰ	S	24など		水田	C−4	打製石鏃	1.90	1.65	0.50		0.800	黒曜石	両面に剥片面を残す。				
21 5	04098	Ⅰ	P	27		水田	D−2	打製石鏃	2.20	1.60	0.60		1.600	黒曜石	一部にし前面を残す。両面とも剥片面を多く残す。				
21 6	04113	Ⅰ	S	24など		水田	C−4	打製石鏃	2.30	1.40	0.20		0.600	黒曜石	両面には剥片面を残す。裏面は少なめ。				
21 7	04100	Ⅰ	P	27		水田	D−2	打製石鏃	2.30	1.60	0.40		0.800	黒曜石	両面に剥片面を多く残す。				
21 8	04127	Ⅰ	Q	23など		水田	C−3	打製石鏃	2.80	2.35	0.95		5.000	チャート	両面に剥片面を残す。平基無茎。				
21 9	04153	Ⅰ	R	20など		水田	B−3トレンチ	打製石鏃	5.35	1.95	0.80		7.400	頁岩	両面を丁寧に調整。基部のつくり出しが明らかでない				
21 10	04050	Ⅰ	S	24など		水田	C−4	磨製石鏃	4.30	1.20	0.20		1.600	緑レン片岩	ほぼ完形。薄手の作りで、明確な稜は持たず、研磨痕も認められない。				
21 11	04079	Ⅰ	PR	31〜33		水田		扁平片刃石斧	5.40	2.90	0.90		27.800	安山岩	研磨が雑である。				
21 12	04121	Ⅰ	PR	31〜33		水田		砥石	5.60	1.90	0.90		19.600	頁岩	裏面の上部欠損。長方形を呈する。全面を砥石として使用している。				
21 13	04101	Ⅰ	P	27		水田	D−2	磨製石斧	6.20	6.30	2.70		164.000	頁岩	裏面及び下半部欠損。研磨されてはいるが敲打痕を残す。				
21 14	04054	Ⅰ	PR	31〜33		水田		砥石	10.20	4.90	4.25		283.900	流紋岩質凝灰岩	表裏両側面使用している。				
21 15	04083	Ⅰ				水田	D−2	石斧(再加工品)	7.90	7.70	2.40		227.700	玄武岩	研磨痕は剥落または風化していてみられない				
25 24	04052	Ⅰ				第Ⅰ面掘り下げ		磨製石斧	4.55	7.10	3.50		151.300	玄武岩	基部欠損。裏面も研磨が施されるが充分ではなく、剥離面やや残す。				
25 25	04053	Ⅰ				第Ⅰ面掘り下げ		打製石鏃	3.30	1.70	0.90		3.700	黒曜石	両面に剥片面を多く残す。				
34 28	04136	Ⅱ	P	28		SC−01	西面	打製石鏃	2.00	1.30	0.45		0.600	黒曜石	両面に剥離面を残す。平基無茎。				
34 29	04156	Ⅱ	P	28		SC−01		打製石鏃	2.20	1.80	0.40		0.900	黒曜石	両面に剥離面を残す。平基無茎。				
34 30	04157	Ⅱ	P	28		SC−01		磨製石鏃	4.45	1.25	0.40		2.600	頁岩	有茎式磨製石鏃。茎を欠損。研磨痕を多く残すが、裏面の稜ははっきりしていない。				
34 31	04082	Ⅱ	O	28		SC−01	床面(東側)	垂飾品	2.15	1.60	0.40		1.600	結晶片岩	小片のみの残存。楕円と思われる孔が、片面から穿たれている。				
34 32	04158	Ⅱ	P	28		SC−01		垂飾品	3.05	1.80	0.60		5.700	結晶片岩	両面から穿たれた孔が1つあり、全面に研磨痕が残る。				
34 33	04159	Ⅱ	O	28		SC−01	西側	石鎌	5.15	6.75	0.70		41.700	頁岩	基部のみ残存。両面共に研磨されていたと思われるが、風化により擦痕はほとんど観察されない。				
38 39	04163	Ⅱ	O・P	29・30		SC−02		磨製石斧	7.10	5.00	4.75		222.700	玄武岩	大幅に欠損。断面形は楕円形であると思われる。				
43 11	04084	Ⅱ	P	25		SE−01		砥石	6.70	2.40	1.60		45.400	流紋岩質凝灰岩	表裏面および側面を使用。				
61 1	04021	Ⅱ	O・P	23		SJ−01	2面、えーホ	砥石	9.50	2.25	1.80		75.600	泥岩	方柱状の砥石。下端部欠損している。上部敲打痕あり。				
61 2	04108	Ⅱ	P	24		SJ−01	2面、No.72(遺物取り上げ番号)、かーハ	すり石	9.30	6.00	5.90		476.200	凝灰岩	全面的に磨耗しており、加工痕、使用痕が確認できるものは少ない。				
61 3	04061	Ⅱ	P・Q	23		SJ−01	えーニ	石錘	9.00	2.80	2.70		94.900	滑石	有溝の面(表裏)と貫通孔のみの面とでなる。				
61 4	04109	Ⅱ	Q	24		SJ−01	きーハ	砥石	11.70	5.85	3.75		386.100	砂岩	表面中央部に敲打によると思われる凹みが認められる。砥石との兼用と思われる。				
61 5	04145	Ⅱ	Q	23		SJ−01	くーニ、No.2(遺物取り上げ番号)	石皿	16.70	18.90	4.10		1830.000	礫岩	表面左下方に敲打痕が認められる。右側面に溝状に研磨。砥石としても使用?				
61 6	04120	Ⅱ	Q	24		SJ−01	2面、くーハ	扁平片刃石斧	4.50	2.90	1.00		25.300	珪質頁岩	基部のみ				
61 7	04032	Ⅱ	R	24		SJ−01	2面、No.105(遺物取り上げ番号)、こーハ	紡錘車	4.20	6.10	0.80		25.700	頁岩	中央に両面から穿たれた孔。ほぼ全面研磨。下半分欠損。				
61 8	04033	Ⅱ	N〜R	22〜24		SJ−01	2面、No.02	石皿	18.30	13.50	6.60		1780.000	流紋岩質凝灰岩	両面とも使用が顕著である。楕円形円礫使用。				
64a 9	04147	Ⅱ	Q	24		SJ−01	2面、No.75(遺物取り上げ番号)の下	把頭飾り	6.50	7.70	4.80		239.000	暗灰色の石材(石材中に黒灰色の粒子が観察される)	握り部径 3.9cm。木柄の形状に合わせた楕円形の敲打痕あり。方柱上段部が円形に調整され、非常に丁寧なつくり。これは方柱付十字形把頭飾で、類例としては伝平壌、黄海南道信川、京畿道上読書里、忠清南道秀木里、慶尚北道南山などがあり、秀木里のものと形状が近く,国内での厳密な意味での同一型式はない。				
81 48	04151	Ⅱ	O	28		第Ⅱ面掘り下げ	SC−01・02　下げ	砥石	5.60	5.00	1.10		47.900	砂岩	表面に浅い凹みあり、使用が顕著である。				
81 49	04152	Ⅱ	O	28		第Ⅱ面掘り下げ	SC−01・02　下げ	砥石	6.90	4.30	2.30		93.200	砂岩	上部に敲打痕みられる。左側欠損。表面の使用頻度は高い。				
81 50	04155	Ⅱ	N	29		第Ⅱ面掘り下げ	SC−01・02　下げ	砥石	7.25	6.20	2.00		140.400	砂岩	側縁稜を成し、右側面も砥面として利用。裏面欠損。				
81 51	04154	Ⅱ	N	29		第Ⅱ面掘り下げ	SC−01・02　下げ	磨製石斧	4.90	6.00	4.10		187.700	玄武岩	研磨痕は正面中央に施されるが他は敲打痕を残す。断面形は楕円形であったと思われる。				
81 52	04128	Ⅱ	P	29		第Ⅱ面掘り下げ	SC−01・02　下げ	打製石鏃	1.90	1.30	0.30		0.400	黒曜石	両面の縁に剥片面を残す。				

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	石器の法量と特徴							木器の特徴			
掲図番号							器種	法量(cm・g)					石材	備考	種類	木取り	樹種	備考
								長さ	幅	厚さ	孔径	重さ						
81 53	04150	Ⅱ	O	28	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01・02　下げ	紡錘車	3.20	5.60	0.90		19.000	粘板岩	下半分欠損。右半分は表面はく落。中央に孔が穿たれる。全面研磨。				
83 31	04029	Ⅱ	O	29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−04　下	打製石鏃	1.65	1.50	0.30		0.600	黒曜石	両面に多く剥片面を残す。平基無茎。				
87 63	04017	Ⅱ	P	31	第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	石包丁	4.25	4.10	0.40		6.300	頁岩	研磨痕等は見られない。				
87 64	04018	Ⅱ	P	31	第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	砥石	4.00	2.55	2.30		34.400	砂岩	棒状の砥石。上下部欠損。全面使用。使用頻度はどの面もほぼ同じ。				
87 65	04019	Ⅱ	P	31	第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	砥石	3.95	1.70	0.60		7.600	頁岩	下半部欠損。断面は楕円形を呈する。器表面は滑らかである。				
87 66	04160	Ⅱ	O	30	第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	紡錘車	5.80	5.80	1.00		47.200	結晶片岩	中央に両面からの穿たれた孔。ほぼ全面を荒く研磨しているが、研磨方向は不明瞭。所々にはく落あり。				
87 67	04161	Ⅱ	O	30	第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	紡錘車	5.60	5.50	0.90		43.700	結晶片岩	中央に両面から穿たれた孔。全面研磨。方向は不明瞭。				
90 49	04023	Ⅱ	N	31	第Ⅱ面掘り下げ	SC−05　下	磨製石斧	7.30	5.40	2.30		146.100	玄武岩	断面は凸=レンズ形。大幅に欠損。(基部、刃部、裏面)				
95 7	04180	Ⅱ	P	32	第Ⅱ面掘り下げ	SG−03	不明	11.65	8.45	1.65		252.600	粘板岩	板状で、周囲は敲打され、一部研磨が施されている箇所もある。				
112 1	04139	Ⅱ	Q	31	第Ⅱ面掘り下げ		打製石鏃	2.30	1.15	0.40		0.800	黒曜石	両面に剥片面を多く残す。				
112 2	04089	Ⅱ	P・Q	27・28	第Ⅱ面掘り下げ		打製石鏃	1.30	1.20	0.45		0.500	黒曜石	両面に剥片面を残す。裏面はやや少なめ。				
112 3	04138	Ⅱ	Q	23	第Ⅱ面掘り下げ		打製石鏃	1.60	1.15	0.30		0.500	黒曜石	両面に剥片面を残す。平基無茎。				
112 4	04004	Ⅱ	R	24	第Ⅱ面掘り下げ		打製石鏃	1.45	1.30	0.40		0.500	黒曜石	両面に剥片面を残す。一部自然面を残す。平基無茎。				
112 5	04135	Ⅱ	P	31	第Ⅱ面掘り下げ		打製石鏃	2.20	1.65	0.40		1.300	黒曜石	両面に剥片面を多く残す。平基無茎。				
112 6	04134	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ		打製石鏃	1.90	1.25	0.30		0.500	黒曜石	両面に剥片面を残す。脚部欠損。とも剥片面を				
112 7	04140	Ⅱ	N	31	第Ⅱ面掘り下げ		打製石鏃	2.10	1.60	0.50		1.400	黒曜石	両面に多く剥片面を残す。足部一部欠損。				
112 8	04067	Ⅱ	Q	24	第Ⅱ面掘り下げ		打製石鏃	2.20	1.90	0.50		1.400	黒曜石	両面に剥片面を多く残す。先端欠損。				
112 9	04036	Ⅱ	O	30	第Ⅱ面掘り下げ		打製石鏃	2.50	1.50	0.40		1.000	黒曜石	両面に剥片面を多く残す。平基無茎。				
112 10	04015	Ⅱ	O	31	第Ⅱ面掘り下げ		打製石鏃	2.40	1.45	0.50		1.000	黒曜石	両面に剥片面を残す。平基無茎。				
112 11	04013	Ⅱ	O	28	第Ⅱ面掘り下げ		打製石鏃	2.60	2.20	0.40		1.400	黒曜石	両面に剥片面を多く残す。脚部欠損。平基無茎。				
112 12	04092	Ⅱ	Q	25	第Ⅱ面掘り下げ		打製石鏃	3.10	2.20	0.50		2.600	黒曜石	両面に剥片面を多く残す。				
112 13	04129	Ⅱ	P	24	第Ⅱ面掘り下げ		打製石鏃	1.70	1.25	0.40		0.500	黒曜石	両面に剥片面を多く残す。脚部一部欠損。平基無茎。				
112 14	04028	Ⅱ	P	24	第Ⅱ面掘り下げ		打製石鏃	2.30	1.70	0.60		1.800	黒曜石	両面に多く剥片面を残す。平基無茎。				
112 15	04065	Ⅱ	P	25	第Ⅱ面掘り下げ		打製石鏃	2.30	1.70	0.35		0.900	黒曜石	主要剥離を残し、両サイドからの剥片面を残す。				
112 16	04094	Ⅱ	Q	25	第Ⅱ面掘り下げ		打製石鏃	3.30	2.50	0.60		4.300	ガラス質安山岩	両面に剥片面を残す。平基無茎。				
112 17	04068	Ⅱ	Q	24	第Ⅱ面掘り下げ		打製石鏃	2.70	1.40	0.65		2.400	黒曜石	両面に剥片面を多く残す。脚部が節理面で割れている可能性あり。				
112 18	04040	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	砂のところ	打製石鏃	3.30	1.35	0.35		1.300	黒曜石	両面に剥片面を残す。脚部欠損。				
112 19	04137	Ⅱ	P	27	第Ⅱ面掘り下げ		打製石鏃	3.10	1.20	0.65		2.100	黒曜石	両面に剥片面を多く残す。				
112 20	04091	Ⅱ	O	27	第Ⅱ面掘り下げ		打製石鏃	4.60	1.55	0.50		3.400	黒曜石	両面に多くの剥片面を残す。				
113 30	04146	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ		石包丁	9.10	25.95	6.05		190.500	頁岩	ほぼ完存。全面研磨されていたと思われるが、風化が激しく、研磨痕はほとんど残っていない。とも剥片面を多く残す。				
113 31	04125	Ⅱ	P	23	第Ⅱ面掘り下げ	P−お−①	石包丁	4.10	13.00	0.40		31.000	頁岩	ほぼ完存。表面の風化が著しい。				
115 21	04074	Ⅱ	P	29	第Ⅱ面掘り下げ	住居下①	磨製石鏃	4.10	1.25	0.65		3.200	粘板岩	基部及び先端部欠損。断面は菱形を呈し、主に横方向の研磨痕を残す。				
115 22	04070	Ⅱ	Q	24	第Ⅱ面掘り下げ		磨製石鏃	5.00	1.55	0.60		4.300	頁岩	有茎式磨製石鏃。先端部欠損。茎に稜を多く有するが、研磨痕はあまり確認できない。				
115 23	04039	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	土層検出用トレンチ北・西側トレンチ	磨製石鏃?	4.20	1.90	0.40		4.300	安山岩	磨製石鏃かと思われるが、風化により剥落が著しい。				
115 24	04022	Ⅱ	O	24	第Ⅱ面掘り下げ		磨製石鏃	4.10	1.70	0.35		3.800	頁岩	脚付の有茎式磨製石鏃かと思われるが、脚部・茎ともに根元の部分しか残っていない。				
115 25	04102	Ⅱ	N	30	第Ⅱ面掘り下げ		磨製石鏃	9.95	2.80	0.55		17.500	頁岩	ほぼ完形。大型の有茎式磨製石鏃。風化により研磨痕は認められない。				
115 26	04124	Ⅱ	N	23	第Ⅱ面掘り下げ		石剣	5.30	3.00	0.70		20.100	頁岩	風化が剥げしく、研磨面が剥落している。				
115 27	04035	Ⅱ	P	29	第Ⅱ面掘り下げ		石剣	3.60	3.30	0.70		11.600	頁岩	先端部・基部欠損。中央に表裏とも稜をなす。風化が激しい。				
115 28	04105	Ⅱ	P	31	第Ⅱ面掘り下げ		石剣	3.30	3.50	0.70		9.900	頁岩	全面研磨され、中央に鎬をつくり出している。				
115 29	04148	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ		石剣	11.60	3.60	1.50		66.200	頁岩	表裏とも鎬を有する。丁寧に研磨されている。柄は欠損している。				
117 32	04075	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	住居跡	扁平片刃石斧	5.60	1.60	0.70		11.600	頁岩	ほぼ全面に丁寧な研磨痕。				
117 33	04073	Ⅱ	P	23	第Ⅱ面掘り下げ		扁平片刃石斧	6.00	2.75	0.80		26.900	珪質頁岩	丁寧な研磨。はく離した部分も研磨している。				
117 34	04115	Ⅱ	Q	27	第Ⅱ面掘り下げ	溝−01	方柱状片刃石斧	6.10	1.65	1.30		24.300	頁岩	全面研磨されており、光沢がある。刃部は左側の使用がはげしい。				
117 35	04048	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	北拡張区耕作土下黒粘土内	扁平片刃石斧	6.75	1.95	0.90		24.300	頁岩	剥離した部分もわずかに研磨が施されている。				
117 36	04149	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	不明	扁平片刃石斧	8.10	2.10	1.10		44.100	珪質頁岩	ほぼ完形。全面に丁寧な研磨が施されている。				
117 37	04037	Ⅱ	O	30	第Ⅱ面掘り下げ		扁平片刃石斧	5.20	.20	0.70		19.600	珪質頁岩	刃部左側欠損。				
117 38	04041	Ⅱ	P	26	第Ⅱ面掘り下げ		扁平片刃石斧	3.60	4.00	1.30		28.500	珪質頁岩	基部のみ。				
117 39	04111	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ		方柱状片刃石斧	6.40	1.90	2.40		49.900	頁岩	全面研磨しているが充分ではなく、敲打痕、剥離が残る。				
117 40	04085	Ⅱ	O	23	第Ⅱ面掘り下げ		方柱状片刃石斧	6.75	3.70	2.55		85.000	頁岩	研磨面は表面に一部残すのみで他は剥離されている。				
117 41	04055	Ⅱ	P	28	第Ⅱ面掘り下げ		扁平片刃石斧	5.00	4.40	2.10		77.900	砂岩	基部のみ。				
119 42	04047	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	北拡張区耕作土下黒粘土内	方柱状片刃石斧	15.20	2.80	4.80		281.000	頁岩	表面は研磨され平坦面をもつが、裏面は丸みを帯びる。				

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	石器の法量と特徴							木器の特徴			
挿図番号							器種	法量(cm・g)					石材	備考	種類	木取り	樹種	備考
								長さ	幅	厚さ	孔径	重さ						
119 43	04110	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下		方柱状片刃石斧	9.80	2.75	4.00		142.100	粘板岩	表面のみ研磨されている。破損度がひどい。				
119 44	04107	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	北拡張区耕作土下Ⅰ	方柱状片刃石斧	9.20	2.95	3.40		164.000	頁岩	表面刃部と裏面のみ丁寧に研磨されている。				
119 45	04132	Ⅱ	O	31	第Ⅱ面掘り下げ		方柱状片刃石斧	9.60	3.10	3.80		167.300	ホルンフェルス	基部欠損。表面及び裏面の刃部は研磨が顕著である。				
121 46	04095	Ⅱ	Q	25	第Ⅱ面掘り下げ		磨製石斧	15.60	7.00	5.00		929.700	玄武岩	断面は楕円形。刃部欠損。基部は敲打痕のままである。				
121 47	04130	Ⅱ	O	31	第Ⅱ面掘り下げ		磨製石斧	14.90	8.40	4.20		1008.900	玄武岩	研磨は充分ではなく、敲打・剥離面残す。				
121 48	04003	Ⅱ	R	24	第Ⅱ面掘り下げ		磨製石斧	5.70	3.90	2.10		62.900	頁岩	小型、刃部欠損				
121 49	04066	Ⅱ	P	27	第Ⅱ面掘り下げ		磨製石斧	6.60	3.65	3.90		98.700	玄武岩	大幅に欠損。先端部左側のみ残存。				
121 50	04081	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	住居跡	磨製石斧	8.00	5.85	4.05		294.000	玄武岩	全面研磨されてはいるが、剥離を敲打痕浅く残す。				
121 51	04060	Ⅱ	R	25	第Ⅱ面掘り下げ		磨製石斧	9.10	6.30	2.60		250.500	頁岩	正面の大きな面のリングは欠損面を見ると、石の目が横に入っているので、フィッシャーではないと思われたので上からリングをかきました。				
121 52	04014	Ⅱ	O	25	第Ⅱ面掘り下げ		磨製石斧	7.00	6.10	2.80		150.200	安山岩	刃部大幅に欠損している。研磨痕は明確にはみえない。				
123 53	04077	Ⅱ	O	23	第Ⅱ面掘り下げ		(手持ち)砥石	11.30	5.40	5.20		312.600	砂岩	敲打により整形した楕円形の礫の表、裏面下部を砥石として使用。				
123 54	04042	Ⅱ	P	26	第Ⅱ面掘り下げ		砥石	4.50	1.90	1.10		15.000	砂岩	下半分にかけて細くなっている。上部欠損。				
123 55	04007	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ		砥石	6.30	1.20	0.80		9.100	頁岩	全面を使用しており、表面は滑らか。				
123 56	04076	Ⅱ	N	27	第Ⅱ面掘り下げ		砥石	6.65	1.50	1.80		30.700	頁岩	全面を砥面としている。全面ともやや外湾している。				
123 57	04106	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	北拡張区耕作土下Ⅰ	砥石	6.00	2.85	1.90		63.500	粘板岩	下部を欠損。表面および側面を使用。使用面は滑らか。				
123 58	04024	Ⅱ	O	27	第Ⅱ面掘り下げ		砥石	5.10	3.20	1.80		40.400	泥岩	両端が欠損。裏面の研磨が顕著。				
123 59	04034	Ⅱ	N	27	第Ⅱ面掘り下げ		砥石	7.00	1.90	0.70		15.200	頁岩	全面砥面としている。両側面上方に、溝状の研磨痕あり。表面は横方向に裏面は縦方向に浅い凹みとなる。				
123 60	04087	Ⅱ	Q	27	第Ⅱ面掘り下げ		(手持ち)砥石	7.40	4.80	4.20		187.700	凝灰質砂岩	下部に敲打痕が残る。				
123 61	04122	Ⅱ	R	24	第Ⅱ面掘り下げ		石斧未製品	12.5	8.15	2.30		404.900	玄武岩	大幅に欠損している。				
123 62	04369	Ⅱ	Q	27	第Ⅱ面掘り下げ		管玉	1.37			0.60	0.070		正円でない。うすい灰緑色。				
124 63	04002	Ⅱ	N	30	第Ⅱ面掘り下げ		紡錘車	5.40	5.40	0.70		35.700	結晶片岩	中央に両面から穿つ孔を有する。ほぼ全面を研磨。				
124 64	04051	Ⅱ	P	28	第Ⅱ面掘り下げ		紡錘車	3.40	5.60	0.50		13.000	頁岩	下半分欠損。裏面はく落あり。中央に孔が穿たれる。全面研磨。				
124 65	04123	Ⅱ	P	24	第Ⅱ面掘り下げ		紡錘車	2.50	4.70	0.80		11.300	結晶片岩	下半分欠損。裏面はほとんどはく落している。中央に孔が穿たれる。全面に荒い研磨痕。				
124 66	04086	Ⅱ	P	31	第Ⅱ面掘り下げ		紡錘車	2.60	4.70	0.50		9.600	結晶片岩	下半分欠損。中央に孔が穿たれる。全面研磨。方向不明瞭。				
124 67	04093	Ⅱ	Q	25	第Ⅱ面掘り下げ		紡錘車	2.30	4.00	0.60		10.100	結晶片岩	下半分欠損。中央に両側から穿たれた孔。全面研磨。				
124 68	04104	Ⅱ	N	23	第Ⅱ面掘り下げ		スクレイパー	7.60	5.40	0.50		29.800	頁岩	欠損なし。表面茎部。茎部等に剥離がある。裏面は不明瞭。				
124 69	04063	Ⅱ	P	23	第Ⅱ面掘り下げ		垂飾品	3.30	2.50	0.30		3.200	結晶片岩	裏面は剥落がはげしく、原形が残っている部分はほとんどないと思われる。				
124 70	04062	Ⅱ	P	23	第Ⅱ面掘り下げ		石材	6.20	3.20	0.80		21.300	滑石片岩	表面のみ使用。裏面に新しい剥離あり。				
133 23	04049	Ⅲ	O·P	29	SC−07	埋土上	砥石	3.50	1.95	1.90		15.800	砂岩	全面を砥面とし、投弾状の小型の砥石。下端欠損。				
136 10	04090	Ⅲ	N·O	26	SC−08	上	磨製石鏃	3.80	1.95	0.60		4.400	頁岩	先端部のみ欠損。全面に研磨が施されている。				
153 1	04059	Ⅲ	O	27	SK−001		方柱状片刃石斧	5.80	4.30	3.00		131.700	蛇紋岩?	表面は敲打の後研磨するが、不明瞭。側面両面とも使用するが、剥離が多い。				
153 2	04169	Ⅲ	O	27	SK−001		石包丁	6.00	7.40	0.40		28.300	頁岩	刃部のみ残存。全面に研磨が施されているが、風化している。				
153 3	04170	Ⅲ	O	27	SK−001		石包丁	4.95	9.00	0.70		42.900	頁岩	刃部先端のみ残存。刃部は両面から作り出されている				
158 36	04143	Ⅲ	O	27	SK−002		打製石鏃	1.90	1.10	0.35		0.500	黒曜石	両面に剥片面を残す。平基無茎。				
160 12	04008	Ⅲ	Q	27	SK−006		凹石	12.70	11.60	8.80		2028.000	内緑岩	大型の凹石。中心部付近に広範囲の浅い敲打痕が認められる。				
166 81	04006	Ⅲ	O·P	26	SK−007		石剣	5.00	4.00	0.55		17.200	粘板岩	先端部欠損。研磨は充分ではない。				
176 23	04168	Ⅲ	P	26	SK−011	ベルト	砥石	4.20	3.20	2.60		29.200	軽石	上半分欠損。表裏面、下面を使用。				
176 24	04133	Ⅲ	P	26	SK−011		打製石鏃	1.45	1.20	0.35		0.400	黒曜石	両面に剥片面を多く残す。平基無茎。				
179 15	04164	Ⅲ	Q	26	SK−014		石材	6.70	6.30	4.45		211.100	黒曜石	全面にわたって剥離しているが、風化が著しい。				
180 18	04009	Ⅲ	Q	27	SK−015		垂飾品	6.50	4.00	0.80		34.000	結晶片岩	穿孔途中のものあり。欠損している。両面に線条痕あり。				
194 9	04031	Ⅲ	O	26·27	SK−018		磨製石鏃	4.00	1.95	0.60		4.900	粘板岩	有茎式磨製石鏃。				
194 10	04171	Ⅲ	O	26·27	SK−018		扁平片刃石斧	6.00	1.40	2.30		16.100	頁岩	刃部はレの字状をなす。大幅に欠損している。				
194 11	04172	Ⅲ	O	26·27	SK−018−③	01	磨製石斧	8.65	8.00	4.05		255.200	頁岩	全面を丁寧に研磨しているが破損が激しく、刃部のみ残存。				
194 12	04010	Ⅲ	O	26·27	SK−018	埋土中一括	砥石	6.60	2.65	2.35		57.800	砂岩	上部欠損。棒状を呈する。使用は全周に及ぶ。				
205 9	04011	Ⅲ	O·P	25	SK−055		打製石鏃	2.70	1.25	0.35		0.900	黒曜石	両面に剥離面を多く残す。平基無茎。				
212 64	04182	Ⅲ	P	27	SK−041	中心部まとまり	磨製石斧	7.60	6.80	3.45		207.400	頁岩	基部欠損。丁寧な研磨を施している。断面形は楕円形を呈する。				

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	石器の法量と特徴							木器の特徴			
挿図番号							器種	法量(cm・g)					石材	備考	種類	木取り	樹種	備考
								長さ	幅	厚さ	孔径	重さ						
215 23	04174	Ⅲ	Q	27	SK−070	まとまり	磨製石斧	13.20	5.50	4.10		431.100	頁岩	剥離痕、敲打痕を多く残し、左半分欠損している。研磨は縦方向中央部のみ丁寧に行われている。				
215 24	04173	Ⅲ	Q	27	SK−070	まとまり	磨石	6.70	2.80	2.10		43.700	結晶片岩	左半分以上欠損。扁平な円礫と思われる。全面磨耗。				
218 19	04001	Ⅲ	Q	26	SK−071-②	まとまり	磨製石斧	6.15	6.20	3.10		187.400	玄武岩	基部残存。裏面欠損している。				
220 10	04012	Ⅲ	Q	26	SK−072		紡錘車	3.90	3.90	0.70		18.100	結晶片岩	中央に両面から穿たれた孔。全面研磨。				
226 4	04078	Ⅲ	O	31	SK−085	まとまり	砥石	5.50	7.75	5.20		268.400	砂岩	多角形の砥石。正面と右側面に溝状の研磨痕あり。				
228 3	04162	Ⅲ	O	30	SK−091		磨製石斧	11.30	8.20	4.25		530.500	玄武岩	大幅に欠損。研磨面はわずかである。				
234 45	04038	Ⅲ	O	29	SK−124	南	磨製石鏃	6.50	1.10	0.60		3.700	頁岩	基部欠損。全体的に丁寧な研磨が施されている。				
234 46	04043	Ⅲ	O	29	SK−124	南	打製石鏃	5.25	2.55	0.70		6.900	ガラス質安山岩	両面に剥片面を残す。平基無茎。				
241 34	04103	Ⅲ	O	29	SK−125	まとまり①	石包丁	5.45	6.60	0.50		28.800	頁岩	基部のみ残存。孔は片面から穿たれており、全体的に研磨が施されている。				
241 35	04181	Ⅲ	O	29	SK−125	まとまり①	磨製石斧	7.60	6.20	3.55		212.300	玄武岩	丁寧に研磨されているが欠損が多い。断面は楕円形を思われる。				
241 36	04141	Ⅲ	O	29	SK−125	まとまり①	打製石鏃	3.05	2.30	0.50		2.000	黒曜石	両面に多くの剥片面を残す。				
241 37	04179	Ⅲ	O	29	SK−125	まとまり①	磨石	6.25	5.60	5.00		259.600	石英斑岩?	上部に使用によると思われる稜をもつ。破損部に敲打痕みられる。				
244 26	04165	Ⅲ	O	31	SK−162		砥石	7.10	2.55	1.60		49.900	砂岩	下部欠損。上部、両側面敲打痕あり。表面下半部使用頻度高い。				
253 10	04045	Ⅲ	N	30･31	SK−219		磨製石斧	4.80	6.50	1.60		75.000	玄武岩	刃部、基部とも大幅に欠損。				
253 11	04046	Ⅲ	N	30･31	SK−219		石鏃	625.00	11.00	1.40		135.400	頁岩	基部欠損。背面はつくられていない。両面研磨されているが、調整痕残る。				
267 7	04178	Ⅲ	P	32	SP−0097		磨製石斧	9.70	8.40	3.35		408.900	粘板岩	裏面大幅に欠損。				
267 8	04119	Ⅲ	P	32	SP−0097		方柱状片刃石斧	7.10	2.80	3.00		102.600	頁岩	裏面の研磨が顕著。先端部に刃こぼれ。				
267 9	04177	Ⅲ	P	32	SP−0097		砥石	7.60	6.90	1.90		78.400	頁岩	2面を砥石として使用。				
271 4	04183	Ⅲ			SP−0002		石剣	4.40	3.00	0.70		9.800	頁岩	裏面ははげ落ち、表面のみ残存する。石剣の一部。				
271 22	04175	Ⅲ	P	33	SP−0090		石棒状石器	5.50	2.90	2.50		50.100	砂岩	下部破損。頭頂部は敲打により平坦面を使い出している。				
272 37	04176	Ⅲ	P	33	SP−0176		たたき石	5.80	5.20	4.10		200.000	玄武岩	円偏礫の円周を使用。				
	第１０次調査出土　　木製品																	
23 1	90002	Ⅰ			水田										杓子形			杓子であろうか。柄は長く、身部の幅は狭い。ケズリ痕が顕著に残る。柄部は面取りされる。身の端部はそれ程薄くはなく、外形のラインに沿って両面とも明瞭に稜が残る。
23 2	90003	Ⅰ			水田										雑具部材			用途不明品。雑具類だと思われる。幅10.3cm、厚さ3.5～1.5cm、残存長36.7cmの板状で、短片の一端は真っすぐ且つ垂直に落ちる形状、もう一端の外形ラインは丸く弧を描いている。欠損している為弧の延長線がどのようになるか不明である。長辺は一方の側が厚さ3.5cmを持ち、一方は端より約3cm手前から徐々に斜めにけずり落とされ1.5cmの厚さとなる。その側面の一箇所に幅3.7cm、高さ1.1cm、深さ3.5cmの穴が削りにより作られる。穴はけずりにより平滑な面をなすが奥はけずり残しのための凹凸がある。表裏面ともに連続したケズリ痕がよく残る。　ケズリの幅は通っている柾目に影響されている。
23 3	90011	Ⅰ			水田										竪櫛			乾燥のため変形している。出土時の写真では外形のラインはもう少し丸みがあったようだ。また図上では歯が末広がりになっているが、それは上端部の細みと歯間に詰まった土の為であろう。(現場でパインダー処理されており土を取り除くことは不可能。)
23 4	90001	Ⅰ			水田										下駄			小児用と思われる。前方の鼻緒孔は幅の中央にあり、左右どちらの下駄かは不明である。後歯は片方が磨耗して磨り減っている。歩行時の磨り減りだと思われるが、歯の磨耗の割りには鼻緒孔周囲の緒ずれが見られないか。縦断面で後方鼻緒孔が斜めに通っているのはケズリにより本来付けられた角度である。表面は平滑に仕上げられる。歯の片側だけが磨り減っているので、歩き方に癖があったのだろう。
24 5	90012	Ⅰ			水田										鎌柄?			側面を貫通する溝状の孔を持つことより鎌柄か。全体的に丁寧なつくり。表面滑らか。径3㎜の小孔が2箇所、錐による穿孔か、ほぼ垂直で周囲にはひび割れなどはない。
43 12	90005	Ⅰ	Q	25	SE−01										コマ形			用途不明品。全面細かいケズリ成形である。中心から欠損した木錘を端部をけずって再利用したとも考えられるが、他の木錘に比べてもかなり小さく、また側面全体にわたってきれいにけずられていること等、ややその特徴が異なる。全く別の用途を考えるか、小形でやや精製の木錘の再加工品とするか。ケズリ痕は明瞭に残る。
48 4	90004	Ⅰ	P	24	SE−02										雑具部材	柾目	針葉樹	厚さ1.4cm程の平滑な板材に仕上げ、一辺に切れ込み(おそらく装飾であろうか)をいれている。表裏面にはおそらくヤリガンナでけずったと思われるケズリ痕が見える。
207 18	90008	Ⅰ			SK−039	注)Fig.205に出土遺物あり									柱根	芯抜き	針葉樹	底面は平坦になるようケズリ。底部から上に8cmのところでケズリにより段を作り径を細くする。
207 19	90007	Ⅰ			SK−04	注)Fig.205に出土遺物あり									柱根	芯抜き	針葉樹	底面は平坦になるようケズリ。
272 38	90010	Ⅰ			SP−0131										柱根	芯抜き	広葉樹	横断面は楕円形である。鉄分が錆び付き硬く表面を覆っている。
273 39	90009	Ⅰ			SP−0113										柱根	芯持ち	広葉樹	底面中央をやや凸型にケズリ。腐蝕のためケズリ痕見にくい。
273 40	90006	Ⅰ			第Ⅱ面掘り下げ	NO−え−1									柱根	芯持ち	広葉樹	底面中央をやや凸型にケズリ。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	金属器・ガラス玉・骨角器の法量と特徴								自然遺物(炭化米/種子/貝類/骨類)の法量と特徴						
挿図番号							種類	法量(cm・g)					色調	材質	備考	種類	種名	部位名	左右	残存状況	点数	備考・計測値
								長さ	幅/径	厚さ/孔径	重さ	比重										
66 10	06001	Ⅱ	N~R	22~24	SJ−01		袋状鉄斧	11.60	4.60	2.60	170.000											
126 1	06003	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ		貨泉		2.20	0.90×0.85	1.600											
126 2	06002	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ		青銅製鋤先	6.50	8.80	1.30	112.148											
未掲載	06004	Ⅱ	N	30	第Ⅱ面掘り下げ		銭															
34 34	03099	Ⅱ	O	28	SC−01		不明品	3.90	0.80	0.65	2.201			鹿の中手骨または中足骨	黒色。断面三角形の棒状を呈す。両端を欠損。三面中一面に縦方向の溝を有すが、これは骨の内側が残存したためで、素材の持つ自然のものである。	骨						

報告書		遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	金属器・ガラス玉・骨角器の法量と特徴								自然遺物（炭化米/種子/貝類/骨類）の法量と特徴						
挿図番号	登録番号						種類	法量(cm・g)					色調	材質	備考	種類	種名	部位名	左右	残存状況	点数	備考・計測値
								長さ	幅/径	厚さ/孔径	重さ	比重										
34 35	03058	Ⅱ	R	28	SC−01	西側	弓弭	3.70	1.25	1.20	2.073			鹿の角	先端は欠損。先を砥石のようなもので研磨する。	角	シカ	鹿角			1	
169 12	03098	Ⅲ	P	26	SK−008		不明品	3.70	1.05	0.45	2.815			サメの歯	サメはアオザメタイプ。黒色、光沢あり。歯根部両面を丁寧に研磨。	歯	サメ類	歯			1	加工品。
228 15	03223	Ⅲ	N	28	SK−122		刺突具	4.70	1.00	0.55	3.285			鹿の角	断面楕円形状に近い棒状を呈す。全面剥離。先端は摩滅。骨鏃またはヤスと想定。	角	シカ	鹿角		破片	1	加工品
234 47	03056	Ⅲ	O	29	SK−124	北	不明品	2.30	0.70	0.30	0.608			イノシシの犬歯？	白色（被熱のため）扁平棒状に加工し、一端を細く呈する。穿孔を等間隔に三点以上、両側から施す。漆は素材の持つ自然のもの。	歯	イノシシ	歯		犬歯?破片	1	被熱あり。加工品
	第10次調査出土 自然遺物																					
12	05010	Ⅰ	P	27	水田	A−1										種子						
12	03212	Ⅰ			水田	D−1トレンチ										骨						
12	03214	Ⅰ			水田	D−2										骨						
12	03213	Ⅰ			水田	D−2トレンチ										骨						
12	03215	Ⅰ			水田	D−3										歯						
12	03213が見当たらない パソコン上ではD3213	Ⅰ	PR	31〜33	水田	耕作土Ⅲ面										骨	イノシシ	距骨	右		1	成獣。
12	03211	Ⅰ	PR	31〜33	水田	耕作土下Ⅱ面										骨						
12	03214が見当たらない パソコン上ではD3214	Ⅰ	PR	31〜33	水田	耕作土下Ⅱ面										骨	イノシシ	寛骨	右	寛骨臼	1	成獣。
12	03198	Ⅰ			水田?	北拡張区耕下Ⅰ										骨	陸獣	不明		破片	5	
12	03199	Ⅰ			水田?	北拡張区耕下Ⅱ										骨	シカ	第二頚椎			1	成獣。
12	03197	Ⅰ			水田?	北拡張区黒粘中										骨	陸獣	不明		破片	3	
25	03171	Ⅰ	P	27	第Ⅰ面掘り下げ	No.05										歯	サメ類	歯			1	アオザメタイプ。
25	03171	Ⅰ	P	27	第Ⅰ面掘り下げ	No.05										歯	イノシシ	上顎遊離歯	右	M3	1	若獣。磨滅なし。M3長さ35.3,幅19.5。
25	03171	Ⅰ	P	27	第Ⅰ面掘り下げ	No.05										歯	イノシシ	上顎遊離歯	右	M3	1	計測不可。
25	03171	Ⅰ	P	27	第Ⅰ面掘り下げ	No.05										歯	イノシシ	下顎遊離歯	右	M3	1	M3長さ32.2±,幅—。
25	03189	Ⅰ	P	27·00	第Ⅰ面掘り下げ	No.12										骨	イノシシ	橈骨	右	近位	1	成獣。
25	03192	Ⅰ	P	27·00	第Ⅰ面掘り下げ	No.11										骨	イノシシ	橈骨	左	近位	1	成獣? 近位幅32.4, 近位前後径22.1。
25	03192	Ⅰ	P	27·00	第Ⅰ面掘り下げ	No.11										骨	イノシシ	距骨	左		1	成獣。
25	03192	Ⅰ	P	27	第Ⅰ面掘り下げ	No.11										骨	陸獣	不明		破片	3	
25	03194	Ⅰ			第Ⅰ面掘り下げ											骨	イノシシ	橈骨	右	近位	1	成獣?小型。近位幅28.1,近位前後径18.6。
25	03194	Ⅰ			第Ⅰ面掘り下げ											ほ	ヒト胎児	大腿骨	左		1	胎児。
30 a	05013	Ⅱ	O	28	SC−01	東側										炭化米						炭化米分析 済。
30 a	03196	Ⅱ	O	28	SC−01	東側										骨	陸獣	不明		破片	2	
30 a	03007	Ⅱ	P	28	SC−01	西側										歯	イノシシ	上顎遊離歯	左	M3	1	成獣。小型。M3長さ30.6,前幅17.8。
30 a	03008	Ⅱ	P	28	SC−01	西側										歯	イノシシ ♂	上顎遊離歯	左	犬歯	1	若獣。
30 a	03009	Ⅱ	P	28	SC−01	西側										歯	イノシシ ♂	上顎遊離歯	右	犬歯	1	成獣?
30 a	03083	Ⅱ	O	28	SC−01											骨	シカ	中手or中足骨		破片	2	
30 a	03083	Ⅱ	O	28	SC−01											骨	陸獣	不明		破片	2	
30 a	03176	Ⅱ	O	28	SC−01											骨	シカorイノシシ	肋骨		破片	1	
30	03095	Ⅱ	O	28	SC−01·02?											骨	イノシシ	腓骨		破片中間部	1	
30 b	03053	Ⅱ	O	28	SC−02											歯	サメ類	歯			2	アオザメタイプ。
30 b	03054	Ⅱ	O	28	SC−02											歯						
30 b	03084	Ⅱ	O	29	SC−02											歯	イノシシ	歯		破片	1	未出歯。
30 b	03084	Ⅱ	O	29	SC−02											骨	不明	不明		破片	5	
30 b	03085	Ⅱ	O	29	SC−02											骨	シカorイノシシ	腰椎		椎体のみ	1	亜成獣。
30 b	03086	Ⅱ	O	29	SC−02											骨	イノシシ	下顎破片		連合部	1	被熱あり。焼けて縮小。若?。
30 b	03086	Ⅱ	O	29	SC−02											骨	不明	椎骨			1	
30 b	05014	Ⅱ	O	28·29	SC−02											炭化米						炭化米分析 済。
50	03178	Ⅱ	P	23	SJ−01	おーホ										不明						
50	03217	Ⅱ	N~R	22~24	SJ−01	くーハの下										骨						
51	03216	Ⅱ	N~R	22~24	SJ−01	2面,えーホ										骨						
69	03188	Ⅱ	Q	32	SR−01	SP−0013										骨	イノシシ	中手or中足骨		破片	1	
77	03092	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02 下										歯	イノシシ	上顎遊離歯	左	M3	1	若獣。未出歯。計測不可。
77	03092	Ⅱ	O·P	28·29	第Ⅱ面掘り下げ	SC−01·02 下										骨	不明	不明		破片類	1	
84	03103	Ⅱ	O	30	第Ⅱ面掘り下げ	SC−05 下										骨	中型獣?	下顎破片	右		1	歯なし。
84	03087	Ⅱ	O	30	第Ⅱ面掘り下げ	SC−05 下										骨	イノシシ	脛骨		破片	1	
84	03104	Ⅱ	O	30	第Ⅱ面掘り下げ	SC−05 下										骨	イノシシ	基節骨	右		1	
84	03105	Ⅱ	O	30	第Ⅱ面掘り下げ	SC−05 下										骨	イノシシ	基節骨	?		1	
84	03105	Ⅱ	O	30	第Ⅱ面掘り下げ	SC−05 下										骨	陸獣	不明		破片	18	
89	03088	Ⅱ	N	30	第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下										骨	イヌ	上腕骨	左	遠位破片	1	成獣。関節部のみ。アイヌ犬より小型。
89	03088	Ⅱ	N	30	第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下										骨	シカ	中手or中足骨		遠位破片	1	
89	03088	Ⅱ	N	30	第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下										骨	陸獣	不明		破片	1	
89	03089	Ⅱ	N	30	第Ⅱ面掘り下げ	SC−06 下										歯	イノシシ	歯		破片	1	M3の後部破片。
95	03127	Ⅱ	P	32	第Ⅱ面掘り下げ	SG−03										骨	カメ類	不明		破片	1	小片の為、海ガメか陸ガメか、背甲か腹甲かも不明。
96	03100	Ⅱ	O	29	第Ⅱ面掘り下げ	SG−04										骨	陸獣	不明		破片	10	
96	03101	Ⅱ	O	29	第Ⅱ面掘り下げ	SG−04										骨						
96	03164	Ⅱ	N	29	第Ⅱ面掘り下げ	SG−04										歯	イノシシ	下顎遊離歯		P3	1	成獣。
100	03102	Ⅱ	O	29	第Ⅱ面掘り下げ	SG−07										骨	イノシシ ♂	下顎	左	(××××)I1〜C部分	1	成獣。歯なし。
100	03152	Ⅱ	O	29	第Ⅱ面掘り下げ	SG−07										骨	イノシシ	脛骨	左	中間〜遠位	1	成獣。
106	03132	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	SG−15										骨	シカ	中手or中足骨		遠位破片	1	成獣?
107	03001	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ											角	シカ	角		先端部	1	
107	03002	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ											骨	イノシシ	頭蓋骨	右	側頭骨破片	1	
107	03003	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ											骨	シカorイノシシ	腰椎			1	若獣。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	金属器・ガラス玉・骨角器の法量と特徴									自然遺物（炭化米/種子/貝類/骨類）の法量と特徴						
挿図番号							種類	法量（cm・g）				色調	材質	備考	種類	種名	部位名	左右	残存状況	点数	備考・計測値
								長さ	幅/径	厚さ/孔径	重さ	比重									
107	03004	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	イノシシ	頭蓋骨		後頭部	1	若獣。未癒着。
107	03005	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	シカ	下顎	右	(××××P2×M12)	1	成獣M2少し磨滅。
107	03006	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	イノシシ	頭蓋骨	右	後頭顆	1	大型。
107	03006	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	陸獣	不明		破片	1	
107	03059	Ⅱ	O	25	第Ⅱ面掘り下げ										歯	イノシシ	上顎遊離歯	左	M3	1	成獣。M3長さ31.6,幅—。
107	03094	Ⅱ	O	64	第Ⅱ面掘り下げ										骨	不明	不明		破片	少量	
107	03133	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	北拡張区西側土層検出用トレンチ北									骨	ニワトリ	上腕骨	左	中間	1	若獣?現代の白色レグホン♀より少し大型。保存状況から現代のもの。骨体の左右への湾曲も弱い。
107	03136	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	シカ	下顎	右	(P1～3)	1	成獣。
107	03136	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										角	シカ	角		破片	3	
107	03136	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	陸獣	不明		破片	10	
107	03136	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	陸獣	肋骨		破片	10	
107	03137	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	イノシシ	下顎	右	(M123)	1	成獣。
107	03139	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	イノシシ	下顎	右	(P4M1)	1	M1長さ18.8,前幅11.7,後幅11.7。
107	03139	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										歯	イノシシ	下顎遊離歯	右	I1	1	未出歯。
107	03141	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	イノシシ	大腿骨	右	中間～遠位	1	成獣。
107	03143	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	イノシシ	上腕骨	右	遠位	1	成獣。大型。
107	03143	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	イノシシ	肩甲骨	左		1	成獣。
107	03143	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	イノシシ ♀	頭蓋骨		頭頂骨、側頭骨左、後頭部	1	成獣。
107	03143	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	イノシシ ♀	上顎	左	(××××P4～M3)	1	成獣。M1長さ17.3,前幅13.0,後幅14.7,M2長さ20.5,前幅15.4,後幅17.0,M3長さ32.9,前幅20.1.
107	03144	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	P—え									骨	イノシシ	上顎	左	(×××)P234に相当	1	3144亜成獣と同一か?
107	03144	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	イノシシ	上顎	左	(M12)	1	成獣?。大型。M1長さ16.9±,M2長さ25.3±。
107	03144	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										歯	イノシシ	上顎遊離歯	左	M3	1	亜成獣。M3長さ39.4。
107	03144	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	イノシシ	下顎	左	(M23)	1	成獣。大型。M2—,M3長さ37.1,前幅17.3。
107	03144	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	イノシシ ♂	上顎	右	(××××P4～M3)	1	亜成獣。M1長さ18.3,前幅—,後幅—,M2長さ23.4,前幅19.9,後幅18.3,M3—。
107	03144	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	イノシシ ♂	上顎	左	M12(M3)	1	亜成獣。M1長さ18.3,前幅15.1±,後幅14.7,M2長さ24.4,前幅19.4,後幅18.4,M3長さ—,前幅23.6±。
107	03145	Ⅱ	N	30	第Ⅱ面掘り下げ										骨	イノシシ	頭蓋骨		1個体分	1	
107	03145	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	イノシシ	上顎	左	(×P4～M3)	1	
107	03145	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										歯	イノシシ	下顎遊離歯	右	M3	1	成獣直後。M3長さ35.3,前幅15.2
107	03145	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	イノシシ ♀	上顎	右	(P1～M3)	1	亜成獣。P1は歯根のみ。M1長さ16.0,前幅12.8,後幅13.4,M2長さ20.5,前幅17.2,後幅17.1,M3長さ34.9±,19.7
107	03150	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	南東隅掘下げ									骨	シカ	第一頚椎			1	成獣。
107	03151	Ⅱ	O	27	第Ⅱ面掘り下げ										骨	イノシシ	第一頚椎			1	成獣?
107	03151	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										歯	イノシシ	上顎遊離歯	右	M2	1	若獣。磨滅なし。M2長さ18.7,前幅14.4,後幅14.9。菱形にゆがむ。
107	03154	Ⅱ	D	28	第Ⅱ面掘り下げ										骨	シカ	距骨	右		1	成獣。
107	03155	Ⅱ	N	31	第Ⅱ面掘り下げ	土器かたまり No.31・32									骨	シカ	中手or中足骨		遠位破片	1	
107	03155	Ⅱ	N	31	第Ⅱ面掘り下げ	土器かたまり No.31・32									骨	陸獣	不明		破片	1	
107	03159	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	北拡張区青上									骨	イノシシ	第一頚椎		破片	1	
107	03159	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	イノシシ	大腿骨	右	中間	1	
107	03159	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	イノシシ	大腿骨	右	中間	1	
107	03159	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	イノシシ	頭蓋骨	左	切歯骨	1	歯なし。
107	03159	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	イノシシ	第一頚椎		破片	1	
107	03159	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	イノシシ	下顎	右	(×××C)	1	成獣?犬歯は歯根のみ。
107	03159	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	シカ	距骨	右		1	成獣。
107	03159	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	シカ	距骨	右		1	
107	03159	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	陸獣	不明		破片	10	
107	03159	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	不明	尺骨	右	中間	1	
107	03159	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	イノシシ ♀?	下顎	右	(×××C)破片	1	成獣?
107	03159	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	イノシシ ♀?	下顎	左	(×××)I23C部分	1	成獣?
107	03162	Ⅱ	N	31	第Ⅱ面掘り下げ	土器かたまり No.31・32									骨	イノシシ	上腕骨	左	中間	1	成獣?
107	03167	Ⅱ	P	27	第Ⅱ面掘り下げ										骨	シカorイノシシ	上腕骨	右	遠位	1	
107	03167	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	シカorイノシシ	不明		破片	1	
107	03167	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	ヒト胎児	大腿骨?	左右		1	胎児。3096より大きく、別個体である。
107	03170	Ⅱ	N	27	第Ⅱ面掘り下げ										骨	イノシシ	頭蓋骨	右	後頭顆	1	切痕あり。
107	03172	Ⅱ	O	31	第Ⅱ面掘り下げ										歯	イノシシ	上顎遊離歯	左?	M2	1	亜成獣。大型。M2長さ23.7,前幅22.2。ブタの可能性あり。
107	03172	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	陸獣	不明	破片		1	
107	03177	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	イノシシ	上腕骨	右	中間破片	1	下部にイヌの噛痕あり。
107	03184	Ⅱ	O	27	第Ⅱ面掘り下げ										歯	サメ類	歯			1	アオザメタイプ。基部にキザミあり。加工品か?
107	03193	Ⅱ	P	28	第Ⅱ面掘り下げ										骨	シカ	肩甲骨	右		1	成獣。関節部のみ。ト骨かどうか不明。
107	03200	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	北拡張区青上									骨	イノシシ	距骨	左		1	成獣。
107	03201	Ⅱ	P	33	第Ⅱ面掘り下げ	北拡張区うろこ穴の上付近									骨	シカ	肩甲骨	右		1	成獣。被熱あり。
107	03201	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	陸獣	不明		破片	5	
107	03202	Ⅱ	N・O	26・27	第Ⅱ面掘り下げ										骨	陸獣	不明		破片	1	
107	03203	Ⅱ	O	27	第Ⅱ面掘り下げ										骨	陸獣	不明		破片	3	
107	03204	Ⅱ	O	27	第Ⅱ面掘り下げ										骨	イノシシ	頭蓋骨		頭頂部破片	1	
107	03205	Ⅱ	O	27	第Ⅱ面掘り下げ										骨	イノシシ	頭蓋骨	左右	後頭部	1	亜成獣。
107	03206	Ⅱ	P	27	第Ⅱ面掘り下げ										骨	イノシシ	距骨	右		1	成獣。
107	03207	Ⅱ	P	28	第Ⅱ面掘り下げ										骨	シカ	距骨	左右		1	成獣。
107	03207	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	陸獣	不明		破片	1	
107	03208	Ⅱ	O	29	第Ⅱ面掘り下げ										骨	陸獣	不明		破片	2	
107	03209	Ⅱ	N	31	第Ⅱ面掘り下げ										骨	イノシシ	橈骨	右	近位	1	成獣。近位幅30.2±,近位前後径19.3±。
107	03210	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ										骨	イノシシ	距骨	左右		1	成獣。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	金属器・ガラス玉・骨角器の法量と特徴									自然遺物（炭化米/種子/貝類/骨類）の法量と特徴						
挿図番号							種類	法量（cm・g）					色調	材質	備考	種類	種名	部位名	左右	残存状況	点数	備考・計測値
								長さ	幅/径	厚さ/孔径	重さ	比重										
107	03211	Ⅱ	Q	24	第Ⅱ面掘り下げ											歯	イノシシ	上顎遊離歯	右	M3破片後部のみ	1	若獣?
107	03212	Ⅱ	Q	25	第Ⅱ面掘り下げ											骨	陸獣	不明		破片	1	
107	03218	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ											骨						
107	03219	Ⅱ	Q	27	第Ⅱ面掘り下げ											骨						
107	03220	Ⅱ	P・Q	32	第Ⅱ面掘り下げ											骨						
107	03221	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ											骨						
107	03222	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ											骨						
107	05012	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ											種子						
107	05022	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	南東隅掘下げ										種子						
107	05023	Ⅱ			第Ⅱ面掘り下げ	南端										種子						
107	05024	Ⅱ	O	27	第Ⅱ面掘り下げ											貝類						
131	03090	Ⅲ	O	29	SC−07											歯	イノシシ	上顎遊離歯	右	M3	1	若獣。磨滅なし。M3長さ34.0,幅—。
131	03090	Ⅲ	O	29	SC−07											歯	イノシシ	臼歯		破片	1	
131	03091	Ⅲ	O	29	SC−07											骨	イノシシ	下顎破片		連合部破片	1	
131	03091	Ⅲ	O	29	SC−07											骨	イノシシ	頭蓋骨		前頭骨破片	1	
138	概報	Ⅲ	N	25	SN−03											骨	ヒト					乳児（生後0〜6月）。
144	03107	Ⅲ	P	29	SA−01											骨	不明	不明			10	
144	概報	Ⅲ	P	28	SA−01											骨	ヒト					生後1〜2年の幼児骨。
149	概報	Ⅲ	O	27	SH−01											骨	ヒト ♂					熟年。
150 a	05018	Ⅲ	Q	24	SK−020	Ⅰ										炭化米						炭化米分析 済。
150 a	05019	Ⅲ	Q	24	SK−020	Ⅱ										炭化米						炭化米分析 済。
150 a	05020	Ⅲ	Q	24	SK−020	Ⅲ										炭化米						炭化米分析 済。
150 a	05021	Ⅲ	Q	24	SK−020	Ⅳ										炭化米						炭化米分析 済。
150 a	05017	Ⅲ	Q	24	SK−020											炭化米						炭化米分析 済。
150 b	03153	Ⅲ	O	27	SK−033											骨	イノシシ	肩甲骨	右		1	成獣?ト骨かどうか不明。
150 c	03075	Ⅲ	O	28	SK−115											骨	不明	不明			7	
150 d	03080	Ⅲ	Q	25	SK−148											骨	ウミガメ類	甲羅		破片	1	背甲か腹甲か不明。
150 e	03168	Ⅲ	P	25	SK−149											骨	イノシシ	下顎	右	(×m4M12)	1	若獣M1長さ17.1±,前幅—後幅—,M2長さ17.5,前幅13.5,後幅13.7。小型。
150 f	03142	Ⅲ	O	28	SK−222	まとまり										歯	クロダイ	歯骨	右		1	
150 f	03142	Ⅲ	O	28	SK−222	まとまり										骨	スッポン	大腿骨	右		1	小型。
150 f	03142	Ⅲ	O	28	SK−222	まとまり										骨	イノシシ	距骨	左		1	成獣?
150 f	03142	Ⅲ	O	28	SK−222	まとまり										歯	イノシシ	上顎遊離歯		大歯?	1	小型。
150 f	03142	Ⅲ	O	28	SK−222	まとまり										骨	陸獣	不明		破片	4	
150 f	03142	Ⅲ	O	28	SK−222	まとまり										骨	イノシシ ♀	上顎	右	(×P1〜P3)	1	成獣。少し磨滅。
150 g	03119	Ⅲ	Q	33	SP−0027											骨	陸獣			破片	1	イノシシの頭蓋骨破片か?
150 h	03120	Ⅲ	O	32	SP−0035											歯	イノシシ	上顎遊離歯	右	M2	1	成獣?M2長さ15.5±,幅14.7,後14.0±。
150 i	03122	Ⅲ	O	32	SP−0060											骨	イノシシ	下顎		破片	1	M1?の破片あり。
150 j	03156	Ⅲ	N	32	SP−0070											骨	シカ	中手骨	左	近位	1	成獣。
150 j	03156	Ⅲ	N	32	SP−0070											骨	シカ	橈骨	左	破片	1	
150 j	03156	Ⅲ	N	32	SP−0070											骨	ノウサギ	下顎	左		1	成獣。
150 k	03130	Ⅲ	O	32	SP−0150											骨	シカ	第一頚椎			1	
150 l	03169	Ⅲ			SP−0175											骨	カラス類	中手骨	左	完存	1	長さ56.7㎜。ハシブトガラスと同大。
150 l	03169	Ⅲ			SP−0175											骨	イノシシ	尺骨	左		1	成獣?
150 l	03169	Ⅲ			SP−0175											歯	イノシシ	上顎遊離歯	左	M2	1	成獣。磨滅少ない 計測不可。
150 m	03195	Ⅲ	Q	32	SP−0192											骨	シカ	踵骨	右		1	
152	03010	Ⅲ	O	27	SK−001											骨	クロダイ	前上顎骨	左		1	
152	03011	Ⅲ	O	27	SK−001											骨	クロダイ	前上顎骨	右		1	
152	03012	Ⅲ	O	27	SK−001											骨	クロダイ	主上顎骨	右		1	
152	03013	Ⅲ	O	27	SK−001											歯	イノシシ	下顎遊離歯	左	乳歯i2	1	
152	03041	Ⅲ	O	27	SK−001											骨	ウニ類	棘			3	
152	03042	Ⅲ	O	27	SK−001											骨	コチ科	歯骨	左		1	
152	03043	Ⅲ	O	27	SK−001											骨	カニ類	指節部			5	
152	03044	Ⅲ	O	27	SK−001											骨	カエル類	上腕骨	右		1	
152	03045	Ⅲ	O	27	SK−001											骨	カエル類	脛腓骨			1	
152	03046	Ⅲ	O	27	SK−001											骨	カエル類	大腿骨	右?		1	
152	03047	Ⅲ	O	27	SK−001											骨	カエル類	脛腓骨	左		1	
152	03048	Ⅲ	O	27	SK−001											骨	ナマズ	胸鰭棘	右		1	
152	03049	Ⅲ	O	27	SK−001																	
152	03050	Ⅲ	O	27	SK−001											骨	不明	椎骨		未同定	1	被熱あり。
152	03069	Ⅲ	O	27	SK−001											骨	不明	歯			1	
152	03070	Ⅲ	O	27	SK−001											骨	不明	不明		破片		少量。
152	03097	Ⅲ	O	27	SK−001											骨	イノシシ	頭蓋骨		頭頂骨	1	若獣ブタの可能性あり。
152	03097	Ⅲ	O	27	SK−001											骨	イノシシ	中手or中足骨			1	
152	03097	Ⅲ	O	27	SK−001											骨	シカorイノシシ	肋骨		破片	1	
152	05001	Ⅲ	O	27	SK−001											貝類						
152	05002	Ⅲ	O	27	SK−001											貝類						
152	05003	Ⅲ	O	27	SK−001											貝類						
152	05004	Ⅲ	O	27	SK−001											貝類						
152	05005	Ⅲ	O	27	SK−001											貝類						
156	03014	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	クロダイ	前上顎骨	右		1	3014〜3016は同一個体。
156	03015	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	クロダイ	主上顎骨	右		1	
156	03015	Ⅲ	O	27	SK−002											歯	イノシシ	臼歯		破片	3	1個分。
156	03016	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	クロダイ	歯骨	右		1	
156	03017	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	マダイ	主上顎骨	左	破片	1	
156	03018	Ⅲ	O	27	SK−002											貝類	巻貝	不明		破片	2	
156	03019	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	クロダイ	角骨	右		1	

報告書		遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	金属器・ガラス玉・骨角器の法量と特徴									自然遺物（炭化米/種子/貝類/骨類）の法量と特徴						
挿図番号	登録番号						種類	法量（cm・g）					色調	材質	備考	種類	種名	部位名	左右	残存状況	点数	備考・計測値
								長さ	幅/径	厚さ/孔径	重さ	比重										
156	03020	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	クロダイ	角骨	左		1	
156	03021	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	ウニ類	棘			10	
156	03022	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	カニ類	指節部			14	
156	03023	Ⅲ	O	27	SK−002											歯	イノシシ	上顎遊離歯	左	P4	1	成獣。大型。
156	03024	Ⅲ	O	27	SK−002											歯						
156	03025	Ⅲ	O	27	SK−002											歯	イノシシ	犬歯?		破片	1	
156	03026	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	ドブネズミ?	大腿骨	右		1	成獣。遠位端未骨化。保存状況から現代のもの。
156	03027	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	カエル類	上腕骨	右		1	
156	03027	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	カエル類	腓腸骨			1	
156	03027	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	カエル類	大腿骨			3	
156	03027	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	不明	不明		破片	10	
156	03028	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	コチ科	前上顎骨	右		1	
156	03029	Ⅲ	O	27	SK−002											骨						
156	03030	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	ナマズ	胸鰭棘	左		4	
156	03030	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	ナマズ	胸鰭棘	右		5	
156	03031	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	中型陸獣	不明		破片胸椎棘状突起	1	
156	03032	Ⅲ	O	27	SK−002											骨						
156	03033	Ⅲ	O	27	SK−002											骨						
156	03034	Ⅲ	O	27	SK−002											貝類	二枚貝	不明			2	被熱あり。
156	03035	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	不明	椎骨		破片	2	大型サカナ。
156	03036	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	タイ科?	椎骨			1	
156	03037	Ⅲ	O	27	SK−002											骨						
156	03038	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	サバ属	椎骨			1	
156	03039	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	コチ科	歯骨	右		1	
156	03040	Ⅲ	O	27	SK−002											骨						
156	03051	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	タイ科?	不明		破片歯	1	
156	03060	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	コチ科	主上顎骨	左		1	
156	03061	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	陸獣	肋骨		破片	2	
156	03061	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	不明	不明		破片	7	
156	03061	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	不明	不明		破片	少量	
156	03062	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	不明	歯			1	
156	03063	Ⅲ	O	27	SK−002											骨						
156	03064	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	アカニシ?	軸		破片	1	
156	03065	Ⅲ	O	27	SK−002											骨						
156	03066	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	ナマズ	擬鎖骨	左右		1	
156	03067	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	不明	不明		破片	少量	
156	03068	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	イノシシ	末節骨		破片	1	
156	03138	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	イノシシ	下顎	左	（P4～M3）	1	若獣M3第4咬頭まであり。枝の穴は不明。左右不明。カットマーク不明。M1長さ17.0,前幅-,後幅12.8,M2長さ22.5,前幅15.9,後幅15.2,M3長さ38.0±,前幅18.1。M2後ろ幅の方が小さい。
156	03140	Ⅲ	O	27	SK−002											骨	イノシシ	下顎	右	（M123）	1	成獣。下顎枝に孔あり（径18㎜）。M23の外側にカットマークあり。♂♀不明。M1長さ15.1±,前幅10.3後幅11.4,M2長さ18.2±,前幅13.9±,後幅14.9±,M3長さ計測不可,前幅14.7±。
156	05006	Ⅲ	O	27	SK−002											貝類						
156	05007	Ⅲ	O	27	SK−002											貝類						
156	05008	Ⅲ	O	27	SK−002											貝類						
156	05009	Ⅲ	O	27	SK−002											貝類						
156	05015	Ⅲ	O	27	SK−002											炭化米						炭化米分析 済。
161	03108	Ⅲ	O	27	SK−007											骨	陸獣	不明		破片	1	被熱あり。
161	03190	Ⅲ	O	27	SK−007											骨	陸獣	不明		破片	3	
172	03057	Ⅲ	O	27	SK−010											歯	サメ類	歯			1	アオザメタイプ。
177	03106	Ⅲ	O	27	SK−012											歯	イノシシ	上顎遊離歯	左	犬歯	1	成獣?
178	03055	Ⅲ	O	27	SK−014											歯	サメ類	歯			1	アオザメタイプ。
178	03161	Ⅲ	O	27	SK−014											骨・歯	イノシシ	歯			1	歯一個分の破片。
180	03071	Ⅲ	O	27	SK−015											骨・歯	イノシシ	上顎	右	（P3～M2）	1	若獣。P3長さ11.5,後幅9.0,P4長さ10.3,幅11.8㎜,M1長16.1,前幅12.0後幅12.0,M2長20.5,前幅15.6,後幅16.2.
180	03072	Ⅲ	O	27	SK−015											骨	イノシシ	頭蓋骨	右	側頭骨破片	1	
183	05016	Ⅲ	N	27	SK−016											炭化米						炭化米分析 済。
184	03096	Ⅲ	O	27	SK−018											骨	ヒト胎児	寛骨		腸骨	2	胎児。3096は同一個体。
184	03096	Ⅲ	O	27	SK−018											骨	ヒト胎児	寛骨		坐骨	2	胎児。3096は同一個体。
184	03096	Ⅲ	O	27	SK−018											骨	ヒト胎児	椎骨?			2	胎児。3096は同一個体。
184	03109	Ⅲ	O	27	SK−018											骨	イノシシ	中手or中足骨		破片	1	
184	03117	Ⅲ	O	27	SK−018											骨	ヒト胎児	寛骨	右		1	胎児。3096より少し大きい。
184	03117	Ⅲ	O	27	SK−018											骨	シカorイノシシ	不明		破片	2	
184	03165	Ⅲ	O	27	SK−018											骨	イノシシ	肩甲骨	左		2	若獣。ト骨かどうか不明。
184	03179	Ⅲ	O	27	SK−018											骨	ヘダイ	前上顎骨	左		1	
184	03191	Ⅲ	O	27	SK−018											骨	陸獣	不明		破片	1	
184	03135	Ⅲ	O	27	SK−018	埋土中一括										骨	イノシシ	基節骨		破片	1	
184	03166	Ⅲ	O	27	SK−018−①	89										骨						
184	03149	Ⅲ	O	27	SK−018−①	91										骨	イノシシ	肩甲骨	左		1	成獣。ト骨かどうか不明。
184	03160	Ⅲ	O	27	SK−018−①	92										骨	ヒト胎児	上腕骨左、寛骨左、大腿骨左、肥骨破片			1	胎児もしくは死産児。頭蓋骨破片も同一か?
184	03160	Ⅲ	O	27	SK−018−①	92										骨	ヒト胎児	頭蓋骨	破片		1	胎児もしくは死産児。
184	03160	Ⅲ	O	27	SK−018−①	92										骨	陸獣	不明		破片	3	
184	03115	Ⅲ	O	27	SK−018−①	95										骨	不明	不明		破片	3	
184	05011	Ⅲ	P	27	SK−018−②	30										種子						
184	03114	Ⅲ	O	27	SK−018−②	33										骨						
184	03147	Ⅲ	O	27	SK−018−②	71										骨	イノシシ	頭蓋骨	右	"前頭骨,涙骨"	1	成獣?
184	03163	Ⅲ	O	27	SK−018−③	77										骨	イノシシ	第二頚椎			1	成獣。
184	03163	Ⅲ	O	27	SK−018−③	77										骨	陸獣	不明		破片	2	

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	金属器・ガラス玉・骨角器の法量と特徴								自然遺物（炭化米/種子/貝類/骨類）の法量と特徴						
挿図番号							種類	法量（cm・g）					色調	材質	備考	種類	種名	部位名	左右	残存状況	点数	備考・計測値
								長さ	幅/径	厚さ/孔径	重さ	比重										
184	03175	Ⅲ	O	27	SK−018−③	77										骨						
184	03116	Ⅲ	O	27	SK−018−③	78										骨	不明	不明		破片	1	
184	03113	Ⅲ	O	27	SK−018−④	23										骨	カモ類	胸骨		破片	1	
184	03111	Ⅲ	O	27	SK−018−④	24										骨	陸獣	大腿骨		破片骨頭のみ	1	
184	03112	Ⅲ	O	27	SK−018−④	27										骨	イノシシ	尺骨	左		1	成獣?
184	03112	Ⅲ	O	27	SK−018−④	27										骨	陸獣	不明		破片	2	
198	03073	Ⅲ	N	29	SK−027											骨	イノシシ?	上腕骨	左		1	幼獣?
201	03180	Ⅲ	O	26	SK−037											骨	イノシシ	第一頸椎	右	破片	1	成獣。
203	03118	Ⅲ	P	26	SK−038	まとまり										骨	陸獣	大腿骨	破片		1	
208	03148	Ⅲ	P	27	SK−041	中心部まとまり										骨	イノシシ	脛骨		中間〜遠位	1	成獣。
208	03074	Ⅲ	P	27	SK−041											骨	イノシシ	距骨	右		1	成獣。
208	03074	Ⅲ	P	27	SK−041											骨	イノシシ	尺骨	左	近位	1	亜成獣。被熱あり。
217	03110	Ⅲ	Q	26	SK−071											骨	イノシシ	基節骨	右		1	成獣。
222	03134	Ⅲ	P	28	SK−080	まとまり①										骨	イノシシ	距骨	左		1	成獣?大型。
222	03134	Ⅲ	P	28	SK−080	まとまり①										骨	イノシシ	頭蓋骨	左	頬骨破片	1	大型。
222	03146	Ⅲ	P	27	SK−080	まとまり②										骨	イノシシ	脛骨	左	中間〜遠位	1	
222	03146	Ⅲ	P	27	SK−080	まとまり②										骨	イノシシ	上腕骨	左	中間〜遠位	1	成獣?
222	03173	Ⅲ	P	27	SK−080	まとまり②										骨	イノシシ	上顎	右	(×××)M123部分	1	歯はすべて脱落。
222	03173	Ⅲ	P	27	SK−080	まとまり②										骨	陸獣	不明		破片	1	
222	03181	Ⅲ	P	27	SK−080											骨	シカ	中手or中足骨		遠位破片	1	
228	03076	Ⅲ	N	29	SK−122											骨	シカ	中足骨	左	近位	1	成獣。
229	03077	Ⅲ	O	29	SK−124	南										骨	イノシシ	中手or中足骨			1	
229	03078	Ⅲ	O	29	SK−124	北										骨	イノシシ	下顎破片	左	関節突起	1	幼獣。
229	03078	Ⅲ	O	29	SK−124	北										骨	イノシシ	中手or中足骨		破片	1	幼獣。
229	03078	Ⅲ	O	29	SK−124	北										骨	陸獣	不明		破片	1	
229	03174	Ⅲ	O	29	SK−124	北										骨	イノシシ	第一頸椎			1	
229	03174	Ⅲ	O	29	SK−124	北										角	シカ	角		破片	1	
236	03052	Ⅲ	O	29	SK−125	まとまり①										骨	不明	不明		破片	1	
236	03185	Ⅲ	O	29	SK−125											骨	陸獣	不明		破片	1	
243	03079	Ⅲ	P	28	SK−133											骨	シカ	大腿骨	右	遠位	1	成獣。被熱あり。
244	03183	Ⅲ	O	31	SK−162	西										骨	陸獣	不明		破片	1	
245	03182	Ⅲ	O	31	SK−152											骨	陸獣	不明		破片	1	
250	03081	Ⅲ	P	31	SK−212											骨	イノシシ	寛骨	左	恥骨部	1	成獣。
250	03082	Ⅲ	P	31	SK−213											骨	陸獣	不明		破片	4	
250	03082	Ⅲ	P	31	SK−213											骨	ノウサギ	脛骨	右	遠位	1	切痕あり。小型。金属器による切断痕多い。
261 a	03124	Ⅲ	P	32	SP−0085											骨	陸獣	不明		破片	11	
261 a	03125	Ⅲ	P	32	SP−0085											角	シカ	角		破片	1	被熱あり。未加工。
261 a	03186	Ⅲ	P	32	SP−0085											骨	不明	上腕骨	左	遠位破片	1	
261 a	03093	Ⅲ	O	28	SP−0085											骨	シカ	脛骨	左	中間	1	成獣?
261 a	03128	Ⅲ	P	32	SP−0085											骨	シカorイノシシ	不明		破片	1	
261 b	03187	Ⅲ	P	32	SP−0097											骨	陸獣	不明		破片	2	
261 b	03126	Ⅲ	P	32	SP−0097	SP−0098										骨	陸獣	不明		破片	1	
261 b	03157	Ⅲ	P	32	SP−0097	SP−0129										骨	シカ	中足骨		中間部前面破片	1	
261 b	03158	Ⅲ	P	32	SP−0097	SP−0129										骨	イノシシ	中手or中足骨			1	
261 b	03158	Ⅲ	P	32	SP−0097	SP−0129										骨	陸獣	不明			1	
270	03129	Ⅲ	Q	32	SP−0136											骨	陸獣	不明		破片	1	
270	03131	Ⅲ	Q	32	SP−0136											骨	陸獣	不明		破片	1	
271	03121	Ⅲ	P	33	SP−0041											骨	不明	不明			1	
271	03123	Ⅲ	N	31	SP−0074											骨	陸獣	不明		破片	2	

第12次調査出土　土器・土製品

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器（土製品）の法量と特徴〈法量 上段:土器　下段:土製品〉											
挿図番号							器種		器高	口・脚受部径	最大径	底・脚脚高/径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
14 1	02638	Ⅰ	Y	24	水田（上面）	⑳	陶磁器	紅皿	1.50	(4.70)		1.60	乳白色?	乳白色?	精良	良好	型押し	有田焼か?	
14 2	02639	Ⅰ	V	26	水田（上面）	⑪SL01　川岸	土製品	漁錘	4.15	1.75	1.50								
14 3	02644		W	25	水田（上面）	⑰SL01　東川岸	土師器	鉢	6.60	(10.90)		1.30	白褐色	白褐色	径2mm程の石英・長石を含む	良好	指押さえ	ナデ	
14 4	02643	Ⅰ	W	25	水田（上面）	⑰SL01　東川岸	土師器	椀	3.40	(9.50)			暗褐色	暗褐色	径1mm程の長石を持つ。褐色粒子を持つ	良好	ナデ	ナデ	
14 5	02645	Ⅰ	W	25	水田（上面）	⑰SL01　東川岸	土師器	鉢	7.10	(12.70)			白褐色	白褐色	径2mm程の石英・長石を含む	良好	ナデ　下半はタタキ?の後にナデ	ナデ	
14 6	02646	Ⅰ	W	26	水田（上面）	②SL01　川岸	土師器	甕	3.30			10.60	赤褐色、黒褐色	黒褐色	径2mm程の石英・長石を多く含む。褐色粒子を持つ	良好	部分的にハケ目	ナデ	
14 7	02648	Ⅰ	R	31	水田（上面）	②SL01　川岸	須恵器	坏身					灰褐色	灰褐色	径1mm程の長石を含む	良好	回転ナデ　底部はヘラ切り	内底はナデ	
14 8	02660	Ⅰ			水田（上面）	水槽西側水田面	土師器	坏身					青灰色	青灰色	小片の長石を含む	良好	回転ナデ	回転ナデ	
14 9	02647	Ⅰ	T	29	水田（上面）	⑥SL01　川岸	須恵器	鉢					灰褐色	灰褐色	径1mm程の長石を少し含む	良好	回転ナデ	ナデ	
14 10	02636	Ⅰ	R	30	水田（上面）	トレンチ土器	須恵器	坏身	1.60			(8.20)	灰褐色	灰褐色	径0.5mm程の長石を含む	良好	外底は回転ヘラ切り	回転ナデ	
14 11	02637	Ⅰ	Y	24	水田（上面）	⑰SL01　東川岸	須恵器	壺	2.90	(15.20)			灰褐色	灰褐色	径0.5mm程の砂粒を含む	良好	口縁部は回転ナデ	回転ナデ	
14 12	02635	Ⅰ			水田（上面）	⑰SL01　東川岸	土師器	坏身	4.00	13.50			白黄褐色	白黄褐色	精良	良好	体部は回転横ナデ　底部は回転ヘラ切り	回転ナデ	
14 13	00012	Ⅰ	T	29	水田（上面）	⑥SL01　東川岸	土師器	坏身	3.70	13.10		7.20	黄褐色	黄褐色	径1mm程の長石を少し含む。褐色粒子を持つ	良好	回転ナデ　底部は回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ後底部にナデ	
14 14	00050	Ⅰ	S	30	水田（上面）	⑥SL01　川底	土師器	坏身	3.90	(13.20)		(7.50)	赤褐色	赤褐色	径0.5mm程の長石を持つ。褐色粒子を持つ	良好	回転ナデ　底部は回転ヘラ切り後ナデ	回転ナデ後底部にナデ	
14 15	02642	Ⅰ	W	25	水田（上面）	⑰SL01　東川岸	土師器	坏身	3.60	(13.70)		7.10	茶褐色	茶褐色	精良	良好	底部は回転ヘラ切り	回転ナデ	
14 16	02641	Ⅰ	S	30	水田（上面）	⑥SL01　川底	土師器	皿	1.50	(14.20)		(11.40)	赤褐色	赤褐色	径0.5mm程の長石などを含む。褐色粒子を持つ	良好	回転ナデ	回転ナデ	
15 21	02640	Ⅰ	V	26	水田（上面）	⑪SL01　川岸	土師器	坏身	3.55	(13.20)		7.70	褐色	褐色	径0.5mm程の長石を少し含む。褐色粒子を持つ	良好	回転ナデ　底部は回転ヘラ切り後にナデ　墨書「太」	内底は回転ナデの後にナデ	

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器（土製品）の法量と特徴〈法量 上段：土器　下段：土製品〉												
挿図番号							器種		器高	口器受部径	最大径	底部穿孔径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
15 22	02659	Ⅰ			水田（上面）	水槽西側水田面	土師器	皿	1.90	(12.90)		6.00	浅黄灰褐色	浅黄灰褐色	精良	良好	底部は回転ヘラ切り　墨書	回転ナデ	
24 1	02650	Ⅰ			水田（下面）		土器	注口土器					白褐色	白褐色	径1mm程の長石・石英を多く含む	良好	底部は回転ヘラ切り	内底はナデ	残存長:5.0cm。
24 2	02652	Ⅰ			水田（下面）	トレンチ（耕作土とその下）	土製品	投弾	4.35	2.15	2.20		ﾏｰﾌﾞﾙ(黒褐,白褐,赤褐色)		精良	良好			
24 3	02653	Ⅰ			水田（下面）		土製品	投弾	3.75	2.60	2.10		黒褐色		径1mm程の長石・石英を多く持つ	良好			
24 4	02649	Ⅰ			水田（下面）		弥生土器	甕	11.30	22.10			白褐色、こげ茶色	白褐色、こげ茶色	径3mm程の石英・長石を多く含む。褐色粒子を持つ	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	
24 5	02651	Ⅰ			水田（下面）		手づくね土器	手づくね土器		3.70	4.20		白褐色	白褐色	径1mm程の長石・石英を多く含む	良好	指押さえ	指押さえ	
24 6	02655	Ⅰ			水田（下面）	発掘区北部窪地	土師器	皿	1.40	(10.00)		(7.35)					底部は回転ヘラ切り	ナデ	
24 7	01131	Ⅰ	Z	30	水田（下面）		土師器	皿	1.20	10.10							回転ナデ　底部は回転ヘラ切り	回転ナデ	
24 8	02654	Ⅰ			水田（下面）	発掘区北部窪地	土師器	皿	1.60	(9.75)		3.90	白褐色	白褐色	径1mm程の長石を含む	良好	回転ナデ	回転ナデの後にナデ	
24 9	02656	Ⅰ			水田（下面）	発掘区北部窪地	土師器	椀	1.90			(8.00)	黒灰色	黒灰色	径1mm程の長石を少し含む	良好	高台は横ナデ	ナデの後にミガキ	
24 10	02657	Ⅰ			水田（下面）	発掘区北部窪地	須恵器	坏身					灰色	灰色	径1mm程の長石を多く含む	良好	回転ナデ	内底はナデ	
28 1	02322	Ⅱ	T	34	第Ⅱ面遺構検出面		弥生土器	壷									ナデ　貼り付け文　器形不明　壺か	磨滅して不明	
28 2	02591	Ⅱ			第Ⅱ面遺構検出面	北拡張区水田	弥生土器	支脚	8.50			5.90	白褐色	白褐色	径2mm程の砂粒（石英・長石など）を多く含む。	良好	ナデ　指押さえ		
28 3	02138	Ⅱ	S	29	第Ⅱ面遺構検出面	SK−004周辺	古式土師器	甕（D系）	16.10	(18.00)	(22.00)		明黄褐色	明黄褐色	1mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	胴部は縦ハケ目後横ハケ目、まばらな櫛状工具痕　口縁部〜肩部は回転的横ナデ	胴部はケズり　口縁部は回転的横ナデ	
28 4	02139	Ⅱ	S	29	第Ⅱ面遺構検出面	SK−004周辺	古式土師器	二重口縁壷（B系）	8.90				明黄褐色	明黄褐色	1mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	胴上半は規則的なハケ目後所々ヘラ描線刻　一次口縁は横ナデ	胴上半は規則的なハケ目　一次口縁は横ナデ（頸部にハケ目残る）	口縁の屈曲部接合面には接着を強めるための刻み目あり　内面には接合痕あり　復元頸部径:11cm。
28 5	02140	Ⅱ	S	29	第Ⅱ面遺構検出面	SK−004周辺	古式土師器	二重口縁壷					明黄褐色	明黄褐色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	二次口縁部は細密横ミガキ	二次口縁部はハケ目後暗文風縦ミガキ	
28 6	02141	Ⅱ	S	29	第Ⅱ面遺構検出面	SK−004周辺	古式土師器	低脚器台（鉢!?）					明黄褐色〜明橙褐色	明黄褐色〜明橙褐色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	低脚部は回転的な横ミガキ	低脚部はハケ目後中心付近ナデ　坏底部はナデ	脚裾の段部にハケ目列点文や鋸歯文を遡らし外面から焼成後穿孔。
30 1	02602	Ⅱ			第Ⅱ面遺構検出面	北拡張区5区	古式土師器	甕（A系）	34.60	(25.40)	26.60		白褐色	白褐色	径2mm程の長石・石英を含む	良好	縦ハケ目	口縁部は横ハケ目　体部上半は左斜行ハケ目　下半は右斜行ハケ目	内面底部炭化物付着。外面煤付着。
30 2	02284	Ⅱ	T	34	第Ⅱ面遺構検出面		古式土師器	甕（B系）	19.80	15.20	18.30		暗褐色	暗褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む	良好	胴部はハケメ後下半に縦ハケ　口縁部はナデ	胴部は縦ハケ目　口縁部はナデ	外面に煤付着。
30 3	02740	Ⅱ	Z	34	第Ⅱ面遺構検出面		古式土師器	甕（B系）	16.90	(17.30)	20.00		淡白褐色	淡白褐色	径1〜4mm程の石英・長石を多めに含む	良好	胴部は太筋タタキ　口縁部〜頸部はナデ	胴部はケズり　口縁部〜頸部はナデ	外面に煤付着。内面に炭素吸着。
30 4	02285	Ⅱ	T	34	第Ⅱ面遺構検出面		古式土師器	甕or壷（B系）	3.00			5.60	暗白褐色	暗白褐色	径1〜2mm程の長石・石英を多めに含む	良好	底部とその付近はナデ	底部はすだれ状螺旋ハケメ	内外面に焦げや煤が付着。
30 5	02599	Ⅱ			第Ⅱ面遺構検出面		古式土師器	甕（D系）	14.80	(17.80)	(20.70)		白褐色	茶白褐色	径1mm程の砂粒（石英・長石）を多く含む。褐色の粒子が見られる	良好	胴部は縦ハケ後雑な横ハケ　口縁部は横ナデ	胴部はケズり　口縁部は回転的横ナデ	
30 6	02320	Ⅱ	T	34	第Ⅱ面遺構検出面		古式土師器	壷（B系）	17.30	15.80	(24.60)		淡白褐色	淡白褐色	径1〜3mm程の長石・石英を多く含む	良好	胴上半はタタキ後ハケ目　口縁部は縦ハケ目	胴上半はハケ目　口縁部はハケ目後ナデ	外面に黒斑あり。
30 7	02589	Ⅱ			第Ⅱ面遺構検出面		古式土師器	二重口縁壷（山陰系）	7.70				暗白褐色	白褐色	径1mm程の砂粒（石英・長石）を多く含む（雲母も少し含む）	良好	口縁部は横ナデ　頸部ナデ	横ナデ　胴部はケズり	
30 8	02319	Ⅱ	T	34	第Ⅱ面遺構検出面		古式土師器	二重口縁壷（A系?）	9.10	(22.90)			白褐色	白褐色	径1〜3mm程の長石・石英を多く含む	良好	頸部はハケ目後ナデ　二次口縁部はハケ目後ナデ	頸部はハケ目　二次口縁部はハケ目後ナデ	二次口縁部には鋸歯形に線刻。
30 9	02321	Ⅱ	T	34	第Ⅱ面遺構検出面		古式土師器	二重口縁壷（A系?）	10.70	(21.40)			淡赤褐色	白褐色	小片の長石を含む。褐色粒子を含む	良好	一次口縁〜二次口縁はナデ	一次口縁〜二次口縁はナデ　頸部下はナデ	内面に煤付着。
30 10	02665	Ⅱ	T	27	第Ⅱ面遺構検出面	黒粘2面	古式土師器	高坏（C系）	8.30	(22.70)			乳赤褐色	乳赤褐色	やや精良。褐色粒子含む	良好	脚柱部は縦工具ナデ　坏部は下半にハケ目後全体に横ミガキ	脚柱部はナデ　坏部はハケ目後暗文ミガキ	脚部内面以外は丹塗りか。
30 11	02601	Ⅱ			第Ⅱ面遺構検出面	北拡張区	古式土師器	高坏（D系）	12.10	18.30		10.80	赤白褐色	赤白褐色	精良（褐色の粘土を含む）	良好	脚柱・裾部ともにハケ目後横ナデ　坏部はハケ目後横ナデ	脚裾部はハケ目　脚柱部は工具痕後ナデや指オサエ　坏部はハケ目後暗文ミガキやナデ	脚頂部は凸面付加法。脚屈曲部に2ヶ所穿孔。
30 12	02696	Ⅱ			第Ⅱ面遺構検出面		古式土師器	有段高坏（B系）	12.00	(18.80)		(14.40)	淡赤褐色〜淡白褐色	黒白褐色	径1〜3mm程の長石・石英を多めに含む	良好	脚裾部は上・下半ともハケ目後横ミガキ　脚柱部は横ミガキ　坏下半はハケ目、上半はナデやまばらな横ミガキ	脚裾部はハケ目後ナデ　坏部下半はハケ目、上半はナデ	脚裾部には段上半に千鳥型穿孔8ヶ所、段下半に千鳥型穿孔12ヶ所。外面に黒斑、内面に炭素吸着。
30 13	02525	Ⅱ	Z	34	第Ⅱ面遺構検出面		古式土師器	小型高坏	5.60				明橙色〜浅橙色	明橙色〜浅橙色	精良土に1〜2mm砂粒をわずかに含む	良好	脚柱部はナデ	ナデ	外面色調。
30 14	02664	Ⅱ	S	28	第Ⅱ面遺構検出面	黒粘2面（図入り）	古式土師器	低脚高坏（B系）	8.80	12.90		9.45	乳赤褐色〜白褐色	乳赤褐色〜白褐色	やや精良	良好	脚部はハケ目後縦ミガキ　頸部に横ヘラナデ　坏部はまばらなミガキ後放射状暗文ミガキ	脚部はハケ目後ナデ　坏部は放射状暗文ミガキ後端部にナデ	脚部内面以外は丹塗りか。
30 15	02666	Ⅱ	T	27	第Ⅱ面遺構検出面	黒粘2面	古式土師器	小型器台（C系）	2.40	9.10			白褐色	白褐色	やや精良。褐色粒子含む	良好	受部全体横ナデ	受部全体横ナデ	脚部との接合面が残る。
30 16	02339	Ⅱ	T	34	第Ⅱ面遺構検出面		古式土師器	小型器台（B系）	9.10			10.90	暗赤褐色	暗赤褐色	径1〜2mm程の長石・石英を多く含む。褐色粒子を持つ	良好	脚部は縦ミガキ　頸部はナデ	脚下半はハケ目、奥はナデ　受部は磨滅して不明	脚部の4ヶ所に穿孔。
30 17	02662	Ⅱ			第Ⅱ面遺構検出面	取上げ区画⑦、耕作土と黒色流路の西側	古式土師器	小型壷	7.20	(8.40)	5.60		乳黒色	乳黒色	やや精良	良好	ナデ	ナデ	
30 18	02590	Ⅱ			第Ⅱ面遺構検出面		古式土師器	小型鉢（B系）	6.70	(9.50)	9.50		赤褐色	暗赤褐色	径1mm程の砂粒（石英・長石）を多めに含む。褐色の粒子が見られる	良好	ナデ	すだれ状螺旋ハケ目	
30 19	02668	Ⅱ			第Ⅱ面遺構検出面	区画⑤、黒粘2面	古式土師器	小型丸底壷（C系）	7.40	13.00	11.30		白褐色〜褐色	白褐色〜暗褐色	やや精良	良好	胴下半はケズり、上半はハケ目後ナデ　口縁部は工具ナデ	底部は工具ナデ後ナデ　胴部はナデ　口縁部はハケ目	
30 20	02600	Ⅱ			第Ⅱ面遺構検出面		古式土師器	小型丸底壷（C系）	6.80	9.10	(20.40)		赤褐色	赤褐色	径2mm程の砂粒（石英・長石・雲母）が少量見られる	良好	胴部は縦ハケ目後頸部に横ナデ、下半は磨滅して不明　口縁部は横ナデ	胴部は横ナデ　口縁部は横ナデ	全体を化粧土で覆った感がある。
30 21	02592	Ⅱ			第Ⅱ面遺構検出面		古式土師器	手づくね土器	手づくね椀	4.50	5.30		赤褐色〜暗褐色	暗褐色	径1mm程の砂粒（石英・長石）を含む。	良好	指押さえ	ナデ	
30 22	02667	Ⅱ			第Ⅱ面遺構検出面	黒粘2面	古式土師器	手づくね土器	鉢	4.20	8.30		乳赤褐色	乳赤褐色	径1mm程の長石を含む。褐色粒子を持つ	良好	ハケ目、底部はナデ	指押さえ、ナデ	
30 23	02690	Ⅱ	Z	33	第Ⅱ面遺構検出面		古式土師器	椀	3.80	8.50			淡白褐色	淡白褐色	径2mm程の石英を多く含む	良好	指押さえ　ナデ	ナデ	
30 24	02527	Ⅱ			第Ⅱ面遺構検出面		古式土師器	椀	5.80	(14.60)			浅橙色	黄褐色	精良土	良好	ナデ　底部はケズり状のナデ	上半は左斜行のハケ目　下半はナデ	
30 25	02593	Ⅱ			第Ⅱ面遺構検出面		古式土師器	有孔鉢（B系）	10.30	16.20		1.90	赤褐色〜白褐色	赤褐色〜白褐色	径0.5mm程の砂粒（石英・長石）を少し含む。褐色の粒子が見られる	良好	ナデ	上半は左斜行のハケ目　下半は縦ハケ目	孔径:0.8cm。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器　下段:土製品〉											
挿図番号							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・頸部径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
35 2	02619	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		古式土師器	甕(B系)	22.10	(16.00)	(20.00)		暗褐色	暗褐色	径2mm程の長石・石英・小片の雲母を多く含む。	良好	胴部はハケ目　口縁部～肩部は回転的横ナデ	胴下位指押え後ナデ、中～上位はケズリ　口縁部は回転的横ナデ	内外面全体に煤付着。
35 3	02620	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		古式土師器	甕(C系)	26.70	(18.00)	(25.50)		白褐色、暗褐色	白褐色、暗褐色	径1mm程の長石・石英・小片の雲母を多く含む。褐色粒子を持つ	良好	胴部は細筋タタキ後下半に縦ハケ目　口縁部は回転的横ナデ	底部はナデ　胴部はケズリ　口縁部は回転的横ナデ	内外面に煤が付着。
35 4	02611	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		古式土師器	甕(D系)	11.70	13.30	17.40		白褐色	白褐色	径1mm程の長石・石英を含む	良好	胴上半は縦ハケ目後肩部に横ハケ目　口縁部は回転的横ナデ	胴中位はケズリ、上位～頸部はナデや指頭圧痕後横ハケ目　口縁部は	外面肩部にヘラ描沈線文が廻る　外面に煤付着。
35 5	02607	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01	No.1	古式土師器	甕(D系)	12.10	16.10	(19.00)		暗褐色、黒色	暗褐色、黒色	径1mm程の長石・石英を多めに含む	良好	胴部はハケ目後口縁部～肩部に回転的横ナデ	胴部はケズリ　口縁部は回転的横ナデ	外面全体に煤付着。
35 6	02631	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		古式土師器	甕(D系)	12.80	(13.40)	(19.40)		白褐色	白褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む	良好	胴部はハケ目後口縁部～肩部に回転的横ナデ	胴部はケズリ　口縁部は回転的横ナデ	外面肩部に櫛描波状文が廻る。外面に黒斑。
35 7	02612	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		古式土師器	甕(D系)	15.10		(27.90)		白褐色	白褐色	径1～3mm程の長石・石英などを多く含む。褐色粒子を持つ	良好	胴上半はハケ目　口縁部～頸部は横ナデ	胴上半はケズリ　頸部にハケ目　口縁部は横ナデ	外面肩部にヘラ描沈線文が廻る。外面に煤付着。
35 8	02621	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		古式土師器	甕(D系or山陰系)	25.40		25.40		灰褐色	灰褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む。	良好	胴部は縦ハケ目後中位に横ハケ目、上位～頸部に回転的横ナデ	底部はケズリ後ナデ　胴部はケズリ、下半はハケ目?	外面肩部に櫛描波状文が廻る。外面下半に煤付着。
35 9	02633	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		古式土師器	甕(D系)	19.65	(17.25)	(22.10)		灰褐色	灰褐色	径1mm程の長石・石英を多く含む。褐色粒子を持つ	良好	胴部は縦ハケ目後部分的に横ハケ目　口縁部は回転的横ナデ	胴部はケズリ　口縁部は回転的横ナデ	外面全体に煤付着。
35 10	02606	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01	No.1	古式土師器	甕(D系)	8.20	(14.20)	16.20		暗褐色	暗褐色	径1mm程の長石を多く含む。褐色の粒子を持つ	良好	胴上半はハケ目　口縁部～頸部は回転的横ナデ	胴部はケズリ　口縁部は回転的横ナデ	外面全体に煤付着。
35 11	02630	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		古式土師器	甕(D系)	7.60	(13.25)	14.90		白褐色	白褐色	径1mm程の砂粒を多く含む(長石・石英)	良好	胴上半はハケ目後肩部横ナデ? 口縁部は横ナデ	胴上半はケズリ　口縁部は横ナデ	径の1/4の残存部に対し、2ヶ所に列点文あり。
36 12	02627	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		古式土師器	高坏(B系)	6.10				白褐色	白褐色	径2mm程の長石を含む	良好	脚裾部は横ナデ、脚柱部は縦工具ナデ?　坏部下半はナデ	脚裾部はハケ目、脚柱部はシボリ痕にナデ　坏底部はナデ後放射状ミガキ	内外面に煤が付着。
36 13	02625	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		古式土師器	高坏(B系)	12.60	18.40		(12.20)	赤褐色	赤褐色	径2mm程度の長石・石英を多く含む	良好	脚裾部はハケ目、脚柱部は縦ナデ　坏下半はナデ、上半はハケ目後ナデ	脚裾部はナデ　坏底部はナデ、上半はハケ目後工具ナデ	脚裾部に3ヶ所穿孔。内外面に黒斑あり。
36 14	02626	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		古式土師器	高坏(C系)	6.15	19.70			白赤褐色	白赤褐色	径1mm程の長石を少し含む。褐色粒子を持つ	良好	磨滅して不明	磨滅して不明	脚部との接合面が残る。
36 15	02634	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		古式土師器	高坏(D系)		(18.80)		(11.75)	赤白褐色	赤白褐色	小片の長石を含む。褐色粒子を持つ	良好	脚部はハケ目後ミガキやナデ　坏下半はミガキ?、上半はハケ目後粗いミガキやナデ	脚裾部は羽状ハケ目、脚柱部はナデ　坏底部はハケ目、上半はハケ目後まばらな縦ミガキ	脚柱部の屈曲部付近に2ヶ所穿孔。外面に黒斑あり。
36 16	02610	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		古式土師器	丸底壷(B系)	11.90	(14.40)	16.20		白褐色～暗褐色	白褐色～暗褐色	径2mm程の長石・石英を多めに含む	良好	胴部はハケ目　口縁～肩部はナデ	胴部はハケ目　口縁部はナデ	内外面とも胴下半に黒斑。
36 17	02613	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		古式土師器	台付の甕or壷	4.35			14.10	白褐色	白褐色	径1mm程の石英・長石を多く含む。褐色粒子を持つ	良好	脚部はナデ	脚部はナデ、指オサエ	胴部との接合面残る。接合面や内面に黒斑あり。
36 18	02609	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		古式土師器	丸底壷	19.30	15.30	22.00		暗褐色	暗褐色	径2mm程の長石を含む	良好	胴部はハケ目(中位以下は剥離している)　口縁部はハケ目、端部はナデ	胴部はケズリ　頸部下はハケ目　口縁部はナデ	
36 19	02615	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		古式土師器	小型丸底壷(C系)	6.00	(11.60)	10.30		赤褐色	赤褐色	精良	良好	底部はミガキ　胴部も口縁部もハケ目後細密横ミガキ	底部は工具ナデ後ナデ　胴部はナデ　口縁部はハケ目	外面底部に赤斑あり。
36 20	02618	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		古式土師器	小型丸底壷	10.00	10.70	12.90		白褐色	白褐色	精良	良好	胴下半は磨滅して不明、上半はハケ目　口縁部はナデ	胴部はハケ目　口縁部はハケ目	
36 21	01913	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		古式土師器	小型丸底壷	8.10		12.80		白褐色	白褐色	径1mm程の長石・雲母を多く含む。	良好	胴部はハケ目後?下位に縦ミガキ、中位に横ミガキを細密に施す	胴下位はハケ目後ナデ、中～上位はハケ目	胴部外面下半に黒斑。
36 22	02623	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		古式土師器	小型丸底壷	10.00		12.80		赤褐色	赤褐色	径1mm程の長石・小片の雲母を含む。褐色粒子を持つ	良好	胴部はナデ?　肩～口縁部は回転的横ナデ	底部はハケ目後ナデ　胴部はハケ目　口縁部は回転的横ナデ	外面胴部に黒斑や赤斑あり。
36 23	02622	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		古式土師器	長頸壷(B系)	18.10	(13.10)	(14.50)		赤褐色	赤褐色	精良	良好	胴部はナデ?　肩～口頸部はハケ目後回転的横ナデ	胴下～中位はハケ目　頸部下は粘土紐接合痕あり　口頸部はハケ目後回転的横ナデ	外面胴部に黒斑や赤斑あり。
36 24	02608	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		古式土師器	二重口縁壷(A系)					暗褐色	暗褐色	径1mm程の長石を含む	良好	ナデ(磨滅?)	横ハケ目	内面に炭素吸着。
36 25	02605	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		古式土師器	壷(B系)	9.80		(31.50)		暗白褐色	暗白褐色	精良	良好	胴上半にハケ目　頸部はナデ	胴上半はハケ目　頸部下に指頭圧痕	内面の粘土紐接合痕が明瞭。
36 26	02632	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		古式土師器	短頸ヒサゴ壷(東海系)	8.05	9.30			褐色	褐色	径2mm程の長石・石英を多めに含む	良好	肩部は縦ハケ目後ミガキ　口頸部はミガキ	胴上半はナデ　頸部は工具ナデ　口頸部はナデ	胎土などから在地産と思われる。
36 27	02614	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		古式土師器	鉢	9.95	(27.50)			暗褐色	暗褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む。褐色の粒子を持つ	良好	器表面が剥離して不明	底部から口縁部へ掻き上げるハケ目	
36 28	02616	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		古式土師器	椀	3.10	11.60			褐色	褐色	精良	良好	体部下半はケズリ　口縁部はナデ	工具ナデ?	
36 29	01921	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		古式土師器	椀	4.10	(11.40)			白褐色	白褐色	径1mm程の長石を少量含む。褐色粒子を持つ	良好	全面細密横ミガキ	ミガキ後ナデ	
36 30	02617	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		古式土師器	椀	3.90	12.40			褐色	褐色	精良	良好	体部下半はケズリ、上半はハケ目	すだれ状螺旋ハケ目後底部にナデ	
36 31	01920	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		古式土師器	椀	3.40	13.70			褐色	褐色	径1mm程の砂粒を含む	良好	体部下半はケズリ　口縁部はナデ	ハケ目後工具ナデ、ナデ　口縁部はナデ	外面に黒斑あり、その周囲は赤斑。
37 32	01931	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		古式土師器	小型器台(C系)	8.20	9.50		11.60	灰褐色	灰褐色	精良	良好	脚部はナデ　受部～頸部にケズリ　立ち上がりは横ナデ	脚部はハケ目後ナデ　受部はハケ目後ナデ　立ち上がりは横ナデ	脚部に2ヶ所焼成後穿孔。
37 33	02629	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		古式土師器	小型器台(C系)	9.00	9.50		(12.70)	赤褐色	赤褐色	精良	良好	脚下半はハケ目、上半はナデ　受部は工具ナデ　立ち上がりは横ナデ	脚部はハケ目、奥部に工具痕　受部は放射状工具ナデ　立ち上がりは横ナデ	脚部に穿孔(2孔?)。頸部に沈線。
37 34	02628	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01	No.1	古式土師器	小型器台(C系)	8.80	10.00		(12.00)	赤褐色	赤褐色	精良	良好	脚部は縦ハケ目後ナデ　受部はナデ　立ち上がりは横ナデ	脚部はハケ目後ナデ、奥部に工具痕　受部はハケ目後ナデ　立ち上がりは横ナデ	坏・脚の接合は脚頂部凸面付加法。脚部に穿孔(2孔?)。
37 35	02624	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		古式土師器	大型甕(A系)					白褐色	白褐色	径2mm程度の長石・石英などを多く含む	良好	胴下半は横ハケ後縦ハケ　扁平突帯貼付してナデ付け後頂面に横ハケ目を廻らす	胴下半はハケ目	甕棺であろう。外面に黒斑あり。傾き推定。
42 1	02105	Ⅱ	Q	30	SC−01		弥生土器	壷		(32.00)			黄褐色	黄褐色	1mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ　頸部はナデ?	ミガキ	
42 2	02110	Ⅱ	Q	30	SC−01	床面掘り下げ	弥生土器	甕					橙褐色	橙褐色	1mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	口縁部は横ハケ目の後に横ナデ　体部はナデ	復元口径:35cm前後。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器　下段:土製品〉												
挿図番号							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・胴最小径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
42 3	02109	Ⅱ	Q	30	SC−01	床面	弥生土器	甕					橙褐色	橙褐色	1mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	横ナデ	横ナデ	復元口径:30cm前後。
42 4	02111	Ⅱ	Q	30	SC−01		弥生土器	壺	15.20			11.60	明橙褐色〜明黄褐色	明橙褐色〜明黄褐色	3mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	ハケ目の後に縦のミガキ	ナデの後に部分的にミガキ	
42 5	02103	Ⅱ	Q	30	SC−01		土製品	投弾	3.85	2.05			明黄褐色		1mm以下の石英・長石・雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好			
42 7	02108	Ⅱ	Q	28	SC−01	埋土中	古式土師器	椀	4.30	(8.60)			明黄褐色	明黄褐色	2mm以下の石英・長石・雲母をわずか	良好	ナデ、端部は横ナデ	ナデ、端部は横ナデ	外面に黒斑。
42 8	02107	Ⅱ	Q	28	SC−01	埋土中	古式土師器	椀(B系)	4.60	12.20		4.10	黄褐色	黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ　底部縁は縦ハケ目　外底はナデ	口縁部は横ナデ　下半はすだれ状螺旋ハケ目	
42 9	02104	Ⅱ	Q	30	SC−01		古式土師器	小型丸底壺		10.00	(10.00)		暗黄褐色	暗黄褐色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	胴部はハケ目後ナデか　口縁部は横ナデ	胴部は工具ナデ(ハケ目?)　口縁部は横ナデ	
42 10	02101	Ⅱ	Q	30	SC−01		古式土師器	小型甕		(11.00)	9.40		黄褐色	黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好	胴部は条痕のようなハケ目　口縁部ハケ目	胴部はケズリに近いナデ　口縁部は横ナデ	
42 11	02102	Ⅱ	Q	30	SC−01		古式土師器	小型丸底鉢(C系)					暗黄褐色	暗黄褐色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む。精良	良好	磨滅して不明	胴部は磨滅　口縁部はハケ目	
42 12	02100	Ⅱ	Q	30	SC−01		古式土師器	壺(B系)	6.40			5.50	黄褐色	黄褐色	5mm以下の石英・長石をやや多く、雲母をわずかに含む	良好	底部は大小の圧痕　胴下位はミガキ	胴下位は工具ナデ	内面は器表面が弾け飛ぶ(外面も少し)。底部付近黒斑。
42 13	02106	Ⅱ	Q	28	SC−01	埋土中	古式土師器	高坏(B系)		(24.00)			黄褐色	黄褐色	1mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	坏部下半はハケ目後ミガキ、上半はハケ目	坏底部は磨滅して不明、上半はハケ目	坏部外面に煤状の黒い付着物あり、液体状に垂れている。
43 14	02253	Ⅱ	Q	30	SP−0001	南半分	古式土師器	鉢(B系)	5.00	11.70		4.20	暗白褐色	白褐色	径1mm程の砂粒(石英・長石)を含む(雲母も少々みられる)	良好	口縁部は横ハケ目　体部下半は縦ハケ目	ハケ目	
43 15	02254	Ⅱ	Q	30	SP−0001	南半分	弥生土器	高坏	10.10	10.30			赤褐色	赤褐色	径3mm程の砂粒(石英・長石)を多く含む	良好	坏部は細かな横ミガキ　脚部は縦のミガキ　全面丹塗り	坏部は横ミガキ　脚部は細かな横ハケ目	
46 1	01888	Ⅱ	Q	34	SK−030		古式土師器	甕(D系)	12.30	(14.60)	16.40		白褐色	白褐色	径1mm程の長石・石英を多く含む。	良好	胴部はハケ目　口縁部は横ナデ	胴部はケズリ　口縁部はハケ目後横ナデ	外面に煤付着。内面に炭素吸着。
46 2	01889	Ⅱ	Q	34	SK−030		古式土師器	小型丸底壺(C系)	7.80	(11.00)	10.40		淡赤褐色	淡赤褐色	径1mm程の長石を多く含む。褐色粒子を持つ	良好	胴下半はケズリ後、上半はハケ目後に細密横ミガキ　口縁部は細密横ミガキ	胴部はナデ　頸部下は工具ナデ　口縁部はハケ目後端部にナデ	
47 1	02259	Ⅱ	T	29	SP−0158		古式土師器	甕(B系)	25.40	(19.90)	(23.30)	3.40	白褐色〜黒褐色	黒褐色	径2mm程の砂粒(石英・長石)を多く含む	良好	胴下半は粗いハケ目、(上半は磨滅して不明)　底部はナデ　口縁部はナデ	胴部はナデ後ケズリ　口縁部はナデ	外面に煤付着。
56 1	02275	Ⅱ	T	39	SW−01		弥生土器	甕	8.20	(26.00)	24.60		白褐色	白赤褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む	良好	口縁部は横ナデ　体部はナデ	ナデ	
56 2	02274	Ⅱ	T	39	SW−01		弥生土器	甕	5.10	(35.65)			灰褐色	灰褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む	良好	口縁部は横ナデ	ナデ	
56 5	01181	Ⅱ	T	35	SW−01		古式土師器	台付甕	14.10	16.15							胴部はハケメ後下半に指オサエ、上半にナデ　口縁部はナデ	胴部はハケメ　口縁部はナデ	外面頸部に接合痕が沈線状に残る。
56 3	02283	Ⅱ	T	39	SW−01		土製品	紡錘車	4.83	2.60	1.30		白褐色		径1mm程の長石・石英・小片の雲母を多く含む	良好	ナデ		
56 4	02271	Ⅱ	T	39	SW−01		古式土師器	甕(A系orB系)	6.50	(14.55)			茶褐色	茶褐色	径1mm程の長石・石英を多めに含む	良好	胴部上半はハケメ　口縁部はナデ	胴部上半はハケメ　口縁部はハケメ後ナデ	外面に煤付着。
56 6	01995	Ⅱ	T	39	SW−01		古式土師器	甕(B系)	15.40	(19.75)	28.30		黒褐色〜白茶褐色	黒褐色〜白茶褐色	径1mm程の長石・石英を含む	良好	胴部はナデ　口縁部は指オサエ後ナデ	胴部は浅いハケメとナデ(磨滅)	外面に接合痕が若干残る。
56 7	02268	Ⅱ	T	35	SW−01		古式土師器	坩(B系)	5.90			1.80	白褐色	黒褐色	径1mm大の長石・石英を多く含む	良好	胴下半はタタキ	胴下半はハケメ?後ナデ消し	底部は小平底。
56 8	02272	Ⅱ	T	39	SW−01		古式土師器	甕(C系)					黒褐色	白茶褐色	径1mm程の長石・石英を多く含む	良好	胴上半は細筋タタキ　頸部は横ナデ	胴上半はケズリ　頸部下はハケ目	
56 9	56 9	Ⅱ	T	39	SW−01		古式土師器	甕					白褐色		径1mm程の長石・石英を含む	良好	磨滅して不明	磨滅して不明	外面肩部に櫛描波状文後櫛描直線文が廻る。
56 10	02273	Ⅱ	T	39	SW−01		古式土師器	甕(D系)	4.20	(16.00)			白褐色	白褐色	径1mm程の長石・石英を多めに含む	良好	口縁部〜肩部は横ナデ	胴上半はケズリ　口縁部は横ナデ	外面に煤付着。
56 11	02269	Ⅱ	T	39	SW−01		古式土師器	二重口縁壺	5.50	(19.40)			赤褐色・褐色	赤褐色・褐色	径1mm程の砂粒を多く含む。	良好	二次口縁部はナデ	二次口縁部はナデ	外面に鋸歯形の線刻あり。
56 12	02270	Ⅱ	T	39	SW−01		古式土師器	二重口縁壺(山陰系)	6.20	(22.80)			白褐色	白褐色	径1mm程の長石・石英・小片の雲母を多く含む	良好	口縁部〜頸部は回転的横ナデ	口縁部〜頸部は回転的横ナデ	
56 13	01180	Ⅱ	T	35	SW−01		古式土師器	二重口縁壺(A系)	12.40	(25.20)			白褐色	白褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む。	良好	胴部はハケ目後ナデ　口縁部・頸部ともナデ	胴上半はハケ目　頸部は指頭圧痕後ナデ　口頸部はハケ目　端部は横ナデ	頸部刻目突帯貼付後ナデ付け。口頸部内面に黒斑?。
56 14	01179	Ⅱ	T	35	SW−01		古式土師器	高坏(B系)	9.20			12.70	黒褐色	黒褐色	径1mm程の長石・石英を多めに含む	良好	脚部は縦ミガキ	脚柱部は指オサエやナデ、裾部は縦ミガキ	脚頂部の接合面は凹面を呈する。
56 15	02279	Ⅱ	T	35	SW−01		古式土師器	高坏(C系影響下のB系)	6.90	(20.00)			白褐色	白褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む。褐色粒子を持つ	良好	坏部はハケ目が残るが全体が磨滅して不明	坏底部はナデ、上半はハケ目	脚部との接合面が残る。
56 16	02281	Ⅱ	T	39	SW−01		古式土師器	高坏(B系)	13.70	23.75		(12.45)	灰褐色	灰褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む	良好	全面磨滅して不明	全面磨滅して不明　脚柱部はシボリ痕	脚裾部は4ヶ所穿孔。坏内面に黒斑あり。
56 17	02280	Ⅱ	T	35	SW−01		古式土師器	高坏(B系)	8.70				白褐色	白褐色	径1mm程の長石・石英を含む。褐色粒子を持つ	良好	脚裾部はハケ目、脚柱部は縦ミガキ	脚柱部はシボリ痕にナデ、裾部はナデ	径3mmほどの軸芯痕が貫通。坏部との接合面残る　脚裾に焼成前穿孔。
56 18	01993	Ⅱ	T	39	SW−01		古式土師器	高坏(B系)	12.30			(13.55)	赤褐色	赤褐色	径1mm程の長石・石英を多く含む	良好	脚裾部はハケメ　脚柱部は縦工具ナデ　坏下半はナデ、上半はハケメ	脚柱部はナデ、裾部はハケメ　坏底部はナデ、上半はナデ	脚頂部内面に軸芯痕あり。脚裾部の4ヵ所に外面から焼成前穿孔。
56 19	02277	Ⅱ	T	39	SW−01		古式土師器	高坏(B系or山陰系)	12.40	(14.55)		(16.50)	白赤褐色	白赤褐色	径1mm程の長石を含む。褐色粒子を持つ	良好	脚裾部はナデ　脚柱部はハケ目　坏部はナデ	脚屈曲部に指頭圧痕後裾部にかけてナデ　脚柱部はシボリ痕　坏部下半はナデ、上半はハケ目?	脚柱部〜坏底部へ軸芯痕が貫通。脚裾部に6カ所穿孔。
56 20	02278	Ⅱ	T	39	SW−01		古式土師器	高坏(B系)	9.60			(16.00)	白褐色	白褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む	良好	脚裾端部にナデ　脚柱部に縦ミガキ	脚部は全面ナデ　坏底部はナデ	坏底部は円盤形粘土を充填。脚屈曲部付近に4ヶ所焼成前穿孔。
56 21	02267	Ⅱ	T	39	SW−01		古式土師器	小型丸底壺(C系)	5.90	(11.60)	11.10		白赤褐色	白赤褐色	小片の雲母、長石を含む。褐色粒子を持つ	良好	胴部はナデ　口縁部はナデ	胴部はナデ　口縁部はハケ目	
56 22	02282	Ⅱ	T	35	SW−01		弥生土器	器台					褐色		径1mm程の長石・石英を多く含む	良好	指押さえ		
75 1	02304	Ⅱ	U	31	SW−02		弥生土器	甕					淡黄褐色	淡黄褐色	径1mm程の長石・石英を多く含む	良好	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	ナデ	
75 2	02299	Ⅱ	Y・W	32・32	SW−02		弥生土器	甕	7.80	(6.70)			白黄褐色	白黄褐色	径1mm程の長石・小片の雲母を多く含む	良好	口縁部は横ナデ　直下は横ミガキ状　下半は縦ハケ目　外底はナデ	ナデ	
75 3	02294	Ⅱ	U	31・32	SW−02		弥生土器	甕	8.70			3.60	白褐色	白褐色	径1mm程の長石・石英を多く含む。褐色粒子を持つ	良好	ハケメ　底部ナデ	胴部はナデ　口縁部はハケメ	内外面に焦げや煤が付着。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器（土製品）の法量と特徴〈法量 上段：土器　下段：土製品〉											
挿図番号							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・鼎脚高台径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
75 4	02314	Ⅱ	U	31･32	SW−02		弥生土器	甕	15.60	15.00		6.30	暗白褐色	暗白褐色	径2mm程の長石･石英を多く含む。褐色粒子を持つ	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目か	ナデ	
75 5	02309	Ⅱ	U	31･32	SW−02		弥生土器	甕	9.70	18.90			暗褐色	暗褐色	径2mm程の長石･石英を多めに含む	良好	縦ハケ目	口縁部は横ハケ目　下半はナデ　炭化物付着	
75 6	02310	Ⅱ	U	31･32	SW−02		弥生土器	甕	11.50	(22.90)					径2mm程の長石･石英を多く含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は細かな縦ハケ目	ナデ　炭化物付着	
75 7	02318	Ⅱ	U	31･32	SW−02		弥生土器	甕	11.90	(32.80)			暗白褐色	暗白褐色	径1mm程の長石･雲母を多めに含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	口縁部は横ハケ目　下半はナデ	
75 8	02317	Ⅱ	U	31･32	SW−02		弥生土器	甕	12.60	(33.70)			黒褐色	黒褐色	径1mm程の長石･石英･小片の雲母を多めに含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目　煤	ナデ	
75 9	02316	Ⅱ	U	31･32	SW−02		弥生土器	甕	16.70	24.00			暗灰褐色	暗灰褐色	径1～2mm程の長石･石英を多く含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	
75 10	02312	Ⅱ	U	31･32	SW−02		弥生土器	甕	18.80			7.00	淡黄白褐色	淡黄白褐色	径2mm程の長石･石英を多く含む	良好	体部上半は縦ハケ目　下半は縦のミガキ状	ナデ　下半に炭化物付着	
75 11	02311	Ⅱ	U	31･32	SW−02		弥生土器	甕	4.70	(34.40)			赤褐色	赤褐色	小片の長石･雲母を含む。褐色粒子を持つ	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	横ナデ	
75 12	02288	Ⅱ	U	32	SW−02		弥生土器	甕					肌色、一部暗灰色	肌色、一部暗灰色	石英･長石粒を含む。また、黒輝する鉱物粒子を多く含んでいる	良好	ナデ　一部に縦ハケ目　鋸状文	ナデ	
75 13	02315	Ⅱ	U	31･32	SW−02		弥生土器	蓋	8.40			6.60	白赤褐色～暗赤褐色	白赤褐色～暗赤褐色	径2mm程の長石･石英を多く含む。褐色粒子を持つ	良好	縦ハケ目　摘み部はナデ	ナデ　指押さえ	
75 14	02313	Ⅱ	U	31･32	SW−02		弥生土器	甕	5.40			7.95	暗黄褐色		径2mm程の長石･石英を多く含む	良好	縦ハケ目　括れ部はナデを加える　外底はナデ	ナデ　炭化物付着	
75 15	02291	Ⅱ	U	31･32	SW−02		弥生土器	甕	7.50			7.60	淡赤褐色	淡赤褐色	径2mm程の長石･石英を多く含む	良好	縦ハケ目　外底はナデ	ナデ	
76 16	02333	Ⅱ	U	31･32	SW−02		弥生土器	壷	13.30	(17.30)					径2mm程の砂粒を多めに含む	良好	全面横ミガキ　肩部に文様	口縁部は横ミガキ　下半はナデ	
76 17	02335	Ⅱ	U	31･32	SW−02		弥生土器	壷	8.70	(15.20)			暗褐色	暗褐色	径2mm程の長石･石英を多く含む	良好	口縁部は横ナデ　頸部はナデ	ナデ	
76 18	02330	Ⅱ	U	31	SW−02		弥生土器	壷					暗白褐色	暗白褐色	径2mm程の長石･石英を多く含む	良好	口縁部は横ナデ　頸部は縦ハケ目	ナデ	
76 19	02336	Ⅱ	U	31･32	SW−02		弥生土器	壷	5.50			(11.00)	暗褐色	暗褐色	径2mm程の長石･石英を多く含む	良好	横ミガキ	剥離	
76 20	02334	Ⅱ	U	31･32	SW−02		弥生土器	壷	9.20			10.80	黒褐色	黒褐色	径2mm程の長石･石英を含む	良好	横ミガキ　外底はナデ	ナデ	
78 21	02296	Ⅱ	U	31･32	SW−02		古式土師器	甕(A系)	7.30	(22.40)	22.00		褐色	褐色	径1～2mm程の長石を含む	良好	胴部はハケ目　口縁部はハケ目	胴部はハケ目　口縁部はハケ目	端部面取り。
78 22	02308	Ⅱ	V	33	SW−02		古式土師器	甕(A系)					白赤褐色	白赤褐色	径1～2mm程の長石･石英を多めに含む	良好	胴部?口縁部はハケメ　さらに頸部の突帯もハケメで貼付ける　端部はナデ	胴部はハケメ　口縁部はハケメ　端部はナデ	
78 23	02297	Ⅱ	U	32	SW−02		古式土師器	甕(A系)	21.30	16.40	17.20		淡赤褐色～白褐色	淡赤褐色～白褐色	径1～2mm程の長石･石英を多く含む	良好	胴部は縦ハケメ　口縁部は縦ハケメ	胴部は工具ナデ　口縁部はハケメ後ナデ	胴部に黒斑あり。
78 24	02332	Ⅱ	V	33	SW−02		古式土師器	壷(B系)					淡赤白褐色	淡赤白褐色	径1mm程の長石･石英を多めに含む	良好	肩部は磨滅して不明(ミガキ?)その上に突帯貼付後工具で横にナデ付け	頸部下は指オサエ、ナデ	扁平突帯に格子目状線刻。口縁部との接合面残るが、そこに粘土を密着させるためのハケ目施す　内面に接合痕あり。
8 25	02301	Ⅱ	U	31･32	SW−02		古式土師器	小型甕	11.10	(9.90)	11.30	2.50	淡灰褐色	淡灰褐色	径1mm程の長石を含む	良好	胴下半はハケ目、上半はハケ目後ナデ　口縁部はハケ目	胴下半は雑な工具ナデ、上半は工具ナデ後ナデ　口縁部はハケ目	頸部に接合痕あり。外面胴部下半に黒斑あり。
78 26	02289	Ⅱ	U	32	SW−02		古式土師器	小型甕	8.10	(11.30)	10.30		焦げ褐色	焦げ褐色	径1mm程の砂粒を含む。褐色粒子を持つ	良好	全面ハケ目後?ナデ	胴部は工具ナデ　口縁部はナデ	外面底部に黒斑あり。
78 27	02326	Ⅱ	U	31･32	SW−02		古式土師器	小型甕	12.30	12.00	13.50		淡暗赤褐色	淡暗褐色	径2mm程の長石･石英を多めに含む	良好	胴部はハケ目　口縁部～肩部はナデ	胴部はナデ　口縁部はナデ	外面に黒斑や器面剥離、内面に炭素吸着あり。
78 28	02290	Ⅱ	U	31･32	SW−02		古式土師器	甕(B系)	2.20			(4.20)	暗褐色	暗褐色	小片の長石･雲母を含む	良好	底部はナデ　胴下位はタタキ	底部は工具ナデ	
78 29	02295	Ⅱ	U	31･32	SW−02		古式土師器	甕(B系)					暗褐色	暗褐色	小片の長石･石英を多めに含む	良好	胴部上半は太筋タタキ　口縁部は	胴上半はナデ　口縁部はナデ	内面に黒斑。
78 30	02305	Ⅱ	V	33	SW−02		古式土師器	小型甕(B系)		11.70	12.00		淡黄褐色	淡黄褐色	径1mm程の長石･石英を多く含む。褐色粒子を持つ。黒色粒子を持つ	良好	胴部はハケメ　口縁部はナデ	胴下半はケズリ、上半はハケメ　口縁部はナデ	外面は二次焼成。内面は炭素吸着。
78 31	02286	Ⅱ	U	32	SW−02		古式土師器	壷	10.60	(12.80)	17.40		暗白褐色	暗白褐色	径1mm程の長石･石英･小片の雲母を含む	良好	胴部はハケ目　口縁部はハケ目後ナデ	胴部は工具ナデ後ケズリ　頸部に指頭圧痕残る　口縁部はナデ	外面に煤付着。
78 32	02298	Ⅱ	U	31･32	SW−02		古式土師器	甕(B系)	9.20	(16.90)			暗白褐色	暗白褐色	径2mm程の長石･石英を多く含む	良好	胴部は太筋タタキ　口縁部はナデ	胴部はケズリ後ナデ　口縁部は工具ナデ	内外面に煤が付着。
78 33	02303	Ⅱ	U	31	SW−02		古式土師器	甕(C系)	11.90	(15.00)	18.70		暗黄褐色	暗黄褐色	径1～2mm程の石英を多めに含む	良好	胴上半はタタキ後ハケ目　口縁部は回転的横ナデ	胴上半はケズリ　口縁部は回転的横ナデ	口縁端部面取り。外面に煤、内面に炭素吸着。
78 34	02306	Ⅱ	V	33	SW−02		古式土師器	甕(D系)	7.20	(14.70)			淡灰黄褐色	淡灰黄褐色	小片の砂粒を多く含む(黒雲母を含む)	良好	胴上半は縦ハケ後横ハケ　口縁部～肩部は横ナデ	胴部上半はケズリ　口縁部は横ナデ	外面肩部に櫛描波状文廻る。内外面に焦げや煤が付着。
78 35	02302	Ⅱ	U	31	SW−02		古式土師器	甕(D系)	14.70	(18.10)	19.80		暗褐色	暗褐色	径1～2mm程の長石･石英を多く含む	良好	胴部は縦･横ハケ目?後ナデ　口縁部は回転横ナデ	胴部はケズリ(中位に指頭圧痕が残る)　口縁部は回転的横ナデ	外面に煤付着。内面に炭素吸着。
78 36	02292	Ⅱ	U	31･32	SW−02		古式土師器	甕(D系)	7.85	15.90			白褐色	白褐色	径1mm程の長石･石英を含む。褐色粒子を持つ	良好	胴部上半はハケ目後肩部に回転的横ナデ　口縁部は回転的横ナデ	胴部はケズリ　口縁部は回転的横ナデ	外面肩部に列点文が廻る。
78 37	02287	Ⅱ	U	31･32	SW−02		古式土師器	甕(D系)	15.80	(15.80)	17.50		黒色	黒褐色	径1mm程の長石を多く含む	良好	胴下半はハケ目、上半は縦ハケ後横ハケ　口縁部は横ナデ	胴部はケズリ　口縁部は横ナデ	外面は煤付着。内面は炭素吸着。
78 38	02293	Ⅱ	U	31･32	SW−02		古式土師器	甕(D系)	9.40	(14.10)	17.50		白褐色	白褐色	径1mm程の長石･石英を多く含む	良好	胴部は縦ハケ目後横ハケ目　口縁部～頸部は回転的横ナデ	胴部はケズリ　口縁部は回転的横ナデ	内外面に焦げや煤が付着。
78 39	02300	Ⅱ	U	31･32	SW−02		古式土師器	甕(D系)	17.00	(17.20)	21.60		黄褐色	黄褐色	径1mm程の長石･石英を多く含む	良好	胴上半は縦ハケ後横ハケ　口縁部～肩部は回転的横ナデ	胴部はケズリ　口縁部は回転的横ナデ	内面に焦げや煤が付着。
80 40	02323	Ⅱ	U	31･32	SW−02		古式土師器	小型壷	11.00	10.70	13.40		暗白褐色	暗褐色	小片の長石を含む	良好	胴部はハケ目　口縁部はナデ	胴部は工具ナデ?(工具痕あり)　口縁部はハケ目後ナデ	外面に煤付着。
80 41	02325	Ⅱ	U･W	31･32	SW−02		古式土師器	小型丸底壷(畿内系影響B系)	10.25	11.00	13.20		暗赤褐色	暗白褐色	精良	良好	胴下半はまばらなミガキ、上半～口縁部はハケ目後細密横ミガキ	底部はすだれ状螺旋ハケ目　胴部は横ハケ　口縁部は横ハケ	外面に煤付着。
80 42	02327	Ⅱ	V･W	31･32	SW−02		古式土師器	長頸壷	12.70	(8.30)	11.40		白褐色	白褐色	径2mm程の長石･石英を多めに含む	良好	胴部はナデ　口頸部はハケ目後ナデ	胴部は工具ナデ後ナデ　口頸部は工具ナデやナデ	外面胴部に二次焼成や煤付着あり。
80 43	02338	Ⅱ	V	31	SW−02		古式土師器	長頸壷(C系)	8.30	13.00			赤褐色	赤褐色	径1～2mm程の長石･石英を含む。褐色粒子を持つ	良好	口頸部はハケ目後細密横ミガキ	ハケ目後暗文風縦ミガキ	外面口頸端部は二次焼成。
80 44	02324	Ⅱ	U	31･32	SW−02		古式土師器	二重口縁壷	14.70	(41.80)			暗褐色	淡白褐色	径2mm程の長石･小片の雲母を含む	良好	一次口縁はハケ目　二次口縁はハケ目後ナデ	胴上半はハケ目　頸部はハケ目　口縁部はハケ目後ナデ	口縁部突帯は貼付後ナデ付け。内面に黒斑あり。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器（土製品）の法量と特徴〈法量 上段：土器　下段：土製品〉													
挿図番号							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・脚部・高台径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
80 45	02329	Ⅱ	U	33	SW−02		古式土師器	壷(C系	8.20	19.70			白褐色	白褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む	良好	頸部〜肩部はハケ目後細密横ミガキ　二次口縁部は細密横ミガキ	胴上位はナデ　頸部〜二次口縁部は細密横ミガキ	口頸部に煤付着。内面胴上位は点状に剥離。
80 46	02331	Ⅱ	U	33	SW−02		古式土師器	壷	6.30	(19.70)			白黄褐色	白黄褐色	径1mm程の長石・石英を多めに含む	良好	口縁部はハケ目　口縁部上半はナデ	口縁部はハケ目　口縁部上半はナデ	
80 47	02307	Ⅱ	V	33	SW−02		古式土師器	二重口縁甕(山陰系)	6.90	(17.60)			白黄褐色	白黄褐色	径1〜2mm程の長石・石英を多めに含む。褐色粒子を持つ	良好	口縁部?肩部は横ナデ	胴部上半はケズリ　口縁部は横ナデ	
80 48	02328	Ⅱ	U	31·32	SW−02		古式土師器	壷(D系)	24.50	16.20	(27.70)		白褐色	白褐色	径1mm程の長石・石英を多めに含む。褐色粒子を持つ	良好	胴部は縦ハケ目後肩部に横ハケ目　口縁部〜頸部は回転の横ナデ	胴部はケズリ　頸部はナデや指オサエ　口縁部は回転の横ナデ	外面に煤付着。
80 49	02337	Ⅱ	V	32	SW−02		古式土師器	小型丸底壷(C系)	5.90	11.20	10.50				やや精良。褐色粒子を持つ	良好	胴部も口縁部も細密横ミガキ	底部は工具ナデ後ナデ　胴部はナデ　口縁部はハケ目	
80 50	01192	Ⅱ	V	32	SW−02		古式土師器	低脚付小型丸底壷(C系)	9.00	12.50	9.20				径1mm程の長石・石英・小片の雲母を含む	良好	低脚頸部は細密横ミガキ　接合部はナデ付け　壷胴部〜口縁部は細密横ミガキ	低脚裾部はすだれ状螺旋ハケ目　壷胴部は放射状縦ミガキ　口縁部は縦ミガキ	
80 51	02340	Ⅱ	U	31·32	SW−02		古式土師器	小型器台(B系)	6.20	(7.60)			淡黒褐色	淡黒褐色	径1mm程の長石を多めに含む	良好	脚裾部はナデ　脚柱部は工具ナデ	脚裾部はナデ　受部はナデ	
80 52	02343	Ⅱ	U	33	SW−02		古式土師器	小型器台(C系)	3.15	9.80			暗褐色〜白褐色	暗褐色〜白褐色	やや精良	良好	受部は細密横ミガキ、端部に横ナデ	受部に放射状ミガキ、端部に横ナデ	受部外面に沈線あり。内外面に煤付着。受部底は使用による磨滅。
80 53	02341	Ⅱ	U	31·32	SW−02		古式土師器	小型器台(C系)	2.50	9.65			淡赤褐色	淡赤褐色	やや精良。褐色粒子を持つ	良好	受部はナデ、立ち上がりは横ナデ	受部はナデ、立ち上がりは横ナデ	脚部との接合面が残る（脚頂部凸面付加法）。
80 54	02350	Ⅱ	U	33	SW−02		古式土師器	椀	5.10	11.70			白褐色	赤褐色	径2mm程の石英・長石を多めに含む	良好	ケズリ後ハケ目　端部はナデ	体部下半はミガキ状ナデ、上半はナデ	外面に煤、内面に炭素吸着。
80 55	02346	Ⅱ	U	31·32	SW−02		古式土師器	椀	5.00	11.20			暗褐色	暗褐色	径1mm程の長石を多めに含む	良好	ナデ(一部ケズリ?)	体部下半はミガキ後ナデ、上半はケズリ	葉脈のような線刻あり。
80 56	00937	Ⅱ	U	31·32	SW−02		古式土師器	椀	5.90	8.80			暗白褐色	白〜暗赤褐色	径1mm程の長石を多めに含む	良好	指オサエ、ナデ	指オサエ、ナデ	内外面に黒斑あり。
80 57	02347	Ⅱ	U	31·32	SW−02		古式土師器	椀	5.50	8.50			暗褐色	暗褐色	径1mm程の長石・石英を多めに含む	良好	指オサエ、ナデ	指オサエ、ナデ	外面に黒斑あり。
80 59	02349	Ⅱ	U	31·32	SW−02		古式土師器	椀	2.20	(9.70)			黒褐色	黒褐色	径2mm程の石英・長石を多く含む	良好	指オサエ、ナデ	指オサエ、ナデ	全体的に炭素吸着。
80 60	02351	Ⅱ	U	31·32	SW−02		古式土師器	鉢?	11.70	(21.40)			白褐色	白褐色	径2mm程の石英・長石を多めに含む	良好	全面縦ハケ目後部分的に横ハケ目	体部下半はナデ、上半は工具ナデ	外面に煤、内面に焦げ。
80 61	02342	Ⅱ	U	31·32	SW−02		古式土師器	小型器台(東海系)	7.30				暗白褐色	暗白褐色	径1〜3mm程の砂粒を多めに含む	良好	脚柱・裾部ともに縦ハケ目後ミガキ状の縦ナデ（屈曲部にハケ目痕残る）	脚裾部はハケ目後ナデ、脚柱部はケズリ後ナデ　受部はミガキ?	脚柱・裾部に縦直列に穿孔。粘土溜りから受部・脚部間穿孔後に受部調整や脚部穿孔。
80 62	02344	Ⅱ	U	31	SW−02		古式土師器	高坏(B系)	10.50				白赤褐色	暗白赤色	径1〜2mm程の長石・石英を多めに含む。褐色粒子を持つ	良好	全面磨滅して不明	脚裾部は工具ナデ　坏部はミガキ?	坏部内面に炭素吸着あり。
80 63	01182	Ⅱ	U	31·32	SW−02		古式土師器	高坏(D系)	7.50			12.00	淡赤褐色	淡赤褐色	やや精良。褐色粒子を持つ	良好	脚裾部はハケ目、脚柱部は縦ハケ	脚裾部はハケ目、脚柱部は指ナデ	脚屈曲部に2ヶ所穿孔。脚頂部は坏部との接合面かどうか微妙。
80 64	02345	Ⅱ	V	32	SW−03		古式土師器	高坏(B系)	13.10	(19.30)		(11.20)	赤白褐色	赤白褐色	小片の長石・石英を多めに含む。褐色粒子を持つ	良好	全面磨滅して不明　脚柱部は縦工具ナデ?	全面磨滅して不明　脚柱部はナデ	坏・脚の接合部に工具痕。脚裾部に4ヶ所穿孔。
114 1	02352	Ⅱ	(Y)	34 (32)	SW−03		古式土師器	甕or壷	9.90				茶褐色	茶褐色	径1mm程の長石・石英・小片の雲母を多く含む	良好	胴下半は縦ハケ目	胴下半はケズリ　底部は指オサエ?	
124 1	02112	Ⅱ	R	31	SR−01	①·②	古式土師器	甕(A系)	28.60	16.60	21.60		明黄褐色	明黄褐色	6mm以下の石英・長石をやや多く、雲母をわずかに含む	良好	底部はナデ　胴部はハケメ　口縁部は横ナデ	胴部はハケメ　口縁部はハケメ	外面に黒斑。
124 2	02115	Ⅱ	R	31	SR−01	③·④	古式土師器	二重口縁壷(A系)	12.60	25.20					3mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	肩部はハケ目　頸部はハケ目　二次口縁は横ナデ	頸部下はハケ目　頸部はナデ　口頸部全体はハケ目	頸部に刻目突帯貼付後横ナデ付け。
124 3	02113	Ⅱ	R	31	SR−01	⑤	古式土師器	二重口縁壷(A系)		25.20			明黄褐色	明黄褐色	6mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	胴上半はハケ目　頸部はハケ目　二次口縁部はハケ目後横ナデ	胴上半はハケ目　頸部に指頭圧痕　口頸部全体にハケ目	頸部刻目突帯貼付後ナデ付け。
124 4	02114	Ⅱ	R	31	SR−01	④	古式土師器	二重口縁壷(A系)	34.70	25.00	31.50		明黄褐色	明黄褐色	1mm以下の石英・長石を少し、雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好	胴下位は太筋タタキ、中〜上位はハケ目　一次口縁はハケ目　二次口縁はハケ目後横ナデ	胴部はハケ目　一次口縁はハケ目　二次口縁はハケ目後ナデ	外面胴部下位に突帯貼付後横ナデ付け。頸部突帯貼付後横ナデ付け。頸部突帯と口縁屈曲部にハケ目列点文が廻る。外面に黒斑。
129 1	02681	Ⅲ	X·Y	30·31	第Ⅲ面遺構検出面	SG−01	弥生土器	壷	36.80	22.80		10.10	淡赤褐色	淡赤褐色	径1〜2mm程の長石・石英を多めに含む。褐色粒子を持つ	良好	口縁部は横ナデ　頸部は摩耗　胴部は横ミガキ　底部縁は縦ハケ目	頸部はハケ目の後にナデ　胴部の一部にハケ目	
129 2	02686	Ⅲ	イ	31	第Ⅲ面遺構検出面	SG−01	弥生土器	壷	7.00	(32.00)			白褐色	淡暗白褐色	径1〜3mm程の長石・石英を多く含む。褐色粒子を持つ	良好	摩滅　ミガキ?	ミガキ?	
129 3	02684	Ⅲ	Z	31	第Ⅲ面遺構検出面	SG−01	弥生土器	壷	2.80			5.40	白褐色	白褐色	やや精良	良好	ナデ	ナデ	
130 1	01147	Ⅲ	ア	30	第Ⅲ面遺構検出面	SG−02	弥生土器	甕	23.90	22.40		8.20	淡赤褐色	淡赤褐色	径1〜3mm程の長石・石英を多めに含む	良好	横条痕　底部はナデ	ナデ	
130 2	01108	Ⅲ	Z	32	第Ⅲ面遺構検出面	SG−02	弥生土器	小型壷	11.50	7.55	10.10	4.60	灰茶褐色〜暗橙色	灰茶褐色〜暗橙色	微〜1mm大砂粒を比較的多く含む。(長石・石英・金雲母)やや精良	良好	横ミガキ　底部に穿孔	口縁部は横ミガキ　下半はナデ	
130 3	02698	Ⅲ	Z	32	第Ⅲ面遺構検出面	SG−02	弥生土器	小型壷	15.70	9.30	15.15	6.20	橙色〜浅橙色	橙色〜浅橙色	微砂粒含む。(長石・石英・金雲母(多))精良	良好	横ミガキ　焼成後の小孔?	横ナデ	
130 4	02683	Ⅲ	Z	31	第Ⅲ面遺構検出面	SG−02	弥生土器	壷	6.00	12.80			黄赤褐色	黄赤褐色	径1〜3mm程の長石・石英を多く含む	良好	口縁部は横ミガキ　胴部は横ミガキ　文様	ナデ	
130 5	02680	Ⅲ	ア	30	第Ⅲ面遺構検出面	SG−02	弥生土器	壷	12.30	(11.10)		6.60	暗白褐色	暗白褐色	径1mm程の長石・石英を多く含む	良好	口縁部は横ナデ　体部下半は横ミガキ	ナデ　底部周辺は横ミガキ状	
130 6	02523	Ⅲ	Z	31	第Ⅲ面遺構検出面	SG−02	弥生土器	鉢	5.40	(19.60)			灰褐色(摩滅部分は赤味おびた灰白色)	黒灰色〜灰褐色	精良土	良好	口縁部は摩滅　下半は横ミガキ?	摩滅　一部に横ミガキ残る	
130 7	02685	Ⅲ	イ	30	第Ⅲ面遺構検出面	SG−02	弥生土器	鉢	6.80	(20.40)			黒褐色	黒褐色	径1mm程の長石・石英を多く含む。金雲母片を持つ	良好	横ミガキ	横ミガキ	
130 8	02524	Ⅲ	Z	31	第Ⅲ面遺構検出面	SG−02	弥生土器	鉢	4.70	(21.00)			黒灰色	濃灰褐色	0.5mm大砂粒、比較的多い（長石など）。2〜3mm大の砂粒も微量含む	良好	口縁部は細かな横ミガキ	下半は太めの横ミガキ	
130 9	02693	Ⅲ	Z	32	第Ⅲ面遺構検出面	SG−02	弥生土器	鉢	12.10	(22.40)		(7.70)	淡赤褐色	淡赤褐色	径1〜3mm程の長石・石英を多く含む	良好	口縁部は横ナデ　体部はナデ	ナデ	
134 1	02520	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	南東端部 砂中	弥生土器	甕	28.00	24.60		6.70	茶褐色〜黄茶褐	茶褐色〜黄茶褐	1〜3mmまでの砂粒、比較的多い	普通	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目　底部はナデ	ナデ　下半に炭化物	**炭素年代測定。済。**
134 2	02682	Ⅲ	X	31	第Ⅲ面遺構検出面		弥生土器	鉢					白褐色	白褐色	径1〜3mm程の長石・石英を含む	良好	縦ハケ目の後にナデ	ミガキ	
134 3	02502	Ⅲ	Z	34	第Ⅲ面遺構検出面		弥生土器	甕							比較的精良土に1〜3mm砂粒少し。石英・長石・雲母（金・黒）		口縁部はナデ　体部は細かな縦ハケ目　摩滅	ナデ　指押さえ	
134 4	02669	Ⅲ	Q	37	第Ⅲ面遺構検出面	黒粘1面	弥生土器	蓋	9.20			25.30	白褐色〜淡赤褐色	白褐色〜淡赤褐色	径1mm程の砂粒多く含む	良好	縦ハケ目	横ハケ目	

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器　下段:土製品〉												
挿図番号							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・脚基・高台径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
134 5	02670	Ⅲ	Z	28	第Ⅲ面遺構検出面		弥生土器	小型壷	9.20				淡黒褐色	淡灰褐色	径1～2mm程の長石・石英を多めに含	良好	横ミガキ　肩部に文様	ナデ	
134 6	02678	Ⅲ	X	30	第Ⅲ面遺構検出面		弥生土器	壷	6.10	(11.60)			淡黄淡褐色	淡黄淡褐色～暗こげ茶色	径1mm程の長石・石英を多く含む。褐色粒子を持つ		口頸部下半はナデ、上半は横ナデ	胴上半はナデ　口頸部は横ナデ	外面肩部に鳥足施文後沈線が2本廻る。口縁端部内面に鳥足施文。
134 7	02521	Ⅲ	Z	31	第Ⅲ面遺構検出面		弥生土器	壷	6.00		(20.00)		黒灰色	黒灰色	精良土	良好	ミガキ　貼り付け文	ナデ	
134 8	02679	Ⅲ	X·Y	30·31	第Ⅲ面遺構検出面		弥生土器	壷	12.50				黒褐色	黒褐色	径1～2mm程の長石・石英を多く含む	良好	口縁部は横ナデ　頸部は横ミガキ　沈線の文様　胴部も横ミガキ	頸部は横ミガキ	
134 9	02695	Ⅲ	U	39	第Ⅲ面遺構検出面		弥生土器	壷	2.60	(16.90)			淡灰褐色	淡灰褐色	径1～3mm程の砂粒を多く含む	良好	口縁部は横ナデ	ナデ	
134 10	02501	Ⅲ	Z	34	第Ⅲ面遺構検出面		弥生土器	大型壷	3.60	(49.40)			淡黄褐色(～赤味帯びた灰白色)	淡黄褐色(～赤味帯びた灰白色)	1mm程度の砂粒含む。長石多い	良好	口縁部は横ナデ　頸部は横ミガキ	粗いハケ目	
134 11	02676	Ⅲ	S	29	第Ⅲ面遺構検出面		弥生土器	鉢	6.10	8.50			乳赤褐色	乳赤褐色	径1mm程の長石・雲母を含む	良好	口縁部は横ナデ　体部はナデ	ナデ	
134 12	02675	Ⅲ	S	29	第Ⅲ面遺構検出面		弥生土器	鉢	7.10	9.70			暗褐色	暗褐色	径1～2mm程の砂粒を多めに含む。黒色粒子を持つ	良好	口縁部は横ナデ　体部はナデ	ナデ	
134 13	02674	Ⅲ	S	29	第Ⅲ面遺構検出面		弥生土器	鉢	7.30	9.20			白褐色	白褐色	径1～2mm程の砂粒含む	良好	口縁部は横ナデ　体部はナデ	ナデ	
134 14	02677	Ⅲ	X	29	第Ⅲ面遺構検出面		弥生土器	小型壷	9.50	9.40		6.00	灰褐色	灰褐色	径1mm程の長石を多く含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	
134 15	02661	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	取上げ区画⑦、耕作土と黒色流路の西側	弥生土器	器台	16.30	8.70		9.90	乳赤褐色～白褐色	乳赤褐色～白褐色	径1～2mm程の長石・石英を多めに含む	良好	縦ハケ目	ナデ	
134 16	02500	Ⅲ	Z	34	第Ⅲ面遺構検出面		弥生土器	高坏	6.00				橙色～淡橙色		1mm程度砂粒多い。	良好	脚柱部は横ミガキ	坏部はナデ	
134 17	02694	Ⅲ	T	33	第Ⅲ面遺構検出面	①	弥生土器	高坏	8.60				赤褐色	赤褐色	径1～3mm程の砂粒を多めに含む	良好	ナデ	坏部はナデ	
136 1	02738	Ⅲ	W	29	第Ⅲ面遺構検出面		土製品	鏡?					白褐色～黄褐色		径2mm程の石英・長石を多めに含む	良好			
136 2	02735	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	黒粘2面	土製品	匙?					白褐色		径2mm程の長石を含む	良好			
136 3	02736	Ⅲ	Z	28	第Ⅲ面遺構検出面		土製品	不明					白褐色		軽石状になる。褐色粒子を持つ				
136 4	02594	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面		土器	注口土器					白褐色	白褐色	径1mm程の砂粒(長石)を多く含む。	良好	ナデ		
136 5	02672	Ⅲ	S	29	第Ⅲ面遺構検出面		土器	注口土器					暗白褐色	暗白褐色	径2mm程の長石を含む	良好	ナデ		
136 6	02671	Ⅲ	S	29	第Ⅲ面遺構検出面		土器	注口土器					淡白褐色	淡白褐色	径1mm程の長石を含む。褐色粒子を持つ	良好	ナデ		
136 7	02673	Ⅲ	S	29	第Ⅲ面遺構検出面		土器	注口土器					淡赤褐色	淡赤褐色	径1mm程の長石を含む。褐色粒子を持つ	良好	ナデ		
136 8	02663	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	黒粘1面	土器	注口土器					黒褐色	黒褐色	径1～2mm程の長石・石英を多めに含む	良好	ナデ		
136 9	02691	Ⅲ	V	34	第Ⅲ面遺構検出面		土器	注口土器					淡黄褐色	淡黄褐色	径2mm程の石英を多く含む	良好	ナデ		
136 10	02688	Ⅲ	ウ	32	第Ⅲ面遺構検出面		弥生土器	把手					淡暗褐色		径1～3mm程の長石・石英を多く含む	良好	ナデ		
136 11	02603	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	北拡張区6区 遺構検出面2層	土製品	土玉	1.80	1.55	1.60		灰褐色		やや精良	良好			
136 12	02739	Ⅲ	Z	32	第Ⅲ面遺構検出面		土製品	不明					白褐色		径1～2mm程の長石・石英を多く含む	良好			
136 13	02729	Ⅲ	Z	28	第Ⅲ面遺構検出面		土製品	不明											
136 14	02730	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画⑤、黒粘1面	土製品	円盤	3.36	3.43	0.50		灰茶色	灰茶色	微砂粒多め	良好			
136 15	02595	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	北拡張区	土製品	土錘	5.20				白褐色	白褐色	径1mm程の砂粒(石英・長石など)を多く含む。	良好		ナデ　指押さえ	
136 16	02734	Ⅲ	エ	32	第Ⅲ面遺構検出面		土製品	土錘	8.97	4.90	4.54		灰茶色		1～2mm大砂粒多い				
137-a 1	02709	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画⑤、黒粘1面	土製品	投弾	2.08	1.31	1.29		淡灰色		小型。両端にしぼり痕。砂少	良好			
137-a 2	02704	Ⅲ	ウ	32	第Ⅲ面遺構検出面		土製品	投弾	2.67	1.74	1.78		灰色、淡灰色		わずかに磨滅?小型	良好			
137-a 3	02725	Ⅲ	Z	28	第Ⅲ面遺構検出面		土製品	投弾	2.86	2.00	1.82		灰色(わずかに赤味)		小砂粒多い	良好			
137-a 4	02598	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	北拡張区	土製品	投弾	3.00	2.00	2.10		赤褐色～白褐色		径2mm程の砂粒(長石)を含む。	良好		ナデ	
137-a 5	02722	Ⅲ	ア	33	第Ⅲ面遺構検出面		土製品	投弾	2.02	1.89	1.81		灰色(部分的に赤灰色)		わずかに砂粒。一方にふくらむ	良好			
137-a 6	02716	Ⅲ	Y	28	第Ⅲ面遺構検出面		土製品	投弾	3.05	1.55	1.57		灰色		砂少。表面やや凹凸	良好			
137-a 7	02715	Ⅲ	Y	27	第Ⅲ面遺構検出面		土製品	投弾	2.88	1.61	1.45		灰茶色		わずかに砂粒。上端がとがる	良好			
137-a 8	02710	Ⅲ	Z	28	第Ⅲ面遺構検出面		土製品	投弾	2.97	1.86	1.80		淡灰色		やや磨耗	良好			
137-a 9	02701	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画⑤、2面	土製品	投弾	3.32	1.64	1.51		灰茶色		砂粒少。雲母。割に重い	良好			
137-a 10	02723	Ⅲ	W	30	第Ⅲ面遺構検出面		土製品	投弾	3.32	1.95	1.56		濃い灰色		わずかに砂粒。一部にへこみ。欠損ではない	良好			
137-a 11	02705	Ⅲ	U	35	第Ⅲ面遺構検出面		土製品	投弾	2.22	1.73	1.67		1.67		砂粒少。表面やや磨耗	良好			
137-a 12	02700	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画⑫、2面	土製品	投弾	3.31	2.07	1.95		灰色		砂粒少で精良に近い。表面わずかに磨耗気味	良好			
137-a 13	02702	Ⅲ	T	34	第Ⅲ面遺構検出面		土製品	投弾	3.38	1.87	(1.61)		灰色		ごくわずかに砂粒。断面はやや扁平か	良好			
137-a 14	02728	Ⅲ	Z	28	第Ⅲ面遺構検出面		土製品	投弾	3.93	2.14	2.09		灰茶色		微砂粒多い	良好			
137-a 15	02707	Ⅲ	Z	28	第Ⅲ面遺構検出面		土製品	投弾	3.71	2.06	1.99		濃灰色		極小砂粒わずか。ほとんど磨耗なし	良好			
137-a 16	02714	Ⅲ	Q	27	第Ⅲ面遺構検出面	1面	土製品	投弾	4.11	2.39	(2.13)		灰色		砂粒少。精良土。両端丸み。へこみなし。器面なめらか	良好			
137-a 17	02604	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	北拡張区水田	土製品	投弾	3.80	2.45	2.20		灰褐色		径1mm程の長石・雲母を含む。褐色粒子を含む	良好			
137-a 18	02712	Ⅲ	T	34	第Ⅲ面遺構検出面		土製品	投弾	4.13	2.58	2.56		灰茶色		極小粒わずか。上端を尖らせるために両端を強く締めている	良好			
137-a 19	02719	Ⅲ	R	28	第Ⅲ面遺構検出面	階段	土製品	投弾	(4.24)	2.45	2.40		白灰色		やや軟質。砂少(精良)				
137-a 20	02597	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	北拡張区	土製品	投弾	4.00	2.30	3.40		赤褐色		径0.5mm程の砂粒(長石)を少し含む	良好		ナデ	
137-a 21	02737	Ⅲ	W	29	第Ⅲ面遺構検出面		土製品	投弾					灰褐色		径1mm程の長石を含む。		線刻文		
137-a 22	02711	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面		土製品	投弾	3.95	2.38	2.32		灰色		両端小さく光る。砂粒少。調整は丁寧。良く整った形状	良好			
137-a 23	02708	Ⅲ	Z	28	第Ⅲ面遺構検出面		土製品	投弾	4.00	2.44	2.27		濃灰色(一部的		極小砂粒。粘土のこねたシマ。調整丁寧	良好			

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器（土製品）の法量と特徴〈法量 上段：土器　下段：土製品〉												
							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・脚部・高台径	色調		胎土	焼成	調整		備考
挿図番号							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
137-a 24	02726	Ⅲ	R	28	第Ⅲ面遺構検出面		土製品	投弾	(4.24)	2.62	(2.20)		濃灰色		微小砂粒多い	良好			
137-a 25	02721	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面		土製品	投弾	(4.26)	2.49	2.22		灰茶色		わずかに砂粒。調整丁寧	良好			
137-a 26	02718	Ⅲ	R	28	第Ⅲ面遺構検出面	階段	土製品	投弾	(4.48)	2.56	(1.49)		淡灰色（肌）		表面磨耗	良好			
137-a 27	02713	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	黒粘1面	土製品	投弾	4.29	2.82	2.67				高温で焼成。表面でヒビ。砂少。両端へこみ。調整丁寧	良好			
137-a 28	02699	Ⅲ	Z	28	第Ⅲ面遺構検出面		土製品	投弾	4.31	2.47	2.50		灰色		1mm大の砂粒。調整削りに丁寧。重量感あり	良好			
137-a 29	02703	Ⅲ	W	29	第Ⅲ面遺構検出面		土製品	投弾	4.54	2.51	2.50		灰色		大型。表面の調整良。なめらか砂粒も少ない。精良土に近い。形状整っている	良好			
137-a 30	02717	Ⅲ	Y	31	第Ⅲ面遺構検出面		土製品	投弾	4.49	2.29	2.34		灰色		砂少（精良）。調整削に良	良好			
137-a 31	02720	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	階段	土製品	投弾	4.52	2.54	2.44		灰茶褐色		ごくわずかに砂粒。調整よし	良好			
137-a 32	02724	Ⅲ	T	29	第Ⅲ面遺構検出面		土製品	投弾	(4.36)	2.53	2.59		灰色		重量感あり。小砂粒多め	良好			
137-a 33	02706	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面		土製品	投弾	4.44	2.69	2.61		淡灰茶色		砂小。大型。重量感あり	良好			
137-a 34	02727	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	黒粘2面⑤・⑫	土製品	投弾	4.52	2.49	2.34		灰色（一部黒み）		小砂粒多い。表面ざらつく。調整痕不明	良好			
137-a 35	02526	Ⅲ	Z	34	第Ⅲ面遺構検出面		土製品	投弾	4.60		2.40		灰褐色～灰白色		精良土	良好	ナデ		
137-b 1	02522	Ⅲ	Z	31	第Ⅲ面遺構検出面	下層	土製品	紡錘車	4.90		2.40		明橙色		精良土	良好	刺突文		
137-b 2	02596	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	北拡張区	土製品	紡錘車	5.70	3.30	1.80		白褐色	白褐色	径1mm程の砂粒（長石）を含む。褐色の粒子が見られる	良好		ナデ	
137-b 3	02731	Ⅲ	ア	29	第Ⅲ面遺構検出面		土製品	紡錘車	5.15	5.05	0.96		灰茶色		小砂粒多い。表面やや磨耗。砂粒露	良好			穴70×69mm。
137-b 4	02733	Ⅲ	Z	31	第Ⅲ面遺構検出面		土製品	紡錘車	5.36	5.36	1.09		灰茶色		1mm大砂粒多い。表面露出	良好			穴59×58mm。
137-b 5	02266	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	SK－06近く	土製品	紡錘車	5.20	5.40	0.70		白褐色		径1mm程の長石を含む。	良好	ナデ		
137-b 6	02732	Ⅲ	Y	28	第Ⅲ面遺構検出面		土製品	紡錘車	4.68	4.74	1.51		黒褐色		精良。全面ミガキで砂粒露出していない	良好			穴60×61mm。
137-b 7	02503	Ⅲ	Z	34	第Ⅲ面遺構検出面		土製品	紡錘車			0.90	0.80	赤味を帯びた灰白色		精良土。微砂粒含む	良好			
166 1	02121	Ⅲ	R	29	SK－001		弥生土器	甕					明黄褐色に赤橙色の顔料塗布	明黄褐色に赤橙色の顔料塗布	4mm以下の石英・長石・雲母を少し含む	良好	口縁部から頸部は横ミガキ　丹塗り	口縁部は横ミガキ　頸部は左斜行のハケ目	
166 2	02120	Ⅲ	Q	30	SK－001		弥生土器	甕		(28.00)			黄褐色	黄褐色	3mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ　直下は斜行ハケ目を横ナデ消し　下半は縦ハケ目	ナデ上げ	
166 3	02116	Ⅲ	Q	30	SK－001		弥生土器	甕	33.80	24.70	25.30	7.50	黄褐色	黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目　括れ部はナデ　外底ナデ	ナデ	
166 4	02117	Ⅲ	R	29	SK－001		弥生土器	甕	16.30	(37.00)			黄褐色	黄褐色	1mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目　突帯は横ナデ	ナデ	
166 5	02119	Ⅲ	Q	30	SK－001		弥生土器	甕					明黄褐色	明赤褐色	1mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ	ナデ	復元口径:34cm前後。
166 6	02118	Ⅲ	R	29	SK－001		弥生土器	甕				8.40	明黄褐色	明黄褐色	3mm以下の石英・長石を少し、雲母を	良好	縦ハケ目　外底はナデ	ナデ？　炭化物付着	
169 1	02123	Ⅲ	Q	30	SK－002		弥生土器	甕					黄褐色	黄褐色	1mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は左斜行のハケ目	口縁部は横ハケ目　下半は左上がりのナデ	復元口径:30cm程度。
169 2	02124	Ⅲ	Q	30	SK－002		弥生土器	甕					明黄褐色～明橙褐色	明黄褐色～明橙褐色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は斜行ハケ目	口縁部は斜行ハケ目	復元口径:30cm前後。
169 3	02125	Ⅲ	Q	30	SK－002		弥生土器	壷					黒灰色	黒灰色	2mm以下の石英・長石を少し含む	良好	横ミガキ	横ミガキ	
169 4	02126	Ⅲ	Q	30	SK－002		弥生土器	壷		(22.00)			黄褐色～橙褐色	黄褐色～橙褐色	1mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	横ミガキ	口縁部は横ミガキ　頸部はナデ	
169 5	02128	Ⅲ	Q	30	SK－002		弥生土器	鉢		(16.60)			明黄灰色	明黄灰色	1mm以下の雲母を少し、石英・長石をわずかに含む（精良）	良好	横ミガキ	横ミガキ	
169 6	02127	Ⅲ	Q	30	SK－002		弥生土器	鉢					黒色	黒色	1mm以下の石英・長石をわずかに含む（精良）	良好	横ミガキ	横ミガキ	
169 7	02122	Ⅲ	Q	30	SK－002		弥生土器	壷			(35.00)		黄褐色～明黄褐色、一部橙褐色	黄褐色～明黄褐色、一部橙褐色	4mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	頸部はハケ目の後にナデ　胴部はハケ目の後に横ミガキ	頸部はハケ目の後横ミガキ　胴部はナデ	
171 1	02133	Ⅲ	R	30	SK－003		弥生土器	壷	23.10	32.00			白褐色～黄橙色、所々赤橙色	白褐色～黄橙色、所々赤橙色	3mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ　頸部は縦ナデ　胴部はハケ目の後にミガキ　磨耗	頸部は横ミガキ　胴部はナデ　指押さえ	
171 2	02131	Ⅲ	R	30	SK－003		弥生土器	壷		(20.00)	(24.20)		白褐色	白褐色	1mm以下の石英・長石を少し、赤褐色粒・雲母をわずかに含む	良好	摩滅　横ミガキ？	横ミガキ	
171 3	02130	Ⅲ	R	30	SK－003		弥生土器	壷					黄橙色	黄橙色	1mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	横ナデ	横ナデ	復元口径:60cm程度。
171 4	02129	Ⅲ	R	30	SK－003		弥生土器	甕					明黄褐色、一部明橙褐色	明黄褐色、一部明橙褐色	1mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	復元口径:28cm程度。
171 5	02132	Ⅲ	R	30	SK－003		弥生土器	器台	11.90			9.50	明黄褐色、一部明橙褐色	明黄褐色、一部明橙褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	縦ハケ目　下端は横ナデ	シボリ痕	
172 1	02134	Ⅲ	R	30	SK－004		弥生土器	甕					黄褐色、口縁上面は赤橙色	黄褐色、口縁上面は赤橙色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ　指押さえ	復元口径:30cm前後。
172 2	02135	Ⅲ	R	30	SK－004		弥生土器	壷		(24.00)			黄褐色～橙褐色	黄褐色～橙褐色	1mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ　頸部は縦ミガキ　暗文	頸部は横ミガキ	
172 3	02136	Ⅲ	R	30	SK－004		弥生土器	二重口縁壷（山陰系）		(17.20)			明黄褐色	明黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好	横ナデ	口縁部は横ナデ　頸部はナデ？	
172 4	02137	Ⅲ	R	30	SK－004		弥生土器	蓋？	2.40	(3.00)			暗黄褐色	暗黄褐色	1mm以下の雲母を少し、石英・長石をわずかに含む	良好	ナデ	ナデ	
175 1	02149	Ⅲ	Q·R	29	SK－005		弥生土器	甕	17.60	(32.20)			明橙色	明橙色	1mm大の砂粒を比較的多く含む（長石多い、他石英、金雲母など）	普通	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	上半はヘラナデ　下半はナデ	
175 2	02146	Ⅲ	Q·R	29	SK－005		弥生土器	甕	17.70	(26.50)	26.60		黄褐色	浅黄褐色	1～2mm大の砂粒を多く含む。石英多い、他、長石雲母など	普通	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ　指押さえ	
175 3	02145	Ⅲ	Q·R	29	SK－005		弥生土器	甕	8.70			7.80	浅橙色	灰褐色	1～2mm大の砂粒を多く含む（石英多い、雲母）	普通	縦ハケ目　外底ナデ	ナデ	

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器（土製品）の法量と特徴〈法量 上段：土器　下段：土製品〉												
挿図番号							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・脚脂・高台径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
175 4	02143	Ⅲ	R	30	SK−005	南半分	弥生土器	甕	7.40			7.20	灰褐色	灰褐色	1〜2mm大の砂粒を含む	普通	縦ハケ目　外底ナデ	ナデ	
175 5	02142	Ⅲ	R	30	SK−005	南半分	弥生土器	壷	7.50	(38.00)			灰褐色	灰褐色	1〜2mm大の砂粒を比較的多く含む	普通	口縁部は横ナデ　頸部は縦ハケ目部分的に残る　後に縦ミガキ	ミガキ状のナデ	
175 6	02148	Ⅲ	Q·R	29	SK−005		弥生土器	壷	8.50	(39.80)			浅橙色〜灰白色	浅橙色〜灰白色	1mmまでの砂粒を含む。細粒の長石多い	普通	口縁部は横ナデ　頸部は縦のヘラナデ	頸部は横ミガキ　下半は丁寧なナデ	
175 7	02150	Ⅲ	Q·R	29	SK−005		弥生土器	壷	4.00	(35.60)			白褐色	白褐色	やや精良	良好	口縁部は横ナデ　頸部はナデ	ナデ	
175 8	02147	Ⅲ	Q·R	29	SK−005		弥生土器	壷	3.60			7.80	浅橙色	浅橙色	1mm以内の砂粒を含む	普通	ミガキ状のナデ	ヘラナデ	
175 9	02151	Ⅲ	Q	31	SK−005	南半分	弥生土器	器台	11.80	6.70	5.60		暗褐色		精良	良好	指押さえ		
175 10	02144	Ⅲ	Q	31	SK−005		弥生土器	器台	15.90			7.00	浅橙色〜明橙色		1mm以下の砂粒を含む	普通	縦ハケ目	ナデ消し	胴部最小径:5.6cm。
177 1	02153	Ⅲ	Q·R	29	SK−006	図入り①·③·④·⑤	弥生土器	甕	17.90	32.50			白褐色	白褐色	径2mm程の長石·石英を多めに含む。褐色粒子を持つ	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	
177 2	02160	Ⅲ	Q·R	29	SK−006	⑤	弥生土器	甕	15.60	(43.00)			黄褐色	黄褐色	径2mm程の長石·石英を多めに含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は左斜行のハケ目　突帯は横ナデ	口縁部は横ハケ目　部分的　体部はナデ	
177 3	02152	Ⅲ	Q·R	29	SK−006	図入り①	弥生土器	甕	33.20		41.30	9.60	黄褐色	黄褐色	径2mm程の長石·石英を含む	良好	縦ハケ目　外底はナデ	ナデ　下半は炭化物付着?	
177 4	02155	Ⅲ	Q	31	SK−006		弥生土器	壷					黄白褐色	黄白褐色	径1mm程の砂粒多く含む。褐色粒子を持つ	良好	口縁部は横ナデ　頸部はナデ	横ミガキ	
177 5	02158	Ⅲ	Q	31	SK−006		弥生土器	椀	6.40	(12.70)			暗褐色	暗褐色	やや精良	良好	指オサエ、ナデ	工具ナデ	内外面に煤?が付着。
177 6	02154	Ⅲ	S	26	SK−006		弥生土器	甕(D系)							やや精良	良好	口縁部は横ナデ　体部はハケ目	口縁部は横ナデ　体部はケズリ	
177 7	02156	Ⅲ	S	26	SK−006		弥生土器	壷?(山陰系)					灰褐色	灰褐色	径1mm程の長石·石英を多めに含む。褐色粒子を持つ	良好	口縁部は横ナデ　下半はナデ	横ナデ	
177 8	02157	Ⅲ	S	26	SK−006		弥生土器	小型器台(C系)	2.80	9.70			白赤褐色	白赤褐色	径1mm程の砂粒を含む。褐色粒子を持つ	良好	受部はナデ　立ち上がりは横ナデ	受部はナデ　立ち上がりは横ナデ	脚部との接合面が残る。
177 9	02161	Ⅲ	S	26	SK−006		弥生土器	投弾	3.80	2.30	2.40		褐色		径1mm程の長石·石英を多めに含む。褐色粒子を持つ	良好	ナデ		
177 10	02163	Ⅲ	S	26	SK−006		弥生土器	投弾	4.80	2.90	2.90		灰褐色		径1mm程の砂粒を多く含む。	良好	ナデ		
177 11	02162	Ⅲ	S	26	SK−006		弥生土器	投弾	4.90	2.80	2.80		肌色		やや精良。褐色粒子を持つ	良好	ナデ		
177 12	02159	Ⅲ	S	26	SK−006		弥生土器	紡錘車	4.10	4.00	1.10		赤褐色		砂粒多し	良好	ナデ		
181 1	02164	Ⅲ	Q	31	SK−007	①·③	弥生土器	甕(底部穿孔)					暗赤褐色〜暗白褐色	暗赤褐色〜暗白褐色	径3mm程の砂粒を含む。	良好	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕　下半はナデ　外底はナデ	ナデ	
183 1	02165	Ⅲ	T	31	SK−008		弥生土器	壷					白褐色	白褐色	径2mm程の砂粒を多く含む。	良好	口縁突帯部は横ナデ　頸部はナデ	横ミガキ	
186 1	02169	Ⅲ	T	31	SK−009		弥生土器	甕					淡褐色	淡褐色	径1mm程の砂粒を含む。	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	
186 2	02168	Ⅲ	T	31	SK−009		弥生土器	甕					白褐色	赤白褐色	径2mm程の砂粒を多めに含む。	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目の後にナデ　突帯下方は縦ハケ目	ナデ	
186 3	02167	Ⅲ	T	31	SK−009		弥生土器	甕					白褐色〜暗褐色	白褐色〜暗褐色	径2mm程の砂粒を多めに含む。褐色	良好	口縁部は横ナデ　体部はナデ	ナデ	
186 4	02166	Ⅲ	T	31	SK−009		弥生土器	小型丸底鉢(C系)	4.30		(10.00)		白褐色	白褐色	精良。褐色粒子を持つ	良好	ハケメ後ナデ	胴部はナデ　口縁部はハケメ	
188 1	02170	Ⅲ	S	31	SK−011		弥生土器	甕	6.80			7.90	白褐色	白褐色	径2mm程の砂粒を含む。	良好	縦ハケ目　底部縁はナデ	ナデ	
188 2	02171	Ⅲ	S	31	SK−011		弥生土器	甕					白褐色	白褐色	径1mm程の長石·石英を多く含む。	良好	口縁部は横ナデ　体部はナデ	ナデ	
190 1	02172	Ⅲ	U	31	SK−012	①	弥生土器	壷	7.90			12.50	赤褐色	赤褐色	径2mm程の砂粒を多く含む。	良好	剥離で調製痕不明	内底はナデ	
191 1	02174	Ⅲ	T	33	SK−013	検出面	弥生土器	甕	8.40			8.60	白褐色	白褐色	径2mm程の砂粒を含む。	良好	縦ハケ目　外底ナデ	ナデ	
191 2	02173	Ⅲ	T	33	SK−013		弥生土器	甕					淡褐色	淡褐色	径3mm程の長石·石英を多く含む。褐色粒子を持つ	良好	口縁部は横ナデ　体部は左斜行のハケ目	剥離	
193 1	02176	Ⅲ	T	33	SK−014		弥生土器	甕					淡褐色	淡褐色	径2mm程の砂粒を多く含む。	良好	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	ナデ	
193 2	02178	Ⅲ	T	33	SK−014		弥生土器	鉢					淡褐色	淡褐色	径1mm程の砂粒を多めに含む。	良好	口縁部は横ナデ　下半はナデ	ミガキ	
193 3	02179	Ⅲ	T·U	33	SK−014	①	弥生土器	鉢	9.80	14.30		9.80	黄褐色〜黄灰色	黄褐色〜黄灰色	4mm以下の石英·長石を少し、雲母·赤褐色粒をわずかに含む	良好	全面横ミガキ	坏部はナデ　脚部は条痕状	
193 4	02177	Ⅲ	T	33	SK−014		弥生土器	甕					白褐色	白褐色	径1mm程の砂粒を多めに含む。	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	
193 5	02175	Ⅲ	T	33	SK−014		弥生土器	壷					白褐色	白褐色	径1mm程の長石·石英を多く含む。	良好	口縁部は横ナデ	ナデ	
194 1	02180	Ⅲ	S	34	SK−016		弥生土器	甕					赤褐色	赤褐色	径2mm程の砂粒を多く含む。	良好	横条痕	ナデ	
195 1	02182	Ⅲ	R	34	SK−017		弥生土器	甕					白褐色	白褐色	径1mm程の砂粒を含む。	良好	口縁突帯部は横ナデ　横条痕	ナデ　擦刷痕	
195 2	02183	Ⅲ	R	34	SK−017		弥生土器	壷					白褐色	白褐色	径1mm程の砂粒を含む。	良好	口縁突帯部は横ミガキ	ナデ	
195 3	02184	Ⅲ	R	34	SK−017		弥生土器	鉢					黒褐色	黒褐色	やや精良	良好	横ミガキ	横ミガキ	
195 4	02181	Ⅲ	R	34	SK−017		弥生土器	甕					淡褐色	淡褐色	径2mm程の砂粒を多く含む。	良好	口縁部は横ナデ	ナデ	
196 1	02185	Ⅲ	S	34	SK−018		弥生土器	甕					暗褐色	暗褐色	径1mm程の砂粒を多めに含む。	良好	口縁部は横ナデ　左斜行のハケ目	ナデ	
196 2	02186	Ⅲ	S	34	SK−018		弥生土器	壷					黄褐色	黄褐色	やや精良?	良好	横ミガキ	ナデ　胴部上半は強く横ナデ痕	
198 1	02187	Ⅲ	T	33	SK−019		弥生土器	鉢	15.20	(49.70)			淡褐色	淡褐色	径1mm程の砂粒を多く含む。	良好	口縁部は横ナデ　体部はナデ	ナデ　下半は炭化物付着?	
198 2	02188	Ⅲ	T	33	SK−019		弥生土器	甕	8.50	(26.20)			白褐色	白褐色	径3mm程の長石·石英を多めに含む。	良好	口縁部は横ナデ　体部はハケ目の後にナデ	ナデ	
201 1	02190	Ⅲ	T	33	SK−021	遺構検出面	弥生土器	甕					淡褐色	淡褐色	径1mm程の砂粒を多く含む。	良好	口縁部は横ナデ　上面に斜格子文	ナデ	
201 2	02189	Ⅲ	T	33	SK−021	遺構検出面	弥生土器	甕(B系)	6.10	(16.20)			暗白褐色	暗白褐色	径1mm程の砂粒を多く含む。褐色粒子を持つ	良好	胴部はハケメ?(磨滅)　口縁部はナデ	部はケズリ　口縁部はハケメ後ナデ	
204 1	02756	Ⅲ	Y	30	SK−024	うるしの所	弥生土器	甕	14.70	15.40			うすい茶色、灰褐色	うすい茶色、炭化物	砂粒少。精良土に近い	普通	屈曲部上方は横ナデ　下方は横条痕	屈曲部上方は横ナデ　下方は横条痕	
204 2	02769	Ⅲ	Y	31	SK−024		弥生土器	甕	6.60	22.40			灰茶色	灰茶色	1mm以下の砂粒	普通	横条痕	ナデ　指頭圧痕	
204 3	02768	Ⅲ	Y	31	SK−024		弥生土器	甕	6.50	30.00			茶褐色、黒褐色	うす茶色	砂粒ほとんどなし。	高温、堅い	横ナデ	擦刷痕	
204 4	02757	Ⅲ	Y	30	SK−024	うるしの所	弥生土器	甕	4.90	27.40			黒褐色	茶色	1mm大の砂粒多め	普通	横条痕	擦刷痕	
204 5	02767	Ⅲ	Y	31	SK−024		弥生土器	甕	4.90	27.20			黒褐色	茶色	砂粒わずか。1〜2mm大の砂粒	普通	粗いハケ目	ハケ目をナデ消し	
204 6	02755	Ⅲ	Y	30	SK−024	うるしの所	弥生土器	甕					うすい茶色	うすい茶色	わずかに小砂粒	高温	口縁突帯部は横ナデ　体部は横ミガキ	擦刷痕	
204 7	02770	Ⅲ	Y	31	SK−024		弥生土器	甕					灰褐色	灰色	わずかに砂粒	普通	横条痕	ナデ　擦刷痕	
204 8	02775	Ⅲ	Y	30	SK−024	下層	弥生土器	甕					淡茶色(肌色)	淡茶色(肌色)	砂粒ほとんどなし	普通	擦刷痕	擦刷痕	
204 9	02772	Ⅲ	Y	31	SK−024		弥生土器	甕					黒色、スス	うす茶色	わずかに小砂粒	普通	横条痕	ナデ　指頭圧痕	
204 10	02771	Ⅲ	Y	31	SK−024		弥生土器	甕					灰茶色、わずかに灰茶色	灰茶色、わずかに灰茶色	P	高温	横条痕	ナデ　擦刷痕	
204 11	02764	Ⅲ	Y	31	SK−024	下層	弥生土器	甕	6.20				茶褐色、褐色	濃茶褐色	1〜2mm大の砂粒。表裏砂粒露出	普通	横条痕	ナデ(擦刷痕	
204 12	02773	Ⅲ	Y	31	SK−024		弥生土器	甕	7.40				淡黄灰色、灰褐色(ススク)	淡黄灰色	砂粒ほとんどなし	普通	横条痕	ナデ　擦刷痕	
204 13	02774	Ⅲ	Y	31	SK−024		弥生土器	甕	6.90				黒色	灰褐色	わずかに砂粒	堅い	横条痕	逆時計方向の擦刷痕	

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器 下段:土製品〉												
挿図番号							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・脚部高台径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
204 14	02763	Ⅲ	Y	31	SK−024	下層	弥生土器	甕	7.20				茶褐色、褐色	茶褐色、褐色	小砂粒(内面露出)。やや軟質		屈曲部上方は横条痕 下方は左上がりの擦刷痕	横ナデ 屈曲部に粘土接合痕	
204 15	02765	Ⅲ	Y	31	SK−024	下層	弥生土器	甕	7.30				淡茶色	淡茶色	砂粒少。精良土ではない。		横条痕	ナデ(擦刷痕)	
204 16	02760	Ⅲ	Y	31	SK−024	下層	弥生土器	鉢	5.80	20.20			灰黒色	黒色	1mm以下砂粒。砂粒露出	堅い	口縁部は横ナデ 下半は横ミガキ	横ミガキ	
204 17	02212	Ⅲ	Z	31	SK−024	下層	弥生土器	鉢	11.10	23.00	23.80		灰褐色	灰褐色	径1mm程の長石・石英を多めに含む	良好	口縁部は横ナデ 体部は横ミガキ 摩滅	摩滅 調整痕不明	
204 18	02750	Ⅲ	Y	30	SK−024	うるしの所	弥生土器	鉢	7.90	25.40			黒色	黒色	小砂粒	堅い	口縁部は横ナデ 下半は横ミガキ	横ミガキ	
204 19	02213	Ⅲ	Z	31	SK−024	下層	弥生土器	鉢	11.10	(29.20)	(29.80)		黒褐色	黒褐色	径2mm程の砂粒を多めに含む。	良好	全面横ミガキ 体部下半は斜行ミガキ	全面横ミガキ 体部下半は斜行ミガキ	
204 20	02746	Ⅲ	Z	31	SK−024	下層	弥生土器	高坏	7.40				灰色	灰色	砂粒極めて少	普通	縦ハケ目	ナデ	
206 21	02762	Ⅲ	Y	31	SK−024	下層	弥生土器	甕	8.60	24.00			黒褐色	茶鉢色	ほとんどが1mm大の砂粒	普通	口縁部は横ナデ 下半はナデ	口縁部は粗い横ハケ目 下半はナデ上げ	
206 22	02754	Ⅲ	Y	30	SK−024	うるしの所	弥生土器	甕	9.25	27.80			黒色	茶色	砂粒極めて少。精良に近い	普通	口縁下は縦ハケ目 下半は斜行のハケ目	口縁突帯部は横ナデ 下半は粗い横ハケ目	
206 23	02209	Ⅲ	Y	31	SK−024	下層	弥生土器	甕					暗褐色		径1mm程の砂粒を多めに含む。	良好	ナデ 煤付着	ナデ	炭素年代測定。済。
206 24	02761	Ⅲ	Y	31	SK−024	下層	弥生土器	甕	9.10	23.60			茶褐色	茶褐色、褐色	1mm大の砂粒	普通	口縁部は横ナデ 体部は砂粒露出	口縁部は横ハケ目 下半は左上がりのナデ	
206 25	02766	Ⅲ	Y	31	SK−024		弥生土器	甕	7.05	20.00			灰褐色	灰褐色			口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	体部は左斜行のハケ目	
206 26	02204	Ⅲ	Z	31	SK−024	下層	弥生土器	甕	19.70	(22.20)			暗褐色	暗褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む	良好	口縁部は横ナデ 体部は左斜行のハケ目	口縁部は横ハケ目 体部上半は左斜行のハケ目 下半は縦ハケ目	炭素年代測定。済。
206 27	02205	Ⅲ	Y	31	SK−024	下層	弥生土器	甕	15.80	(29.90)			褐色	褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む	良好	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	口縁部は横ハケ目 体部はナデ	
206 28	02208	Ⅲ	Y	31	SK−024	下層	弥生土器	甕					白褐色	白褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む	良好	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	ナデ	
206 29	02207	Ⅲ	Y	31	SK−024	下層	弥生土器	甕					暗白褐色	暗白褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む	良好	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	ナデ	
206 30	02759	Ⅲ	Y	31	SK−024	下層	弥生土器	甕	3.10			7.60	うすい茶、茶褐色	うすい茶	1〜2mm大の砂粒	高温	体部は横条痕 括れ部は指押さえ 外底はナデ	ヘラ状工具のナデ上げ	
206 31	02193	Ⅲ	Y	30	SK−024	下層	弥生土器	甕?	2.50			(8.00)	黒褐色	暗褐色	径2mm程の砂粒を多めに含む。	良好	横条痕 外底はケズリ?	ナデ	
206 32	02206	Ⅲ	Y	31	SK−024	下層	弥生土器	甕(底部穿孔)	1.50			8.40	赤白褐色	赤白褐色	径2mm程の砂粒を多めに含む。	良好	ナデ 外底は粗いケズリ	ナデ	
206 33	02749	Ⅲ	Y	30	SK−024	うるしの所	弥生土器	甕	2.10			9.00	茶褐色	うすい茶色	胎土密		一部に横条痕 外底は強いナデ ケズリ状	ナデ	
206 34	02743	Ⅲ	Z	31	SK−024	下層	弥生土器	甕	4.70			8.10	赤茶色	うすい灰茶色	小砂粒のみ。胎土やや粗い。	高温	ナデ 括れ部は横ナデ 外底はケズリ	ナデ	
206 35	02747	Ⅲ	Y	30	SK−024	うるしの所	弥生土器	甕	3.40			7.40	うすい灰茶色	うすい灰茶色	砂粒少		横ナデ	粗いナデ	
209 36	02191	Ⅲ	Z	31	SK−024	下層	弥生土器	壷	11.30	(7.20)	(14.10)		黒褐色	黒褐色	径1mm程の長石・小片の雲母を含む	良好	口縁より胴部へ横ミガキ	ナデ	
209 37	02753	Ⅲ	Y	30	SK−024	うるしの所	弥生土器	壷	7.25	12.60			濃灰色	濃灰色	小砂粒多い。砂粒露出	普通	口縁部は横ナデ 頸部はミガキ状ナデ	頸部はナデ上げ	
209 38	02752	Ⅲ	Y	30	SK−024	うるしの所	弥生土器	甕	6.00	17.40			うすい茶色	うすい茶色	4〜5mm砂粒。胎土は密にしては粗	普通	口縁部は横ナデ 頸部はナデ	頸部は左上がりのハケ目	
209 39	02751	Ⅲ	Y	30	SK−024	うるしの所	弥生土器	壷	4.60	25.20			うすい茶色	うすい茶色	精良土	普通	横ミガキ	横ミガキ	
209 40	02778	Ⅲ	Y	30	SK−024	下層	弥生土器	壷	7.70	22.60			淡灰茶色	淡灰茶色	2mm大の砂粒。精良土に近い	普通	口縁部は横ナデ 丹塗り	頸部はナデ	
209 41	02745	Ⅲ	Z	31	SK−024	下層	弥生土器	壷	4.35				丹塗り	うすい灰色	精良土	普通	横ミガキ	左斜行のハケ目 下半はナデ	
209 42	02198	Ⅲ	Y	31	SK−024	下層	弥生土器	甕	9.90				黒褐色	黒褐色	精良	良好	頸部から胴部は横ミガキ	頸部は横ミガキ 胴部との境は横ハケ目 胴部は横ハケ目	
209 43	02192	Ⅲ	Y	30	SK−024	下層	弥生土器	壷	19.50		(26.70)		白褐色〜黒褐色	白褐色〜黒褐色	径1mm程の長石・石英・小片の雲母を含む	良好	細かな横ミガキ	頸部上半はハケ目 胴部との境は指押さえ 胴部はナデ	
209 44	02197	Ⅲ	Y	30	SK−024	下層	弥生土器	丹塗り壷	45.30		36.40	12.35	赤褐色	白褐色	径1mm程の長石を含む。	良好	頸部上半は細かな横ミガキ 下半は左斜行のミガキ 胴部は左斜行のミガキ 編みかごの痕跡	頸部ナデ 胴部はハケ目	
209 45	02758	Ⅲ	Y	30	SK−024	うるしの所	弥生土器	壷	5.55			8.20	うす茶色(肌色)	うす茶色(肌色)	精良土。	普通	横ミガキ 底部縁は左斜行のミガキ	ナデ 内底縁は指頭圧痕	
209 46	02748	Ⅲ	Y	30	SK−024	うるしの所	弥生土器	甕	3.15			5.20	灰茶色	灰茶色	5mm大の砂粒含むが、精良土に近い	普通	体部はナデ 底部縁は細かい横ミガキ	ナデ	
209 47	02744	Ⅲ	Z	31	SK−024	下層	弥生土器	壷	2.05			5.95	灰褐色	黒褐色	極小砂粒。雲母。精良土に近い	普通	ミガキ状のナデ	ミガキ状のナデ	
209 48	02741	Ⅲ	Z	31	SK−024	下層	弥生土器	壷	4.40			13.30	黒色・黒灰色	濃灰色	極小砂粒のみ	普通	縦ハケ目 外底はナデ	粗いハケ目の後にナデ	
209 49	02742	Ⅲ	Z	31	SK−024	下層	弥生土器	壷	5.20			14.80	うすい灰茶色	うすい灰茶色	砂粒少ない	普通	粗いハケ目	丁寧な横ナデ	
209 50	02194	Ⅲ	Y	30	SK−024	下層	弥生土器	壷	9.70			12.50	暗赤褐色	白褐色	径2mm程の砂粒を多めに含む。	良好	上半は緻ミガキ 下半は雑かなハケ目 外底はナデ	ナデ	
210 51	02214	Ⅲ	Y	30	SK−024	下層	土製品	家形土製品?	5.50	7.20	5.00		淡灰褐色		径1mm程の長石を多めに含み、径3mm程の石英を持つ	良好	ナデ		
216 1	02217	Ⅲ	X	30	SK−026		弥生土器	甕					淡褐色	淡褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む	良好	口縁部は横ナデ 体部はナデ	ナデ?	
216 2	02215	Ⅲ	X	30	SK−026		弥生土器	甕	11.50	27.00			白褐色	暗褐色	径1mm程の長石・石英を多く含む	良好	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	ナデ	
216 3	02216	Ⅲ	X	30	SK−026		弥生土器		7.40	(40.70)			暗褐色	暗褐色	径2mm程の長石・小片の雲母・石英を多めに含む	良好	口縁部は横ナデ 体部は左斜行のハケ目	ナデ	
216 4	02219	Ⅲ	X	30	SK−026		弥生土器	甕	4.00			7.30	暗褐色	黒褐色	径2mm程の砂粒を多く含む	良好	ナデ	条痕	
216 5	02218	Ⅲ	X	30	SK−026		弥生土器	甕	8.90			7.70	暗褐色〜赤褐色	暗褐色〜赤褐色	径1mm程の砂粒を多く含む	良好	縦ハケ目 外底はナデ	ナデ	炭化物付着。
216 6	02221	Ⅲ	X	30	SK−026		弥生土器	鉢					褐色	褐色	径2mm程の砂粒を多く含む。褐色粒子を持つ	良好	ナデ	ナデ	
216 7	02220	Ⅲ	X	30	SK−026		弥生土器	壷					淡褐色	淡褐色	径2mm程の砂粒を多く含む	良好	口縁部は横ナデ 頸部はナデ	頸部は横ハケ目	
217 1	02222	Ⅲ	Z	31	SK−028		弥生土器	甕	9.90	(20.55)			淡褐色	淡褐色	径2mm程の砂粒を多めに含む	良好	口縁突帯部は横ナデ 摩滅 ナデ	ナデ	
217 2	02223	Ⅲ	Z	31	SK−028		弥生土器	壷	5.70	(9.40)			暗褐色	暗褐色	径1mm程の砂粒を多く含む。褐色粒子を持つ	良好	摩滅激しい	不明	
217 3	02224	Ⅲ	Z	31	SK−028		弥生土器	高坏	5.10				赤褐色	赤褐色	径3mm程の砂粒を多く含む	良好	調整痕不鮮明	脚柱部はナデ	
218 1	02225	Ⅲ	イ	32	SK−029		弥生土器	甕	15.80	23.30	24.60		暗褐色	暗褐色	径1mm程の長石・石英を含む	良好	口縁突帯部は横ナデ 体部は横条痕	ナデ 撫刷痕	炭素年代測定。済。
218 2	02227	Ⅲ	イ	32	SK−029		弥生土器	甕	10.50	(19.10)			淡灰褐色	淡灰褐色	径1mm程の長石・石英を多く含む。雲母も含まれる。褐色粒子を持つ	良好	口縁部は横ナデ 体部は雑な縦ハケ目	上半はナデ 下半は左斜行のハケ目	
218 3	02228	Ⅲ	ウ	32	SK−029		弥生土器	甕	16.40	(26.40)			褐色	褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む。褐色粒子を持つ	良好	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	ナデ 下半は黒化	
218 4	02229	Ⅲ	ウ	32	SK−029		弥生土器	甕	5.80	(24.70)			暗赤褐色〜暗赤色	暗赤褐色〜暗赤色	径3mm程の砂粒を多く含む	良好	口縁部は横ナデ 体部はハケ	ナデ	

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器　下段:土製品〉														
挿図番号							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・裏面高台径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
218 5	02232	Ⅲ	ウ	32	SK−029		弥生土器	甕	3.70	(27.70)			赤褐色	赤褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む。褐色粒子を持つ	良好	口縁部は横ナデ	ナデ	
218 6	02231	Ⅲ	ウ	32	SK−029		弥生土器	甕					白褐色	白褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む。	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	
218 7	02230	Ⅲ	ウ	32	SK−029		弥生土器	壺	6.50			7.80	白褐色	白褐色	径2mm程の長石・石英を多めに含む。	良好	器面摩滅　外底はナデ	ナデ　炭化物付着	
218 8	02239	Ⅲ	ウ	32	SK−029		弥生土器	ミニチュア壺	5.10		7.50	3.00	黒褐色	黒褐色	径2mm程の石英・長石を多く含む。	良好	胴部上半は横ミガキ　下半は縦ミガキ	ナデ　指押さえ	
218 9	02234	Ⅲ	ウ	32	SK−029		弥生土器	壺					赤褐色	赤褐色	径1mm程の砂粒を多めに含む	良好	細かな横ミガキ　丹塗り	横ミガキ	
218 10	02233	Ⅲ	イ	32	SK−029		弥生土器		5.50			12.20	白褐色	白褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む。褐色粒子を持つ	良好	細かな縦ハケ目　丹塗り	横ハケ目?	
218 11	02237	Ⅲ	イ	32	SK−029		弥生土器	鉢		(16.80)		6.60	白褐色	白褐色	やや精良	良好	口縁部は横ナデ?　体部下半は横ミガキ　外底はナデ	体部下半はミガキ	
218 12	02226	Ⅲ	イ	32	SK−029		弥生土器	鉢	12.20	(33.80)			暗褐色?	暗褐色?	径2mm程の長石・石英を多く含む。褐色粒子を持つ	良好	口縁部は横ナデ　体部はナデ?	ナデ	
218 13	02235	Ⅲ	ウ	32	SK−029		弥生土器	高坏	9.10				白褐色	白褐色	径2mm程の長石・石英を多めに含む。	良好	坏部は斜行ハケ目　脚部はナデ?	坏部はミガキ状　脚部は指押さえ	
218 14	02236	Ⅲ	ウ	32	SK−029		弥生土器	高坏	10.60				白褐色?	白褐色?	径2mm程の長石・石英を多く含む。	良好	ナデ	ナデ	
218 15	02238	Ⅲ	ウ	32	SK−029		土師器	坏身	1.80			(9.40)	白褐色〜黄褐色	白褐色〜黄褐色	やや精良	良好	回転ナデ	内底はナデ	
218 16	02241	Ⅲ	ウ	31	SK−029		土製品	投弾	3.60	2.30	1.80		暗褐色		やや精良	良好	ナデ		
218 17	02240	Ⅲ	ウ	32	SK−029		土製品	投弾	4.55	1.90	2.40		明灰褐色	やや精良。	褐色粒子を持つ	良好	ナデ		
218 18	02242	Ⅲ	ウ	31	SK−029		土製品	紡錘車	4.10	3.20	1.40		赤褐色		径2mm程の長石・石英を多めに含む。	良好	ナデ		
221 1	02243	Ⅲ	Q	34	SK−031		弥生土器	甕					褐色	褐色	径1mm程の長石・石英を含む。	良好	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	ナデ	
221 2	02246	Ⅲ	Q	34	SK−031		弥生土器	甕	8.60	(20.40)			白褐色	白褐色	径1mm程の石英・小片の雲母を多めに含む。	良好	口縁部は横ナデ　直下は縦ハケ目　体部は斜行ハケ目	上半は左斜行のハケ目　下半はナデ	
221 3	02244	Ⅲ	Q	34	SK−031		弥生土器	甕					白褐色	白褐色	径1mm程の砂粒を含む	良好	口縁部は横ナデ　体部はナデ	ナデ	
221 4	02245	Ⅲ	Q	34	SK−031		弥生土器	甕					黄褐色	黄褐色	径1mm程の砂粒を少し含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	
221 5	02247	Ⅲ	Q	34	SK−031		弥生土器	甕					暗褐色	褐色	径2mm程の長石を多く含む。	良好	縦ハケ目　外底はナデ	ナデ	
223 1	02249	Ⅲ	R	34	SK−032		弥生土器	甕					淡赤褐色	淡赤褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む。	良好	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	ナデ　擦刷痕	
223 2	02248	Ⅲ	R	34	SK−032		弥生土器	甕	30.60	26.20			白褐色〜淡赤褐色	白褐色〜淡赤褐色	径1mm程の石英・長石・小片の雲母を多めに含む。	良好	口縁部は横ナデ　体部はナデ　外底はナデ	ナデ	
227 1	02785	Ⅲ	Z	31	SK−035		弥生土器	甕	15.90	21.80			茶黒色(上半が黒色)	茶色(中央、黒色)	砂粒少	普通	全面横条痕	ナデ　擦刷痕	
227 2	02797	Ⅲ	Z	31	SK−035		弥生土器	甕	7.80	19.60			黒色(スス)	うすい茶色	1mm以下の砂粒	普通	横条痕	横条痕	
227 3	02786	Ⅲ	Z	31	SK−035		弥生土器	甕					灰黒色	茶色	わずかに小砂粒	普通	横条痕	横ナデ	
227 4	02784	Ⅲ	Z	31	SK−035		弥生土器	甕					黒色	茶色	砂粒少	普通	横条痕	ナデ	
227 5	02782	Ⅲ	Z	31	SK−035		弥生土器	甕					うすい茶色	うすい茶色	砂粒きわめて少	普通	ナデ	横ナデ	
227 6	02802	Ⅲ	Z	31	SK−035		弥生土器	甕	3.30	17.40			黒色	黒褐色	砂粒きわめてわずか	普通	横条痕	ナデ	
227 7	02793	Ⅲ	Z	31	SK−035		弥生土器	甕	10.50	20.00			黒色(全面スス)	うすい茶色	砂粒きわめて少	普通	横条痕	ナデ	
227 8	02799	Ⅲ	Z	31	SK−035		弥生土器	甕	14.30	21.60			灰茶色(部分的明茶色)	灰茶色(部分的明茶色)	砂粒少。精良に近い	高温	横条痕　下半は斜行条痕を加える	横条痕の後にナデ消し	
227 9	02795	Ⅲ	Z	31	SK−035		弥生土器	甕	5.50				黒色(下半スス)	うす茶色	1mm以下の砂粒	普通	横条痕	横ナデ　屈曲部は粗いハケ目	
227 10	02792	Ⅲ	Z	31	SK−035		弥生土器	甕	9.20				茶黒色	茶色	わずかに砂粒	普通	屈曲部上方は横条痕	ナデ　屈曲部は部分的に横条痕	
227 11	02783	Ⅲ	Z	31	SK−035		弥生土器	甕	2.90			7.40	灰茶色	灰茶色	1mm以下の砂粒	高温	横条痕　括れ部はナデ　外底はケズリ	ナデ　炭化物付着	
227 12	02788	Ⅲ	Z	31	SK−035		弥生土器	甕	4.00			7.35	淡灰茶色	淡灰茶色	砂粒少。4〜5mmの砂粒もある	高温	体部ナデ上げ　括れ部は指押さえ	ナデ	
227 13	02789	Ⅲ	Z	31	SK−035		弥生土器	鉢	4.20	15.60			茶褐色	茶褐色	砂粒少だが、精良でない	普通	口縁部は横条痕　下半は斜行条痕	部分的に条痕	
227 14	02790	Ⅲ	Z	31	SK−035		弥生土器	鉢					茶色	黒色	精良に近い	普通	口縁部から体部は横ナデ	口縁部は左上がりのナデ　体部は強い横ナデ	
227 15	02791	Ⅲ	Z	31	SK−035		弥生土器	鉢					灰茶色	黒色	極小砂粒	普通	口縁部は横ナデ	横ミガキ	
229 16	02801	Ⅲ	Z	31	SK−035		弥生土器	鉢					茶褐色	茶褐色	極小砂粒	普通	口縁部は横ナデ　摩滅	ナデ	
229 17	02796	Ⅲ	Z	31	SK−035		弥生土器	鉢	9.30	22.80			黒褐色	茶褐色	1mm以下の砂粒	普通	口縁部は横ナデ　直下は縦ハケ目　体部はナデ	右上がりのナデ	
229 18	02780	Ⅲ	Z	31	SK−035		弥生土器	甕					黒褐色	茶色	1mm以下の砂粒。砂粒少	普通	口縁部は横ナデ　体部はハケ目　口縁下は粗く下半は細かい	ハケ目	
229 19	02250	Ⅲ	Z	31	SK−035		弥生土器	甕	27.00	23.70			暗褐色	暗褐色	径1mm程の石英・長石を多めに含む。	良好	口縁部は横ナデ　体部上半は左斜行のハケ目　下半は縦ハケ目	ナデ　炭化物付着	**炭素年代測定。済。**
229 20	02251	Ⅲ	Z	31	SK−035		弥生土器	甕	25.90	22.40			白褐色	白褐色	径1mm程の石英・長石を含む。	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	
229 21	02803	Ⅲ	Z	31	SK−035		弥生土器	甕	4.30			6.40	淡灰茶色	赤茶色	極小砂粒	普通	縦ハケ目	ナデ、指オサエ	
229 22	02779	Ⅲ	Z	31	SK−035		弥生土器	甕	6.90			9.20	灰褐色	灰褐色	精良ではないが、砂粒きわめて少	普通	縦ハケ目	ハケ目　底部はナデ	
229 23	02798	Ⅲ	Z	31	SK−035		弥生土器	壺	6.70				灰茶色	灰茶色	砂粒少だが、精良土ではない	普通	ミガキ状の横ナデ	頸部はナデ上げ	
229 24	02800	Ⅲ	Z	31	SK−035		弥生土器	壺	2.60			7.70	黒褐色	茶色	精良土に近い	普通	ミガキ状の横ナデ	剥離	
229 25	02804	Ⅲ	Z	31	SK−035		弥生土器	壺	6.60			7.30	茶色	茶色	極小砂粒(精良ではない)	普通	縦ハケ目　外底はナデ	丁寧なナデ	
229 26	02781	Ⅲ	Z	31	SK−035		弥生土器	甕	7.70			13.05	うすい灰茶色	うすい灰茶色	砂粒少	普通	縦ハケ目　外底はナデ	剥離	
229 27	02787	Ⅲ	Z	31	SK−035		弥生土器	甕	4.70			9.10	茶色	茶色	小砂粒多い	普通	ナデ	ナデ	
229 28	02794	Ⅲ	Z	31	SK−035		弥生土器	壺	5.40			13.80	灰褐色	灰褐色	砂粒少(精良でない)	普通	縦ハケ目　外底はナデ	剥離	
231 1	01891	Ⅲ	Q	34	SK−036		弥生土器	壺	17.50	9.20	18.00		白褐色	白褐色	径2mm程の石英・長石を多めに、小片の雲母を少し含む。褐色粒子を含む	良好	口縁から頸部は横ナデ　胴部は細かな横ミガキ　外底はナデ	口縁部は横ミガキ　下半はナデ	
231 2	02252	Ⅲ	Q	34	SK−036		弥生土器	壺	8.90	(23.80)			暗白褐色	暗白褐色	径1〜2mm程の長石多く、小片の雲母・石英を含む	良好	口縁部は横ナデ　頸部は部分的に縦ハケ目	頸部は横ハケ目　下半はナデ	
234 1	02261	Ⅲ	S	32	SP−0253	①	弥生土器	壺	30.00		(43.80)		白褐色	白褐色	径2mm程の砂粒(石英・長石・雲母)を多く含む	良好	ミガキ　痕跡は不明瞭	化粧土を乗せて工具ナデ	ナデ。
234 2	02257	Ⅲ	S	32	SP−0253	②	弥生土器	甕	8.60			8.20	白褐色	黒褐色	径1mm程の砂粒(石英・長石・雲母)を多く含む。	良好	粗い縦ハケ目　外底はナデ　指押さえ	ナデ	

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器　下段:土製品〉										備考
挿図番号							器種		器高	口・器受部径	最大径	底(脚基)高径	色調		胎土	焼成	調整	
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
237 1	02265	Ⅲ	R	30	SP−0264	⑭	弥生土器	甕	27.30	23.60			暗赤褐色	暗赤褐色	径2mm程の長石・石英を多めに含む。	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	口縁部は横ハケ目　体部はナデ	
237 2	02263	Ⅲ	R	30	SP−0264	⑪	弥生土器	甕	28.30	24.50		8.50			径2mm程の長石・石英を多く含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目 外底はナデ	ナデ	
237 3	02264	Ⅲ	R	30	SP−0264	⑧	弥生土器	壷	19.40		(19.80)	9.20	暗褐色	暗褐色	径1mm程の長石を含む。褐色粒子を持つ	良好	頸部は縦のミガキ　胴部は上半は縦のミガキ　下半は横ミガキ	頸部ナデ	
237 4	02262	Ⅲ	R	30	SP−0264	⑪	弥生土器	壷	27.70		34.90	8.90	白褐色〜黒褐色	白褐色	径3mm程の砂粒(石英・長石)を多くみられる	良好	ミガキ　突帯は横ナデ	工具ナデ	
243 8	02256	Ⅲ	S	29	SP−0051		土製品	投弾	4.75	2.40	2.40		暗褐色		精良	良好			
243 9	02255	Ⅲ	R	28	SP−0268		土器	注口土器					暗赤褐色	暗赤褐色	径1mm程の砂粒(雲母・長石)を少し含む(精製品のように見られる)	良好	ナデ		
245 16	02258	Ⅲ	W	34	SP−0540		弥生土器	甕	12.20			6.80	赤褐色	暗褐色	径3mm程の砂粒(石英・長石)を多く含む。	良好	縦ハケ目　外底はケズリ状	ナデ　指押さえ	
245 17	02260	Ⅲ	X	35	SP−0542		古式土師器	高坏(A系orB系)	12.20			13.80	赤褐色	赤褐色	径2mm程の砂粒(石英・長石)を多く含む	良好	脚柱部は縦ハケメ?(磨滅して不明瞭)	脚裾部はハケメや工具ナデ後ナデ?　脚柱部は工具痕あり　坏底部	脚内部に成形後粘土を充填。
260 1	02776	Ⅲ	X·Y	27〜30	SW−04	下層	弥生土器	甕	8.10	15.40			濃茶褐色	茶色	1〜3mm大砂粒	普通	口縁部は横ナデ　体部は部分的にハケ目	砂粒露出	
260 2	02777	Ⅲ	X·Y	27〜30	SW−04	下層	弥生土器	甕	3.30			7.40	明茶色(部分的に橙色)		1〜3mm大砂粒多め	高温	ナデ	内底は指押さえ　炭化物付着	
260 3	02210	Ⅲ	X·Y	27〜30	SW−04	下層	弥生土器	甕(底部穿孔)	5.70			7.50	白褐色	黒褐色	径1mm程の長石・石英を多く含む	良好	縦ハケ目　外底ナデ	ナデ　炭化物付着	
260 4	02211	Ⅲ	X·Y	27〜30	SW−04	下層	弥生土器	甕(底部穿孔)	6.50			7.50	赤白褐色	黒褐色	径1mm程の砂粒を多く含む。	良好	縦ハケ目　外底はナデ	ナデ　指押さえ	
260 5	02689	Ⅲ	Y	30	SW−04		弥生土器	甕	8.40			7.00	淡暗褐色	淡暗褐色	径2〜3mm程の長石・石英を多く含む	良好	摩耗で調整痕不明	調整痕不明	
260 6	02203	Ⅲ	X·Y	27〜30	SW−04	下層	弥生土器	壷					黒褐色	白褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む	良好	ナデ　文様	ナデ	
260 7	02202	Ⅲ	X·Y	27〜30	SW−04	下層	弥生土器	壷					赤白褐色	赤白褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む。褐色粒子を持つ	良好	ナデ　文様	ナデ	
260 8	02201	Ⅲ	X·Y	27〜30	SW−04	下層	弥生土器	壷					白赤褐色	白赤褐色	径1mm程の長石・石英を多く含む。褐色粒子を持つ	良好	ナデ　文様	ナデ	
260 9	02200	Ⅲ	X·Y	27〜30	SW−04	下層	弥生土器	壷	11.10		12.45	4.70	暗赤褐色	暗赤褐色	径2mm程の砂粒を多めに含む。	良好	ミガキ　やや不鮮明　肩部に文様	ナデ	
260 10	02195	Ⅲ	X·Y	27〜30	SW−04	下層	弥生土器	壷	4.50			(11.00)	黄褐色	白褐色	径2mm程の長石を多く含む。褐色粒子を持つ	良好	縦ハケ目　外底はナデ	ナデ	
260 11	02196	Ⅲ	X·Y	27〜30	SW−04	下層	弥生土器	壷	6.00			8.50	白褐色	白褐色	径2mm程の長石・石英を多めに含む。	良好	左斜行のミガキ　底部縁は縦ハケ目　外底ケズリ状のナデ	ナデ	
260 12	02199	Ⅲ	X·Y	27〜30	SW−04	下層	弥生土器	壷	5.60			(9.25)	白褐色〜赤白褐色	白褐色	径3mm程の長石・石英を多く含む。	良好	ミガキ?	ナデ	
260 13	02499	Ⅲ	Z	28	SW−04		弥生土器	壷	6.60			10.10	赤味を帯びた灰褐色	淡橙色〜赤味を帯びた灰白色	1〜2mm砂粒、多く含む。石英多い。内外とも露出あり	普通	ミガキ状のナデ	ナデ	
260 14	02697	Ⅲ	Y	30	SW−04		弥生土器	壷	21.50			15.80	白褐色	淡灰褐色	径1〜3mm程の砂粒多し	良好	左斜行のミガキ	ナデ	
262 1	02432	Ⅲ	X	28	SW−04		弥生土器	甕	18.70	17.10		6.50		浅橙色〜灰黄色	比較的精良土に1〜2mm砂粒少量含む	普通	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	縦のミガキ	
262 2	02658	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	甕	19.80	22.60			赤桃色	赤桃色	比較的精良土。1mm程度の砂粒少し含む。石英など	普通	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目 やや摩滅	体部上半は左斜行のナデ　下半はナデ上げ	
262 3	02442	Ⅲ	X	28	SW−04		弥生土器	甕	27.00	21.50	20.40		淡茶褐色〜灰褐色	淡茶褐色	3mmまでの砂粒を非常に多く含む。粗い土	普通	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	口縁部は横ハケ目　体部はナデ	
262 4	02400	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	甕	20.10	(23.60)			淡橙色	淡橙色	精良土。1mm程度の砂粒を含む。石英・長石。器面の露出は少ない	普通	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	体部は丁寧なナデ　下半は磨耗	
262 5	02389	Ⅲ	X	30	SW−04		弥生土器	甕	19.70	16.80		7.10	淡橙色	茶褐色〜灰褐色	1〜2mmの砂粒を多く含む。石英多い		口縁部は横ナデ　沈線下方は横ハケ目　下半は縦ハケ目	上半はナデ上げ　下半は左上がりのナデ	
262 6	02438	Ⅲ	X	28	SW−04		弥生土器	甕	32.20	(30.40)	30.50		淡茶褐色〜灰褐色	淡茶褐色	3mmまでの砂粒を多く含む。石英多い。雲母	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ　下半は炭化物	
262 7	02437	Ⅲ	X	28	SW−04		弥生土器	甕	12.20	(23.20)			淡橙色	淡橙色	1mm程度の砂粒多い	良好	口縁部は横ナデ　体部はナデ	口縁部は横ハケ目　体部はナデ?　摩耗	
262 8	02453	Ⅲ	Y	28	SW−04		弥生土器	甕	5.50	(20.60)			茶褐色	橙色	3mmまでの砂粒あり。1mm内が多い。長石・石英・褐色粒子。内面露出多い	普通	口縁部は横ナデ　下半も横ナデ	ナデ	
263 9	02431	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	甕	24.40	23.50	22.90		黄褐色〜茶褐色	黄褐色	1〜2mm砂粒を非常に多く含む	普通	口縁端部は横ナデ　体部は縦ハケ目	口縁部は横ミガキ　体部は摩滅	
263 10	02416	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	甕	28.00	33.30			淡茶褐色〜赤橙色	黄茶褐色	3mmの砂粒を比較的多く含む。石英多い。内外面とも低く露出	普通	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	左上がりのナデ　中位は横ナデ	
263 11	02402	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	甕	17.50	25.20	24.10		灰褐色〜淡橙色	浅橙色	1〜2mmの砂粒を非常に多く含む。石英・長石多い	普通	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	磨耗　調整痕不明	
263 12	02498	Ⅲ	Z	27	SW−04		弥生土器	甕	24.20	27.30	25.80		やや赤味をおびた灰白色〜灰褐色	やや赤味をおびた灰白色〜茶褐色	1mm程度の砂粒含む。内外とも露出あり	普通	口縁部は横ナデ　体部は左上がりのナデ	ナデ　下半に炭化物	
263 13	02392	Ⅲ	X	30	SW−04		弥生土器	甕	14.60	(26.80)	25.70		茶褐色	茶褐色	1mmまでの砂粒を多く含む。内面胴下半以外は露出なし。石英・長石・雲母	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	湾曲部は横ハケ目　体部上半はナデ上げ　下半はナデ	
263 14	02391	Ⅲ	X	30	SW−04		弥生土器	甕	18.00	29.00			茶褐色〜灰褐色	灰褐色〜茶褐色	3mmまでの砂粒を多く含む。石英多い	普通	口縁部は横ナデ　体部は細かな縦ハケ目　煤付着	湾曲部は指押さえ　ナデ	
263 15	02454	Ⅲ	Y	28	SW−04		弥生土器	甕	25.70	33.70	32.90		淡茶褐色〜灰褐色	淡茶褐色	1〜2mmの砂粒多い。石英・長石など。※1ヶ所だけ3mm×4mm大の黒曜石(?)片あり。外面、沈線直下	普通	口縁部は横ナデ　体部はハケ目	口縁部は横ミガキ　体部はナデ	
263 16	02436	Ⅲ	X	28	SW−04		弥生土器	甕	19.80	(28.80)	28.40		灰黄色〜灰褐色	淡茶褐色	2mmまでの砂粒多く含む	良好	口縁部は横ナデ　体部はナデ	口縁部は横ハケ目　体部上半は左上がりのナデ　下半はナデ上げ	
264 17	02361	Ⅲ	X	31	SW−04		古式土師器	甕	13.40	(21.00)			浅橙色	浅橙色	1mm程度の砂粒を含む。石英・長石・	普通	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	横ナデ　下半はナデ	

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器 下段:土製品〉											
挿図番号							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・脚高・台径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
264 18	02396	Ⅲ	X	30	SW−04		弥生土器	甕	31.90	(27.70)		8.10	茶褐色	茶褐色	微砂粒と1mm程度の砂粒をあり。長石・雲母多い。石英など。比較的精良土	普通	口縁部は横ナデ 田搖斐は縦ハケ目 底部周辺は縦のミガキ状	口縁部は横ハケ目 下半はナデ	
264 19	02395	Ⅲ	X	30	SW−04		弥生土器	甕	24.00	(31.00)			浅橙色〜灰白色	浅黄色	2mmまでの砂粒を多く含むが、器面への露出は少ない。石英多い	普通	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	口縁部は横ミガキ 体部は縦のミガキ状	
264 20	02448	Ⅲ	Y	28	SW−04		弥生土器	甕	28.90	31.90	30.80		茶褐色〜赤橙色	淡褐色	1mm程度の砂粒多い	普通	口縁部と突帯は横ナデ 体部は縦ハケ目	ナデ 下半は摩滅	
264 21	02366	Ⅲ	X	28	SW−04		弥生土器	大型甕	(19.20)	(53.20)	(55.80)		灰白色(やや赤み帯びる)	灰白色(やや赤み帯びる)	比較的精良だが、断面では小さな気孔が多く見え、空気の含みが多かったようだ。1〜5mmまでの砂粒を含む。内外面とも露出はない。石英多い。長石など。	普通	口縁部は横ナデ 体部はハケ目の後にナデ消し	外面色調口縁部は横ナデ 湾曲部は横ハケ目 下半はナデ	
265 22	02365	Ⅲ	X	30	SW−04		弥生土器	大型甕	(15.20)	(51.20)			淡橙色	淡橙色	2〜3mm程度の砂粒を比較的多く含む。石英多い。褐色粒子もつ	良好	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	上半は横ナデ 下半は縦のナデ	
265 23	02529	Ⅲ	X・Y	27〜30	SW−04		弥生土器	甕	67.60	53.00〜57.00		14.00	明黄褐色	明黄褐色	4mm以下の石英・長石・赤褐色粒を少し含み、雲母をわずかに含む。	良好	口縁部は横ナデ 体部はナデ	ナデ	**炭素年代測定。済。**
268 24	02368	Ⅲ	X	30	SW−04		弥生土器	甕	14.50	(21.00)			浅橙色	明橙色	1mm程度の砂粒を比較的多く含む。石英・長石・赤色粒	普通	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	ナデ 下半に炭化物付着	**炭素年代測定。済。**
268 25	02433	Ⅲ	X	28	SW−04		弥生土器	甕	15.70	24.80			淡橙色	淡橙色	1〜2mm砂粒、比較的多く含む	普通	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目を重ねる	ナデ	
268 26	02443	Ⅲ	X	28	SW−04		弥生土器	甕	25.10	(21.30)	(21.30)	7.10	浅橙色	浅橙色	1〜2mmの砂粒多く含む。石英・長石	普通	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目 外底はナデ	ナデ? 摩耗	
268 27	02394	Ⅲ	X	30	SW−04		弥生土器	甕	26.00	(24.00)			黄橙色〜浅橙色	浅橙色	2〜3mm程度の砂粒を比較的多く含む	普通	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	粘土接合部は横に指押さえ	
268 28	02475	Ⅲ	Y	27	SW−04		弥生土器	甕	5.50	(26.80)			灰褐色	茶褐色	1〜2mm砂粒含む	良好	口縁部は横ナデ	口縁部は横ナデ 体部はナデ	
268 29	02425	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	甕	11.70	18.20			浅橙色〜灰褐色	浅橙色	1〜2mm砂粒、比較的多い	普通	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	口縁部はハケ目の後に横ナデ 体部は左上がりのナデ	
268 30	02388	Ⅲ	X	30	SW−04		弥生土器	甕	13.90	(23.80)			灰白色	黄褐色	1〜2mmの砂粒非常に多く、器面にも露出。石英多い	普通	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	横ナデの後にナデ上げ	
268 31	02446	Ⅲ	Y	28	SW−04		弥生土器	甕		37.50	36.50	8.30		淡茶褐色〜灰褐色	1mm大の砂粒多い。長石多い。石英など	普通	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目 底部はナデ	ナデ 口縁部と内底には指頭圧痕	
269 32	02421	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	甕	35.10	(28.30)		9.40	灰茶褐色	灰茶褐色	1〜3mm砂粒多く含む。石英・長石多い。雲母。内面、露出なし。外面、摩滅部分を除いて露出なし	普通	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	ナデ上げ	
269 33	02426	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	甕	19.80	(30.00)			灰黄褐色〜灰褐色	灰黄褐色〜灰褐色	1mm程度の砂粒を比較的多く含む。内外とも露出ない	普通	口縁部は横ナデ 体部はナデ	ナデ	
269 34	02414	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	甕	26.20	(34.00)			茶褐色	茶褐色〜灰褐色	1〜2mm砂粒を比較的多く含む。内面に多く露出。石英多い。雲母	普通	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	ナデ	
269 35	02464	Ⅲ	X	27	SW−04		弥生土器	甕	12.00	(38.40)			淡橙色	淡橙色	2mmまでの砂粒含む。雲母・長石・石英。内外とも少し露出	良好	口縁部は横ナデ 体部はハケ目	体部上半は横ミガキ 下半は左上がりのナデ	
269 36	02415	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	甕	31.00	(36.20)			淡茶褐色〜灰白色	淡茶褐色〜灰褐色	1mm大の砂粒を含む。石英多い。雲母。内面は露出している	普通	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	ナデ	
270 37	02478	Ⅲ	Y	27	SW−04		弥生土器	甕	3.50	(40.40)			明橙色	明橙色		良好	横ナデ	横ナデ	
270 38	02477	Ⅲ	Y	27	SW−04		弥生土器	甕	4.60	(46.40)			淡茶褐色	黄味帯びた灰白色		良好	口縁部は横ナデ	横ナデ	
270 39	02476	Ⅲ	Y	27	SW−04		弥生土器	甕	7.10	(44.00)			淡茶褐色	淡茶褐色〜灰褐色	1〜3mmまでの砂粒少し	良好	口縁部から体部は横ナデ	ナデ	
271 40	02471	Ⅲ	Y	27	SW−04		弥生土器	甕	5.40			7.70	明橙色〜淡橙色		1〜3mmまでの砂粒を比較的多く含む。	良好	ハケ目 外底は指押さえ	ナデ 炭化物	
271 41	02472	Ⅲ	Y	27	SW−04		弥生土器	甕	6.60			7.10			比較的精良土。微砂粒多い。2〜3mm砂粒少し	良好	縦ハケ目 外底は丁寧なナデ	ナデ	
271 42	02514	Ⅲ	X・Y	27〜30	SW−04	東壁 D層	弥生土器	甕	7.00			(9.40)		黒灰色	精良土。3mmまでの砂粒少し。長石多い。石英。微小雲母多い	良好	縦ハケ目 左斜行のナデを加える	丁寧なナデ	
271 43	02490	Ⅲ	Y	27	SW−04		弥生土器	甕	11.70				淡橙色	淡橙色	1〜2mm砂粒、比較的多い	良好	縦ハケ目 外底はナデ	ナデ 部分的に炭化物	
271 44	02354	Ⅲ	X	31	SW−04		弥生土器	甕(底部穿孔)	7.00			7.40	明橙〜浅橙色	灰茶褐色	1〜2mm大の砂粒を多く含む。また8mm大の砂礫	普通	縦ハケ目 ナデ ミガキ状	内底指押さえ	孔径:9mm。
271 45	02353	Ⅲ	Ⅲ	31	SW−04		弥生土器	甕(底部穿孔)	8.30				浅橙色	浅橙色	1〜2mmの砂粒を多く含む(石英・長石・雲母)	普通	粗い縦ハケ目	ナデ 内底指頭圧痕	孔径:2.4cm。
271 46	01609	Ⅲ	X	31	SW−04		弥生土器		13.20			8.10	浅橙色〜灰白色	灰白色	3mmまでの砂粒を多く含む(石英多い。長石・雲母など)	普通	ヘラナデ	ナデ 内底縁は指押さえ	孔径:1.2cm。
271 47	02411	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	甕	14.10			9.50	浅橙色〜浅黄色	浅橙色〜浅黄色	1〜3mmの砂粒多く含む。石英・長石多い。雲母など	普通	ミガキに近いナデ	ナデ	
272 48	02358	Ⅲ	X	31	SW−04		弥生土器	甕(底部穿孔)	7.20			7.30	灰白色	灰褐色	1mmまでの砂粒を含む		ナデ上げ	ナデ 炭化物付着	孔径:8mm。
272 49	02434	Ⅲ	X	28	SW−04		弥生土器	甕	9.10			(9.00)	淡橙色	灰褐色	3mmまでの砂粒を含む。	普通	縦ハケ目 外底はナデ	ナデ	
272 50	02463	Ⅲ	X	27	SW−04		弥生土器	甕	9.80			8.90	淡橙色	黄褐色	1mm程度の砂粒含む	良好	縦ハケ目 外底はナデ	ナデ 指頭圧痕	
272 51	02462	Ⅲ	X	27	SW−04		弥生土器	甕	9.30			9.10	淡橙色〜赤橙色	淡橙色〜赤橙色	1mm程度の砂粒が多い。長石多い。雲母・石英	良好	縦ハケ目 外底はナデ	ナデ 炭化物	
272 52	01295	Ⅲ	X	30	SW−04		弥生土器	甕	8.00			7.50	浅黄橙色	浅黄橙色	1mm程度の砂粒を含む		ヘラナデ 括れ部は指押さえ	ナデ 内底は指押さえ	
272 53	02488	Ⅲ	Y	27	SW−04		弥生土器	甕	8.10			8.30	赤橙色〜淡橙色	やや赤味をおびた灰白色	1〜3mm砂粒を比較的多く含む。	良好	縦ハケ目 外底はナデ	ナデ	
272 54	02489	Ⅲ	Y	27	SW−04		弥生土器	甕	9.00			9.40	淡橙色	灰褐色	1〜3mm砂粒を比較的多く含む。	良好	縦ハケ目 部分的にナデ消し 外底は指ナデ	ナデ 炭化物付着	
272 55	02367	Ⅲ	X	30	SW−04		弥生土器	甕(底部穿孔)	10.00			9.30	浅橙色〜灰白色	浅橙色〜灰白色	2mmまでの砂粒比較的多く含む。石英・長石他	普通	縦ハケ目 括れ部は横ナデ	ナデ	孔径:0.9cm。
272 56	02445	Ⅲ	Y	28	SW−04		弥生土器	甕	9.20			(12.00)	赤橙色〜淡橙色	赤橙色〜淡橙色	1〜3mmの砂粒を非常に多く含む。石英・長石多い。雲母他	良好	縦ハケ目の後にナデ 外底は指押さえ	ナデ 炭化物厚く付着	
272 57	02465	Ⅲ	X	27	SW−04		弥生土器	甕	18.60			6.10	淡橙色〜灰橙色	淡橙色〜灰黄色	1〜3mm砂粒が比較的多い	良好	縦ハケ目 外底はナデ 指押さえ	丁寧なナデ	
272 58	02470	Ⅲ	Y	27	SW−04		弥生土器	甕	8.30			6.20	淡橙色	浅橙色	やや精良土に1mm程度の砂粒多い。石英多い。長石・雲母・黒粒?	良好	縦ハケ目 外底はナデ	丁寧なナデ	

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器（土製品）の法量と特徴〈法量 上段:土器　下段:土製品〉											
挿図番号							器種		器高	口・受部径	最大径	底・脚部高台径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
272 59	02403	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	甕	17.70			12.50	黄褐色	黄褐色	1〜2mm砂粒含む	普通	縦ハケ目　外底はナデ	ナデ	外底炭化物。
272 60	02399	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	甕	20.60			10.40	浅茶褐色〜灰褐色	浅茶褐色〜灰白色	3mm程度の砂粒を多く含む。石英・長石が多い	普通	縦ハケ目　外底はナデ	ナデ　磨耗	
272 61	02447	Ⅲ	Y	28	SW−04		弥生土器	大型甕	24.70			14.10	茶褐色〜淡茶褐色	茶褐色〜淡茶褐色	1〜3mmまでの砂粒を多い。石英・雲母・長石・褐色粒子	良好	体部は縦ハケ目　底部はナデ　外底は指押さえ	ナデ　内底は指押さえ	
273 62	02444	Ⅲ	Y	28	SW−04		弥生土器	蓋	11.10			7.10	淡茶褐色〜灰褐色	淡茶色	比較的精良な土に1〜2mmの砂粒含む。露出なし。長石・雲母・石英など	良好	縦ハケ目　摘み部はナデ	丁寧なナデの後に横ミガキ	
273 63	02428	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	蓋	9.20			6.10	淡橙色〜灰褐色	淡橙色〜灰褐色	2mmまでの砂粒を含む。雲母・石英	良好	縦ハケ目　一部に横ミガキ	横ハケ目	
273 64	02430	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	蓋	14.20			7.30	灰褐色〜淡茶色	茶褐色〜灰褐色	1〜3mm砂粒を多く含む	普通	縦ハケ目	丁寧なナデ	
275 65	02423	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	ミニチュア壺	5.90		7.20	3.00	灰黄褐色	灰黄褐色	1mmまでの砂粒を少量含む。長石・雲母・石英	良好	頸部は縦ナデの後に横ミガキ　胴部はナデ後に横ミガキ	ナデ?	
275 66	01519	Ⅲ	X	31	SW−04	北半	弥生土器	ミニチュア壺	7.40	4.20		3.20	灰褐色	灰褐色〜浅黄色	1mmまでの砂粒を少量含む	普通	口縁から頸部は横ミガキ　胴部は横ミガキ　下半は縦ミガキ	ナデ	
275 67	02441	Ⅲ	X	28	SW−04		弥生土器	ミニチュア壺	6.70		(9.10)	4.60	赤橙色	赤橙色	2mmまでの砂粒が多い。内外表面とも露出	善	ナデ　押さえ　外底はナデ	ナデ　押さえ	
275 68	02374	Ⅲ	X	30	SW−04		弥生土器	ミニチュア壺	8.10	(5.90)		(4.20)	灰褐色〜黄灰色	灰褐色〜黄灰色	1〜2mm程度の砂粒を比較的多く含む。石英多い	普通	口縁部は横ナデ　胴部は雑なミガ	胴部下半はナデ	
275 69	02406	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	ミニチュア壺	10.80	6.20	9.10	4.30	浅黄色	灰白色	1mm程度砂粒を少し含むが、露出なし。雲母・長石	普通	口縁部は横ナデ　胴部上半は左斜行のハケ目　下半は縦ハケ目	ナデ	
275 70	02378	Ⅲ	X	30	SW−04		弥生土器	小型壺	9.90	(5.20)	10.00	4.30	橙色〜茶褐色	橙色	1mmまでの砂粒を少量含む。	良好	口縁部は横ナデ　縦ハケ目の後に横ミガキ	ナデ　指押さえ	
275 71	02479	Ⅲ	Y	27	SW−04		弥生土器	ミニチュア壺	10.00	6.30	9.10	4.40	灰褐色〜淡橙白色	灰褐色〜淡橙白色	1mm程度の砂粒を少し含む	普通	口縁部は横ナデ　胴部はミガキ	口縁部は横ミガキ　内面はナデ	
275 72	02381	Ⅲ	X	30	SW−04		弥生土器	壷	13.40	(7.20)	12.70	3.30	浅橙色〜灰褐色	浅橙色	1〜2mm程度の砂粒を多く含む。石英多い	良好	口縁部は横ナデ　頸部はナデ上げ　胴部は横ミガキ	ナデ	
275 73	02467	Ⅲ	Y	27	SW−04		弥生土器	壷	4.70	10.80			黄茶褐色	黄茶褐色	比較的精良土に微砂粒を少し含む	良好	横ミガキ	横ミガキ	
275 74	02440	Ⅲ	X	28	SW−04		弥生土器	壷	16.10	(9.50)	15.30	5.20	黄褐色〜浅黄色	黄褐色〜浅黄色	比較的精良土に1mm弱の砂粒を少し含む	良好	口縁端部は横ナデ　全面横ミガキ	口頸部は横ミガキ　胴部はナデ	
275 75	02383	Ⅲ	X	30	SW−04		弥生土器	壷	15.20	10.90	15.60	6.40	黄褐色		5mmまでの砂粒を多く含む。石英多い	普通	口縁部は横ナデ　胴部はミガキ	ミガキ　下半はナデ　内底は指押さえ	
275 76	02468	Ⅲ	Y	27	SW−04		弥生土器	壷	7.50	(17.40)			淡橙色〜赤橙色	淡橙色〜赤橙色	精良土に1〜2mmの砂粒含む。内外面とも多く露出	普通	口縁端部は横ナデ　頸部は縦ハケ目の後に横ミガキ	口縁部は横ハケ目　頸部はナデ	
275 77	02409	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	壷	10.30	(17.70)			黒褐色〜黄茶褐	黄茶褐色	1〜2mmの砂粒含む。石英・長石	良好	口縁部は横ナデ　頸部は縦ハケ目の後に横ナデ　胴部は横ミガキ	横ナデ　一部に指頭圧痕	
275 78	02422	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	壷	10.80	(17.40)			灰褐色	黄灰褐色	1〜2mm砂粒を比較的多く含む。長石・石英・雲母	良好	口縁部はナデ後に横ミガキ　頸部はハケ目の後に横ミガキ	口縁部はナデの後に横ミガキ　頸部はナデ	
275 79	02417	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	壷	12.70	15.80			黒灰褐色	黄褐色	比較的精良土。1mm程度の砂粒を少し含む。石英・長石。頸部接合の箇所にのみ3mm大砂礫あり。内面露出	良好	口縁部は横ナデ　頸部は縦ハケ目の後に横ミガキ　胴部は横ミガキ	口縁部は横ミガキ　頸部はナデ上げ　胴部はナデ上げ　指頭圧痕	
275 80	02429	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	壷	7.50				茶褐色	灰白色	1mm砂粒含む。内面やや露出	良好	横ミガキ	ナデ　指頭圧痕	
275 81	02419	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	壷	20.30	(18.20)	28.80		黒褐色	黒褐色	1〜3mm砂粒を比較的多く含む。長石・石英。露出なし	良好	頸部は縦ハケ目の後に横ナデ　胴部は横ミガキ	頸部は横ミガキ　胴部は摩耗	
275 82	02379	Ⅲ	X	30	SW−04		弥生土器	壷	9.20	(19.40)			明淡橙色	明淡橙色	1〜2mm程度の砂粒を比較的多く含む。石英多い	良好	口縁部は横ナデ　頸部はハケ目の後にナデ上げ	口縁部は横ミガキ　頸部はナデ　下半は指押さえ	
275 83	02461	Ⅲ	Y	28	SW−04		弥生土器	壷	8.20	(15.40)			浅赤橙色	浅赤橙色	1〜2mm砂粒多い。内外とも露出あり	普通	頸部上半はハケ目の後に横ナデ　下半はナデの後にミガキ　胴部は粗いハケ目	頸部はナデの後に横ミガキ　下半はナデ	
275 84	02370	Ⅲ	X	30	SW−04		弥生土器	壷	7.10	(15.20)			灰黄色	黄褐色		普通	口縁部は横ナデ　頸部は縦ハケ目の後に横ミガキ	頸部はミガキ状のナデ　胴部はナデ	
276 85	02418	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	壷	10.80	(17.80)			灰黄褐色	灰黄褐色〜黄褐色	1〜5mmまでの砂粒を多く含む。中でも、2〜3mm大の砂粒多い。貼付突帯にも5mm大の礫含む。露出は少ない（露出は摩滅のため）	良好	口縁部は横ナデ　頸部はナデ上げ　一部にハケ目　胴部は横ミガキ	頸部はナデ	
276 86	02469	Ⅲ	Y	27	SW−04		弥生土器	壷	7.20	(18.80)			淡橙色〜灰白色	淡橙色	2mmまでの砂粒が比較的多い。比較的精良土。石英多い。長石・褐色粒子?表面は露出。特に内面に露出多い	良好	口縁部は横ナデ　頸部は縦ハケ目	口縁部は横ナデ　下半に一部横ハケ目　頸部はナデ	
276 87	02487	Ⅲ	Y	27	SW−04		弥生土器	壷	12.50	(27.00)			(明橙色〜)淡橙色		2〜3mm砂粒比較的多い。内外面とも、露出多い	良好	口縁部は横ナデ　口縁下方は縦ハケ目の後に横ナデ　頸部下半はハケ目	頸部はミガキ　口縁部に文様	
276 88	02404	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	壷			(31.60)		灰褐色〜灰黄色	灰褐色〜灰黄色	1〜3mmの砂粒多く含む。石英多い。雲母	普通	頸部は横ナデ　胴部は横ミガキ	頸部はミガキ　胴部は左上がりのナデ	
276 89	02377	Ⅲ	X	30	SW−04		弥生土器	壷	8.50		(14.60)		黒灰色	黄褐色	2mmまでの砂粒を含む。石英他	良好	横ミガキ　上半に文様	胴部上半は指押さえ　下半はミガキ状のナデ	
276 90	02482	Ⅲ	Y	27	SW−04		弥生土器	壷					淡黄色	淡黄色	精良土に微砂粒含む	良好	ミガキ　文様	ナデ	
276 91	02452	Ⅲ	Y	28	SW−04		弥生土器	壷					明橙色〜淡橙色	明橙色〜淡橙色	2mmまでの砂粒多い。内外とも露出。石英・褐色粒子	良好	ナデ	ナデ	
276 92	02355	Ⅲ	X	31	SW−04		弥生土器	壷					灰褐色	灰褐色	1mmまでの砂粒を含む	良好	ナデ　文様	ナデ	
276 93	02497	Ⅲ	Z	27	SW−04		弥生土器	壷					淡茶褐色	淡茶褐色	1mmまでの砂粒含む。雲母、長石、石英	良好	ナデ　文様	ナデ	
276 94	02360	Ⅲ	X	31	SW−04		弥生土器	壷					浅橙色（一部丹あり）	浅橙色（一部丹あり）	1mmまでの砂粒を少量含む	普通	横ナデ　文様	横ナデ　指押さえ	
276 95	02359	Ⅲ	X	31	SW−04		弥生土器	壷					灰白色	灰白色	1mm未満の砂粒を少量含む	普通	ナデ　文様	ナデ	
276 96	02356	Ⅲ	X	31	SW−04		弥生土器	壷					暗橙色	暗橙色	2mmまでの砂粒少し含む	良好	ナデ　文様	ナデ	

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器（土製品）の法量と特徴〈法量 上段：土器　下段：土製品〉												
挿図番号							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・脚部高径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
276 97	02357	Ⅲ	X	31	SW−04		弥生土器	壷					黒色	浅黄色	1mmまでの砂粒を少量含む。また、5mm大の砂礫も含む	普通	ナデ　文様	ナデ	
276 98	02518	Ⅲ	X·Y	27〜30	SW−04	東壁 D層	弥生土器	壷					明橙色〜淡橙色	橙白色	1mm程度の砂粒、比較的多い	良好	ナデ　文様	ナデ	
276 99	02459	Ⅲ	Y	28	SW−04		弥生土器	壷							精良土に微砂粒を少し	良好	ナデ	ナデ	
276 100	02460	Ⅲ	Y	28	SW−04		弥生土器	壷							精良土に1〜2mmの砂粒少し。他、微砂粒含む	良好	ナデ	ナデ	
276 101	02457	Ⅲ	Y	28	SW−04		弥生土器	壷	6.30				やや赤味をおびた灰白色	やや赤味をおびた灰白色	比較的精良土に1mm程度の砂粒少し	良好	ナデ	ナデ	
276 102	02369	Ⅲ	X	30	SW−04		弥生土器	壷			(29.40)		灰黄色	黄褐色	2〜3mm程度の砂粒を多く含む	普通	横ミガキ　文様	ミガキ状のナデ	
276 103	02371	Ⅲ	X	30	SW−04		弥生土器	壷					明橙色	浅橙色	微砂粒を含む。精良。長石・石英・雲母	良好	ナデ	ナデ	
276 104	02458	Ⅲ	Y	28	SW−04		弥生土器	壷					黄褐色	淡黄色	比較的精良土。1〜2mm砂粒少し	良好	ナデ	ナデ	
276 105	02483	Ⅲ	Y	27	SW−04		弥生土器	壷					灰黄色	淡黄色	1mm程度砂粒少し。比較的精良	良好	ミガキ　文様	ナデ　指押さえ	
278 106	02372	Ⅲ	X	30	SW−04		弥生土器	壷	21.30		(31.10)	7.70	黒褐色	淡茶褐色	1〜2mm程度の砂粒を比較的多く含む。石英多い	普通	胴部上半は細かな横ミガキ　下半は縦のミガキ	上半はナデ　下半は横ミガキ　内底はナデ	
278 107	02449	Ⅲ	Y	28	SW−04		弥生土器	壷			(30.20)	10.00	黄褐色	淡橙色	1mm程度の砂粒を非常に多く含む。石英・長石多い。雲母など	普通	横ミガキ	ナデ　内底縁は指頭圧痕	
278 108	02405	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	壷	22.50		(26.60)		茶褐色	灰褐色〜黄褐色	1mmまでの砂粒を含む。（石英、長石、雲母など）	良好	胴部はミガキ　頸部は一部にハケ目	胴部上半はナデ	
278 109	01557	Ⅲ	Y	27	SW−04		弥生土器	壷	16.40		21.45	8.30	浅黄橙色	黒灰色〜灰白色	砂礫を多量に含む（石英・長石多い。金雲母少ない）	普通	部分的にハケ目　下半は斜行ハケ目の後に斜行ミガキ　外底はナデ	上半は左斜行のハケ目　下半はナデ　指頭圧痕	
278 110	02412	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	壷	17.60	(13.40)	(22.00)		浅黄色	黄褐色	1〜2mmの砂粒多く含む。内外とも露出。石英・長石	普通	口縁部はナデ	摩滅　ナデ?	
278 111	02401	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	蓋	13.60		1.90		茶褐色〜黒褐色	灰白（橙）色・橙色	1mm程度の砂粒を含む	良好	部分的にハケ目	ナデ	
278 112	02484	Ⅲ	Y	27	SW−04		弥生土器	壷	3.60	(8.20)			赤橙色〜灰褐色	赤橙色〜灰褐色	精良土に微砂粒多い。長石・雲母・褐色粒子多い	良好	口縁部は横ナデ　胴部は横ミガキ	ナデ	
278 113	02485	Ⅲ	Y	27	SW−04		弥生土器	壷	2.80	(17.80)			灰黄色〜灰褐色	灰黄色〜灰褐色	精良土に微砂粒含む。長石多い。雲母	良好	口縁部は横ナデ	ナデ	
278 114	02507	Ⅲ	X·Y	27〜30	SW−04	東壁 B層	土器	注口土器	6.60	2.30	2.40	0.60	淡橙色（〜赤味を帯びた灰白色	淡橙色（〜赤味を帯びた灰白色	1mm程度の砂粒多く含む。石英・長石・雲母	普通	摩滅　調整不明		
278 115	02493	Ⅲ	Y	27	SW−04		土器	注口土器	7.20			0.80	淡橙色	淡橙色	1mmまでの砂粒少し含む	良好	ミガキ		
280 116	02420	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	壷	26.70	(39.20)			淡橙色〜灰褐色	淡橙色〜灰白色	2mmまでの砂粒を少し含む。石英・長石・雲母	良好	口縁部は横ナデ　頸部は縦ハケ目の後に横ミガキ　胴部はハケ目の後に横ミガキ	頸部は細かで丁寧な横ミガキ　胴部はやや粗雑な横ミガキ	
280 117・126	02364	Ⅲ	Ⅲ	31	SW−04	北半	弥生土器	大型壷	(31.00)			14.40	淡黄色・淡橙色〜灰褐色・灰黄色	淡橙色・淡黄色	1〜3mmの砂粒も多く含む。石英多い。長石。露出少ない。全体に脆く、パサパサした状態。	普通	普通	剥離　調整痕不明	
281 118	02519	Ⅲ	X·Y	27〜30	SW−04	東壁 D層	弥生土器	壷	3.90	(40.40)			淡黄橙色	淡黄橙色	1mmまでの砂粒多い。内面への露出は多いが、粒が小さいため、滑らかな感じ。石英多い。金雲母	良好	口縁部は横ナデ	頸部はナデ	
281 119	02439	Ⅲ	X	28	SW−04		弥生土器	甕	11.70	(46.40)			灰白色〜灰褐色	灰褐色	1mmまでの砂粒が多い。3mm程度の砂粒も少し含む	良好	口縁部は横ナデ　突帯上方は横ナデ　下方はナデを重ねる	ナデ	
281 120	02455	Ⅲ	Y	28	SW−04		弥生土器	大型壷	12.00	(48.20)			淡橙色〜灰褐色	淡茶褐色	1〜2mmの砂粒含む。長石多い。雲母片比較的大きく、多い	良好	口縁部は横ナデ　頸部はミガキ状のナデ	横ハケ目	
281 121	02495	Ⅲ	X·Y	27〜30	SW−04	東壁 D層	弥生土器	大型壷	4.50	(54.80)			明橙色	明橙色	1mm程度の砂粒多い。長石多い。石英・雲母	良好	口縁部はナデ　下半は横ミガキ	口縁部は横ハケ目の後に横ナデ　頸部はナデ	
281 122	02494	Ⅲ	Y	27	SW−04		弥生土器	大型壷	8.50	(77.20)			淡橙色	淡黄褐色	1〜3mm砂粒多い。石英多い。褐色粒子	普通	口縁部は横ナデ　鬱備はナデ	粗いハケ目	
282 123	02385	Ⅲ	X	30	SW−04		弥生土器	壷	3.20			4.70	黒色	黒灰色	微砂粒と1mm程度の砂粒を含む。長石多い。石英	普通	横ミガキ　外底はナデ	ナデ	
282 124	02515	Ⅲ	X·Y	27〜30	SW−04	東壁 D層	弥生土器	甕	2.50			6.90	淡赤橙色	赤味帯びた灰白色		良好	ナデ押さえ　外底に木葉痕	ナデ押さえ　逆時計回り	
282 125	02435	Ⅲ	X	28	SW−04		弥生土器	壷	5.70			10.20	暗橙色	淡橙色	比較的精良な土。1mm程度の砂粒を比較的多く含む。長石・石英・雲母	良好	ミガキ　外底はナデ	ナデ	
282 127	02373	Ⅲ	X	30	SW−04		弥生土器	大型甕	14.80			10.40	黄褐色	黄褐色	1mm程度の砂粒を含む。石英多い	普通	縦ハケ目　底部付近は横ミガキ	ナデ	
282 128	02491	Ⅲ	Y	27	SW−04		弥生土器	壷	9.20			9.10	黒褐色	淡茶褐色	1〜3mm砂粒含む。内面には、やや露出。石英・雲母	良好	横ミガキ　外底はナデ	丁寧なナデ	
282 129	01525	Ⅲ	W	29	SW−04		弥生土器	壷	10.70			10.10	淡橙色	淡黄橙色	2〜3mm程度の砂粒多く含む。石英多い。雲母	良好	磨耗　ナデ?	ナデ上げ　指頭圧痕	
282 130	02380	Ⅲ	X	30	SW−04		弥生土器	大型壷	5.50			12.20	浅黄色〜黄白色	浅黄色		普通	ナデ	ナデ　内底は押さ	
282 131	02456	Ⅲ	Y	28	SW−04		弥生土器	大型壷	8.60			20.10	淡橙色	黄褐色〜濃黄褐色	2〜3mm砂粒多く含む。内外とも、少し露出	良好	ナデ	ナデ　指頭圧痕	
282 132	02413	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	大型壷	14.00			15.30	浅橙色	浅橙色	1〜3mmの砂粒多く含む。石英多い。長石・雲母	良好	上半は左斜行のハケ目の後にミガキ状　下半は横ミガキ　外底はナデ	ナデ	
284 133	02481	Ⅲ	Y	27	SW−04		弥生土器	鉢	3.40	(10.40)			灰褐色	灰褐色	精良土。1mm弱砂粒少し。微砂粒多い。長石・雲母	良好	口縁部は横ミガキ　体部はナデ	横ミガキ	
284 134	02375	Ⅲ	X	30	SW−04		弥生土器	鉢	7.60	(13.00)		4.90	浅橙色	浅橙色〜灰褐色	2mmまでの砂粒を比較的多く含む。石英多い	良好	口縁部は横ナデ　部分的に横ミガキ	部分的に横ミガキ	
284 135	02382	Ⅲ	X	30	SW−04		弥生土器	鉢	7.10	(12.30)		4.80	明橙色〜赤橙色	灰褐色	1mmまでの砂粒を含む。長石多い	普通	口縁部は横ナデ　体部はナデ　突帯は横ナデ	横ナデ	
284 136	02508	Ⅲ	X·Y	27〜30	SW−04	東壁 C層	弥生土器	鉢	11.30	(17.20)		8.40	赤橙色〜灰褐色	灰褐色	2〜3mm砂粒比較的多い。石英・長石	普通	体部はナデ　外底は平滑	体部上半は横ハケ目　下半はナデ	
284 137	02393	Ⅲ	X	29	SW−04		弥生土器	鉢	10.50	(17.50)			灰褐色	灰褐色	1mm程度の砂粒を多く含む。長石多い（器面の露出はない）	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	上半は横ミガキ　下半は縦のミガキ	
284 138	02408	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	鉢	10.50	21.70		7.40	灰白色〜黄褐色	灰褐色〜黄褐色	1〜2mmの砂粒多く含む。石英・長石	普通	口縁部は横ナデ　体部はハケ目　底部はナデ	ナデ	

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器　下段:土製品〉												
挿図番号							器種		器高	口縁受部径	最大径	底部最高径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
284 139	02528	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	鉢	12.80	15.00		7.00			6mm以下の石英・長石をやや多く、雲母を少し含む	良好	口縁部はハケ目　底部括れ部はナデ	口縁部は横ハケ目　体部はナデ	
284 140	02390	Ⅲ	X	30	SW−04		弥生土器	甕	9.70	(21.00)			橙色〜灰褐色	浅橙色	1mmまでの砂粒を含むが、器面への露出はない。石英・長石・雲母など	普通	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ　指押さえ　下半はナデ上げ	
284 141	02427	Ⅲ	Y?	29?	SW−04		弥生土器	鉢	14.10	(30.00)			黄褐色	淡黄褐色	比較的精良土に1mm前後の砂粒を含む。長石・石英・雲母	良好	口縁部はミガキ状のナデ　体部はハケ目の後にミガキ	口縁部は横ナデ　体部は横ミガキ	
284 142	02510	Ⅲ	X・Y	27〜30	SW−04	東壁 C層	手づくね土器	手づくね土器	1.40				淡茶褐色〜灰褐色	淡茶褐色〜灰褐色	精良土	良好	ナデ	ナデ	
284 143	02480	Ⅲ	Y	27	SW−04		手づくね土器	手づくね土器	5.10	4.90		3.20	明橙色〜淡橙色	明橙色〜淡橙色	1〜2mm砂粒少し含む	普通	指押さえ	ナデ　指頭圧痕	
284 144	02386	Ⅲ	X	30	SW−04		弥生土器	甕	3.60			4.60			1mm程度の砂粒を含む。石英多い	普通	横ナデ	ミガキ状のナデ	
284 145	02509	Ⅲ	X・Y	27〜30	SW−04	東壁 C層	手づくね土器	手づくね土器	3.00			3.20	淡茶褐色〜灰褐色	淡茶褐色〜灰褐色	精良土。微砂粒含む	良好	ナデ押さえ	ナデ	
284 146	02362	Ⅲ	X	31	SW−04		手づくね土器	鉢	4.00			4.60	浅橙色・灰色	浅橙色・灰色	2mmまでの砂粒比較的多く含む。石英・長石・雲母など		指押さえ	指押さえ	
284 147	02384	Ⅲ	X	30	SW−04		弥生土器	鉢	9.80			5.60	浅黄色〜灰褐色	灰黄色	1mm程度の砂粒を少量含む。石英・長石・雲母	普通	縦ハケ目	ナデ上げ　指押さえ	
284 148	02407	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	小型甕	9.70				黒灰色	暗黄褐色	1mm砂粒を少量含む。長石・石英	良好	左斜行のハケ目の後にミガキ	縦のミガキ	
284 149	02410	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	甕	11.40			8.50	黄褐色	灰黄褐色	1〜3mmまでの砂粒を比較的多く含む。石英・長石など	普通	部分的に縦ハケ目　外底はナデ	ナデ	
284 150	02505	Ⅲ	X・Y	27〜30	SW−04	東壁 B層	弥生土器	台付甕?	5.40			10.40	赤味を帯びた灰白色、部分的に赤桃色	赤味を帯びた灰白色、部分的に赤桃色	精良土に3mmまでの砂粒含む。石英・雲母・長石	良好	縦ハケ目　工具ナデ　胴部底はナデ、押さえ	外面に丹塗りあり	
284 151	02376	Ⅲ	X	30	SW−04		弥生土器	浅鉢	5.30	(20.20)			灰白色	黒灰色	1mm程度の砂粒を多く含む。	良好	剥離　調整痕不明	横ミガキ	
284 152	02424	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	台付鉢	3.20			6.50	やや赤味をおびた灰白色	灰褐色	2mmまでの砂粒を含む。長石・雲母・石英	普通	ナデ	ナデ	
284 153	02387	Ⅲ	X	30	SW−04		弥生土器	高坏	5.10	(27.40)			灰黄色	灰黄色	1mmまでの砂粒を含む。長石の微砂粒多く。他、石英・雲母など	良好	細かな横ミガキ	横ミガキ　坏部下半は斜行ミガキ	
284 154	02466	Ⅲ	Y	27	SW−04		弥生土器	不明	9.10				淡茶褐色	淡茶褐色	1〜2mm砂粒を含む。内面、露出	普通	粗いハケ目	ナデ	
284 155	02513	Ⅲ	X・Y	27〜30	SW−04	東壁 C層	弥生土器	?	16.00	(22.60)			淡灰褐色(やや赤味あり)	赤味帯びた灰白色〜灰褐色	1〜3mm砂粒多い。石英・雲母	良好	体部はナデ　上端部は縦ハケ目下半は横ナデ	ナデ　上端部付近は横方向ナデ	下端部は深さ2cm程抉られている。用途不明。
285 156	02492	Ⅲ	Y	27	SW−04		弥生土器	器台	12.20			9.10	明橙色〜淡橙色	明橙色〜淡橙色	精良土。1mmまでの砂粒含むが少ない。長石・褐色粒子	良好	指押さえ　器面は以外と滑らか		
285 157	02398	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	器台	4.20	6.30			浅橙色	浅橙色〜灰黄色	精良土に微砂粒(長石・雲母)、3〜4mm大の砂礫(長石・石英)を少量	良好	ナデ	ナデ	
285 158	02506	Ⅲ	X・Y	27〜30	SW−04	東壁 B層	弥生土器	背形器台	4.90	7.50			灰褐色〜黄味帯びた灰白色	黄茶褐色	1mm程度砂粒と4〜5mm大砂礫あり。砂礫はそれ程多くはない	良好	ナデ	ナデ	
285 159	02511	Ⅲ	X・Y	27〜30	SW−04	東壁 C層	弥生土器	器台					明橙色〜淡橙色	明橙色〜淡橙色	精良土。わずかだが、砂粒含む	良好	指押さえ		
285 160	02473	Ⅲ	Y	27	SW−04		弥生土器	器台	9.70	(7.90)			明橙色	明橙色	精良土。1mmまでの砂粒多い。2mm大少し含む	良好	ナデ?　摩滅	横ナデ	
285 161	02512	Ⅲ	X・Y	27〜30	SW−04	東壁 C層	弥生土器	器台	12.70	7.20			明橙色〜淡橙色	明橙色〜淡橙色	1〜2mm砂粒、比較的多い。石英・長石・雲母	良好	縦ハケ目　上端部は横ナデ	ナデ	
285 162	02504	Ⅲ	X・Y	27〜30	SW−04	東壁 B層	弥生土器	器台	7.70			9.60	橙色(〜淡橙色)	橙色(〜淡橙色)	1〜2mm砂粒多く含む。石英多い。雲母	良好	縦ハケ目　摩滅	ナデ	
285 163	02397	Ⅲ	Y	29	SW−04		弥生土器	器台	13.20			9.70	明橙色	浅橙色	精良土。微砂粒多い(長石・雲母多い)。1mm砂粒少量あり	良好	縦ハケ目	指押さえ	胴部最小径:6.9cm。
285 164	02474	Ⅲ	Y	27	SW−04		弥生土器	器台	16.40	7.70		9.30	淡橙色	淡橙色	2mmまでの砂粒比較的多い。長石多い。石英・雲母。内外面とも露出。器壁厚く、重量感あり。外面、摩滅気味	良好	縦ハケ目	ナデ	
286 166	01398	Ⅲ	Z	28	SW−04		土製品	紡錘車	4.50		1.50	0.50	黒褐色		比較的精良土。砂粒の露出はない	良好			
286 169	02363	Ⅲ	X	31	SW−04		土製品	紡錘車	5.10		1.00	0.60	灰褐色		微小な砂粒を少量含む		ナデ		
286 170	02450	Ⅲ	Y	28	SW−04		土製品	紡錘車	4.40		1.80		明橙色		微砂粒多い。精良土。(雲母多い)	良好			
286 171	01521	Ⅲ	X	31	SW−04		土製品	紡錘車	(5.20)		(1.30)	0.70	灰白色		1mm程度の砂粒を含む(石英が多い)				
286 172	02516	Ⅲ	X・Y	27〜30	SW−04	東壁 D層	土製品	紡錘車	5.00		1.50	0.80	明橙色(〜淡橙色)		1mm大砂粒多い。長石多い。3〜4mm砂粒少し含む	良好	ナデ		
286 173	02496	Ⅲ	Z	27	SW−04		土製品	投弾	4.80		2.70		黒灰色		精良土	良好			
286 174	02517	Ⅲ	X・Y	27〜30	SW−04	東壁 D層	土製品	投弾	3.30	2.20	2.20		明橙色〜淡橙色		精良土	良好	ナデ		
286 175	02486	Ⅲ	Y	27	SW−04		土製品	投弾	3.70		1.80		黄橙色〜灰白色		精良土	良好			
286 176	02451	Ⅲ	Y	28	SW−04		土製品	投弾	3.20		1.70		明橙色		精良土に微砂粒含む	良好	ナデ		
321 1	02537	Ⅲ	X	28	SW−05	No.1	弥生土器	甕					黄褐色	黄褐色	径2mm程の長石を多く含む	良好	口縁部は横ナデ	ナデ	
321 2	02540	Ⅲ	X	32	SW−05		弥生土器	甕					白褐色	白褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は斜行ハケ目	ナデ	
321 3	02532	Ⅲ	X	32	SW−05		弥生土器	甕	8.50	(20.75)			黒褐色	黒褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	口縁部は横ハケ目　体部はナデ	
321 4	02563	Ⅲ	X	32	SW−05		弥生土器	鉢	9.20	(19.00)					径1mm程の長石・石英を多く含む	良好	口縁部は横ナデ　体部はナデ	ナデ	
321 5	02538	Ⅲ	X	32	SW−05		弥生土器	甕	5.80	(30.40)			白褐色、赤白褐色	白褐色、赤白褐色	径2mm程の砂粒を多く含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	体部はナデ	
321 6	02541	Ⅲ	X	32	SW−05		弥生土器	甕							径2mm程の砂粒を多く含む。褐色粒子を持つ	良好	ナデ?　摩耗で調整痕不鮮明	ナデ	
321 7	02542	Ⅲ	X	32	SW−05		弥生土器	甕					黄褐色	黄褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む	良好	ナデ　調整不明	ナデ	
321 8	02531	Ⅲ	X	32	SW−05		弥生土器	甕					褐色	褐色	径1mm程の長石・石英・小片の雲母を多く含む	良好	口縁部は横ナデ　体部に煤付着	ナデ	
321 9	02536	Ⅲ	X	28	SW−05	No.1	弥生土器	甕					褐色、白褐色	褐色、白褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	
321 10	02539	Ⅲ	X	32	SW−05		弥生土器	甕					赤褐色〜白褐色	赤褐色〜白褐色	径2mm程の長石・石英・小片の雲母を多く含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	
321 11	02530	Ⅲ	X	31	SW−05		弥生土器	甕	5.80	(29.10)			白褐色	白褐色	径1mm程の長石・石英を多く含む。褐色粒子を持つ	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目?	ナデ	
321 12	02534	Ⅲ	X	28	SW−05	No.1	弥生土器	甕	(3.05)	(35.60)			褐色	褐色	径1mm程の長石・石英を多く含む	良好	口縁部は横ナデ	横ナデ	

報告書 挿図番号	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器 下段:土製品〉											
							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・脚部・高台径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
321 13	02533	Ⅲ	X	32	SW−05		弥生土器	甕					赤褐色、白褐色	赤褐色、白褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む	良好	口縁部は横ナデ 体部はナデ	ナデ	
321 14	02535	Ⅲ	X	28	SW−05	No.1	弥生土器	甕					褐色、黒褐色	褐色、黒褐色	径1mm程の長石・石英を多く含む	良好	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目 摩耗で不鮮明	ナデ	
321 15	02560	Ⅲ	X	32	SW−05		弥生土器	甕蓋	3.05			4.90	赤褐色		径2mm程の長石・石英を多く含む	良好	縦ハケ目	ナデ 指押さえ	
321 16	02553	Ⅲ	X	31	SW−05	土層あぜ 新層	弥生土器	甕	5.00			9.10	黄白褐色	灰褐色	径1mm程の長石を多く含む	良好	縦ハケ目 外底は指押さえ	ナデ	
321 17	01617	Ⅲ	W	32	SW−05	東端 (青灰色粘土層)	弥生土器	甕	5.80			7.45	赤白褐色	赤白褐色	径3mm程の砂粒を多く含む	良好	縦ハケ目 外底はナデ	炭化物付着により不明	内面に炭化物付着。
321 18	02555	Ⅲ	X	32	SW−05		弥生土器	甕	6.40			7.50	白褐色	白褐色	径1mm程の砂粒を多く含む。	良好	縦ハケ目 外底はナデ	斜行ハケ目	
321 19	02556	Ⅲ	X	32	SW−05		弥生土器	甕	12.10			7.60	赤白褐色、白褐色	赤白褐色、白褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む	良好	縦ハケ目 外底はナデ	ナデ 炭化物付着	
321 20	02551	Ⅲ	X	31	SW−05		弥生土器	甕	4.90			8.30	黄褐色	黄褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む	良好	縦ハケ目 括れ部はナデ	ナデ	
321 21	02552	Ⅲ	X	31	SW−05		弥生土器	甕	6.00			7.60	赤白褐色、灰褐色	赤白褐色、灰褐色	径2mm程の砂粒を多く含む	良好	縦ハケ目 外底はナデ	炭化物	
321 22	02554	Ⅲ	X	32	SW−05		弥生土器	甕	6.30			6.10	赤褐色	赤褐色	径1mm程の長石・石英を多く含む	良好	縦ハケ目 外底はナデ	ナデ	
321 23	02557	Ⅲ	X	32	SW−05		弥生土器	甕	7.90			7.70	白褐色	白褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む	良好	縦ハケ目 外底はナデ	ナデ 炭化物付着	
322 24	02549	Ⅲ	X	32	SW−05		弥生土器	壷					白赤褐色	白赤褐色	径1mm程の砂粒を多く含む。褐色粒子を持つ	良好	口縁部は横ナデ	ナデ	
322 25	02543	Ⅲ	X	32	SW−05		弥生土器	壷					黒色	黒色	精良	良好	ナデ 文様	ナデ	
322 26	02545	Ⅲ	I	37	SW−05	新層	弥生土器	壷					黒色	黒色	小片の砂粒を含む	良好	ナデ 文様	ナデ	
322 27	02544	Ⅲ	X	32	SW−05		弥生土器	壷					褐色	褐色	径2mm程の砂粒を含む	良好	ナデ 文様	ナデ	
322 28	02548	Ⅲ	X	32	SW−05		弥生土器	壷					褐色	褐色	径1mm程の砂粒を多く含む。	良好	口縁部は横ナデ	ナデ	
322 29	02547	Ⅲ	X	32	SW−05		弥生土器	壷					白赤褐色	白赤褐色	径1mm程の砂粒を含む。褐色粒子を持つ	良好	口縁部は横ナデ	ナデ	
322 30	02550	Ⅲ	X	32	SW−05		弥生土器	壷					灰褐色	灰褐色	径1mm程の長石・石英を多く含む	良好	口縁部は横ナデ	頸部はナデ	
322 31	02546	Ⅲ	X	32	SW−05		弥生土器	壷	2.90	(46.55)			白褐色	白褐色	径2mm程の長石・石英を含む	良好	口縁部は横ナデ	横ナデ	
322 32	02559	Ⅲ	X	32	SW−05		弥生土器	壷	5.45			(11.20)	白褐色	白褐色	径2mm程の砂粒を多く含む	良好	ナデ	ナデ	
322 33	02558	Ⅲ	X	32	SW−05		弥生土器	壷	11.20			8.55	炭素吸着	スス or 炭素付着	径2mm程の長石・石英を多く含む	良好	横ミガキ	ナデ 炭化物付着?	
322 34	02561	Ⅲ	X	32	SW−05		弥生土器	高坏					白褐色		径1mm程の長石を含む	良好	ナデ	ナデ	
322 35	02562	Ⅲ	I	37	SW−05	新層	弥生土器	高坏					暗褐色		径1mm程の砂粒を含む。	良好	脚柱部はミガキ状のナデ		
322 36	02564	Ⅲ	I	37	SW−05	新層	土製品	投弾	3.15	2.10	1.90		赤褐色		精良。褐色粒子を持つ	良好			
322 37	02565	Ⅲ	X	28	SW−05	No.1	土製品	投弾	3.50	2.05	2.10		灰褐色		精良	良好			
322 38	02566	Ⅲ	X	32	SW−05		土製品	漁錘	5.65	1.70	1.60		黄褐色		径1mm程の長石・石英を多く含む	良好			
330 1	02576	Ⅲ	Z	28	SW−06		弥生土器	甕	20.70	30.10			暗黄褐色?	暗黄褐色?	径1mm程の長石・石英を多く含む	良好	口縁部は横ナデ 体部上半は暗文風のナデ 下半は横ミガキ	ナデ	
330 2	02572	Ⅲ	Z	28·29	SW−06		弥生土器	甕	17.00	(31.55)			赤褐色	赤褐色	径1mm程の長石を含む	良好	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目を重ねる	ナデ	
330 3	02569	Ⅲ	Z	29	SW−06		弥生土器	甕	7.00	(29.10)			灰褐色	灰褐色	径2mm程の長石を含む	良好	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	ナデ	
330 4	02573	Ⅲ	Z	29	SW−06		弥生土器	甕	5.70	(36.90)			白褐色	白褐色	小片の長石・雲母を多めに含む	良好	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	ナデ	
330 5	02567	Ⅲ	Y	29	SW−06		弥生土器	甕	7.40	(36.80)			暗褐色	暗褐色	径1mm程の長石・石英・小片の雲母を多く含む	良好	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目の後にナデ	ナデ	
330 6	02574	Ⅲ	Z	29	SW−06		弥生土器	甕	6.00	(54.30)			白褐色	白褐色	径1mm程の長石・石英を多く含む。褐色粒子を持つ	良好	口縁部は横ナデ	ナデ	
330 7	02587	Ⅲ	Z	28	SW−06		弥生土器	鉢	3.80			(2.80)	暗褐色	暗褐色	径1mm程の長石・石英を多く含む	良好	ナデ	ナデ	
330 8	02568	Ⅲ	Y	29	SW−06		弥生土器	甕	4.10			6.45	暗赤褐色	暗赤褐色	径1~3mm程の長石・石英・小片の雲母を多めに含む	良好	縦ハケ目 外底はナデ	ナデ 炭化物付着	
330 9	02570	Ⅲ	Z	28	SW−06		弥生土器	甕	8.30			8.50	黄褐色	黄褐色	径2mm程の砂粒を含む	良好	縦ハケ目 外底はケズリ状のナデ	ミガキ状のナデ上げ	
330 10	02575	Ⅲ	Y	29	SW−06		弥生土器	甕	8.30			11.85	白赤褐色	白赤褐色	径2mm程の長石・石英を多めに含む	良好	縦ハケ目 外底はナデ	ナデ 内底は指押さえ	
330 11	02571	Ⅲ	Z	28	SW−06		弥生土器	甕	9.80			11.00	白褐色	白褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む	良好	縦ハケ目 外底はナデ	ナデ 炭化物付着	
330 12	02586	Ⅲ	Z	29	SW−06	土層あぜ10層	弥生土器	器台	5.90			8.70	褐色	褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む。褐色粒子を持つ	良好	縦ハケ目	ナデ	
330 13	02585	Ⅲ	Z	29	SW−06		弥生土器	器台					暗褐色	暗褐色	径1~2mm程の長石・石英・小片の雲母を多めに含む	良好	縦ハケ目	ナデ	
330 14	02584	Ⅲ	Z	29	SW−06		弥生土器	器台	15.50	7.40		7.80	暗褐色	暗褐色	径1mm程の長石・石英を多く含む	良好	指押さえ	ナデ	
331 15	02577	Ⅲ	Z	30	SW−06		弥生土器	壷					白赤褐色	白赤褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む。小片の雲母を含む。褐色粒子を含む	良好	ナデ 文様	ナデ	
331 16	02578	Ⅲ	Z	29	SW−06		弥生土器	壷	5.00	(17.50)			白赤褐色	白赤褐色	径2mm程の長石・石英を多く含む。黒色粒子を持つ(黒雲母?)褐色粒子を持つ	良好	口縁部は横ナデ 頸部はナデ	ナデ	
331 17	02582	Ⅲ	Z	29	SW−06	土層あぜ10層	弥生土器	壷	9.75	(23.75)					径1mm程の長石・石英・金雲母を多めに含む	良好	口縁部は横ナデ 頸部はナデの後に縦のミガキ 暗文	頸部は横ミガキ	
331 18	02581	Ⅲ	Z	30	SW−06		弥生土器	壷	13.90				暗褐色	暗褐色	径1mm程の長石・石英を多く含む。褐色粒子を持つ	良好	頸部は横ナデの後に縦のミガキ 胴部は横ミガキ	ナデ	
331 19	02580	Ⅲ	Z	29	SW−06	土層あぜ10層	弥生土器	壷	4.90			4.60	暗白褐色	暗白褐色	径1~2mm程の長石・石英を多めに含む	良好	縦の細かなミガキ 外底はナデ	ナデ	
331 20	02579	Ⅲ	Z	28	SW−06		弥生土器	壷	8.25			(8.80)	黒褐色	黒褐色	径1mm程の長石・石英を多く含む	良好	上半は横ミガキ 下半は縦のミガキ	ナデ	
331 21	02583	Ⅲ	Z	29	SW−06		弥生土器	高坏	7.80						径1mm程の長石・石英・雲母を多めに含む。褐色粒子を含む	良好	縦のミガキ	ナデ	
331 22	02588	Ⅲ	Z	28	SW−06		土製品	投弾	3.20	1.50	1.40		茶褐色		径1mm程の長石・石英を含む	良好			
331 23	01698	Ⅲ	Z	29	SW−06	土層あぜ10層	土製品	投弾	4.20	2.35	2.40		白赤褐色		径1mm程の長石・石英を多めに含む。褐色粒子多い	良好			
343 1	01615	Ⅲ	ウ	31	SW−07		弥生土器	壷	9.10		10.30	4.40	白褐色	白褐色	径1~3mm程の長石・石英を多く含む。褐色粒子を持つ	良好	ミガキ? 滑らか 肩部に文様	ナデ	
343 2	02692	Ⅲ	ウ	31	SW−07		弥生土器	壷	13.80		14.90		白褐色	白褐色	やや精良	良好	全面摩耗 横ミガキ?	ナデ	
343 3	02687	Ⅲ	イ	31	SW−07		弥生土器	鉢	15.10	(41.00)			黒褐色	黒褐色	径1~3mm程の長石・石英を多く含む	良好	細かな横ミガキ	横ミガキ	

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	石器の法量と特徴							木器の特徴			
挿図番号							器種	法量(cm・g)					石材	備考	種類	木取り	樹種	備考
								長さ	幅	厚さ	孔径	重さ						
	第12次調査出土 石器																	
14 17	04072	Ⅰ	W	26	水田(上面)	⑰川底	磨製石鏃	3.90	1.60	0.70		4.00	頁岩	有茎磨製石鏃。茎一部分欠損。全面を研磨しているが、剥落しており、研磨痕が見えるのはわずか。				
14 18	04263	Ⅰ	U	29	水田(上面)	⑬川岸	石斧	7.90	6.15	3.70		273.00		欠損品。				
14 19	04261	Ⅰ	T	29	水田(上面)	⑥	砥石	9.40	5.00	3.30		248.00	砂岩?					
14 20	04262	Ⅰ	U	29	水田(上面)	⑬川岸	不明品(スリ石?)	6.70	6.80	4.00		300.00						
24 11	04085	Ⅰ			水田(下面)		打製石鏃	2.20	1.50	0.60		1.70	黒曜石	両面に剥片面を多く残す。平基無茎。				
24 12	04266	Ⅰ	Z	30	水田(下面)		石包丁	8.80	4.00	0.30		17.60		欠損品。				
24 13	04264	Ⅰ			水田(下面)	トレンチ(耕作土とその下)	不明品(石包丁転用品?)		5.50	0.70		60.90						
24 14	04265	Ⅰ			水田(下面)		砥石	7.00	2.00	1.00		18.70	砂岩?					
35 1	04089	Ⅱ	R・S	34・35	SJ−01		打製石鏃	1.90	1.80	0.40		0.90	黒曜石	両面に剥片面を多く残す。先端部欠損。				
42 6	04234	Ⅱ	Q	30	SC−01		不明品	8.80	5.45	1.80		175.40	海緑石砂岩?	研磨痕らしきものが表面にみられるが詳細不明。				
58 23	04214	Ⅱ	T	39	SW−01		磨製石鏃	6.70	3.10	0.50		15.30		岩脈にそって薄くはがれているため、段になっている。				
58 24	04216	Ⅱ	T	39	SW−01		磨製石剣	9.90	3.40	0.70		26.40						
58 25	04014	Ⅱ	T	39	SW−01		扁平片刃石斧	6.10	1.20	0.90		12.90	頁岩	右半分欠損。側面に顕著な研磨痕みられず。				
58 26	04015	Ⅱ	T	39	SW−01		扁平片刃石斧	3.60	2.10	0.90		12.00	頁岩	基部。右側面に顕著な研磨が見られない。				
58 27	04215	Ⅱ	T	39	SW−01		不明石器	2.60	2.20	1.00		6.90	滑石	匂玉などの装身具?器面は研磨されているが、やわらかい石材のため、大小の傷がある。				
58 28	04016	Ⅱ	T	39	SW−01		石包丁	4.15	7.00	0.40		13.10	頁岩	刃部のみ残存。顕著な加工痕はほとんど認められない.				
58 29	04217	Ⅱ	T	39	SW−01		不明石製品	14.80	8.80	4.80		862.00		石材を取り出す途中のものか?緻密な層(3.0mm以下)と粒のあらい層が交互に重なっている。浅い沈線が長軸方向に走る。				
81 1	04218	Ⅱ	U	31	SW−02		太型蛤刃石斧	8.00	7.10	3.95		413.00		器面は風化・侵蝕のため、少し多孔質になっている。磨石もしくは敲石に転用された可能性が高い。				
81 2	04219	Ⅱ	U	31・32	SW−02		キリ	5.00	2.50			32.90	砂岩	微妙な沈線が一周する。				
81 3	04018	Ⅱ	U	33	SW−02		砥石	7.50	2.60	2.40		83.30	凝灰岩	両端が欠損(折れ面の風化が進んでいる)。				
81 4	04019	Ⅱ	V	32	SW−02		砥石	13.00	7.30	6.50		721.60	砂岩	三角錐状を呈す。4面ともに使用。				
81 5	04020	Ⅱ	U	31・32	SW−02		紡錘車	2.65	5.10	0.45		9.50	頁岩	下半分欠損。研磨痕が表面面に多少認められるが、剥落が著しい。				
81 6	04021	Ⅱ	U	31・32	SW−02		磨製石斧	9.10	7.50	3.50		361.60	玄武岩	剥離面、敲打痕多く残す。刃部正面右側へ斜項している。				
133 10	04267	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	SG−02	匂玉	6.05	3.50	1.25	0.35	27.40		両側穿孔と思われる。穿孔後、孔周囲の研磨行われる。頭長部に10条、頭部に4条の刻みをもつ。淡緑灰色をなす。埋没・発掘時等、後世の細かい傷が入っているが、本来はおそらく磨きこまれ、なめらかな肌面をなしていたと思われる。				
133 11	04145	Ⅲ	Z	31	第Ⅲ面遺構検出面	SG−02	磨製石斧	19.30	7.30	5.00		985.10	玄武岩	大型の磨製石斧。裏面大きく欠損している。				
138 1	04092	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画⑤、黒粘1面	打製石鏃	1.80	1.80	0.40		0.90	黒曜石	両面に剥片面を多く残す。平基無茎。				
138 2	04074	Ⅲ	ア	30	第Ⅲ面遺構検出面		打製石鏃	1.65	1.20	0.40		0.60	黒曜石	両面に剥片面を残す。先端部欠損。				
138 3	04223	Ⅲ	Z	34	第Ⅲ面遺構検出面		打製石鏃	2.15	1.50	0.30		0.60	黒曜石	風化面は残っていない。				
138 4	04023	Ⅲ	Z	31	第Ⅲ面遺構検出面	下層	打製石鏃	1.90	1.80	0.40		0.90	黒曜石	両面に剥片面を多く残す。				
138 5	04024	Ⅲ	Z	31	第Ⅲ面遺構検出面	下層	打製石鏃	2.60	1.75	0.50		1.40	黒曜石	両面に剥片面を多く残す。平基無茎。				
138 6	04079	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画④・⑤、2面	打製石鏃	1.80	1.55	0.30		0.60	黒曜石	両面に剥片面を残す。脚部欠損。				
138 7	04078	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	黒粘1面	打製石鏃	1.80	1.90	0.50		1.30	黒曜石	両面に剥片面を残す。				
138 8	04080	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画④・⑤、2面	打製石鏃	2.50	1.70	0.60		1.90	黒曜石	両面に剥片面を多く残す。先端部欠損。平基無茎。				
138 9	04253	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	北拡張区水田	石鏃	3.40	1.70	0.43		1.70	サヌカイト?	欠損有。				
138 10	04075	Ⅲ	ア	30	第Ⅲ面遺構検出面		打製石鏃	2.75	1.70	0.45		1.20	黒曜石	両面に剥片面を多く残す。				
138 11	04088	Ⅲ	U	35	第Ⅲ面遺構検出面		打製石鏃	3.60	2.10	0.50		3.80	サヌカイト	両面に剥片面を残す。				
138 12	04082	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画⑤・⑫、黒粘1面	打製石鏃	2.50	1.60	0.40		1.40	黒曜石	両面に剥片面を残す。表裏面の一部と、側縁一周を研磨成形されている。				
138 13	04076	Ⅲ	イ	33	第Ⅲ面遺構検出面		打製石鏃	1.60	1.30	0.40		0.60	黒曜石	両面に剥片面を残す。先端部、脚部一部欠損。				
138 14	04090	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	北拡張区5区	打製石鏃	1.90	1.40	0.35		0.70	黒曜石	両面に剥片面を残す。				
138 15	04091	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	取上げ図面⑦、耕作土と黒粘・流路の西側	打製石鏃	2.30	1.60	0.35		1.10	黒曜石	平基無茎。剥片面を両面とも多く残す。				
138 16	04086	Ⅲ	Z	31	第Ⅲ面遺構検出面		打製石鏃	2.10	1.70	0.40		1.10	黒曜石	両面に剥片面を多く残す。				
138 17	04077	Ⅲ	ウ	34	第Ⅲ面遺構検出面		打製石鏃	2.50	1.90	0.40		1.50	サヌカイト	両面に剥片面を残す。脚部欠損。				
138 18	04069	Ⅲ	U	29	第Ⅲ面遺構検出面		打製石鏃	2.10	1.70	0.35		0.80	サヌカイト	両面に剥片面を残す。先端部、脚部一部欠損。				
138 19	04068	Ⅲ	T	29	第Ⅲ面遺構検出面		打製石鏃	2.40	1.80	0.50		1.20	サヌカイト	両面に剥片面を残す。脚部欠損。				
138 20	04083	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画⑤・⑫、黒粘1面	打製石鏃	2.70	2.20	0.40		1.40	黒曜石	両面に剥片面を残す。				
138 21	04084	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画⑫、2面	打製石鏃	2.50	1.60	0.50		1.60	黒曜石	平基無茎鏃。両面に剥片面を多く残す。				
138 22	04073	Ⅲ	W	31	第Ⅲ面遺構検出面		打製石鏃	2.30	1.95	0.30		1.20	黒曜石	両面とも剥片面を残す。				
138 23	04147	Ⅲ	ア	33	第Ⅲ面遺構検出面		打製石鏃	4.60	2.40	0.70		5.40	チャート	両面に剥片面を多く残す。脚部欠損。				
138 24	04081	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画⑤、黒粘1面	打製石鏃	3.20	1.30	0.90		3.90	サヌカイト	両面に剥片面を残す。				
138 25	04159	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	耕作土と黒粘、流路の西面	スクレイパー	2.00	5.80	0.60		7.30	ガラス質安山岩	つまみ付スクレイパー。つまみ部一部折損。				
139 26	04070	Ⅲ	U	33・34	第Ⅲ面遺構検出面		磨製石鏃	2.40	1.25	0.35		1.30	頁岩	先端部、基部及び左側面欠損。正面中央に稜があるが、裏面は明瞭ではない。				

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	石器の法量と特徴							木器の特徴			
挿図番号							器種	法量(cm・g)					石材	備考	種類	木取り	樹種	備考
								長さ	幅	厚さ	孔径	重さ						
139 27	04162	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面		磨製石鏃	2.90	1.90	0.25		2.30	頁岩	上部欠損。全面に丁寧な研磨が施されている。				
139 28	04087	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	北拡張区	磨製石鏃	4.60	1.30	0.30		1.40	頁岩	有茎式磨製石鏃。裏面は剥落している。全面に荒い研磨痕を残す。				
139 29	04146	Ⅲ	ア	30	第Ⅲ面遺構検出面		磨製石鏃	4.25	1.30	0.60		4.50	雲母片岩	先端部及び基部欠損。全面を研磨しているが、研磨痕は顕著ではない。				
139 30	04071	Ⅲ	U	33・34	第Ⅲ面遺構検出面		磨製石鏃	2.40	1.80	0.55		1.90	安山岩	先端部のみ残存。研磨痕はほとんど認められない。				
139 31	04097	Ⅲ	S	27	第Ⅲ面遺構検出面	黒粘2面	石剣	4.10	3.50	0.80		6.50	頁岩	基部欠損。中央部に表裏とも稜をなす。丁寧に研磨している。				
139 32	04140	Ⅲ	Z	30	第Ⅲ面遺構検出面		石剣	10.30	4.45	0.80		31.80	頁岩	基部欠損。先端部分、研磨面剥落。				
139 33	04251	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	北拡張区水田	石剣	2.30	4.00	0.84		6.00	流紋岩?	欠損有。対馬産の石材。				
139 34	04099	Ⅲ	T	27	第Ⅲ面遺構検出面	黒粘2面	石剣	3.30	3.20	0.40		4.10	頁岩	先端部及び裏面欠損している。表面左半分は節目にそって抜け落ちている。				
139 35	04104	Ⅲ	U	37	第Ⅲ面遺構検出面		石剣	5.00	3.15	0.80		18.90	頁岩	先端部欠損。研磨され中央に稜を有する。裏面は自然剥落している。				
141 36	04127	Ⅲ	Y	29	第Ⅲ面遺構検出面		石包丁	6.25	10.40	0.75		59.40	粘板岩	全面に研磨が施されている。背面は面を穏し、両側から穿孔されている。				
141 37	04125	Ⅲ	Y	28	第Ⅲ面遺構検出面		石包丁	8.80	13.40	0.75		146.80	頁岩	右半分欠損。表裏面に剥落したと思われる部分が多く見られる。				
142 38	04062	Ⅲ	Z	34	第Ⅲ面遺構検出面		石包丁	5.00	5.90	0.80		29.20	頁岩	刃部を両面から作り出している。背面には丁寧な研磨が施されており、面を呈する。				
142 39	04153	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画⑤、2面	石包丁	5.70	5.70	0.90		36.20	頁岩	刃部は両面から調整。基部欠損。背縁は面を呈している。				
142 40	04144	Ⅲ	Z	31	第Ⅲ面遺構検出面	うるし付近	石包丁	7.60	7.10	0.30		23.40	頁岩	刃部を両側から丁寧につくり出している。				
142 41	04139	Ⅲ	Z	30	第Ⅲ面遺構検出面		石包丁	3.50	7.00	0.40		12.80	頁岩	刃部のみ残存。風化により、調整痕は不明瞭になっている。				
142 42	04102	Ⅲ	T	35	第Ⅲ面遺構検出面		石包丁	5.05	8.30	0.50		31.60	頁岩	右半分欠損。全面を研磨していたものと思われるが、風化により研磨痕は認められない。				
142 43	04148	Ⅲ	イ	32	第Ⅲ面遺構検出面		石包丁	5.35	7.75	0.30		16.20	頁岩	右半分欠損。穿孔は両側から穿たれている。風化が著しい。				
142 44	04136	Ⅲ	Z	30	第Ⅲ面遺構検出面		石包丁?	5.30	6.40	0.70		25.80	泥岩	全面に粗い研磨が施されている。また、孔は両側から穿たれている。				
142 45	04250	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	北拡張区	石包丁	4.00	5.10	0.80		20.30	輝緑凝灰岩?	欠損有。				
142 46	04258	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	北拡張区6区2層	石包丁	8.50	6.20	0.55		47.20	粘板岩?					
142 47	04111	Ⅲ	W	31	第Ⅲ面遺構検出面		石包丁	3.90	5.60	0.60		13.10	安山岩	全面が研磨されており、刃部は両面から調整されていたと思われる。				
142 48	04106	Ⅲ	V	35	第Ⅲ面遺構検出面		石鏃	4.30	6.90	1.00		39.50	安山岩	基部欠損。刃部は両縁から調整研磨されている。				
142 49	04257	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	北拡張区5区1層	石鏃?	8.30	4.50	0.3-0.5		17.90		全体的に丸味をおびる。				
142 50	04050	Ⅲ	Z	34	第Ⅲ面遺構検出面		石鏃	5.85	5.50	1.40		64.60	玄武岩	基部及び先端部欠損。裏面は研磨痕が顕著ではない。				
144 51	04150	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	黒粘1面	扁平片刃石斧	3.30	1.50	0.60		5.30	頁岩	全体的に丁寧な整形。				
144 52	04105	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面		扁平片刃石斧	3.50	0.90	0.80		4.90	頁岩	研磨方向は不明瞭。				
144 53	04115	Ⅲ	X	29	第Ⅲ面遺構検出面		扁平片刃石斧	5.50	1.20	1.20		14.60	頁岩	左側面の1部欠損。				
144 54	04124	Ⅲ	Y	28	第Ⅲ面遺構検出面		扁平片刃石斧	3.10	2.60	0.60		10.10	頁岩	基部。				
144 55	04165	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	黒粘1面	扁平片刃石斧	2.30	1.30	1.10		5.40	頁岩	刃部の一部。全面を丁寧に研磨している。				
144 56	04137	Ⅲ	Y	30	第Ⅲ面遺構検出面		方柱状石斧	4.05	1.50	1.40		11.10	頁岩	刃部一部のみ。丁寧に研磨されている。				
144 57	04166	Ⅲ	V	34	第Ⅲ面遺構検出面		扁平片刃石斧	5.40	2.00	1.20		17.40	頁岩	基部と右側欠損。研磨痕の方向不明瞭。				
144 58	04151	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画⑤、黒粘1面	扁平片刃石斧	4.80	1.90	0.70		10.40	頁岩	基部、左側欠損。刃部と側面以外は研磨が雑。				
144 59	04118	Ⅲ	X	30	第Ⅲ面遺構検出面		扁平片刃石斧	5.40	1.20	1.00		13.20	頁岩	右側面1部欠損。				
144 60	04117	Ⅲ	X	30	第Ⅲ面遺構検出面		扁平片刃石斧	6.30	1.20	0.90		14.10	頁岩	ほぼ全面を丁寧に研磨している。				
144 61	04160	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面		扁平片刃石斧	6.40	3.00	0.90		34.60	頁岩	刃部右側欠損。				
144 62	04138	Ⅲ	Y	30	第Ⅲ面遺構検出面		扁平片刃石斧	7.10	3.50	1.40		83.60	流紋岩質凝灰岩	ほぼ全面を研磨。丁寧な整形。				
144 63	04126	Ⅲ	Y	28	第Ⅲ面遺構検出面		方柱状石斧	4.40	0.90	1.50		13.80	頁岩	刃部の一部。欠損後に上部調整している。				
144 64	04135	Ⅲ	Z	30	第Ⅲ面遺構検出面		方柱状石斧	4.90	0.60	2.55		8.20	頁岩	刃部の一部のみ残存。欠損面は完全に磨耗している。				
146 65	04259	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	北拡張区6区2層	抉入柱状石斧	11.00	2.60	3.30		199.90						
146 66	04112	Ⅲ	W	31	第Ⅲ面遺構検出面		抉入方柱状片刃石斧	7.80	3.10	3.00		156.90	玄武岩	両側面は敲打で終了している。刃部欠損。				
146 67	04130	Ⅲ	Y	32	第Ⅲ面遺構検出面		方柱状石斧	9.00	2.30	3.20		138.10	頁岩	裏面に階段状の剥離を残す。				
146 68	04132	Ⅲ	Z	28	第Ⅲ面遺構検出面		方柱状石斧	5.50	2.90	3.50		66.70	頁岩	基部、刃部欠損。側面は稜を研出しているが、やや丸みももつ。				
146 69	04157	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	北拡張区水田	方柱状石斧	11.20	2.05	4.50		141.50	粘板岩	表面中央にやや抉りがある。				
147 70	04260	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	北拡張区	石斧	13.70	5.80	4.40		556.00	玄武岩?					
147 71	04158	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	北拡張区	磨製石斧	14.00	7.30	3.75		503.70	凝灰岩	裏面大幅に欠損。全体的に敲打施す。研磨は一部のみ。				
147 72	04131	Ⅲ	Z	28	第Ⅲ面遺構検出面		磨製石斧	13.00	6.80	4.60		668.00	玄武岩	刃部欠損。全面研磨されているが、基部は敲打痕をやや残す。				
147 73	04110	Ⅲ	W	31	第Ⅲ面遺構検出面		磨製石斧	8.40	6.60	4.40		402.80	安山岩	断面楕円形。敲打のち研磨が施されるが充分ではない。刃部欠損。				
147 74	04107	Ⅲ	W	29	第Ⅲ面遺構検出面		磨製石斧	7.10	7.40	4.60		260.40	玄武岩	刃部のみ残存。丁寧に研磨されている。左上方敲打痕みられる。使用によるもの?				
148 75	04228	Ⅲ	Z	34	第Ⅲ面遺構検出面		太型蛤刃石斧	8.20	7.80	4.10		346.00		器面は風化・浸蝕のため、少し多孔質。				

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	石器の法量と特徴							木器の特徴			
挿図番号							器種	法量(cm・g)					石材	備考	種類	木取り	樹種	備考
								長さ	幅	厚さ	孔径	重さ						
148 76	04256	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	北拡張区	石斧	8.90	6.80	4.70		410.00	玄武岩?	欠損有。明確な二次的調整がとりあえず見られないので、石斧の欠損品とした。調整に関する記述は判別しにくい状況だったため、あいまいに記入している。				
150 77	04168	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	排土	磨製石斧	15.00	7.45	4.10		748.10	玄武岩	断面楕円形。刃部付近とくに丁寧に研磨。他敲打痕残る。				
150 78	04129	Ⅲ	Y	31	第Ⅲ面遺構検出面		磨製石斧	12.50	8.00	2.90		428.50	玄武岩	刃部及び下半部は研磨がされ、側縁にやや稜を呈する。				
150 79	04108	Ⅲ	W	30	第Ⅲ面遺構検出面		磨製石斧	11.50	7.60	3.35		534.20	玄武岩	研磨されているが、敲打痕、剥離面多くのこす。				
150 80	04142	Ⅲ	Z	31	第Ⅲ面遺構検出面		磨製石斧	11.70	7.60	3.30		478.30	玄武岩	全体的に敲打のみ施しているが、側面にやや研磨を施している。				
150 81	04061	Ⅲ	Z	34	第Ⅲ面遺構検出面		磨製石斧	6.40	7.15	4.70		394.70	玄武岩	打部欠損。断面は楕円形。				
152 82	04096	Ⅲ	R	31	第Ⅲ面遺構検出面		方柱状石斧	12.30	4.80	4.20		440.90	ホルンフェルス	全面に研磨を施しているが充分ではなく、敲打痕多く残る。側面との間に稜をつくり出している。				
152 83	04128	Ⅲ	Y	31	第Ⅲ面遺構検出面		方柱状石斧	7.10	5.90	2.50		196.40	頁岩	全面研磨を施している上部にも敲打痕あり。				
154 84	04254	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	北拡張区	太型蛤刃石斧	13.20	7.90	4.40		768.00	玄武岩?	欠損有。明確な二次的加工痕(敲打痕etc)が見られないので、とりあえず石斧の欠損品として処理。				
154 85	04156	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	北拡張区水田	磨製石斧	13.50	6.80	4.90		710.80	玄武岩	全体的に研磨されているが、側面にやや敲打痕残す。側面は研出され、稜をなす。				
154 86	04113	Ⅲ	W	35	第Ⅲ面遺構検出面		磨製石斧	10.60	8.45	4.80		642.10	安山岩	基部欠損。全体的に風化がはげ冗しく、磨耗している。				
154 87	04141	Ⅲ	Z	21	第Ⅲ面遺構検出面		磨製石斧	9.15	8.00	4.00		500.20	玄武岩	断面楕円形。基部欠損しているが研磨痕がみられる。再加工していると思われる。				
154 88	04154	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画⑤・⑫、黒粘1面	磨製石斧	6.10	6.10	3.70		193.50	玄武岩	基部のみ残存。				
154 89	04164	Ⅲ	Q	27	第Ⅲ面遺構検出面	黒粘1面	磨製石斧	9.30	3.80	3.00		140.80	頁岩	左半分、基部欠損。やや敲打面を残すが、比較的丁寧に研磨している。				
154 90	04155	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画⑫、2面	磨製石斧	7.70	5.15	3.00		185.00	玄武岩	研磨がされてはいるが、不整形である。基部欠損。刃部先端に磨滅した痕がみられる。				
156 91	04098	Ⅲ	T	26	第Ⅲ面遺構検出面	黒粘2面	砥石	5.50	1.60	1.40		12.20	頁岩	上面、底面を含め、全面使用。両側面のやや上部側に一条の溝。				
156 92	04103	Ⅲ	U	33	第Ⅲ面遺構検出面		砥石	7.50	0.80	0.60		6.20	頁岩	砥石?4面研磨している。下部は意図的に基部のようなものを作り出している。				
156 93	04255	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	北拡張区	砥石					69.30		対馬産?				
156 94	04116	Ⅲ	X	29	第Ⅲ面遺構検出面		砥石	6.10	2.20	1.30		26.30	泥岩	両方向からの穿孔。破損している面を除く、5面全てを砥石として利用。				
156 95	04093	Ⅲ	Q	27	第Ⅲ面遺構検出面	黒粘1面	砥石	6.00	5.50	4.50		190.50	流紋岩質凝灰岩	外面の砥石。底面も砥石として使用されている。				
156 96	04161	Ⅲ	Y	32	第Ⅲ面遺構検出面		砥石	9.50	6.80	4.10		241.20	砂岩	2面使用。正面は中央部が凹む。右側面も湾曲する。				
156 97	04100	Ⅲ	T	27	第Ⅲ面遺構検出面	Ⅱ面	砥石	13.40	7.60	7.00		556.40	砂岩	6面を使用している。				
157 98	04149	Ⅲ	エ	38	第Ⅲ面遺構検出面		砥石	30.90	6.40	5.10		1326.50	凝灰質砂岩	大型の砥石。裏面は欠損。側面に稜をもち四面を呈する。				
157 99	04017	Ⅲ	T	34	第Ⅲ面遺構検出面		磨製石斧	5.50	6.95	4.20		173.60	玄武岩	裏面、研磨面大幅に剥落している。研磨痕はやや見える。				
157 100	04163	Ⅲ	Q	27	第Ⅲ面遺構検出面	黒粘1面	凹石	5.60	5.60	3.50		143.20	砂岩	小型の凹石。表裏面に敲打痕が認められる。				
157 101	04134	Ⅲ	Z	28	第Ⅲ面遺構検出面		凹石	10.70	8.95	3.80		528.30	花崗岩	完形。表裏面中央部に、敲打でできたかと思われる浅い凹みが認められる。				
157 102	04152	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画⑤、黒粘1面	磨製石鏃	4.30	1.90	0.90		7.60	安山岩	全面的に研磨されているが、研磨痕は顕著ではない。				
157 103	04060	Ⅲ	Z	34	第Ⅲ面遺構検出面		砥石	6.80	2.40	1.90		51.60	粘板岩	表裏両面使っている。側面は比較的不明瞭。				
157 104	04057	Ⅲ	Z	31	第Ⅲ面遺構検出面	下層	打製石斧	7.70	5.20	0.70		42.10	粘板岩	研磨面は剥離している。				
157 105	04252	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	北拡張区水田	不明品	4.80	3.90	2.15		36.90	凝灰質砂岩?	欠損有。木製品の土掘り具に形は似ているように見えるが、これだけでは判らないので不明品。				
159 106	04059	Ⅲ	Z	34	第Ⅲ面遺構検出面		砥石	10.15	8.30	1.20		88.90	粘板岩	両面使用している薄型の砥石。左側に向かって薄くなる。				
159 107	04133	Ⅲ	Z	28	第Ⅲ面遺構検出面		未製品(打製)	7.50	9.30	1.20		146.10	粘板岩	中央に穿孔あり。貫通はしていない。表面には研磨痕。				
159 108	04063	Ⅲ	Z	34	第Ⅲ面遺構検出面		円形石錘	7.90	12.90	5.20		683.10	滑石片岩	半分欠損。中央の孔は両面でややずれている。				
159 109	04143	Ⅲ	Z	31	第Ⅲ面遺構検出面	うるし付近	魚錘	11.20	2.95	0.65		40.20	頁岩	完形。上下端に抉りが入っており、全面が研磨されている。				
160 110	04109	Ⅲ	W	30	第Ⅲ面遺構検出面		勾玉	4.60	2.40	0.80		11.90	蛇紋岩	ほぼ完形。両側から孔を穿っており、全面に研磨痕が認められる。				
160 111	04095	Ⅲ	R	28	第Ⅲ面遺構検出面		垂飾品	3.40	1.80	0.50		4.20	滑石	両側から穿たれた穴が半分程度残存している。				
162 112	04094	Ⅲ	R	28	第Ⅲ面遺構検出面		紡錘車	2.90	5.70	0.50		12.70	頁岩	下半分欠損。中心に両面から穿たれた孔。全面研磨。				
162 113	04114	Ⅲ	X	28	第Ⅲ面遺構検出面		紡錘車	3.15	5.60	0.60		16.90	結晶片岩	下半分欠損。丁寧な研磨が全面に施されており、表面は滑らか。				
162 114	04058	Ⅲ	Z	34	第Ⅲ面遺構検出面		紡錘車未製品	4.40	5.80	0.80		31.70	滑石片岩	約半分欠損。全面を研磨しているが、孔は穿たれていない。				

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	石器の法量と特徴							木器の特徴			
挿図番号							器種	法量(cm・g)					石材	備考	種類	木取り	樹種	備考
								長さ	幅	厚さ	孔径	重さ						
162 115	04119	Ⅲ	X	30	第Ⅲ面遺構検出面		紡錘車	5.40	5.30	6.50		34.10	頁岩	表裏側面に丁寧な研磨が施されている。				
162 116	04101	Ⅲ	T	35	第Ⅲ面遺構検出面		紡錘車	5.40	5.40	0.90		32.20	結晶片岩	中央に両面から穿たれた孔。表面は周縁部に研磨がゆきとどいていない。				
162 117	04169	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面		紡錘車	5.20	5.10	0.55		24.50	角内片岩?	ほぼ完形。丁寧な研磨が施されている。孔は穿たれていない。未製品か。				
169 8	04001	Ⅲ	Q	30	SK−002		打製石鏃	1.90	0.80	0.30		0.40	黒曜石	両面に剥片面を残す。				
172 5	04003	Ⅲ	S	29	SK−004		凹石	11.40	9.10	3.80		674.00	砂岩	完形。ほぼ全面を敲打している。他の部分は磨面か。				
172 6	04241	Ⅲ	R	30	SK−004		石鏃	1.80	1.30	0.33		0.70	黒曜石					
172 7	04002	Ⅲ	R	30	SK−004		剥片	4.45	1.60	0.80		4.10	黒曜石	裏面に少し調整がみられる。				
178 13	04005	Ⅲ	S	26	SK−006		磨製石斧	10.30	8.10	5.00		698.50	玄武岩	基部欠損。裏面中央に凹みあり。断面楕円形。				
178 14	04004	Ⅲ	S	26	SK−006		石剣未製品	9.45	6.10	2.20		153.30	頁岩	表裏とも研磨面が剥落(特に表面)している。両面とも鏑を有する。				
183 2	04006	Ⅲ	T	31	SK−008		紡錘車	5.20	5.20	0.55		26.40	粘板岩	全面に研磨痕が残る。また、表裏面にキズ多数。				
186 5	04008	Ⅲ	T	31	SK−009		磨製石斧	6.80	8.00	3.50		307.10	玄武岩	断面は楕円形と思われるが、裏面大幅に欠損している。全面研磨。				
186 6	04007	Ⅲ	T	31	SK−009		ドリル	3.30	2.30	0.70		4.20	黒曜石	両面に多く剥片面を残す。				
186 7	04245	Ⅲ	T	30	SK−009		石包丁	10.60	4.00	0.50		31.40	粘板岩?	全体的に欠損と思われる(生き面は孔付近のみ)				
212 52	04009	Ⅲ	Y	31	SK−024		抉入方柱状片刃石斧	13.80	3.70	5.50		447.20	珪質頁岩	全面に部分的に特に刃部に研磨を施すが敲打痕を多く残す。				
212 53	04011	Ⅲ	X·Y	32·31	SK−024	下層	方柱状片刃石斧	9.10	2.40	4.25		151.80	頁岩	全面研磨しているが充分ではない。表裏面とも平坦ではなく丸みを帯びる。				
212 54	04272	Ⅲ	Y	31	SK−024		不明品					30.70	玄武岩	研磨痕。右面は剥離。穂摘具と思われるが、積極的な模擬なし。				
212 55	04010	Ⅲ	Y	31	SK−024		すり石	4.80	2.90	2.30		52.80	硬質砂岩	上半分を欠損。表面は滑らかである。				
212 56	04271	Ⅲ	Y	31	SK−024	下層	不明品					89.00	砂岩	中砥。1面のみを使用。全形不明。				
212 57	04065	Ⅲ	Y	31	SK−024		石皿	22.20	25.70	5.30		5085.00	輝緑岩	表面に浅い凹みがある。				
216 8	04012	Ⅲ	X	30	SK−026		紡錘車	2.80	5.30	0.35		7.70	頁岩	剥落が著しく、研磨痕は僅かに認められるのみ。孔は両側から穿たれている。				
217 4	04066	Ⅲ	Z	31	SK−028		すり石	10.30	10.20	5.80		910.50	安山岩	完形。表面は磨耗している。				
217 5	04067	Ⅲ	Z	31	SK−028		砥石	4.60	4.80	2.40		55.10	砂岩	3面使用。側面は部分的に敲打する。				
229 29	04227	Ⅲ	Z	31·32	SK−035		砥石?					242.00						
231 3	04013	Ⅲ	Q	35	SK−036		扁平片刃石斧	3.80	3.80	1.10		27.60	頁岩	刃部。表面の研磨方向は不明瞭。				
237 5	04243	Ⅲ	R	24	SP−0264	⑦	不明品	9.90	1.0-1.5	4.90		101.50		形状が判明しないため、欠損部位は不明。(叩きによる剥離のようなものは見られる)				
243 1	04237	Ⅲ	Q	31	SP−0089		磨石	9.80	6.50	5.60		536.00						
243 2	04238	Ⅲ			SP−0162		砥石?	6.60	2.20	2.0前後		51.20	砂岩?	欠損有。				
243 3	04242	Ⅲ	R	30	SP−0260		砥石	5.00	1.40	1.30		14.70	砂岩?	欠損有。				
243 5	04236	Ⅲ	R	29	SP−0049		石鏃	1.90	1.40	0.34		0.70	黒曜石	欠損なし?				
243 6	04246	Ⅲ	S	33	SP−0328		尖頭器?	2.60	1.25	0.40		1.50	サヌカイト?					
243 7	04235	Ⅲ	Q	29	SP−0038		砥石	2.90	3.30	1.40		40.20	粘板岩?	欠損有。				
245 10	04240	Ⅲ	T	32	SP−0241		石斧転用コウ打具(加工具)	15.90	7.80	5.00		1110.00	玄武岩?					
245 11	04239	Ⅲ	S·T	32	SP−0241		コウ打具	7.50	3.30	2.10		91.00	蛇紋岩?玻璃質安山岩?	握ってたたく。右手に持つとき、落ちついた形と感じる。(持ちやすい)				
245 12	04247	Ⅲ	S	35	SP−0489		砥石	3.30	1.90	1.00		8.70	砂岩?	欠損有。				
245 13	04249	Ⅲ	R	36	SP−0654		石鏃	3.20	2.40	0.76		4.20	黒曜石	欠損有。				
245 14	04248	Ⅲ	U	35	SP−0520		石包丁	4.20	5.70	0.87		23.70	輝緑凝灰岩?	欠損有。				
245 15	04244	Ⅲ	R	28	SP−0265		太型蛤刃石斧	5.90	5.40	3.20		148.40	玄武岩?	欠損有。				
245 18	04040	Ⅲ	S	36	SP−0661		扁平片刃石斧	5.20	2.60	0.90		22.30	頁岩	刃部左側欠損。基部の一部は研磨があまい。				
260 15	04123	Ⅲ	Y	31	SW−04		石包丁	6.20	6.50	0.50		30.70	安山岩	全面的に研磨されている。				
260 16	04167	Ⅲ	Y	33	SW−04		扁平片刃石斧	7.20	2.70	0.90		32.30	頁岩	全体に丁寧な研磨				
286 165	04044	Ⅲ	X	31	SW−04	杭周辺	紡錘車	3.00	3.60	0.55		9.60	結晶片岩	全面を研磨している。				
286 167	04268	Ⅲ	X	27	SW−04		紡錘車	(5.40)		0.60		24.70		孔径:0.6cm				
286 168	04220	Ⅲ	X	29	SW−04		紡錘車	4.55-4.16		0.25-0.49		17.40	変成岩?	孔径:5.5~5.7mm。全体に丁寧に磨かれているが、厚みが異なる。孔はほぼ正円。				
287 177	04041	Ⅲ	Y	28	SW−04		磨製石斧	10.10	7.00	4.55		486.90	玄武岩	断面形は楕円形。全面研磨している。基部欠損。				
287 178	04043	Ⅲ	X	31	SW−04	杭周辺	磨製石斧	7.30	6.00	4.00		273.50	玄武岩	基部欠損。側縁に2本ずつ稜を有する。				
287 179	04042	Ⅲ	X	30	SW−04		磨製石斧	9.50	6.70	4.60		449.60	凝灰岩	刃部欠損。丁寧に研磨。一部研磨面剥落。				
287 180	04121	Ⅲ	X	31	SW−04	北半	砥石	7.50	5.50	3.40		164.20	砂岩	主に1面を使用。裏面中央と上部に、わずかに研磨がみられる。全体を敲打後、使用していると思われる。				
287 181	04122	Ⅲ	X	31	SW−04	北半	磨製石斧	7.20	6.40	4.30		328.10	玄武岩	断面形は楕円形である。刃部欠損しているが、敲打痕があり、再加工していると思われる。				
287 182	04046	Ⅲ	X	28	SW−04		砥石	13.55	6.80	4.30		445.60	砂質凝灰岩	4面を呈している。特に正面、左側面は使用頻度が高く、凹みがみられる。				
288 183	04054	Ⅲ	X	29	SW−04		ポイント	5.20	1.90	0.90		5.70	黒曜石	両面に多く剥片面を残す。先端部欠損。				
288 184	04022	Ⅲ	X	30	SW−04		ドリル	4.30	1.60	0.90		4.30	黒曜石	両面に多く剥片面を残す。先端部欠損。				
288 185	04120	Ⅲ	X	30	SW−04		扁平片刃石斧	5.10	2.90	1.80		44.30	凝灰岩	基部欠損。表面左右両端は研磨途中?右側面側と左側面一部に敲打痕が残る。				
288 186	04052	Ⅲ	X	30	SW−04		砥石	5.30	2.30	4.60		93.40	珪質頁岩	3面を砥石として使用。				

報告書 挿図番号	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	石器の法量と特徴							木器の特徴			
							器種	法量(cm・g)					石材	備考	種類	木取り	樹種	備考
								長さ	幅	厚さ	孔径	重さ						
288 187	04045	Ⅲ	Y	27	SW−04		石剣	9.10	3.60	0.35		13.50	頁岩	鏑はつくり出されていない。刃部の研磨痕をわずかに残す。				
288 188	04226	Ⅲ	X·Y	27~30	SW−04		石包丁	5.70	4.40	1.10		31.10	粘板岩?	敲打痕が残る。				
288 189	04222	Ⅲ	X·Y	27~30	SW−04	北西端 最下層	磨製石鏃	3.00	1.90	0.63		4.00						
288 190	04064	Ⅲ	X·Y	27~30	SW−04	東壁 C層	磨製石鏃	4.60	1.90	0.80		4.80	粘板岩	裏面は半分以上剥落している。全面に主として、横方向の研磨痕を残す。				
288 191	04225	Ⅲ	X·Y	27~30	SW−04		石包丁	8.10	2.90	0.60		21.10		孔径:0.53mm。敲打痕はない。				
288 192	04224	Ⅲ	Y	27	SW−04		石包丁	5.30	3.80	0.65		13.70		穿孔時の敲打中に割れた可能性あり。				
288 193	04221	Ⅲ	Y	29	SW−04		石包丁	13.85	4.90	0.70		62.30		孔径:5.4~5.5mm 孔間長:2.75cm。孔直上は器壁がやや薄いため、研磨が達しておらず、敲打痕を残している。体部と刃部との境は不明瞭。両刃である。				
288 194	04053	Ⅲ	X	28	SW−04		紡錘車未製品	7.15	5.60	0.50		97.20	滑石片岩	縁辺に剥離が見られる。発掘の際についたと思われるキズが数ヵ所あり。				
288 195	04269	Ⅲ	Y	27	SW−04		石錐?	5.10	1.2-1.6	1.2-1.4		17.60						
288 196	04270	Ⅲ	Y	28	SW−04		石錐?	5.50	1.0-2.1	1.0-2.2		30.70						
288 197	04229	Ⅲ	Y	27	SW−04		不明石製品	5.90	1.90			28.40	砂岩	投弾の未製品?				
288 198	04048	Ⅲ	Y	27	SW−04		砥石	10.50	12.00	4.60		928.10	砂岩	表面と左側面を使用しており、浅い凹みを呈する。				
289 199	04047	Ⅲ	Y	27	SW−04		円形石錘	6.65	12.70	2.40		238.50	滑石片岩	表裏面の剥落、割れが著しい。両面から孔が穿たれている。				
289 200	04055	Ⅲ	X	30	SW−04		すり石	8.50	6.80	6.80		695.20	ヒン岩	全体的に磨耗している。				
289 201	04056	Ⅲ	Y	29	SW−04		軽石	7.90	9.50	6.20		60.80	軽石	不整楕円形。所々凹み、キザミがあるが、統一的ではない。				
289 202	04049	Ⅲ	X·Y	27~30	SW−04	西	不明品	11.30	9.35	4.10		675.90	玄武岩	裏面中央に、浅く敲打痕みられる。表面と裏面では色調が異なる。				
323 39	04026	Ⅲ	X	28	SW−05		磨製石斧	3.25	8.50	4.40		213.50	玄武岩	基部のみ残存。裏面欠損。やや敲打痕残る。				
323 40	04029	Ⅲ	X	31	SW−05		すり石	6.40	3.30	3.20		102.40	安山岩	完形。上下面を使用している。				
323 41	04025	Ⅲ	X	32	SW−05		石鎌	3.60	4.90	4.00		11.00	頁岩	基部欠損。両側から刃をつくり出している。研磨痕は顕著ではない。				
333 24	04231	Ⅲ	Z	29	SW−06		石包丁	5.90	4.80	0.45		25.40		復元孔間径:2.6cm				
333 25	04233	Ⅲ	Z	29	SW−06		石包丁	15.00	4.00	0.50		28.40	頁岩	先端部のみ残存。風化により、細部の調整は認められなくなっている。				
333 26	04030	Ⅲ	Z	29	SW−06		石包丁	3.70	5.10	0.50		13.20	頁岩	先端部のみ残存。風化により、細部の調整は認められなくなっている。				
335 27	04230	Ⅲ	Z	29	SW−06		磨製石剣	12.50	4.00	0.90		58.00						
335 28	04232	Ⅲ	Z	29	SW−06		磨製石剣	17.00	3.65	0.70		85.90		折れた磨製石剣を、何かに転用しようとした可能性あり。刃部端は面取りされている。				
336 29	04038	Ⅲ	Z	29	SW−06		磨製石斧	9.40	7.90	4.80		577.30	玄武岩	基部欠損。断面楕円形。裏面に敲打痕残す。				
335 30	04034	Ⅲ	Z	29	SW−06		磨製石斧	9.60	6.35	4.90		461.40	凝灰岩	基部欠損。全体的に丁寧に研磨。刃部使用痕顕著。				
335 31	04028	Ⅲ	Z	29	SW−06		磨製石斧	15.10	3.60	4.40		304.10	凝灰岩	左半分欠損。刃部は丁寧に研磨されているが、その他はそれほどでもない。				
335 32	04039	Ⅲ	Z	29	SW−06		磨製石斧	11.80	7.80	4.55		678.90	玄武岩	断面形はほぼ楕円形。全面敲打。裏面剥落している。				
336 33	04170	Ⅲ	X	29	SW−06		砥石	9.70	4.20	3.70		188.60	砂岩	棒状円礫の下部を砥石として使用。上端、側面にも一部研磨部あり。それ以外の部分は敲打痕あり。				
335 34	04035	Ⅲ	Z	29	SW−06		方柱状片刃石斧	5.40	3.10	3.10		74.20	頁岩	刃部のみ残存。全面やや剥離面をのこすが、丁寧に研磨されている。				
336 35	04032	Ⅲ	Z	29	SW−06		砥石	4.10	3.40	2.60		69.50	砂岩	3面使用。1面剥離面以外、一部使用。				
336 36	04033	Ⅲ	Z	29	SW−06		砥石	4.00	2.65	2.50		36.40	砂岩	下面に溝が1条みられる。正・裏面は平坦だが、上、下、右側面は使用頻度が高く抉れている。				
336 37	04031	Ⅲ	Z	29	SW−06		凹石	8.10	7.00	3.50		371.40	ハンレイ岩	表裏両側面中央部に浅い凹みが認められる。ほぼ円形。				
336 38	04027	Ⅲ	Z	29	SW−06		凹石	14.00	10.30	5.80		1169.90	ハンレイ岩	半分欠損。表裏面中央部に敲打によると思われる凹みが認められる。				
336 39	04036	Ⅲ	Z	29	SW−06		紡錘車	3.70	6.50	0.90		32.60	結晶片岩	下半分欠損。中心部にいくにつれて、厚みが増している				

第12次調査出土　木製品

報告書 挿図番号	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	石器の法量と特徴							木器の特徴			
							器種	法量(cm・g)					石材	備考	種類	木取り	樹種	備考
								長さ	幅	厚さ	孔径	重さ						
18 23	90056	Ⅰ			水田(上面)	Ⅰ区　耕作土									円形曲物	柾目	針葉樹	曲物の底板と思われる。2箇所に木釘を差し込んだ跡がある。木釘で側板と結合するタイプは蓋板より底板に使われることが多いということから、これも底板ではないかと判断した。側縁はケズリである。上下方向から直角に、あるいはやや斜めに角度をつけてけずっている。曲物底によく見られる刃傷はこれには認められない。
18 24	90023	Ⅰ			水田(上面)	耕作土									円形曲物			直径20,2センチの曲物の底あるいは蓋板である。側板連結の為の二つ並んだ孔とは別に、それらとは90度離れた位置に小孔が直線状に存在する。確認出来るのは3箇所だが、位置的に考えて実際は4箇所あったのもと推測される。補修孔か?内面一部には側板の位置を決める針書き線が残る。内面中央の一部と外面全面に刃傷あり。
18 25	90025	Ⅰ			水田(上面)	耕作土									円形曲物	柾目	針葉樹	復元直径20,5センチ。内面には側板があたっていた痕跡が色調の違いで残る。側板連結孔には束縛のための樹皮が残存。
18 28	90074	Ⅰ			水田(上面)										円形曲物			側板との綴じ孔が1箇所に2孔残る。底(蓋)板で、側板よりはみ出すタイプのものと思われる。
18 29	90073	Ⅰ			水田(上面)										楕円形曲物	柾目		腐蝕はげしく残り悪い。残存率としては4分の1程度か。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	石器の法量と特徴								木器の特徴			
挿図番号							器種	法量(cm・g)					石材	備考	種類	木取り	樹種	備考
								長さ	幅	厚さ	孔径	重さ						
18 30	90103	Ⅰ			水田(上面)										方形曲物	柾目	針葉樹	一部に側板のあたっていた痕跡があるため内外面の判別が可能であった。内外面とも刃傷がつくが特に外面の刃傷はおびただしく、組代わりに使われていたと思われる。周囲が熱を受け黒く炭化している。
18 31	90072	Ⅰ			水田(上面)										不明			板状。中央で縦軸方向に湾曲する。中央の孔はケズリによるものか不明。節が抜けた孔の可能性もある。
18 32	90113	Ⅰ			水田(上面)										不明	柾目	針葉樹	横断面やや長方形～方形。それぞれの面は平滑に丁寧に仕上げられる。一箇所に抉りあり。両側から刃を入れて浅い溝を作っている。
18 26・27	90058	Ⅰ			水田(上面)										円形曲物〈側板・底(蓋)板	柾目	針葉樹	底(蓋)板と側板がそれぞれ一部残存。底(蓋)板には側板との結合孔が1箇所のみ確認できる。おそらくすぐ隣にもう1箇所はあったであろう。やや不明瞭であるが、側板の当たっていた痕跡が見受けられる。側板には底(蓋)板との結合穴が1箇所と、側板の重なり部分の結合箇所が残る。B側板同士の結合は三段内綴じである。側板の重なる部分は、外側の板の先端から約4cmの部分の内側をけずり薄くし重ねている。
21 33	90115	Ⅰ			水田(上面)	取上げ区画⑦、耕作土と黒色流路の西側									不明	板目	針葉樹	幅約1.6cmの角棒状で一方の端部は欠損、もう一方の端部は一面から斜めにけずられ窄まる。径1cm程度の正円形の穴(貫通せず)が2箇所残存。穴の内面のケズリは鋭利な刃物によって施されたようである。穴の底は平らである。
21 34	90069	Ⅰ			水田(上面)										不明			二つの孔には際立った使用痕はない。表面は丁寧なケズリである。図化していない面はほぼ全体が薄く剥がれている。
21 35	90046	Ⅰ			水田(上面)										木簡	板目	針葉樹	長軸方向のケズリ痕を残す面があるが、字を消した際のものである可能性もある。頭部はやや角ばった楕円形に近い。くびれ部は両側から台形状に切り取られて形作られている。くびれ部には紐で縛ったような跡はない。表面には字は書かれていない。
21 36	90070	Ⅰ			水田(上面)										墨書	斎串	板目	頭部に8字形の墨書(?)。非常に薄い作りだが、頭部と下部の尖った形状は比較的シャープなケズリで成形される。胴部は刃物で割り裂き、その後ケズリか。ケズリ痕は残っていない。下部の一部はやや黒っぽく変色している。(原因?)
21 37	90127	Ⅰ			水田(上面)	1面　取り上げ区画⑮ X-22									人形			
21 38	90130	Ⅰ			水田(上面)													ヒョウタン。
21 39	90129	Ⅰ			水田(上面)													ヒョウタン。
49 1	90062	Ⅱ	S	35	水田(上面)										鋤			柄と身とがほぼ一直線をなす一木鋤である。肩は若干下がるが角肩といえる。身部の横断面形は前後面の区別が不明瞭で、中央でやや膨らむ紡錘形である。身部断面形での前後面の区別は難しいが、柄下部から身部にかけて片面にのみケズリがなされ低い段を作る。おそらくこのケズリ面が後面か。身下端より約5cmが刃部か。側縁が薄くつくられる。
51 2	90013	Ⅱ	R	34	水田(上面)										ﾅｽﾋﾞ形木製品		広葉樹	完形ではあるが、腐蝕のため特に歯部の残りが悪い。歯部の一部にケズリ残存、刃部が見受けられる。頭部はケズリにより面取り。ケズリの方向は上から下へ。側面にもケズリ残存。歯部の厚みは6ミリと薄く、開墾具としては不向きか。整地具か。
53	90128	Ⅱ	T	39	水田(上面)													繊維材。
61 30	90043	Ⅱ	T	39	水田(上面)										鍬柄	芯抜き	広葉樹	ケズリ痕は見られないが丁寧な作りである。残存状態が非常によい。
61 31	90015	Ⅱ	T	39	SP－0485										二又鍬		広葉樹	直柄式の二又鍬で、整った長方形の柄孔を持つ。着柄角度は46度とやや狭いか。頭～肩部へはなだらかに広がり、全体の約2分の1の長さのところで身幅は最大となる。そして歯端部へ向けて徐々に内窄まりとなる。欠損しているため不明だが、歯部の内縁のラインは真っすぐに伸びていたものと思われる。頭部側面は面取り加工される。
64 32	90088	Ⅱ	T	39	SP－0436										平鍬			曲柄平鍬。上端欠失。欠損部はあるが残りはよい。両側面のケズリも単位こそ見て取れないが明瞭に残る。笠の下のくびれから、若干であるが外湾しつつ幅を増し且つ刃部の両側ははぼ平行して長くのびる。刃部の端部は中央が尖る。笠部は片側は厚さ8㎜なのに対しもう片側は厚さ5㎜と薄くなる。欠損によるものではない。製作時からか。笠の下のくびれ部に紐ずれ等の痕跡はない。刃部先端より上5cmは、片面には小さな傷が刃部と平行に走り、もう片面は表面がやや凹凸している。ケズリ仕上げが雑であったか、土に打ち込んだ際に表面が削られたなどを考えた。
64 33	90087	Ⅱ	T	39	SW－01										ナスビ形木製品			埋没中に多少の変形はしているが、腐蝕はあまり進んでいない。欠損箇所は多いが外形ラインはほぼ生きている。厚さ5～6㎜と全体的に薄い。笠部は両方とも欠損しているが、欠損後の磨耗が見られ、紐ずれによる窪みとも受け取れる部分あり。表面に細く浅い刃傷あり。
64 34	90014	Ⅱ	T	39	SW－01										俥泥?		広葉樹	腐蝕のため原形を留めている範囲が不明確であり、図上では原形としている上端ラインと下端ラインは欠損線である可能性あり。上下方向に若干の反りがある。柄孔より上部は厚みが増す。柄孔は上下方向に長い楕円形である。ケズリ痕は一部に残る。下半部に被熱の痕跡あり。
64 35	90004	Ⅱ	T	39	SW－01										竪杵(手杵)	芯持ち	広葉樹	小ぶりの杵である。搗き部と握り部の境界明瞭。握り部には内湾する工具痕があり、ヤリガンナによるケズリと推測される。搗き部は丸みを帯びていることから、工具によるケズリの後磨かれた可能性がある。搗き部端部は一方は丸みを帯びるが、もう一方は切断痕を残し、磨耗も少なく、凹凸の多少ある平坦面を成す。それ程使い込まれた端部ではない感じ。握り部中央に溝状の窪み有り。搗き部の一部に樹皮残る。
69 36	90098	Ⅱ	T	39	SW－01										楔?	芯持ち	広葉樹	鍬柄の端部かとも考えたが、横断面でいう上面が平坦にケズリ成形されていることや、下部端が折損後の磨耗面と考えるにはさくれ等が全くなく、刃物によりつくり出された面と見えることから鍬柄ではないとする。用途不明。楔等であろうか。径約3cmの広葉樹の枝を使用。一部に樹皮残る。
69 37	90116	Ⅱ	T	39	SW－01										不明(板材)		針葉樹	幅6cmの板材。端部は面取りされ、側面も比較的きれいにけずられる。平滑な面を持ち丁寧なつくり。
69 38	90085	Ⅱ	T	39	SW－01	下層									有孔板材	柾目	針葉樹	一箇所に孔が残る。孔の形は長方形で長辺はほぼ平らに短辺のうち上部に近い方は斜めにけずられる。上部は丸～隅丸に成形される。変形のため調整痕は見えないが、全体的にみて丁寧な作りとはいえない。
69 39	90086	Ⅱ	T	39	SW－01										織機?	柾目	針葉樹	先端を尖らせた端部からなだらかな肩部を作り身部となる。身の背部側は両面とも段を持つ。全体的に腐蝕しており残り悪い。
69 40	90141	Ⅱ	T	39	SW－01										雑具部材	柾目	針葉樹	柾目の美しく通った板材。片面ほぼ中央に深さ約3㎜、幅1.7cmの抉り込みがあり、ここに別の木材を組み合わせ樺皮で縛っていたものと思われる。また樺皮を通した後、残った隙間に厚約2㎜の楔を打ち込んでいる。板の両端には径約4～5㎜の孔が貫通している。板の両面には無数の刃傷が残る。組み合わせていた部材をばらした後俎板として再利用したか。樺皮の上にも刃傷は付く。ただし、抉り部がある方の面では中央付近に刃傷が見られない。(組み合わせた状態で刃傷が付けられたということか?)

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	石器の法量と特徴								木器の特徴			
挿図番号							器種	法量(cm・g)					石材	備考	種類	木取り	樹種	備考
								長さ	幅	厚さ	孔径	重さ						
71 41	90075	Ⅱ	T	39	SW−01										腰掛?	横木取り。	(広葉樹)	全体に丁寧なケズリが成されているようだが、腰掛裏面の両脚間はややケズリが粗く凹凸がある。長軸方向には緩やかに反り上がり、両端には折り返しがある。短軸方向には背中側から足側にかけて緩やかに傾斜する。脚は逆台形であり、外側にひらく。腰掛にしては低いので胡坐をかいて腰掛けたか、あるいは枕として使用した可能性もある。
71 42	90042	Ⅱ	T	39	SW−01										木錘	(芯持ち)	(広葉樹)	両端と中央部をケズリ。一部には樹皮残る。被熱の痕跡あり。
71 43	90080	Ⅱ	T	39	SW−01										木錘	芯持ち	広葉樹	両端と中央のくびれ部以外はケズリ加工はないようである。中央くびれ部は磨耗のため緩やかな稜である。全体に磨耗、変形が進む。
71 44	90018	Ⅱ	T	39	SW−01										木錘	芯持ち	広葉樹	木の幹をそのまま使用しており、中央のくびれ部と両端の切り取り以外は工具痕がない。樹皮が一部に残っていることから、樹皮を剥がずに使用したようである。
未掲載	90152	Ⅱ	T	39	SW−01										編みかご			未図化。
87 1	90039	Ⅱ	U	31・32	SW−02										平鍬	柾目	広葉樹	柄孔は半分以上欠損しているが、おそらく長方形である。身幅は刃先に向かうにつれ広くなる。中央付近～刃先までは幅はほとんど同じである。縦断面形は、柄孔～身中央や刃先よりまではほぼ同じ厚さで、それより先は緩やかに厚みが減じる。横断面形は中央付近がやや膨らむ。刃先は一直線ではなく緩やかにカーブを描く。柄孔には両方から柄を差し込んだ痕跡が残る。
87 2	90027	Ⅱ	U	31・32	SW−02										平鍬		広葉樹	やや角を残した頭部、長方形の柄孔を持つ。肩は徐々に広がり、欠失部があるため刃部の形状は不明だが、おそらく徐々に広がったラインは刃部にかけてやや窄まる形ではなかったかと思われる。着柄角度は31度と鋭角である。柄孔の上下縁とも両面からけずり出されている。側縁以外のケズリ痕は残っていない。側縁はほぼ直角に落ちるようにけずられ、平らな面を途中まで作る。柄孔より刃部にかけての身厚がやや厚いか。
87 3	90032	Ⅱ	U	31・32	SW−02										鍬	柾目	広葉樹	頭部と柄孔の2分の1のみ残存。頭部は中央を山型に且つ薄くつくる。柄孔は長辺は短辺の長さの2倍強と、縦長な長方形である。着柄角度は58度とやや広い。
87 4	90064	Ⅱ	U	31・32	SW−02	周辺　(水田耕作土下)									鍬 組み合わせ具			鍬。楔。
87 5	90065	Ⅱ	U	31・32	SW−02										鍬 組み合わせ具			鍬。組み合わせ具。
87 6	90029	Ⅱ	U	31・32	SW−02										鍬柄(組み合わせ具)			乾燥のため本来の厚みを残さない。着装具装着部分の全長は18,3センチであり、弥生時代のものより短い。
89 7	90006	Ⅱ	U	31・32	SW−02	周辺　(水田耕作土下)									ﾅｽﾋﾞ形木製品		広葉樹	頭部には面取りの痕跡残り比較的シャープな稜を成す。歯部は両面より斜めにケズリ成形。
89 8	90009	Ⅱ	U	31・32	SW−02										ﾅｽﾋﾞ形木製品		広葉樹	笠のくびれ部から刃部までは緩やかなカーブを描く。刃部の両側??ともに中心軸に対して平行に走り、幅も一定している。刃部の窄まり方も滑らかである。両刃部間の隙間は、刃先に向かって少しずつ広がる。柄を付けた部分の痕跡は見られない。工具痕の残り悪いが、おそらく長軸方向のケズリ成形。
89 9	90100	Ⅱ	U	31・32	SW−02										二又鍬?		広葉樹	2分の1以上欠失しているため二又鍬と断定は出来ないが、外縁の緩やかなカーブの具合や歯部のつくり出し方、材質が広葉樹であること、厚さ等二又鍬を推想させる。歯部のケズリは外縁側と内縁側でけずり出しの面の方向が違う。要するに歯部の横断面形は平行四辺形になる。一般的に二又鍬で多い形は内縁が真っすぐ、外縁のみカーブするものだが、本例は違うようである。表面一部に刃傷およびケズリ痕残る。また上部の一部は被熱し炭化している。
89 10	90077	Ⅱ	U	31・32	SW−02										二又鍬		広葉樹	二又鍬の片歯部に似るが、薄い作りである。側辺の一部に抉れたような所があるが、磨耗もなく割れた場合のように新鮮な面がでている。人為的な抉りか不明。表面は滑らかな仕上げ。二又鍬と考えると、内側の刃部となる側縁はやや鈍い稜を持つ。
89 11	90119	Ⅱ	U	31・32	SW−02										二又鍬?			形状から考えると二又鍬の歯部が最も近いか。側縁はケズリを施されるが、厚みは残る。刃部には適さないか。片面(ケズリのある面)は炭化している。ケズリの稜は明瞭に残っており、鍬であったとしてもあまり使用されてないのではと思う。
91 12	90060	Ⅱ	U	31・32	SW−02	周辺　(水田耕作土下)									横鍬			中央の隆起部ははっきりとした稜を持たず、丸く仕上げられている。No.90061とほぼ同形態であるが、こちらの方がやや肉厚な作りであることと、隆起部が丸みを持つことで異なる。
91 13	90033	Ⅱ	U	31・32	SW−02										鍬柄	柾目	広葉樹	柄の把手部。逆三角形あるいは半円形のすかしがあいているものと思われる。前後面は比較的平坦に、上下面は丸みを持って作られている。
91 14	90095	Ⅱ	U	31・32	SW−02										鋤柄		広葉樹	把手端部。上部辺はやや太くしっかりとしている。側辺は徐々に先細りとなる。残りはよいがケズリ痕は見えない。内屈曲部も明確な稜は出ていない。断面は楕円形に近いが前後面はわりと平坦に作られる。
93 15	90005	Ⅱ	U	31・32	SW−02										横鍬(エブリ)		広葉樹	約1/2残存。僅かな湾曲により実測面を前面とした。前面上縁は斜めに、横縁は断面隅丸方形になるようケズリ成形。右横縁部中央で角をなし歯先に向かって窄まるが、その側面は平坦である。歯は三本残存し、外側ほど小さくなる。(エブリの用途から考えると土に接する面が少しでも広い方が適すると考えられるが、本例は歯部に向かって窄まる形状である。破損など何らかの事情でこのような形をなすのか?)
93 16	90007	Ⅱ	U	31・32	SW−02										堀棒		広葉樹	身部は一方の面は平坦に、他方の面は柄からやや身部先端にいったところから窄ませる。(窄ませた面で土をかき上げたと思われる。)全体にケズリ痕の残りが悪い。特に柄部は木目の突出が目立つ。身部(平坦な方)には植物が付着。肩部なで肩。
93 17	90076	Ⅱ	U	31・32	SW−02										堀棒	芯持ち	広葉樹	両側に1,5cmほど肩が張ると考えられる。身の側辺にケズリ痕らしきものあり。身の一方の面に斜め方向の細かい傷あり。
93 18	90132	Ⅱ	U	31・32	SW−02										竪杵	芯持ち	広葉樹	欠損及び乾燥の為ひどく変形していると思われる。竪杵本来の丸みはなくなり平たくなっている。図化した面は比較的表面が残っているが反対面は握り部を除き全て欠損した状態である。また下端から20cm程度は炭化している。現存する握り部の径は3cm弱であるが乾燥により縮みがあると思われ、本来はもう少し太かったであろう。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	石器の法量と特徴							木器の特徴			
挿図番号							器種	法量(cm・g)					石材	備考	種類	木取り	樹種	備考
								長さ	幅	厚さ	孔径	重さ						
95 19	90049	Ⅱ	U	31・32	SW−02										竪杵	芯持ち	広葉樹	搗き部および摑き部と握り部との境付近に丁寧なケズリ痕が残る。搗き部端が半円に近い方をA、その反対のやや凹凸がある方をBとすると、Aの側では搗き部端に近いところでケズリの方向が逆転する所があり、Bの場合それが摑き部端からやや離れた所にある。B側の握り部の始まりは、搗き部に比べケズリが細かくなる。搗き部横断面はA側、B側それぞれ19本、20本のケズリで一周する。搗き部端は両方とも磨耗して丸みを帯びるが一方はやや凹凸を残す。搗き部と握り部の境は明瞭ではない。搗き部横断面形は両側とも正円に近く、握り部のそれは楕円形である。最大幅は搗き部と摑き部端との境にあり、握り部との境まではわずかに狭まる程度である。
95 20	90002	Ⅱ	U	31・32	SW−02										竪杵	芯持ち	広葉樹	ほぼ完形。搗き部と握り部の境界明瞭。長軸と平行に摑き部をケズリ成形した後に、握り部と摑き部端をケズリ。摑き部端は一方は丸く、他方は若干凹凸はあるがほぼ平坦。端部の表面はどちらとも滑らかであり、双方使用されたものと思われる。握り部のケズリ稜は磨耗しやや甘くなる。所々に工具で削り取ったような傷あり。
95 21	90016	Ⅱ	U	31・32	SW−02										竪杵	芯抜き	広葉樹	搗き部端は、一方は丸く他方は平坦で、いずれも磨耗している。平坦な端部を持つ摑き部は、握り部にいくにつれて徐々に径を減じるが、丸い端部を持つ摑き部はほぼ直線的である。搗き部と握り部の境は不明瞭で稜線等なし。
96-a 22	90149	Ⅱ	U	31・32	SW−02										田下駄			建築部材とも考えられる。断面が台形になっているがこれは木取り(木目)の関係からと思われ、柾目と平行に切断してある。くぴれ(抉り)が二箇所ある。一箇所は刃物で深さ約7～8㎜程けずられて作られているが、もう一箇所はけずりによるものではなく紐等による束縛痕あるいは幅約1cmのものが角に長時間押圧されてできたような跡である。
96-b 11	90090	Ⅱ	U	31・32	SW−02										櫂or鋤			櫂あるいは鋤の可能性が指摘できるが断定できず。鋤と考える場合、身幅等は問題ないが柄長が長すぎる。鋤として機能できない。肩部の存在より、鋤としての脚で土中に踏み込むという要素は持つ。全体長より櫂の可能性が近いか。(北九州長行遺跡出土の櫂は全体長102cm、柄長70,8cm)柄端部は比較的残りよいが、他は腐蝕がすすむ。片方の肩部を欠損する。櫂であるなら片方は斜めにおちる肩部の可能性もある。鋤であるなら残る肩部と同様張り出していたと思われる。身部の腐蝕がひどく、断面形も原形を留めている可能性低いか。刃部の存在は不明。ただし端部に向けて厚みが減じていたことは推測できる。
96-b 12	90140	Ⅱ	U	31・32	SW−02										竪杵	芯持ち	広葉樹	中央に節帯を持つタイプ。摑き部の径はほぼ一定である。節帯をはさんでそれぞれ端部までの長さの差は1cm弱におさまり、また節帯の作りなどの点からみても丁寧な作りである。摑き部端は一方はかなり磨耗しており丸みを帯び滑らかな面を持つ。擦りつぶし用の端部か。もう一方の端部はやや磨耗は少なく、また平坦でがさがさした面である。物を叩いて潰すのに使ったか。
99 23	90003	Ⅱ	U	31・32	SW−02										斧柄	枝分れ部	広葉樹	斧台下縁側の抉り込みは明瞭である。上縁側は、欠損部が存在する為抉りを確認することは出来ないが、端部から42ミリの箇所に僅かながら段が観察でき、おそらくこの辺りまで袋状鉄斧が装着されたと思われる。斧台は、端部に向けて徐々に薄くなるようにケズリ成形。ケズリは左面では顕著に行われるが、右面は自然形状を残す。幹部が斧台、枝部が柄部である。
99 24	90057	Ⅱ	U	31・32	SW−02										横槌	芯持ち	広葉樹	身部の端部には工具による切断痕がよく残る。身部と握り部の境にケズリ痕が残る。身部の径はほぼ一定であるが握り部の径は先端に向かうにつれ小さくなる。身・握り部の横断面形はいずれも楕円形である。使用痕は身部の中央全周に見られるが、特に使用したと思われる部分はよく窪んでおりあばた状の小さな凹みが見られる。大きさから、杭などを打つ掛矢とは考えにくい。おそらく農作業の道具や木槌として使用したのではないか。
99 25	90136	Ⅱ	U	31・32	SW−02										木錘	芯持ち	広葉樹	取り上げ後の保存状態が悪く、楕円形に変形している。本来は正円に近かったであろう。端部のケズリはよく残っている。非常に単位が細かい。中心に向かってやや凸型。
99 26	90108	Ⅱ	U	31・32	SW−02										木錘	芯持ち	広葉樹	断面がやや楕円形気味であるのは埋没時(取り上げ後の乾燥かも)の変形によるもとみられる。中央に溝状のくぴれを持つタイプである。端部のケズリ口はシャープである。
99 27	90109	Ⅱ	U	31・32	SW−02										木錘	芯持ち	広葉樹	取り上げ後、一時乾燥したためかなり変形し扁平になっている。本来は円形に近かったであろう。表面に細い刃傷が残る。中央に溝状のくぴれを持つ。くぴれ部及び端部のケズリはシャープで、垂直方向に刃を入れ折り取る、段差が残るケズリ。
101 28	90024	Ⅱ	U	31・32	SW−02										腰掛	横木取り	針葉樹	左右(長軸)方向の傾斜は緩やかで中央窪む。上下(短軸)方向にも若干湾曲する。脚部は外に開いたハ字形で、比較的厚みもありしっかりしている。
102 29	90044	Ⅱ	U	31・32	SW−02										容器類か?	板目?	(広葉樹)	容器類であろうか?残存幅は5.9センチと狭い。弧を描くように湾曲し、もし桶のように筒状の形体を持つとしたならば径は推く15センチと復元できる。内外面とも非常に細かいケズリが成され、内面は幅広の工具で、外面は幅細の工具で削っている。また上下の突起部は幅細の工具で円周方向に面取りしながら削っている。内面はケズリによる細かい凹凸が残るが、外面の仕上げは非常に丁寧で滑らかな表面を持つ。
102 30	90107	Ⅱ	U	31・32	SW−02										蓋付容器の身		広葉樹	広葉樹の芯持ち材を丸く刳り貫いて作っている。全体的に腐蝕しているため成形痕はほとんど見られない。蓋受のための立ち上がり部分は高さ約1cm幅3㎜である。(実測図では蓋受けの立ち上がり部分が垂直に立っていない。これは底面に幅1,5cmの平坦面が残存しておりそれを優先して角度を決め図を書いたためである。蓋の存在を考えると、立ち上がりを垂直にして実測すべきであったかもしれない。しかしそうすると、横から見た形で、中央にいくにつれて幅広になるという少し妙な形になる。)
102 31	90133	Ⅱ	U	31・32	SW−02										容器(箱状)		針葉樹	針葉樹を使用し丁寧に見た目が美しく作られている。中を刳り貫いて箱形に作ってあり、かつその刳り貫き方は口縁より底面の方が広がるよう斜めに刳り貫いている。孔が2箇所にあり、それぞれ上面から内部へと貫通している。ケズリ痕は残っていないが外面の整形は非常に丁寧で平滑に仕上げられる。内面の刳り貫きも比較的丁寧であるがコーナーには若干さざくれが残る。一方の側面が歪んでいるのはおそらく取り上げ後の乾燥のためである。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	石器の法量と特徴								木器の特徴			
挿図番号							器種	法量(cm・g)					石材	備考	種類	木取り	樹種	備考
								長さ	幅	厚さ	孔径	重さ						
102 32	90124	Ⅱ	U	31・32	SW−02										槽	柾目	針葉樹	槽か?欠損の為全体の大きさは不明だが、おそらく幅は10～11cm程になると思われ、やや細長いタイプあるいは小形の槽になるであろう。欠損面は全て黒く炭化しており、被熱により失われたものと思われる。その他の部分は残りもよく、生きている面をみると平滑であり、比較的丁寧に作られたことが判る。
102 33	90097	Ⅱ	U	31・32	SW−02										杓子形木製品	柾目	広葉樹	残存長18.2cmで柄と、浅く刳り貫かれた長方形の身に分かれる。腐蝕が進んでおり残りが悪いが、柄より身が一段高く作られていたこと、刳り貫きの深さは約1cm程度、側面に対しては約5㎜程度であったことが窺える。杓子形木製品としては身が長方形であり且つ刳り貫きが明瞭であり、柄と身に段がつくものはあまり見かけないようであるが、拾六町ツイジ遺跡に同じような形態をもつ杓子の未製品が出土している(奈良末～平安初であるが。)。柄はやや腐蝕しており、本来はもう少し厚みがあったと思われる。柄から一段盛り上がり、身部への刳り貫きとなるが、現状の縦断面ではその段は平らとなっている。おそらく磨耗により平らを成しているようで、本来はもう少し盛り上がっていたのではないかと思われる。
102 34	90020	Ⅱ	U	31・32	SW−02										槽	横木取り		芯を中心に扇形に切り取った横木取り。短辺側の側面は中央が山型に高くなる。工具痕は両長側辺に残り、長軸方向に細かなケズリが施される。
104 35	90038	Ⅱ	U	31・32	SW−02										槽			僅かに最大幅3,5センチの残存であるが、槽と思われる。内外面とも長軸方向の丁寧なケズリが見られる。上面から見ると、口縁は緩やかな弧を描くようである。底面は中央付近でやや高くなる作りか。(ただの変形かも)
104 36	90110	Ⅱ	U	31・32	SW−02										盤	横木取り	広葉樹	全体的に残りはよくないが作りは丁寧であったようである。木目と直交方向の口縁は幅広く、木目と平行方向の口縁は狭い。このことは広葉樹の横木取りであることと合わせて、一般的な盤の特徴と合致する。残存するコーナーの一箇所に小孔がある。孔の用途は?比較的丁寧にあけられている。紐ずれのような痕跡はない。側面のコーナーの稜は内外面とも明瞭であるが、底面から側面への短軸方向の立ち上がりの稜はあいまいである。長軸方向の立ち上がりは、欠損部と重なる為不明確ではあるが、内外面ともほとんど稜もなく緩やかな立ち上がりのようである。
106 37	90082	Ⅱ	U	31・32	SW−02										雑具部材or織機?		針葉樹	二片は同一個体だが接点をもたず、全体の長さは不明。それぞれ端部はケズリ加工。身横断面は楕円形。
106 38	90071	Ⅱ	U	31・32	SW−02										雑具部材or織機?	芯持ち	広葉樹	頭部・胴部ともに断面楕円形である。一部には表皮を残すがケズリ成形も多く行われる。(深く抉り込まれているところもある。)ケズリは縦方向である。頭部下のくびれ部には紐擦れのような痕跡が残る。
106 39	90142	Ⅱ	U	31・32	SW−02										不明	板目	針葉樹	
107 40	90104	Ⅱ	U	31・32	SW−02										有孔板材	柾目	針葉樹	90102と同様の形態をしている。雑具の部材か。一部にケズリ痕残る。
107 41	90001	Ⅱ	U	31・32	SW−02										有孔板材	柾目	針葉樹	若干の欠損はあるがほぼ原型を保つと思われる。18ミリ角の孔が1箇所。(不整形な小孔は、周囲の損傷が激しいため、本来存在していた孔かどうか不明。)
107 42	90084	Ⅱ	U	31・32	SW−02										有孔板材	柾目	針葉樹	両端に孔が二箇所あり。孔周囲は劣化も進むが、一部を除き断面がく字型となるよう両面からケズリがなされる。一方の端部は肩を作るように緩くカーブする。厚さは約1～0,5cm。長辺の側面はほぼ平坦であるがケズリ痕は残らず磨耗して角もとれる。
107 43	90102	Ⅱ	U	31・32	SW−02										有孔板材	柾目	針葉樹	二つの並んだ2つの小孔から最初、曲物の底板を連想したが,その他2箇所の大小の孔の存在,また左側縁がカーブするようにケズリ成形されていることから、曲物ではなく別の雑具の部材の可能性が高いと思われる。または転用品か。2つ並んだ小孔の間は溝状に一段低く掘り下げられている。紐などで縛っても板から紐が出ないようにか。
107 44	90143	Ⅱ	U	31・32	SW−02										建築部材	柾目	広葉樹	建築部材か。4×9cm大の孔が2箇所に残存しており、その孔内面はケズリの後少し磨耗しているように見受けられる。欠損部はあるが全体に残りよい。
107 45	90126	Ⅱ	U	31・32	SW−02										建築部材			全体的に腐蝕しており変形も見られる。側面は比較的直に落ちるケズリ。両面に刃傷が残っている。建築部材から何かに転用したか。あるいは建築部材ではなく本来別の用途であったか。数箇所に小さな穴が見られるが人工的なものか草の根等による穴であるか判断がつきかねた。一端で3つ並んでいるのが気になるが、穴の深さは3～4㎜で、穴の方向も斜め(それぞれ方向はばらばらに穿孔される。
109 46	90144	Ⅱ	U	31・32	SW−02										建築部材			長方形板状。短片の側面は凹凸が多くやや雑なケズリ成形である。両端2箇所に約4×2cm大の孔があり、一方には楔が残る。楔は約2×3,5cmの長方形で、厚さは一端は1cm、もう一端は0,5cmと窄まっている。打ち込みやすくする為か。楔の材は板材と同一と思われるが、節や枝の木目の詰まった堅い部分を使用しているように思われる(図には現れていない部分で3箇所の枝切り落としがある)。両端を対応させて、楔の残存する方も本来は孔であったと考えるが、欠損部扱いしている面は比較的きれいであり生きている面の可能性もある。抉り部であったか。もう一方の孔については、片面のみ周囲を丸く抉り取っている。表面の刃傷は新しい傷の可能性もある。
109 47	90035	Ⅱ	U	31・32	SW−02										建築部材	板目?	(広葉樹)	一方の端部は丸く、もう一方はやや角ばった形状(被熱の為原形かどうかは不明)を残す。丸い端部よりには短軸方向に長い長方形の孔がある。孔の貫通角度はほぼ直角であるが一短辺のみ角度がつく。
110 48	90105	Ⅱ	U	31・32	SW−02										弓(弓弭)か?			一部のみの残存の為明確にはいえないが、形状から弓弭が最も近いか。ケズリによりくびれを作り、その下には浅いが抉りのような部分もある。一部には節が1ずり落とされている。
110 49	90120	Ⅱ	U	31・32	SW−02										不明(棒材)	芯持ち	広葉樹	棒状で、両端をケズリによって尖らせている。形状から楔のようなものとも考えられるが、押圧痕等はない。外樹皮残る。
110 50	90123	Ⅱ	U	31・32	SW−02										不明	板目	針葉樹	残存長20,7cm、残存幅約4cmの板状で、一箇所に角形の孔?らしきものを作る。片面にのみケズリ痕が顕著に残る。刃傷が数本あり。
110 51	90122	Ⅱ	U	31・32	SW−02										不明			長さ約20cmの棒状。両端はケズリにより浅い段を作る。横断面は不整形。表裏面はやや平坦な面で、両側面は丸みを持つ。
110 52	90079	Ⅱ	U	31・32	SW−02										不明		広葉樹	周囲はケズリ面取り加工。図上でいう下縁部は一方からの面取りであるが、他方が若干磨耗しているため稜をなし刃部状となる。両面とも表面に微妙な凹凸あるが使用痕かどうかは不明。
110 53	90118	Ⅱ	U	31・32	SW−02										不明			弧を描くようにカーブするラインは生きているが、他は欠損か否か判断がつきかねる。欠損後の磨耗で面が平滑なのか。全体に残りはよいがケズリ痕などは残っていない。生きの側面と他の側面では明らかに感じが違うので、他は全て欠損と考えてよいか。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	石器の法量と特徴								木器の特徴			
挿図番号							器種	法量(cm・g)					石材	備考	種類	木取り	樹種	備考
								長さ	幅	厚さ	孔径	重さ						
110 54	90081	Ⅱ	U	31・32	SW−02										不明(板材)		広葉樹	2〜3㎜と薄い板材。カーブを描く側縁は鈍い稜を持ち、図下縁はやや磨耗して面を成す。
110 55	90137	Ⅱ	U	31・32	SW−02										不明(竪杵再加工品?)	芯持ち	広葉樹	木錘にちょうどよい大きさだが糸を巻く為の抉りがないため違うか。形状や材、木取りなどから竪杵の再加工品のように思われる。短くして片手での使用可能な小型杵に作り変えたのであろうか。しかし、擣き部の磨耗は中心部に若干あるのみ。小型杵の可能性も低いか。全体的に残りがよい。ケズリ痕も比較的明瞭に残る。
110 56	90138	Ⅱ	U	31・32	SW−02										不明	柾目	広葉樹	一見、下駄かと思われたが鼻緒の孔がないことや、歯の作り、歯が低すぎること(腐蝕や磨耗により低くなったのではない。面にケズリ痕が明瞭に残る。)等からその可能性はないと考える。ケズリは鋭利な刃物で施されたようである。
111 57	90063	Ⅱ	U	31・32	SW−02										用途不明			片面に残存する4条の溝状の窪みは、ケズリではなく押圧によるものである。図上での右側がより深く窪む。上端から下に4cmの両側面にケズリによる小さな段が作られる。
111 58	90121	Ⅱ	U	31・32	SW−02										不明(竪杵再加工品?)	芯持ち	広葉樹	竪杵の再加工品であろうか?一方の端部の感じが似ている(図上端)。もう一方の端部はケズリで尖らせている。一部表面から約2〜7㎜の厚さで黒く炭化している。
111 59	90101	Ⅱ	U	31・32	SW−02										加工板材	柾目	針葉樹	雑具の部材であろうか。表裏面、側面とも全て平滑に仕上げられる。短軸と平行にケズリにより段が作られる。段を持つ方の端部は生きている可能性あり。木目と直交方向にもかかわらず折損にしてはラインがきれい過ぎるか。一部炭化あり。
111 60	90022	Ⅱ	U	31・32	SW−02										雑具部材(案の脚?)	柾目	針葉樹	直径が22センチを超す木から得た板材を加工。全面丁寧な仕上げが成され、工具痕は残らない。一面に割付線と思われるものあり。また他木との組み合わせ部となる頭部の下には半円状に若干の凹部あり。
111 61	90050	Ⅱ	U	31・32	SW−02										用途不明		広葉樹	形状からは泥除けが最も考えられるか。柄孔はないので未製品ということか。物自体の天地は不明だが実測図上での上半の方が厚く、下方にいくにつれ薄くなる。また下半の中央付近がやや窪んでいる。上半の側面はケズリによる面取りがなされる。下縁の一部に残る生きている範囲では刃部のように斜めに削られ端部が薄くなる。(実測面とは反対側の面からのケズリのため図化されず。)一部炭化。
113 62	90125	Ⅱ	U	31・32	SW−02										鼠返し		広葉樹	柱部分の刳り貫きはおよそ15cm角で成されていたようであるが、刳り貫き部の側面の磨耗が、外縁全体のケズリの残り方に比べると不自然に進んでいるような感じ。ねずみ返しとしての使用後何かに転用され、その後の埋没であろうか。上下に2箇所ある孔は転用の際に作られたものか。全体的にやや反る。
116 2	90019	Ⅱ	X	32	SW−03										木錘	芯持ち	広葉樹	中央部と両端をケズリ加工。樹皮残存。
116 3	90061	Ⅱ	X	32	SW−03										横鍬			No.90060と同形態であるが隆起部はしっかりとした稜を持ち角ばった仕上がりである。泥除け束縛用の紐孔周囲には紐ずれの痕跡がある。
116 4	90096	Ⅱ	X	32	SW−03										斧柄	枝分れ部	広葉樹	袋状鉄斧膝柄。斧台全体、先端に向けて徐々に窄まるタイプである。先端から4,8cmの箇所に若干の段があり、袋状鉄斧の装着の痕跡が見られる。斧台上面にはケズリにより作られた抉りらしきものがあり、磨耗してささくれだっている。基部左面には細くて浅い刃傷あり。基部のケズリはかなりシャープで深くえぐられる。鉄斧によるケズリと推測される。
118 5	90150	Ⅱ	X	32	SW−03	3号凹地 西南									鼠返し		広葉樹	完形。柱孔は直径14.2cm程の正円に近い形。反りは均等ではないが、土圧による変形も多少あると思われる。外周の側面はほぼ直角に落ち平坦面を持つ。表面にはケズリ痕らしきものがうっすらと見えつ。ケズリの単位は大きかったようだ。表面にあばた状の窪みが多数あり。節か芯等の影響か。
214 57	90154	Ⅲ	Z	30	SK−024										不明漆器			椀子?土ごと取り上げ図化しているため厚さ及び内面のラインは推定である。厚さは2,2〜2,8㎜か(断片測定)。胎は樹皮状のものか。赤漆による縁取りがされる。赤い部分も暗いものから明るいものまで何回か重ねて塗っている。裏も端部から1,5cmの範囲で赤い。裏面は凹凸している。端部は黒いが、こすれて赤が取れただけか。端部には非常にシャープな稜を持つ。
未掲載	90153	Ⅲ	Z	30	SK−024										縄			未図化。
246 19	90111	Ⅲ	Q	29	SP−0046										平鍬		広葉樹	肉厚で鈍重な作りの鍬である。柄壷の横から柄に直交する方向に孔が開けられ、そこから楔を打ち柄を固定したものと思われる。刃端部のケズリはかなりシャープな切れ口を持つ。全体的に丁寧に作られてはいるが、柄壷(柄孔)が左右対称の位置にないことは気になる。鍬として振り上げたり打ち込んだりする時に使いにくいのではないだろうか。またこれだけ肉厚だと重さも相当なものであろう。刃部端はやや欠損しているが磨耗の感じからして、使用時の刃こぼれか。柄が柄孔の中に残存していた。残存する端部は生きており、後面の柄壷から柄がとび出さない状態であったか。
246 20	90059	Ⅲ	Q	29	SP−0046										平鍬		広葉樹	かなり重たく鈍重な作り。肉厚。隆起部は正方形に近く、身部に向けて上下は斜めに、左右は垂直〜やや内窄まりにけずられる。柄孔の中には柄が残存している。柄孔と柄の太さはきっちり合っており遊びがない。柄の太さは前面の方が後面側より1cm近く太い。後面がわの柄先は生きている。前面の柄孔から上部はけずりにより平坦に成形される。下半部は内湾するように広くけずられる。右側縁は欠損しているが磨耗の様子から見て使用当時から欠損していたか。後面下半部はケズリ痕が顕著に残る。刃となるよう端部に向けて斜めにけずられる。下端縁は欠損しているがその割れ口は決して新しくない。使用中の欠損か。刃部にしてはかなり厚いか。残存状態は非常によい。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	石器の法量と特徴								木器の特徴			
挿図番号							器種	法量(cm・g)					石材	備考	種類	木取り	樹種	備考
								長さ	幅	厚さ	孔径	重さ						
292 1	90010	Ⅲ	X	31	SW−04	北半									諸手鍬未製品		広葉樹	隆起部は長軸方向に長い楕円形で、鍬身に向かってノミで削られ斜面を作る。身に対する斜面の角度は約40度である。柄孔は穿たれていない。隆起部と身との境は明瞭であるが、斜面部の境に近い部分はきれいに削り取られてはおらず、木材が剥げた(折れた)様になる。刃縁部は未加工で板材を切断した時の厚さを残す。切断は、刃部幅2センチほどのノミを後面側に向かって打ち込むことによって成される。刃縁切断のノミの打ち込みは裏面まで貫通せず若干残して折り取ったようである。ノミは1回で裏面近くまで到達してはおらず、2～3回分の打ち込みが成されている。刃縁から隆起部に向かうにつれ若干幅が狭くなる。長側辺部は稜をなさず平坦である。身の反りは、長軸方向では裏面側に反り、短軸方向では手前側に反る。加工痕は隆起部、刃縁によく残り、他はほとんど残らない。
292 2	90040	Ⅲ	X・Y	27～30	SW−04										平鍬未製品	柾目	広葉樹	刃部と頭部との幅がほぼ同じで、全体のプロポーションとしては長方形をなす鍬と思われる。隆起部は楕円形の頭部3分の1を削り落とした形状である。身部の厚さは現状では1,5センチとまだ厚い。また隆起部の高さは1,2センチである。隆起部、身部ともに表面は滑らかであり、未製品ながらも丁寧な作りが窺える。
293 3	90067	Ⅲ	X・Y	27～30	SW−04										諸手鍬未製品		広葉樹	上下に小さな突起のある方形の隆起部を持つ。推定全長60～65cm、推定幅約20cm。隆起部幅10,1cm、長さ9,9cm、突起の長さ約2cm。全体的に腐蝕が進み非常に残り悪く、また欠損部も多いため断面図に表した全体的な反り具合はかなりの推量が入る。諸手鍬未製品の特徴ともいえる上下端(後の刃部になる部分)が厚く作られているのが判る。
293 4	90131	Ⅲ	X・Y	27～30	SW−04										諸手鍬			出土時の劣化がひどく、現場にての実測。外形のラインは留めている範囲も多いが、腐蝕により非常に薄くなる。
293 5	90028	Ⅲ	X	29	SW−04										鍬(柄付)		柄、身部ともに広葉樹	柄は全体を削ったのであろうが、工具痕は残らない。隆起部の上面、側面は平滑に仕上げられている。身の手前の面は割れの為凹凸があるが磨耗している。船形隆起は向こう側についており、柄孔は楕円形。隆起部に紐を結んだ跡があることから、身が割れた後、別の使い方をした可能性がある。出土時には柄はもう少し長くあったが、整理中に破片が不明となり、現存では残存長23センチである。
296 6	90031	Ⅲ	X	31	SW−04	北半									諸手鍬			全体的に腐蝕が進み残りはよくない。左右方向に大きく歪みがあるのは埋没中の変形と思われる。両刃とも短部が欠けているため全長は不明である。柄孔に対して長さが対象であるならば全長66センチ以上である。柄孔の隆起は角型である。着柄角度はほぼ90度に近かったと思われる。一方の端部は被熱、炭化。
300 7	90012	Ⅲ	X	31	SW−04	北半									三又鍬		広葉樹	頸部の一部を欠損するが、使用当時の傷か。割れ面が滑らかである。着柄部は緩やかに隆起しており柄孔は前面から後面にかけてやや広がる。前面の柄孔周囲ははっきりとした稜を持つが後面は磨耗によるものか、ややなだらかな角である。歯部含め外縁部は明瞭な稜がケズリにより作り出されている。歯部は先端部を除き断面長方形である。先端部は後面に向けて隆起する断面隅丸三角形の形状を成す。
300 8	90011	Ⅲ	X	31	SW−04	北半									三又鍬		広葉樹	角ばった肉厚な作りである。柄孔はなだらかに隆起する。前後面で柄孔の大きさに差はないが、前面側の柄孔周囲には磨耗した様子もなくシャープな角を残しているのに対して、後面側では周囲の角もとれ丸く擦れていることより、鍬として使用の際は明らかに後面より柄を差し込んだものと思われる。柄孔は左右方向にも若干の角度がつく。(柄装着の際に柄と鍬身が直角にならないということか。)歯部は断面長方形に削り作られる。先端に行くにつれて丸みを帯びていき、断面楕円形になる。
300 9	90099	Ⅲ	X	29	SW−04										鍬		広葉樹	用途不明品。中央に孔があることから又鍬等を考えたが、孔と側縁との幅が2,1cmしかないこと、その割には孔が大きいこと、また側縁から下端へ向かうカーブがおそらく生きていると思われ又鍬、エブリ等いずれの形態にも復元ができそうにない。図を横向きにして考えるとエブリと考えることも可能だが断面の厚さの関係、木取りなどから適当ではないかと思われる。
302 10	90048	Ⅲ	Y	27	SW−04										平鍬	柾目	広葉樹	全長50,7センチと鍬にしては長く、側縁ほぼ中央に抉りを持つのが特徴的である。平鍬で柄孔と抉りを持つのは珍しいか。(板付遺跡、拾六町ツイジ遺跡で出土。)抉り部には紐ずれのような痕跡もなく用途不明である。前面は腐蝕も少なく比較的残りよい。しかしケズリ痕は残っていない。側縁は刃部近くまでは平坦な面を成す。刃端部から上に13センチの辺りから側縁は丸みを持ち始め側面としては成さなくなり、刃部に至る。
304 13	90026	Ⅲ	X・Y	27～30	SW−04										斧柄	枝分れ部	広葉樹	握り部刃先側、台部両端にケズリ痕が残る。斧台後面は平滑に仕上げられる。握り部には方形の孔がある。穴の内面は横断面の方がより磨耗する。孔の断面は鼓形である。握り部、斧台の断面形はそれぞれ楕円形、二等辺三角形をなす。装着溝は、少なくとも根元の部分は袋状を成す。また溝底面は若干窪む。抉り部には、それを横断するような溝(あるいは単なる傷?)が一筋見られる。結縛を強めるための楔を打ち込んだ溝か?斧台は緩やかに外湾する。装着溝の形状からこの膝柄は柱状片刃石斧を装着し横斧として使用したと考えられる。
304 14	90041	Ⅲ	X・Y	27～30	SW−04										斧柄	枝分れ部	広葉樹	加工痕は残存しないが表面は滑らかに仕上げられる。斧台後面は平坦ではなく中央付近がやや盛り上がる。斧台の断面はほぼ二等辺三角形である。斧台基部はほぼ平坦に切り落とされる。4号窪地出土の斧柄とよく似ている。おそらく装着孔を持ち、柱状石斧を差し込んだと思われる。
304 15	90030	Ⅲ	X・Y	27～30	SW−04										斧柄	枝分れ部	広葉樹	握り部の後面(刃先と反対の面)には丁寧なケズリが施される。斧台後面は平坦ではなく、やや仕上げが粗い。握り部、斧台部の断面形はそれぞれ楕円形、凸型である。握り部と斧台とは明瞭にケズリ分けられる。基部端部は、打撃などの力が加わり迫り出したか?段がつく。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	石器の法量と特徴								木器の特徴			
挿図番号							器種	法量(cm・g)					石材	備考	種類	木取り	樹種	備考
								長さ	幅	厚さ	孔径	重さ						
304 16	90094	Ⅲ	X・Y	27~30	SW−04										斧柄		広葉樹	扁平片刃石斧の柄。先端を6～9㎜けずり込んで装着面を作っている。装着面は長さ約1cm程を残して折損している為明確にはいえないが、残存している部分を見る限りでは握り部に対して装着面(斧台全体)は垂直からかなり歪む。斧台後面体は平滑に作られる。斧台後面(～基部)の長さが約7cmと長い。握り部は整った楕円形をなすが比較的細い。
306 17	90139	Ⅲ	X・Y	27~30	SW−04										槌?	芯持ち	広葉樹	小型杵に最も近い形状をしているが擣き部の端部にはほぼ平滑にけずられ、また磨耗も一切みられないことから縦に持って物をすり潰す用途に使ったものとは思われない。また横槌として使うにも握った手が台にあたり不便であるし、側面の磨耗もほとんど見られないことからその用途も考えにくい。建築材の楔などであろうか。しかし他の材が当たっていたような擦れた痕跡などもない。
306 18	90017	Ⅲ	X	29	SW−04										横槌	芯持ち	広葉樹	長さ18.9センチの小ぶりの横槌である。柄部を手で握り横向きに寝せて使用すると、握った手が支えてしまう。何らかの作業台が必要である。小型の竪杵のように突いて使用したとも考えられるが、端部に生きている面をほとんど残さないため不明。(杵であれば使用により磨耗していることが条件であろう。)実測面はケズリの痕跡をよく残すが反対面は腐蝕しており、横槌の身部によく見られる使用による凹部は確認できない。
306 19	90034	Ⅲ	X	30	SW−04										椀or杓子?		針葉樹	口縁部欠失のため径不明。内外面とも非常に丁寧にけずられ、丸く滑らかに仕上げられている。工具痕による凹凸もなし。椀や杓子等が考えられるか。底部まで丸みを帯びている為、自立はしない。非常に丁寧なつくり。腐蝕はなし。
306 20	90047	Ⅲ	X・Y	27~30	SW−04	東南端近く									杓子形木製品	板目	(広葉樹)	表面は全体に滑らかに仕上げられる。刃先部は窪んでいる面からケズリが入れられ稜を成す。側辺部も丁寧に面取りされる。現在使われているしゃもじを二周りほど大きくしたような形。下膨れの形状で刃先は緩やかにカーブを描く。
306 21	90054	Ⅲ	X	31	SW−04	北半									雑具部材?	板目	針葉樹?	全体に丁寧なケズリが見られる。長側辺の突起がない方はケズリがない。(欠損による割れ口か?)短冊状の両短側辺を突帯状に削りだし、それぞれの一端に突帯とは直角に方形の突起をつける。
307 22	90045	Ⅲ	X・Y	27~30	SW−04										盤			ケズリ痕はほとんど残らない。全体的に面取りはやや粗く、特に上面は凹凸がはげしい。平面形は、四隅がやや丸みを帯びる方形である。脚部は長軸方向に長く、断面形は外側の辺が内側に傾き、内側の辺はほぼ垂直である。おそらく2本付くのであろう。台部は内側にいくにつれて緩やかに窪む。欠損部の一部に熱を受けている。
309 23	90083	Ⅲ	X・Y	27~30	SW−04										槽(?)未製品		広葉樹	内面は刳り貫きのためのケズリ、外面は樹皮を剥ぐためのケズリがなされる。
310 24	90106	Ⅲ	X・Y	27~30	SW−04	東南端近く									祭祀具 刀形か?	柾目	広葉樹	形態もよく整っており表面も滑らかで丁寧な作りである。残りもよい。しかしケズリ痕等は残らず。端部近くの側縁は比較的尖っている。端部より遠い側縁は狭いが平坦な面を持つ。
310 25	90051	Ⅲ	X	31	SW−04	北半									弓			枝の約半周をケズリ成形。弭(末弭?)は全周をけずり、弭に近い弓幹も全周に近いケズリが見られる。ケズリは中心付近から両端に向かって施されるが一部乱れるところもある。ケズリは5筋ほど成される。全長は約1m前後と思われ短弓に属する。弭は弓幹から一段けずり込み先端に向かってやや小さくなる。弭の横断面形は角ばった円形。弓幹の横断面形は楕円形。弓幹は若干外側に反るが、直線に近い。弓幹でケズリの施されていない部分は樹皮を剥いだのみで加工なし。
310 26	90053	Ⅲ	X・Y	27~30	SW−04										弓	芯持ち	広葉樹	弓幹は、弭付近を除きほとんどけずられておらず、樹皮を剥いだだけである。削られていたとしても少しである。全体的に外側に少し反る。弭付近は逆に内側に若干反る。横断面形は弓幹はほぼ円形、弭は前後に長い楕円形。復元全長はおそらく130cm前後。弭と弓幹との境は、両側から削りだされた突帯状のもので区切られる。弓弭の突起の先端側は磨耗が進む。
312 27	90052	Ⅲ	X・Y	27~30	SW−04										弓?	(芯持ち)	広葉樹	数箇所残る枝の切り落とし部分の観察より、残存する弓弭側が樹幹側になると考えられる。敵側にはいっさいの加工はない。外樹皮は剥ぎ取っているが、一面に内樹皮残る。ケズリを施し平らに近い面を作っている方が自分側と思われ、湾曲の具合からも直弓と考えられる。自分側げへ一面にケズリがなされる。ケズリの幅、長さは一定していない。また方向も両側からと一定していない。残存長は65.4cmである。完形の何分の1を欠損しているかを判断するのは難しいが、湾曲の具合・日本の弓は全長の下から3分の1辺りを持って矢を射たということ等からこの弓の場合も本弭側約3分の1を欠損しているのではないかと推測する。木材の方向は残存する弓弭側が樹幹にあたる。この弓は樹の枝部を利用したものであろうが、太さは樹幹に近い方が太くなると思われる。弓として使用する場合、もし下から3分の1のところに矢を当てるのであれば上側がより湾曲する必要がある。とすると、樹幹側より樹幹側の方が木材としては細くあり、ゆえにこの弓の残存する弓弭は末弭にあたり、下3分の1を欠損すると考える。弭は一部敵側に内樹皮を残しながら、各面より先端に向けてけずっている。弓幹の部分に比べるとケズリ痕がシャープでささくれが少ない。弓幹と弓弭で工具が異なるか。弓弭には弦をかけた際の紐ずれのような痕跡は見受けられない。
312 28	90091	Ⅲ	X・Y	27~30	SW−04										弓?	芯持ち	広葉樹	先端部がケズリにより窄められていることや材質、径などから弓と考えてもよいか。ただし枝の切り落とし方は節の盛り上がりを残すなどやや丁寧でない点も見られる。
312 29	90151	Ⅲ	X・Y	27~30	SW−04										かずら巻き 弓	芯持ち	広葉樹(年輪に沿って並ぶ導管がよく見える。放射組織もはっきりしている。)	同一樹種の二片をかずらで巻き一本につなげる。重なり部分は約15cmか。各々片の端部を約15cmにわたり斜めにけずり重ね合わせている。接着面は平坦である。かずらは最初10cm程を重ねて接合箇所の端部より順次密に巻きつけている。折損したものを接合面をケズリ加工し密着するようにして修復したもの、あるいは長さとカーブの関係から任意の枝をつなぎ合わせた等が考えられるか。しかし本例を弓と考えるならば合成弓は平安後期以降しか見受けられないか。是川遺跡出土のいわゆる「縄文の合わせ弓」は疑問視される傾向にあることなどから本例は弓とは考えがたいか。(かずら=蔓草の総称。つる=蔓草の茎、巻きひげの部分。本例に巻きついている繊維はかずらorつると呼べばよいか。あるいは木器集成のように繊維材とのみよぶか。)

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	石器の法量と特徴								木器の特徴			
挿図番号							器種	法量(cm・g)					石材	備考	種類	木取り	樹種	備考
								長さ	幅	厚さ	孔径	重さ						
313 30	90089	Ⅲ	X	31	SW−04	北半									雑具部材or織機?	柾目	広葉樹	断面が長方形に近い扁平な棒状。前後面はほぼ平らになるようケズリを行う。実測面側は比較的方向は一定だが反対面は乱れている。側面は上下方向にストローク長くけずる。全体に残りはよいが片方の端部を欠失する。棒状で且つ扁平であることから織機がもっとも近いか判断したが建築材等の可能性もあるか。
313 31	90092	Ⅲ	X·Y	27~30	SW−04										不明(棒状)	芯持ち	広葉樹	ほぼ直線をなす径2.5cm程の木材を、枝を数箇所切り落とし端部をやや窄めるようけずっている。枝切り落としのケズリ口はシャープ。端部のケズリは約半周のみ。残り半周は未調整だが、切断後の磨耗により丸みを帯びる。弓とするには端部が太すぎて適当ではないと思われる。一部表面が炭化。
313 32	90078	Ⅲ	X·Y	27~30	SW−04										建築部材(扉か?)		広葉樹	梯子とも考えられるが、それにしては薄く突出度も低い。鍬の未製品とも考えられるか。
313 33	90037	Ⅲ	X·Y	27~30	SW−04										建築部材	枝分れ部	広葉樹	端部が二又を成し、別の部材を固定するための建築材である。又部以下は欠失。割れ口付近は被熱しており黒く炭化している。上端部はケズリ成形。刃物工具を勢いよく打ち込み、ある程度深くめり込んだところで折り取るケズリ。又部には手を加えていないようである。
314 34	90146	Ⅲ	X	29	SW−04										建築部材	割り材	広葉樹	広葉樹をミカン割りにしたもの。厚さ約1cmの樹皮がそのまま残る。中央に一箇所抉りが作られる。抉り部は欠損面がほとんどだが一部にケズリ痕が残る。比較的鋭利な刃物で削られたようだ。
317 35	90093	Ⅲ	X	31	SW−04	北半									建築部材?	柾目	広葉樹	全体をけずり、抉りの部分は鑿のような道具で仕上げたと思うが工具痕は残っていない。横断面形が楔形をしており、厚さが均一でないことが特徴。抉りは一辺に段を持つ形でやや歪であるが、割れたような痕跡もないので本来の形を留めていると考えられる。抉り内側面は平滑で磨耗しているようである。
317 36	90148	Ⅲ	X·Y	27~30	SW−04										建築部材		広葉樹	腐蝕により原外形ラインは残っていない(図の外形線はすべて死んでいる)。また厚さも残存する最大厚は2,5cmだが薄いところでは4mmと、腐蝕が進む。形からして建築材と思われる点からも、厚さは最低でも2.5cm以上はあったであろう。
324 42	90068	Ⅲ	X	31	SW−05										横鍬		広葉樹	柄孔は後面の方が広がる。柄孔の形状から、横断面が楕円形の柄を使用したと考えられる。側面はシャープなケズリである。下端面はシャープなケズリで成形される。使用による凹凸や欠損は少なく平坦面を残す。厚さが約1cmと厚く、刃とは言いがたいか。土慣らし用?横方向に木目が走る。柾目か板目かは不明。
324 43	90036	Ⅲ	X	31	SW−05										小型臼		広葉樹	正円に近い木材を楕円にけずる。外面には全体にケズリ痕が残る。ケズリは底部から上部方向に行われたようである。平面形は両端がやや尖り気味の楕円形、側面形は逆台形である。底部に抉り込みはなく、ケズリなどの整形痕なく凹凸激しい。磨耗もあまり進んでいない。内面は上端付近以下は磨耗している。内面および底部はひび割れが進み一部貫通する。
325 44	90055	Ⅲ	X	31	SW−05										弓?	芯持ち	広葉樹	弓弭はケズリにより杭状に仕上げられるが、ケズリは全周には巡っておらず樹皮を剥いだ跡と思われる滑らかな面を一部残す。弓幹は樹皮を剥いだのみで特に加工はしていない。弓幹はほとんど直線に近い。弓弭は杭のように先端が尖る形である。
338 40	90114	Ⅲ	Z	29	SW−06										不明		広葉樹	不明品。自然物の可能性もあり。
338 41	90021	Ⅲ	Z	29	SW−06										不明(竪杵再加工品?)	芯抜き	広葉樹	竪杵の搗き部を再加工したものであろうか。用途は不明。一方の端部はケズリにより先端を尖らせ、他方は丸く収まる。掌で握りこむには適度な大きさであり、物をすり潰すのにでも使用したか。丸く磨耗した端部は、他の竪杵で見るそれとよく似た状態である。
338 42	90117	Ⅲ	Z	29	SW−06										不明	板目	針葉樹	薄い板状で、厚さは1~1,8cm程度か(片面が欠損しているので不明)。片方の表面にケズリ痕が明瞭に残る。図下端の端部は生きており、鋭利な刃物によるケズリ落としである。ケズリ口がシャープ。
338 43	90008	Ⅲ	Z	29	SW−06										二又鍬		広葉樹	長方形の柄孔を持つ。基部から歯部にかけての張りは弱い。厚さは基部から歯部に向かって少しずつ薄くなり、湾曲等はほとんど見られない。柄孔の隅は直角にならず削り残しがある。前面は傷、凹凸が多い。後面は一部ケズリ痕を残すが全体的に平滑。刃部は、一応ケズリにより作られるが11ミリと厚い。
338 44	90147	Ⅲ	Z	29	SW−06										臼	芯持ち	導管確認できず、針葉樹か?	口径46cm、復元底径36cm、復元高37cm、深さ23cm前後。残存率約5分の3,全体にひび割れがはげしく、また土圧のためにゆがむ。工具痕は残っていない。上下のつくり出しはそれぞれ3箇所残存(本来は4箇所あっただろう)。取っ手はやせ細った状態で出土。下半部は欠損・歪が特にはげしいため、本来の形を復元しつつ図化している。外面上部・下部は面取りされるが面取りの幅にはばらつきがある。内底面は少し抉っているようだが残りが悪い為詳細は不明。外上部に8×15cmのつくり出し?あり。(反対側は欠損の為不明。)持ち運ぶ時の手かけとして使えないこともないが、かなり力が要ると考えられる。長さがながいため手をかけたとき指が伸びるので力が入らない。突出の角度は40度程。
339 45	90112	Ⅲ	Z	29	SW−06										建築部材			幅16cm程の板状。欠損面がいずれも磨耗してきれいな面を成している。ねじれるように変形しており横断面形がいびつな形となる。中央の孔はよく残る。
339 46	90145	Ⅲ	Z	29	SW−06										建築部材	板目	広葉樹	建築材であろうか。長さは約94cmで上下の端部削り落としている。変形をしているが表裏面とも平坦面が多く残る。側面は、一方は丸く自然形を残したような感じだが、もう一方は平らに成形されている。表裏とも面は滑らかである。
未掲載	90135	Ⅲ	Q	35	SP−0596	北拡張区2区									柱根			未図化。
未掲載	90134	Ⅲ	Q	35	SP−0597	北拡張区2区									柱根			未図化。

報告書		遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	金属器・ガラス玉・骨角器の法量と特徴									自然遺物（炭化米/種子/貝類/骨類）の法量と特徴						
挿図番号	登録番号						種類	法量(cm・g)					色調	材質	備考	種類	種名	部位名	左右	残存状況	点数	備考・計測値
								長さ	幅/径	厚さ/孔径	重さ	比重										
	第13次調査出土 骨角器																					
243 4	03062	Ⅲ	T	31	SP−0058		骨針?	(2.60)	0.40	0.30	0.44			鹿角	被熱あり	角	シカ	角		破片	1	被熱あり。加工品。
報告書		遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	金属器・ガラス玉・骨角器の法量と特徴									自然遺物（炭化米/種子/貝類/骨類）の法量と特徴						
挿図番号	登録番号						種類	法量(cm・g)					色調	材質	備考	種類	種名	部位名	左右	残存状況	点数	備考・計測値
								長さ	幅/径	厚さ/孔径	重さ	比重										
	第13次調査出土 自然遺物																					
5	05017	Ⅰ	V	23	水田(1面)											種子						
5	05017	Ⅰ	V	23	水田(1面)											種子						
5	05018	Ⅰ	T	29	水田(1面)											種子						
5	05018	Ⅰ	T	29	水田(1面)											種子						
5	05019	Ⅰ	T	26	水田(1面)											種子						
5	05019	Ⅰ	T	26	水田(1面)											種子						
5	05020	Ⅰ	T	29	水田(1面)											種子						
5	05020	Ⅰ	T	29	水田(1面)											種子						
5	05010	Ⅰ			水田(1面)											貝						
5	05010	Ⅰ			水田(1面)											貝						
5	05021	Ⅰ			水田(2面)											種子						
5	05021	Ⅰ			水田(2面)											種子						
5	05023	Ⅰ			水田(2面)											種子						
5	05023	Ⅰ			水田(2面)											種子						
39	03005	Ⅱ	Q	30	SC−01	南壁										歯	サメ類	歯			1	アオザメタイプ。
39	03001	Ⅱ	Q	30	SC−01											骨	シカ	中節骨			1	成獣。大型。
39	03002	Ⅱ	Q	30	SC−01											骨	イノシシ	上顎遊離歯	左	"P4,M1,M2"	1	"成獣。M1—。M2長さ22.9,前幅16.7±,後幅15.6±。菱形にゆがむ。"
39	03002	Ⅱ	Q	30	SC−01											骨	陸獣	不明			1	
39	03003	Ⅱ	Q	30	SC−01											骨	不明	不明		破片	1	
39	03004	Ⅱ	Q	30	SC−01											骨	イノシシ	上腕骨	左右	遠位	1	成獣。イヌの咬みキズ多い。
73	05001	Ⅱ	V	32	SW−02											種子						
73	05001	Ⅱ	V	32	SW−02											種子						
73	05002	Ⅱ	V	32	SW−02											種子						
73	05002	Ⅱ	V	32	SW−02											種子						
121	03012	Ⅱ	R	32	SR−01											歯・骨	イノシシ	上顎	右	(M3)	1	成獣。磨滅多い。計測不可。
121	03012	Ⅱ	R	32	SR−01											骨	陸獣	不明		破片	2	
126	03020	Ⅲ	Q	27	第Ⅲ面遺構検出面											骨	イノシシ	肩甲骨	右	破片	1	
126	03021	Ⅲ	Q	27	第Ⅲ面遺構検出面											骨	イノシシ	尺骨	右		1	大型。
126	03021	Ⅲ	Q	27	第Ⅲ面遺構検出面											骨	イノシシ	橈骨	右	近位	1	大型。
126	03023	Ⅲ	Q	28	第Ⅲ面遺構検出面	2面										骨	イノシシ	第一頚椎			1	"成獣。上面前後長24.4±,高さ—。"
126	03022	Ⅲ	Q	28	第Ⅲ面遺構検出面											骨	イノシシ	尺骨	左		1	若獣湾曲つよく短い。ブタの可能性あり。
126	03024	Ⅲ	R	28	第Ⅲ面遺構検出面											骨	イノシシ	肩甲骨	左		1	若獣 下骨ではない。関節なし。
126	03024	Ⅲ	R	28	第Ⅲ面遺構検出面											骨	陸獣	不明		破片	1	
126	03025	Ⅲ	R	28	第Ⅲ面遺構検出面											骨	イノシシ	不明		破片	1	
126	05005	Ⅲ	R	28	第Ⅲ面遺構検出面											種子						
126	05005	Ⅲ	R	28	第Ⅲ面遺構検出面											種子						
126	03026	Ⅲ	R	29	第Ⅲ面遺構検出面											骨	陸獣	不明		破片	2	
126	03027	Ⅲ	S	29	第Ⅲ面遺構検出面											歯	イノシシ	臼歯			2	M1またはM2か?
126	03028	Ⅲ	S	29	第Ⅲ面遺構検出面											骨	陸獣	不明		破片	1	
126	05014	Ⅲ	T	32	第Ⅲ面遺構検出面											炭化米						
126	05014	Ⅲ	T	32	第Ⅲ面遺構検出面											炭化米						
126	05015	Ⅲ	T	32	第Ⅲ面遺構検出面											炭化米						
126	05015	Ⅲ	T	32	第Ⅲ面遺構検出面											炭化米						
126	05026	Ⅲ	W	31	第Ⅲ面遺構検出面											種子						
126	05026	Ⅲ	W	31	第Ⅲ面遺構検出面											種子						
126	03029	Ⅲ	X	30	第Ⅲ面遺構検出面											骨	陸獣	不明		破片	1	
126	03030	Ⅲ	Z	31	第Ⅲ面遺構検出面											歯	イノシシ	上顎遊離歯	左右	M3	1	"亜成獣。左M3長さ31.9,前幅17.6。右計測不可。"
126	03046	Ⅲ	なし		第Ⅲ面遺構検出面											歯	イノシシ	下顎遊離歯		切歯破片	1	
126	03047	Ⅲ	なし		第Ⅲ面遺構検出面											骨	陸獣	不明		破片	12	
126	03048	Ⅲ	なし		第Ⅲ面遺構検出面											骨	イノシシ	距骨	右		1	成獣?
126	03049	Ⅲ	なし		第Ⅲ面遺構検出面											骨	イノシシ	踵骨			1	
126	03050	Ⅲ	なし		第Ⅲ面遺構検出面											歯	イノシシ ♂	上顎遊離歯		犬歯	1	成獣。
126	03051	Ⅲ	なし		第Ⅲ面遺構検出面											骨	不明	不明		破片	1	
126	03052	Ⅲ	なし		第Ⅲ面遺構検出面											骨	イノシシ	上腕骨			1	若獣?
126	03053	Ⅲ	なし		第Ⅲ面遺構検出面											骨						
126	03054	Ⅲ	なし		第Ⅲ面遺構検出面											骨						
126	03055	Ⅲ	なし		第Ⅲ面遺構検出面											不明						
126	03056	Ⅲ	なし		第Ⅲ面遺構検出面											不明	イノシシ	上顎	右	(P4×)	1	M1の歯槽は大きい。
126	03057	Ⅲ	なし		第Ⅲ面遺構検出面											不明	イノシシ	上顎遊離歯	左	P2?	1	
126	03057	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面												イノシシ	後臼歯			1	1個分破片。
126	03058	Ⅲ	なし		第Ⅲ面遺構検出面											不明						
126	03044	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	1号凹地周辺										骨	クジラ	不明	破片		3	大型クジラの小片。
126	05007	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	4区										種子						
126	05007	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	4区										種子						
126	05025	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	外用排水溝										種子						
126	05025	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	外用排水溝										種子						
126	05022	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	黒色粘土層1面										種子						
126	05022	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	黒色粘土層1面										種子						
126	03031	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画④・⑤、2面										歯	イノシシ	上顎遊離歯	左	M3	1	"若獣。未出歯。M3長さ15.9,前幅20.4。"
126	03031	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画④・⑤、2面										歯	イノシシ	臼歯		破片	1	

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	金属器・ガラス玉・骨角器の法量と特徴									自然遺物（炭化米/種子/貝類/骨類）の法量と特徴						
挿図番号							種類	法量（cm・g）					色調	材質	備考	種類	種名	部位名	左右	残存状況	点数	備考・計測値
								長さ	幅/径	厚さ/孔径	重さ	比重										
126	03032	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画④・⑤、2面										骨	シカorイノシシ	腰椎			1	成獣。
126	03033	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画④・⑤、2面										歯	イノシシ	下顎遊離歯	右	M3	1	"若獣?M3第4咬頭まであり。長さ38.3,前幅15.3。小型。"
126	03033	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画④・⑤、2面										骨	イノシシ	橈骨	右	遠位	1	若獣。
126	05004	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画④・⑤、2面										種子						
126	05004	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画④・⑤、2面										種子						
126	03034	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画⑤										歯	イノシシ	上顎遊離歯	右	M3	1	成獣。未出歯。計測不可。
126	03034	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画⑤										骨	陸獣	大腿骨		遠位端破片	1	若獣骨端のはずれたもの。
126	03035	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画⑤、2面										骨	イノシシ	基節骨			1	
126	03040	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画⑤・⑫										骨	イノシシ	下顎破片			1	被熱あり。
126	03036	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画⑥、2面										骨	イヌ	下顎	右	(P4M1)歯冠欠損	1	
126	03036	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画⑥、2面										歯	イノシシ	臼歯		破片	1	
126	03037	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画⑥、2面										骨	陸獣	不明		破片	1	
126	03038	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画⑥、2面										骨	イノシシ	肩甲骨	右		1	若獣。
126	03039	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画⑧										不明					1	
126	03041	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画⑫										歯	サメ類	歯			1	アオザメタイプ。歯冠部分のみ。
126	03042	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画⑫、2面										歯	イノシシ	上顎遊離歯	右	M3	1	"若獣。未出歯。M3長さ32.8,前幅18.9±。"
126	03043	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画26										骨	イノシシ	脛骨	右	遠位	1	成獣。
126	03043	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	区画26										骨	クジラ	不明		破片	1	被熱あり。大型クジラの小片。
126	05024	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	耕作土と黒粘・流路の西側										種子						
126	05024	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	耕作土と黒粘・流路の西側										種子						
126	05027	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	砂層中										種子						
126	05027	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	砂層中										種子						
126	03045	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	北拡張区										骨	シカ	中節骨			1	成獣。イヌ?咬み痕あり。
126	03045	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	北拡張区1区										骨	シカorイノシシ	肋骨		破片	2	うち1つにネズミの咬み痕あり。
126	05011	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	北拡張区										貝						
126	05011	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	北拡張区										貝						
126	05006	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面											種子						
126	05006	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面											種子						
126	03061	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面											骨	イノシシ	下顎			1	成獣?
163 a	03013	Ⅲ	R	30	SP−0062											骨	イノシシ	上顎	右?	破片	1	小破片のみ。
163 a	03013	Ⅲ	R	30	SP−0062											骨	陸獣	不明		破片	1	小破片のみ。
163 b	03016	Ⅲ	Q	30	SP−0263											骨	イノシシ	腰椎			1	成獣。大型。
163 c	03019	Ⅲ	Q	35	SP−0594											骨	シカ	角			1	加工品。先端を研磨。
165	03059	Ⅲ	Q	30	SK−001											骨	シカ	肩甲骨			1	成獣。関節部なし。
165	03060	Ⅲ	Q	30	SK−001											骨	イノシシ	上腕骨			1	成獣。
165	03060	Ⅲ	Q	30	SK−001											骨	イノシシ	頭蓋骨		切歯骨	1	成獣。
165	03060	Ⅲ	Q	30	SK−001											骨	イノシシ	中手or中足骨			1	亜成獣。
165	03060	Ⅲ	Q	30	SK−001											骨	陸獣	不明		破片	1	
165	03060	Ⅲ	Q	30	SK−001											骨	イノシシ ♂	上顎		(X)犬歯部分	1	歯なし。
165	03015	Ⅲ	P	30	SK−001											骨	ネコ	上腕骨	左	遠位	1	成獣。保存状況から現代のもの。
167	05008	Ⅲ	Q	29	SK−002											貝						
167	05008	Ⅲ	Q	29	SK−002											貝						
167	05009	Ⅲ	Q	29	SK−002											貝						
167	05009	Ⅲ	Q	29	SK−002											貝						
170	03014	Ⅲ	R	30	SK−003											骨	イノシシ	中手or中足骨		近位	1	
170	03014	Ⅲ	R	30	SK−003											骨	シカ	大腿骨	右	近位	1	成獣。
173	03006	Ⅲ	R	30	SK−005	南半分										骨	イノシシ	頚椎			2	若獣。
173	03006	Ⅲ	R	30	SK−005	南半分										骨	イノシシ	胸椎			1	若獣。
173	03007	Ⅲ	R	30	SK−005											骨	イノシシ	寛骨	右		1	成獣。
173	03007	Ⅲ	R	30	SK−005											歯	イノシシ	臼歯		破片	1	
173	03007	Ⅲ	R	30	SK−005											角	シカ	角		破片	1	
173	03008	Ⅲ	R	30	SK−005											骨	イノシシ	中手骨			1	若獣。
173	03008	Ⅲ	R	30	SK−005											骨	イノシシ	基節骨			1	
173	03008	Ⅲ	R	30	SK−005											骨	イノシシ	上腕骨	右		1	幼獣。小型。
173	03008	Ⅲ	R	30	SK−005											骨	イノシシ	頭蓋骨		破片	3	
173	03008	Ⅲ	R	30	SK−005											骨	イノシシ	頭蓋骨?		破片	2	
173	03008	Ⅲ	R	30	SK−005											骨	陸獣	不明		破片	1	被熱あり。
176	03009	Ⅲ	S	26	SK−006	おちこみ										歯	イノシシ	臼歯			1	1個分。
184	03018	Ⅲ	T	31	SK−009											骨	イノシシ	尺骨	右		1	成獣?
197	05012	Ⅲ	T	32	SK−019											炭化米						炭化米分析。済。
197	05012	Ⅲ	T	32	SK−019											マメ科種子						炭化米分析。済。
197	05013	Ⅲ	T	32	SK−019											炭化米						炭化米分析。済。
197	05013	Ⅲ	T	32	SK−019											マメ科種						炭化米分析。済。
219	03010	Ⅲ	Q	35	SK−031											骨	陸獣	不明		破片	1	
230	03011	Ⅲ	Q	35	SK−036											歯	イノシシ	下顎遊離歯	右	M3	1	"亜成獣。M3長さ38.6,前幅17.0。"
230	03011	Ⅲ	Q	35	SK−036											歯	イノシシ	臼歯			1	1個分。
235	03017	Ⅲ	R	30	SP−0264											骨	イノシシ	胸椎			1	成獣。
235	03017	Ⅲ	R	30	SP−0264											骨	イノシシ	下顎	右	dm2〜dm4部分	1	幼獣M1未出歯アリ。
235	03017	Ⅲ	R	30	SP−0264											骨	イノシシ	上顎	右	(M2)	1	成獣。
235	03017	Ⅲ	R	30	SP−0264											角	シカ	角		破片	2	
235	05016	Ⅲ	R	30	SP−0264											顔料						
235	05016	Ⅲ	R	30	SP−0264											顔料						
249	概報	Ⅲ	T	30	SH−01											骨	ヒト	四肢骨片、左肋骨		遺存状態が悪い		乳児期。
253	05003	Ⅲ	Z	29	SW−04											種子						
253	05003	Ⅲ	Z	29	SW−04											種子						

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器　下段:土製品〉													
挿図番号							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・脚端部径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
第13次調査出土		土器・土製品																	
12 1	01899	Ⅰ			水田	発掘区北東部	須恵器	?	2.40	9.20			明灰色	明灰色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	回転ナデ	回転ナデ	
12 2	01900	Ⅰ			水田	発掘区北東部	須恵器	坏	1.70			(8.00)	青灰色	青灰色	8mmの長石粒1点以外に、1mm以下の石英・長石粒をわずかに含む	良好	回転ナデ	内底はナデ	
19 1	01771	Ⅱ	Ⅰ	34	SE−01		古式土師器	甕(D系)		(20.00)			黄褐色	黄褐色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む。精良。	良好	口縁部は横ナデ	口縁部は横ナデ	
19 2	01769	Ⅱ	Ⅰ	34	SE−01		古式土師器	甕(D系)	25.70	17.50	22.40		明黄褐色	明黄褐色	4mm以下の石英・長石粒を少し含み、雲母をわずかに含む	良好	胴部はタタキ後ハケメ　口縁部〜肩部は横ナデ	胴部はケズリ後指オサエ　口縁部〜頸部は横ナデ	肩部に櫛描直線文。外面全体に炭素吸着。口縁端部内側は微妙に突出。
19 3	01772	Ⅱ	Ⅰ	34	SE−01		古式土師器	壺					黄褐色	黄褐色	4mm以下の石英・長石粒をやや多く含む	良好	胴部はナデか　頸部は横ナデ	胴部はナデもしくはハケメ　口縁部〜頸部は横ナデ	復元頸部径:18.4cm。
19 4	01774	Ⅱ	Ⅰ	34	SE−01		古式土師器	小型丸底壺(C系)	6.50	12.00	7.50		明黄褐色	明黄褐色	0.5mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む。極めて精良。	良好	胴部はハケメ後下半に幅広ミガキ　そして口縁部〜胴上半に細密ミ	胴部は工具ナデ　口縁部〜頸部は横ナデ	
19 5	01770	Ⅱ	Ⅰ	34	SE−01		古式土師器	小型器台(C系)	5.10	10.10					1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	受部?脚部は縦ミガキ　立ち上がりは横ナデ	脚部はナデ(奥部は横ナデもしくはケズリ)　坏部は放射状ミガキ	
19 6	01773	Ⅱ	Ⅰ	34	SE−01		古式土師器	高坏(B系)	8.10				黄褐色	黄褐色	4mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	脚裾部はハケメ　脚柱部は縦ミガキ	脚柱部はナデ　脚裾部はハケメ　坏底部はミガキもしくはナデ	脚裾部におそらく焼成前の穿孔。坏底部と脚部外面に所々黒い煤が付着。
22 1	01775	Ⅱ	H	28	SE−02		古式土師器	甕(D系)	20.60	14.60	19.00				石英・長石を少し含み、雲母をわずかに含む	良好	胴部は縦ハケメ後肩部横ハケメ　口縁部は横ナデ	胴部はケズリ(上半はナデに近い)後底部指オサエ　口縁部はハケメ後横ナデ	肩部にタタキ痕?あり。胴部外面下半に煤が厚く付着・剥離している。
22 2	01776	Ⅱ	H	28	SE−02		手づくね土器	鉢	4.00		8.00		明黄灰色	明黄灰色	3mm以下の石英・長石・雲母を少し含み、赤褐色粒をわずかに含む	良好	全面指オサエ	全面指オサエ	外面全体の4分の1に黒斑。
22 3	01777	Ⅱ	H	28	SE−02		手づくね土器	匙	7.00	3.80	3.50		明黄褐色〜黄灰色	明黄褐色〜黄灰色	2mm以下の石英・長石・雲母を少し含む				
25 1	01468	Ⅱ	G	33	SE−03		古式土師器	甕(B系)	11.00	(15.00)	(16.00)		暗褐色	暗褐色	3mm以下の石英・長石をやや多く、雲母をわずかに含む	良好	胴部は太筋タタキ　口縁部はナデ	胴部はハケメ後ケズリ　口縁部はナデ	口縁端部は不整形。
25 2	01879	Ⅱ	G	33	SE−03		古式土師器	甕(C系)	24.50	18.30	22.90		黒くいぶされてい	黄褐色〜暗褐色	1mm以下の石英・長石粒を少し含み、雲母粒をわずかに含む	良好	胴部は水平に近い細筋タタキ後下半に若干縦ハケメ　口縁部〜頸部	胴部はケズリ　口縁部は横ナデ後細筋ハケメ	口縁部外面に指オサエがほぼ等間隔で並ぶ。
25 3	01881	Ⅱ	G	33	SE−03		古式土師器	甕(D系)		(16.00)			明黄褐色	明黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	胴部は縦ハケメ後肩部横ハケメ　口縁部〜頸部は横ナデ	胴部はケズリ後ナデ　口縁部は横ナデ	肩部にヘラ描波状文。口縁端部内面は若干突出。
25 4	01882	Ⅱ	G	33	SE−03		古式土師器	甕(D系)	14.50		(20.00)		黄褐色	黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	胴部は上位に目の細かいハケメ後全面に粗いハケメ　(口縁部〜)肩部は横ナデ	胴部はケズリ後ナデ　口縁部〜頸部は横ナデ	
25 5	01469	Ⅱ	G	33	SE−03		古式土師器	甕(A系?)	11.70				明黄褐色〜明橙褐色	明黄褐色〜明橙褐色	3mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	胴部は目の細かいハケメ後粗いハケメと沈線状の線　底部ナデ	強いケズリ	底部は平底気味。内面は薄皮が剥がれたような剥離。
25 6	01423	Ⅱ	G	33	SE−03		古式土師器	壷(A系?)		14.00			黄褐色	黄褐色	3mm以下の石英・長石・赤褐色粒を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部〜肩部はハケメ　口縁端部	胴部上半はケズリ　頸部はナデ	口縁端部は面取りにより沈線状になっている。
25 7	01884	Ⅱ	G	33	SE−03		古式土師器	高坏(B系)	7.10				明黄褐色	明黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	脚裾部はハケメ　脚柱部は磨滅して不明	脚部はケズリ後ナデそして裾部にハケメ　坏底部はハケメ	
25 8	01883	Ⅱ	G	33	SE−03		古式土師器	高坏	8.00				黄褐色、全体に黒褐色〜黒色の付着物	黄褐色、全体に黒褐色〜黒色の付着物	3mm以下の石英・長石・雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好	脚部はハケメ後横ミガキ	脚柱部はナデ　脚裾部はハケメ	坏・脚の接合部あたりを打欠いており、フイゴの羽口などに転用された可能性あり。内外面に黒?黒褐色の付着物あり。
25 9	01470	Ⅱ	G	33	SE−03		古式土師器			12.00			橙褐色	橙褐色	1mm以下の石英・長石を少し、雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好	坏部はハケメ後細密横ミガキ	坏部はハケメ後下半に放射状ミガキ、上半にミガキ	内面は茶褐色に変色し、草がへばり付いていたようにも見える。
25 10	01880	Ⅱ	G	33	SE−03		古式土師器	高坏(D系)	13.60	20.00		12.60	明黄褐色		1mm以下の雲母粒を少し含み、石英・長石粒をわずかに含む	良好	脚裾部はミガキ　脚柱部は縦ケズリ　坏部はハケメ後ミガキ	脚柱部は横ナデ　脚裾部はハケメ後端部に横ナデ　坏部はハケメ後暗文風ミガキ	脚裾屈曲部に焼成後穿孔(内面が剥がれている)。
29 1	01789	Ⅱ	G	33・34	SK−006		古式土師器	甕(B系)					明黄褐色	明黄褐色	4mm以下の石英・長石を少し含み、赤褐色粒をわずかに含む。胎土の色は明灰色	良好	胴部はタタキ　口縁部〜頸部はナデ	胴部は工具ナデ?　口縁部はナデ	復元口径:16cm前後。
29 2	01788	Ⅱ	G	33・34	SK−006		古式土師器	二重口縁甕(山除系)					黄白色	黄白色	2mm以下の石英・長石を少し含み、雲母をわずかに含む	良好	口縁部〜肩部は横ナデ	頸部下の指ナデ後胴部ケズリ　口縁部は横ナデ	復元口径:16cm前後。
29 3	01787	Ⅱ	G	33・34	SK−006		古式土師器	高坏(B系)	7.80			(14.60)	明橙褐色	明橙褐色	2mm以下の石英・長石・赤褐色粒・雲母粒を少し含む	良好	脚部は全面ハケメ後脚柱部にナデ?	脚部はナデ　坏底部はナデ?	脚裾部に4ケ所の穿孔。
29 4	01790	Ⅱ	G	33・34	SK−006		手づくね土器	鉢	3.60	3.40			ややピンク味をおびた灰白色〜灰	ややピンク味をおびた灰白色〜灰	1mmまでの砂粒をやや含む(長石が目立つか)	普通	全面指オサエ	全面指オサエ	
31 1	01794	Ⅱ			SK−015		古式土師器	二重口縁壷(A系)	9.00	(16.40)	(19.00)		明橙褐色	明黄褐色	5mm以下の石英・長石をやや多く含み、雲母粒・赤褐色粒をわずかに含む	良好	口縁部?頸部はハケメ後ナデ	ナデかハケメ(磨滅して不明瞭)	
31 2	01795	Ⅱ			SK−015		古式土師器	二重口縁壷(A系)	(18.20)				明橙褐色	明黄褐色	6mm以下の石英・長石をやや多く含み、雲母粒・赤褐色粒をわずかに含む	良好	一次口縁部はハケメ後ナデ	一次口縁部はハケメ　二次口縁部は横ナデ	
31 3	01796	Ⅱ			SK−015		古式土師器	高坏(B系)	9.20						4mm以下の石英・長石粒をやや多く含み、赤褐色粒をわずかに含む	良好	脚部はナデ　穿孔は焼成前	脚裾部はナデ　坏部はナデ	
31 4	01797	Ⅱ			SK−015		古式土師器	高坏(B系)	6.50				淡橙白色	淡橙白色	2mm以下の石英・長石をやや多く含み、赤褐色粒をわずかに含む	良好	脚部は所々ハケメが残る	脚部はナデ?	脚部内面に工具痕あり。脚頂部はおそらく接合面　脚裾部に穿孔。
31 5	01798	Ⅱ			SK−015		古式土師器	鉢	4.70	(9.00)	7.80		黄白色	黄白色	2mm以下の石英・長石を少し、赤褐色粒・雲母をわずかに含む	良好	胴部はハケメ　口縁部はナデ	全面ナデ(底部は工具ナデ?)	内面底部に工具痕。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器（土製品）の法量と特徴〈法量 上段：土器　下段：土製品〉											
挿図番号							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・脚裾・高台径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
31 6	01800	Ⅱ			SK−015		須恵器	坏蓋	(3.50)	(12.60)			暗灰色	暗灰色	4mm以下の石英・長石を少し含む	良好	体部は回転ナデ　天井部は回転ヘラ削り	体部は回転ナデ	
31 7	01799	Ⅱ			SK−015		須恵器	坏身	(4.70)	(13.00)			灰色	灰色	2mm以下の石英・長石を少し含む	良好	体部は回転ナデ　底部は回転ヘラ削り	体部は回転ナデ　底部はナデ	
33 1	01805	Ⅱ	M	30	SK−042		古式土師器	甕（B系）					明橙褐色	明黄褐色	5mm以下（全体に大粒）の石英・長石を少し含み、赤褐色粒をわずかに含む	良好	胴部はタタキ　口縁部は横ナデ	胴部は規則的なハケメ　口縁部は横ナデ	復元口径：16cm前後。胴部内面に接合痕残る。
34 1	01806	Ⅱ	M	29	SK−044		古式土師器	甕（D系）	6.60	(17.00)			白褐色	白褐色	2mm以下の石英・長石を少し含み、雲母をわずかに含む	良好	肩部はナデ？　口縁部〜頸部は横ナデ	胴部はケズリ　口縁部〜頸部は横ナデ	
34 2	01807	Ⅱ	M	29	SK−044		古式土師器	外反口縁鉢（C系）	4.30	(17.60)	13.90		明黄褐色	明黄褐色	1mm以下の石英・長石・雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好	胴部下半はハケメ　口縁部〜胴部上半は横ナデ？	全面横ナデ？	全面磨滅。
34 3	01820	Ⅱ	J	29	SK−082	No.1	弥生土器	甕					明黄褐色	明黄褐色	2mm以下の石英・長石・黒色粒をやや多く、雲母を少し含む	良好	口縁部は横ナデ	口縁部は横ナデ	復元口径：30cm前後。
34 4	01821	Ⅱ	J	29	SK−082		古式土師器	甕					黄白色	黄白色	4mm以下の石英・長石を少し、赤褐色粒をわずかに含む	良好	摩擦により不明	胴部はケズリ（頸部下に指オサエ痕あり）　口縁部〜頸部はナデか	
34 8	00706	Ⅱ	J	29	SK−090		古式土師器	甕（D系）	17.80		(18.00)		黄橙色	淡橙色	4mm以下の石英・長石をやや多く、雲母・赤褐色粒をわずかに含む（内面は大粒の砂粒が目立つ）	良好	胴部はハケメ仕上げ	胴部はケズリ後中位にナデ　頸部にナデ残る	タタキ痕無し。
37 1	01815	Ⅱ	J	30	SK−056		古式土師器	甕（B系）	12.60	12.80	15.60		浅黄色〜赤白色	黄褐色〜灰褐色	1mm程度の砂粒を含む	普通	全面煤で不明瞭だが肩部にハケメ痕あり	胴部はケズリ後上位はナデ　口縁部はヘラナデ　端部は回転指ナデ	肩部外面に沈線が1条廻る。頸部外面は煤が擦れて剥げた感じに剥落。
37 2	01814	Ⅱ	J	30	SK−056		古式土師器	高坏（B系）	11.70	13.80		10.80	明橙色	明橙色	2mmまでの砂粒を含む他は精良（石英・長石・金雲母他）	良好	脚部は縦ナデ　裾端部はミガキ　坏部はミガキ	脚裾部は反時計回りのすだれ状螺旋ハケメ　坏部はナデ、ミガキ	脚裾に穿孔3ヶ所。脚柱部〜接合部のナデはミガキのように丁寧。
37 3	01813	Ⅱ	J	30	SK−056		古式土師器	小型器台（B系）	8.80	9.90		13.60	明橙色〜浅橙色	明橙色〜浅橙色	2mmまでの砂粒を比較的多く含む	良好	脚部は細密縦ハケメ　受部は横ナデ　接合部は指ナデ	脚部は時計回りのすだれ状螺旋ハケメ後時計回りの横ナデ　受部は	脚部の両面の調整ははっきり残る。
41 1	01874	Ⅱ	G	31	SK−108	33	弥生土器	器台	10.80			7.80	黄褐色	黄褐色	6mm以下の石英・長石を少し、雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好	全面ハケメ後脚端部に横ナデ	脚部はナデ後端部に横ナデ　受部は粘土を掻き取るような調整	上下逆の可能性。
41 2	01875	Ⅱ	G	31	SK−108	①	古式土師器	低脚付椀	2.50			8.70	暗褐色	黄褐色	1mm以下の雲母を少し、砂粒をわずかに含む。精良	良好	脚裾部は横ナデ　脚柱部は縦ナデ	脚部は横ナデ	脚部外面に黒褐色の付着物あり。
41 3	01871	Ⅱ	G	31	SK−108	⑩	古式土師器	壷（A系？）		(13.00)	13.90		白褐色	白褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部〜胴上半に縦ハケ後一部横ハケ　さらに頸部にミガキまたは	口縁部〜胴部上半にハケメ後口縁部に横ナデ	
41 4	01873	Ⅱ	G	31	SK−108	⑧	古式土師器	甕（D系）	13.70	(18.00)	(23.00)		黄褐色〜淡橙褐色	黄褐色〜淡橙褐色	3mm以下の石英・長石を少し、雲母・黒色粒・赤褐色粒をわずかに含む	良好	胴部はハケメ後一部ナデ　口縁〜頸部は横ナデ	胴部は頸部下に指オサエ後ケズリ　口縁部〜頸部下は横ナデ	頸部外面はちょうど指1本分の横ナデ。
41 5	01872	Ⅱ	G	31	SK−108	③	古式土師器	甕（D系）		(9.00)			明黄褐色	明黄褐色	3mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部〜頸部は横ナデ	口縁部〜頸部は横ナデ	
41 6	01867	Ⅱ	G	31	SK−108	⑤	古式土師器	小型甕（D系）	12.40	12.80	13.80		明赤褐色〜黄褐色	明赤褐色〜黄褐色	2mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	胴部はハケメ　口縁部〜頸部は横ナデ	胴部はケズリ（ナデに近い）　口縁部〜頸部は横ナデ	
41 7	01877	Ⅱ	G	31	SK−108		古式土師器	壷（D系か山除系）	16.10	19.50			黄白色		3mm以下の石英・長石を少し、雲母・黒色粒をわずかに含む	良好	胴部はハケメ　口縁部はハケメ後横ナデ	胴部はケズリ　頸部はナデ　口縁部は横ナデ	内面はやや焼成不良。内面の胴部〜頸部に黒斑。
41 8	01869	Ⅱ	G	31	SK−108	⑲	古式土師器	壷（B系）	18.10		(22.40)		黄白色〜明橙色	黄白色〜明橙色	4mm以下の石英・長石を少し、雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好	胴部は下位がまばらなミガキ、上位〜中位が細密横ミガキ	底部はすだれ状螺旋ハケメ　胴部はハケメ後下半にミガキ、上半にナデや一部沈線状の調整	胴部内面下半に接合痕。
41 9	01868	Ⅱ	G	31	SK−108	⑱	古式土師器	小型丸底壷（C系）	9.20	12.20	10.30		明赤褐色〜黄褐色	明赤褐色〜黄褐色	2mm以下の石英・長石・赤褐色・雲母粒を少し含む	良好	全面縦ハケメ後細密横ミガキ（端部に横ナデ残る）	胴部はナデ　口縁部は細密横ミガキ	底部内面には草がへばり付いていたような痕跡あり。外面には所々煤が付着。
41 10	01876	Ⅱ	G	31	SK−108	35	古式土師器	小型丸底鉢（C系）	7.10	13.40	11.40		黄褐色	黄褐色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む。精良	良好	頸部〜胴部はハケメ後横ミガキ　口縁端部は横ナデ	底部はナデ　口縁部〜胴部は横ナデ	器表面には成形時の微妙な凹凸が残っている。出土時に土器の中には草の葉や茎などが詰まっていた。
41 1	01870	Ⅱ	G	31	SK−108	⑪	古式土師器	小型丸底鉢（C系）	(5.50)	15.00	11.70		黄橙色	黄橙色	1mm以下の石英・長石を少し、雲母・赤褐色をわずかに含む	良好	胴部下半はミガキ？　口縁部はハケメ後ナデ、横ナデ	口縁部？胴部はナデ　口縁端部は横ナデ	
48 1	01928	Ⅱ	H	28	SP−1111		弥生土器	甕	10.50			7.60	黄褐色	黄褐色	2mm以下の石英・長石をやや多く、雲母をわずかに含む	良好	横条痕　外底はナデ	ナデ　上下端に炭化物付着	
48 2	01955	Ⅱ	F	27	SP−1077		弥生土器	甕	6.50	(22.60)			暗褐色	白褐色	径3mm程の砂粒を多めに含む	良好	口縁部は横ナデ　体部摩滅	摩滅	
48 3	01956	Ⅱ	H	34	SP−1152		弥生土器	甕	2.70				白褐色	白褐色	径2mm程の砂粒を多く含む	良好	口縁部は横ナデ	横ナデ	
48 4	01748	Ⅱ	I	28	SP−1139		土師器	椀	6.90	9.40	11.70		暗黄灰色	暗黄灰色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	全面ナデ後底部に十字に溝を作り、さらに線刻を施す	全面ナデ　体部に工具ナデ	
48 5	01929	Ⅱ	H	33	SP−1181		古式土師器	甕（D系）	(25.5)	17.30	21.30		明黄褐色、一部黄灰色	黄褐色〜暗灰色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	胴部は縦ハケメ後一部横ハケメ　口縁部〜肩部は横ナデ	胴部はケズリ後頸部下に指オサエ　口縁部は横ナデ	肩部外面に櫛描直線文。
48 6	01930	Ⅱ			SP−1241		土製品	?					明黄褐色	明黄褐色	2mm以下の石英・長石をやや多く、雲母をわずかに含む	良好			
52 1	01541	Ⅱ	G	33·34	SP−1008		古式土師器	甕（B系）	20.50	15.40	19.90		黄褐色	黄褐色	1mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	胴部は太筋タタキ後縦ハケメそして肩部に全周しない横方向ハケメ　口縁部〜頸部は横ナデ	胴部はケズリ　口縁部は横ナデ	D系の影響あり。尖り気味の丸底。外面全体に煤付着（特に胴部下半は厚い）。
54 1	01908	Ⅱ	J	31	SP−0514		弥生土器	甕	2.00	(35.80)			赤褐色	赤褐色	径〜3mm程の砂粒を多く含む	良好	口縁部は横ナデ	口縁部は横ナデ	
54 2	01924	Ⅱ	I	29	SP−0674		手づくね土器	鉢	2.80			3.00	明橙褐色	明橙褐色	4mm以下の石英・長石を少し、雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好	全面指オサエ	全面指オサエ	
54 3	01909	Ⅱ	J	31	SP−0514		土師器	高坏	2.00			(16.80)	白褐色	黒色、白褐色	径〜2mm程の砂粒を多く含む	良好	脚裾部はハケメ	脚裾部はハケメ	脚裾部外面から穿孔。
54 4	01943	Ⅱ	G	31	SP−0914		古式土師器	小型丸底壷?	5.20		(13.20)		赤褐色·黒褐色	赤褐色·黒褐色	精製されたもの。褐色の粒子を含む	良好	胴部はハケメ後工具ナデやミガキ、下半にケズリあり	胴部はナデ	
54 5	01915	Ⅱ	I	31	SP−0207		古式土師器	高坏	5.90		(18.00)		黒灰色	黒灰色	2mm以下の石英・長石・赤褐色粒を少し、雲母をわずかに含む	良好	坏下半は横ナデ　上半はハケメ後横ナデ	坏部はすだれ状螺旋ハケメ	

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器 下段:土製品〉											
挿図番号							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・脚裾・高台径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
60 1	02043	Ⅱ	G	28	SL−01	流れ 西岸 黒色粘質土2面	古式土師器	甕(C系)					明黄褐色	明黄褐色	1mm以下の石英・長石・雲母・黒色粒をわずかに含む	良好	胴部は太筋タタキ後部分ハケメ 口縁部はナデ	胴部はケズリ後指オサエ 口縁部～頸部はナデ	口径:16cm程度。
60 2	02044	Ⅱ	F	29	SL−01	流れ 砂層5−1	古式土師器	二重口縁甕(山陰系)					黄褐色	黄褐色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	磨滅により不明	磨滅により不明	口径:16cm程度。
60 4	02042	Ⅱ	G	28	SL−01	流れ 西岸 黒色粘質土2面	古式土師器	鉢	6.10	11.60			黄褐色	黄褐色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	全面ナデ後下半にミガキ	全面ナデ後ミガキ	
60 5	02041	Ⅱ	G	28	SL−01	流れ 砂層下	古式土師器	鉢	3.90				明黄褐色～明橙褐色	明黄褐色～明橙褐色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	体部はハケメ	体部はナデ 端部にハケメ	底部外面に大小の圧痕や余分な粘土付着。
60 3	02045	Ⅱ	G	27	SL−01	流れ 砂層下	古式土師器	二重口縁壷		(27.20)			明黄褐色	明黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	一次口縁部はハケメ後ミガキやナデ 二次口縁部はハケメ	口縁部はハケメ後ナデ	一次・二次口縁の接合面は接着を強めるためにハケメを施している。
60 6	02049	Ⅱ	E	26	SL−01	流れ②−1 砂層①	弥生土器	高坏	4.00				黄褐色	黄褐色	2mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	脚部はハケメ	脚部はナデ	脚部と脚頂部に穿孔。
60 7	02048	Ⅱ	F	28	SL−01	流れ 砂層中	弥生土器	?	5.20	8.20		1.80	黄褐色	黄褐色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	脚部はハケメ後ナデ	脚部はナデ 脚頂部はナデ	脚頂部に径7ミリの穿孔。
60 8	02047	Ⅱ	H	27	SL−01	流れ 西岸 黒色粘質土2面	弥生土器	器台	3.90			4.40	黄灰色	黄灰色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	全面工具ナデ、ナデ	端部は工具ナデ、ナデ 奥は未調整	脚頂部はナデ?(凹凸あり)。
60 9	02040	Ⅱ	N−R	24～22	SL−01	東端部 流れ 木材の下 砂層①中	須恵器	坏蓋	5.50	(13.20)			灰色	明灰色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む		体部は回転ナデ 天井部は回転ヘラ削り	体部は回転ナデ 底部は回転ナデ後タタキ?	
63 1	01994	Ⅱ	G	28	SJ−01	(図面取り上げ)	弥生土器	甕					黒灰色	黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	胴部にハケメ後口縁部に横ナデ	胴部はナデ(圧痕残る) 口縁部はハケメ	復元口径:22cm程度。外面頸部に沈線廻る。
63 2	01985	Ⅱ	I	31	SJ−01		古式土師器	甕(A系)	20.30	16.00	19.10				3mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	全面ハケメ	胴部はナデ 口縁部～頸部下はハケメ	外面全体に煤、内面にもコゲ付着。成・整形時の凹凸が目立つ。
63 3	02003	Ⅱ	G	29	SJ−01		古式土師器	甕(A系)					明黄褐色	明黄褐色	1mm以下の石英・長石を少し、雲母・黒色粒をわずかに含む	良好	肩部に刻目突帯貼付後全面にハケメ	胴部はハケメ 頸部はナデ 口縁部はハケメ	口径:32cm程度。
63 4	02004	Ⅱ	G	29	SJ−01		古式土師器	甕(A系)					明黄褐色	明黄褐色	1mm以下の石英・長石を少し、赤褐色粒をわずかに含む	良好	全面にハケメ後頸部にナデ	全面ハケメ	口径:18cm程度。
63 5	01984	Ⅱ	I	31	SJ−01		古式土師器	甕(A系)	17.80	(15.00)	18.00				5mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	胴部は粗いハケメ(底部付近は細かいハケメ) 口縁部はナデ	胴部は細かいハケメ 口縁部は粗いハケメ	底部は尖り気味の丸底か。内面底部にコゲが付着 外面所々に煤。器形が歪む。
63 6	01992	Ⅱ	G	28	SJ−01	01·02	古式土師器	甕(A系)	13.90	(14.80)	(18.20)		灰褐色	灰褐色	1mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	胴部は粗細両方のハケメ 口縁部は横ナデ	胴部はハケメ後ハケメに近い工具ナデ 口縁部は横ナデ	C·D系の影響。
63 7	01565	Ⅱ	H	28	SJ−01	(図面取り上げ)	古式土師器	甕(B系)	17.30	16.30	17.20		黄褐色	黄褐色	3mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	太筋タタキ後胴部はハケメ、底部はナデ 口縁部はナデ	胴部はハケメ 底部と口縁部はナデ	尖り気味の丸底。胴部内面に接合痕が目立つ。
63 8	01990	Ⅱ	G	28	SJ−01		古式土師器	甕(B系)	17.80	(8.50)	(20.40)		明黄褐色	淡橙褐色	2mm以下の石英・長石・赤褐色粒を少し、雲母をわずかに含む	良好	胴部は太筋タタキ後部分ハケメ 口縁部はナデ	胴部はケズリ 頸部下にハケメ残る 口縁部はハケメ・ナデ	
63 9	02005	Ⅱ	G	29	SJ−01		古式土師器	甕(B系)	14.20	14.80	17.80		黄白色	黄白色	3mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	胴部は太筋タタキ後下半ハケメ 口縁部はナデ 頸部にハケメ痕	胴部はケズリ 口縁部～頸部はナデ(一部ハケメ痕残る)	外面全体に煤付着。
63 10	01991	Ⅱ	G	28	SJ−01		古式土師器	甕(B系)	12.20	13.40	(17.00)		白褐色	白褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母·赤褐色·黒色粒をわずかに含む	良好	胴部は太筋タタキ後部分ハケメ 口縁部～頸部は横ナデ	胴部はケズリ 頸部下にハケメ残る 口縁部は横ナデ	C·D系技法の強い影響か。
63 11	01993	Ⅱ	G	28	SJ−01		古式土師器	二重口縁甕(山陰系?)	4.80	(13.00)			明黄褐色	明黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部～頸部は横ナデ	胴部はケズリ 口縁部～頸部は横ナデ	
63 12	02010	Ⅱ	G	29	SJ−01	北側	古式土師器	二重口縁甕?					明黄褐色	明黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部～頸部はナデ	頸部下はケズリ 口縁部～頸部はナデ	頸部外面の列点文が全周する?
63 13	01958	Ⅱ	H	27	SJ−01	下	古式土師器	二重口縁甕(山陰系)	15.30	16.90	(21.60)			明黄灰色	5mm以下の石英・長石をやや多く含み、赤褐色粒、雲母をわずかに含む	良好	胴部はハケメ 口縁部～肩部に横ナデ	胴部にケズリ 口縁部～頸部に横ナデ	肩部に櫛描波状文が廻る。胴部外面中位に煤付着。
64 14	01970	Ⅱ	H	27	SJ−01	下	古式土師器	甕(C系)	19.00	(15.60)	(18.50)		黄白色	暗黄灰色	3mm以下の石英・長石を少し含み、雲母をわずかに含む	良好	胴部は細密なタタキ後部分ハケメ 口縁部～肩部は横ナデ 底部はナデ	胴部はケズリ後底面に指頭圧痕 頸部下にナデ残る 口縁部は横ナデ	底部は少し尖り気味の丸底。器壁が極めて薄い。
64 15	01972	Ⅱ	H	27	SJ−01	下	古式土師器	甕(C系)	18.30	15.40	21.50		明黄褐色	明黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し含み、雲母をわずかに含む	良好	胴部は細密なタタキ後部分ハケメ 口縁部はハケメ後横ナデ	胴部はケズリ後頸部下に強いナデ 口縁部はハケメ後横ナデ	頸部内面に爪痕のようなものが一周する。
64 16	01974	Ⅱ	H	28	SJ−01	南壁中	古式土師器	甕(D系)	11.30	(17.00)	(20.80)		黄白色	黄灰色	4mm以下の石英・長石をやや多く含み、雲母をわずかに含む	良好	胴部はハケメ 口縁部～肩部は横ナデ	胴部はケズリ、上位に指オサエやナデ 口縁部は横ナデ	
64 17	01976	Ⅱ	H	28	SJ−01	南壁中	古式土師器	甕(D系)	17.60	17.60	(22.40)		黄白色		2mm以下の石英・長石を少し含み、雲母をわずかに含む	良好	胴部はハケメ 口縁部～肩部は横ナデ	頸部下の指オサエ後胴部ケズリそして口縁～頸部下に横ナデ	胴部外面中位に煤付着。
64 18	02006	Ⅱ	G	29	SJ−01	下位	古式土師器	甕(D系)		14.60			明黄褐色	明黄褐色	1mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	肩部はナデ 口縁部～頸部は横ナデ	胴部はケズリ 頸部はナデ 口縁部は横ナデ	肩部に ハ字形ハケメ列点文が廻る。
64 19	01971	Ⅱ	H	27	SJ−01	下	古式土師器	甕(D系)	17.50	17.00	(22.00)		黄白色	黄灰色·明灰色	4mm以下の石英・長石を少し含み、雲母·赤褐色粒をわずかに含む	良好	胴部はハケメ後下半に若干工具ナデ 口縁部?頸部は横ナデ	胴部はケズリ 口縁部～頸部は横ナデ	肩部にハケメ列点文が廻る。胴部外面に煤付着。
64 20	02007	Ⅱ	G	29	SJ−01		古式土師器	甕(D系)	13.20	(8.00)	(20.80)		明灰色	黄灰色	1mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	胴部はハケメ 口縁部は横ナデ	胴部はケズリ 口縁部は横ナデ	肩部に列点文が廻る。
64 21	01975	Ⅱ	H	28	SJ−01	南壁中	古式土師器	甕(D系)	20.80	18.60	247.00		明黄褐色	明黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し含み、雲母·赤褐色粒をわずかに含む	良好	胴部は縦ハケメ後一部横ハケメ 口縁部～肩部は横ナデ	胴部はケズリ 口縁部?胴部上位に横ナデ	頸部下に縦じわ(しぼり!?)や指押えあり。胴部内面にコゲあり。
64 22	02028	Ⅱ	H	28	SJ−01	④	古式土師器	甕(D系)	17.80	(18.00)	(24.00)		明黄褐色	暗灰色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	胴部はハケメ 口縁部はナデ、指オサエ	胴部はケズリ 頸部下に指オサエ 口縁部はナデ	胴部外面中位に煤付着。
65 23	01891	Ⅱ	I	28	SJ−01		古式土師器	二重口縁壷(B系)	29.50	(30.00)	60.00		白褐色	白褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	胴部はハケメ 肩部はハケメ、ナデ所々ミガキ 口縁部は横ミガキや横ナデ	胴部はハケメ 口縁部～頸部は横ナデ	口縁部外面に橙色の、内面に黒色の付着物がそれぞれ1ヶ所ずつある。
65 24	02030	Ⅱ	H	28	SJ−01	26	古式土師器	二重口縁壷(B系)	7.90	(20.00)			黄褐色	黄褐色	2mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	頸部～口縁部はナデ(頸部にハケメ痕)	口縁部～頸部はハケメ後ナデ	口縁端部は部分的に粘土を継ぎ足している。口縁部内面に煤状黒色付着物。
65 25	01709	Ⅱ	G	28	SJ−01	(図面取り上げ)	古式土師器	二重口縁壷(B系)					暗褐色～白褐色	暗褐色～白褐色	径1mm程の長石、小片の雲母を多めに含む	良好	二次口縁部は縦ミガキ後ヘラ描線刻文様と円形凸文貼付	二次口縁部は工具ナデ? 一次口縁との接合部はナデ付け	馬鐸の横で出土(出土状況の写真あり)。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器 下段:土製品〉												
							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・脚部・高台径	色調		胎土	焼成	調整		備考
挿図番号							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
65 26	02033	Ⅱ	H	28	SJ−01	(図面取り上げ)	古式土師器	二重口縁壷(B系)	51.40	(25.40)	49.20		明黄褐色	明黄褐色	5mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部〜胴部はハケメ後底部付近にケズリに近いナデ 口縁端部はナデ	胴部外面中位に黒斑2つ 胴部内面に接合痕あり	
65 27	02031	Ⅱ	H	28	SJ−01	②	古式土師器	二重口縁壷(B系)	8.20	(22.40)			黄橙色	黄橙色	3mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	頸部はハケメ 一次〜二次口縁部はナデ	頸部はナデ 一次〜二次口縁部はまばらな横ミガキ	口縁部内面に黒斑。
65 28	01964	Ⅱ	H	27	SJ−01	下	古式土師器	二重口縁壷(B系)		(23.60)			黄褐色	黄褐色	3mm以下の石英・長石を少し含み、雲母をわずかに含む	良好	一次口縁部はナデ 二次口縁部はハケメ 端部は横ナデ	二次口縁部はハケメ 一次口縁との接合部はナデ付け	口縁端部外面の一部に黒斑あり。
65 29	01996	Ⅱ	G	28	SJ−01	(図面取り上げ)	古式土師器	二重口縁壷(B系)		(30.00)			黄白色〜淡橙白色	黄白色〜淡橙白色	2mm以下の石英・長石を少し含む	良好	一次口縁部はナデ 二次口縁部はハケメ	頸部はナデ 口縁部はハケメ	二次口縁部が接合面で割れている。
65 30	02032	Ⅱ	G・H	28	SJ−01	⑥	古式土師器	壷(B系)	22.80	(17.00)	20.00		明黄褐色	明黄褐色	4mm以下の石英・長石・赤褐色粒を少し含む	良好	胴部は太筋タタキ後縦ナデ 口縁部はナデ	胴部は粗いケズリ、底部はナデ 口縁部〜胴上位はナデ、指オサエ	内面のケズリは棒やヘラ状工具の先端、指などで削ったような痕跡で、ケズリの単位が不明瞭。
67 31	02029	Ⅱ	H	28	SJ−01	15	古式土師器	壷(B系)	17.80	(15.00)	(25.00)		明黄褐色〜明黄灰色	黄灰色〜灰色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	胴部は細かいハケメ後粗いハケメ 口縁部はナデ後粗いハケメ	胴部はハケメ 頸部下は指オサエ、ナデ 口縁部はナデ	胴部内面のハケメを頸部下の接合痕が切る。B系の成形法が判る資料。
67 32	01961	Ⅱ	H	27	SJ−01	下	古式土師器	壷(B系)	14.60	16.90			淡赤褐色	暗黄褐色	4mm以下の石英・長石粒を少し含み、雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好	胴部は縦ハケメ後雑な部分ハケメ 口縁端部はナデ	胴部はハケメ 口縁部はハケメ後ナデ	若干右上がりの粘土紐接合痕が内面(外面にも少し)にはっきり残っている。内外器表面がクレーター状にはじけている。
67 33	01987	Ⅱ	I	31	SJ−01		古式土師器	壷(B系)	15.30		(27.00)		黄褐色、所々橙色	黄褐色、所々橙色	5mm以下の石英・長石をやや多く、雲母・赤褐色をわずかに含む	良好	胴部はハケメ 口縁部はナデ 最後に頸部の突帯貼付のナデ	胴部はハケメ 口縁部〜頸部下はナデ	胴部内面に接合痕あり。
67 34	01977	Ⅱ	H	28	SJ−01	南壁中	古式土師器	壷(B系)	15.50		(34.00)		明黄褐色	明黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し含み、雲母・黒色に光る鉱物をわずかに含む	良好	胴部はハケメ後上半にミガキ	胴部はハケメ 口縁部はハケメ後ナデ	胴部内面の中位以下にコゲ?付着。上位に接合痕。
67 35	01997	Ⅱ	G	28	SJ−01	25	古式土師器	壷(B系)	9.60	(12.50)			明黄褐色〜淡橙褐色	明黄褐色〜淡橙褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	胴部はタタキ後縦ハケメ	胴部中位はナデに近いケズリ、上位はナデ	復元頸部径:10.2cm。肩部下に接合痕あり。
67 36	01986	Ⅱ	I	31	SJ−01		古式土師器	壷(B系)	26.30		(29.00)		明黄褐色〜橙褐色	明黄褐色〜橙褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好	胴部はハケメ後ミガキさらに下位にケズリのようなミガキ 口縁部は横ナデ、一部横ミガキ	胴部はケズリ 上位はナデ後ケズリ 口縁部はハケメ後横ナデ	所々に煤のような黒い付着物あり。
67 37	02009	Ⅱ	G	29	SJ−01		古式土師器	壷(A系)	18.60		(28.20)	6.00	黄褐色	黄褐色	6mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	胴部中位はハケメ、下位はナデ	胴部はハケメ 底部はナデ	胴部外面中位に煤、内面底部に炭化物が付着。
67 38	01560	Ⅱ	H	28	SJ−01	(図面取り上げ)	古式土師器	壷(A系)	28.20	16.60	26.00	6.00	橙褐色〜黄褐色	橙褐色〜黄褐色	5mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	胴部はハケメ後下半にナデ 口縁部は縦ハケメ後端部にナデ	胴部はハケメ(底部にナデ残る) 口縁部はナデ	底部は若干丸みを帯びた平底。胴部外面下半に煤付着。
69 39	01960	Ⅱ	H	27	SJ−01	下	古式土師器	壷	21.70	14.20	19.80		明黄褐色、所々明赤褐色	明黄褐色、所々明赤褐色	5mm以下の石英・長石を少し含み、雲母をわずかに含む	良好	全面ハケメ後口縁部横ナデ	胴部は(ハケメ後)工具ナデ 口縁部は横ナデ	外面に比べ内面は多くの砂粒が動いている。
69 40	01999	Ⅱ	G	28	SJ−01		古式土師器	外反口縁鉢(C系)	6.90	11.90	11.00		明黄褐色	明黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	ハケメ後まばらな横ミガキ 底部はケズリ	胴部はナデ 口縁部はハケメやナデ	
69 41	01427	Ⅱ	G	28	SJ−01	04	古式土師器	外反口縁鉢(C系)	6.10	(12.00)	10.00		明黄褐色、灰褐色	明黄褐色、灰褐色	1mm以下の石英・長石をわずかに含む	良好	口縁部〜胴部上半は縦ハケメ 胴部下半はケズリ	胴部はナデ 口縁部は横ハケメ	外面のハケメ調整部分に煤状の黒色付着物が廻る。
69 42	01434	Ⅱ	H	28	SJ−01	11	古式土師器	小型丸底壷(C系)	8.30	10.00	11.00		黄褐色	黄褐色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	胴部は下半がケズリに近いナデ、上半がハケメ後横ミガキ 口縁部はナデ	全面ナデ	
69 43	01982	Ⅱ	I	28	SJ−01		古式土師器	小型丸底壷(C系)	7.30	9.00	9.90		明黄褐色	明黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	まず胴部上半にハケメ その後胴部は横ミガキ 口縁部は横ナデ、横ミガキ	胴部は下半に工具ナデ、上半にナデ 口縁部は横ミガキ	外面は磨滅。内外器表面はクレーター状にはじけとんでいる。
69 44	02011	Ⅱ	G	29	SJ−01		古式土師器	外反口縁鉢(C系)	5.60	16.00			明黄褐色	明黄褐色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	全面ナデ?	胴部はナデ、底部は指オサエ 口縁部はハケメ	久住Ⅲ類・重藤鉢3式。
69 45	02012	Ⅱ	G	29	SJ−01	下位	古式土師器	小型丸底壷(C系)	3.80		8.00		明黄褐色	明黄褐色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	胴部は雑な横ミガキ 頸部はナデ(ハケメ痕あり)	胴部はナデ、工具ナデ 口縁部はナデ	
69 46	02038	Ⅱ	H	28	SJ−01	③	古式土師器	脚付小型丸底壷(C系)	8.40	(10.00)	(10.80)		赤橙色		1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	ハケメ後まばらな横ミガキ	胴部はナデ 口縁部は横ハケメ 脚部はナデ	久住0類・重藤鉢1式。
69 47	02013	Ⅱ	G	29	SJ−01		古式土師器	高台付鉢	6.30	8.00	8.40	4.00	黄褐色	黄褐色	3mm以下の石英・長石をやや多く、雲母をわずかに含む	良好	胴部はナデ後ハケメ 口縁部はナデ	全面ナデ	
69 48	02017	Ⅱ	G	29	SJ−01		古式土師器	低脚付鉢	5.30			9.20	明黄褐色	明黄褐色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	脚部〜鉢部はナデ	脚部はナデ 鉢部は暗文風ミガキ	
69 49	02001	Ⅱ	G	28	SJ−01	25	古式土師器	低脚付鉢(B系)	3.70			9.00	明黄褐色	明黄褐色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	脚部〜鉢部はナデ	脚部はすだれ状螺旋ハケメ 鉢部はハケメ、ナデ	
69 50	01959	Ⅱ	H	27	SJ−01	下	古式土師器	小型壷	12.10	10.50	13.80		明赤褐色・明黄褐色・暗褐色〜黒色のスス	明黄褐色	5mm以下の石英・長石を少し含み、雲母をわずかに含む	良好	全面粗いハケメ	胴部は工具ナデ 口縁部〜頸部はハケメ	外面全体の5分の2を煤が覆う。
69 51	01998	Ⅱ	G	28	SJ−01		古式土師器	小型壷	13.00	11.90	13.20		明橙褐色	明橙褐色	2mm以下の石英・長石を少し、赤褐色粒をわずかに含む	良好	全面ハケメ	胴部はナデ 口縁部はハケメ	胴部外面下半に煤付着。
69 52	00755	Ⅱ	G	29	SJ−01		古式土師器	長頸壷(C系)	9.00		10.40		明黄褐色	明黄褐色	2mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	全面ナデ?(磨滅による)	全面ナデ	胴部外面下位に黒色付着物が廻る。
69 53	02034	Ⅱ	H	28	SJ−01	26	古式土師器	長頸壷(C系)	10.30	(7.00)			明黄褐色〜明橙色	明黄褐色〜明橙色	1mm以下の石英・長石・赤褐色粒・雲母をわずかに含む	良好	長頸部はナデ	長頸部はナデ	外面色調。
69 54	02008	Ⅱ	G	29	SJ−01		古式土師器	長頸壷(C系)	11.30	12.20			明黄褐色〜明橙褐色	明黄褐色〜明橙褐色	1mm以下の石英・長石・雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好	胴部上半はナデ? 長頸部はハケメ後横ナデ	胴部上半はナデ 長頸部は暗文風のミガキ	頸部外面に沈線。長頸部内面に黒斑。
69 55	01978	Ⅱ	H	27	SJ−01	下	古式土師器	長頸壷(C系)	6.30	(6.30)			明黄褐色	明黄褐色	3mm以下の石英・長石を少し、雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好	長頸部はナデ	長頸部はナデ	長頸部外面に櫛描波状文あり。
69 56	02000	Ⅱ	G	28	SJ−01		古式土師器	二重口縁長頸壷(山陰系)					淡橙褐色	淡橙褐色	1mm以下の石英・長石を少し、雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好	長頸部は横ナデ	長頸部は横ナデ	口径:11cm程度。
69 57	00691	Ⅱ	I	33	SJ−01		弥生土器	器台	15.10	8.40		10.80	茶褐色〜橙褐色	茶褐色〜橙褐色	1mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	全面縦ハケメ後受部・脚部の端部にナデ	柱部は指ナデ 受部と脚部はハケメ	
69 58	02037	Ⅱ	H	28	SJ−01	30	古式土師器	小型器台(C系)		10.00			明黄褐色	明黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好	受部は横ミガキ 立ち上がりはナデ	受部はハケメ(後ミガキ?) 立ち上がりはナデ	受部内面底はクレーター状に器表面が弾け飛ぶ。

土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器　下段:土製品〉

報告書挿図番号	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	器種 様式など	器種	器高 長さ	口・器受部径 幅	最大径 厚さ	底・脚裾・高台径 孔径	色調 外面色調	色調 内面色調	胎土	焼成	調整 外面調整	調整 内面調整	備考
69 59	02016	Ⅱ	G	29	SJ−01	下位	古式土師器	椀	5.40	10.10		4.30	明黄褐色	明黄褐色	5mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	体部はハケメ後ナデ　底部はナデ	全面ハケメ後ナデ	底部は平底(粘土貼付)。
69 60	01988	Ⅱ	I	31	SJ−01		古式土師器	椀	5.70	(14.40)		(5.00)	黄褐色、一部橙色	黄褐色、一部橙色	3mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	底部はケズリのようなナデ　体部はナデ	全面工具ナデ	内面に黒斑あり。
69 61	02015	Ⅱ	G	29	SJ−01		古式土師器	椀	6.50	6.00			黄褐色	黄褐色	3mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	体部はハケメ　底部はナデ	ナデ　端部はハケメ	平底に近い丸底(薄く粘土を貼付)。
69 62	01966	Ⅱ	H	27	SJ−01		古式土師器	椀	5.90	9.90		3.90	黄褐色	黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し含み、雲母をわずかに含む	良好	全面ナデ	全面(工具?)ナデ	底部外面に草の痕跡らしきものあり。底部外面に黒斑、内面に工具痕。
69 63	01562	Ⅱ	H	28	SJ−01	(図面取り上げ)	古式土師器	椀	(6.30)	15.00			黄灰色	黄灰色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	全面ハケメ後ナデ、指オサエ	体部下半はナデ、上半はハケメ	内面は大半が黒斑。
69 64	02014	Ⅱ	G	29	SJ−01		古式土師器	椀	6.10	11.20	11.40	4.00	明橙褐色	明橙褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	全面ナデ	全面ナデ	底部は平底(薄く粘土貼付?)。
69 65	01973	Ⅱ	H	27	SJ−01	東(下の砂層)	手づくね土器	椀	2.30	5.90			明黄褐色	明黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し含み、雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好	全面指ナデ	全面平滑なナデ	端部に切り込みを作ってナデ仕上げする。
69 66	01965	Ⅱ	H	27	SJ−01	下	古式土師器	椀	5.40	11.00		4.30	黄白色	黄白色	2mm以下の石英・長石・雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好	椀部はナデ、指オサエ後端部は横ナデ　底部は指ナデ	底部に工具ナデ後全面横ナデ	外面には凹凸が目立つ。
69 67	01967	Ⅱ	H	27	SJ−01	下	古式土師器	椀	5.60	9.80			明黄褐色	黄灰色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	全面ナデ	全面ナデ	外面はやや凹凸、内面は平滑。端部は不整形な面取り。端部は緩しわ状凹み多い。
69 68	01428	Ⅱ	G	28	SJ−01	05	古式土師器	椀(B系)	5.30	(11.20)			黄褐色～灰褐色	黄褐色～灰褐色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	全面に粗いハケメ	全面に工具ナデ　端部はナデ	外面に黒斑。
69 69	02002	Ⅱ	G	28	SJ−01	(図面取り上げ)	古式土師器	椀(B系)	5.80	12.00			黄褐色	黄褐色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	全面ナデ(底部はケズリに近い)	全面に反時計回りのすだれ状螺旋ハケメ	両面に黒斑。
70 70	01983	Ⅱ	I	28	SJ−01		古式土師器	高坏(B系)	8.10	26.10			明黄褐色	明黄褐色	2mm以下の石英・長石・雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好	坏部全体にハケメ後横ナデそして暗文風ミガキ	坏部全体にハケメ後横ナデそして暗文風ミガキ	
70 71	02018	Ⅱ	G	29	SJ−01	下位	古式土師器	高坏(B系)	15.60	21.00		15.00	明橙褐色	明橙褐色	6mm以下の石英・長石を少し、雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好	脚部はハケメ　坏下半はナデ　坏上半はハケメ後端部にナデ	脚部はハケメ後奥や端部にナデ　坏底部はナデ　坏上半はハケメ後端部にナデ	
70 72	02019	Ⅱ	G	29	SJ−01		古式土師器	高坏(B系)	12.70	21.00			明黄褐色	明黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	脚裾部はハケメ　坏部はハケメ後下半に所々ミガキ	坏部はナデもしくはミガキ　端部にハケメ残る	脚裾部外面から4ケ所穿孔。内外器表面はクレーター状に弾け飛ぶ。
70 73	01429	Ⅱ	H	28	SJ−01	⑥	古式土師器	高坏(B系)	9.00			11.50	明黄褐色～明橙褐色	明黄褐色～明橙褐色	2mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	脚裾部は縦ハケメ、端部はナデ　脚柱部はナデ　坏部はミガキ	脚裾部はハケメ、端部はナデ　坏部はナデ?(磨滅)	脚裾部外面から焼成前に4ケ所穿孔。坏・脚の接合部に工具痕。
70 74	02036	Ⅱ	G	28	SJ−01	(図面取り上げ)	古式土師器	高坏(B系)	11.20	(18.00)			赤橙色	赤橙色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好	坏部はハケメ?(全面磨滅)	脚裾部はナデ?(磨滅)　坏底部はナデ　坏上半はハケメ後ミガキ	脚裾部外面から4ケ所穿孔。
70 75	02027	Ⅱ	G	29	SJ−01	最下層	古式土師器	高坏(B系)	6.50			13.40	黄褐色	黄褐色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	脚裾部はハケメやナデ	脚裾部はナデ	脚裾部外面から焼成前に3ケ所穿孔。脚裾・脚柱の接合面残る。
70 76	01963	Ⅱ	H	27	SJ−01	下	古式土師器	高坏(B系)	9.80			(15.20)	淡橙色	淡橙色	3mm以下の石英・長石・赤紫粒をやや多く含み、赤褐色粒をわずかに含む	良好	脚部はハケメ	脚部はシボリ痕の上からナデ	脚裾部外面から焼成後に穿孔。脚柱部に沈線が3分の2周する。脚裾端に黒斑。
70 77	01962	Ⅱ	H	27	SJ−01	下	古式土師器	高坏(C系)	7.30	(21.20)			淡橙色	淡橙色	2mm以下の石英・長石粒をわずかに含む	良好	坏部はハケメ	坏部上半にハケメ後坏全体にナデ	
70 78	02022	Ⅱ	G	29	SJ−01		古式土師器	高坏(C系)	11.00			(13.60)	明黄褐色	明黄褐色	1mm以下の石英・長石・雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好	脚部は磨滅して不明　坏部はハケメもしくはミガキ	脚部は磨滅して不明　坏部はハケメ後放射状ミガキ	脚裾部外面から4ケ所穿孔。脚柱部内面にシボリ痕?
70 79	02025	Ⅱ	G	29	SJ−01	下位	古式土師器	高坏(B系)	7.50	14.20		7.50	黄褐色	黄褐色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	脚部はハケメ　坏部はナデ	脚部はハケメ後奥や端部にナデ　坏底部は充填後放射状ハケメ　坏部は反時計回りのすだれ状らせんハケメ	坏・脚部外面端部に黒斑。
70 80	02024	Ⅱ	G	29	SJ−01	下位	古式土師器	高坏(B系)	7.70	15.00		10.60	明黄褐色	明黄褐色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	脚部はナデ　坏部はハケメ	脚部はすだれ状螺旋ハケメ後端部にナデ　坏部はハケメ	坏部外面に黒斑。
70 81	02035	Ⅱ	H	28	SJ−01	26	古式土師器	高坏					黄褐色	黄褐色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	坏部はハケメ後細密横ミガキ	坏部はハケメ後下半にミガキ、上半にナデ	
70 82	02026	Ⅱ	G	29	SJ−01		古式土師器	高坏					明黄褐色	明黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好	坏部はナデ	坏部はナデ	坏部に櫛描波状文が廻る。
70 83	02020	Ⅱ	G	29	SJ−01		古式土師器	高坏(D系)	12.20	(22.00)			黄橙色	黄橙色	1mm以下の石英・長石・雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好	坏・脚ともハケメ後横ナデやミガキ	脚部はナデ　坏底部はハケメ後ミガキ(それ以外は磨滅して不明)	
70 84	02021	Ⅱ	G	29	SJ−01		古式土師器	高坏(D系)	12.80	(22.00)			明黄褐色	明黄褐色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	脚部はハケメ後細密横ミガキ　坏部は(ハケメ後)横ミガキ　端部はナデ	脚柱部はナデ　坏部はハケメ	
70 85	02023	Ⅱ	G	29	SJ−01		古式土師器	高坏(D系)	6.80		12.20		黄橙色	黄橙色	2mm以下の石英・長石・雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好	磨滅により不明	磨滅により不明	脚裾屈曲部に2ケ所穿孔。脚頂部凸面付加法の痕跡残る。
71 86	02039	Ⅱ	H	28	SJ−01	⑤	古式土師器	鉢	20.40		(17.20)		明黄褐色	明黄褐色	5mm以下の石英・長石をやや多く、雲母・黒色粒をわずかに含む	良好	胴部はハケメ　下半はケズリ?　口縁部～頸部は横ナデ	胴部下半はナデ?　上半はハケメ　口縁部はナデ?	両面とも磨滅。
71 87	01968	Ⅱ	H	27	SJ−01	下	古式土師器	鉢	13.70		24.80		明黄褐色	明黄褐色	4mm以下の石英・長石を少し含み、雲母をわずかに含む	良好	胴部はハケメ後部分的にナデ	胴部はハケメ後まばらなナデ	割れ部分はほぼ同じ高さで揃い、断面も平滑。打ち欠いたか、あるいは粘土紐接合部できれいに割れたためか。　蓋として用いた可能性もある。　胴下半に黒斑。
71 88	01969	Ⅱ	H	27	SJ−01	下	古式土師器	鉢あるいは有孔鉢(B系?)	13.40	(27.00)			淡橙色～明黄褐色	淡橙色～明黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し含み、赤褐色粒・雲母をわずかに含む	良好	体部はハケメ後上半にナデ　端部は横ナデ	体部はハケメ　端部は横ナデ	体部外面下半は所々器表面が弾け飛んでいる。
71 89	01989	Ⅱ	I	31	SJ−01		古式土師器	有孔鉢(B系)	9.20	19.40			明黄褐色	明黄褐色	3mm以下の石英・長石を少し、雲母・赤褐色をわずかに含む	良好	ケズリ後ナデ　端部は横ナデ	ハケメ後上半に工具ナデ　端部は横ナデ	底部にシャープな穿孔。
71 90	01981	Ⅱ	I	28	SJ−01		弥生土器	壷	13.00		(14.00)	5.20	明黄褐色	明黄褐色	1mm以下の赤褐色粒を少し、石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	全面ヘラミガキ	底部はナデ　胴部は工具ナデ後ナデ　頸部との境は強いナデ　頸部ミガキ	胴部外面に黒斑。板付Ⅰ式。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器 下段:土製品〉												
挿図番号							器種		器高	口器受部径	最大径	底器縁高台径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
71 91	01979	Ⅱ	I	28	SJ−01		弥生土器	壷	10.90		12.40	5.00	明黄褐色、一部暗褐色	明黄褐色、一部暗褐色	2mm以下の赤褐色粒を少し、雲母・長石・石英をわずかに含む	良好	全面ヘラミガキ	底部はナデ 胴部は工具ナデ後ナデ 頸部はハケメ	板付Ⅰ式。
71 92	01980	Ⅱ	I	28	SJ−01		弥生土器	壷	9.10		13.80	5.50	明黄褐色	明黄褐色	1mm以下の石英・長石・雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好	全面ヘラミガキ	底部はナデ 胴部は工具ナデ	板付Ⅰ式。
71 93	01995	Ⅱ	G	28	SJ−01	(図面取り上げ)	弥生土器	壷	2.90			2.60	黄褐色	黄褐色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	ナデ	ナデ	
71 94	01097	Ⅱ	G	29	SJ−01	下位	土製品	土錘					暗灰色		1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好			
78 1	02050	Ⅲ	F	30·00	第Ⅲ面遺構検出面		弥生土器	甕	26.20	22.00		8.20	黄褐色	黄褐色	3mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ 体部は左斜行ハケ目	粗い左斜行ハケ目	
78 2	01252	Ⅲ	G	33	第Ⅲ面遺構検出面	図面取り上げ	古式土師器	二重口縁壷(B系かC系)	14.30		16.80		黄橙色	黄橙色	2mm以下の石英・長石・赤褐色粒をわずかに含む	良好	胴部はナデ(上半には沈線状の工具痕あり) 口頸部はナデ	胴部はナデ?(一部に沈線状の工具痕あり) 口頸部はナデ	胴部外面下半に黒斑。
78 3	02046	Ⅲ	H	27	第Ⅲ面遺構検出面	流れ 西岸 黒色粘質土2面	?	?					黄褐色	黄褐色	3mm以下の石英・長石をわずかに含む	良好			
78 4	02055	Ⅲ	I	29	第Ⅲ面遺構検出面	黒色粘土層1面	土製品	投弾	3.70	2.00			明黄褐色		1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好			
78 26	02054	Ⅲ	I	32	第Ⅲ面遺構検出面	黒色粘土層 調査面No.2	土製品	土玉	2.05		1.75		灰色		1mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好			
78 27	02053	Ⅲ	I	32	第Ⅲ面遺構検出面	黒色粘土層 調査面No.2	土製品	玉	3.60	3.40	2.70		黄褐色		1mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好			
83 6	02056	Ⅲ	E	31	SL−02	4区北角 遺構検出面 砂層下1面	土製品	?			2.10	2.00	黄褐色		1mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	ナデ	ナデ	
83 7	02052	Ⅲ	E	31	SL−02	砂層下 足面より下−1	弥生土器	甕					黄褐色	黄褐色	1mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ	横ナデ	口径:30cmほど。
83 8	02051	Ⅲ	G	33	SL−02	小枝の間 下	弥生土器	器台	9.60			12.50	黄褐色	黄褐色	3mm以下の石英・長石をやや多く、雲母をわずかに含む	良好	ナデ 押さえ	ナデ	
89 1	01936	Ⅲ	I	31	SB−03	SP−0804	弥生土器	壷	1.20	(28.20)			茶褐色	茶褐色	径1mm程の砂粒を多く含む	良好	口縁部は横ナデ	横ナデ	
89 2	01937	Ⅲ	H	31	SB−03	SP−0819	弥生土器	壷	3.40	(37.00)			赤褐色	赤褐色	径1mm程の砂粒を多く含む	良好	口縁部は横ナデ	横ナデ	
89 3	01123	Ⅲ	I	31·32	SB−03	SP−0841	弥生土器	甕	2.10	(36.40)			赤褐色	赤褐色	径2mm程の砂粒を多く含む	良好	口縁部は横ナデ	横ナデ	
89 4	01939	Ⅲ	I	32	SB−03	SP−0841	弥生土器	甕	2.00				白褐色・黒褐色	白褐色・黒褐色	径2mm程の砂粒を多く含む	良好	口縁部は横ナデ	横ナデ	
89 5	01942	Ⅲ	I	31	SB−03	SP−0892	弥生土器	甕	3.00				赤褐色	赤褐色	径2mm程の砂粒を多く含む	良好	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	横ナデ	
95 1	01912	Ⅲ	H	29	SB−06	SP−0691	弥生土器	甕	2.10	(28.60)			赤褐色	赤褐色	径〜2mm程の砂粒を多く含む	良好	口縁部は横ナデ 体部はナデ	ナデ	
95 2	01911	Ⅲ	H	29	SB−06	SP−0691	弥生土器	甕	2.60	(29.20)			白赤褐色	白赤褐色	径〜3mm程の砂粒を多く含む	良好	口縁部は横ナデ	横ナデ	
95 3	01954	Ⅲ	H	28	SB−06	SP−1065	古式土師器	甕(D系)	3.00	(15.20)			灰褐色	白褐色	径1mm程の砂粒を含む	良好	口縁部〜頸部は横ナデ	胴部はケズリ 口縁部は横ナデ	
100 1	01938	Ⅲ	H	31	SB−07	SP−0823	弥生土器	甕	4.40				黒褐色	白褐色	径1mm程の砂粒を含む	良好	横ナデ	ナデ	
100 2	01950	Ⅲ	H	31	SB−07	SP−1029	弥生土器	甕	1.60				暗褐色	赤褐色	径1mm程の砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	
105 1	01944	Ⅲ	F	32	SB−13	SP−0980	弥生土器	甕	2.50	(19.00)			黒褐色	白褐色	径1mm程の砂粒を多く含む	良好	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	横ナデ	
105 2	01946	Ⅲ	G	32	SB−13	SP−0992	弥生土器	甕	1.80				暗褐色	暗褐色	径2mm程の砂粒を多く含む	良好	口縁部は横ナデ	横ナデ	
105 3	01948	Ⅲ	G	33	SB−13	SP−0999	弥生土器	甕	1.90				白褐色	赤褐色	径2mm程の砂粒を含む	良好	口縁部は横ナデ	横ナデ	
105 4	01957	Ⅲ	H	33	SB−13	SP−1184	弥生土器	甕	2.70				赤褐色	赤褐色	径3mm程の砂粒を多く含む	良好	口縁部は横ナデ体部は縦ハケ目	横ナデ	
105 5	01945	Ⅲ	G	32	SB−13	SP−0992	弥生土器	甕	2.20				赤褐色	赤褐色	径1mm程の砂粒を多く含む	良好	口縁部は横ナデ	横ナデ	
105 6	01947	Ⅲ	G	33	SB−13	SP−0999	弥生土器	壷	3.70	(26.80)			赤褐色	白褐色	径1mm程の砂粒を多く含む	良好	口縁部は横ナデ 頸部は縦ミガキ 暗文風	ミガキ状	
109 1	01949	Ⅲ	H	33	SB−14	SP−1011	弥生土器	甕	2.80	(35.80)			白褐色	白褐色	径1mm程の砂粒を含む	良好	口縁部は横ナデ	横ナデ	
112 1	01951	Ⅲ	I	28	SB−15	SP−1031	弥生土器	甕	3.50				灰色〜黒灰色	灰色〜黒灰色	径1mm程の砂粒を多く含む	良好	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	口縁部は横ハケ目 下半はナデ	
115 1	01902	Ⅲ	M	31	SB−23	SP−0169	弥生土器	甕	2.30	(30.70)			褐色	褐色	径〜4mm程の砂粒を含む	良好	口縁部は横ナデ	横ナデ	
115 2	01904	Ⅲ	L	30	SB−23	SP−0400	弥生土器	甕	4.00	(25.60)			白褐色	白褐色	径〜4mm程の砂粒を含む	良好	口縁から突帯は横ナデ	ナデ	凸帯部復元径:22.8cm。
115 3	01905	Ⅲ	L	30	SB−23	SP−0400	弥生土器	甕	3.40	(23.80)			灰褐色	赤褐色	径〜3mm程の砂粒を含む	良好	口縁部は横ナデ 下半は縦ハケ目	ナデ	
115 4	01903	Ⅲ	M	31	SB−23	SP−0169	弥生土器	壷	1.80	(21.40)			灰褐色	黒褐色	径〜3mm程の砂粒を含む	良好	口縁部は横ナデ	ナデ	
115 5	01907	Ⅲ	L	30	SB−23	SP−0400	弥生土器	甕	1.60	(30.60)			暗褐色	暗褐色	径〜2mm程の砂粒を多く含む	良好	口縁部は横ナデ 上面はミガキ状	横ナデ	
115 6	01906	Ⅲ	L	30	SB−23	SP−0400	弥生土器	壷	2.20	(46.00)			赤褐色	灰褐色	径〜3mm程の砂粒を含む	良好	口縁部は横ナデ 下半は縦ハケ目	ナデ	
116 1	01811	Ⅲ	J	30	SB−25	SK−054	弥生土器	壷					やや赤味をおびた明橙色	やや赤味をおびた明橙色	2mmまでの砂粒を多く含む	普通	ナデ 文様	ナデ	
116 2	01812	Ⅲ	J	30	SB−25	SK−054	弥生土器	壷					浅橙色〜灰橙色	浅橙色〜灰橙色	精良	良好	横ミガキ 文様	横ミガキ	
124 1	00446	Ⅲ	H	23	SN−01	上棺	弥生土器	甕	25.50		(51.00)		黄褐色、一部橙色	黄褐色、一部橙色	3mm以下の石英・長石を少し、雲母・黒色粒をわずかに含む	良好	ハケメ後ミガキ	ナデ 指押え	
124 2	00445	Ⅲ	H	23	SN−01	下棺	弥生土器	甕	76.70	(59.80)	60.00	15.20	明黄褐色、所々明橙褐色	明黄褐色、所々明橙褐色	3mm以下の石英・長石をやや多く、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ 頸部はナデ 沈線下方は横ミガキ 底部はナデ	頸部はハケ目 胴部はナデ	
125 3	01894	Ⅲ	H	23	SN−01	下棺直下出土	弥生土器	壷					明黄褐色	明黄褐色	2mm以下の石英・長石をやや多く含み、雲母・黒色粒をわずかに含む	良好	横ナデ 口縁端部に刻み目	ナデ	
125 4	01895	Ⅲ	H	23	SN−01	南側出土	弥生土器	壷					ススけたような暗黄褐色	明黄褐色	2mm以下の石英・長石をやや多く、雲母・黒色粒をわずかに含む	良好	横ナデ 口縁端部に刻み目	ナデ	
125 5	01893	Ⅲ	H	23	SN−01	南側 墓坑内	弥生土器	甕	7.00			(7.00)	明黄褐色〜明橙褐色	明黄褐色〜明橙褐色	5mm以下の石英・長石をやや多く、雲母をわずかに含む	良好	縦ハケ目 外底はナデ	ナデ 炭化物付着	
125 6	01890	Ⅲ	H	23	SN−01	直下出土	弥生土器	甕	12.20	(53.40)			明黄褐色	明黄褐色	2mm以下の石英・長石粒をやや多く含み、雲母・黒色粒をわずかに含む	良好	ナデ	ハケ目	
130 1	00455	Ⅲ	H	23	SN−02	上棺(東棺)	弥生土器	鉢	28.50	44.80	9.80		明黄褐色〜淡橙褐色、一部暗黄褐色	明黄褐色〜淡橙褐色、一部暗黄褐色	3mm以下の石英・長石を少し、雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好	口縁から突帯までは横ナデ 体部は縦ハケ目 外底はナデ	ナデ	
130 2	00454	Ⅲ	H	23	SN−02	下棺(西棺)	弥生土器	壷	37.50		(48.00)	10.00			3mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	胴部上半は横ミガキ 底部付近は縦のミガキ	ナデ 上半に指押さえ	
133 1	00358	Ⅲ	H	23	SN−03	西棺	弥生土器	壷	25.70		40.00		黄褐色		3mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	胴部は横ミガキ 底部付近はハケ目の後に縦ミガキ	ナデ	

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器 下段:土製品〉											
挿図番号							器種		器高	口・器受部径	最大径	底脚部・高台径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
133 2	00359	Ⅲ	H	23	SN−03	東棺	弥生土器	壷	31.30		(45.60)	9.30	黄褐色	黒灰色	3mm以下の石英・長石をやや多く含み、雲母をわずかに含む	やや不良	横ミガキ 中位だけ左斜行のミガキ	ナデ 内底縁は指頭圧痕	
138 1	00831	Ⅲ	H	29	SN−04	上棺	弥生土器	壷	29.30		38.00	9.20	暗褐色〜黒褐色	黄褐色〜暗褐色	3mm以下の石英・長石をやや多く、雲母・黒色粒を多く含む	良好	胴部は全面ミガキ 横と斜行を繰りかえす	ナデ	
138 2	00832	Ⅲ	H	29	SN−04	下棺	弥生土器	甕	45.20	27.60	48.00	10.40	黄褐色〜暗褐色	黄褐色〜暗褐色	3mm以下の石英・長石を少し、雲母・黒色粒・赤褐色粒をわずかに含む	良好	胴部はハケ目後ミガキ 頸部は縦ミガキ	胴部はナデ 頸部は横ミガキ	
140 1	01892	Ⅲ	I	33	SH−01		弥生土器	甕					暗褐色	橙褐色	2mm以下の石英・長石をやや多く、雲母をわずかに含む	良好	横ナデ	横ナデ	
146 1	01782	Ⅲ	I	33	SK−003		弥生土器	器台	13.70			7.50	明橙色(浅橙色)〜灰白色	明橙色(浅橙色)〜灰白色	1〜4mmまでの砂粒を比較的多く含む。石英多い。	普通	指押さえ		
148 1	01785	Ⅲ	I	34	SK−005		弥生土器	甕	17.40	(35.00)			明黄褐色	黒灰色	3mm以下の石英・長英を少し含み、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	口縁部は横ナデ 下半はナデ	
148 2	01783	Ⅲ	I	34	SK−005		弥生土器	壷	29.30	18.80			浅橙色〜灰褐色		1mm程度の砂粒を比較的多く含む。長石・石英など	普通	口縁部は横ナデ 胴部上半は横ミガキ 下半は縦のミガキ	口縁部は横ナデ 体部はナデ	頸部径:14.2cm。
148 3	01784	Ⅲ	I	34	SK−005		弥生土器	壷	29.40		46.40	8.80	浅橙色〜黄褐色	浅黄色〜灰白色	1〜5mmまでの砂粒を比較的多く含む。石英多い。金雲母あり	普通	胴部上半は横ミガキ 下半は縦のミガキ	ナデ	
148 4	01786	Ⅲ	I	33·34	SK−005		土製品	投弾	4.60		2.50		黄灰色		1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	ナデ		
151 1	00023	Ⅲ	H	33	SK−007		土製品	紡錘車	3.80	3.50	7.00	6.00	暗褐色		1mm以下の石英・長石を少し、雲母を	良好			
153 1	01791	Ⅲ	G·H	33	SK−008		手づくね土器	鉢	3.80	3.60		2.30	浅橙色〜灰白色	浅橙色〜灰白色	細砂粒を含むが、おおむね精良	普通			
155 1	01801	Ⅲ	J	34	SK−025		弥生土器	甕	17.80	(37.40)			浅橙色〜灰白色〜灰褐色	浅黄色〜灰褐色	1mmまでの砂粒を比較的多く含む。石英・長石・金雲母など	普通	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	上半は横ナデ 下半はナデ	
157 1	01802	Ⅲ	J	32·33	SK−026		弥生土器	壷	6.10	(16.00)			黄橙色	黄橙色	2mm以下の石英・長石・雲母を少し含む	良好	ミガキ 一部にハケ目	口縁部は横ミガキ 体部はナデ	
157 2	01803	Ⅲ	J	32·33	SK−026		弥生土器	鉢	8.50	(19.80)			明赤褐色	明赤褐色	4mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	剥離	横ミガキ	
157 3	01804	Ⅲ	J	32·33	SK−026		弥生土器	甕				9.70	明黄褐色	明黄褐色	4mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	横条痕 外底はナデ	ミガキ	
161 1	01810	Ⅲ	J	32	SK−049		弥生土器	甕	16.50	18.30		6.80		明橙色〜浅橙色	2〜5mm程度の砂粒を多く含む	普通	口縁突帯部は横ナデ 体部は横条痕	横ナデ 擦刷痕	
161 2	01792	Ⅲ	J	32	SK−049		弥生土器	壷	8.80	13.50			明橙色〜黒灰褐色	灰褐色〜黒灰褐色	3mmまでの砂粒を多く含む	普通	細かな横ミガキ	ナデ 粘土接合痕	
161 3	01808	Ⅲ	J	32	SK−049	土器群西 1段下げ(北半分)	弥生土器	壷	7.30			6.30	明黄褐色	明黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	左斜行のミガキ 外底はナデ	ナデ 粘土接合痕	
161 4	01793	Ⅲ	J	32	SK−049		弥生土器	丹塗り壷					赤色顔料 朱色	浅黄色	やや精良土。1mm以下の砂粒少量	良好	横ミガキ 文様	上半ナデ 黒斑	
161 5	01809	Ⅲ	J	32	SK−049		弥生土器	鉢					黄灰色	黄灰色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む。精良。	良好	口縁部は横ナデ 体部は横ミガキ	横ミガキ	
166 1	00709	Ⅲ	J	31	SK−051	②	弥生土器	甕	25.00	(22.00)		(7.30)	明黄褐色〜明橙褐色	明黄褐色〜明橙褐色	2mm以下の石英・長石を少し含み、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ 体部はナデ	ナデ 下半に炭化物付着	復元器高:25cm前後。
166 2	01926	Ⅲ	J	31	SK−051		弥生土器	甕(底部穿孔)	25.00	(22.00)		7.60	明黄褐色	明黄褐色	3mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁突帯部は横ナデ 体部はナデ 上半は煤	ナデ 指押さえ	孔径:1.5cm。
166 3	01818	Ⅲ	J	31	SK−051	②	弥生土器	甕	2.60			3.10	明黄褐色	明黄褐色	4mm以下の石英・長石・黒色光沢鉱物を少し含み、雲母をわずかに含む	良好	ハケ目の後にナデ	ナデ	
171 1	01819	Ⅲ	K	30	SK−078		弥生土器	壷					明黄褐色	暗褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母・黒色粒をわずかに含む	良好	ミガキ 文様	ナデ	
171 3	01822	Ⅲ	K	29	SK−086	土器2区	弥生土器	甕	8.60	(24.00)			黄褐色	黄褐色	3mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	口縁部は横ハケ目 下半はナデ	
171 4	01816	Ⅲ	K	29	SK−086		弥生土器	甕	17.50			7.70	明橙色〜灰褐色	黒褐色〜灰褐色	2mmまでの砂粒を比較的多く含む。石英・長石など	普通	粗い縦ハケ目	ナデ 指押さえ	
171 5	01823	Ⅲ	K	29	SK−087	2区	弥生土器	甕					暗褐色	黄褐色	石英・長石を少し、黒色光沢鉱物・雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ 下半は横ハケ目	口縁部は横ハケ目	
171 6	01824	Ⅲ	K	29	SK−087	2区	弥生土器	甕	7.70			6.80	明黄褐色	黄灰色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	ミガキ状のナデ 外底はナデ	ナデ	
173 1	01817	Ⅲ	K	29	SK−088		弥生土器	甕	10.90	22.30			灰白色〜灰褐色	灰橙色〜灰褐色	1mm未満の砂粒は比較的多い(金雲母多い) 1mm大砂粒が若干混じる	普通	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	口縁部は横ハケ目 体部はナデ 指押さえ	
173 2	01825	Ⅲ	K	29	SK−088		弥生土器	甕					明橙褐色	明橙褐色	3mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	ハケ目後横ナデ	ナデ 横ナデ	
173 3	01826	Ⅲ	K	29	SK−088		弥生土器	甕	6.70			6.90	明黄褐色	明黄褐色	4mm以下の石英・長石を少し、雲母をやや多く含む	良好	荒いナデ	粗いナデ 外底はナデ	
173 4	01827	Ⅲ	K	29	SK−088		弥生土器	高坏										横ナデ	
173 5	01828	Ⅲ	K	29	SK−088		弥生土器	高坏	10.30			(26.00)	暗褐色	明黄褐色	3mm以下の石英・長石を少し含み、雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好	脚裾部は横方向のミガキ 脚柱部は縦ミガキ	脚裾部はハケ目 奥はナデ	
173 6	01829	Ⅲ	K	29	SK−088	②	土製品	紡錘車	4.50	4.40	1.25	0.80	暗褐色		1mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好			
176 1	01830	Ⅲ	I	29	SK−093		弥生土器	甕	16.40	21.70			黄褐色〜暗褐色(一部明赤褐色)	黄褐色〜暗褐色(一部明赤褐色)	6mm以下の石英・長石をやや多く含み、雲母粒をわずかに含む	良好	条痕の上に部分的なナデ 突帯ナデ付け後に刻み目	工具ナデ	
176 2	01834	Ⅲ	I	29	SK−093		弥生土器	甕	12.40	24.20			黄灰色	黄灰色〜暗黄灰色	4mm以下の石英・長石粒をやや多く含み、雲母粒をわずかに含む	良好	口縁突帯部は横ナデ 体部は横条痕	ナデ 擦刷痕	

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器　下段:土製品〉												
挿図番号							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・脚部高径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
176 3	01831	Ⅲ	I	29	SK−093		弥生土器	甕	23.30	19.20		8.00			4mm以下の石英・長石粒を少し含み、雲母粒をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目　外底はナデ	ハケ目の後にナデ	
176 4	01833	Ⅲ	I	29	SK−093		弥生土器	甕	7.70	(15.40)			橙褐色～黄褐色	橙褐色～黄褐色	4mm以下の石英・長石粒をやや多く含み、雲母粒をわずかに含む	良好	摩滅　横条痕	ナデ　指押さえ	
176 5	01835	Ⅲ	I	29	SK−093		弥生土器	壺					黄白色	黄白色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	横ミガキ　丹塗り	口縁部は横ミガキ　下半はナデ	
176 6	01832	Ⅲ	I	29	SK−093		弥生土器	高坏	28.10	27.90		20.90	明橙褐色～明黄褐色	明橙褐色～明黄褐色	5mm以下の石英・長石、雲母粒を少し含み、赤褐色粒をわずかに含む	良好	坏部口縁部は横ナデ　坏部下半は細かな横ミガキ　脚部は縦のミガキ	坏部は横ミガキ　脚部はナデの後にハケ目	
180 1	01839	Ⅲ	I	30	SK−094		弥生土器	甕	11.00	(26.00)			明黄褐色、所々明橙褐色	明黄褐色、所々明橙褐色	2mm以下の石英・長石・雲母を少し、赤褐色粒をわずかに含む	良好	横条痕	ナデ　一部に横条痕　指押さえ	
180 2	01837	Ⅲ	I	30	SK−094		弥生土器	甕(底部穿孔)	25.00	24.00		8.90			6mm以下の石英・長石粒を少し含み、雲母粒をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目の後にナデ	左上がりの強いナデ	
180 3	01836	Ⅲ	I	30	SK−094		弥生土器	甕(底部穿孔)	24.80	22.00		8.90			3mm以下の石英・長石粒を少し含み、雲母粒をわずかに含む	良好	体部は左斜行のハケ目	上半はナデ　下半は粗いハケ目	
180 4	01838	Ⅲ	I	30	SK−094		弥生土器	甕						暗褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母粒をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ　屈曲部上方は横ナデ　下半は粗いハケ目の後に横ナデ	横ナデ?	
183 1	01840	Ⅲ	I	30	SK−096		弥生土器	甕		(32.00)			灰白色	灰白色	5mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は左斜行のハケ目	ナデ	
183 2	01242	Ⅲ	I	30	SK−096		弥生土器	甕	42.10	34.60		9.00	明黄褐色	明黄褐色	3mm以下の石英・長石粒を少し含み、雲母粒をわずかに含む	良好	口縁から突帯まで横ナデ　体部はナデ	ナデ	
183 3	01842	Ⅲ	I	30	SK−096		弥生土器	甕	8.50			8.10	明黄褐色	明黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	縦ハケ目　括れ部は横ミガキ状	縦のミガキ状	
183 4	01841	Ⅲ	I	30	SK−096		弥生土器	壺					黄橙色	黄橙色	3mm以下の石英・長石・赤紫粒を少し、雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ	横ナデ	復元口径:40cm前後。
186 1	01105	Ⅲ	K	28	SK−097		弥生土器	壺		(30.00)			黄褐色	黄褐色	2mm以下の石英・長石・白橙色粒を少し含み、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ　頸部はナデ?	頸部は横ミガキ	
189 1	01849	Ⅲ	H	31	SK−098		弥生土器	甕		(22.00)			黄褐色	黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は斜行ハケ目	ナデ　指頭圧痕	
189 2	01843	Ⅲ	H	31	SK−098		弥生土器	甕	22.70	(28.00)			黄褐色	黄褐色	3mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	
189 3	01853	Ⅲ	H	31	SK−098		弥生土器	甕	11.80	(18.00)			黄褐色～橙褐色	黄褐色～橙褐色	3mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	逆時計回りのナデ	
189 4	01848	Ⅲ	H	31	SK−098		弥生土器	甕		(28.00)			明黄褐色	明黄褐色	3mm以下の石英・長石を少し、赤褐色・雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は斜行ハケ目	ナデ　指頭圧痕	
189 5	01846	Ⅲ	H	31	SK−098		弥生土器	甕	11.10	(33.00)			黄橙色～明黄褐色	黄橙色～明黄褐色	3mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ　体部はナデ　突帯は横ナデ	ナデ	
189 6	01847	Ⅲ	H	31	SK−098		弥生土器	甕		(46.00)			黄褐色	黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	ナデ	
189 7	01852	Ⅲ	H	31	SK−098		弥生土器	甕					橙褐色	橙褐色	4mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	口縁部は横ハケ目　体部は部分的にハケ目	復元径:30cm前後。
189 8	01854	Ⅲ	H	31	SK−098		弥生土器	甕				9.20	黄褐色	淡赤褐色	3mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	ナデ　底部は横ナデ	ナデ	
189 9	01850	Ⅲ	H	31	SK−098		弥生土器	甕				(7.20)	黄褐色	黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	縦ハケ目　外底はナデ	丁寧なナデ　内底はナデ	
189 10	01844	Ⅲ	H	31	SK−098		弥生土器	壺		(18.00)			黄褐色	黄褐色	2mm以下の石英・長石・黒色光沢粒を少し含み、雲母をわずかに含む	良好	ハケ目後に横ナデ	ミガキ　3本沈線	
189 11	01845	Ⅲ	H	31	SK−098		弥生土器	壺		(20.00)			赤褐色	赤褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	横ナデ後に縦のミガキ　暗文風	横ミガキ	
189 12	01851	Ⅲ	H	31	SK−098		弥生土器	器台	6.90			(8.00)	黄褐色	赤褐色	2mm以下の石英・長石・赤褐色粒を少し、雲母をわずかに含む	良好	指押さえ		
189 14	01855	Ⅲ	H	31	SK−098		?	炉壁?							4mm以下の石英・長石・赤褐色粒を少し、雲母をわずかに含む	良好	炉壁か?		
191 1	01857	Ⅲ	H	31	SK−101		弥生土器	甕		(22.00)			明黄褐色	明黄褐色	3mm以下の石英・長石をやや多く、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	横ナデ	
191 2	01856	Ⅲ	H	31	SK−101		弥生土器	甕					黄褐色	黄褐色	4mm以下の石英・長石を少し、赤褐色粒をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目　沈線上方は横ナデ	湾曲部は横ハケ目　体部はナデ	復元口径:40cm前後。
193 1	01860	Ⅲ	I	33	SK−102	南	弥生土器	甕				(7.20)	黄褐色	黄褐色	4mm以下の石英・長石をやや多く含む	良好	横条痕　外底は丁寧なミガキ状	ナデ	
193 2	01859	Ⅲ	I	33	SK−102	南	弥生土器	甕		(20.00)			黄褐色	黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目	湾曲部は横ハケ目　体部はナデ	
193 3	01858	Ⅲ	I	33	SK−102	南	弥生土器	鉢		(36.00)			暗褐色、所々黄褐色	暗褐色、所々黄褐色	2mm以下の石英・長石・雲母・赤褐色粒ををわずかに含む。精良	良好	全面横ミガキ	横ミガキ	
193 4	01862	Ⅲ	I	33	SK−102	北	弥生土器	壺		(14.00)			明黄褐色	明黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母を	良好	口縁部は横ナデ　胴部は横ミガキ	胴部上半は横ミガキ　下半はナデ	
193 5	01861	Ⅲ	I	33	SK−102	南	弥生土器	壺					暗褐色～黒色	暗褐色～黒色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	ミガキ　文様	ナデ	
195 1	01864	Ⅲ	G·H	29	SK−105		弥生土器	甕	10.50			8.00	明橙色～黄褐色	明黄褐色	4mm以下の石英・長石粒を少し含む	良好	部分的に横条痕　外底はナデ　木葉痕	ナデ	
195 2	01863	Ⅲ	G·H	29	SK−105		弥生土器	甕	13.40			7.70	明橙褐色～明黄褐色	明橙褐色～明黄褐色	4mm以下の石英・長石粒を少し含み、赤褐色粒をわずかに含む	良好	部分的に横条痕　外底はナデ　木葉痕	左方向のナデ　擦刷痕	

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	土器(土製品)の法量と特徴〈法量 上段:土器 下段:土製品〉												
挿図番号							器種		器高	口・器受部径	最大径	底・脚裾部径	色調		胎土	焼成	調整		備考
							様式など	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	外面色調	内面色調			外面調整	内面調整	
195 3	01865	Ⅲ	G·H	29	SK−105		弥生土器	壷	24.00	12.90	23.50	7.80	黄褐色～黄灰色	黄褐色～黄灰色	2mm以下の石英・長石・雲母粒を少し含む	良好	口縁部は横ナデ 頸部は幅広い横ミガキ 胴部は横ミガキ	口縁から頸部は横ミガキ 胴部は横ナデ	
195 4	01866	Ⅲ	G·H	29	SK−105		弥生土器	壷		(29.00)			明黄褐色に橙色の丹	明黄褐色に橙色の丹	5mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む(大粒の砂粒が目立つ)	良好	口縁部は横ナデ 頸部はミガキ 丹塗り	頸部はナデ 口縁部は丹塗り	
198 1	01878	Ⅲ	G	29·30	SK−109		弥生土器	甕	20.80	21.40		7.30	明橙色～暗灰色	黄灰色～暗灰色	5mm以下の石英・長石粒を少し含み、雲母粒をわずかに含む	良好	条痕、底部くびれ部は横ナデ 突帯ナデ付け後に刻み目	口縁突帯部は横ナデ 体部上半は横条痕 下半は縦の条痕	部分的に横条痕。ナデ。
202 1	01477	Ⅲ	G	30	SK−111		弥生土器	甕	6.80	(26.60)			暗褐色	暗褐色	精選されている	良好	口縁部は横ナデ 体部はナデ	ナデ 炭化物付着	
202 2	01475	Ⅲ	G	30	SK−111		弥生土器	甕		(44.00)			白褐色	暗褐色	径1～5mm程の砂粒を多く含む	良好	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	ナデ上げ	
202 3	01896	Ⅲ	G	30	SK−111		弥生土器	高坏	8.20				白褐色	白褐色	径～3mm程の砂粒を含む	良好	縦方向のナデ	ナデ	くびれ部径:4.5cm。
205 1	01885	Ⅲ	H	27	SK−114		弥生土器	蓋	10.70	(30.00)		6.30			2mm以下の石英・長石・雲母粒を少し含む	良好	ハケ目	ナデ 部分的にハケ目	
205 2	01898	Ⅲ	H	27	SK−114		弥生土器	甕	10.40	23.60			灰褐色	灰褐色	径～3mm程の砂粒を多く含む	良好	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	湾曲部は横ハケ目 体部はナデ	
205 3	01897	Ⅲ	H	27	SK−114		弥生土器	壷	(6.30)	(7.30)	(9.40)		白褐色	白褐色	径～3mm程の砂粒を多く含む	良好	頸部は縦ハケ目 胴部はミガキ状	指押さえ	頸部径:6.1cm。
205 4	01886	Ⅲ	H	27	SK−114		弥生土器	壷	8.70	(11.80)			黄褐色	黄褐色	3mm以下の石英・長石をやや多く含み、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ 頸部はハケ目の後に縦のミガキ 胴部は横ミガキ	口縁から頸部は雑な横ミガキ 胴部上半は指押さえ 下半はナデ	
207 1	01887	Ⅲ	G	31	SK−116	37	弥生土器	壷					黄褐色	黄褐色	4mm以下の石英・長石をやや多く、雲母・黒色粒を少し含む	良好	ナデ 外底はナデ	ナデ 一部にハケ目	
211 1	01780	Ⅲ			SK−119		弥生土器	甕		(32.00)			明黄褐色	明黄褐色	3mm以下の石英・長石を少し、雲母・黒色粒をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目の後に横ナデ	横ナデ	
211 3	01779	Ⅲ	K	30	SK−120		弥生土器	甕					黄褐色	黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ	横ナデ	
211 4	01778	Ⅲ	K	30	SK−120		弥生土器	甕					黄褐色	黄褐色	3mm以下の石英・長石・赤褐色粒を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	口縁部は横ハケ目 下半は斜行ハケ目	
215 1	01781	Ⅲ	K	34	SK−118		弥生土器	甕					白褐色	白褐色	1mm以下の石英・長石・雲母を少し含む	良好	口縁部は横ナデ 体部は粗い縦ハケ目	ナデ	
216 1	01750	Ⅲ			SK−121		古式土師器	二重口縁壷			(24.00)		黄褐色	黄褐色	4mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	一次口縁部は横ナデ	一次口縁部はハケメ後ナデ?	内面に暗褐色や黒色の付着物あり。
216 2	01749	Ⅲ			SK−121		古式土師器	二重口縁壷		(26.00)			黄褐色	黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母・黒色粒をわずかに含む	良好	頸部にハケメ後口縁全体にナデ	二次口縁部にハケメ後口縁全体に横ナデ	口縁内面～端部に暗褐色の付着物あり。
216 3	01751	Ⅲ			SK−121		古式土師器	甕(A系)		(28.00)			黄褐色	黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	胴部はハケメ 口縁部は横ナデ	胴部はケズりもしくはナデ 口縁部は横ナデ	
216 4	01752	Ⅲ			SK−121		手づくね土器	壷	5.30	5.20	56.00		黄灰色	黄灰色	3mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	ナデ	ナデ 指押え	
216 5	01753	Ⅲ			SK−121		土製品	紡錘車	3.80		1.95	0.34	黄褐色～暗黄褐色		1mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む。(砂粒が器面に露出していることから、あまり丁寧になでられていないと考える)	良好			
217 1	01754	Ⅲ	H	32	SK−122		弥生土器	甕					黄褐色	黄褐色	4mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ 体部はナデ	ナデ	
217 2	01755	Ⅲ	H	32	SK−122		弥生土器	甕				7.50	黄褐色	黄褐色	3mm以下の石英・長石をやや多く、雲母をわずかに含む	良好	縦ハケ目 外地はナデ	ナデ	
219 1	01756	Ⅲ	M	31·32	SK−123	南半	弥生土器	甕		(28.00)			黄褐色～灰褐色	黄褐色～灰褐色	2mm以下の石英・長石を少し、赤褐色粒をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ 体部はナデ	左上がりのナデ	
221 1	01757	Ⅲ	I	28	SK−124	西半	弥生土器	甕					橙褐色	橙褐色	4mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	ナデ	復元口径:34cm程度。
221 2	01758	Ⅲ	I	29	SK−124	東半	弥生土器	甕				6.90	黄褐色～黄灰色	黄褐色～黄灰色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	縦ハケ目 外底はナデ	上半は横ハケ目 内底は指押さえ	
221 3	01759	Ⅲ	I	29	SK−124	東半	弥生土器	壷				5.20	黄褐色～黄灰色	黒灰色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	摩滅で調整痕不明 外底はナデ	ナデ	
224 1	01765	Ⅲ	I	34	SK−125		弥生土器	蓋	8.30			6.30	橙褐色	黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	ハケ目	工具ナデ ナデ	
224 2	01761	Ⅲ	I	34	SK−125		弥生土器	甕	24.00	21.80		6.90	黄褐色	黄褐色	3mm以下の石英・長石を少し、赤褐色粒、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目 外底はナデ	口縁部は横ハケ目 体部はナデ	
224 3	01760	Ⅲ	I	34	SK−125		弥生土器	甕	19.80	21.80	22.30	6.50	明黄褐色～明黄灰色	明黄褐色～明黄灰色	3mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ 直下は縦ハケ目 体部はハケ目の後に横ミガキ	口縁部は横ナデ 体部はナデ	
224 4	01762	Ⅲ	I	34	SK−125		弥生土器	甕	29.10	26.20	26.80	7.00			4mm以下の石英・長石を含み、赤褐色、雲母粒をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目 外底はナデ	上半は横ナデ 下半に炭化物付着	
224 5	01764	Ⅲ	I	34	SK−125		弥生土器	甕					黄褐色	黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ 体部は縦ハケ目	ナデ 下半剥離	
224 6	01767	Ⅲ	I	34	SK−125		弥生土器	甕				10.50	明黄褐色	明黄褐色	3mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	縦ハケ目 外底はナデ	割りに丁寧なナデ	
224 7	01766	Ⅲ	I	34	SK−125		弥生土器	甕				7.20	黄褐色	黄灰色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	縦ハケ目 外底はナデ	ナデ 内底に炭化物付着	
224 8	01763	Ⅲ	I	34	SK−125		土製品	紡錘車	(4.60)		1.10	7.00	黄褐色		2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好			
225 1	01768	Ⅲ	I	28	SK−126		弥生土器	甕	25.70			10.10			3mm以下の石英・長石をやや多く含み、雲母粒をわずかに含む	良好	ハケ目	ナデ	
228 1	01888	Ⅲ	I	35	SP−0002		弥生土器	壷	10.60		15.00	4.40	黄褐色～橙褐色	黄褐色～橙褐色	3mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	胴部上半は横ナデ 下半は縦のミガキ 外底はナデ	ナデ	
228 2	01901	Ⅲ	M	30	SP−0145		弥生土器	甕(底部穿孔)				7.40	黄褐色	黄褐色	3mm以下の石英・長石・赤褐色粒を少し、雲母をわずかに含む	良好	縦ハケ目	ナデ 指押さえ	
228 3	01913	Ⅲ	N	30	SP−0190		弥生土器	投弾	3.50	2.30			明赤褐色		1mm以下の石英・長石・雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好			

土器（土製品）の法量と特徴〈法量 上段:土器　下段:土製品〉

報告書 挿図番号	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	器種 様式など	器種	器高 長さ	口・器受部径 幅	最大径 厚さ	底・脚基高・台径 孔径	色調 外面色調	色調 内面色調	胎土	焼成	調整 外面調整	調整 内面調整	備考
228 4	01916	Ⅲ	L	30	SP−0402		土製品	投弾	4.20	2.30			黄褐色		石英・長石・雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好			
228 "5,6"	01889	Ⅲ	K	35	SP−0073		弥生土器	壷	(53.00)	(17.00)	(38.00)	10.20	明黄褐色	明黄褐色	6mm以下の石英・長石を少し、雲母・赤褐色粒部をわずかに含む	良好	口縁から頸部は横ミガキ　胴部上半は細かな横ミガキ　底部はナデ	頸部はナデ　胴部上半は指押さえ　下半はナデ	
228 7	01914	Ⅲ	N	30	SP−0193		弥生土器	壷	11.00	(30.00)			暗褐色	暗褐色	2mm以下の石英・長石・雲母を少し含む	良好	口縁部は横ナデ　頸部は縦のミガキ	頸部は横ミガキ	
228 8	01918	Ⅲ	J	32	SP−0461		弥生土器	甕	12.20			7.80	黄橙褐色	明黄褐色	2mm以下の石英・長石・赤褐色粒を	良好	外底はナデ上げ　煤付着	ナデ　下半に炭化物付着	
228 9	01917	Ⅲ	J	33	SP−0431	SN02の柱穴か?	弥生土器	甕					黄褐色	黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁突帯部は横ナデ　体部は横条痕	横ナデ　左への擦刷痕	
228 10	01919	Ⅲ	K	30	SP−0535		弥生土器	壷					黒色にみがかれる	暗褐色～黒褐色	1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む	良好	ミガキ　文様	横ナデ	
228 11	01920	Ⅲ	K	29	SP−0557		弥生土器	壷					黄白色	黄白色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	ナデ　文様	ナデ	
229 12	01921	Ⅲ	J	35	SP−0571		弥生土器	鉢	15.40	(20.60)		(7.80)	黄褐色	黄褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	体部は横条痕　外底はナデ	横ナデ　部分的に条痕	
229 13	01922	Ⅲ	J	35	SP−0571		弥生土器	甕					暗褐色	淡橙褐色	1mm以下の石英・長石を少し、雲母・赤褐色粒をわずかに含む	良好	横ナデ	横ナデ	
229 14	01910	Ⅲ	H	34	SP−0603		弥生土器	壷	3.90	(21.00)			白赤褐色、赤褐色	白赤褐色、赤褐色	径～3mm程の砂粒を多く含む	良好	横ナデ	横ナデ	
229 15	01923	Ⅲ	I	28	SP−0635		弥生土器	甕	13.50	14.00		6.50	明赤褐色	明赤褐色、一部黄褐色、暗褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は縦ハケ目　外底はナデ	ナデ　指押さえ	
229 16	01925	Ⅲ	H	29	SP−0687		弥生土器	紡錘車	5.00		1.10	8.00	灰白色		2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好			
229 17	01931	Ⅲ	H	29	SP−0695		土製品	甕	4.50				暗褐色	暗白褐色	径1mm程の砂粒を含む	良好	口縁突帯部は横ナデ　体部は条痕	ナデ	
229 18	01932	Ⅲ	H	29	SP−0695		弥生土器	高坏	2.90	(33.80)			赤褐色	赤褐色	径1mm程の砂粒を含む	良好	口縁部は横ナデ	横ミガキ	
229 19	01933	Ⅲ	I	30	SP−0726		弥生土器	高坏?	3.90				白褐色	白褐色	径1mm程の砂粒を含む	良好	ナデ　裾部はハケ目	裾部はハケ目　脚柱部はナデ	
229 20	01934	Ⅲ	H	30	SP−0754	SB−04−B	土師器	甕	3.10	(28.40)			暗褐色	白褐色	径2mm程の砂粒を含む	良好	口縁突帯部は横ナデ　体部は条痕	ナデ	復元口径:29.6cm。
229 21	01118	Ⅲ	H	30	SP−0767		弥生土器	壷				16.00	顔料により赤褐色	白褐色	径2mm程の砂粒を含む	良好	細かな縦ハケ目	細かなハケ目	
229 22	01935	Ⅲ	G	30	SP−0788	SB−05−B	弥生土器	甕	4.90			(9.40)	赤褐色・黒褐色	赤褐色～暗褐色	径1mm程の砂粒を多く含む	良好	ナデ　工具のキズ	ナデ　上半摩滅	
229 23	01927	Ⅲ	I	31	SP−0814		弥生土器	壷	9.50				明橙褐色	明橙褐色	2mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	頸部は横ミガキ　胴部に文様	頸部は上半は横ミガキ　胴部はナデ	
229 24	00986	Ⅲ	G	30	SP−0784		弥生土器	甕	15.50	(23.00)			黄褐色	黄褐色	5mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	口縁突帯部は横ナデ　体部は条痕	ナデ　部分的に条痕	
229 25	01940	Ⅲ	I	33	SP−0861		弥生土器	甕	4.60				赤褐色	白褐色	径2mm程の砂粒を多く含む	良好	口縁部は横ナデ　体部は横ナデ	横ナデ　下半は指押さえ	
229 26	01941	Ⅲ	I	33	SP−0866		弥生土器	甕	1.60				暗褐色	暗褐色	径2mm程の砂粒を多く含む	良好	口縁部は横ナデ	横ナデ	
229 27	01605	Ⅲ	I	28	SP−1044		弥生土器	壷	1.70			(9.20)	灰褐色	灰褐色	径1mm程の砂粒を少なく含む	良好	ナデ	ナデ	
229 28	01952	Ⅲ	H	28	SP−1062	SB−24	弥生土器	甕	8.20				黒褐色	白褐色	径1mm程の砂粒を多く含む	良好	口縁突帯部は横ナデ　体部は粗いハケ目	ナデ	
229 29	01953	Ⅲ	H	28	SP−1062	SB−24	弥生土器	甕	3.50			8.20	灰褐色	白褐色	径1mm程の砂粒を多く含む	良好	ナデ	ナデ	
229 30	01107	Ⅲ	G	30	SP−0781		弥生土器	器台	15.70		10.10		橙褐色～黄褐色	橙褐色～黄褐色	3mm以下の石英・長石を少し、雲母をわずかに含む	良好	縦ハケ目	ナデ	

第13次調査出土　石器

石器の法量と特徴

報告書 挿図番号	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	器種	法量(cm・g) 長さ	幅	厚さ	孔径	重さ	石材	備考
19 7	04022	Ⅱ	I	34	SE−01		石皿	19.00	10.00	4.20		1250.00		敲打痕のひとつひとつは、小さく浅い。A・B両面ともに敲打痕があるが、主にA面を使ったようだ。
19 8	04049	Ⅱ	I	35	SE−01	最下	打製石鏃		1.93	4.65		1.70	黒曜石	自然面・主剥離面なし。
22 4	04077	Ⅱ	H	28	SE−02		管玉	1.12			0.26	1.05		縦に割れている。孔の大きさ不明。
31 8	04004	Ⅱ			SK−015		太型蛤刃石斧	15.00	8.30	4.90		1100.00		
31 9	04005	Ⅱ			SK−015		太型蛤刃石斧	8.10	7.00	5.00		422.00		
31 10	04006	Ⅱ			SK−015		砥石	13.00	4.50			445.00	砂岩（粒子は細かい。雲母粒を少し含む。緻密）	4面全てを砥石として使用している。摩滅（波状のでこぼこがあるため、くぼんだ所は自然面を残す）
31 11	04007	Ⅱ			SK−015		凹石	10.70	8.20	6.90		720.00		
34 6	04015	Ⅱ	J	29	SK−082	No.2	打製石鏃	2.90	2.00	4.50		1.80	黒曜石	全面に丁寧な剥離。自然面は残っていない。
34 7	04016	Ⅱ	J	29	SK−082	No.2	管玉	2.97				4.50	碧玉	端部には多少凹凸がある。孔は一直線には貫通せず、中央付近で微妙に折れ曲がる。両側から孔をあけ、中央付近で貫通した可能性が高い。
61 10	04061	Ⅱ	H	27	SL−01	流れ 西岸 黒色粘質土2面	打製石鏃	2.40	1.64	0.41		1.00	黒曜石	風化面・付着物なし。
61 11	04062	Ⅱ	G	28	SL−01	流れ 西岸 砂層①の下	不明石器	2.28	0.78	0.36		0.80	黒曜石	風化面なし。石鏃と同様に、それぞれの縁片から剥離される。
61 12	04057	Ⅱ	F	28	SL−01	流れ 最下層	磨製石鏃 未製品	4.77	1.43	0.52		4.30	滑石?	青灰色のまだらで、にぶく光る。刃縁はにぶい。
61 13	04059	Ⅱ	G	27	SL−01	流れ 西斜面 下端 最下層	磨製石鏃 未製品?	5.10	2.40	0.30		4.60	(0.1mmほどの白色粒でおおわれ、基質は明灰色)	未製品?

木器の特徴

種類	木取り	樹種	備考

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	石器の法量と特徴							木器の特徴			
挿図番号							器種	法量(cm・g)					石材	備考	種類	木取り	樹種	備考
								長さ	幅	厚さ	孔径	重さ						
61 14	04056	Ⅱ	E	26	SL−01	砂層②	磨製石剣?	5.20	3.30	0.91		18.40	(横断面で見ると、層状に筋が走る)	全体的に欠けている部分が多い。刃縁はややにぶい。				
61 15	04055	Ⅱ	E	26	SL−01	砂層②	小型柱状片刃石斧	3.90	1.25	2.00		13.60	泥岩?(緻密な基質のみから成る。青灰色)	未製品のようだ。				
61 16	04063	Ⅱ	G	33	SL−01	枝間	偏平片刃石斧	3.73	2.88	0.79		17.10	凝灰質頁岩?(青灰色地に白、暗灰色の縞)	石材特有の白、暗灰色の縞が、バーコード状をなす。				
61 17	04060	Ⅱ	G	27	SL−01	流れ 西斜面 下端 最下層	不明石器	3.70	3.20	0.70		12.30	泥岩?(黒光りする鉱物粒を少し含む。基質は灰色)	くぼんでいる所は研磨が達していない。				
61 18	04045	Ⅱ	N~R	24~22	SL−01	東西土層 最下層の砂層上	剥片	9.80	3.80	1.15		30.60	(目立った鉱物粒はなく、堅く緻密な基質から成る)	調整剥離らしきものはない。				
71 95	04076	Ⅱ	N~R	24~22	SJ−01	下	管玉	7.15	3.05		1.5~1.7	1.09						
72 1	01444	Ⅱ	H	28	SJ−01	21	太型蛤刃石斧	15.20	7.20	5.00		900.00	(青灰色)	研磨を少し行った段階の未製品。				
72 2	04051	Ⅱ	G	28	SJ−01	(図面取り上げ)	太型蛤刃石斧	6.90	7.90	3.80		413.00	玄武岩か(表面は明灰色に風化)					
72 3	04052	Ⅱ	H	28	SJ−01	25	磨石?	10.30	9.30	5.40		752.00	(黒光りする鉱物粒を多く含む)	摩滅部分以外はあばた状。				
72 4	04054	Ⅱ	I	28	SJ−01		砥石	7.60	6.00	5.60		267.00	砂岩(灰白色)	5面を使用。				
72 5	04053	Ⅱ	H	28	SJ−01	28	砥石	12.80	7.30	7.10		682.00	砂岩(青灰色)					
72 6	04050	Ⅱ	H	28	SJ−01	25	砥石	24.70	12.90	7.80		2500.00	砂岩(青灰色)	砂岩のため、磨耗面の手ざわりはザラザラだが、そのすり減り方から、かなり使いこんだことがうかがわれる。				
78 5	04036	Ⅲ	I	29	第Ⅲ面遺構検出面	黒色粘土層1面	打製石鏃	1.75	1.47	3.00		0.50	黒曜石					
78 6	04074	Ⅲ	H	31	第Ⅲ面遺構検出面	3面 黒色粘土層	打製石鏃	1.95	1.73	0.33		0.70	黒曜石(黒色)	風化面、主剥離面なし				
78 7	04039	Ⅲ	I	30	第Ⅲ面遺構検出面	黒色粘土層 調査2面 No.2	打製石鏃	2.02	1.69	3.45		0.80	黒曜石	風化面・主剥離面は残っていない。				
78 8	04058	Ⅲ	H	28	第Ⅲ面遺構検出面	流れ 黒色粘質土2面	打製石鏃	2.05	1.55	0.34		1.00	黒曜石(白くにごった灰色、姫島産か?)	風化面なし。表・裏面それぞれに大きめの剥離が1か所づつある。				
78 9	04072	Ⅲ	H	28	第Ⅲ面遺構検出面	黒色粘質土1層	打製石鏃	2.17	1.20	0.35		0.70	黒曜石(黒色。石材中に黒色細粒が多くある。少しザラザラした手触り)	風化面・主剥離面なし。				
78 10	04047	Ⅲ	H	31	第Ⅲ面遺構検出面	黒色粘土層 3面	打製石鏃	2.16	1.20	4.25		0.90	黒曜石	風化面なし。				
78 11	04040	Ⅲ	H	32	第Ⅲ面遺構検出面	調査出土面 2面	打製石鏃	2.39	1.56			1.40	黒曜石	風化面・自然面は残っていない。多少縁片が欠けている。				
78 12	04073	Ⅲ	I	29	第Ⅲ面遺構検出面	遺構検出面 黒色粘土層	打製石鏃	3.64	2.11	0.35		2.30	安山岩もしくは玄武岩?(灰黒色)	風化面なし。表・裏面とも、中央に主剥離を残す。				
78 13	04070	Ⅲ	I	30	第Ⅲ面遺構検出面	黒色粘土層 調査2面 No.1	不明石器	2.61	2.15	0.76		4.40	黒曜石(黒色)	風化面あり。主剥離面らしきものあり。				
78 14	04069	Ⅲ	I	30	第Ⅲ面遺構検出面	黒色粘土層 調査2面 No.1	石錐	3.58	2.84	0.12		5.90	黒曜石(黒色)	風化面あり。				
78 15	04033	Ⅲ	I	29	第Ⅲ面遺構検出面	黒色粘土層1面①	磨製石鏃	3.84	1.71	1.80		1.50	安山岩もしくは玄武岩か(緻密な基質から成り、目立った鉱物粒なし)	縁辺は所々欠けている。				
78 16	04034	Ⅲ	I	29	第Ⅲ面遺構検出面	黒色粘土層1面①	磨製石鏃	4.51	2.13	7.15		6.00	凝灰質頁岩?	石材の管理のため段をなす。				
78 17	04037	Ⅲ	I	29	第Ⅲ面遺構検出面	黒色粘土層1面	磨製石鏃未製品?	5.86	3.21	4.70		13.90	頁岩?	縁辺は比較的鋭利。明瞭な調整痕は見られない。				
78 18	04035	Ⅲ	I	29	第Ⅲ面遺構検出面	黒色粘土層1面	小型柱状片刃石斧	4.90	1.33	1.06		15.00	凝灰質頁岩?	石材特有の白い層状の筋が走る。				
78 19	04071	Ⅲ	H	28	第Ⅲ面遺構検出面	黒色粘質土1層	小型柱状片刃石斧	5.95	8.70	1.09		11.70	凝灰質頁岩(灰色)					
78 20	04068	Ⅲ	I	30	第Ⅲ面遺構検出面	黒色粘土層 調査2面 No.1	楔状石器	4.10	2.37	1.73		21.30	凝灰質頁岩(?)(緑灰色。石材特有の縞模様あり)					
78 21	04038	Ⅲ	I	29	第Ⅲ面遺構検出面	黒色粘土層1面	砥石?	3.18	1.97	1.68		17.90	砂岩					
78 22	04048	Ⅲ	I	33	第Ⅲ面遺構検出面	調査出土面 2面	石鎌未製品?	12.20	3.65	8.50		59.00	頁岩?	風化面なし。				
78 23	04043	Ⅲ	M	28·29	第Ⅲ面遺構検出面	南側排水トレンチ	石包丁	9.55	3.50	6.10	0.50	35.30	輝緑凝灰岩?	敲打痕などはない。シャープな穿孔。元々あった組孔と刃部との間が狭まってきたため、新たに穿孔しようとしたようである。				
78 24	04044	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	遺構検出面	石包丁	14.50	6.10	5.10	0.53	62.30		全体的に少し磨耗している。全面研磨しているが、微妙に凹んでいるため、研磨が達していない所が多い。全体が薄く剥げかけている。摩滅のためか、それほどシャープではない。刃こぼれが多い。				
78 25	04042	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	1面検出面	勾玉	2.55	1.20	5.80	0.40	2.50	滑石	シャープな穿孔。組ズレの跡なし。				
80 28	04075	Ⅲ	G	29	第Ⅲ面遺構検出面	黒色粘土層1面①	石核	9.60	7.60	4.70		328.00	黒曜石(黒色)	雀居遺跡(13次)の中で最も大きな黒曜石。石核の両端から剥離。				
80 29	04046	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	廃土	太型蛤刃石斧	16.40	6.50	4.20		812.00	"(目立った鉱物粒はなく、堅く緻密な基質から成る)"	未製品の可能性がある。刃は研ぎ出されていないようだ。刃部と基部の境は不明瞭。表面が暗灰色(岩石の製成過程で出来たもののようだ)				
83 1	04041	Ⅲ	H		SL−02	4区北東土器遺構検出面砂層 No.1	打製石鏃	1.81	1.61	3.40		0.80	黒曜石。表・裏1ヵ所ずつに、白色の鉱物がくいこんでいる.	風化面・主剥離面なし。(白い鉱物は、石鏃を作った後に二次的に付着したのではなく、火山活動により黒曜石がつくられる過程で混入したようだ)				

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	石器の法量と特徴							木器の特徴			
挿図番号							器種	法量(cm・g)					石材	備考	種類	木取り	樹種	備考
								長さ	幅	厚さ	孔径	重さ						
83 2	04066	Ⅲ	H		SL−02	4区北東 遺構検出面 砂層	打製石鏃	2.38	1.45	0.51		1.70	黒曜石(黒色)	風化なし。剥離が全面には及ばず、主剥離面を大きく残す。				
83 3	04065	Ⅲ	H		SL−02	4区北東 遺構検出面 砂層	打製石鏃	2.82	2.27	0.60		2.10	黒曜石(黒色)	風化面・主剥離面なし。白色混入物が少しある。三辺が少し内湾。				
83 4	04067	Ⅲ	E	31	SL−02	砂層下 足跡面より下一②	打製石鏃	2.60	1.81	0.50		2.10	黒曜石(黒色)	風化面なし。主剥離面を残す。				
83 5	04064	Ⅲ	H		SL−02	遺構検出面砂層No.5	偏平片刃石斧	4.90	2.90	0.80		22.60	泥岩?(明灰色)					
95 6	01121	Ⅲ	I	29	SB−06	SP−1230	礫石として使用した石材	26.00	21.90	5.10		3000.00	砂岩か?	周縁部は欠損か生きか不明。				
116 3	04017	Ⅲ	I	30	SB−25	SK−095	打製石鏃	2.32	2.25	4.60		1.80	黒曜石	自然面は残っていない。全面に丁寧な剥離。縁辺部は所々白っぽく変色。				
148 5	04001	Ⅲ	I	33·34	SK−005		剥片	8.20	6.20	9.90		38.90	堅く緻密で、目立った鉱物粒なし	同様な石材で作られた石鏃などがあることから、石器の材料として用意されたと考える。小さな剥離痕が並ぶが、人為的なものかは不明。				
148 6	04002	Ⅲ	I	33·34	SK−005		砥石	8.40	2.65	1.60		53.80	凝灰質頁岩?	一部擦痕があるが、ほとんど使用されなかったようである。たたくと金属音がする。石材特有のきれいな縞模様。				
149 7	04003	Ⅲ	I	33·34	SK−005		凹石?	17.10	9.90	7.80		2200.00	安山岩もしくは玄武岩か	くぼみは、何かを敲いているうちに自然と出来たものではなく、人為的につくりだしている。くぼみの中心点は、両縁りのそれとは少しずれるが、相対するそれとはほぼ一致する。				
159 1	04008	Ⅲ	K	29·30	SK−033	北半	太型蛤刃石斧	13.20	7.30			736.00	おそらく玄武岩	丁寧に磨かれている。				
161 6	04010	Ⅲ	J	32	SK−049	土器群西 一段下げ(北半分)	紡錘車	5.50			0.80	15.70		シャープな穿孔。				
164 1	04009	Ⅲ			SK−035		偏平片刃石斧	5.70	3.30			56.20	凝灰質頁岩?	石材特有の白い筋が走る。				
168 1	04011	Ⅲ	J	30	SK−052		石鏃?	17.00	6.00	8.00		116.20	安山岩?	A面は平坦、B面はやや凹凸が目立つ。A、B面とも少しは摩滅しているが、成形時の器面をよく残す。				
168 2	04012	Ⅲ	K	31	SK−057		太型蛤刃石斧	10.00	5.50	2.60		220.00		敲打部は少し摩滅(おそらく着柄のため)。石材特有の灰色の細線が多く走る。割れたこの部分も磨かれているので、割れた後も、磨き直して再利用したと考えられる。刃部を水平にして実測すると、基部の断面はこのように傾く。				
168 3	04014	Ⅲ	K	29	SK−081		石鏃?	7.20	3.80	1.05		30.30		黒色の柱状鉱物粒(3mm以下)を7粒ほど含む。				
171 2	04013	Ⅲ	K	30	SK−078		紡錘車	(5.50)		0.70	0.50	15.60		シャープな穿孔。中央に向かって厚さが増す。				
183 5	04018	Ⅲ	I	30	SK−096		太型蛤刃石斧	5.50	6.50			129.20	玄武岩か?	風化面は明灰色。				
189 13	04019	Ⅲ	H	30	SK−098		柱状片刃石斧	6.40	3.40	3.90		145.20	凝灰質頁岩か?等粒状・斑状組織はなく、緻密な基質から成る。	石材特有の層状の線が走る。刃端は少し丸味を帯びる。				
191 3	04020	Ⅲ	H	31	SK−101		太型蛤刃石斧	4.00	4.40	3.30		72.80	玄武岩か?					
211 2	04023	Ⅲ			SK−119		蛤刃石斧	9.00	6.28	2.48		214.00		器面には鉄分や白色の付着物がある。刃部は完全につぶれている。				
211 5	04032	Ⅲ	K	30	SK−120	周辺一段下げ	打製石鏃	3.30	1.94	5.50		2.00	黒曜石	自然面、主剥離面は残っていない。				
211 6	04031	Ⅲ	K	30	SK−120	周辺一段下げ	小型柱状片刃石斧	8.81	1.11	1.43		28.50	凝灰質頁岩?	石材特有の白い筋が層状に走る。				
215 2	04030	Ⅲ	J	33	SK−117		打製石鏃	2.83	2.18	3.90		1.60	黒曜石(腰岳山か)	自然面・主剥離面は残っていない。				
221 4	04021	Ⅲ	I	28	SK−124	西半	太型蛤刃石斧	17.90	6.50			880.00		黒灰色の基質に、3mm前後の白い斑点が多くある。				
231 31	04025	Ⅲ	I	31	SP−0205		磨製石鏃	4.07	0.23	1.73		2.20						
231 32	00853	Ⅲ	I	29	SP−0658		不明石器	5.81	1.88			19.80	(緻密)	全面がツルツルに摩滅。灰色に層状の薄く白い線。				
231 33	04026	Ⅲ	J	31	SP−0500		磨製石鏃	4.56	2.27	0.53		5.60	玄武岩?(緻密な石基で、目立った鉱物粒なし)	研磨が完全ではないため、両面とも虫食い状に剥離面を残す。				
231 34	00881	Ⅲ	H	29	SP−0686		打製石鏃	4.41	1.14	5.10		2.50	安山岩or玄武岩か?堅く緻密で、目立った鉱物粒はない。	全面に調整剥離。				
231 35	04024	Ⅲ	K	31	SP−0060		磨製石鏃	2.45	1.11	0.40		1.10		刃縁は面を成す。折れた面が摩擦。				
231 36	00502	Ⅲ	J	32	SP−0462		不明石器	6.83	1.64	1.19		15.60	硅化木					
231 37	01125	Ⅲ	J	30·31	SP−0581	SB−04−A	剥片	7.67	2.04	8.35		16.60	緑色凝灰岩?	風化面は残っていない。断面は、石材特有の層状の縞模様。				
232 38	04029	Ⅲ	H	34	SP−0608		凹石?	13.00	12.20	8.20		1930.00	(白色、半透明、黒色の鉱物粒から成る)	凹みは浅く、その輪郭も不明瞭。				
232 39	04028	Ⅲ	H	34	SP−0613		不明石器	3.83	3.90	3.00		7.10	(緻密な石基から成り、目立った鉱物粒なし)					
232 40	04027	Ⅲ	H	34	SP−0613		石包丁	8.03	5.25	6.70	0.44×0.48	35.10	(緻密な基質から成り、目立った鉱物粒なし)	穿孔時についたと思われる沈線状の工具痕。				

第13次調査出土　木製品

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	石器の法量と特徴							木器の特徴			
挿図番号							器種	法量(cm・g)					石材	備考	種類	木取り	樹種	備考
								長さ	幅	厚さ	孔径	重さ						
12 3	90001	I			水田	1面									円形曲物		針葉樹	底板(蓋板)及び側板の一部が残存。側板の径は19.2cmで側板との結合は4箇所で、結合孔の位置はほぼ均等。底板が側板よりはみ出すタイプで、また底板の内面には針書き線が残る。底板の穿孔はほぼ正円に成されるが、側板側は樺皮が通る分の孔をこじ開けた感じで形は悪い。底板外面には若干の刃傷あり。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	石器の法量と特徴							木器の特徴			
挿図番号							器種	法量(cm・g)					石材	備考	種類	木取り	樹種	備考
								長さ	幅	厚さ	孔径	重さ						
12 4	90002	Ⅰ			水田	1面									隅丸長方形曲物	柾目	針葉樹	90001の円形曲物と共伴して出土。結合孔は1箇所残存。側板の当たっていた痕跡は残らず。外面には刃傷あり。外面の結合孔の下に圧痕あり。緩やかに窪んでいる。新しい傷かも。
12 5	90003	Ⅰ			水田	2面									挽物		針葉樹	挽物の皿である。高さは1,4cm、底面の厚さは8㎜。立ち上がり部分を内外とも回転ケズリ成形。回転ケズリは非常に細かいが、連続はしていないようである。外面の一部に別工具で大きな単位でけずっている箇所がある。木目の様子から、この部分は節にかかるようだ。外面底部には、長さ1cm強、幅0,5～1㎜の轆轤に固定した際の爪跡が3箇所ある。比較的深くめり込んでいる。また爪跡とは別に「十」字形の圧痕がある。幅約2㎜、深さ1㎜弱で、かなりシャープな稜を持つ型を押し当てたような感じか。圧痕の断面は垂直に落ちる。轆轤固定の爪跡の中1箇所と重なるが、その前後関係は不明。他2箇所の爪跡は形よく残るが、十字型と重なった爪跡は周囲がややささくれる。轆轤固定の爪跡も十字型も共に皿の中心よりややずれているか。
12 6	90004	Ⅰ			水田	2面									下駄	柾目	広葉樹	全体的に腐蝕が進んでいるが、緒孔が2箇所かろうじて確認出来るため、残存する歯は後歯と判明。歯は台と同じ幅で作られる。腐蝕しているので判断しがたいが、歯の縦断面は台に向かって開く台形であると思われる。逆に歯の横断面は台から下面に向かって若干外開きになる。
12 7	90005	Ⅰ			水田	2面									用途不明　雑具類?		?	縦方向に緩やかに湾曲した装飾加工板。透かしのような装飾部から上部にいくにつれ徐々に厚みを減じ、上端はかなり薄い。下半は縦方向中央に稜を持ち、そこから側縁に向けて斜めにけずり落とす。側縁の稜は非常にシャープである(刃部?)。中央に稜を持たない方の面は横方向にやや丸みを持つ。
26 11	90038	Ⅱ	G	33	SE－03	②									杭	芯持ち	広葉樹	直径4.0～4,5cm程の木を樹皮を残したまま杭状に加工。両端は平坦面を作り出している。特に下端部も平坦にしているということは打ち込むための杭ではなかったか。残りは非常によい。
26 12	90039	Ⅱ	G	33	SE－03	④									杭			端部のケズリはかなり深く食い込んでいる。ケズリの最後を折り取ったとするには面がきれいなので、逆方向からも浅く刃を入れたと思われる。
26 13	90040	Ⅱ	G	33	SE－03	⑤									杭			端部のケズリは約半面にのみほど施される。やや欠損もあるが、それ程尖りはしていない。ごく一部に樹皮残存。
26 14	90041	Ⅱ	G	33	SE－03	⑥									杭			端部のケズリはシャープ。樹皮が約半面に残る。
26 15	90037	Ⅱ	G	33	SE－03	①									加工材	芯持ち	広葉樹	端部に近い箇所に深くて大きい抉りを持った加工材である。抉り部は丸く仕上げられる。ケズリは幅広の工具で比較的細かく施される。刃傷がやや丸みを持つ。緩やかに湾曲した刃を持った工具であったか。端部は杭状に加工。それ程尖りはしていない。ケズリ口はシャープできれい。樹皮が一面に残り、一部炭化している。
26 16	90042	Ⅱ	G	33	SE－03	③									用途不明			柄と思われる部分を持つ、全形・用途不明品である。面は平滑に仕上げられ、側面の一部のケズリは非常に細かく比較的丁寧な作りが窺える。
41 12	90011	Ⅱ	G	31	SK－108										用途不明		針葉樹	ほぼ均等の3箇所にくぼみあり。ケズリにより作られたくぼみであるが、その後押圧されていた痕跡が残る。
45 1	90006	Ⅱ	I	28	SP－1034	SD－06内									曲柄平鍬		広葉樹	長さ58,0cm以上、幅10,5cmの長細い鍬を故意に半分に折っている。また上部の柄につながる部分の欠失も故意によるものである。全体的に残りよくしっかりしており、ケズリ痕も刃先近くまで残っている。刃先を特に意識して薄くけずっているのは金属製鍬先の装着のためか。装着痕が残るわけではないが、鍬先を付けたとしたらケズリの感じから下端より5cmの範囲であると思われる。故意の折損部分は、真っすぐな刃先を持つ工具(痕跡からして金属製か?)をほぼ垂直に振り下ろし表裏面それぞれから傷を付け、それから折り割ったように見受けられる。
45 2	90007	Ⅱ	I	28	SP－1034	SD－06内									曲柄平鍬		広葉樹	90006と同様、故意に傷を入れ半分に折損している。表裏面ともにケズリ痕が顕著に残る。側面も上部から下部に向けて幅狭く平滑にケズリで仕上げている。刃部に欠損部があるため金属製鍬先の装着については何ともいいがたいが、原形が残っている範囲までは断面コ字形になるしっかりとした側面をもつため、少なくともこの範囲までは鍬先は装着されてないと見える。とすると、鍬先装着の範囲が狭くなりすぎるため装着はなかったか。ケズリ痕の残り方や側縁の稜線のシャープさなどから、ほとんど未使用に近い鍬と思われる。
45 3	90008	Ⅱ	I	28	SP－1034	SD－06内									横鍬		広葉樹	全体的に非常に残りがよい。ケズリ痕などもよく残っており、刃部がやや欠け気味なのを除けば(埋没～取り上げまでの間に損じたものと思われる)、磨耗も見られずまるで未使用の鍬のようである。柄孔の残りもよく磨耗も見られず、未使用でないにしても決して酷使された木器ではないだろう。出土状況からして未使用で埋納されたと考えられないこともないが、それにしては柄孔より上部が欠失していることはおかしい。下部左側に小さい傷がある。小孔が欠損した様だが生きかどうか不明。木の根によるか。本来存在したものとすると、鍬とのつながりは?孔の用途は?
未記載	90009	Ⅱ	I	28	SP－1034	SD－06内									繊維材			未図化。90006～90008の間から出土。クッションの役目か。
未記載	90010	Ⅱ	I	28	SP－1034	SD－06内									繊維材			未図化。90006～90008の間から出土。クッションの役目か。
61 19	90012	Ⅱ	N～R	24～22	SL－01	砂層									木錘	芯持ち	広葉樹	やや小ぶりの木錘。中央にて欠損。全体的に腐蝕している。両端のケズリはシャープであるがけずりっぱなしで凹凸残り決して丁寧な作りではない。おそらく樹皮は剥部全周に残っていたものと思われる。
83 "10,11"	90035	Ⅱ	F	31	SL－02										杭		広葉樹	2点あり。共に杭で、端部をケズリで尖らせる。①は端部と枝の切り落とし部分以外一面に樹皮残存。2点の樹種は同一か。
83 12	90036	Ⅱ	F	31	SL－02										杭		広葉樹	端部のケズリは一面のみ。他は樹皮が残る。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	石器の法量と特徴							木器の特徴			
挿図番号							器種	法量(cm・g)					石材	備考	種類	木取り	樹種	備考
								長さ	幅	厚さ	孔径	重さ						
89 6	90016	Ⅲ	I-J	31·32	SB−03	SP−0804									礎板	柾目	針葉樹	短軸方向の側面にケズリ痕残る。一辺は垂直に落とし、もう一辺は斜めにけずる。ケズリはシャープ。一部炭化あり(長軸側面のみ)。
89 7	90013	Ⅲ	I-J	31·32	SB−03	SP−0839									礎板			かなり腐蝕しぼろぼろになっている。破損した面か原形なのか見分けもつかない。本来は板状であったことは間違いない。
89 8	90015	Ⅲ	I-J	31·32	SB−03	SP−0819									礎板			台形状にケズリ成形されたと思われるが、木目と直交方向のケズリ面以外は表面の劣化がひどく成形痕は全く残らず。残存するケズリ口はかなりシャープ。
91 "09,10,11"	90014	Ⅲ	I-J	31·32	SB−03	SP−0841									礎板 5点			図化3点、未図化2点。図化した3点はピット内に折り重なるように出土した。それぞれに加工が見られるが接合などはしない。樹種は同一か。なんらかの目的でこのように加工した部材を礎板代わりに柱穴に投げ込んだか。
91 "12,13,14"	90017	Ⅲ	I-J	31·32	SB−03	SP−0892									礎板 6点			図化3点、未図化3点。図化したものの内2点は90014のものとよく似る。ケズリ口はかなりシャープで、鋭利な刃物を使用したと思われる。1点は低いかまぼこ型の横断面をなし、ケズリ痕をよく残す。図化の①と②は同一樹種と思われる。
93 1	90034	Ⅲ	L	31	SP−0042										礎板		針葉樹	礎板であろうか。直径10cm強の樹木を芯は残したまま縦割りしている。長軸方向の側面のみ樹皮を剥いだだけで加工はない。他面は顕著にケズリ痕が残る。ケズリはあらゆる方向から施される。ケズリ口はかなりシャープである。
93 2	90027	Ⅲ	I	34	SP−1234										柱根		広葉樹	腐蝕により原形は判りえない。
93 3	90018	Ⅲ	J	30	SP−0581										柱根		広葉樹	下端部にはケズリが残る。上にいくにつれ若干だが細くなる。年輪は見えないが芯持ち材ではなさそう。一度乾燥によってひび割れたようだが、そのひびの入り方が横に平行である。芯持ち材なら放射状に割れるであろうから。
93 "4,5"	90019	Ⅲ	I	30	SP−0726										柱根?(木片)		広葉樹	SB-4-Bの柱根としては、腐蝕がはげしくて取り上げが不可能だった径7cm程度の木片があったようだ。図化した2点は径も2cm前後と細く、先端を杭状に尖らせている。礎板にも柱根にもなり得ないか。2点の樹種は異なる。
93 6	90020	Ⅲ	H	31·32	SP−1235										柱根?(木片)		広葉樹	前面に細かいケズリが施されており、柱というより杭の形状である。(杭にしてもケズリが丁寧である。)
95 4	90021	Ⅲ	H	29	SB−06	SP−1232									礎板			柱根と組み合わせた横木である。中央をケズリによりやや窪ませそこに柱根を組んだものと思われる。他の部分と比べて、押圧された痕跡や色や風化の度合いの違いなどがある。枝が存在していた箇所があるが、ケズリで処理するのではなく、ただ折り取っただけである。また部分的に芯材もむき出しになっている(腐蝕の為ではなさそう)。端部のケズリはシャープである。
95 5	90022	Ⅲ	H	29	SB−06	SP−0711									礎板		広葉樹	全体的に腐蝕し変形も見られる。出土時には柱木との組み合わせが確認できたが、柱木の腐蝕がはげしい為取り上げは不可能であった。残存は2分の1~3分の2程度か。柱木組み合わせのケズリ部分は確認でき、緩やかに窪んでいる。
100 "3,4"	90023	Ⅲ	G·H	31	SB−07	SP−1233									礎板 2点	芯持ち	広葉樹	横木と楔と思われるものの2点である。横木のケズリは両端部のみである。凹凸の残るケズリである。枝の切り落とした跡あり。樹皮は一部にのみ残存するがおそらくは全面にあったものと思われる。小片の方は両面から徐々に細くなるようケズリ加工されており、その形状から楔のようなものと推測した。横木と柱木の隙間に入れたのであろうか。ただし圧痕などは残っていない。
100 "5,6"	90026	Ⅲ	G·H	31	SB−07	SP−1029									礎板,柱根		広葉樹	横木と柱木の組み合わせ。横木は両端を二方向からけずり込む。ケズリ痕には鉄斧で加工したと考えられる筋が走る。中央部を楕円形に浅くけずり込む。
102 7	90025	Ⅲ	G·H	31	SB−07	SP−0823									礎板	芯持ち	広葉樹	横木。柱木と組み合わせる為の抉りは深く広い平坦面を持つ。抉り部の幅は1,8~3,4cmと狭い。出土時は3,4cmの方が上向きになっていた。残存するケズリ口はシャープである。加工はしてあるが形はそれ程整ってなく、丁寧な作りとはいえないか。一部に刃傷のようなものが残るが新しい傷の可能性もある。
102 "8,9"	90024	Ⅲ	G·H	31	SB−07	SP−0830									礎板		広葉樹	横木と柱木の一部が残存。横木は両端部をケズリ加工(一方は凹凸残り整形が雑、他方はシャープなケズリ口を残し比較的丁寧な整形、形も整う。)。一側面にのみ樹皮を残し、他三面をケズリ加工、横断面台形状をなす。柱木が当たっていた痕跡が色調の違いによって判る。残存する柱木に作られた浅い段が、ちょうどよい具合に組み合う。柱木の外面にはケズリ痕が顕著に残る。内面には浅い段があるが、その段は横方向に通るものではなく、一部のみに作られる。内面には刃物が当たった跡は残るがケズリの痕跡は不明瞭である。腐蝕によると思われるが、外面と内面で腐蝕の度合いに差がありすぎるようだ。内面の成形自体、それ程丁寧ではなかったようだ。内面の段より上部は、原形と考えるには厚さが薄すぎるか。欠損していると考えるべきであろう。(面としては滑らかであるが破損後の風化によるか。)
108 7	90032	Ⅲ	G	32·33	SB−13	SK−115									礎板	柾目	針葉樹	板状の礎板か。原形は不明。中央は節による隆起である。(節の中心は抜けている。)
108 8	90030	Ⅲ	G	32·33	SB−13	SP−0992									礎板		広葉樹	板状。断面に現れる凹凸は腐蝕によるものである。欠損部多く原形不明。
108 9	90031	Ⅲ	G	32·33	SB−13	SP−0999									礎板		広葉樹	腐蝕・変形がすすむ。原形不明。板状。
108 "10,11"	90029	Ⅲ	G	32·33	SB−13	SP−0980									礎板 2点		広葉樹	2片は同一樹種の様であるが接合はしない。出土時は重なっていた。残存する外形は一部を除きすべて欠損によるもの。腐蝕による変形が見られる。
109 "2,3"	90033	Ⅲ	H	34	SB−14	SP−600									礎板 2点			礎板あるいは横木か。腐蝕して全体的に丸みを持っているため原形か否かの判断が付きにくい。おそらく上下の端部は原形を保つか。2片は約5cmほど離れて出土した。接点はなく別個体と考えてよいか。2点とも一面の中央部分のみ他と色調が異なる。色が明るく本来の色に近いか。物との接触によって風化しなかったようだ。柱木との密着によるとも考えられるが木質どうしでここまでなるだろうかと疑問が残る。柱木とは関係なく埋没状況によるものか。肉眼で見る限り2点の樹種は同一と思われる。

報告書 挿図番号	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	石器の法量と特徴							木器の特徴			
							器種	法量(cm・g) 長さ	幅	厚さ	孔径	重さ	石材	備考	種類	木取り	樹種	備考
116 4	90028	Ⅲ	J	30·31	SB−25	SK−050									礎板		広葉樹	出土状況から柱根あるいは礎板と考えられるが、加工と思しきものがある。腐蝕の為生きている面の判断が難しい。数箇所の孔が見られるが人為的なものかどうか不明である。草の根等による浸蝕かとも思われる。木目は長軸方向に通っており、それと平行に貫通する孔(縦断面に現れる)は自然によるものの可能性があるか。木目と直交方向の孔(中央を横行。横断面に現れる。)は面の様子から見てケズリによって作られた孔のようにも思われる。

第13次調査出土　金属器・ガラス玉

報告書 挿図番号	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	金属器・ガラス玉・骨角器の法量と特徴 種類	法量(cm・g) 長さ	幅/径	厚さ/孔径	重さ	比重	色調	材質	備考	自然遺物(炭化米/種子/貝類/骨類)の法量と特徴 種類	種名	部位名	左右	残存状況	点数	備考・計測値
34 5	06003	Ⅱ			SK−082		板状鉄器	5.30	2.20	0.30	9.80			鉄	青い物質はリン(センター分析)。							
未掲載	06004	Ⅱ			SK−082		不明品				31.50				粘土塊に何か熔着した感あり。							
73 1	06001	Ⅱ	N~R	24~22	SJ−01		馬鐸	3.70	3.50	1.85	13.55			青銅製	舌の残存。							
83 9	06002	Ⅲ	F·G	31·32	SL−02	砂層下	やりがんな	1.92	1.83	0.34	3.27			青銅製	青銅製。							
140 2	05016	Ⅲ	I	32	SH−01		ガラス小玉	0.375	0.435	0.144	0.08	2.44	青紺	ｶﾘｶﾞﾗｽ	透明度は高い。孔の軸方向に平行した気泡列や蝕像が観察される。							
140 3	05017	Ⅲ	I	32	SH−01		ガラス小玉	0.405	0.470	0.146	0.12	2.39	青紺	ｶﾘｶﾞﾗｽ	全体に細かいクラックが入る。側面に微細な気泡の列が多数観察できる。							
140 4	05018	Ⅲ	I	32	SH−01		ガラス小玉	0.475	0.545	0.142	0.13	2.30	青紺	ｶﾘｶﾞﾗｽ	1/3程度欠失。風化が著しく亀裂が多数入る。不明瞭ながら側面に気泡列有り。							

第13次調査出土　自然遺物

報告書 挿図番号	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	金属器・ガラス玉・骨角器の法量と特徴 種類	法量(cm・g) 長さ	幅/径	厚さ/孔径	重さ	比重	色調	材質	備考	自然遺物(炭化米/種子/貝類/骨類)の法量と特徴 種類	種名	部位名	左右	残存状況	点数	備考・計測値
15	03079	Ⅱ	M	31	SK−022											歯	イノシシ	上顎遊離歯	左	M3	1	亜成獣。M3長さ32.,前幅19.0。
16	03082	Ⅱ	I	35	SE−01											歯	イノシシ	上顎遊離歯	左	M3	1	成獣直後。M3長さ32.5,前幅17.3。
16	05009	Ⅱ	I	35	SE−01											種子						
38	05006	Ⅱ	G	31	SK−108											種子						
54	03094	Ⅱ	G	31	SP−0914											骨	不明	不明		破片	1	
55	05011	Ⅱ	G	29	SJ−01											種子						
55	03063	Ⅱ	H	28	SJ−01											骨	イノシシ ♂	下顎	左	(C~M3)部分	1	若獣。保存悪く計測不可。
55	03064	Ⅱ	H	28	SJ−01											骨	陸獣	不明		破片	少々	イノシシ下顎破片か?
55	03065	Ⅱ	H	28	SJ−01											不明						
55	03066	Ⅱ	H	28	SJ−01											骨	不明	不明		破片	11	
78	03025	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	1面検出面										歯	サメ類	歯			1	被熱あり。アオザメタイプ。
78	03026	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	1面検出面										骨	イノシシ	上腕骨	右	破片	1	
78	03024	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	2区										骨	イノシシ	肩甲骨	左	遠位部遠位端欠損	1	
78	03062	Ⅲ	J	34	第Ⅲ面遺構検出面	2区住居壁下										骨	陸獣	不明		破片	少々	
78	03001	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	2区西側										骨	イノシシ	下顎	左	(M123)関節部なし	1	成獣。 切痕あり。M2長さ23.8,前幅15.9,後幅16.3。M2中央骨体高厚26.3,同体高44.0±。下顎枝切断。M2·M3間外側に直交方向のカットマーク。
78	03020	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	2区南側土壙										骨	イノシシ	下顎	右	(M123)	1	若獣M1長さ17.5,前幅12.2,後幅12.6,M2長さ22.6,前幅14.2,後幅14.8,M3一。
78	03101	Ⅲ	J	34	第Ⅲ面遺構検出面	Ⅱ区西壁										骨						
78	03102	Ⅲ	J	34	第Ⅲ面遺構検出面	Ⅱ区西壁										骨	陸獣	不明		破片	1	
78	03103	Ⅲ	J	34	第Ⅲ面遺構検出面	Ⅱ区西壁										骨						
78	03104	Ⅲ	J	34	第Ⅲ面遺構検出面	Ⅱ区西壁										骨						
78	03105	Ⅲ	J	34	第Ⅲ面遺構検出面	Ⅱ区西壁										骨						
78	03106	Ⅲ	J	34	第Ⅲ面遺構検出面	Ⅱ区西壁										骨	ヒト	寛骨	左	"臼,腸骨,坐骨"	1	成人。男性か?
78	03107	Ⅲ	J	34	第Ⅲ面遺構検出面	Ⅱ区西壁										骨		骨				
78	03108	Ⅲ	J	34	第Ⅲ面遺構検出面	Ⅱ区西壁										骨	不明	不明		破片	6	
78	03109	Ⅲ	J	34	第Ⅲ面遺構検出面	Ⅱ区西壁										骨	不明	腹椎			1	大型。
78	03037	Ⅲ	I	33	第Ⅲ面遺構検出面	3区骨⑮										骨	イノシシ ♀	下顎	右	(×××P4~M3)下顎枝欠く	1	成獣。M2歯根部露出。歯槽膿漏? M1長さ15.5±, M2長さ20.3 , M3長さ35.9±,前幅16.9。
78	03037	Ⅲ	I	33	第Ⅲ面遺構検出面	3区骨⑮										骨	イノシシ ♀	下顎	右	(M123)	1	成獣直後。下顎枝に孔なし。小型。M1長さ16.1,前幅10.5,後幅11.0,M2長さ18.5±,前幅13.3,後幅13.7,M3長さ33.0±,前幅15.2。
78	03099	Ⅲ	H	29	第Ⅲ面遺構検出面	3号甕東										骨						
78	05012	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	4区北東検出面砂層										種子						
78	03100	Ⅲ	K	30	第Ⅲ面遺構検出面	SX−02周辺										歯	サメ類	歯			1	アオザメタイプ。
78	03032	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	拡張区流れ斜面最下層土壙										骨	シカ	中手骨	左	近位~中間遠位端破損	1	成獣。切痕あり。 基幹部前面に直交する短いカットマーク。イヌの噛み跡または自然の磨滅か?
78	03041	Ⅲ	L	34	第Ⅲ面遺構検出面	黒色粘土層掘り下げ時·杭周辺										骨	イヌ	上腕骨	左	近位	1	成獣。小型。
78	03042	Ⅲ	L	34	第Ⅲ面遺構検出面	黒色粘土層掘り下げ時·杭周辺										骨	イヌ	頚椎		全体	1	成獣。やや小型。
78	03046	Ⅲ	L	34	第Ⅲ面遺構検出面	黒色粘土層掘り下げ時·杭周辺										骨	不明	不明		破片	10	
78	03058	Ⅲ	L	34	第Ⅲ面遺構検出面	黒色粘土層掘り下げ時·杭周辺										骨	イノシシ	橈骨	左	位関節面欠損	1	若獣?
78	03059	Ⅲ	L	34	第Ⅲ面遺構検出面	黒色粘土層掘り下げ時·杭周辺										骨	陸獣	不明		破片	1	
78	03021	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	調査区北側土層壁より										歯	サメ類	歯			1	アオザメタイプ。
78	03007	Ⅲ	H	32	第Ⅲ面遺構検出面	調査出土面										歯	イヌ	上顎遊離歯		I3	1	成獣。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	金属器・ガラス玉・骨角器の法量と特徴									自然遺物（炭化米/種子/貝類/骨類）の法量と特徴						
挿図番号							種類	法量(cm・g)					色調	材質	備考	種類	種名	部位名	左右	残存状況	点数	備考・計測値
								長さ	幅/径	厚さ/孔径	重さ	比重										
78	05013	Ⅲ	G	32	第Ⅲ面遺構検出面	土器の枝間										種子						
78	03098	Ⅲ	J	30	第Ⅲ面遺構検出面	排水トレンチ										歯	サメ類	歯			1	アオザメタイプ。
78	03002	Ⅲ	H	34	第Ⅲ面遺構検出面	北隅黒色粘土層遺構検出時										骨	イノシシ	尺骨		近位端なし	1	若獣。切痕あり。
78	03003	Ⅲ	H	34	第Ⅲ面遺構検出面	北隅黒色粘土層遺構検出時										骨	不明	不明		破片	1	
78	03004	Ⅲ	H	34	第Ⅲ面遺構検出面	北隅黒色粘土層遺構検出時										骨	不明	不明		破片	1	
78	03097	Ⅲ	F	28	第Ⅲ面遺構検出面	拡張区流れ										骨	小型鳥類	四肢骨		中間	1	被熱あり。
78	05003	Ⅲ	I	31	第Ⅲ面遺構検出面											不明						
78	03008	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面											骨	イノシシ	脛骨		中間	1	成獣。遺存悪い。中間部細片化。下端部大きい。
78	03009	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面											骨	不明	不明		破片	1	
78	03012	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面											骨	イノシシ	脛骨		中間	1	成獣。遺存悪い。中間部細片化。
78	03054	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面											骨	イノシシ ♀	下顎	右	（P3～M3）下顎枝欠く	1	成獣。切痕あり。全体に小型化。外側にカットマークあり。M1,M2とM3の磨耗面に段差あり。M1　2は磨耗が外へ傾く。M1長さ16.8,前幅11.7,後幅12.3，M2長さ19.9,前幅14.2,M3長さ31.0,前幅16.1。
78	03055	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面											骨	イノシシ	下顎	左	P3～M3下顎枝欠く	1	成獣。切痕あり。咬筋窩部にカットマーク。
78	05014	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面											種子						
78	03112	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	2区南側より　土壙										骨?						同定中。
78	03113	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面	2区肩甲骨										骨?						同定中。
78	03114	Ⅲ			第Ⅲ面遺構検出面											骨?						同定中。
78	03115	Ⅲ	L	34	第Ⅲ面遺構検出面	杭周辺										骨?						同定中。
94	03095	Ⅲ	H	29	SB−06	SP−0924										骨	不明	不明		破片	1	
113	03096	Ⅲ	I	28	SB−15	SP−1025										骨	イヌ	橈骨	左	破片中間部	1	
121		Ⅲ	H	23	SN−01											骨	ヒト ♀			近世攪乱により下肢骨の欠損		熟年。
139		Ⅲ	I	32	SN−01											骨	ヒト ♂			一応全身各部回収		若い成年期。
144 a	03078	Ⅲ	L	34	SK−016											骨	イノシシ	末節骨	左		1	
144 b	05015	Ⅲ	J	32	SK−028											炭化米						分析。済。
144 c	05007	Ⅲ			SK−121											種子						
144 d	03077	Ⅲ	F	35	SK−127	南半<M31のものとは別遺構>										角	シカ	角		破片	2	被熱あり。
144 e	03083	Ⅲ	N	31	SP−0156											骨	イノシシ	距骨	左		1	成獣。
144 f	05008	Ⅲ			SP−0208											種子						
144 g	03084	Ⅲ	K	33	SP−0419											骨	イノシシ	頭蓋骨		頭頂骨	1	若獣。
144 h	03085	Ⅲ	K	33	SP−0421											骨	陸獣	不明			4	
144 i	05010	Ⅲ	J	33	SP−0423											種子						
144 j	03086	Ⅲ	J	33	SP−0424											骨	陸獣	不明			1	
144 k	03087	Ⅲ	J	33	SP−0426											骨	不明	不明		破片	1	
144 l	03088	Ⅲ	K	32	SP−0452											骨	サメ類	椎骨		破片	1	被熱あり。孔あり。加工品かどうかは不明。
144 m	03090	Ⅲ	I	29	SP−0637											骨	タヌキ	頭蓋骨		左右後頭骨、右前頭骨	1	
144 n	03091	Ⅲ	H	30	SP−0741											骨	不明	不明		破片	1	
144 o	03092	Ⅲ	H	30	SP−0745											骨	不明	不明		破片	1	
144 p	03093	Ⅲ	I	34	SP−1231											骨	イノシシ	肩甲骨	右	破片	1	
144 p	03093	Ⅲ	I	34	SP−1231											骨	陸獣	不明		破片	1	
145	03050	Ⅲ	I	33	SK−003											骨	陸獣	不明		破片	3	
145	03051	Ⅲ	I	33	SK−003											骨	哺乳類　不明	下顎	左	P3から後部　下顎枝欠く		M1・M2部の下顎骨が歯頸線より下がっている。M3萌出完了。咬筋窩部にカットマーク。
145	03052	Ⅲ	I	33	SK−003											骨	哺乳類　不明	長幹骨				下顎筋下に長いカットマーク。
145	03053	Ⅲ	I	33	SK−003											骨	イノシシ	下顎	左	（P4～M3）	1	成獣直後。M1長さ—,前幅12.4,後幅12.4,M2長さ22.2,前幅15.0,後幅15.8,M3長さ—,前幅16.0㎜。おそらくM3第4咬頭は小型化。M2中央体厚25.2,体高（外側）42.8±㎜。下顎枝に孔なし,枝外上部にカットマーク,顎体内側にも長いカットマーク。
145	03056	Ⅲ	I	33	SK−003											骨	不明	不明		破片	1	切痕あり。下顎筋下に長いカットマーク。
152	03018	Ⅲ	G	33	SK−008											骨	イノシシ?	頭蓋骨			1	
152	03027	Ⅲ	G	33	SK−008											骨	イノシシ	指骨		破片	1	成獣。
152	03028	Ⅲ	G	33	SK−008											骨	不明	不明		破片	3	
152	03029	Ⅲ	G	33	SK−008											骨	哺乳類　イノシシ	橈骨	右	遠位部　外側		未骨化。
152	03030	Ⅲ	G	33	SK−008											歯	キツネ	頭蓋骨		後頭骨	1	成獣。大型。
152	03030	Ⅲ	G	33	SK−008											歯	シカ	上顎遊離歯	左	M1	1	成獣。磨滅あり。M1長さ16.0。
152	03031	Ⅲ	G	33	SK−008											骨	哺乳類　シカ　イノシシ	中手骨	左	ほぼ全体　遠位端破損		骨化済み。基幹部前面に直交する短いカットマーク。
162	03047	Ⅲ	J	32	SK−049											骨	中小型獣	不明		破片	1	
162	03043	Ⅲ	J	32	SK−049											骨	海獣	肋骨		破片	1	残存長約13㎝。
168	03011	Ⅲ	K	30	SK−081	4区										歯	イノシシ	下顎遊離歯		M3	1	成獣。M3長さ33.4,前幅15.9。小型。
168	03016	Ⅲ	K	30	SK−081	4区										歯	イノシシ	上顎遊離歯		M3	1	成獣。
170 a	05004	Ⅲ	K	29	SK−078											顔料付土器?						
170 b	03038	Ⅲ	K	29	SK−087	2区骨③										骨	イノシシ	下顎	左	（M123）	1	亜成獣。M1長さ16.3,前幅11.1,後幅12.1。M2長さ19.5,前幅13.8,後幅14.4,M3長さ—,前幅16.5±。
170 b	03038	Ⅲ	K	29	SK−087	2区骨③										骨	陸獣	肋骨		破片	1	
170 b	03038	Ⅲ	K	29	SK−087	2区骨③										骨	陸獣	不明		破片	5	
170 b	03039	Ⅲ	K	29	SK−087	2区骨③										骨	イノシシ	下顎破片	左	関節突起	1	成獣。切痕あり。03044と接合。
170 b	03034	Ⅲ	K	29	SK−087	2区骨④										骨	イノシシ	下顎	右	（M3）	1	若獣。未出歯。乾燥のため細片。変形、萎縮している。

報告書	登録番号	遺構面	グリッド		遺構名	備考・出土地点	金属器・ガラス玉・骨角器の法量と特徴									自然遺物（炭化米/種子/貝類/骨類）の法量と特徴						
挿図番号							種類	法量（cm・g）					色調	材質	備考	種類	種名	部位名	左右	残存状況	点数	備考・計測値
								長さ	幅/径	厚さ/孔径	重さ	比重										
170 b	03033	Ⅲ	K	29	SK−087	2区骨⑤										骨	不明	不明			1	乾燥のため細片。
170 b	03035	Ⅲ	K	29	SK−087	2区骨⑤										骨	イノシシ	下顎	左	（M3）	1	成獣直後。M3長さ33.4±,前幅16.5。
170 b	03110	Ⅲ	K	28	SK−087	2区骨⑤										骨?						同定中。
170 b	03057	Ⅲ	K	29	SK−087	2区骨⑥										歯	イノシシ	上顎遊離歯	右	M12	1	幼獣3057と同一個体。
170 b	03057	Ⅲ	K	29	SK−087	2区骨⑥										歯	イノシシ	上顎遊離歯	左	dm4	1	幼獣3057と同一個体。
170 b	03036	Ⅲ	K	29	SK−087	2区骨⑦										骨	イノシシ	脛骨	右	中間～遠位	1	成獣。細片。
170 b	03011	Ⅲ	K	28	SK−087	2区骨⑦										骨?						同定中。
170 b	03013	Ⅲ	K	29	SK−087	2区骨⑬										骨	イノシシ	頭蓋骨		破片	1	細片。
170 b	03071	Ⅲ	K	29	SK−087	2区骨⑬										角	シカ	角			1	腐食著しい。
170 b	03072	Ⅲ	K	29	SK−087	2区骨⑭										骨	イノシシ	下顎	右	（P23）部分	1	
170 b	03072	Ⅲ	K	29	SK−087	2区骨⑭										歯	イノシシ	下顎遊離歯	左	P3	1	
170 b	03006	Ⅲ	K	29	SK−087	2区骨②										骨	イノシシ	下顎	右	（M123）	1	成獣。M3長さ36.3,前幅15.8。
170 b	03073	Ⅲ	K	29	SK−087	2区骨⑯										不明						
170 b	03005	Ⅲ	K	29	SK−087	2区骨①										骨	イノシシ	下顎			1	バラバラで復元不可。歯はない。
170 c	03010	Ⅲ	K	29	SK−088	2区骨⑫										歯	イノシシ	上顎遊離歯		M3	1	若獣。未出歯。計測不可。
170 c	03014	Ⅲ	K	29	SK−088	2区骨⑫										歯	イノシシ	上顎遊離歯		P2	1	咬耗あり。
170 c	03015	Ⅲ	K	29	SK−088	2区骨⑫										歯	イノシシ	歯		M3?破片	1	成獣?
170 c	03067	Ⅲ	K	29	SK−088	2区骨⑧										骨	不明	不明		破片	4	
170 c	03068	Ⅲ	K	29	SK−088	2区骨⑨										骨	陸獣	不明		破片	1	
170 c	03069	Ⅲ	K	29	SK−088	2区骨⑩										不明						
170 c	03070	Ⅲ	K	29	SK−088	2区骨⑪										不明						不明。
190	03019	Ⅲ	H	31	SK−101											骨	陸獣	肋骨?		破片	1	被熱あり。
192	03080	Ⅲ	I	33	SK−102	南										骨	陸獣	不明			1	被熱あり。
192	05005	Ⅲ	I	38	SK−102	南										種子						
194	03017	Ⅲ	G	29	SK−105											骨	イノシシ	橈骨			1	成獣。
194	03022	Ⅲ	G	29	SK−105											骨	イノシシ	大腿骨	右	遠位端欠損	1	イヌの噛み痕あり。
194	03023	Ⅲ	G	29	SK−105											骨	イノシシ	肩甲骨		破片	1	
194	03116	Ⅲ	G・H	29	SK−105											骨?						同定。
200	03081	Ⅲ	G	31	SK−111											歯	イノシシ	後臼歯		破片	1	未出歯。
213	03040	Ⅲ	J	34	SK−117											骨	ヒト	大腿骨	右	近位部近位端近く	1	成人。
213	03075	Ⅲ	J	34	SK−117											歯	イノシシ	♀ 上顎遊離歯		犬歯?	1	
213	03044	Ⅲ	J	34	SK−117	周辺										骨	ヒト	大腿骨	右	中間	1	03040と接合。03045と同一。
213	03076	Ⅲ	J	34	SK−117	周辺										骨	陸獣	不明			1	
219	03045	Ⅲ	J	34	SK−123	南半										骨	ヒト	大腿骨	左	中間	1	切痕あり。
223	03060	Ⅲ	I	34	SK−125											骨	陸獣	不明		破片	11	
223	03061	Ⅲ	I	34	SK−125																	不明。
228 c	03089	Ⅲ	K	29	SP−0557											骨	不明	棘		破片	1	被熱あり。
232	03048	Ⅲ	H	34	SP−0613											歯	イノシシ	上顎遊離歯	右	I3	1	
232	03049	Ⅲ	H	34	SP−0613											歯	サメ類	歯			1	アオザメタイプ。
232	03074	Ⅲ	H	34	SP−0613											角	シカ	角			1	

Sasai Sites Ⅸ: Supplement

Fukuoka city, which is located in the northern region of Kyushu, played an important role in Japanese history as an entrance to accept culture, men and things from the Asian continent.

Fukuoka Airport as a gateway of Modern times need a new facility due to rapid increased air traffics; therefore, the rescuer excavations of the Sasai sites was carried out before development.

The Sasai sites are situated at a low terrace on the east bank of Mikasa River, and the area including the Sasai sites is known to the oldest one for the rice cultivation in Japan. Near the sites including the Itazuke site, important sites of the Yayoi period have been found. As a result, the excavation of the Sasai sites was expected to came to light the settlement and rice cultivation of the beginning of the Yayoi period.

The excavations of 1991 through 1998 lasted the thirteen campaigns, and during the campaigns archaeological remains and artifacts belonging to the early Yayoi period (4th century B.C.) through the late Heian period (11th century A.D.) were unearthed. The Sasai sites helped to bring us the important archaeological finds and results.

This is the supplement of the report of the 13th campaign. As for human bones, animal bones, insects in the soil, carbonized rice grains, grasses found during the 10th through 13th campaign and ^{14}C dating, scientific analyses and their studies were carried out by researchers. These results appear in this report.

In addition, during the excavations newspapers were weekly issued as the Sasai Sites Weekly News and its vol.65 appear in this report. As to the circular ditches, we record the detail how we assume them pigsty.

Lastly, we have not had enough explanation on the finds; therefore, the unearthed objects are listed as an observation table at the end.

The observation table and the Sasai Sites Weekly News (vols.1-101) appear in the CD-R.

（英訳：林田憲三）

福岡市埋蔵文化財調査報告書　第７４８集

福岡空港西側整備に伴う埋蔵文化財調査報告

雀居（ささい）9（別冊）

平成15年（2003年）３月31日

発　行　福岡市教育委員会
福岡県福岡市中央区天神１－８－１
電　話　０９２－７１１－４６６７
ＦＡＸ　０９２－７３３－５５３７

印　刷　福博綜合印刷株式会社
福岡県福岡市博多区堅粕3－16－36

Results of the 13th excavation of the Sasai sites

SASAI 9 (Supplement)

Report of Archaelogicai Investigations of Fukuoka city, Vol.748

甕
Jar

March 2003

THE BOARD OF EDUCATION OF FUKUOKA CITY
JAPAN